

文学部専門科目

史 学 科

(授業科目名五十音順)

| | | | |
|---|----------------|----------------|------|
| 科目名 | 漢文講読入門 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 漢文を読む基本的スキルの獲得 | 講義 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 漢文の基礎的読解力を身につけ、基礎的な歴史史料を読み解く技能と知識を養成する。</p> <p>[授業概要] 漢文を訓読する能力と歴史史料を読み解く知識の獲得方法を演習形式で身につける。 なお、授業はクラスごとに行なう。クラス分けは、教員から指定することがある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業で示した課題(特に予習)に真摯に対応し、自ら積極的に「学ぶ」姿勢を身につける。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 「漢文を読む」意義とはなにか。 2. 「返り点」を付ける(1) 3. 「返り点」を付ける(2) 4. 「再読文字」とは(1) 5. 「再読文字」とは(2) 6. 「漢文」を「書き下し文」に変換する(1) 7. 「漢文」を「書き下し文」に変換する(2) 8. 「漢文」を読み解く(1) 9. 「漢文」を読み解く(2) 10. 「漢文」を読み解く(3) 11. 歴史史料としての漢文の読解(1) 12. 歴史史料としての漢文の読解(2) 13. まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------|----|------|
| 科目名 | 漢文講読入門 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 漢文を読む基本的スキルの獲得 | 講義 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業内の発表・小テスト: (50%) 学期末試験 (50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを利用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 授業内の発表・小テストおよび学期末試験を総合的に評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業内の発表・小テストおよび学期末試験を総合的に評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)] 『漢文訓読入門』 著者名: 古田島洋介・湯城吉信 出版社: 明治書院 (978-4-625-73400-7)</p> <p>[参考書(ISBN)] 『全訳漢辞海』第4版 著者名: 戸川 芳郎 (監修), 佐藤 進 (編), 濱口 富士雄 (編) 出版社: 三省堂 (978-4-385-14048-3)</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------|----------------|------|
| 科目名 | 漢文講読入門 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 漢文を読む基本的スキルの獲得 | 講義 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 漢文の基礎的読解力を身につけ、基礎的な歴史史料を読み解く技能と知識を養成する。</p> <p>[授業概要] 歴史史料を読み解く知識を獲得するため、漢文を訓読する能力を演習形式で身につける。 なお、プレイズメントテストを実施してクラス分けをし、授業は各クラスごとに行なうものとする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業で示した課題(特に予習)に真摯に対応し、自ら積極的に「学ぶ」姿勢を身につける。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 「漢文を読む」意義とはなにか。 2. 「返り点」を付ける (1) 3. 「返り点」を付ける (2) 4. 「再読文字」とは (1) 5. 「再読文字」とは (2) 6. 「漢文」を「書き下し文」に変換する (1) 7. 「漢文」を「書き下し文」に変換する (2) 8. 「漢文」を読み解く(1) 9. 「漢文」を読み解く(2) 10. 「漢文」を読み解く(3) 11. 歴史史料としての漢文の読解(1) 12. 歴史史料としての漢文の読解(2) 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|----------------|----|------|
| 科目名 | 漢文講読入門 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 漢文を読む基本的スキルの獲得 | 講義 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業内の発表・小テスト: (50%) 学期末試験 (50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを利用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 授業内の発表・小テスト: (50%) 学期末試験 (50%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業内の発表・小テスト: (50%) 学期末試験 (50%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 『漢文訓読入門』 著者名: 古田島洋介・湯城吉信 出版社: 明治書院 (978-4-625-73400-7) 『全訳漢辞海』第4版 著者名: 戸川 芳郎 (監修), 佐藤 進 (編), 濱口 富士雄 (編) 出版社: 三省堂 (978-4-385-14048-3)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に紹介する。</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 歴史学へのいざない | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 歴史学の分析手法を理解し、歴史学に関する文献の叙述を批判的に読むことができる能力を身につける。</p> <p>[授業概要] 井上勝生『シリーズ日本近現代史① 幕末・維新』(岩波新書、2006年)をテキストとし、これを輪読する。毎回、報告担当者が、自身が割り当てられた部分について、内容の要旨および疑問点・問題点を記したレジュメを全員に配布し、これをもとに報告を行う。報告後、授業参加者全員で議論する。 なお、授業期間中に1回、大学周辺史跡の見学を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 報告者は事前にレジュメを作成する。他の受講生も、必ずテキストの当該部分を事前に読んでおくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 2. 大学図書館の見学 3. テキストの講読1 4. テキストの講読2 5. テキストの講読3 6. テキストの講読4 7. テキストの講読5 8. 大学周辺史跡の見学 9. テキストの講読6 10. テキストの講読7 11. テキストの講読8 12. テキストの講読9 13. テキストの講読10 | | | |

| | | | |
|--------|-----------|----|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 歴史学へのいざない | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |

[成績評価方法]
レポート50%、報告レジュメの内容50%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]
シリーズ日本近現代史① 幕末・維新 著者名: 井上勝生 出版社: 岩波書店(岩波新書) (4004310423)

[参考書(ISBN)]
授業中に適宜紹介する

| | | | |
|--|---|----------------|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 歴史を学ぶ「知」を高める | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>図書館を活用し、興味をもったテーマの本を探し出し、知識を深める(ディープラーニング)</small> | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 歴史を学びとる基礎的力を養う。</p> <p>[授業概要] この授業では、卒業論文を作成するための基礎的スキル、「調べる力・発表する力・まとめる力」を身につけることを目的とする。発表者は内容に即して検討すべき「問題」を発見し、「調査」して議論の材料を提起する。受講者は、それをもとに自由に意見を述べあい、興味深い箇所や疑問点を共に発見しながら、歴史学研究の基本的な方法を身につけるという方法をとる。 受講に際しては、幅広い問題関心と柔軟な思考と意欲ある態度を希望する。なお、受講生各自の問題関心は、発表後の作業も付け加えてレポートを作成し提出してもらう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テキストから読み取った内容を、どれだけ興味深く伝えられるかを、自らの準備や他のゼミメンバーの報告を参考に仕上げてゆくよう努める。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 授業内容と到達目標の設定 2. 「調べる」 知的関心をたかめる (1) 3. 「調べる」 知的関心をたかめる (2) 4. 「レジュメを作成する」 調べた内容をまとめる 5. 「発表する」 討論の素材を提供する (1) 6. 「発表する」 討論の素材を提供する (2) 7. 分担発表と意見交換 (1) 8. 分担発表と意見交換 (2) 9. 分担発表と意見交換 (3) 10. 分担発表と意見交換 (4) 11. 分担発表と意見交換 (5) 12. 発表内容を「まとめる」 13. 成果と課題を確認しよう | | | |

| | | | |
|---|--------------|----|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 歴史を学ぶ「知」を高める | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(40%) 授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート課題の講評結果をmanabaで周知し、専門演習を選択する際に必要な知識や知的関心の集積に結びつく助言を行なう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 中世の罪と罰 著者名:網野善彦・石井進・笠松宏至・勝俣鎮夫著 出版社:講談社 (9784065178690)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。授業中に適宜、紹介する。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)</p> | | | |

S53021 [LHH1-012]

| | | | |
|---|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 「地域」の歴史を調べる | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 専門的な歴史学を学ぶための基礎的な技能や方法論を身につける。</p> <p>[授業概要] 受講者各自が国内・国外で興味・関心をもっている地域を選び、その地域における歴史の展開を自身で調べ、輪番で口頭発表をおこなう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 本学の附属図書館や近隣の公立図書館の歴史コーナーに頻繁に足を運び、自分の主たる関心分野以外のものについても、さまざまな架蔵書を手に取り、内容を確認しておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 「調べる」方法 3. 「まとめる」方法 4. 「発表する」方法 5. 口頭発表・質疑応答(1) 6. 口頭発表・質疑応答(2) 7. 口頭発表・質疑応答(3) 8. 口頭発表・質疑応答(4) 9. 口頭発表・質疑応答(5) 10. 口頭発表・質疑応答(6) 11. 口頭発表・質疑応答(7) 12. 口頭発表・質疑応答(8) 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|-------------|----|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 「地域」の歴史を調べる | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| <p>[成績評価方法] 発表・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メール・manabaなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|----------------|--------|----------------|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

入門演習よりも専門性の高い、史学科学生として必要な歴史研究についての基礎知識・技能を十分に習得することができるようになる。

[授業概要]

文献調査・報告資料の作成など、卒業論文執筆の際に必要な基礎的な知識・技能の習得にむけての指導を行う。具体的には、各自が西洋史上の人物1名を選択し、その人物についての口頭発表を目的とした作業にとりくむ。関連の課題の提出も義務付ける。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回授業の内容について理解を深め、次回授業に備える自主学習を行う。口頭指示およびmanaba(各回授業のプロジェクト)で教員が指針を与える。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]

1. はじめに(スケジュール、テーマの選択)
2. 演習1 参考資料を活用する
3. 演習2 適切な資料を探す
4. 演習3 情報を整理する
5. 演習4 構成を考える
6. 演習5 プレゼンテーションを工夫する
7. 課題報告1-1 研究発表の作法
9. 課題報告1-2 レジューメ、レポートの注意点
10. 課題報告1-3 効果的なプレゼンテーションにむけて
11. 課題報告1-4 質疑応答のポイント
12. 課題報告1-5 よりよい発表のために
13. 課題報告2

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------------|----------------|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 伝承説話からジェンダーと社会を読む | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 伝承説話からその背景にあるジェンダーと社会を読み解く訓練をとおして、自分の身の回りのことと歴史資料を結びつける感覚を身につけることを授業の到達目標とする。</p> <p>[授業概要] この演習では、伝承説話を現代女性の視点から読み解いた『日本のヤバい女の子 覚醒編』をテキストとして、伝承説話からどのようなことを読み取ることができるかを検討していく。 具体例に即して説話の意味を考える作業をとおして、資料を歴史的に読むことは自分のなかに歴史を読むことであることを実感してほしいと思う。 受講生は事前に割り当てられた部分について、内容を検討し、報告する。報告の後、受講生相互に討論をおこなうことにより、問題点の理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教科書の該当部分を予習・復習すること。 (各回、予習・復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料としての昔話・伝承説話 2. 見るなの座敷 3. 虫愛づる姫君 4. 食わず女房 5. イザナギとイザナミ 6. 安珍・清姫伝説 7. 馬娘婚姻譚 8. 怪談 牡丹灯籠 9. 浦島太郎伝説 10. 番町皿屋敷・播州皿屋敷 11. 猿婿入り 12. 鉢かつぎ姫 13. 七夕伝説 | | | |

| | | | |
|--------|-------------------|----|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 伝承説話からジェンダーと社会を読む | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |

[成績評価方法]
 学習態度(70%)と期末レポート(30%)を合わせて評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
 授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。
 成績評価方法: レポート

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。
 成績評価方法: レポート

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。
 成績評価方法: 発表

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。
 成績評価方法: 学習態度

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。
 成績評価方法: 学習態度

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
 成績評価方法: 学習態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
 成績評価方法: 学習態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
 成績評価方法: 学習態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
 成績評価方法: レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
 成績評価方法: 発表

[教科書(ISBN)]
 『日本のヤバい女の子 覚醒編』(角川文庫) 著者名: はらだ有彩 出版社: KADOKAWA (978-4-04-111649-4)

[参考書(ISBN)]
 なし

| | | | |
|--|-------------------|----------------|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本近現代史における主な人物・事件 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 日本近現代史に登場する主な人物もしくは事件について詳しく調べ、レジュメを作成して研究発表をした上で、他の参加者との質疑応答が積極的にできるようになること、すなわち演習形式の授業に慣れることが目標である。</p> <p>[授業概要] 少人数による演習形式の授業の履修を通して、日本近現代史に関する現在の研究状況を把握してもらうことを目的に開講される演習である。具体的には、日本近現代史に関する人物や事件などの中から、各自の関心に従ってテーマを設定し、それを徹底的に調べたうえで、研究発表を行ってもらう。発表者は、前半の50分間で調べてきたことを発表し、残り50分間で参加者全員による質疑応答を行う。したがって、日本近現代史に関心を有する者の意欲的な参加が求められる。自分でテーマを立てること、そのテーマに関する研究を自分で進めること、発表に創意工夫をこらすこと、質疑応答に積極的に加わることの4点が評価のポイントとなる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日本近現代史における様々なテーマに対して深い興味を示し、概説書などで基礎的な知識を身につけておく準備姿勢が必要である。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本近現代史に関する各自の問題関心の披露と発表順の決定 2. 日本近現代史の研究状況について(講義) 3. 日本近現代史に関する資料の調べ方 4. 各自の発表1 5. 各自の発表2 6. 各自の発表3 7. 各自の発表4 8. 中間的なまとめ(これまでの発表の批判と反省) 9. 各自の発表6 10. 各自の発表7 11. 各自の発表8 12. 各自の発表9 13. 総括的な質疑応答 | | | |

| | | | |
|---|-------------------|----|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本近現代史における主な人物・事件 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講状況(50%)、発表内容(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中あるいは終了時を利用して適宜フィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:受講状況</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|----------------|------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 歴史学とアジア史の基礎を学ぶ | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | <small>学生・教員間の対話型授業。</small> | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

歴史学やアジアについて理解を深めるとともに、史学演習を受講するのに必要な知識と学力を養成する。

[授業概要]

歴史学やアジアについての知見を広げるため、概説書を講読してゆく。担当者は分担部分を調査したうえ、レジюме(概要)を作成し口頭報告をおこなう。演習では教員・報告者とともに全員で討論する形式をとる。歴史学やアジア史における問題点を把握し、各自の興味関心を明確にすることをめざす。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度。歴史研究の方法論を身につけるため、入門書ないし入門論文を輪読する。少人数の演習方式で、関係する文献を探し、工具書を使って予習する。

[授業計画]

1. 授業ガイダンス
2. 演習発表の基礎
3. 文献講読(1)
4. 文献講読(2)
5. 文献講読(3)
6. 文献講読(4)
7. 文献講読(5)
8. フィールドワーク【予定】
9. 文献講読(6)
10. 文献講読(7)
11. 文献講読(8)
12. 文献講読(9)
13. 文献講読(10)

| | | | |
|---|----------------|----|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 歴史学とアジア史の基礎を学ぶ | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaのアンケート機能を使用し質疑応答をおこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-1／講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-2／幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-5／演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-1／演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-3／演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 『東大連続講義 歴史学の思考法』(2020年) 著者名:東京大学教養学部歴史学部会 出版社:岩波書店(978-4000614061)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に紹介する。</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)ことに体を慣らす ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)ことに体を慣らす</p> <p>[授業概要]</p> <p>大学での「学問」は、今まで経験してきた高校までの「勉強」と、何から何まで違うはずですが。最大の違いは、「勉強」には正解や答えが用意されているのに対して、「学問」にはそれが用意されていないこと。どこにあるかがわからない答えを、皆さん自身が探していきます。大変なことです。答えを「見つけた」という学問ならではの喜びを得るためにも、引いては大学生生活の後に生きていく社会でその力が要請されることから、どうしても通らなければならない道なのです。</p> <p>「基礎演習 I」は、そのための基礎体力をつけ、体を慣らしていく訓練の場です。様々なテーマで書かれたテキストを読み、内容を他者に伝える練習をすることで、「読む」力と「話す」力を鍛えます。</p> <p>ところで、皆さんはそれぞれ豊かな個性を持っていますから、同じものを読んでいても、違った意見が出てくるはず。私の経験では、その違った意見を出し合い、自分が思いつかなかった考え方に耳を傾けることが、答えを探し求めるうえで大事です。この「討論」にも、少しずつ体を慣らしていきましょう。</p> <p>最初から上手にできなくて当然ですし、自らを飾る必要は全くありません。上手か下手かは成績の判定材料ではありません。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習は必要ない。課題があたえられたら、翌週の講義までに準備してくること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 声を出してみよう、耳を傾けてみよう 2. 話してみよう 3. 揚げ足は取られる方が悪いのである 4. 「わたしの意見」の作り方(1) 5. 「わたしの意見」の作り方(2) 6. 手を動かせ、汗をかけ 7. その本には何が書いてあるのか? 8. 何が書いてあったか伝えてみよう 9. 発表してみよう(1) 10. レジュメを切る 11. 発表してみよう(2) 12. 「わたしの意見」を文字にする 13. 「わたしの意見」は正しく伝わるか? | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 基礎演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| <p>[成績評価方法] 3分の2以上の出席を前提として、積極性(授業態度)を評価する(100%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業態度</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------------|----------------|-----|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 伝承説話からジェンダーと社会を考える | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>伝承説話からその背景にあるジェンダーと社会を読み解く訓練をとおして、自分の身の回りのことと歴史資料を結びつける感覚を身につけることを授業の到達目標とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>この演習では、伝承説話を現代女性の視点から読み解いた『日本のヤバい女の子 抵抗編』をテキストとして、伝承説話からどのようなことを読み取ることができるかを検討していく。 具体例に即して説話の意味を考える作業をとおして、資料を歴史的に読むことは自分のなかに歴史を読むことであることを実感してほしいと思う。 受講生は事前に割り当てられた部分について、内容を検討し、報告する。報告の後、受講生相互に討論をおこなうことにより、問題点の理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>教科書の該当部分を予習・復習すること。 (各回、予習・復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料としての伝承説話 2. 古事記・コノハナサクヤヒメ 3. 今昔物語集・異類婚姻譚 4. とりかえばや物語 5. 平家物語・宇治の橋姫 6. 雨月物語 7. 八百屋お七 8. 松浦佐用姫 9. 累ヶ淵 10. 江戸の怪談 11. 子供の遊び 12. 炭焼長者 13. 山姥 | | | |

| | | | |
|---|--------------------|----|------|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 伝承説話からジェンダーと社会を考える | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| <p>[成績評価方法] 学習態度(70%)と期末レポート(30%)を合わせて評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 発表</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 発表</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 『日本のヤバい女の子 覚醒編』 著者名: はらだ有彩 出版社: KADOKAWA (978-4041116494)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

S53040 [LHH2-016]

| | | | |
|--------|----------------|----|-----|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 世界史とアジア史の基礎を学ぶ | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|---------------------------------|----------------|--|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>学生・教員間の対話型授業の演習。</small> | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

アジアについて理解を深めるとともに、史学演習を受講するのに必要な知識と学力を養成する。

[授業概要]

アジアについての知見を広げるとともに、基本的な史料の講読をおこなう。各自の興味関心の対象が世界史ないしアジア史のなかでどのような意味をもつのかを明確にする。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度。少人数の演習方式なので、毎回、関連文献をもちいた予習が求められる。

[授業計画]

1. 授業ガイダンス
2. 文献講読(1)
3. 文献講読(2)
4. 文献講読(3)
5. 文献講読(4)
6. 文献講読(5)
7. アジアの基礎知識(1)
8. アジアの基礎知識(2)
9. 史料講読(1)
10. 史料講読(2)
11. 史料講読(3)
12. 史料講読(4)
13. 史料講読(5)

| | | | |
|--|----------------|----|-----|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 世界史とアジア史の基礎を学ぶ | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaのアンケート機能を使用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-1／講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-2／幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-5／演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-1／演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-3／演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:受講態度(50%)＋レポート(50%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 授業中に指示する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 『「世界史」の世界史』(MINERVA世界史叢書 総論) 著者名:秋田茂・永原陽子・羽田正・南塚信吾・三宅明正・桃木至朗(編著) 出版社:ミネルヴァ書房(978-4623071111) その他は授業中に紹介する。</p> | | | |

S53041 [LHH2-016]

| | | | | |
|---|-------|---|----------------|------|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)力を養う ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)力を養う ③書く(考えを筋道立てて説明する)力を養う ④考古学の対象を深く知り、関心あるテーマの論文を読む基盤を作る</p> <p>[授業概要]</p> <p>入門演習と基礎演習Ⅰによって基礎体力をつけた皆さんは、2回生から本格的に「知の世界」に足を踏み入れていきます。その入口に位置する基礎演習Ⅱは、皆さん自身が問いと答えを探し求める「学問」の初戦にあたるわけです。 基礎演習Ⅱでは、考古学の対象(の一部)を素材として自らの手で調べ、咀嚼し、他者に説明することを実践的に学びます。具体的には、次のように授業を進めます。</p> <p>第4回・第5回は、調べること・説明することに体を慣らしていきます。齋藤が提示した寺院のなかから1つを選択し、様々な刊行物を使って(あるいはその場へ行って)、そこがどのような歴史をもつ寺院かを調べあげてください。調査の成果を取捨選択してまとめ、25分で紹介してもらいます。発表後は、齋藤と質疑応答を行います。</p> <p>第6回・第7回は、テキストを咀嚼すること・原典にあたることに体を慣らしていきます。日本考古学史上の論争をいくつか提示するので、1つ選択してどのような論争であったかを調べあげてください。受講者がその論争について深く理解できるよう、噛み砕いて25分で解説してもらいます。発表後は、他の受講者と質疑応答を行います。</p> <p>第9回～第12回は実戦回です。日本考古学が対象とするモノ資料を提示するので、そのなかから2つ選択してください。そしてそれがどのように作られたかを議論している論文を自ら探し、いくつか読み込んで理解を深めます。読み込んだ論文のうち、最も良いと思ったものをコピーして、1週間前のゼミで教員と他の受講者に配布してください。それがどのように作られる遺物であるか、選択した論文を要約しながら説明してもらいます。 発表者以外の受講者も、配布された論文を読み、理解を深めてください。発表後は、全員で疑問点を出し合います。未熟な質問でも全く構いませんので、何か発言できるように考えてきてください。したがって自身の発表回はもちろん、発表を聞く回も、皆さんの主体的な取り組みが不可欠です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>発表者はレジュメを作成すること。第9回以降、発表者以外の受講者も配布された論文を読み、発言の準備をして授業に臨むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知りたいことの手掛かりはどうやって探すのか?(齋藤) 2. 遺跡/博物館の見学 3. 遺跡/博物館の見学 4. その寺院にはどんな歴史があるのか(1) 5. その寺院にはどんな歴史があるのか(2) 6. その論争はどのような経過を辿ったのか(1) 7. その論争はどのような経過を辿ったのか(2) 8. 予備回 9. その遺物はどのように作られたのか(1) 10. その遺物はどのように作られたのか(2) 11. その遺物はどのように作られたのか(3) 12. その遺物はどのように作られたのか(4) 13. ゼミ分け説明会 | | | | |

| | | | |
|---|-------|----|-----|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| <p>[成績評価方法] 3分の2以上の出席を前提として、口頭発表の内容(50%)、討論への積極性(50%)を評価する。いわゆる「ドタキャン」は、大幅に減点する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 討論への積極性</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 討論への積極性</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

S53043 [LHH2-016]

| | | | |
|---|-------------------|----------------|-----|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 日本近現代史における主な人物・事件 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 日本近現代史に登場する主な人物もしくは事件について詳しく調べ、レジュメを作成して研究発表をした上で、他の参加者との質疑応答が積極的にできるようになること、すなわち演習形式の授業に慣れることが目標である。</p> <p>[授業概要] 少人数による演習形式の授業の履修を通して、日本近現代史に関する現在の研究状況を把握してもらうことを目的に開講される演習である。具体的には、日本近現代史に関する人物や事件などの中から、各自の関心に従ってテーマを設定し、それを徹底的に調べたうえで、研究発表を行ってもらう。発表者は、前半の50分間で調べてきたことを発表し、残り50分間で参加者全員による質疑応答を行う。したがって、日本近現代史に関心を有する者の意欲的な参加が求められる。自分でテーマを立てること、そのテーマに関する研究を自分で進めること、発表に創意工夫をこらすこと、質疑応答に積極的に加わることの4点が評価のポイントとなる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日本近現代史における様々なテーマに対して深い興味を示し、概説書などで基礎的な知識を身につけておく準備姿勢が必要である。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 日本近現代史に関する各自の問題関心の披露と発表順の決定 2. 日本近現代史の研究状況について(講義) 3. 日本近現代史に関する資料の調べ方 4. 各自の発表1 5. 各自の発表2 6. 各自の発表3 7. 各自の発表4 8. 中間的なまとめ(これまでの発表の批判と反省) 9. 各自の発表5 10. 各自の発表6 11. 各自の発表7 12. 各自の発表8 13. 総括的な質疑応答</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------------|----|-----|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 日本近現代史における主な人物・事件 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講状況(50%)、発表内容(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中あるいは終了時を利用して適宜フィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:受講状況</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜指示する。</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----------------|-----|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 日本中世史研究入門 | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 図書館を活用し、興味をもったテーマの本を探し出し、知識を深める(ディープラーニング) | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 歴史を学びとる基礎的力量を養う。 日本中世史研究の課題を説明できる。</p> <p>[授業概要] この授業では、卒業論文を作成するための基礎的技能、「調べる力・発表する力・まとめる力」を身につけることを目的とする。 谷口雄太『分裂と統合で読む日本中世史』(山川出版社、2021年)をテキストとして、日本中世史研究の入門とともに、歴史を考える視点を検討したい。 発表者は内容に即して検討すべき「問題」を発見し、「調査」して議論の材料を提起する。受講者は、それをもとに自由に意見を述べあい、興味深い箇所や疑問点を共に発見しながら、歴史学研究の基本的な方法を身につけるという方法をとる。 受講に際しては、幅広い問題関心と柔軟な思考と意欲ある態度を希望する。 なお、受講生各自の問題関心は、発表後の作業も付け加えてレポートを作成し提出してもらおう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テキストから読み取った内容を、どれだけ興味深く伝えられるかを、自らの準備や他のゼミメンバーの報告を参考に仕上げてゆくよう努める。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 授業内容と到達目標の設定 2. 序章「日本史上もっとも複雑で曖昧だった中世と現在」の講読 3. 史学科・大学図書館の施設の見学 4. I部「場」「地域」からみる(いくつもの日本)」 第一章「東と西—もっともポピュラーで根深い問題」の講読 第二章「南と北—よりいっそう豊穡で、ときにカオスな場所」の講読 第三章「内と外—時代によって揺れ動く「境界」の独自性」の講読 5. II部「人」「階層」からみる(いくつもの日本)」 第四章「朝廷と幕府—二大勢力の関係性をめぐる激しい学説論争」の講読 6. 第五章「寺社と宗教—現代とかけ離れた「もうひとつの勢力」」の講読 7. 第六章「生業と身分—非農業的世界から見えてくる豊かな日本史」の講読 8. III部「多様な列島社会を「統合」するものは何か？」 第七章「分裂と統合—両者の共存は可能なのか？」の講読 9. 第八章「中央と地方—首都の求心力はどこにあるのか」の講読 10. 第九章「天皇と将軍—戦国期にも存在しえた「価値」を探る」の講読 11. 終章「歴史から学べることは何か」の講読／まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--------|-----------|----|-----|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 日本中世史研究入門 | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |

[成績評価方法]

レポート(40%)
授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

レポート課題の講評結果をmanabaで周知し、専門演習を選択する際に必要な知識や知的関心の集積に結びつく助言を行なう。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

分裂と統合で読む日本中世史 著者名: 谷口雄太著 出版社: 山川出版社 (9784634151796)

[参考書(ISBN)]

なし。授業中に適宜、紹介する。 著者名: なし。 出版社: なし。(なし。)

| | | | |
|---|------------------|----------------|------|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本古代・中世国際交流史研究入門 | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 日本古代・中世国際交流史の基礎知識および研究方法の基礎を習得する。</p> <p>[授業概要] 日本古代・中世国際交流史に関する基礎的な論文や史料を読み、その内容などについて受講生が輪番で報告する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 講読する論文・史料などにはあらかじめ目を通したうえで授業に臨み、授業後にはそれらの復習をおこなうとともに、図書館などで自分なりに関連文献を探してさらに知識・理解を深めていく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 日本古代・中世国際交流史の研究史(1) 3. " (2) 4. " (3) 5. 日本古代・中世国際交流史の基本史料(1) 6. " (2) 7. 受講者による報告(1) 8. " (2) 9. " (3) 10. " (4) 11. " (5) 12. " (6) 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|------------------|----|-----|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 日本古代・中世国際交流史研究入門 | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| <p>[成績評価方法] 報告・質疑の内容80%・受講態度20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メール・manabaなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし、適宜テキストのコピーやレジュメを配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 続・歴史学へのいざない | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 歴史学の分析手法を理解し、歴史学に関する文献の叙述を批判的に読むことができる能力を身につける。</p> <p>[授業概要] 荒野泰典『鎖国を見直す』(岩波現代文庫、2019年12月)をテキストとし、これを輪読する。毎回、報告担当者が、自身が割り当てられた部分について、内容の要旨および疑問点・問題点を記したレジユメを全員に配布し、これをもとに報告を行う。報告後、授業参加者全員で議論する。 なお、授業期間中に1回、大学周辺史跡の見学を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 報告者は事前にレジユメを作成する。他の受講生も、必ずテキストの当該部分を事前に読んでおくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 2. 史学科資料室と大学図書館書庫の見学 3. テキストの講読1 4. テキストの講読2 5. テキストの講読3 6. テキストの講読4 7. テキストの講読5 8. 大学周辺史跡の見学 9. テキストの講読6 10. テキストの講読7 11. テキストの講読8 12. テキストの講読9 13. テキストの講読10 | | | |

| | | | |
|--|-------------|----|-----|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 続・歴史学へのいざない | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート50%、報告レジュメの内容50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 「鎖国」を見直す 著者名: 荒野泰典 出版社: 岩波書店(岩波現代文庫) (9784006004105)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に適宜紹介する。</p> | | | |

S53047 [LHH2-016]

| | | | |
|----------------|-------|----------------|------|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

入門演習よりも専門性の高い、史学科学生として必要な歴史研究についての基礎知識・技能を十分に習得することができるようになる。

[授業概要]

文献調査・報告資料の作成など、卒業論文執筆の際に必要な基礎的な知識・技能の習得にむけての指導を行う。具体的には、各自が西洋史上の事象1つを選択し、そのテーマについての口頭発表を目的とした作業にとりくむ。関連の課題の提出も義務付ける。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回授業の内容について理解を深め、次回授業に備える自主学習を行う。口頭指示およびmanaba(各回授業のプロジェクト)で教員が指針を与える。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]

1. はじめに(スケジュール、テーマの選択)
2. 演習1 参考資料を活用する
3. 演習2 適切な資料を探す
4. 演習3 情報を整理する
5. 演習4 構成を考える
6. 演習5 プレゼンテーションを工夫する
7. 課題報告1-1 研究発表の作法
9. 課題報告1-2 レジューメ、レポートの注意点
10. 課題報告1-3 効果的なプレゼンテーションにむけて
11. 課題報告1-4 質疑応答のポイント
12. 課題報告1-5 よりよい発表のために
13. 課題報告2

| | | | |
|--|-------|----|-----|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 現代社会 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 現代社会への歴史的視座 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 現代社会の位置づけを把握し、現代社会が直面している課題を認識する。</p> <p>[授業概要] 近代化のプロセスの結果として現代社会を位置づけ、近代化の光と影を具体的に学習した後に、地域づくり、少子高齢化社会における生きがいなどのテーマについて講義をおこなう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 講義中の指示にしたがって、予習・復習をおこなうこと。 (各回、予習・復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入—現代社会を論じるために 2. 近代化の光と影 3. 現代社会の位置づけ 4. 柳田国男の社会構想 5. 過渡期の認識と「都市」の発見 6. ふるさとイメージと開かれた土着思想 7. モダニティと現代民俗誌 8. 現代市民社会における民俗調査 9. 観光と現代社会 10. 地域づくりと観光 11. 少子高齢化と女性のライフコース 12. 現代社会と生きがい論・幸福論 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|-------------|----|------|
| 科目名 | 現代社会 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 現代社会への歴史的視座 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験(80%)、受講態度(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:学習態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:学習態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 授業中に適宜資料を配付する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 社会学入門 人間と社会の未来 著者名:見田宗介 出版社:岩波書店 (9784000000000)</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 現代社会 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 現代社会への歴史的視座 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 現代社会の位置づけを把握し、現代社会が直面している課題を認識する。</p> <p>[授業概要] 近代化のプロセスの結果として現代社会を位置づけ、近代化の光と影を具体的に学習した後に、地域づくり、少子高齢化社会における生きがいなどのテーマについて講義をおこなう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 講義中の指示にしたがって、予習・復習をおこなうこと。 (各回、予習・復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入—現代社会を論じるために 2. 近代化の光と影 3. 現代社会の位置づけ 4. 柳田国男の社会構想 5. 過渡期の認識と「都市」の発見 6. ふるさとイメージと開かれた土着思想 7. モダニティと現代民俗誌 8. 現代市民社会における民俗調査 9. 観光と現代社会 10. 地域づくりと観光 11. 少子高齢化と女性のライフコース 12. 現代社会と生きがい論・幸福論 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|-------------|----|------|
| 科目名 | 現代社会 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 現代社会への歴史的視座 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験(80%)、受講態度(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:学習態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:学習態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 授業中に適宜資料を配付する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 社会学入門 人間と社会の未来 著者名:見田宗介 出版社:岩波書店 (9784000000000)</p> | | | |

S54090F [LHH3-041]

| | | | |
|--|----------|----------------|------|
| 科目名 | 古文書講読 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 近世古文書を読む | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>以下の3点を到達目標とする。</p> <p>①基本的なくずし字で書かれた近世古文書については、ほぼ解読することができる。</p> <p>②歴史学の研究における史料の位置づけについて理解できる。</p> <p>③近世古文書の文化財的価値およびその保存のあり方について理解できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>この授業では古文書テキスト(近世古文書の写真版またはコピー)を毎回読んでいく。授業の後半には、一部原物文書も使用する。履修生は、授業を通して、基本的な近世古文書の解読能力を修得するとともに、近世社会の実態、近世古文書と近世史研究との関係、近世古文書の文化財としての側面などについて理解を深めることになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>近世古文書に限らず、くずし字の解読能力を身につけるためには、まず、授業の前に必ず予習(最低1時間)をし、授業後は必ず復習(最低1時間)をしなければならない。これとあわせ、それまでの授業で取り上げた古文書テキストを、毎日繰り返し復習することも必要である。継続と繰り返し为上達の早道である。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(授業の進め方、辞書の利用方法等についての説明) 2. 近世古文書の解読1 3. 近世古文書の解読2 4. 近世古文書の解読3 5. 近世古文書の解読4 6. 近世古文書の解読5 7. 近世古文書の解読6 8. 近世古文書の解読7 9. 近世古文書の解読8 10. 近世古文書の解読9 11. 近世古文書の解読10 12. 近世古文書の解読11 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--------|----------|----|------|
| 科目名 | 古文書講読 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 近世古文書を読む | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |

[成績評価方法]
 受講態度26%、試験74%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
 履修生は、毎回manabaの小テスト機能を用いてその日の授業内容について質問や感想を書く。教員は次の授業の中で、質問に答える。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。
 成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
 成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
 成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
 成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

古文書の写真のコピー(授業中に配布)
 『増訂近世古文書解読辞典』(これもテキストなので、必ず購入すること) 著者名:林英夫監修、若尾俊平・浅見恵・西口雅子編 出版社:柏書房(1972年)(4760100032)

[参考書(ISBN)]
 授業中に適宜紹介する

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 古文書講読Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 尾崎 真理 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 以下の3点を到達目標とする。 ①基本的なくずし字で書かれた近世古文書については、ほぼ解読することができる。 ②歴史学の研究における史料の位置づけについて理解できる。 ③近世古文書の文化財的価値およびその保存のあり方について理解できる。</p> <p>[授業概要] 古文書講読Ⅰ(前期)で習得した古文書読解力に基づき、この授業では中級レベルの古文書テキスト(近世古文書の写真版またはコピー)を毎回読んでいく。授業のうちいずれかの1コマは、史料原物も使用し、古文書を含めた文化財の扱い方についても学ぶ機会をつくる。履修生は、授業を通して、基本的な近世古文書の解読能力を修得するとともに、近世社会の実態、近世古文書と近世史研究との関係、近世古文書の文化財としての側面などについて理解を深めることになる。 ※この授業は前期の古文書講読Ⅰ(初級)の続きとして実施する。受講生は前期の古文書講読Ⅰを受講することが強く望まれる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 近世古文書に限らず、くずし字の解読能力を身につけるためには、まず、授業の前に必ず予習(最低1時間)をし、授業後は必ず復習(最低1時間)をしなければならない。これとあわせ、それまでの授業で取り上げた古文書テキストを、毎日繰り返し復習することも必要である。継続と繰り返し为上達の早道である。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス(授業の進め方、辞書の利用方法等についての説明) 2. 近世古文書の解読1 3. 近世古文書の解読2 4. 近世古文書の解読3 5. 近世古文書の解読4 6. 近世古文書の解読5 7. 近世古文書の解読6 8. 近世古文書の解読7 9. 近世古文書の解読8 10. 近世古文書の解読9 11. 近世古文書の解読10 12. 近世古文書の解読11 13. 近世古文書の解読12</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 古文書講読Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 尾崎 真理 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度30%、試験70%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 古文書の写真のコピー(授業中に配布) 『増訂近世古文書解読辞典』(これもテキストなので、必ず購入すること) 著者名:林英夫監修、若尾俊平・浅見恵・西口雅子編 出版社:柏書房(1972年)(4760100032)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に適宜紹介する。</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 近世史料講読とフィールドワーク | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>以下の4点を到達目標とする。①近世史料の読解力を身につける、②自身で研究テーマを設定し、自ら考えた方法によってその課題を解き、適切な解答を得る能力を身につける、③課題設定・課題追究のプロセスをわかりやすく発表する能力を身につける、④日本近世の特質について理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>前半は只野真葛『むかしばなし』を輪読する(A)。後半は、フィールドワークで訪れた史跡に関わるテーマについて、受講生各自が研究成果を報告する(B)。Aの報告者は、自身が割り当てられた部分について、①語句の意味、②現代語訳、③解説、を記したレジュメを全員に配布し、①②③の順に報告を行う。報告担当者以外の受講生も、事前に①②について準備をしておき、授業に臨む。Bでは、1回につき2人が報告する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>ABとも、報告者は事前にレジュメを作成する。Aについては、報告担当者以外の受講生も、関係部分についてのレジュメを作成する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業のねらいと進め方 2.只野真葛『むかしばなし』の講読1 3.只野真葛『むかしばなし』の講読2 4.只野真葛『むかしばなし』の講読3 5.フィールドワーク① 6.フィールドワーク② 7.只野真葛『むかしばなし』の講読4 8.只野真葛『むかしばなし』の講読5 9.学生によるフィールドワーク関連研究報告1 10.学生によるフィールドワーク関連研究報告2 11.学生によるフィールドワーク関連研究報告3 12.学生によるフィールドワーク関連研究報告4 13.学生によるフィールドワーク関連研究報告5 | | | |

| | | | |
|--|-----------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 近世史料講読とフィールドワーク | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| <p>[成績評価方法] 発表レジュメの内容50%、レポート50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] プリントを配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に適宜紹介する</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 歴史研究の基礎を身につける | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>研究文献と史料の所在を確認するため、図書館を 使いこなす力量を養う</small> | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒業論文作成に際し必要とされる基礎的作業能力の修得を目的とする。 中世史研究の方法について理解する。</p> <p>[授業概要] 卒業論文は、先ず「自分の興味や関心が何か」を明確にすることから始まる。そのため、(1)現時点での受講生の興味・関心を確認するために文献探索の初歩的手続きを学ぶ。(2)日本中世史の基礎文献を読み解くトレーニングを行なう。(3)史料の輪読を通して、関連するデータ検索のスキル獲得をめざす。(4)関心あるテーマの手がかりとなる論文を読む。分担報告の際はレジュメを作成し、また互いに該当資料や論文を事前に読み、議論に参加することを義務づける。さらに報告内容や報告後に検討した点を学期末のレポートにまとめて提出してもらう。なお、フィールドワークや博物館展示の見学を適宜、実施する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 研究文献や史料は、分担報告者であるか否かに関わらず、丁寧に読み解くことを強く求める。その際に生じた疑問点や興味深い点を、ゼミメンバー全員で共有して、相互の理解を深められるよう準備することが望ましい。</p> <p>[授業計画] 1. 日本中世史を学ぶにあたって(1) 2. 日本中世史を学ぶにあたって(2) 3. 文献演習(『中世史講義』)(1) 4. 文献演習(『中世史講義』)(2) 5. 文献演習(『中世史講義』)(3) 6. 文献演習(『中世史講義』)(4) 7. 史料講読(1) 8. 史料講読(2) 9. 史料講読(3) 10. 史料講読(4) 11. 論文講読(1) 12. 論文講読(2) 13. まとめー春期休暇の課題設定ー</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 歴史研究の基礎を身につける | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaレポートのコメント機能を使用。提出レポートの問題点を指摘し、春季休暇中に取り組むべき課題を提示する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 中世史講義 一院政期から戦国時代まで 著者名:高橋典幸・五味文彦編 出版社:筑摩書房 (9784480071996)</p> <p>[参考書(ISBN)] 増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう— 著者名:秋山哲雄・田中大喜・野口華世編 出版社:勉誠出版 (9784585222804)</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 民俗学の基礎を学ぶ | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 民間伝承の資料から庶民の生活を読み取る視点を獲得する。</p> <p>[授業概要] 現代における民俗学研究の枠組みをテーマ別に概観しながら、どのような研究課題があり、それに対してどのような研究方法があるのかを検討していく。 民俗学の学習において一番大切なのは、生活の実感を踏まえた理解である。日々の生活に視点を置いて見えてくることの面白さを実感してもらい、そのような実感を踏まえて、民俗学の視点から歴史を見ていく方法を身につけることを目指したい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教科書にもとづいて、しっかり予習・復習をすること。 (各回、予習・復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学の成立と展開 2. 日本民俗学の先達たち 3. 常民という視点 4. ハレとケ、そしてケガレ 5. ムラとイエ 6. 山民と海民 7. 女性と子供 8. 老人の文化 9. 盆と正月 10. カミとヒト 11. 妖怪と幽霊 12. 仏教と民俗 13. 都市の民俗 | | | |

| | | | |
|--|-----------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 民俗学の基礎を学ぶ | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度(70%)と発表内容(30%)を合わせて評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表</p> <p>[教科書(ISBN)] 民俗学(講談社学術文庫) 著者名:宮田登 出版社:講談社 (978-4-06-518135-5)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に指示する</p> | | | |

| | | | |
|---|----------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | アジア史研究入門 | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 特殊講義等の専門科目を受講するのに必要な基礎知識と蓄積し理解力を養成する。</p> <p>[授業概要] アジアの歴史を学ぶ基礎力を錬成するための演習であり、卒業論文作成への第一歩となる授業である。各自興味をもつテーマについて調査した成果を発表してもらい、全員で討論する。それぞれのテーマの歴史的背景や研究の方法と現状、史料の所在などを踏まえ、専門研究に触れることが第一の目標。演習の成果として発表内容に関するレポートを作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。関係する書籍を読み進めるとともに、アジア各地への関心を深める。また、ひろくアジアに関わる諸問題を把握する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心のあるテーマについてプレゼンテーション 2. 研究方法と史料論(1) 3. 研究方法と史料論(2) 4. 研究方法と史料論(3) 5. 文献講読(1) 6. 文献講読(2) 7. 文献講読(3) 8. 文献講読(4) 9. 文献講読(5) 10. 研究論文の講読(1) 11. 研究論文の講読(2) 12. 研究論文の講読(3) 13. 研究成果の総括 | | | |

| | | | |
|--|----------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | アジア史研究入門 | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを利用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-1／講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-2／幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-5／演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-1／演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-2／多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-3／演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 『論点・東洋史学—アジア・アフリカへの問い158—』 著者名:吉澤誠一郎(監修) 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4623092178)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に紹介する。</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)力を養う ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)力を養う ③書く(考えを筋道立てて説明する)力を養う ④考古学の方法を習得し、関心あるテーマの論文を読む基盤を作る</p> <p>[授業概要]</p> <p>史学演習 I では考古学の方法論を学ぶ。考古学の専門書・論文・発掘調査報告書を読みこなし、問いを発する基盤を作る。具体的には、方法論に関わる基本文献を素材として、内容を咀嚼し、他者に説明する訓練を重ねる。次のように授業を進めていく。</p> <p>①発表の3週間前までに、課題論文を配布する。発表者は課題論文を読み込むとともに、論文内で引用されている論文などを参照し、理解を深めて発表レジュメを準備する。 ②発表者以外の受講者は、発表回までに配布された論文を読み、理解を深める。何が理解できたか、何がわからないかを整理しておく。 ③発表者の発表をもとに、全員で疑問点を出し合う。未熟で全く構わないので、何か発言できるように考えてきてほしい。</p> <p>したがって発表回はもちろん、発表を聞く立場の回であっても、主体的な取り組みが不可欠であることは言うまでもない。方法論とは言わば、知の世界に分け入っていくための武器である。問いと答えの探究には欠かせない以上、主体的に取り組み、漏らすことなく獲得してほしい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>発表者はレジュメを作成すること。発表者以外の受講者も、配布された文献を読み、発言の準備をして授業に臨むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 論文の読み方+発表の作法(話す作法と聞く作法) 3. 遺跡/博物館の見学 4. 遺跡/博物館の見学 5. 横山「考古学とはどんな学問か」+近藤「考古学とは何か」、鈴木「考古学の範囲」 6. 小野山「資料論」、レンフリー&バーン「何が残されたのか-多様な資料-」 7. 岡村「機能論」、チャイルド「機能の判定」 8. 佐原「分布論」、レンフリー&バーン「どこに-遺跡と遺構の踏査と発掘-」 9. 麻生「層位論」、レンフリー&バーン「いつ-年代測定法と編年-」 10. 横山「型式論」、鈴木「考古学の方法」 11. 近藤「総論-変化・画期・時代区分-」、甘粕「総論-生産力発展の諸段階-」 12. ギャンブル「いったい何通りの考古学者がいるのか」、ギャンブル「まず基本的な概念を理解しよう」 13. ギャンブル「ヒト」、ギャンブル「モノ」 | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| <p>[成績評価方法] 3分の2以上の出席を前提として、口頭発表の内容(50%)、討論への積極性(50%)を評価する。いわゆる「ドタキャン」は、大幅に減点する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>[教科書(ISBN)] 資料を配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|------------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本近現代史料の読解 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] くずし字で書かれた近現代史料に慣れ、一定レベルのものが読解できるようになることが目標である。</p> <p>[授業概要] 日本近現代史を研究するにあたっては、史料の解釈や操作の方法を会得することと、現在の学界の研究状況を整理することの二点がとりわけ重要となってくる。この演習では、まず、各自が関心を持つテーマに関する史料の読解を通して、近代史料の特質や所在状況について理解を深めていく。とりわけくずし字で書かれた史料の読解に力点を置く。授業は、発表と討論を中心とするので、発表者以外の者に対しても事前の予習と積極的な発言を求める。近代のくずし字に関する理解を深めることと、ゼミ発表の準備・発表・質疑応答に積極的に取り組む姿勢を養うことが到達目標となる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日本近代史料に深い興味を抱く者が履修するよう望む。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の問題関心の披露 2. 近代史料の特質(講義) 3. 近代史料の所在(講義) 4. 近代史料読解の実際(初歩) 5. 近代史料読解の実際(初歩) 6. 近代史料読解の実際(初歩) 7. 近代史料読解の実際(初歩) 8. 中間的なまとめ 9. 近代史料読解の実際(中級) 10. 近代史料読解の実際(中級) 11. 近代史料読解の実際(中級) 12. 近代史料読解の実際(中級) 13. 総体的なまとめの質疑応答 | | | |

| | | | |
|---|------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本近現代史料の読解 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講状況(50%)、受講態度(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業終了後やオフィスアワーの時間を利用して適宜フィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 受講状況</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 受講状況</p> <p>[教科書(ISBN)] プリントを中心とする</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 歴史的な日本古代史像を組み立てていくための技術・方法論の初歩を身につけ、将来の卒業論文作成にあたっての基礎をつくる。</p> <p>[授業概要] 日本古代史関連の基礎的な論著を読むことを通じて、史料にもとづいて歴史像を作りあげていく方法を学んでいく。受講者は、論著の内容の紹介報告を輪番で担当し、他の受講者はその報告に対して質疑をおこなう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分の報告担当以外の部分についても、必ず事前に目を通したうえで授業に参加する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 論文演習(1) 3. 論文演習(2) 4. 論文演習(3) 5. 論文演習(4) 6. 論文演習(5) 7. 論文演習(6) 8. 論文演習(7) 9. 論文演習(8) 10. 論文演習(9) 11. 論文演習(10) 12. 論文演習(11) 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| <p>[成績評価方法] 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メール・manabaなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし、適宜資料コピーを配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒業論文の作成に必要とされる史資料収集や口頭発表の基礎的な知識とスキルを習得することができるようになる。卒業論文のおおまかなテーマを決定できるようになる。</p> <p>[授業概要] 卒業論文の作成にむけて必要とされる、専門度の高い資料の収集や口頭発表の方法などの基礎事項の知識とスキルが習得できるように、演習方式で指導する。卒業論文のテーマについても、各自の関心にもとづく個別領域において資料収集を進めてゆく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回授業の内容について理解を深め、次回授業に備える自主学習を行う。口頭指示およびmanaba(各回授業のプロジェクト)で教員が指針を与える。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. はじめに スケジュールの確認 2. 演習1-1 テーマの選択 3. 演習1-2 基礎資料を集める 4. 演習1-3 データベースの活用 5. 演習1-4 構成を考える 6. 演習1-5 報告資料の作成 7. 博物館・美術館での学外授業もしくは学内での史資料調査 8. 口頭報告(1)プレゼンテーションの工夫 9. 口頭報告(2)配布資料の活用 10. 口頭報告(3)質疑応答で得たものを反映させる 11. 卒業論文にむけて1 各自の関心の披歴 12. 卒業論文にむけて2 「問い」を見つける 13. おわりに</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 『ABC of ENGLISHペンマンシップ—はじめての筆記体練習ノート』『西洋史料講読II』の参考書と共通。講読における使用については、講読の初回授業時に説明す 著者名:総合学習指導研究会編 出版社:受験研究社、2005年(4424289028)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--------|----------|----|-----|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 近世史研究の方法 | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|--|----------------|--|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

以下の2点を到達目標とする。

- ①古文書解読力をさらに高めるとともに、古文書整理能力を身につける。
- ②学術論文の内容とその問題点を正確に把握するとともに、それらをわかりやすくレジュメにまとめ、報告する能力を身につける。

[授業概要]

この授業では、前半に古文書解読の訓練を行い、後半には論文講読を行う。

【前半(古文書解読)】

毎回、近世古文書の写真を読む。また、原物を用いた古文書整理も行い、古文書整理方法について学ぶ。受講生は、2回生のときよりもさらに高い近世古文書の解読能力を修得するとともに、近世社会の実態、近世古文書と近世史研究との関係、近世古文書の文化財としての側面などについて、より理解を深めることになる。

【後半(論文講読)】

毎回、日本近世史に関する論文を講読する。各回、以下の順に授業を進める。①受講生全員が事前に同じ論文を読み、論文の要旨と評価点・疑問点・問題点をまとめたレジュメを作成する。レジュメは、A4判4枚にまとめ、うち3枚を内容要約にあて、残り1枚には論文の評価点・疑問点・問題点を記す。取り上げる論文は教員が指定する。②授業当日、授業の冒頭に受講生全員がレジュメを教員に提出する。③あらかじめ決められた報告担当者が、レジュメに基づき、報告を行う。報告担当者はメイン報告者とサブ報告者の2名とし、メイン報告者は、論文の要旨および評価点・疑問点・問題点を報告し、サブ報告者は、評価点・疑問点・問題点のみを報告する。この両名は全員分のレジュメを用意し、授業開始前に配布しておく(報告者以外の受講生は、レジュメを1部用意するだけでよい)。④報告後、全員で議論する。

報告担当者は、必ず関連論文をいくつか読んでおき、レジュメに反映させねばならない。また、④の議論には、受講生全員が積極的に参加することを望む。

なお、授業期間中に1回、学外の史跡・博物館等の見学を行う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

前半の古文書解読では、授業の前に必ず予習をし、授業後は必ず復習をすること。これとあわせ、それまでの授業で取り上げた古文書テキストを、毎日繰り返し復習すること。継続と繰り返しは古文書解読力上達の早道である。後半の論文講読では、毎回、受講生全員が、授業で取り上げる論文についてレジュメを作成する。

[授業計画]

1. 授業の進め方
2. 近世古文書の解読1
3. 近世古文書の解読2
4. 近世古文書の解読3
5. 近世古文書の解読4
6. 近世古文書の解読5
7. 近世古文書の解読6
8. 学外の史跡・博物館等の見学
9. 論文の講読1
10. 論文の講読2
11. 論文の講読3
12. 論文の講読4
13. 論文の講読5

| | | | |
|--|----------|----|-----|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 近世史研究の方法 | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| <p>[成績評価方法] 前半期最後に行われる古文書試験50%、レポート30%、発表レジュメの内容20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 古文書の写真のコピー(授業中に配布) 『増訂近世古文書解読辞典』(これもテキストなので、必ず購入すること) 著者名: 林英夫監修、若尾俊平・浅見恵・西口雅子編 出版社: 柏書房(1972年)(4760100032) 事前にmanabaを通して論文コピーを配信する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に適宜紹介する。</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----------------|-----|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 文献史料を読み解く | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>研究文献と史料の所在を確認するため、図書館を 使いこなす力量を養う</small> | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒業論文作成に必要な歴史資料、特に文献史料を取扱う能力を修得する。</p> <p>[授業概要] 前期は、春季休暇の成果にもとづき、現時点での受講生の興味・関心を再確認する。次に、ゼミ生全員と分担して中世法とそれに関する論文を読み解いてゆく。まず松園潤一郎編『室町・戦国時代の法の世界』(吉川弘文館、2021年)をテキストにしてその論旨を確認し、同書から関連論文および関連史料を抽出する。その後、関連論文および関連史料を講読する。 報告に際しては、レジュメを作成すること、および該当する論文や史料を事前に読み、議論に参加することを義務づける。また卒業論文に向けた準備報告を実施し、その成果は学期末レポートにまとめる。なお、日本中世史に関わるフィールドワークや博物館展示見学を適宜、実施する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 分担報告する史料の理解を深めるための、丁寧な準備を強く求める。その過程で生じた疑問は、報告者以外のゼミメンバーと共有し、協働して相互の理解を深めるよう報告を工夫する。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. 日本中世社会の特質 中世法と自力救済(講義) 3. 文献演習 A 室町幕府法 4. 文献演習 A 寺社法 5. 文献演習 A 村法 6. 文献演習 A 家族と法 7. 文献演習 B 中世法に関する論文(1) 8. 文献演習 B 中世法に関する論文(2) 9. 卒業論文テーマの準備報告 10. 史料演習 中世法(1) 11. 史料演習 中世法(2) 12. 史料演習 中世法(3) 13. 史料演習 中世法(4)／まとめー夏期休暇の課題設定ー</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 文献史料を読み解く | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(60%) 授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaレポートのコメント機能を使用。提出レポートの問題点を指摘し、夏季休暇中に取り組むべき課題を提示する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 室町・戦国時代の法の世界 著者名:日本史史料研究会監修・松園潤一朗編 出版社:吉川弘文館 (9784642083973) 講読する論文と史料は、コピーを配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)]</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------|----------------|-----|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 民俗資料への視点と課題の発見 | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>文献史料に残る民間の風習の理解をふまえて、大きな歴史の流れを把握する。 卒論に向けては、大まかな方向性を確定する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>現代人にとっては奇妙に思える風習が古代・中世・近世に生きた人々にとってはどのような意味を持っていたのかという問いを頭に置きながら、教科書を読み進めていく。 その際に各時代の特徴を大づかみにしていくことが重要である。 文献史料と民間伝承の接点を探ることが、この授業のポイントである。</p> <p>前期の学習においては、資料を読むことの面白さを実感していくことに重点を置く。 また、各自の卒論のテーマについても、絞り込みを進めていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>指示された課題の準備をして授業に臨むこと。 (各回、予習・復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学と歴史資料 2. 古代日本の神判 3. 鎌倉時代の神判 4. 室町時代の神判 5. 中世の共同体 6. ムラの「平和」 7. 証拠とは何か 8. 現地見学 9. 論文の書き方(1) 10. 論文の書き方(2) 11. テーマ発表(1) 12. テーマ発表(2) 13. テーマ発表(3) | | | |

| | | | |
|--|----------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 民俗資料への視点と課題の発見 | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| <p>[成績評価方法] 学習態度(80%)とレポート(20%)を合わせて評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:学習態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:学習態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 『日本神判史』(中公新書) 著者名:清水克行 出版社:中央公論新社 (978-4121020581)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|----------|----------------|-----|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | アジア史の諸問題 | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 史学演習Ⅰに引き続いて専門分野に関する知識と研究方法への理解を深める。</p> <p>[授業概要] アジアの歴史を学ぶ上での基礎力を養成するための演習であり、史学演習Ⅰでの成果をうけて卒業論文作成のステップとする。各自が興味をもつテーマについて調査結果を発表してもらい、全員で討論する。あわせてそのテーマをめぐる歴史的背景や研究の方法と現状、史料の所在など関係情報を収集する。なお、夏期休業中には各自の調査結果を踏まえたレポートを執筆する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。関連文献についての書誌情報を集積し、専門書や論文を読み進める。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. 文献解読と史料批判(1) 3. 文献解読と史料批判(2) 4. 文献解読と史料批判(3) 5. 文献解読と史料批判(4) 6. 文献解読と史料批判(5) 7. フィールドワーク【予定】 8. 研究論文の精読(1) 9. 研究論文の精読(2) 10. 研究論文の精読(3) 11. 研究論文の精読(4) 12. 研究論文の精読(5) 13. 総括</p> | | | |

| | | | |
|---|----------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | アジア史の諸問題 | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを使用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-1／講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-2／幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-3／課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-5／演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-1／演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-2／多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-3／演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>[教科書(ISBN)] プリントを配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に紹介する。</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)力を身につける ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)力を身につける ③書く(考えを筋道立てて説明する)力を身につける ④問いを発し、自らの主題をみつける</p> <p>[授業概要]</p> <p>史学演習ⅠとⅡの大きな違いは発表テーマを教員があたえるか／自分でみつけるかである。この史学演習Ⅱでは自ら問いを発し、自らの課題を作り出すことを期待したい。次のように授業を進めていく。</p> <p>①前半は、博物館・史料館、埋蔵文化財センター、教育委員会、史跡公園等に足を運んで、関心をもった遺物もしくは遺構2点を見学・観察し、調書を取る。実測図を作成することが望ましい。その特徴・共通点・違いなど気づいた点、疑問点をレジュメにまとめ、発表する。 ②後半は、前半で報告した遺物や遺構がこれまでどの程度出土しているのか、どの地域で検出されているかを整理し、時代や地域で違いがあるかなど気づく点を発表する。 ③発表者の発表をもとに、全員で疑問点を出し合う。発表者の考え方をよく理解するために、自らの「???」を解決するために、積極的に発言してほしい。</p> <p>したがって発表回はもちろん、発表を聞く立場の回であっても、主体的な取り組みが不可欠であることは言うまでもない。資料に向き合い、「それはどのようなものか」、「どのように作ったのか」、「どのように使ったのか」、「それを資料とすれば何が明らかになるか」を考え抜く一方、他の受講者の視点・論点にも耳を傾け、良い視点を取り入れつつ相互に高めあってほしい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>発表者はレジュメを作成すること。発表者以外の受講者も、発表テーマに関する基礎知識を博物館・史料館の見学あるいは関連書籍等で得て、授業に臨むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 発表の作法(齋藤)と関心ある遺物や遺構に関する発表(全員) 資料調査報告① 資料調査報告① 資料調査報告①(予備回) 資料調査報告② 資料調査報告② 資料調査報告②(予備回) 関心ある遺物・遺構の特徴・違いや注目点に関する発表① 関心ある遺物・遺構の特徴・違いや注目点に関する発表① 関心ある遺物・遺構の特徴・違いや注目点に関する発表② 関心ある遺物・遺構の特徴・違いや注目点に関する発表② 関心ある遺物・遺構の特徴・違いや注目点に関する発表(予備回) | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| <p>[成績評価方法] 3分の2以上の出席を前提として、口頭発表の内容(40%)、討論への積極性(20%)、レポートの内容(40%)で評価する。いわゆる「ドタキャン」は、大幅に減点する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: レポートの内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 討論への積極性</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: レポートの内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 討論への積極性</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性、レポートの内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性、レポートの内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性、レポートの内容</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------------|----|-----|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 近現代史料の読解と活用 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|---|----------------|--|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

くずし字で書かれた近現代史料が読解でき、それをもとにした研究発表ができることが大切である。あわせて、活発な質疑応答をおこない、集団討議に慣れることが、今学期の目標である。

[授業概要]

日本近現代史を研究するにあたっては、史料の解釈や操作の方法を会得することと、現在の学界の研究状況を整理することの二点がとりわけ重要となってくる。この演習では、まず、各自が関心を持つテーマに関する史料の読解を通して、近代史料の特質や所在状況について理解を深めていく。続いて、基本的な研究書や専門論文の講読を通して、各自の研究発表を行う。授業は、発表と討論を中心とするので、発表者以外の者に対しても事前の予習と積極的な発言を求める。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

史学演習Ⅰを受講して近代文書がある程度読めるようになっていることが前提となる。

[授業計画]

1. 日本近現代史に関する各自の問題関心の披露と質疑応答
2. 基本的な史料を取りあげ、解釈や史料操作の方法を会得する
3. 近代史料の所在について理解を深める
4. 各自の研究発表1
5. 各自の研究発表2
6. 各自の研究発表3
7. 各自の研究発表4
8. 中間的なまとめ(1巡目の発表の批判と反省)
9. 各自の研究発表5
10. 各自の研究発表6
11. 各自の研究発表7
12. 各自の研究発表8
13. まとめの討論

| | | | |
|---|-------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 近現代史料の読解と活用 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講状況(50%)、発表内容(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中あるいは終了時を利用して適宜フィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:受講状況</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒業論文作成の際に必要な論文読解能力を身につける。</p> <p>[授業概要] 卒業論文を作成する際の基礎となる先行研究の理解と整理のしかたを、さまざま論文を読むことにより学ぶ。受講者が輪番で論文紹介を担当する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 担当する論文を事前に読み込んだうえで授業に出席すること</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 論文講読(1) 3. 論文講読(2) 4. 論文講読(3) 5. 論文講読(4) 6. 論文講読(5) 7. 論文講読(6) 8. 論文講読(7) 9. 論文講読(8) 10. 論文講読(9) 11. 論文講読(10) 12. 論文講読(11) 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|-------|----|-----|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| <p>[成績評価方法] 報告・質疑の内容80%・受講態度20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メール・manabaなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:報告・質疑内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし、適宜検討対象論文のコピーを配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|----------------|-------|----------------|-----|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

歴史学の知識と手法を身につけることで、各自の卒業論文のテーマを掘り下げ、主体的に作成の準備を進めることができるようになる。

[授業概要]

この演習は、卒業論文の作成にむけて、各自の選択したテーマにもとづく口頭発表を中心に行う。授業時には他の受講生の報告を受けて、積極的な質疑応答を行うこと。領域・時代・テーマについて卒業論文の概要を決定し、夏季休暇中の自主学習にそなえた卒業論文構成表(A4所定様式、1枚)と参考文献リスト(様式自由、30件以上)を作成する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

教員の指示にしたがって、受講生はそれぞれのテーマに則した予備学習を行って発表に臨むこと。発表後は、教員の指導とゼミメンバーによる質疑応答をふまえて、manaba上に課題を再提出することで復習とする。(各回予習復習合わせて4時間程度)

[授業計画]

1. はじめに スケジュールの確認
2. 各自のテーマ報告(1)目標・方針の設定
3. 口頭報告(1)授業時発表の位置づけ
4. 口頭報告(2)「題目」と「はじめに」
5. 口頭報告(3)先行研究
6. 口頭報告(4)レポート・論文の文体
7. 博物館・美術館での学外授業もしくは学内での史資料調査
8. 口頭報告(5)「題目」を再検討する
9. 口頭報告(6)史資料を探す
10. 口頭報告(7)データベースの活用
11. 口頭報告(8)構成表
12. 各自のテーマ報告(2)振り返りと展望
13. おわりに 振り返り、方針の修正と課題

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--------|-----------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本近世史の諸問題 | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|--|----------------|--|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

この授業では、受講生各自が任意に選んだ日本近世史の研究テーマについて、現在の研究水準を確認し、いかなる課題が残されているのかを探る能力を身につけることを目標とする。

[授業概要]

この授業は、史学演習Ⅱをうけて行われる論文講読演習である。基本的な授業スタイルは史学演習Ⅱと変わらないが、取り上げる論文は、受講生各自がそれぞれの問題関心に従って設定したテーマに関わる最重要論文である。また、レジュメは報告者(2名)のみが作成し、他の受講生は作成する必要はない。

各回、以下の順に授業を進める。①報告担当者はメイン報告者とサブ報告者の2名とする。事前に、メイン報告者が、教員と相談の上、自身の問題関心に従って設定したテーマに関わる最重要論文を選ぶ、②受講生全員が事前に当該論文を読んでおき、授業に臨む、③授業当日、メイン報告者は当該論文の要旨と評価点・疑問点・問題点をまとめたレジュメにより報告する。レジュメは、A4判4枚にまとめ、うち3枚を内容要約にあて、残り1枚には論文の評価点・疑問点・問題点を記す。また、サブ報告者は、評価点・疑問点・問題点のみを記したレジュメ(A4判1枚)により報告する。④報告後、全員で議論する。

メイン報告者は、必ず関連論文をいくつか読んでおき、レジュメに反映させねばならない。また、④の議論には、受講生全員が積極的に参加することを望む。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

報告担当者は事前にレジュメを作成する。それ以外の受講生は、報告担当者が指定した論文を事前に読んでおく。

[授業計画]

- 1.授業の進め方
- 2.関心のある研究テーマについての報告(全受講生による)
- 3.関心のある研究テーマについての報告1
- 4.関心のある研究テーマについての報告2
- 5.関心のある研究テーマについての報告3
- 6.関心のある研究テーマについての報告4
- 7.学外史跡見学会
- 8.関心のある研究テーマについての報告5
- 9.関心のある研究テーマについての報告6
- 10.関心のある研究テーマについての報告7
- 11.関心のある研究テーマについての報告8
- 12.関心のある研究テーマについての報告9
- 13.春休みにおける研究の進め方

| | | | |
|---|-----------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本近世史の諸問題 | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート50%、報告レジュメの内容50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に適宜紹介する</p> | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 研究文献と史料を読み解く技能を身につける | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>図書館を利用し、研究文献と史料の所在を確認する作業を行う</small> | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

卒業論文テーマについての研究史上の位置を明らかにする。

[授業概要]

この授業の目的は、各自の卒論テーマが「現在の歴史学研究ではどのように議論されているか」を確認することである。そのために、夏期休暇中に読んだ文献の内容を紹介し、自分の興味や関心の所在を明らかにする。次に、各自のテーマに最も関連する研究文献を選び、その内容と疑問点、課題をまとめた丁寧なレジュメを作成する。また引用史料の所在も確認する。学期末には、以上の作業を整理したレポートを作成する。なお、フィールドワークや博物館展示の見学を適宜、実施する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

研究文献の内容の整理と重要史料の所在を確認すること。報告に向けてあらかじめ内容の理解を深めるよう努め、疑問点と課題を整理して報告に臨むことを強く求める。

[授業計画]

1. 文献演習(1)
2. 文献演習(2)
3. 文献演習(3)
4. 文献演習 学術論文を読む(1)
5. 文献演習 学術論文を読む(2)
6. 文献演習 学術論文を読む(3)
7. 文献演習 学術論文を読む(4)
8. 史料演習 史料を読み解く(1)
9. 史料演習 史料を読み解く(2)
10. 史料演習 史料を読み解く(3)
11. 史料演習 史料を読み解く(4)
12. 文献・史料を整理する
13. まとめ 春期休暇の課題

| | | | |
|---|----------------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 研究文献と史料を読み解く技能を身につける | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(50%) 授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaレポートのコメント機能を使用。学期末レポートは、その問題点を指摘し、春季休暇中に取り組むべき課題を提示する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。著者名:なし。出版社:なし。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] 増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう— 著者名:秋山哲雄・田中大喜・野口華世編 出版社:勉誠出版(9784585222804)</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 民俗学の課題の発見と展開 | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 民俗学の研究視点を把握して、各自の卒業論文のテーマを設定し、そのテーマについての資料集めに取りかかることを到達目標とする。</p> <p>[授業概要] この演習においては、各自の卒業論文のテーマを設定し、そのテーマについての資料集めに取りかかることを目指して授業を進める。まず、夏休みの課題の報告という形で、各自の関心のありかを報告してもらい、それを踏まえて、自分の関心をどのようにして論文の形式に組み立てることができるかという観点から、論文の書き方の練習をおこなう。 また、それと並行して、文献史料や伝説を対象として民俗学の視点から考察していく方法を学習していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業中に指摘した関連文献の読解および課題の準備をおこなうこと。 (各回、予習・復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休みの課題報告 2. 湯起請と専制政治 3. 中世から近世へ 4. 鉄火起請の伝説 5. 合理的精神の発達 6. 世界文明の中の日本 7. 学外学習 8. 論文の書き方(1) 9. 論文の書き方(2) 10. テーマ発表 (1) 11. テーマ発表 (2) 12. テーマ発表 (3) 13. 卒業論文に向けての課題の整理 | | | |

| | | | |
|--|--------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 民俗学の課題の発見と展開 | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| <p>[成績評価方法] 学習態度(70%)と発表内容(30%)を合わせて評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:学習態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表内容</p> <p>[教科書(ISBN)] 『日本神判史』(中公新書) 著者名:清水克行 出版社:中央公論新社 (978-4121020581)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|---------------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文のテーマを絞り込む | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 各自の問題関心に基づいてテーマを設定し、卒業論文を執筆する調査研究能力を養成する。</p> <p>[授業概要] 前期にひきつづいて研究発表をおこない、各人が興味をもっているテーマに関係する文献や研究論文、史料などを取り上げ、輪読する。発表者以外も史料の講読や発表での質疑討論に積極的に参与することを期待している。春期休業中には卒業論文に向けたレポートの作成を課題とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。各自のテーマに関する論文や史料を収集し、卒業論文の構想を具体的に作成する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献・史料講読の作法 2. 講読文献と史料について 3. 文献・史料講読と史料批判(1) 4. 文献・史料講読と史料批判(2) 5. 文献・史料講読と史料批判(3) 6. 文献・史料講読と史料批判(4) 7. 文献・史料講読と史料批判(5) 8. フィールドワーク【予定】 9. 研究発表(1) 10. 研究発表(2) 11. 研究発表(3) 12. 研究発表(4) 13. 研究発表(5) | | | |

| | | | |
|---|---------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文のテーマを絞り込む | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを使用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-1／講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-2／幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-3／課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-5／演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-1／演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-2／多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-3／演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業への取り組み(50%)＋レポート(50%)</p> <p>[教科書(ISBN)] プリントを配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に紹介する。</p> | | | |

| | | | |
|----------------|-------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

- ①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)力を身につける
- ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)力を身につける
- ③書く(考えを筋道立てて説明する)力を身につける
- ④問いを発し、自らの主題をみつける

[授業概要]

史学演習Ⅲは、関心のあるテーマがこれまでどのように研究されてきたかを辿り、何が論点なのか、何が解決されていないのか、など問題の所在の発見と言語化をめざす。次のように授業を進めていく。

- ①まずは、関心のあるテーマを扱った論文で、1990～2005年の15年間に発表されたものを2篇選んでほしい。その2篇の主張するところの共通点と相違点、そしてその相違は何に起因するのかを丹念に読み込みつつ比較し、レジュメにまとめて発表する。
- ②2回目の発表では、関心のあるテーマが初めて学術誌で扱われた頃の論文(1930年代を上限とする)2篇(以上)をとりあげる。丹念に読み込み、どのような観点からその研究が始まり、本格化していったかをレジュメにまとめて発表する。
- ③3回目の発表では、関心のあるテーマを扱っている2005年以降に著された最新論文2篇を紹介する。①や②でとりあげた論文と比較しつつ、現在は何が論点になっているのか、何がまだ明らかになっていないかを読み込み、研究の到達点と課題を発表する。
- ④4回目の発表までに、①～③でとりあげた論文の中で引用されている文献を網羅的に集め、自身の関心あるテーマの研究史をまとめる。

例えば同じ時代が扱われたり、あるいは同種の素材・機能の資料(縄文土器と弥生土器、銅剣と鉄刀など)が扱われる場合など、他の受講生のテーマは少なからず自身のテーマと関連してくるだろう。発表回はもちろん、発表を聞く立場の回であっても積極的に参加し、様々な気付きを得てほしい。

各回の発表では論文2篇ずつを報告するが、最終の4回目はそのテーマの研究のあゆみを報告してもらおう。したがって関係する論文をどんどん集めては読み込み、また読み込んで集めてを繰り返してほしい。その蓄積が次年度に書く卒業論文の「研究史」「現状と課題」の基盤となる。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

発表者はレジュメを作成すること。発表者以外の受講者も、発表テーマに関する基礎知識を博物館・史料館の見学あるいは関連書籍等で得て、授業に臨むこと。

[授業計画]

1. ガイダンス
2. 関心ある分野の論文2篇に関する発表(共通点と相違点)
3. 関心ある分野の論文2篇に関する発表(共通点と相違点)
4. 関心ある分野の論文2篇に関する発表(共通点と相違点)
5. 当該研究開始期の論文に関する発表(研究の進展について)
6. 当該研究開始期の論文に関する発表(研究の進展について)
7. 当該研究開始期の論文に関する発表(研究の進展について)
8. 最新の研究2篇に関する発表(研究の到達点)
9. 最新の研究2篇に関する発表(研究の到達点)
10. 最新の研究2篇に関する発表(研究の到達点)
11. 当該研究の研究経過と現状・課題に関する発表
12. 当該研究の研究経過と現状・課題に関する発表
13. 当該研究の研究経過と現状・課題に関する発表

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| <p>[成績評価方法] 3分の2以上の出席を前提として、口頭発表の内容(50%)、討論への積極性(50%)を評価する。いわゆる「ドタキャン」は、大幅に減点する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 討論への積極性</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 討論への積極性</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

S53125 [LHH3-038]

| | | | |
|---|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本近現代史研究の実際 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 日本近現代史に関する専門論文を講読し、それにもとづく研究発表を通して、自分の問題関心を固めて、次年度における卒論作成に向けた準備をすることが目標である。</p> <p>[授業概要] 前期の演習Ⅱに引続いて、各自の研究発表とそれに対する質疑応答を通して、日本近現代史に対する認識を深め、卒論作成に向けた準備をする。Ⅲでは、各自が関心をもつテーマに関する学術論文を講読し、それをもとにした発表と質疑応答を重ねて、専門性を高めていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日本近現代史への深い興味を持って、広く研究整理をしようとする姿勢が望まれる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各自が関心をもつテーマの確定 2. 学術論文の検索方法と収集について(講義) 3. 学術論文の読み方について(講義) 4. 各自の研究発表1 5. 各自の研究発表2 6. 各自の研究発表3 7. 各自の研究発表4 8. 中間的なまとめの討論 9. 各自の研究発表(2順目)1 10. 各自の研究発表(2順目)2 11. 各自の研究発表(2順目)3 12. 各自の研究発表(2順目)4 13. 総括の討論 | | | |

| | | | |
|---|-------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本近現代史研究の実際 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講状況(50%)、発表内容(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中あるいは終了時を利用して適宜フィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:受講状況</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒業論文に向けてテーマの絞り込みをおこなうとともに、実際の論文の作成方法を学ぶ。</p> <p>[授業概要] 受講生が、関心を持っているテーマに沿った論著を選定し、その論著の紹介・検討報告をおこないながら、卒論テーマをより具体的なものに近づけていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 紹介・検討する論著について、事前に十分に目を通したうえで授業に参加する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 論文の紹介と検討(1) 3. 論文の紹介と検討(2) 4. 論文の紹介と検討(3) 5. 論文の紹介と検討(4) 6. 論文の紹介と検討(5) 7. 論文の紹介と検討(6) 8. 論文の紹介と検討(7) 9. 卒論のテーマ設定に向けての報告(1) 10. 卒論のテーマ設定に向けての報告(2) 11. 卒論のテーマ設定に向けての報告(3) 12. 卒論のテーマ設定に向けての報告(4) 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| <p>[成績評価方法] 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メール・manabaなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

S53128 [LHH3-038]

| | | | | |
|--|-------|--|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 西洋史についての各自の関心を掘り下げ、専門性の高い卒業論文作成の準備を進めることができるようになる。</p> <p>[授業概要] この演習は、卒業論文の作成にむけて、各自の選択したテーマにもとづく口頭発表を中心に指導を行う。領域・時代・テーマについて卒業論文の概要を決定し、卒業論文構成表(A4所定様式2枚)と参考文献リスト(様式自由、50件以上)を作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教員の指示にしたがって、受講生はそれぞれのテーマに則した予備学習を行って発表に臨むこと。発表後は、教員の指導とゼミメンバーによる質疑応答をふまえて、manaba上に課題を再提出することで復習とする。(各回予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに スケジュールの確認 2. 各自のテーマ報告(1)目標・方針の設定 3. 口頭報告(1)構成を再検討する 4. 口頭報告(2)研究動向の把握 5. 口頭報告(3)「問い」を立てる 6. 口頭報告(4)叙述の技法 7. 博物館・美術館での学外授業もしくは学内での史資料調査 8. 口頭報告(5)「題目」を再検討する 9. 口頭報告(6)欧文史料 10. 口頭報告(7)「論文」を読む 11. 口頭報告(8)構成表の充実 12. 各自のテーマ報告(2)振り返りと展望 13. おわりに 振り返り、方針の修正と課題 | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文の作成に向けて | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 受講生各自が選択した卒業論文のテーマについて、先行研究の整理と史料の所在確認を行い、夏期休暇中の史料収集および収集史料分析につなげる。</p> <p>[授業概要] この授業は、受講生の発表形式により、卒業論文の作成指導を行うものである。授業は、【第一段階】受講生各自が卒業論文のテーマを選ぶ、【第二段階】受講生各自が選んだテーマに関わる先行研究をまとめるとともに、その問題点を明らかにし、報告する(一回目報告)、【第三段階】受講生各自が、それぞれのテーマに関わる史料の所在と内容を把握するとともに、卒業論文の構想についてまとめ、報告する(二回目報告)、の順に行う。報告者数は、毎回3名とする。なお、学外史跡見学も行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 報告予定者は、事前に報告レジュメを作成する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 2. 受講生全員が、それぞれどのようなテーマで卒業論文を作成したいのかについて報告する。 3. 卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)1 4. 卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)2 5. 卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)3 6. 卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)4 7. 学外史跡見学① 8. 学外史跡見学② 9. 卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)1 10. 卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)2 11. 卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)3 12. 卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)4 13. 教員が、夏休み中の研究の進め方について説明する。 | | | |

| | | | |
|--------|-------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文の作成に向けて | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |

[成績評価方法]

報告内容50%、授業への取り組み(討論への参加など)20%、レポート30%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

なし

| | | | |
|---|-------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 卒論テーマを深める | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 図書館蔵書を使い、学びを深める知力を身につける | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒業論文テーマを確定し、準備レポートを作成する。</p> <p>[授業概要] 卒業論文作成に必要な基本的スキルのうち、特に論文の要点の把握と疑問を導き出す能力、さらに当該テーマに必要な史料を読み解く技能を身につけるよう指導する。また論文の引用史料を手がかりに、関係史料の収集を進める。この作業で得た成果は、準備レポート(A)にまとめる。なお、夏期休暇中に、準備レポート(A)に対する講評を参考に、論文・史料を検討し、卒論準備合宿(9月初旬予定)で、その内容を報告する。この報告をもとに、卒論の原型となる準備レポート(B)を作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 準備レポート(A)の作成に向けて、授業計画の各テーマに対応した準備を進める。必要な研究文献と史料の所在の再確認につとめる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 3回生後期レポートをもとにした課題設定 関連論文と史料の検索(1) -図書館とweb情報の利用- 関連論文と史料の検索(2) -図書館とweb情報の利用- 第1回準備報告 テーマの確定を中心に(1) 第1回準備報告 テーマの確定を中心に(2) 第1回準備報告 テーマの確定を中心に(3) 第1回準備報告 テーマの確定を中心に(4) 第2回準備報告 研究史の整理と全体構成を考えるために(1) 第2回準備報告 研究史の整理と全体構成を考えるために(2) 第2回準備報告 研究史の整理と全体構成を考えるために(3) 第2回準備報告 研究史の整理と全体構成を考えるために(4) 準備レポート(A)の作成(1) 準備レポート(A)の作成(2) | | | |

| | | | |
|--|-----------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 卒論テーマを深める | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaレポートのコメント機能を使用。提出レポートの問題点を指摘し、卒論準備合宿までに取り組むべき課題を提示する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。著者名:なし。出版社:なし。(なし。)</p> | | | |

| | | | |
|--|----------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | テーマから議論へ | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 自分の考えをまとめる力を養うとともに、受講生相互の間で批評する力を身につけることが、この演習の到達目標である。</p> <p>[授業概要] 論文における議論の組み立て方に重点を置いて演習を進める。モデル論文の検討をおこなった後に、各自の選んだテーマに沿って発表してもらう。自分の考えをまとめる力を養うとともに、受講生相互の間で批評する力を身につけることを目指して演習を進める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業中に指示した関連文献を読んでおくこと。 (各回、予習・復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文とは何か 2. モデル論文の検討(1) 3. モデル論文の検討(2) 4. 民俗学のテーマと方法(1) 5. 民俗学のテーマと方法(2) 6. 個人発表(1) 7. 個人発表(2) 8. 個人発表(3) 9. 個人発表(4) 10. 個人発表(5) 11. 議論の組み立て方 12. 個別課題の検討 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|----------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | テーマから議論へ | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| <p>[成績評価方法] 学習態度(50%)、発表内容(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:発表内容</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> | | | |

S53162 [LHH3-039]

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文指導(1) | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒業論文を執筆する基本姿勢と方法についての理解を深める。</p> <p>[授業概要] 卒業論文作成の準備段階で、各人が選んだテーマについて学んだ成果を発表し、全員で質疑討論をする。演習の進行と並行して各自が研究の成果をレポートにすることを求め、それに加えて夏期休業中には卒業論文の雛形となる大型のレポート作成を求める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。文献・史料の網羅的収集をしつつ、各自のテーマを深化させるため関連論文と史料を積極的に読み進める。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の作法(1)本文篇 2. 論文の作法(2)史料篇 3. 論文の作法(3)文献篇 4. 論文の構想発表(1) 5. 論文の構想発表(2) 6. 論文の構想発表(3) 7. 論文の構想発表(4) 8. 論文の構想発表(5) 9. 論文の構想発表(6) 10. 論文の構想発表(7) 11. 論文の構想発表(8) 12. 研究結果の総括(1) 13. 研究結果の総括(2) | | | |

| | | | |
|--|-----------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文指導(1) | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを使用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-1／講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-2／幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-3／課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-4／読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学2-5／演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-1／演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-2／多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容:史学3-3／演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|--|-------|----------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標]</p> <p>①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)力を使いこなす ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)力を使いこなす ③書く(考えを筋道立てて説明する)力を使いこなす ④卒業論文のテーマを確定し、骨格を組む</p> <p>[授業概要]</p> <p>史学科における4年間の研鑽の集大成として提出するものが、卒業論文である。卒業「レポート」ではなく、卒業「論文」である以上、学術論文の体裁をそなえていなければならないことは言うまでもない。この史学演習Ⅳと、次の史学演習Ⅴを通じて「学術論文とは何か」を体得し、自らの手で作り上げる。両演習での練磨をベースに、渾身の一作を提出してほしい。</p> <p>卒業論文は、テーマと問題を自らみつけ、解決の方法を自ら選択し、答えを自らの手で導き出すというプロセスを通して完成に到る。史学演習Ⅳの期間は、適切なテーマを選ぶ、どの資料を使えば解明できるかを設計する、対象資料は現在どのくらい発見されているかを把握する、その研究テーマはこれまでどのように扱われてきたかを咀嚼する、までの到達をめざし、それらをふまえて資料の分析にとりかかる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>卒業論文は、授業時間だけで書き上げるものではない。ペース配分を計算しつつ、限られた時間を上手に使って、着実に進めてほしい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 考古学論文の書き方(齋藤) 2. 卒業論文のタイトルと構想の発表(全員) 3. 先行研究および研究現状の発表(1) 4. 先行研究および研究現状の発表(2) 5. 先行研究および研究現状の発表(3) 6. 先行研究および研究現状の発表の予備回 7. 対象資料と方法に関する発表(1) 8. 対象資料と方法に関する発表(2) 9. 対象資料と方法に関する発表(3) 10. 着手した分析に関する発表(1) 11. 着手した分析に関する発表(2) 12. 着手した分析に関する発表(3) 13. 総括・夏休みに何をするか | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| <p>[成績評価方法] 口頭発表の内容(50%)、レポートの内容(50%)で評価する。いわゆる「ドタキャン」は、大幅に減点する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:口頭発表、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:口頭発表、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:口頭発表、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:口頭発表、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:口頭発表、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:口頭発表、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:口頭発表、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:口頭発表、レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:口頭発表、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:口頭発表、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:口頭発表、レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本近現代史研究の実際 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒論に必要な史料の所在を確認し、夏季休暇中の収集に向けた準備を完成させることが目標である。あわせて各自のテーマに関する研究整理を進めることも今学期の課題である。</p> <p>[授業概要] 卒論作成に向けた演習を行う。この演習Ⅳでは、まずは卒論のテーマを固め、それに関する文献の所在を確認し、収集を始めることが大切である。できれば収集した史料の読解も取り入れたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 史学演習Ⅰ～Ⅲを修得して、日本近現代史における史料の読解や研究状況の整理ができることが前提となる。</p> <p>[授業計画] 1. 各自の問題関心の披露 2. 卒論についての心構え(講義) 3. 論文作成のノウハウについて(講義) 4. 各自が関心を持つテーマに関する発表1 5. 各自が関心を持つテーマに関する発表2 6. 各自が関心を持つテーマに関する発表3 7. 各自が関心を持つテーマに関する発表4 8. 中間的なまとめ 9. 卒論作成に向けたさらなる研究整理1 10. 卒論作成に向けたさらなる研究整理2 11. 卒論作成に向けたさらなる研究整理3 12. 卒論作成に向けたさらなる研究整理4 13. まとめ(夏休み中の目標の確認)</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本近現代史研究の実際 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講状況(50%)、発表内容(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中あるいは終了時を利用して適宜フィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:受講状況</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:受講状況</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> | | | |

S53167 [LHH3-039]

| | | | | |
|---|-------|----------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標] 受講生各自の問題意識にもとづき、先行研究を整理しつつ、卒業論文の具体的なテーマを確定する。</p> <p>[授業概要] 受講生各自が、自身の卒論テーマに選ぼうとしている研究課題について先行研究を調べ、その整理を通して、卒論の具体的な素材を準備していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分の卒論の方向性について、つねに検討・確認をおこなっておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 各自が関心を持っているテーマの報告(1) 3. 各自が関心を持っているテーマの報告(2) 4. 各自が関心を持っているテーマの報告(3) 5. 各自が関心を持っているテーマの報告(4) 6. 先行研究の紹介と問題点の報告(1) 7. 先行研究の紹介と問題点の報告(2) 8. 先行研究の紹介と問題点の報告(3) 9. 先行研究の紹介と問題点の報告(4) 10. 先行研究の紹介と問題点の報告(5) 11. 選択したテーマに関する史料までを含めた準備報告(1) 12. 選択したテーマに関する史料までを含めた準備報告(2) 13. 夏期休暇中の課題の確認 | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| <p>[成績評価方法] 報告・質疑の内容・態度(70点)、卒論準備レポート(30点)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メール・manabaなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑内容および卒論準備レポートなどを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑内容および卒論準備レポートなどを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑内容および卒論準備レポートなどを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑内容および卒論準備レポートなどを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑内容および卒論準備レポートなどを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑内容および卒論準備レポートなどを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑内容および卒論準備レポートなどを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 報告・質疑内容および卒論準備レポートなどを総合的に評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 報告・質疑内容および卒論準備レポートなどを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 報告・質疑内容および卒論準備レポートなどを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 報告・質疑内容および卒論準備レポートなどを総合的に評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 各自の選択した卒業論文のテーマにもとづいた、専門性の高い口頭報告と質疑応答を行うことができるようになる。また卒業論文の仮題目を定め、構成の概要を決定することができるようになる。</p> <p>[授業概要] 卒業論文の作成にむけて、各自の選択したテーマにもとづく口頭発表を中心に演習を行う。卒業論文の制作にそなえた密度の高い発表をするとともに、他の受講生の発表の際にも積極的な質疑応答を行うこと。授業終盤では卒業論文の第1稿の提出に向けた指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教員の指示にしたがって、受講生はそれぞれのテーマに則した予備学習を行って発表に臨むこと。発表後は、教員の指導とゼミメンバーによる質疑応答をふまえて、manaba上に課題を再提出することで復習とする。(各回予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに スケジュールの確認 各自のテーマ報告 2. 口頭発表(1)テーマの確定 3. 口頭発表(2)先行研究 4. 口頭発表(3)史資料 5. 口頭報告(4)構成の再検討 6. 博物館・美術館での学外授業もしくは学内での史資料研究 7. 口頭発表(5)研究史を書く 8. 口頭発表(6)「問い」を立てる 9. 口頭発表(7)学術論文のルール 10. 口頭報告(8)オリジナリティを主張する 11. 卒業論文執筆講座・演習(1)「はじめに」で書くべきこと 12. 卒業論文執筆講座・演習(2)卒論の構成 13. おわりに 休暇中の課題について | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 史学演習Ⅳ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習 V | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒業論文の作成を通して、歴史研究の方法を身につけるとともに、歴史学という学問とは何かを理解する。</p> <p>[授業概要] この授業は、受講生の発表形式により、卒業論文の作成指導を行うものである。授業は、【第一段階】受講生各自が、夏休み中の史料収集をふまえ、卒論の章節構成を報告する(一回目報告)、【第二段階】受講生各自が、一回目報告を修正する形で、卒論の章節構成を報告する(二回目報告)、【第三段階】受講生各自が、二回目報告を修正する形で、卒論の章節構成を報告する(三回目報告)の順で進める。受講生は、11月頃より卒論の下書きの執筆に取りかかり、1月に完成させて提出する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 報告担当者は、レジュメを作成し、当日の報告に備える。報告担当者以外の受講生も、いつでも自身の研究の進捗状況を説明できるようにしておくこと。</p> <p>[授業計画] 1.授業の進め方 2.卒論構想についての報告(一回目報告)1 3.卒論構想についての報告(一回目報告)2 4.卒論構想についての報告(一回目報告)3 5.卒論構想についての報告(一回目報告)4 6.卒論構想についての報告(二回目報告)1 7.卒論構想についての報告(二回目報告)2 8.卒論構想についての報告(二回目報告)3 9.卒論構想についての報告(二回目報告)4 10.卒論構想についての報告(三回目報告)1 11.卒論構想についての報告(三回目報告)2 12.卒論構想についての報告(三回目報告)3 13.卒論構想についての報告(三回目報告)4</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 V | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| <p>[成績評価方法] 各自の報告内容100%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> | | | |

S53180 [LHH3-040]

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習 V | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文を仕上げる | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 問題関心に対応した構成と論理展開を持つ卒論を完成させる。</p> <p>[授業概要] 準備レポート(B)をもとに、その論理構成を確認し、かつその根拠となる史料の解説を含めた報告を行う。その際、各自の問題関心にふさわしい章立てと論理展開が行われているかを自らチェックし、学術論文としての形式にも留意できるように指導し、仕上げをめざす。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 準備レポート(B)についての課題をふまえ、授業計画の諸段階に対応した内容の充実をはかる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 準備レポート(B)に基づく課題設定 2. 第3回準備報告 関連論文と重点史料の検討および問題点の解明(1) 3. 第3回準備報告 関連論文と重点史料の検討および問題点の解明(2) 4. 第3回準備報告 関連論文と重点史料の検討および問題点の解明(3) 5. 第3回準備報告 関連論文と重点史料の検討および問題点の解明(4) 6. 第4回準備報告 目次案の検討(1) 7. 第4回準備報告 目次案の検討(2) 8. 第4回準備報告 目次案の検討(3) 9. 第4回準備報告 目次案の検討(4) 10. 論理展開の充実に向けて(1) 11. 論理展開の充実に向けて(2) 12. 引用データの再点検 13. 課題の設定 | | | |

| | | | |
|---|-----------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 V | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文を仕上げる | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 卒業論文を仕上げるため、下書きを提出させ、そのコメントに対応させるとともに、自ら論旨を確認するなどの見直し作業が進められるように指導する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。著者名:なし。出版社:なし。(なし。)</p> | | | |

| | | | |
|--|---------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習 V | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 論文作成の実践 | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒論の作成をとおして課題解決の作業の道筋を体得することを、この演習の到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 夏休み中の学習成果をもとに論文のアウトラインを作成することから始め、各自の論文の構想を順番に発表してもらう。その後、各自の執筆段階に応じて、個別の指導をおこなう。テーマに即した資料を集めて分析し、筋道を立てた論証をおこなうことが、そのポイントである。卒論の作成をとおして課題解決の作業の道筋を体得することを目指して、演習を進める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業中に指示した関連文献を読んでおくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文のアウトラインの作成(1) 2. 論文のアウトラインの作成(2) 3. 個人発表(1) 4. 個人発表(2) 5. 個人発表(3) 6. 個人発表(4) 7. 個人発表(5) 8. 論文執筆指導(1) 9. 論文執筆指導(2) 10. 論文執筆指導(3) 11. 論文執筆指導(4) 12. 論文執筆指導(5) 13. 論文執筆を振り返って | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 V | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 論文作成の実践 | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| <p>[成績評価方法] 学習態度(50%)、発表内容(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:学習態度</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> | | | |

S53182 [LHH3-040]

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習 V | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文指導(2) | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒業論文の執筆を通して、表現力を磨くとともに歴史研究の意義を理解する。</p> <p>[授業概要] それぞれの研究発表を継続しながら、卒業論文の執筆を進める。原稿については適宜個別に指導をおこなう。論文の書き方、註のつけ方など細部にわたる指導も同時におこなう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。卒業論文構想をもとに、研究書や論文の読解を進め、史料批判を深化させる。原稿を何度も読み返し論理的な文章を完成させることにつとめる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の執筆作法 2. 史料報告と読解(1) 3. 史料報告と読解(2) 4. 史料報告と読解(3) 5. 史料報告と読解(4) 6. 史料報告と読解(5) 7. 研究報告と討論(1) 8. 研究報告と討論(2) 9. 研究報告と討論(3) 10. 研究報告と討論(4) 11. 研究報告と討論(5) 12. 執筆原稿の推敲(1) 13. 執筆原稿の推敲(2) | | | |

| | | | |
|--|-----------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 V | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文指導(2) | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを使用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|---|--------|----------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 V | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標]</p> <p>①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)力を使いこなす ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)力を使いこなす ③書く(考えを筋道立てて説明する)力を使いこなす ④内容を磨きあげ、卒業論文を完成させる</p> <p>[授業概要]</p> <p>史学科における4年間の研鑽の集大成として提出するものが、卒業論文である。卒業「レポート」ではなく、卒業「論文」である以上、学術論文の体裁をそなえていなければならないことは言うまでもない。前期の史学演習IVと、この史学演習Vを通じて「学術論文とは何か」を体得し、自らの手で作り上げる。両演習での練磨をベースに、渾身の一作を提出してほしい。</p> <p>卒業論文は、テーマと問題を自らみつけ、解決の方法を自ら選択し、答えを自らの手で導き出すというプロセスを通して完成に到る。史学演習Vの期間は、資料の何に注目し、何がわかったのか、その結果はどのような歴史の一面を物語っているのかを発表してもらう。フィードバックを得て一層の磨きをかけ、結論への到達をめざす。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>卒業論文は、授業時間だけで書き上げるものではない。ペース配分を計算しつつ、限られた時間を上手に使う、着実に進めてほしい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分析の方法と結果に関する発表(1) 2. 分析の方法と結果に関する発表(1) 3. 分析の方法と結果に関する発表(1) 4. 分析の方法と結果に関する発表(2) 5. 分析の方法と結果に関する発表(2) 6. 分析の方法と結果に関する発表(2) 7. 分析の方法と結果に関する発表(予備回) 8. 考察に関する発表(1) 9. 考察に関する発表(1) 10. 考察に関する発表(1の予備回) 11. 考察に関する発表(2) 12. 考察に関する発表(2) 13. 結論と展望 | | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 V | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| <p>[成績評価方法] 口頭発表の内容(50%)、卒業論文に対する取り組み姿勢(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:卒業論文に対する取り組み姿勢</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:口頭発表の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:卒業論文に対する取り組み姿勢</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:口頭発表の内容、卒業論文に対する取り組み姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:口頭発表の内容、卒業論文に対する取り組み姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:口頭発表の内容、卒業論文に対する取り組み姿勢</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> | | | |

S53185 [LHH3-040]

| | | | |
|--|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習 V | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文作成の実際 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒論を作成することが最大の目標である。その際には、史料をもとに論証できているか、的確な研究整理と批判ができているか、の2点が肝要となる。</p> <p>[授業概要] 前期に引き続いて、卒論作成に向けた演習を行う。Vは後期開講科目なので、到達目標は、オリジナリティと手堅い論証に裏づけられた卒業論文を完成させることである。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日本近現代史の広い視野と正確な史料読解能力を養成しておくことが準備学修として大切である。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休み中の成果の確認 2. 卒論に向けた方向性の確認 3. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第一次発表) 4. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第一次発表) 5. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第一次発表) 6. 中間的な質疑応答 7. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第二次発表) 8. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第二次発表) 9. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第二次発表) 10. 卒論の執筆と推敲 i 11. 卒論の執筆と推敲 ii 12. 卒論の執筆と推敲 iii 13. 卒論の執筆と提出 | | | |

| | | | |
|---|-----------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 V | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文作成の実際 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講状況 (50%)、発表内容 (50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中あるいは終了時を利用して適宜フィードバック。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 受講状況</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 受講状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 受講状況</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> | | | |

S53187 [LHH3-040]

| | | | | |
|---|--------|----------------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 V | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標] 前期の授業の成果をさらに発展させ、卒業論文を完成させる。</p> <p>[授業概要] 受講者各自の論文の構想と進捗状況を輪番で報告し、受講者全員で問題点などを検討する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分の卒論の方向性について、指導教員と相談しながら、つねに検討・確認をおこなっておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 卒論の構想・進捗状況の発表(1) 3. 卒論の構想・進捗状況の発表(2) 4. 卒論の構想・進捗状況の発表(3) 5. 卒論の構想・進捗状況の発表(4) 6. 卒論の構想・進捗状況の発表(5) 7. 卒論の構想・進捗状況の発表(6) 8. 卒論の構想・進捗状況の発表(7) 9. 論文執筆の指導(1) 10. 論文執筆の指導(2) 11. 論文執筆の指導(3) 12. 論文執筆の指導(4) 13. まとめ | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 V | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| <p>[成績評価方法] 報告・質疑の内容および受講態度を総合的に評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メール・manabaなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑の内容および受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 史学演習 V | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 各自のテーマを掘り下げ、専門性の高い卒業論文を完成させることができる。</p> <p>[授業概要] 各自が選択したテーマについて卒業論文の制作を進める。授業時間外の課題としても取り組んだ原稿を事前に提出したうえで、授業時には個別の原稿への具体的な指導を行う。卒業論文の提出後は、口頭試問にむけての指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教員の指示にしたがって、各回の課題として卒業論文の制作を予習として進め、授業における指導に先立って必ず事前提出する。授業後は復習として指導の内容を反映させておくこと。(各回、予習・復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. はじめに スケジュールの確認 2. 卒論の構成(1)最終版構成表の作成 3. 卒論の構成(2)全体構成の確認 4. 個別指導(1)研究史 5. 個別指導(2)問題提起 6. 個別指導(3)章立て 7. 個別指導(4)史資料 8. 個別指導(5)論文の文法 9. 個別指導(6)西洋史の日本語論文 10. 個別指導(7)註表記 11. 個別指導(8)体裁と仕上げ 12. 卒論提出に際しての諸注意 13. 提出後指導 口頭試問にむけて</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 史学演習 V | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業態度(50%)、課題(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業態度(50%)、課題(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:授業態度(50%)、課題(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:授業態度(50%)、課題(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:授業態度(50%)、課題(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業態度(50%)、課題(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:授業態度(50%)、課題(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:授業態度(50%)、課題(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:授業態度(50%)、課題(50%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業態度(50%)、課題(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業態度(50%)、課題(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業態度(50%)、課題(50%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> | | | |

S53189 [LHH3-040]

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 自然地理学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 村田 恵子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 地球の表面の地形・海洋・気候の概要とその成因を理解する。</p> <p>[授業概要] 地球表層の地形・海洋・気候の概要とその成因をとらえる。様々な営力によって形成される地形とその特徴を理解し、大気の大循環や海流を通して気候を総合的にとらえる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回配布される次回のプリントを読み、おおまかな内容を予習し、疑問点を明確にしておく。授業後は、テキストとノートで十分復習をすること。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地球の形状、緯度と経度、標準時 2.地球儀と地図 3.地球の大地形と地形をつくる力 4.変動帯の地形 5.安定大陸の地形 6.海岸と海にみられる地形 7.気候の影響が強い地形とカルスト地形 8.自然災害(地震と津波、火山) 9.地形図の読み取り 10.世界の気候(気候と大気の大循環) 11.世界の気候(熱帯・乾燥帯・温帯) 12.世界の気候(冷帯・寒帯) 13.まとめ | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 自然地理学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 村田 恵子 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(10%)・試験(90%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題については、授業で解説する。 試験については、答案を回収後、希望者には解答の解説をする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>[教科書(ISBN)] なし プリント配布</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 自然地理学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 村田 恵子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 地球の表面の地形・海洋・気候の概要とその成因を理解する。</p> <p>[授業概要] 地球表層の地形・海洋・気候の概要とその成因をとらえる。様々な営力によって形成される地形とその特徴を理解し、大気の大循環や海流を通して気候を総合的にとらえる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回配布される次回のプリントを読み、おおまかな内容を予習し、疑問点を明確にしておく。授業後は、テキストとノートで十分復習をすること。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地球の形状、緯度と経度、標準時 2.地球儀と地図 3.地球の大地形と地形をつくる力 4.変動帯の地形 5.安定大陸の地形 6.海岸と海にみられる地形 7.気候の影響が強い地形とカルスト地形 8.自然災害(地震と津波、火山) 9.地形図の読み取り 10.世界の気候(気候と大気の大循環) 11.世界の気候(熱帯・乾燥帯・温帯) 12.世界の気候(冷帯・寒帯) 13.まとめ | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 自然地理学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 村田 恵子 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(10%)・試験(90%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題については、授業で解説する。 試験については、答案を回収後、希望者には解答の解説をする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>[教科書(ISBN)] なし プリント配布</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|----------|----------------|------|
| 科目名 | 社会科指導法 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 中阪 守 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 中学校学習指導要領についての理解を深め、情報通信機器等の活用を含めた生徒の思考・判断・表現の育成につながる社会科教材の編成につながる中学校社会科授業を考える。</p> <p>[授業概要] この講座では、現在の中学校教育の課題や新たな学習観にも触れながら、中学校学習指導要領についての理解を深め、生徒の発達段階を踏まえた中学校社会科教育の在り方を考える。特に、広い視野に立って社会への関心を深めるための指導法や、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察するための指導法等、実践力につながる講座運営を行いたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・主として『学習指導要領解説 社会編』を読む。 ・教育実習に行く自治体の採択教科書の出版社や内容の情報を得る。 ・自治体の教育委員会の「教育振興基本計画」その他の発行物を調べる。 ※高校へ実習に行く学生は、科目が変わり、新しい教科書が採択されている。母校から情報を得ておく。</p> <p>[授業計画] 1. 中学校教育の課題と中学校社会科の展開 2. 学校教育法規と学習指導要領 3. 学習指導要領研究 I (教科の目標と内容) 4. 学習指導要領研究 II (地理的分野の目標) 5. 学習指導要領研究 III (歴史的分野の目標) 6. 学習指導要領研究 IV (公民的分野の目標) 7. 情報機器、ICTの活用及び教材編成の実際 8. 課題学習の指導「ICTの活用、資料等の活用法」 9. 年間指導計画、学習指導案の作成 10. 授業研究[模擬授業] 11. フィールドワーク 12. まとめ 13. 理解度確認・解説 ※ 受講生の要望と受講者数を勘案して、講義内容を変更することがある。</p> | | | |

| | | | |
|--|----------|----|------|
| 科目名 | 社会科指導法 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 中阪 守 | | |
| <p>[成績評価方法] ・授業内作業、活動(30%)・提出課題の評価(30%)・授業内試験の評価(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 中学校学習指導要領(平成29年告示) ※他の講義で購入していればそれによし(共有) 著者名:文部科学省 出版社:東山書房(978-4827814613) 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編」 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社(978-4536590051) 新版「学校を改革する」 著者名:佐藤 学 出版社:岩波ブックレットNo. 1078</p> <p>[参考書(ISBN)] 「ヒトは『いじめ』をやめられない」 著者名:中野 信子 出版社:小学館新書 中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 (他の講義で購入していればそれによし)共有 著者名:文部科学省 出版社:教育出版</p> | | | |

| | | | |
|--|---------------|----------------|------|
| 科目名 | 宗教思想史 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本中世の身分制社会と差別 | 講義 | |
| 担当者 | 島津 毅 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 分断と対立が深まる現代社会にあって、その根底にある差別とは何か、なぜ人は差別をするのか。こうした問題意識を持ちながら、中世身分制社会が成立していった経緯とその差別構造を理解する。</p> <p>[授業概要] 差別の本質が排除の論理であることをまず確認したうえで、差別はそれぞれの時代に固有な身分制度や社会構造と不可分な関係にあることを理解する。 よって中世社会における差別を理解するためには、当時の社会構造や身分制度を理解しなければならない。そこで、中世身分制社会の構造を概観し、差別される側の被差別身分がどのようにして成立するのかを考察する。 そして、こうした被差別身分なканずく非人身分と称される者の存在が、仏教思想の影響のもとに理解されていたことを明らかにしていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回配布される次回レジメ資料を読み、大まかな内容を理解しておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.差別の社会学 2.中世の身分制社会 3.身分制社会と差別 4.中世の非人身分と仏教 5.非人と清目 6.乞者集団の形成 7.坂非人の誕生 8.河原者の系譜 9.河原者の誕生 10.中世非人身分の誕生 11.非人身分の穢観念と仏教思想 12.非人身分の成立と差別 13.現代的な課題・総まとめ | | | |

| | | | |
|--------|---------------|----|------|
| 科目名 | 宗教思想史 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本中世の身分制社会と差別 | 講義 | |
| 担当者 | 島津 毅 | | |

[成績評価方法]

受講態度(毎回の小テストを含む)45%・期末試験55%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法:小テストと期末試験

学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法:講義中の質疑応答と期末試験

学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法:小テストと期末試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:レポートと期末試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:期末試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:期末試験

[教科書(ISBN)]

なし。

[参考書(ISBN)]

「中世の身分制と差別」(『論点・日本史学』) 著者名:島津毅 出版社:ミネルヴァ書房(9784623093496)

「日本中世における非人身分の成立と穢観念」(『史林』第106巻 第2号) 著者名:島津毅 出版社:史学研究会

| | | | |
|---|-------------------|----------------|-----|
| 科目名 | 女性史Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | アジア社会における女性史 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司、村田 路人、鈴木 宏節 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 歴史学上における女性の位置付けを学び、現代に通じる視点と展望を得ることが目標である。</p> <p>[授業概要] 日本中世・近世・近現代に関する講義を3人の教員がオムニバス形式で実施する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各教員から適宜指示する。</p> <p>[授業計画] 1. イントロダクション(鈴木) [日本近世史の立場から](村田) 2. 高校教科書における女性の取り上げられ方 3. 近世社会の特質と女性—武家女性を中心に— 4. 只野真葛「むかしばなし」に見る武家の女性1 5. 只野真葛「むかしばなし」に見る武家の女性2 [民俗学の立場から](川森) 6. 妹のカー—女性と民間信仰— 7. 日本昔話における女性像 8. 敗戦体験と民法改正 9. 妊娠と中絶をめぐって [東洋前近代史の視点から](鈴木) 10. 中国前近代の女性 11. モンゴルの女性と婚姻 12. イスラーム世界の女性 13. まとめ(村田、川森、鈴木)</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------|----|-----|
| 科目名 | 女性史Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | アジア社会における女性史 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司、村田 路人、鈴木 宏節 | | |
| <p>[成績評価方法] 各担当教員が実施するレポート・試験等の成績60%＋受講態度40%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 必要があれば適宜manabaやKISSシステムで対応する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 各担当教員の指示に従うこと。</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------|----------------|-----|
| 科目名 | 女性史Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | アジア社会における女性史 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司、村田 路人、鈴木 宏節 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 歴史学上における女性の位置付けを学び、現代に通じる視点と展望を得ることが目標である。</p> <p>[授業概要] 日本中世・近世・近現代に関する講義を3人の教員がオムニバス形式で実施する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各教員から適宜指示する。</p> <p>[授業計画] 1. イントロダクション(鈴木) [日本近世史の立場から](村田) 2. 高校教科書における女性の取り上げられ方 3. 近世社会の特質と女性—武家女性を中心に— 4. 只野真葛「むかしばなし」に見る武家の女性1 5. 只野真葛「むかしばなし」に見る武家の女性2 [民俗学の立場から](川森) 6. 妹のカー—女性と民間信仰— 7. 日本昔話における女性像 8. 敗戦体験と民法改正 9. 妊娠と中絶をめぐって [東洋前近代史の視点から](鈴木) 10. 中国前近代の女性 11. モンゴルの女性と婚姻 12. イスラーム世界の女性 13. まとめ(村田、川森、鈴木)</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------|----|-----|
| 科目名 | 女性史Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | アジア社会における女性史 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司、村田 路人、鈴木 宏節 | | |
| <p>[成績評価方法] 各担当教員が実施するレポート・試験等の成績60%＋受講態度40%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 必要があれば適宜manabaやKISSシステムで対応する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 各担当教員の指示に従うこと。</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 女性史Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本考古学・日本古代史学・西洋史学からみた女性史 | 講義 | |
| 担当者 | 山内 晋次、吉村 真美、齋藤 瑞穂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 歴史学研究における女性の位置づけを学ぶことにより、女性史をめぐる多角的な視点と最新の論点を習得する。</p> <p>[授業概要] 日本考古学・日本古代史学・西洋史学における最新の研究成果にもとづき、3人の教員が4回ずつ講義を担当する。さらに最終回の講義では、3人の教員全員の参加によるディスカッションを設定し、女性史の視座から過去・現在の諸問題を考える。カリキュラム編成の都合により、夏季集中講義として実施する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各担当教員の初回授業時の指示にしたがっておこなう。</p> <p>[授業計画] 【日本考古学の立場から】(齋藤瑞穂) 1. 序論:考古学からみた男と女—考古資料の可能性と限界— 2. 女性の成立—霊長類のメスと人間の女性— 3. 女性性らしさの成立—先史分業論を手掛かりとして— 4. 女王の誕生—女性首長論— 【日本古代史学の立場から】(山内晋次) 5. 戸籍からみた日本の古代社会(1) 6. 戸籍からみた日本の古代社会(2) 7. 日本古代の社会と女帝(1) 8. 日本古代の社会と女帝(2) 【西洋史学の立場から】(吉村真美) 9. 女性史とフェミニズム 10. 家庭の天使 11. 帝国と女性たち 12. 銃後と前線 13. ディスカッション「女性史の成果を生かしていくには？」(仮) (齋藤瑞穂・山内晋次・吉村真美)</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------------------|----|------|
| 科目名 | 女性史Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本考古学・日本古代史学・西洋史学からみた女性史 | 講義 | |
| 担当者 | 山内 晋次、吉村 真美、齋藤 瑞穂 | | |
| <p>[成績評価方法] 各担当教員が提示する課題の合計90%+ディスカッションに関する課題10%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メール・manabaなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:提出課題・受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:提出課題・受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:提出課題・受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:提出課題・受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:提出課題・受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:提出課題・受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:提出課題・受講態度などを総合的に評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜レジュメなどを配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] イギリス帝国史—移民・ジェンダー・植民地へのまなざしから 著者名:フィリップ・レヴァイン 出版社:昭和堂 (ISBN-10:4812219248)</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------------|----------------|------|
| 科目名 | 資料保存論 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 人文的・自然科学的な資料の保存と取扱い | 講義 | |
| 担当者 | 秋山 浩三、菱田 淳子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>①ともに学芸員資格が必要である、博物館学芸員および文化財専門職の業務遂行にあたり必須となる、各種資料の取り扱いや保管・保存における基礎的な知識・技術を学び身につける。</p> <p>②博物館や文化財保管展示施設における、資料の劣化を予測するための科学的調査法、保存修理の考え方や原理とその手法、および保存環境に関する知識などを習得して、各種資料を健全な状態で保管するための基礎的能力を養う。</p> <p>[授業概要]</p> <p>学芸員の経験を有する教員が、博物館や文化財保管展示施設における、資料の保存に関する基礎的な情報・スキル、とりわけ近年注目され展開されている項目をめぐって具体的な概説を実施する。</p> <p>さらに、学芸員や文化財専門職に必要な、資料の保存に関する保存科学の基礎知識を習得するため、資料の劣化と診断調査から、その修理と予防のための環境について論じる。</p> <p>なお、近年では、博物館にかぎらず各種の文化財保管展示施設においても、資料保存に関する専門的で高度なノウハウを必要とする専門職領域が増加している傾向にあるため、それらにも十分かつ具体的に対応できる講義内容にしたいと考えている。</p> <p>また、本講義では博物館・文化財関連施設における現地研修もおこなう予定である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各種の博物館などへ積極的に赴き、その館・施設では資料の保存(劣化防止)や修復・復原に関しどのような取り組みがなされているか、自主的に観覧しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目の概要とガイダンス (学芸員・文化財専門職員における資料保存の役割／あなたのお気に入り博物館ではどうか？)(秋山) 2. 資料保存論の位置づけとその歴史性(意外にも見直されている日本の伝統)(秋山) 3. 発掘調査における資料保存(調査時の記録、脆弱遺物の取り上げ、断面剥ぎ取り)(菱田) 4. 出土品整理作業と資料保存 (調査記録、写真データ、土器・石器・脆弱遺物等の調査後の保管と整理作業)(菱田) 5. 木製品の診断調査・記録・保存(実測、写真撮影、保存処理作業)(菱田) 6. 金属製品の診断調査・記録・保存(実測、写真撮影、保存処理作業)(菱田) 7. 文化財関係機関における資料保存・展示時の注意(博物館との相違と問題点など)(菱田) 8. 施設見学①:兵庫県立考古博物館における保存処理施設・出土品資料の見学(菱田) 9. 施設見学②:兵庫県立考古博物館における保存処理施設・出土品資料の見学(菱田) 10. 資料保存管理の留意点と劣化対策(何がダメで、何が良いか)(秋山) 11. 資料の予防的保存とIPM(とても気持ち悪い虫との対決も)(秋山) 12. 阪神淡路・東日本大震災と博物館資料の保存(神戸で培われた思想)(秋山) 13. 課題レポート寸評／講義総括／そして、あなたが学芸員・文化財専門職員になったら！(秋山) <p>※8・9＝学外での現地研修(土曜日または日曜日の予定)：詳細に関してはできるだけ早い段階に日時・内容等々をアナウンスする予定。</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------------|----|------|
| 科目名 | 資料保存論 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 人文学的・自然科学的な資料の保存と取扱い | 講義 | |
| 担当者 | 秋山 浩三、菱田 淳子 | | |
| <p>[成績評価方法] 秋山分: 講義中の態度(25%)、討論参加の積極性(35%)、課題レポート(40%) 菱田分: 講義中の態度(25%)、討論参加の積極性(25%)、課題レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業最終日において、提出された課題レポートに関する評価コメントを実施する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 授業内の討論における積極性とその内容により評価</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 課題レポートおよび授業内討論の具体的内容における正確性により評価</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業時における受講態度、および、自己客観視の到達度により評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業時における討論参加への積極性と、その場面での発言内容の正確性により評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題レポートにおける問題設定・把握とその解決方向への模索の到達度により評価</p> <p>[教科書(ISBN)] 『新時代の博物館学』なお、必要に応じて資料を配付予定。 著者名: 全国大学博物館学講座協議会西日本支部編 出版社: 芙蓉書房出版 (ISBN978-4-8295-0551-9 C3030)</p> <p>[参考書(ISBN)] 初回講義時に具体的な書籍類を何冊か提示紹介。</p> | | | |

S54030 [LHI3-003]

| | | | |
|---|---|----------------|------|
| 科目名 | 人文地理学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 人文地理学から見た京阪神都市 | 講義 | |
| 担当者 | 山口 覚 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>毎回、授業内容に関する課題(コメント作成)を課し、理解度の確認し、疑問点などについて次回で応答する。</small> | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 京阪神の都市を対象に、歴史地理学、工業地理学、都市地理学、都市社会地理学といった人文地理学の諸分野の対象やその見方について理解する。</p> <p>[授業概要] 地理学は人文・自然の2つの分野に大別される。本講義では、身近な地域である京阪神を事例として取り上げつつ、人文地理学の諸分野について触れる。具体的には都市の歴史地理学から始め、近代工業の登場とそれによる近代都市の拡張、脱工業化にともなう現代都市の変貌など都市地理学、都市社会地理学などについて扱う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 京阪神という比較的身近な対象地に関するテキストを利用するため、可能であれば現地の状況を確認するなどして、地理学的な理解を深めてもらいたい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 歴史地理学・城下町 3. 都市地理学(近代都市1)・近代都市の成長と郊外化 4. 都市地理学(近代都市2)・郊外住宅地とニュータウン 5. 都市地理学(現代都市1)・脱工業化と東京一極集中 6. 工業地理学・松下電器からパナソニックへ 7. 都市地理学(現代都市2)・阪急不動産の空間戦略 8. 都市地理学(現代都市3)・都市景観の変容:建築様式の変遷 9. 都市地理学(現代都市4)・都心回帰とタワーマンション 10. 都市社会地理学(1)・移動する人々と都市社会 11. 都市社会地理学(2)・在日コリアンと集住地区 12. 都市社会地理学(3)・老華僑の町・新華僑の町 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|----------------|----|------|
| 科目名 | 人文地理学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 人文地理学から見た京阪神都市 | 講義 | |
| 担当者 | 山口 覚 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題(60%)、レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 質問については次回の講義の際に触れる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 図説 京阪神の地理 地図から学ぶ 著者名:山口 覚・水田憲志・金子直樹・吉田雄介・中窪啓介・矢嶋 巖 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-08494-5)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 西洋近現代史 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 西洋近現代史における諸問題と、近年の研究におけるその論点を学んで理解し、現代世界の成り立ちとの関連を含め、自身の見解を示すことができるようになる。</p> <p>[授業概要] この講義では、大航海時代以降のヨーロッパ大陸とアジアや新世界との関係や、国民国家の建設、工業化とその影響、帝国主義と諸国の動向など、西洋近現代史における重要なテーマをとりあげ、近年の研究成果に触れつつ概観する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] manabaに提示された資料にもとづき、予習と前回の復習をしておくこと。(予習・復習合わせて4時間程度)西洋近現代史にかんする基礎的な知識、講義の際に言及した人名・歴史用語などについて理解が不足している場合は、提示する参考文献などを手掛かりに各自で学習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 西洋近現代史を学ぶ意義 2. 大航海時代 3. 近代世界システム論 4. 宗教改革 5. 絶対主義 6. 「イギリス革命」 7. アメリカ独立革命 8. フランス革命 9. 工業化とその影響 10. 近代社会の定着と再編 11. 帝国主義 12. 二つの世界大戦と戦後 13. まとめ 欧州統合のゆくえ | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 西洋近現代史 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

S50070 [LHH1-007]

| | | | |
|--|----------------------|----------------|------|
| 科目名 | 西洋古代中世史 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 古代地中海世界の展開と中世西欧世界の形成 | 講義 | |
| 担当者 | 上山 益己 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>古代地中海世界の中から、どのように西ヨーロッパ世界が形成されていったのかを理解する。古代～中世の西ヨーロッパとその周辺世界(東ヨーロッパ、西アジア、北アフリカ)との関係について理解を深める。</p> <p>[授業概要]</p> <p>ヨーロッパの古代・中世史について、基礎的な知識を確認するとともに、より専門的な理解を深める。古代史では、ギリシアとローマの歴史の把握に重点を置きつつ、地中海を挟んでそれらと隣接する、西アジアや北アフリカの歴史にも目を配って、古代地中海世界全体の歴史の理解を促す。中世史では、古代地中海世界が解体していく中で、どのように西ヨーロッパのラテン・カトリック世界が形成され、さらにその中から今日のヨーロッパ諸国につながる国ぐにが立ち現れていったかを見て行きたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業時配布したプリント・史料などを再読し、復習すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> はじめに 古代地中海世界の統一と解体(1) 古代地中海世界の統一と解体(2) 古代地中海世界の統一と解体(3) 古代地中海世界の統一と解体(4) ラテン・カトリック世界の成立(1) ラテン・カトリック世界の成立(2) ラテン・カトリック世界の成立(3) ラテン・カトリック世界の成立(4) 西欧諸王国の形成(1) 西欧諸王国の形成(2) 西欧諸王国の形成(3) まとめ | | | |

| | | | |
|--|----------------------|----|------|
| 科目名 | 西洋古代中世史 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 古代地中海世界の展開と中世西欧世界の形成 | 講義 | |
| 担当者 | 上山 益己 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験90% 受講態度10%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜プリントを配布。</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜指示</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------------|----------------|------|
| 科目名 | 西洋古代中世史 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 古代地中海世界の展開と中世西欧世界の形成 | 講義 | |
| 担当者 | 上山 益己 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 古代地中海世界の中から、どのように西ヨーロッパ世界が形成されていったのかを理解する。 古代～中世の西ヨーロッパとその周辺世界(東ヨーロッパ、西アジア、北アフリカ)との関係について理解を深める。</p> <p>[授業概要] ヨーロッパの古代・中世史について、基礎的な知識を確認するとともに、より専門的な理解を深める。古代史では、ギリシアとローマの歴史の把握に重点を置きつつ、地中海を挟んでそれらと隣接する、西アジアや北アフリカの歴史にも目を配って、古代地中海世界全体の歴史の理解を促す。中世史では、古代地中海世界が解体していく中で、どのように西ヨーロッパのラテン・カトリック世界が形成され、さらにその中から今日のヨーロッパ諸国につながる国ぐにが立ち現れていったかを見て行きたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業時配布したプリント・史料などを再読し、復習すること。</p> <p>[授業計画] 1. はじめに 2. 古代地中海世界の統一と解体(1) 3. 古代地中海世界の統一と解体(2) 4. 古代地中海世界の統一と解体(3) 5. 古代地中海世界の統一と解体(4) 6. ラテン・カトリック世界の成立(1) 7. ラテン・カトリック世界の成立(2) 8. ラテン・カトリック世界の成立(3) 9. ラテン・カトリック世界の成立(4) 10. 西欧諸王国の形成(1) 11. 西欧諸王国の形成(2) 12. 西欧諸王国の形成(3) 13. まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------------|----|------|
| 科目名 | 西洋古代中世史 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 古代地中海世界の展開と中世西欧世界の形成 | 講義 | |
| 担当者 | 上山 益己 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験90% 受講態度10%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜プリントを配布。</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜指示</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 西洋史特殊講義 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 中世におけるヨーロッパとイスラーム世界の関係 | 講義 | |
| 担当者 | 上山 益己 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 中世におけるヨーロッパとイスラーム世界の歴史の基礎的な知識を確認する。そのうえで、両者の接触の歴史について理解を深める。またそうすることで、現代の世界を見る上でも多角的な視点を持ち得るようにしたい。</p> <p>[授業概要] 今日の世界では、しばしばイスラーム文化圏に属する人々と欧米の文化圏に属する人々の間で摩擦・衝突が起き、それが大きな問題となっている。歴史上、両文化圏が初めて接触した中世においても、両者はしばしば衝突した。しかし中世における両者の接触は、必ずしも衝突ばかりではなく、実り多い交流の歴史をも展開させた。本講義では、中世における両者の接触のあり方を考察する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業時配布したプリント・史料などを再読し、復習すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 三つの一神教 3. 第一回十字軍に至る経緯 4. 第一回十字軍の帰結 5. キリスト教と暴力 6. 聖地国家建設後の反応 7. イスラーム教のジハード 8. 戦争と平和 9. 聖地国家の滅亡 10. イベリア半島の展開 11. 多宗教共存社会の行方 12. 寛容と不寛容 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|------------------------|----|------|
| 科目名 | 西洋史特殊講義 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 中世におけるヨーロッパとイスラーム世界の関係 | 講義 | |
| 担当者 | 上山 益己 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験100%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜プリントを配布。</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜指示</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------|----------------|------|
| 科目名 | 西洋史特殊講義Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | ヨーロッパの社会と経済a | 講義 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>1. 17世紀以降の近代イギリスについて、本国および植民地における政治・経済・社会の理解を深めることができるようになる。</p> <p>2. 現代イギリスにおける社会問題として注目を集めている子ども移民(child migration)について、制度およびイギリス近代史の文脈におけるその役割や機能、意義について理解し、歴史的視座から自らの視点で考察することができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>貧困層の年少者が家族や血縁者に伴われることなく海外植民地に渡る子ども移民(child migration)は、17世紀初頭における北米植民の開始とほぼ時期を同じくしてはじまった、イギリス帝国に利益をもたらすチャリティであり、同時に伝統的かつ典型的な棄民政策のひとつでもあった。講義では、この制度の実態と変遷をイギリス帝国史の枠組みでとらえ、そこに作用したさまざまな社会的・経済的・文化的要因から検証・考察を試みる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>manaba(プロジェクト)に提示された資料にもとづき、予習と前回の復習をしておくこと。(予習・復習合わせて4時間程度)イギリス近現代史にかんする基礎的な知識、講義の際に言及した人名・歴史用語などについて理解が不足している場合は、提示する参考文献などを手掛かりに各自で学習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.序論 問題の認識(視聴覚資料Iの視聴と解説) 3.楽園と浮浪児 I (子ども移民とその起点) 4.楽園と浮浪児 II (ヴァージニア子ども移民) 5.兵士と流刑囚 I (白人年季奉公人) 6.兵士と流刑囚 II (プレス・ギャング) 7.重商主義的博愛 I (ロンドン・ファウンドリング・ホスピタル) 8.重商主義的博愛 II (犯罪対策としての子ども移民) 9.棄民と救済 I (民間施設と刑務所) 10.棄民と救済 II (子ども観の変化と子ども移民) 11.からのゆりかご I (世界大戦と子ども移民) 12.からのゆりかご II (戦後の子ども移民) 13.まとめ | | | |

| | | | |
|--|--------------|----|------|
| 科目名 | 西洋史特殊講義Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | ヨーロッパの社会と経済a | 講義 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|---------------------|----------------|------|
| 科目名 | 西洋史料講読 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 『フィリップ・オーギュストの事績』講読 | 演習 | |
| 担当者 | 上山 益己 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 西洋中世史特有の概念などについて理解を深める。とくに西洋中世史特有の用語を確実に把握できるようにする。また、ラテン語の初歩的な文法も習得する。</p> <p>[授業概要] 年代記、事蹟、聖人伝、証書、手紙類など、ヨーロッパ中世史の研究に用いるさまざまな一次史料を紹介し、その英訳文を講読する。また、初歩的なラテン語文法の解説を行ったうえで、ごく簡単なラテン語史料の講読も行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分が担当している箇所はもちろん、担当していない箇所に関しても、授業の前に史料をよく読み込んでおくこと。</p> <p>[授業計画] 毎回受講者が担当部分を和訳・報告し、それらについて解説・討議を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 予備講義 3. 予備講義 4. 講読(1) 5. 講読(2) 6. 講読(3) 7. 講読(4) 8. 講読(5) 9. 講読(6) 10. 講読(7) 11. 講読(8) 12. 講読(9) 13. 講読(10)、小テスト | | | |

| | | | |
|--|---------------------|----|------|
| 科目名 | 西洋史料講読Ⅰ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 『フィリップ・オーギュストの事績』講読 | 演習 | |
| 担当者 | 上山 益己 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題45% 受講態度15% 小テスト40%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜プリントを配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜指示</p> | | | |

| | | | |
|--|---------|----------------|------|
| 科目名 | 西洋史料講読Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 西洋近代史研究で用いられるさまざまな史資料についての基礎的な知識・技能(マニュスクリプトの読解を含む)を習得し、利用できるようになる。また、近年拡充がすすむ電子化された欧文史資料についても、オンラインで利用できるようになる。</p> <p>[授業概要] 学術論文や一次史料など、歴史に関連する欧文文献(英語)の講読と解説を行う。基本的にはテキストの音読と日本語訳の口頭発表に教員が解説を加える形で進める。初回授業時にテキストおよび授業進行、評価方法についての詳しい説明をする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業時に指定する箇所を、manaba(プロジェクト)に提示された資料とあわせて予習と復習をしておくこと。予習は冊子形態の辞書(電子辞書の単独使用は不可)を使用し、必ず授業時に持参する。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに～授業の進行について 2. 学術論文(1) 3. 学術論文(2) 4. 人名事典、ウェブサイト(BBC) 5. 家政書・レシピ 6. センサス(1) 7. センサス(2) まとめ① 8. 王女の日記(1) 9. 王女の日記(2) 10. ウェブサイト National Archives(UK) 11. 議会文書と法令 12. 新聞・雑誌 まとめ② 13. おわりに | | | |

| | | | |
|--|---------|----|------|
| 科目名 | 西洋史料講読Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業態度(60%)、小テスト(30%)、課題(10%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:授業態度(60%)、小テスト(30%)、課題(10%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度(60%)、小テスト(30%)、課題(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業態度(60%)、小テスト(30%)、課題(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業態度(60%)、小テスト(30%)、課題(10%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 『ABC of ENGLISHペンマンシップ—はじめての筆記体練習ノート』 著者名:総合学習指導研究会編 出版社:受験研究社、2005年。(4424289028)</p> | | | |

| | | | |
|--|---------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文の完成 | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒業論文の作成</p> <p>[授業概要] 史学演習Ⅳ・Ⅴの作成レジュメおよび口頭報告を基礎に、学術論文としての完成度を充実させることに重点を置いて指導する。そのため論文作成の諸手続きを再確認するとともに、論理的構成力を高めることに努める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 学術論文としての様式と内容の充実に努めるため、各準備レポートの作成と課題の解決に積極的かつ真摯に取り組むよう心がける。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 論文と史料の検索 3. 研究テーマの確定(1) 4. 研究テーマの確定(2) 5. 研究テーマの確定(3) 6. 研究史の整理(1) 7. 研究史の整理(2) 8. 研究史の整理(3) 9. 史・資料の解読(1) 10. 史・資料の解読(2) 11. 史・資料の解読(3) 12. 準備レポート(A)構成案の作成(1) 13. 準備レポート(A)構成案の作成(2) 14. 準備レポート(A)の問題点と準備レポート(B)の課題設定 15. 関連論文の再検討と問題点の解明(1) 16. 関連論文の再検討と問題点の解明(2) 17. 関連論文の再検討と問題点の解明(3) 18. 目次案の検討(1) 19. 目次案の検討(2) 20. 目次案の検討(3) 21. 論理展開の検討(1) 22. 論理展開の検討(2) 23. 論理展開の検討(3) 24. 目次案の検討(4) 25. 関連論文および史・資料の再点検(1) 26. 関連論文および史・資料の再点検(2) | | | |

| | | | |
|--|---------|-------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文の完成 | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| <p>[成績評価方法] 卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 史学演習Ⅳ、Ⅴに準じる</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう— 著者名:秋山哲雄・田中大喜・野口華世編 出版社:勉誠出版 (9784585222804)</p> | | | |

S59010 [LHH4-001]

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] テーマに即した資料を集めて分析し、筋道を立てた論証がおこなえるようになることを到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 論文における議論の組み立て方に重点を置いて授業を進める。モデル論文の検討をおこなった後に、各自が選んだテーマに沿って発表してもらう。続いて、論文の下書きを進める過程で、論証の仕方、論文の文章表現等について、個人指導をおこなう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業中に指示した関連文献を読んでおくこと。</p> <p>[授業計画] 1. モデル論文の検討(1) 2. モデル論文の検討(2) 3. 個人発表(1) 4. 個人発表(2) 5. 個人発表(3) 6. 個人発表(4) 7. 個人発表(5) 8. 議論の組み立て方の検討(1) 9. 議論の組み立て方の検討(2) 10. 議論の組み立て方の検討(3) 11. 個人発表(1) 12. 個人発表(2) 13. 個人発表(3) 14. 論文のアウトラインの作成(1) 15. 論文のアウトラインの作成(2) 16. 個人発表(1) 17. 個人発表(2) 18. 個人発表(3) 19. 個人発表(4) 20. 個人発表(5) 21. 論文執筆指導(1) 22. 論文執筆指導(2) 23. 論文執筆指導(3) 24. 論文執筆指導(4) 25. 論文執筆指導(5) 26. 卒論執筆を振り返って</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|-------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| <p>[成績評価方法] 出来上がった卒業論文の評価を軸にして、作成のプロセスにおける努力の質の評価を加える。 (80%+20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 学習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 学習態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表内容</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし</p> | | | |

S59020 [LHH4-001]

| | | | |
|--------|---------|-------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文の執筆 | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|---|----------------|--|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

アジア史の理解を深めつつ、卒業論文の完成を目標に調査、研究報告をおこなう。同時に研究成果を報告する準備をおこなう。

[授業概要]

卒業論文を執筆するための個人指導を中心とした演習を展開する。関心の所在を明確にし、論文の構成(章立て)に沿って序論から結論にいたるまで、本文を執筆してゆく。註や文献目録、図版の作成などについても指導する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度。史料に立脚した行論になるように史料批判を展開する。論理的に論文を構成できるように随時執筆した草稿の検討をおこなう。

[授業計画]

《前期》

1. 論文の基本(1)関心の所在篇a
2. 論文の基本(2)関心の所在篇b
3. 論文の基本(3)論文の構成篇a
4. 論文の基本(4)論文の構成篇b
5. 論文の基本(5)史料批判の展開篇a
6. 論文の基本(6)史料批判の展開篇b
7. 論文の基本(7)史料批判の展開篇c
8. 論文の基本(8)史料批判の展開篇d
9. 論文の基本(9)註と文献引用篇a
10. 論文の基本(10)註と文献引用篇b
11. 論文の基本(11)註と文献引用篇c
12. 論文の基本(12)註と文献引用篇d
13. 研究成果の再検討

《後期》

1. 論文指導(1)
2. 論文指導(2)
3. 論文指導(3)
4. 論文指導(4)
5. 論文指導(5)
6. 論文指導(6)
7. 論文指導(7)
8. 論文指導(8)
9. 論文指導(9)
10. 論文指導(10)
11. 論文指導(11)
12. 論文指導(12)
13. 研究の総括と成果報告

| | | | |
|---|---------|-------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文の執筆 | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| <p>[成績評価方法] 論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを使用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] 授業中に紹介する。</p> | | | |

S59030 [LHH4-001]

| | | | | |
|---|-------|---|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)力を使いこなす ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)力を使いこなす ③書く(考えを筋道立てて説明する)力を使いこなす</p> <p>[授業概要]</p> <p>史学科における4年間の研鑽の集大成として提出するものが、卒業論文である。卒業「レポート」ではなく、卒業「論文」である以上、学術論文の体裁をそなえていなければならないとは言うまでもない。史学演習Ⅳ・史学演習Ⅴを通してしっかり磨きあげ、渾身の一作を提出してもらいたい。</p> <p>卒業論文の作成は、テーマ・問題を自らみつけ、解決の方法を自ら選択し、その答えを自らの手で導き出す孤独な闘いである。忍耐を要するが、提出後にはそれまで感じたことのない深い充実感を得られることを約束する。易きに流れず、課題設定から解決まで自分でやり遂げること、自分の力でやり遂げたとき、深い充実感が待っているのを知ること、この2点が以後の社会人生活に生きてくるはずである。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>卒業論文は、授業時間だけを使って書き上げるものではない。可能な限りの時間を費やし、打ち込んでもらいたい。限られた時間を計画的に使うことが肝要である。提出後には口頭試問があり、これも成績評価の対象となる。卒業論文の成果と意義を適切に説明できるよう、一息ついた後、試問までにしっかり準備してほしい。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1. ガイダンス 2. 執筆指導とフィードバック 3. 執筆指導とフィードバック 4. 執筆指導とフィードバック 5. 執筆指導とフィードバック 6. 執筆指導とフィードバック 7. 執筆指導とフィードバック 8. 執筆指導とフィードバック 9. 執筆指導とフィードバック 10. 執筆指導とフィードバック 11. 執筆指導とフィードバック 12. 執筆指導とフィードバック 13. 夏季休暇期間の使い方 14. 執筆指導とフィードバック 15. 執筆指導とフィードバック 16. 執筆指導とフィードバック 17. 執筆指導とフィードバック 18. 執筆指導とフィードバック 19. 執筆指導とフィードバック 20. 執筆指導とフィードバック 21. 執筆指導とフィードバック 22. 執筆指導とフィードバック 23. 執筆指導とフィードバック 24. 執筆指導とフィードバック 25. 執筆指導とフィードバック 26. 執筆指導とフィードバック</p> | | | | |

| | | | |
|--|-------|-------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| <p>[成績評価方法] 論文の内容と口頭試問の結果により評価する(100%)。先行研究を咀嚼してオリジナリティのある的確な問題を設定できているか、問題を解決する適切な資料・方法を選択できているか、論理の展開はスムーズか、卒業論文としての体裁・書式が整っているか、の4点を評価ポイントとして重視する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 執筆期間中は、個別指導を行う。総合評価は、提出後の口頭試問でフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 論文内容、口頭試問</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし</p> | | | |

S59050 [LHH4-001]

| | | | |
|---|------------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文作成に向けて | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 史料に基づく論証をおこない、自分のオリジナルな論を展開した卒論を仕上げるのが目標である。</p> <p>[授業概要] 卒論は4年間の大学での勉学における総決算なので、史料の読解のノウハウ、論理展開の精度、文章表現の正確さなど、これまで学んできたすべての学力を総動員して、良いものを仕上げていくように鍛錬する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 史学演習Ⅳ・Ⅴを履修することが前提となる。</p> <p>[授業計画]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の問題関心の披露 2. 卒論についての心構え(講義) 3. 論文作成のノウハウについて(講義) 4. 各自が関心を持つテーマに関する発表1 5. 各自が関心を持つテーマに関する発表2 6. 各自が関心を持つテーマに関する発表3 7. 各自が関心を持つテーマに関する発表4 8. 各自が関心を持つテーマに関する発表5 9. 中間的なまとめ 10. 卒論作成に向けたさらなる研究整理1 11. 卒論作成に向けたさらなる研究整理2 12. 卒論作成に向けたさらなる研究整理3 13. まとめ(夏休み中の目標の確認) <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休み中の成果の確認 2. 卒論に向けた方向性の確認 3. 卒論の具体的な章立て・内容の発表(第1次発表) 4. 卒論の具体的な章立て・内容の発表(第1次発表) 5. 卒論の具体的な章立て・内容の発表(第1次発表) 6. 卒論の具体的な章立て・内容の発表(第1次発表) 7. 中間的な質疑応答 8. 卒論の具体的な章立て・内容の発表(第2次発表) 9. 卒論の具体的な章立て・内容の発表(第2次発表) 10. 卒論の具体的な章立て・内容の発表(第2次発表) 11. 卒論の具体的な章立て・内容の発表(第2次発表) 12. 卒論の執筆と吟味 13. 卒論の執筆と提出 | | | |

| | | | |
|---|------------|-------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文作成に向けて | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| <p>[成績評価方法] 論文の正確さ、オリジナリティ、史料の精査の度合い、口頭試問での応答などを基に総合的に判断し、点数をつける。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中あるいは終了時を利用して適宜フィードバックする</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒業論文の内容と口頭試問</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし</p> | | | |

S59060 [LHH4-001]

| | | | |
|---|---------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文の完成 | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒業論文の完成</p> <p>[授業概要] 受講生各自が選んだ卒業論文テーマについて、①当該テーマに関わる先行研究をまとめるとともに、その問題点を明らかにし、報告する、②それぞれのテーマに関わる史料の所在と内容を把握するとともに、卒業論文の構想についてまとめ、報告する、③夏休み中に史料収集を行い、卒論構想を固める、④③の卒論構想をもとに、卒論の章節構成に従い、その内容について報告する、⑤④の報告を修正・深化させた報告を行う、の順で進める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 報告予定者は、事前に報告レジュメを作成する。</p> <p>[授業計画] 1.前期授業の進め方 2.受講生全員が、それぞれどのようなテーマで卒業論文を作成したいのかについて報告する。 3.卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)1 4.卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)2 5.卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)3 6.卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)4 7.学外史跡見学① 8.学外史跡見学② 9.卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)1 10.卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)2 11.卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)3 12.卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)4 13.教員が、夏休み中の研究の進め方について説明する。 14.後期授業の進め方 15.卒論構想についての報告(一回目報告)1 16.卒論構想についての報告(一回目報告)2 17.卒論構想についての報告(一回目報告)3 18.卒論構想についての報告(一回目報告)4 19.卒論構想についての報告(二回目報告)1 20.卒論構想についての報告(二回目報告)2 21.卒論構想についての報告(二回目報告)3 22.卒論構想についての報告(二回目報告)4 23.卒論構想についての報告(三回目報告)1 24.卒論構想についての報告(三回目報告)2 25.卒論構想についての報告(三回目報告)3 26.卒論構想についての報告(三回目報告)4</p> | | | |

| | | | |
|--|---------|-------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文の完成 | 演習 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| <p>[成績評価方法] 報告内容60%、授業への取り組み(討論への参加など)20%、レポート20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様な理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] 授業中に適宜紹介する</p> | | | |

S59070 [LHH4-001]

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒業論文の完成</p> <p>[授業概要] 卒業論文を作成するにあたって必要な知識や技術を具体的に指導する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分の卒論の方向性について、指導教員と緊密に連絡を取りながら、つねに検討・確認をおこなっておく。</p> <p>[授業計画]</p> <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 各自が関心を持っているテーマの報告(1) 3. 各自が関心を持っているテーマの報告(2) 4. 各自が関心を持っているテーマの報告(3) 5. 各自が関心を持っているテーマの報告(4) 6. 先行研究の紹介と問題点の報告(1) 7. 先行研究の紹介と問題点の報告(2) 8. 先行研究の紹介と問題点の報告(3) 9. 先行研究の紹介と問題点の報告(4) 10. 先行研究の紹介と問題点の報告(5) 11. 選択したテーマに関する史料までを含めた準備報告(1) 12. 選択したテーマに関する史料までを含めた準備報告(2) 13. 夏期休暇中の課題の確認 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 卒論の構想・進捗状況の発表(1) 3. 卒論の構想・進捗状況の発表(2) 4. 卒論の構想・進捗状況の発表(3) 5. 卒論の構想・進捗状況の発表(4) 6. 卒論の構想・進捗状況の発表(5) 7. 卒論の構想・進捗状況の発表(6) 8. 卒論の構想・進捗状況の発表(7) 9. 論文執筆の指導(1) 10. 論文執筆の指導(2) 11. 論文執筆の指導(3) 12. 論文執筆の指導(4) 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|-------|-------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メール・manabaなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし</p> | | | |

S59080 [LHH4-001]

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 各自が選択したテーマにもとづいた卒業論文(12000字以上)を完成させることができるようになる。</p> <p>[授業概要] 学術論文の執筆ルールを学び、それぞれの選択したテーマについての検証・考察を卒業論文の形にまとめあげてゆく。前期前半は研究報告を中心とし、論文執筆について説明を実施したのち、各自の論文の個別指導を行う。なお大学層によっては、卒業論文提出期限前に、提出期限後分の授業を補講として集中的に実施することがある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教員の指示にしたがって、受講生はそれぞれのテーマに則した予備学習を行って発表に臨むこと。発表後は、教員の指導とゼミメンバーによる質疑応答をふまえて、manaba上に課題を再提出することで復習とする。(各回予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. はじめに スケジュールの確認 2. 卒論の執筆(1)テーマを確認する 3. 卒論の執筆(2)構成を確定する 4. 卒論の執筆(3)史資料を充実させる 5. 卒論の執筆(4)題目を検討する(仮題目提出) 6. 卒論の執筆(5)進捗状況を確認する 7. 卒論の執筆(6)追加調査・レポート 8. 卒業論文執筆説明会(1) 卒論の基礎 9. 卒業論文執筆説明会(2) 卒論の構成 10. 個別指導(1)「はじめに」 11. 個別指導(2)「各章の構成と役割」 12. 個別指導(3)「おわりに」 13. 個別指導(4)構成表の完成 14. 個別指導(5)「論文」の文法 15. 個別指導(6)語彙を増やす 16. 個別指導(7)図表 17. 個別指導(8)インターネット史資料 18. 個別指導(9)「問い」のスケール 19. 個別指導(10)オリジナリティ 20. 卒業論文執筆説明会(3) 註表記の作法 21. 個別指導(11)全体構成 22. 個別指導(12)文章校正 23. 個別指導(13)体裁の確認 24. 提出準備作業 25. 最終チェック、提出 26. 口頭試問に備えて</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|-------|------|
| 科目名 | 卒業論文 | 前期～後期 | 8 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(卒業論文)100%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし</p> | | | |

S59090 [LHH4-001]

| | | | |
|--|---|----------------|------|
| 科目名 | 地誌学 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 花木 宏直 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>毎回、授業内容に関する課題(コメント作成)を課し、理解度の確認し、疑問点などについて次回で応答する。</small> | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 地誌学の基本的な姿勢は地域(場所)を記述するというものである。この授業では地域を描くための基本的な方法を学ぶ。地誌学では地図を多用するため、地図を通して地域を理解することも学んで欲しい。</p> <p>[授業概要] 日本各地の事例を中心に取り上げ、動態地誌の視角を重視しながら授業を進める。毎回の授業では地図類を配布する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業各回の内容を事後に復習して、次回にのぞむこと。地誌学(地理学)において地図は重要なメディアとなる。できるだけ多く地図に接してもらいたい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、地誌学とはなにか、地形図の読図法 2. 南西諸島の漁業と観光(沖縄県宮古島市) 3. 火山の利活用(鹿児島県指宿市) 4. 多島海の工業化と植生変化(広島県尾道市) 5. 山地の焼畑と林業化(愛媛県西条市) 6. 農業・獣害と歴史的景観の保全(奈良県奈良市) 7. 氾濫原の水害対策(愛知県愛西市) 8. 高冷地の別荘地化(長野県軽井沢町) 9. 豪雪と丘陵の銘柄米産地化(新潟県小千谷市) 10. 東京の山手と下町(東京都) 11. 洪積台地の新田開発と果樹栽培(千葉県松戸市) 12. 寒冷地の国土開発(青森県六ヶ所村) 13. 北海道の開拓(北海道奈井江町)、まとめ | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 地誌学 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 花木 宏直 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 質問については次回の講義の際に触れる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 著者名:なし</p> <p>著者名:</p> | | | |

| | | | | |
|----------------|------------|--|----------------|------|
| 科目名 | 地理歴史科指導法 I | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 谷澤 有弘 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

高等学校地理歴史科教員として求められる、教科の教育内容、教材研究、指導法を理解できるようになる。中学校社会科の学習を基に、「地理総合」「歴史総合」「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」の指導ができる教員を養成する。授業では、地歴科の教科内容・目標と歴史、学習指導要領、学習指導案の作成、指導と評価等について解説する。受講者が、自分の授業でICTを活用して指導する能力を得ることができる。また、生徒に主体的な学習習慣を身に付けさせるスキルとして、アクティブラーニングの手法を習得できるようにする。

なお高校の新学習指導要領が、2022(令和4)年度から実施されている。地歴科においては、5つの新科目が実施されている。このような大きな変化に適切に対応していきたい。そして社会全体の動きを理解し、高校地歴科教員として必要な実践力、情報活用能力を身につける事を目標とする。

[授業概要]

担当教員の実務経験は、県立高等学校長・教頭9年、教諭として社会科・地歴科・公民科の指導 22年、小中学校6年である。初中等教育の経験を生かし、受講生が高校地歴科のより良い授業を作れるように指導したい。

新教育課程での高等学校地歴科の目標をふまえ、小中学校社会科、高校公民科との関連を図りながら授業を構成する。学習指導の中心である授業の進め方について、アクティブラーニングの手法を取り入れる。自分が作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、授業実践力をつける。授業で新聞記事を活用し、社会の動きに目を向ける習慣をつける。授業中に受講者同士のグループワーク、プレゼンテーションを積極的に行う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

高校地歴科の教科書を読み、歴史資料と地図に親しむ。各回、4時間程度の予習・復習を行う。日常的に新聞を読む事を求める。事後学習として、新聞を活用したレポートやテーマを設定したレポート作成を課題とする。

[授業計画]

1. オリエンテーション。地理歴史科に関する基礎的学力診断。地歴科授業のテーマ設定
2. 地理歴史科の目標と教科自体の歴史。地歴科と公民科、中学校社会科との関連
3. 地理歴史科学習指導要領の解説－学習内容の系統的理解
4. 地理歴史科授業開発の方法－ICTとアクティブラーニングの手法を活用した学習指導
5. 教科内容の理解①「地理総合」の視点－現代世界や防災、GISについて考察する
6. 教科内容の理解②「地理探究」の視点－世界・日本の自然・社会・文化を包括した地誌を中心に考察する
7. 教科内容の理解③「歴史総合」のために－日本と世界の古代から近世を通史的に理解する
8. 教科内容の理解④「歴史総合」の視点－近現代史を現代世界との結び付きを中心に考察する
9. 教科内容の理解⑤「日本史探究」の視点：－日本史を世界との関連の中で考察する
10. 教科内容の理解⑥「世界史探究」の視点－世界史をグローバルな視点で考察する
11. 授業研究①：教育実習に向けて－学習指導案の作成と検討
12. 授業研究②：模擬授業の実施－講評と評価
13. 授業研究③：模擬授業の実施－講評と評価、前期のまとめと地歴科についての復習

| | | | |
|--|------------|----|------|
| 科目名 | 地理歴史科指導法 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 谷澤 有弘 | | |
| <p>[成績評価方法] 理解度確認試験(50%)、課題(レポート、学習指導案)(30%)、模擬授業・プレゼンテーション(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験は、実施後に内容解説をmanabaまたはKISSシステムに掲載する。レポートは、添削、採点をした後に返却する。今後の継続的な学習につながる事を目指す。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記の成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記の成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記の成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記の成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記の成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記の成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記の成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編」 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版 (978-4491036410) 高校で使用した、教科書及び資料等の副教材 (旧課程のものでもよい)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------------|----------------|------|
| 科目名 | 東洋近現代史 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 中国を中心とした近世・近代の東アジア世界 | 講義 | |
| 担当者 | 磯部 淳史 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>(1) 中国近世・近代の歴史展開について理解し、それを説明することができる。</p> <p>(2) 近世・近代中国とその周辺世界との関係や、相互に与えた影響について理解し、それを説明することができる。</p> <p>(3) 近世・近代中国の歴史が、現代の中国に及ぼした影響について、自分なりに考え説明することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>本講義では、中国史のうち特に14世紀～20世紀初頭、明から清、さらに中華民国に至る中国の歴史展開について、東アジア史やユーラシア史、さらには世界史との関連性も視野に入れつつ概観する。政治・経済・民族・外交などの諸問題を通じて、中国における「近世」および「近代」がいかなる特色を持った時代で、それが現代にどのようなつながり、いかなる影響を及ぼしたのかについて考えていきたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>毎回授業後にコメントをまとめ、提出することで、授業内容の整理を自分なりに行なう。また毎回次の授業までにレジュメを見直し、当該回に至るまでの歴史の流れを把握しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション:近世とは何か?近代とは何か?君主独裁とは何か? 2. 君主独裁制の完成 3. 永楽帝と外征の時代 4. 皇帝権力と内閣 5. 北虜南倭の時代 6. 清朝の勃興 7. 明から清へ 8. 清の漢地支配と皇帝政治の展開 9. 康熙・雍正・乾隆三代の盛世 10. 清朝の支配構造 11. 清の繁栄と衰退 12. 清代の北京と「日中交流」 13. 清朝の滅亡と新しい「中国」の誕生/まとめ | | | |

| | | | |
|--|----------------------|----|------|
| 科目名 | 東洋近現代史 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 中国を中心とした近世・近代の東アジア世界 | 講義 | |
| 担当者 | 磯部 淳史 | | |
| <p>[成績評価方法] 期末レポート:70% 平常点(授業後の提出するコメントシート):30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 毎回授業終了時に授業内容に対する質問・感想・意見などの提出を求め、それを出席とあわせて平常点とする。またコメントの中の特徴的なものを次回の授業冒頭で取り上げ、回答や補足説明を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 授業担当者が作成したレジュメ・資料を毎回配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に適宜紹介する。著者名:紹介の際に知らせる。出版社:紹介の際に知らせる。</p> | | | |

| | | | |
|---|---|----------------|------|
| 科目名 | 東洋古代中世史 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 北アジア・中央ユーラシア世界の歴史 | 講義 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>manabaアンケート機能を使用した質疑応答で教員・学生間の対話を重視する。</small> | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] アジア全般の地理や生業を把握します。その上で、北アジア・中央ユーラシア世界が世界史に対してどのような影響力をおよぼしていったのかを理解します。そして、現代に伝わる歴史的文物や事象がどのように形成されてきたのかを考え、時間軸「いつ？」と空間軸「どこ？」をおさえたうえで、歴史の流れを適確に説明する能力を養います。また、大学での学びについての基礎事項を修得し、それを実践できる講義を目指します。</p> <p>[授業概要] 高校教諭の在職経験のある教員より、アジアを東西南北の4つに区分した上でそれぞれの地理・風土の特徴を解説し、特に世界史を牽引してきた北アジア・中央ユーラシア世界の特徴をとらえてゆきます。ヒト・モノ・カネ・情報がゆきかう中央ユーラシアの特徴を読み解くために、遊牧民とその生活、オアシス農耕とその生活、草原とオアシスの共生関係、万里の長城、シルクロードなどを題材とします。 なお、第1～3講の前半50分はスタディスキル入門と題し、大学での学びについての基礎事項をレクチャーします。具体的にはノート・テイキング、リーディング、ライティングの基本、レジュメ・レポート作成の基本をおさえてもらいます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] プリントを配布し講義形式の授業をすすめる。高等学校で利用した世界史の教科書や図版で予習、あるいは既習範囲を確認する。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スタディスキル入門(1) + ユーラシアとアジア 2. スタディスキル入門(2) + アジアの区分 3. スタディスキル入門(3) + 草原の生業 4. 遊牧帝国とその特徴 5. オアシスとシルクロード 6. 歴史の父と遊牧民 7. アジアの動く境界線 8. 草原の民族大移動 9. トルコ系遊牧帝国の時代 10. 今のモンゴル 昔のトルコ 11. 玄奘とシルクロード(1) 12. 玄奘とシルクロード(2) 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|-------------------|----|------|
| 科目名 | 東洋古代中世史 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 北アジア・中央ユーラシア世界の歴史 | 講義 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| <p>[成績評価方法] ミニツツペーパーへの記述 (30%) + レポート・試験 (70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manaba アンケート機能を使用し、講義内容についての質疑応答をおこないます。通称【目安箱】。質問内容によっては次回の講義の冒頭で紹介し、問題意識を共有します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学1-1 / 幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: ミニツツペーパーへの記述 (30%) + レポート・試験 (70%)</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-1 / 講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: ミニツツペーパーへの記述 (30%) + レポート・試験 (70%)</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-5 / 演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: ミニツツペーパーへの記述 (30%) + レポート・試験 (70%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 多様性理解 / 自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: ミニツツペーパーへの記述 (30%) + レポート・試験 (70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: ミニツツペーパーへの記述 (30%) + レポート・試験 (70%)</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] 『中央ユーラシア史』(新版世界各国史4) 著者名: 小松久男(編) 出版社: 山川出版社 (463441340X) 『アジアの歴史: 東西交渉からみた前近代の世界像』 著者名: 松田壽男 出版社: 岩波書店(岩波現代文庫 学術162) / (同時代ライブラリー122) (978-4006001629) 『高地文明 — 「もう一つの四大文明」の発見』(中公新書2647) 著者名: 山本紀夫 出版社: 中央公論新社 (978-4121026477) 『中華を生んだ遊牧民 鮮卑拓跋の歴史』(講談社選書メチエ785) 著者名: 松下憲一 出版社: 講談社 (978-4065318393)</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----------------|-----|
| 科目名 | 東洋史特殊講義Ⅱ | 後期 | 2単位 |
| サブタイトル | 突厥可汗国の国家構造と部族支配 | 講義 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>manabaをもちいた質疑応答により学生・教員間の対話を重視する。</small> | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 古代トルコ遊牧民の国家や支配について理解を深化させる。その際、彼らについての記録を残した唐帝国など中華王朝の動向や役割についても着目する。また、断片的な史料しか現存していない対象について、文献史学がどこまで過去の歴史像を復元できるのかを理解する。そして、編纂史料、出土史料、考古遺跡、出土遺物、それぞれの資史料の特性を把握することで、歴史学や考古学の相互補完関係を知る。</p> <p>[授業概要] 概論「東洋古代中世史」[1史]で扱った北アジア・中央ユーラシアの草原遊牧民を題材に、学界で焦点となっている問題をとりあげる。具体的には突厥可汗国(6世紀中葉～8世紀中葉)について、通説の成立過程や新たな史料批判の過程を具体的に示しつつ、国家構造・部族支配の実態を解説する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 概論「東洋古代中世史」[1史]を発展させた内容の講義です。履修済みの学生はレジュメなどを再点検しつつ受講してください。持参を推奨します。もちろん、未履修の場合でも受講可能です。第1～3講で簡単な解説をしますので、参考文献などを参照しつつ受講してください。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.はじめに—草原遊牧民と文明 2.古代トルコ遊牧民の時代 3.トルキスタンの成立とトルコ語の移動 4.編纂史料から知る突厥 5.出土墓誌から知る突厥① 6.出土墓誌から知る突厥② 7.考古遺跡から知る古代トルコ遊牧民の諸相 8.唐の羈縻支配と遊牧民の変化 9.突厥可汗国の国家構造 10.突厥碑文から知る突厥① 11.突厥碑文から知る突厥② 12.突厥可汗国の部族支配 13.まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------|----|------|
| 科目名 | 東洋史特殊講義Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 突厥可汗国の国家構造と部族支配 | 講義 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |
| <p>[成績評価方法] ミニッツペーパーへの記述(30%) + 試験(70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 毎講manabaのアンケート機能を使用する。通称【目安箱】。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:ミニッツペーパーへの記述(30%) + 試験(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:ミニッツペーパーへの記述(30%) + 試験(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:ミニッツペーパーへの記述(30%) + 試験(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:ミニッツペーパーへの記述(30%) + 試験(70%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:ミニッツペーパーへの記述(30%) + 試験(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:ミニッツペーパーへの記述(30%) + 試験(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:ミニッツペーパーへの記述(30%) + 試験(70%)</p> <p>[教科書(ISBN)] プリントを配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に紹介する。 著者名:紹介の際に知らせる。 出版社:紹介の際に知らせる。</p> | | | |

| | | | |
|--|---|----------------|------|
| 科目名 | 東洋史特殊講義Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | アジアの政治a | 講義 | |
| 担当者 | 磯部 淳史 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>manabaを使用した毎回の授業コメントで教員・学生間の対話を重視する。</small> | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>(1) 前近代東アジアの政治体制や制度について理解し、それを説明することができる。</p> <p>(2) 前近代東アジア、特に明清時代の政治・社会や支配体制の特徴について、政治学や法学の見地から自分なりに考え、説明することができる。</p> <p>(3) 前近代東アジアの政治が、現代の中国に及ぼした影響について、自分なりに考え、説明することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>本講義では、中国を中心とした前近代東アジア(東部ユーラシア)の政治について概観する。講義ではまず前近代東アジア全体の政治にあり方を解説した後、特に14-19世紀の明清時代における政治制度・統治体制・法制度などについて、歴史学のみならず政治学や法学の視点を交えつつ解説する。前近代東アジアにおける政治体制・制度がいかなる特色を持ち、それが現代政治とどのように関連し、いかなる影響を及ぼしたのかについて考えていきたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>毎回授業後にコメントをまとめ、提出することで、授業内容の整理を自分なりに行なう。また毎回次の授業までにレジュメを見直し、当該回に至るまでの歴史の流れを把握しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・東アジア政治史の概観、授業の進め方の説明 2. 中国古代・中世における政治と官僚制 3. 北アジア・中央アジア諸国家とその政治体制 4. 君主独裁制の成立と展開: 宋から清まで 5. 君主と側近①: 内閣と宦官 6. 君主と側近②: 君主独裁制と禁苑 7. 君主と側近③: 清代八旗制における人的結合 8. 清朝の支配体制と政治制度 9. 中国の後宮制度と皇后・女帝 10. 近世中国における都城と政治空間 11. 明清時代の法と社会 12. 北方ユーラシアの法体系 13. 君主政治の終焉と近現代政治への影響／まとめ | | | |

| | | | |
|--------|----------|----|------|
| 科目名 | 東洋史特殊講義Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | アジアの政治a | 講義 | |
| 担当者 | 磯部 淳史 | | |

[成績評価方法]

期末レポート:70% 平常点(授業後の提出するコメントシート):30%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

毎回授業終了時に授業内容に対する質問・感想・意見などの提出を求め、それを出席とあわせて平常点とする。またコメントの中の特徴的なものを次回の授業冒頭で取り上げ、回答や補足説明を行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

授業担当者が作成したレジュメ・資料を毎回配布する。

[参考書(ISBN)]

授業中に適宜紹介する。

| | | | |
|--------|-----------|----|------|
| 科目名 | 東洋史料講読 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 『十八史略』講読a | 演習 | |
| 担当者 | 牛根 靖裕 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|---|----------------|--|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

東洋史、とくに中国史を研究する上で不可欠な漢文法に関する基礎知識を身につけることができる。また原典資料に親しみ、漢文読解能力を高めることができる。

[授業概要]

この授業は、原典資料としての漢文に親しみ、東洋史学研究に必要な漢文史料の基礎的読解力を身につけることを目的とする。テキストには元の曾先之が撰した『十八史略』を用いる。『十八史略』は、中国の古代から南宋までの歴史を、複数の歴史書に基づき編年体(時系列順)にもごを叙述したスタイルで簡略に綴った書物である。初学者向けの歴史読み物として長く用いられ、日本でも明治期には漢文や中国史の教科書として読まれた。二次的・三次的編纂物であり、『十八史略』が歴史研究で史料として用いられることは少ないが、多くの故事・逸話を含み漢文の史書を読みはじめる入門書としては、今もなお一定の価値を有する。その中から著名な故事・逸話について書かれた文章を選んで読んでいく。

授業は、冒頭数回にわたって漢文の文法について確認した後に、実際にテキストの講読へと進む。授業では予め担当者を決めず、受講生全員が予習の上、毎回少しずつ読み進めていく。その中で、各自基礎的な漢文読解力を養ってもらいたい。

受講にあたっては各自漢和辞典を準備してもらう必要があるが、新たに購入する場合、担当者からは『全訳漢辞海【第四版】』(三省堂)を推奨する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

講読の授業であるので、毎回の予習が必須である。漢文は一面では外国語であるので、語学の学習の気構えでのぞむことが求められる。各回、予習復習合わせて2時間程度を要する。

[授業計画]

1. ガイダンス・漢文法概説
2. 漢文法概説
3. 『十八史略』講読(1)
4. 『十八史略』講読(2)
5. 『十八史略』講読(3)
6. 『十八史略』講読(4)
7. 『十八史略』講読(5)
8. 『十八史略』講読(6)
9. 『十八史略』講読(7)
10. 『十八史略』講読(8)
11. 『十八史略』講読(9)
12. 『十八史略』講読(10)
13. まとめ

| | | | |
|--------|-----------|----|-----|
| 科目名 | 東洋史料講読Ⅰ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 『十八史略』講読a | 演習 | |
| 担当者 | 牛根 靖裕 | | |

[成績評価方法]

毎週の課題(ほぼ毎回全員にテキストの指定範囲について書き下しと現代語訳を提出してもらう)90%。まとめ10%。なお「まとめ」では初見の漢文を読解してもらう予定だが、原則として「まとめ」の出席は成績認定の前提条件とする。そのほか、最低一回一定の範囲を担当して発表してもらうことも必須とする。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

毎週の課題は授業で解説する。「まとめ」については、正答案を公表する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

なし

[参考書(ISBN)]

なし

| | | | |
|--------|-----------|----|------|
| 科目名 | 東洋史料講読Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 『十八史略』講読b | 演習 | |
| 担当者 | 磯部 淳史 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|---|----------------|--|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

東洋史、とくに中国史を研究する上で不可欠な漢文法に関する基礎知識を身につけることができる。また原典資料に親しみ、漢文読解能力を高めることができる。

[授業概要]

この授業は、原典資料としての漢文に親しみ、東洋史学研究に必要な漢文史料の基礎的読解力を身につけることを目的とする。テキストは前近代中国で初心者向けの教科書的読み物であった『十八史略』を用い、その中から著名なエピソードについて書かれたトピックを選んで読んでいく。

授業ではまず基本的な文法事項などについて説明した後、第3回よりテキストの読解に入る予定である。授業では予め担当者を決めず、受講生全員が予習の上、毎回少しずつ読み進めていく。その中で、各自基礎的な漢文読解力を養ってもらいたい。

受講にあたっては各自漢和辞典の準備が必須である。辞典は指定しないが、新たに購入する場合は『新字源』(角川書店)、あるいは『全訳漢辞海(第四版)』(三省堂)を推奨する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

毎回講読してもらうため、受講者全員がテキストの当該箇所を予習した上で授業に臨むこと。また、漢文読解能力を養うには継続的な資料の読解が不可欠であるので、各自毎回復習を怠らないこと。

[授業計画]

1. 授業の進め方・テキスト等の説明
2. 漢文訓読の基礎についての解説/練習問題
3. 『十八史略』読解: 卷三、三国・諸葛亮(1)
4. 『十八史略』読解: 卷三、三国・諸葛亮(2)
5. 『十八史略』読解: 卷四、南北朝・太武帝(1)
6. 『十八史略』読解: 卷四、南北朝・太武帝(2)
7. 『十八史略』読解: 卷五、唐・太宗李世民(1)
8. 『十八史略』読解: 卷五、唐・太宗李世民(2)
9. 『十八史略』読解: 卷五、唐・則天武后(1)
10. 『十八史略』読解: 卷五、唐・則天武后(2)
11. 『十八史略』読解: 卷六、五代・李存勖(1)
12. 『十八史略』読解: 卷六、五代・李存勖(2) / 卷七、宋・趙匡胤(1)
13. 『十八史略』読解: 卷七、宋・趙匡胤(2) / 理解度確認小テスト、解説

| | | | |
|--------|-----------|----|------|
| 科目名 | 東洋史料講読Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 『十八史略』講読b | 演習 | |
| 担当者 | 磯部 淳史 | | |

[成績評価方法]

授業への参加態度、発表内容、授業内で実施する小テスト(100%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

教科書は特に使用しない。テキストは初回授業時に配布する。

[参考書(ISBN)]

なし

| | | | |
|--|--------------------|----------------|------|
| 科目名 | 日本近現代史 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 政治史を中心とした日本近現代史の概観 | 講義 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 日本近現代史の流れが理解でき、個々の事実関係がその流れの中に位置づけて把握できるようになることが目標となる。試験の論述においても、その点が中心として問われる。</p> <p>[授業概要] 日本近現代史を理解するにあたって必要とされる基本的な視角について講義する。具体的には、①明治維新後に成立した有司専制政府に対する政治的自由獲得のための自由民権運動、②議会開設後、自由民権運動の流れを受け継いだ政党勢力が、藩閥との対立と妥協を繰り返しながら政権に参入していく過程、③大正デモクラシーの風潮のもとに、政党政治が確立に向かう時期の動向、④満州事変以後の政党政治の崩壊等、主として政治史的視点から通観することにつとめ、適宜経済や社会運動等の動向にもふれることにする。歴史の勉強においては、個々の事実がいかなる歴史的な流れに位置づけられるのかが理解されなければならないが、そうした流れの把握に重点を置いて講義していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 高校で日本近現代史を習っていない者でも履修可能であるが、その場合でも、自ら概説書等を読んで、近現代の歴史の流れを把握しようとする準備学修の姿勢が望まれる。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 近現代における明治維新 2. 国民国家の形成と明治維新 3. 岩倉使節団をめぐって 4. 明治六年政変の歴史的位置 5. 士族反乱と西南戦争 6. 自由民権運動 7. 明治憲法の制定と政治構造 8. 議会政治の始まりと日清・日露 9. 大正デモクラシー 10. 政党政治の確立と崩壊 11. 二・二六事件の歴史的位置 12. アジア・太平洋戦争 13. まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--------|--------------------|----|------|
| 科目名 | 日本近現代史 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 政治史を中心とした日本近現代史の概観 | 講義 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |

[成績評価方法]
試験による(100%)。なお、手書きノートと配布プリントの持ち込みを許可する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
毎回の出席カードに質問等を書き込み、次回の冒頭に答える。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。
成績評価方法:試験

学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。
成績評価方法:試験

学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。
成績評価方法:試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:試験

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

| | | | |
|--|--------------------|----------------|------|
| 科目名 | 日本近世史 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 基本法令から読み解く近世の国家と社会 | 講義 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] この授業では、①日本近世の国家・社会の実態と特質を理解する、②法令史料と歴史叙述の関係を理解する、③史料読解能力を身につける、の3点を目標とする。</p> <p>[授業概要] 日本の近世は、おおむね16世紀末の豊臣政権期から明治維新时期までの約300年間の時代であり、その大部分は江戸時代である。この近世という時代の特質を把握するにはさまざまな方法があるが、近世社会成立期に統一政権(豊臣政権および初期徳川政権)が出した法令を検討するのも、有効な方法の一つである。この授業では、高校日本史教科書にも登場する近世初期の基本的な法令を順次取り上げ、近世の国家・社会の実態と特質を明らかにする。あわせて、法令史料と歴史叙述との関係にも言及する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日頃から近世史に関する図書をできるだけ多く読んでおくこと(読書時間は週4時間程度を目安とする)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義のねらいと授業の流れ 2. 日本歴史における「近世」の位置1 3. 日本歴史における「近世」の位置2 4. 日本歴史における「近世」の位置3 5. 天正19年(1591)のいわゆる身分統制令1 6. 天正19年(1591)のいわゆる身分統制令2 7. 天正19年(1591)のいわゆる身分統制令3 8. 慶長20年(1615)一国一城令1 9. 慶長20年(1615)一国一城令2 10. 元和元年(1615)武家諸法度1 11. 元和元年(1615)武家諸法度2 12. 元和元年(1615)武家諸法度3 13. 授業のまとめ | | | |

| | | | |
|--------|--------------------|----|------|
| 科目名 | 日本近世史 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 基本法令から読み解く近世の国家と社会 | 講義 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |

[成績評価方法]

受講態度26%、期末試験74%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

履修生は、毎回manabaの小テスト機能を用いてその日の授業内容について質問や感想を書く。教員は次の授業の中で、質問に答える。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

なし

[参考書(ISBN)]

授業中に適宜紹介する

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 日本考古学 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 考古学とはどのような学問なのか、何をどのように探究する学問かを説明できる</p> <p>[授業概要] 考古学とは、人類が遺したモノ資料をもとに「人間とは何か？」を探究する学問である。主として地表下に埋没しているモノ資料から過去の人類の行動・活動を読み取り、「いま・ここ」まで我々が辿ってきた道を復原する。考古学のこれまでの成果は歴史教科書の冒頭を飾っているし、博物館には土器や青銅器が並んでいる。また、ニュースや新聞などでもしばしば取り上げられるから、目にする機会は少なくないだろう。しかし、そもそも遺跡はどこにあるのだろうか？「最古の〇〇発見！」というニュースの最古かどうかはどのようにしてわかるのだろうか？この授業ではそうした基本的な問いからスタートして、考古学の特質と研究方法を解説する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予習は特に必要ないが、授業後に講義の内容を復習し、新しく知った専門用語などを整理しておく(30～90分程度)。下に掲げた参考書が役に立つだろう。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス+リアクションペーパーの書き方 2. 考古学とはどのような学問か 3. 考古学はどのようにして生まれたか(1) 4. 考古学はどのようにして生まれたか(2) 5. 古さはどのようにしてわかるのか(1) 6. 古さはどのようにしてわかるのか(2) 7. 考古学調査の実際 8. 生活を読み解く 9. 交流を読み解く 10. 社会を読み解く 11. 考古学は心を読むことができるのか？ 12. 考古学と現代 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 日本考古学 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| <p>[成績評価方法] リアクションペーパー(50%)、試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:リアクションペーパー</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:リアクションペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 資料を配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] 日本考古学概説 著者名:小林行雄 出版社:東京創元社 (978-4488009014) 図解・日本の人類遺跡 著者名:小野 昭・春成秀爾・小田静夫編 出版社:東京大学出版会 (978-4130262002) 図解考古学辞典 著者名:水野清一・小林行雄編 出版社:東京創元社 (978-4488003159)</p> | | | |

S50090 [LHH1-009]

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 日本考古学資料研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>考古学は、対象となる物質資料がどのように作られたのか、なぜそのように作られたのかを知るところから始まる。そこでこの授業では、研究に不可欠な観察眼を養うとともに、観察結果を表現するためのルールを習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>考古学は、主として地表下に埋没しているモノ資料から過去の人類の活動を読み取り、歴史を復原する学問である。人類活動を詳しく読み解くため、モノ資料を適切な手続きによって地表下から取り出し、適切に資料化することが要請される。</p> <p>本授業はそうした基礎技術を習得するとともに、そのルールに基づいて表現・説明されている発掘調査報告書や学術論文を読みこなすための基盤を作る。具体的には、①資料を細かく観察し、スケッチして調書をとる、②実測図を作成する、③作成した実測図をトレースして図面を仕上げる、④レイアウトして図版を完成させる、⑤測量図を作るの5項目を学ぶ。</p> <p>決して楽な授業ではないが、考古学で卒論を書く学生には必要不可欠な技術であり、史学演習で考古学ゼミを選択した者は特に受講してほしい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>本科目の履修にあたっては、「日本考古学」を履修済みもしくは履修中であることを条件とする。各授業回で教員やTAが示した手順をその都度書き留め、精度の高い図面を作成してほしい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス＋考古資料のスケッチと観察(1) 2. 考古資料のスケッチと観察(2) 3. 器の実測(1) 4. 器の実測(2) 5. 器の実測(3) 6. 土器の実測(1) 7. 土器の実測(2) 8. 土器の実測(3) 9. 土器の実測(3) 10. 拓本 11. 図面のレイアウト 12. 地形の測量(1) 13. 地形の測量(2) | | | |

| | | | |
|---|-----------|----|------|
| 科目名 | 日本考古学資料研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| <p>[成績評価方法] 図面等の提出物により評価する(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:図面等の提出物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:図面等の提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:図面等の提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:図面等の提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:図面等の提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:図面等の提出物</p> <p>[教科書(ISBN)] 資料を配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] 考古学調査研究ハンドブックス(全3巻) 著者名:岩崎卓也、菊池徹夫、茂木雅博編 出版社:雄山閣(9784639004035) 定本 発掘調査のてびき 著者名:文化庁文化財部記念物課 出版社:同成社(9784886217424)</p> | | | |

| | | | |
|--------|------------------------|----|------|
| 科目名 | 日本考古学特殊講義Ⅰ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 「弔う」と「祈る」「呪(まじな)う」の考古学 | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|--|----------------|--|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

- ①「弔う」「祈る」「呪(まじな)う」を糸口に、多様な史資料を駆使して過去を復原する方法を理解する。
- ②「弔う」「祈る」「呪(まじな)う」がどのように社会を動かしてきたかをよく理解し、自らの考えを加えて説明することができる。

[授業概要]

生きとし生けるものにはすべて生と死があるらしく、したがって私や貴女にもいつかはその日がやってくる。旅立ちを見送り、涙を流した経験を持つ人もいるだろう。

私はいま「旅立ちを・・・」と書き、それが死を意味することは貴女も容易に察知したであろう。なぜ、私たちは死して朽ちることを「旅立ち」とみなし、葬ることを「見送る」と表現するのだろうか。いつから我々は送るようになったのか、送った先をどのように想像してきたのか、それを考えていくのが本講義である。

ところで、一度は貴女も神頼みをした経験があるに違いない。その「神」は、貴女の願いをいつも叶えてくれたらどうか。なぜか我々は触ることもみることもできない対象に心からの願いを伝え、時にお礼を言い、あるいは叶えてくれなかったことに意味をみいだすのである。これまでの長い人類の歴史において、「神」はどのような願いを頼まれてきたのだろうか。「神」と人はどのような関係を築いてきたのだろうか。難度の高そうなこうした問題を、皆さんと一緒に考えてみたいと思う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

本科目の履修にあたっては、「日本考古学」を履修済みであることを条件とする。

予習は必要ないが、生活のなかで出会った「弔う」や「祈る」「呪(まじな)う」を観察し、なぜその行為が必要とされているのか、どのような形で貴女の生活に関与しているか、等を折に触れ考えてみてほしい。

[授業計画]

1. ガイダンス+リアクションペーパーの書き方
2. 送りびと誕生
3. 生者と死者の離別
4. 黄泉国の成立
5. 現世に作り出された西方浄土
6. 俗なる互酬関係の拡張
7. 不可視の存在との対話①—呪(まじな)い—
8. 不可視の存在との対話②—占い—
9. 石に刻まれた祈り
10. 四神の伝来
11. 神と人とを取り持つ者
12. 土偶に込めた想い
13. まとめ

| | | | |
|---|-------------------------|----|-----|
| 科目名 | 日本考古学特殊講義Ⅰ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 「弔う」と「祈る」・「呪(まじな)う」の考古学 | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| <p>[成績評価方法] リアクションペーパー(50%)、試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 資料を配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] 土偶を読むを読む 著者名:望月昭秀編</p> <p>出版社:文学通信 (9784867660065) 生と死の考古学—縄文時代の死生観— 著者名:山田康弘 出版社:東洋書店 (9784885958076) 弥生人とまつり 著者名:石川日出志編 出版社:六興出版 (4845381095) 日本文学の歴史1 著者名:小林行雄ほか編 出版社:角川書店 中世石造物の研究—石工・民衆・聖— 著者名:山川 均 出版社:日本史史料研究会 (9784904315040)</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------------|----------------|------|
| 科目名 | 日本古代中世史 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 古代・中世の日本史とアジア史・世界史 | 講義 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 日本の古代・中世史の展開がアジア史・世界史の展開と密接に関連していることを理解する。</p> <p>[授業概要] 7～16世紀頃の日本の国際交流史をおもな素材としつつ、日本史とアジア史・世界史とのつながりを解説する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] すくなくとも高校の日本史・世界史教科書などにもう1度目を通したうえで授業に臨む。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 奈良時代以前の国際交流(1) 3. " (2) 4. 奈良時代の国際交流(1) 5. " (2) 6. " (3) 7. 平安時代の国際交流(1) 8. " (2) 9. " (3) 10. 鎌倉時代の国際交流(1) 11. " (2) 12. 日本列島南北縁辺の国際交流 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|--------------------|----|------|
| 科目名 | 日本古代中世史 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 古代・中世の日本史とアジア史・世界史 | 講義 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度30%・学期末試験70%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メール・manabaなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:学期末試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:学期末試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:学期末試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:学期末試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:学期末試験</p> <p>[教科書(ISBN)] なし、適宜レジュメを配布</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|---|----------------|------|
| 科目名 | 日本古文書学 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本古代・中世文書の様式と歴史的背景 | 講義 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | <small>実物大複製を利用したハンズON体験を通じて、互いの発見や知識を共有し、理解を深める姿勢を養う</small> | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 日本中世文書の歴史的特質を実例の検討を通じて考える力量を身につける。</p> <p>[授業概要] 本講義の目的は、日本中世文書の古典的成果でもある様式的変化とその歴史的背景を考察する。また、文書の作成および伝達過程の復原を試みる。特に古文書の伝来から読み取れる中世社会の特徴するに留意する。授業は、次のように構成する。①代表的な様式をもつ中世文書の写真版(テキスト)や原寸大複製を利用して、その解読を行い、その内容や様式的特徴を確認する。解読作業は受講生が分担して行う。②古文書学に必要な基礎的知識を身につける。なお、授業の理解度を確認する機会を適宜、設ける。 資料館・博物館の古文書展示を見学し、原文書の様態を学ぶ機会を設ける。また、近年整備された古文書群データベースも活用する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前、事後を問わず、テキスト・プリントなどを見直し、授業内容の理解を深め、疑問点を整理することを強く求める。 なお、この授業には、漢文を読む基礎知識とスキルが不可欠である。2回生で学修した内容を常に確認できるようにしておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス／古文書学とは何か 2. 公式様文書(1) 公式令と詔書・符・移 3. 公式様文書(2) 牒・解 4. 公家様文書(1) 宣旨・官宣旨(1) 5. 公家様文書(2) 官宣旨(2) 6. 公家様文書(3) 綸旨・御教書(1) 7. 公家様文書(4) 綸旨・御教書(2) 8. 武家様文書(1) 下文 9. 武家様文書(2) 下知状(1) 10. 武家様文書(3) 下知状(2) 裁許状を読む 11. 武家様文書(4) 御教書・奉書 12. 武家様文書(5) 直状・書下 13. 武家様文書(5) 印判状 | | | |

| | | | |
|--------|--------------------|----|------|
| 科目名 | 日本古文書学 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本古代・中世文書の様式と歴史的背景 | 講義 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |

[成績評価方法]

定期試験(70%)

受講に対する取り組み、授業中の発表およびテーマ毎の小レポートまたは小テスト(30%)
博物館などでの古文書見学のレポート評価を加味する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

小レポートの内容を共有化して、履修者が相互に理解を深め合えるように努める。また、学期末末試験は、講評をmanabaに掲載して、今後の学びの課題を提示する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

演習古文書選 様式編 著者名: 日本歴史学会編 出版社: 吉川弘文館 (9784640000000)

新版古文書学入門 著者名: 佐藤進一著 出版社: 法政大学出版局 (9784588320118)

[参考書(ISBN)]

中世の古文書入門 著者名: 小島道裕 出版社: 河出書房新社 (9784309226859)

日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法 著者名: 日本史史料研究会監修・苅米一志著 出版社: 吉川弘文館 (9784642084352)

| | | | |
|--|---------------|----------------|------|
| 科目名 | 日本古文書学Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本中世の古文書を読み解く | 講義 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 日本中世文書の歴史的特質を、実例の検討を通じて考える力量を身につける。 歴史資料論の課題を考える力を身につける。</p> <p>[授業概要] 本講義の目的は、実例の検討を通じて、日本中世文書の歴史的特質を認識することにある。その際、資料学における古文書の位置づけを確認する上で、伝来の状況やその理由を検討する。特に古文書の伝来から読み取ることのできる中世社会の特徴に留意する。 授業は、次のように構成する。① 代表的な様式をもつ中世文書の写真版(テキスト)や原寸大複製を利用して、その解読を行い、その内容や様式的特徴を確認する。解読作業は受講生が分担して行う。② 古文書学に必要な基礎的知識を身につける。なお、授業の理解度を確認する機会を適宜、設ける。 資料館・博物館の古文書展示を見学し、原文書の様態を学ぶ機会を設ける。また、近年整備された古文書群データベースも活用する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前、事後を問わず、テキスト・プリントなどを見直し、授業内容の理解を深め、疑問点を整理することを強く求める。 なお、この授業には、漢文を読む基礎知識とスキルが不可欠である。これまで学修した内容を常に確認できるようにしておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 上申文書(1) 解状・訴陳状 3. 上申文書(2) 紛失状／請文・請取状 4. 上申文書(3) 起請文 5. 上申文書(4) 着到状／軍忠状 6. 証書類(1) 譲状 7. 証書類(2) 売券(1) 8. 証書類(3) 売券(2) 9. 証書類(4) 借用状 10. 寺院文書 11. 紙背文書 12. 外交文書／中国・朝鮮の文書 13. 文書の保管・廃棄 | | | |

| | | | |
|---|---------------|----|------|
| 科目名 | 日本古文書学Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本中世の古文書を読み解く | 講義 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| <p>[成績評価方法] 定期試験(70%) 授業中の発表およびテーマ毎の小レポートまたは小テスト(30%) 博物館などでの古文書見学のレポート評価を加味する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小レポートの内容を共有化して、履修者が相互に理解を深め合えるように努める。また、定期試験は、講評をmanabaに掲載して、今後の学びの課題を提示する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身に付け、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 演習古文書選 様式編 著者名:日本歴史学会編 出版社:吉川弘文館(9784642070584) 新版 古文書学入門 著者名:佐藤進一著 出版社:法政大学出版局(9784588320118)</p> <p>[参考書(ISBN)] 中世の古文書入門 著者名:小島道裕著 出版社:河出書房新社(9784309226859) 日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法 著者名:日本史史料研究会監修・苅米一志著 出版社:吉川弘文館(9784642082730)</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 日本史特殊講義 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 硫黄流通史研究の諸問題 | 講義 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 日本史がアジア各地の歴史と連動して展開していたことを理解する</p> <p>[授業概要] 日本列島産硫黄のアジアにおける流通史を主軸としつつ、硫黄というモノからみた「日本史」と「アジア史」のつながりを考えていく</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 配布されたレジュメや資料に事前に眼を通したうえで授業に臨む</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 10～13世紀における日本列島産硫黄の流通(1) 3. " (2) 4. " (3) 5. " (4) 6. " (5) 7. 14～16世紀における日本列島産硫黄の流通(1) 8. " (2) 9. " (3) 10. " (4) 11. 汎アジア的な硫黄流通の状況(1) 12. " (2) 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|-------------|----|------|
| 科目名 | 日本史特殊講義 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 硫黄流通史研究の諸問題 | 講義 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度(30%)および学期末試験(70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:受講態度および学期末試験の成績を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:受講態度および学期末試験の成績を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:受講態度および学期末試験の成績を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:受講態度および学期末試験の成績を総合的に評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度および学期末試験の成績を総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:受講態度および学期末試験の成績を総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:受講態度および学期末試験の成績を総合的に評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし、適宜レジュメ・資料を配布する 著者名:— 出版社:— (—)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 著者名:— 出版社:— (—)</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----------------|------|
| 科目名 | 日本史特殊講義Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 中世の対馬＝朝鮮関係史 | 講義 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>研究文献と史料の所在を確認するため、図書館を 使いこなす力量を養う</small> | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 中世日本の対外関係や海域アジア史について説明できる。 任意の課題について調査し、文章にまとめることで、歴史研究の方法を身につける。</p> <p>[授業概要] 日朝間の境界の島である対馬を取り上げ、中世の対馬＝朝鮮関係史を検討する。合わせて対馬にみられる「日本社会」を検証し、境界の島としての両面性を考える。 なお、講義では漢文体の史料(日本、朝鮮)や考古資料・美術品など多様な史料・資料を使用する。漢文を読む基礎知識とスキルを身に着けていること(または身に着けようとする意欲をもっていること)が望ましい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業各回に関する教科書の該当箇所を指示するので、事前に読んで、授業に臨む。授業で紹介した参考書を積極的に読む。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス／古代の対馬と朝鮮半島 2. 対馬と高麗 ―刀伊の入寇と進奉船― 3. 対馬と蒙古襲来 4. 対馬の年中行事・神事・仏事 ―日本列島社会との関係(1)― 5. 対馬の生業と年貢・公事 ―日本列島社会との関係(2)― 6. 対馬と前期倭寇 7. 対馬と朝鮮王朝 ―通交関係の成立― 8. 応永の外寇 ―対馬島の帰属― 9. モノが語る交流 10. 対馬と三浦の倭人 11. 偽使派遣体制の形成 12. 後期倭寇／対馬の朝鮮通交独占 13. 壬辰戦争(倭乱)と対馬</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------------|----|------|
| 科目名 | 日本史特殊講義Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 中世の対馬＝朝鮮関係史 | 講義 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |

[成績評価方法]

レポート: (70%)

平常点: 講義内容に関するコメント(30%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

manabaレポートのコメント機能を使用。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

対馬と倭寇 一境界に生きる中世びと一 著者名: 関周一 出版社: 高志書院 (9784862151148)

[参考書(ISBN)]

日朝関係史 著者名: 関周一編 出版社: 吉川弘文館 (9784642083089)

| | | | |
|---|-------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 日本史特殊講義VI | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 触を通して見た近世支配の特質—発給・回達・周知の側面から— | 講義 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>本講義では、①近世においては、為政者の意志表示の基本的な方法として、触(ふれ)の発給・回達という手段が用いられていたことを理解する、②近世畿内近国地域における各種の触の具体的なあり方について理解する、③村や町における触の内容の周知方法について理解する、④近世支配研究の方法として触伝達を取り上げることの有効性について理解する、の4点を到達目標とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>近世において、為政者が被支配者に対して支配を行う際、最も一般的にとられた意思表示の手段は触(ふれ)の発給と回達であった。触は、幕府や領主(大名・旗本など)の役所で発給され、村から村へ、あるいは町から町へと回覧板を回すように回達された。触の検討を行うことは、近世支配の特質を解明する上で極めて有効であるといえる。本講義では、畿内近国地域において支配を展開していた幕府や領主が、どのように触を発給・回達していたのか、また村や町に回達された触がそれぞれの構成員にどのように周知されたのかを検討し、近世における支配の特質を解明する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>折に触れ、日本近世の支配について触れた文献を読むこと。読書時間は週4時間程度を目安とする。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.課題と方法 2.近世畿内近国地域における所領構成の特徴 3.近世畿内近国地域における領主交代 4.二種の支配—個別領主支配と広域支配— 5.支配の意思表示手段としての触 6.触の発給 7.触の伝達方式 8.触の書き留められ方 9. 触留帳と触写帳 10.触の村構成員への周知方法 11.触の町構成員への周知方法 12.触を用いた支配の終焉 13.まとめ | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------|----|------|
| 科目名 | 日本史特殊講義VI | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 触を通して見た近世支配の特質—発給・回達・周知の側面から— | 講義 | |
| 担当者 | 村田 路人 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度30%、期末試験70%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 履修生は、毎回manabaの小テスト機能を用いてその日の授業内容について質問や感想を書く。教員は次の授業の中で、質問に答える。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に適宜紹介する</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------|----------------|------|
| 科目名 | 日本史特殊講義Ⅶ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 近代日本の軍隊と地域社会 | 講義 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 日本近現代史に関する専門講義を通して歴史研究のプロセスを理解し、自らが研究を実践していこうとする意欲を持つに到ることが目標となる。</p> <p>[授業概要] 特殊講義とは、教員自身が現在進めている研究内容を披露することによって、受講者が卒業論文を作成するにあたって、有意義な方法論や視角が身につくことをめざして開講する専門性の高い講義である。受講者はそうした意識を持って出席しなければならない。この特殊講義Ⅶでは、陸海軍の立地とそれをめぐる都市形成のありかたについて講じる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 高度に専門的な講義を受講して、自らも学術論文(卒論)の作成に向けて臨もうとする意欲を身につけておくことが求められる。各回、予習復習合わせて4 時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近代日本政治史の現状と課題 2. 近代史研究上の史料 3. 陸海軍の編制 4. 城跡と陸軍 5. 軍隊の誘致と都市形成 6. 日清戦後の軍拡 7. 軍隊誘致をめぐる秋田県の状況 8. 軍隊誘致と都市形成 i 9. 軍隊誘致をめぐる各地の状況 10. 軍隊誘致と都市形成 ii 11. 大正・昭和期の諸問題 12. 戦後の再軍備と警察予備隊 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--------|--------------|----|------|
| 科目名 | 日本史特殊講義Ⅶ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 近代日本の軍隊と地域社会 | 講義 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |

[成績評価方法]

試験による(100%)。なお、教科書、手書きノート、配布プリントの持ち込みを許可する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

毎回の出席カードにおいて質問を受け付け、次回授業時の冒頭で答える。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法:試験

学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法:試験

学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法:試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:試験

[教科書(ISBN)]

『軍隊を誘致せよ—陸海軍と都市形成』 著者名:松下孝昭 出版社:吉川弘文館(978-4-642-05770-7)

[参考書(ISBN)]

なし

| | | | |
|---|--------------|----------------|------|
| 科目名 | 日本史料講読 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本古代の漢文史料を読む | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 漢文史料の読み方の基礎を習得するとともに、史料にもとづいて歴史を復元していく手法を学ぶ。</p> <p>[授業概要] 8～12世紀頃の漢文史料を講読する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 受講者全員が、必ず訓読・現代語訳の予習をして、授業に出席する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 史料解題(1) 2. 史料解題(2) 3. 漢文入門(1) 4. 漢文入門(2) 5. テキスト講読(1) 6. テキスト講読(2) 7. テキスト講読(3) 8. テキスト講読(4) 9. テキスト講読(5) 10. テキスト講読(6) 11. テキスト講読(7) 12. テキスト講読(8) 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--------|--------------|----|------|
| 科目名 | 日本史料講読 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本古代の漢文史料を読む | 演習 | |
| 担当者 | 山内 晋次 | | |

[成績評価方法]

受講態度30%・学期末試験70%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業・メール・manabaなどを通じておこなう。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。

成績評価方法:学期末試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:学期末試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:学期末試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:学期末試験

[教科書(ISBN)]

なし、テキストなどのコピーを適宜配布する

[参考書(ISBN)]

なし

| | | | |
|---|--|----------------|------|
| 科目名 | 日本史料講読Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本中世の漢文史料を読む | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>図書館を利用し、ふさわしい辞書類や参考文献の所在を確認する</small> | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 漢文史料に返り点を打ち、読み下し文を作成し、大意を読みとる方法を身につける。</p> <p>[授業概要] 中世の日記を読むことにより、日本中世独特の変体漢文を読み解く訓練をする。あわせて中世社会の仕組みや規範・人々の様々な生活習慣や行動様式等について学んでいきたい。テキストは、貞成親王(さだふさしんのう)『看聞日記』(かんもんにつき)を使用する。同書は、政治・経済・社会・文化・対外関係など多方面にわたる豊富な内容が記されている。 まず変体漢文に慣れることから始めて、文意を正しく理解するために必要な基礎的知識と技能を獲得するための基礎力をトレーニングする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 講読テキストの予習・復習を欠かさず実施すること。その際、『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』を活用して、漢文や古文の基礎知識を常に確認し、読み解く力を自ら身につけるように取り組むこと。中世の様々な文化遺産に関心を寄せ、事前・事後の学びを通して歴史上の興味を培うこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中世史料の所在と特徴(講義) 2. 日記と変体漢文／『看聞日記』の世界(講義) 3. 『看聞日記』の講読① 4. 『看聞日記』の講読② 5. 『看聞日記』の講読③ 6. 『看聞日記』の講読④ 7. 『看聞日記』の講読⑤ 8. 『看聞日記』の講読⑥ 9. 『看聞日記』の講読⑦ 10. 『看聞日記』の講読⑧ 11. 『看聞日記』の講読⑨ 12. 『看聞日記』の講読⑩ 13. 『看聞日記』の講読⑪／まとめ | | | |

| | | | |
|---|--------------|----|------|
| 科目名 | 日本史料講読Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 日本中世の漢文史料を読む | 演習 | |
| 担当者 | 関 周一 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の口頭発表(50%) 学期末試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時の口頭指導や、学期末試験を対面形式またはmanabaを通じて講評を行ない、各自の課題を認識させる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法 著者名: 日本史史料研究会監修・苅米一志著 出版社: 吉川弘文館(9784642082730) 宮内庁書陵部編『図書寮叢刊 看聞日記 一』(明治書院、2002年)の該当箇所のコピーを配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 古記録入門 増補改訂版 著者名: 高橋秀樹著 出版社: 吉川弘文館(9784642084352)</p> | | | |

| | | | |
|--|---------|----------------|------|
| 科目名 | 日本史料講読Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 近世史料の読解 | 演習 | |
| 担当者 | 尾崎 真理 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>以下の4点を到達目標とする。</p> <p>①基本的な近世史料を読解する能力を身につける。</p> <p>②各種辞書・事典類や関連文献の利用方法など、近世史料を読解するための方法を身につける。</p> <p>③史料から歴史学に関わる課題を設定し、それを自身で解く能力を身につける。</p> <p>④受講生の前で、自身の史料読解の結果や課題分析の結果をわかりやすく発表する能力を身につける。</p> <p>[授業概要]</p> <p>受講生の報告形式により、江戸幕府が出した法令を、法令発布者の意図および当時の社会状況に留意しつつ厳密に読んでいく。課題とした幕府法令について、①読み下し文、②他の文献に収録された同一法令との文言の異同、③語句の意味、④現代語訳、⑤法令発布の背景と結果、⑥当該法令に関わる任意のテーマについての解説、を記したレジュメを全員に配布し、①～⑥の順に報告を行う。授業では、①～⑥の各段階ごとに、授業参加者全員で議論する。報告担当者は法令の一部を担当するが、全受講生が①～④について準備をしておき、授業に臨む。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>全受講生が、取り上げる予定の法令に関して、上記「授業概要」に記した①～④については必ず事前に準備をしておかねばならない。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(授業の進め方、辞書の利用方法等についての説明) 2. 図書館書庫および史学科資料室架蔵文献の案内 3. 江戸幕府法令の読解1 4. 江戸幕府法令の読解2 5. 江戸幕府法令の読解3 6. 江戸幕府法令の読解4 7. 江戸幕府法令の読解5 8. 江戸幕府法令の読解6 9. 江戸幕府法令の読解7 10. 江戸幕府法令の読解8 11. 江戸幕府法令の読解9 12. 江戸幕府法令の読解10 13. 江戸幕府法令の読解11 | | | |

| | | | |
|--------|---------|----|------|
| 科目名 | 日本史料講読Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 近世史料の読解 | 演習 | |
| 担当者 | 尾崎 真理 | | |

[成績評価方法]

提出レポート(担当する法令について①～⑥を記したレジュメ)の内容70%、受講態度30%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

授業中にプリントを配布する。

[参考書(ISBN)]

授業中に適宜紹介する。

| | | | |
|---|----------|----------------|------|
| 科目名 | 日本史料講読Ⅳ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 近現代史料の読解 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 日本近現代史に関する史料の解読能力を身につけることが目標である。活字のテキストはもとより、くずし字で書かれた原文書もある程度読めるようになることをめざす。</p> <p>[授業概要] 毎回プリントを配布し、受講者をあてて音読させる。テキストには『原敬日記』を用いるが、適宜他の史料も加え、さまざまなタイプの史料に接することができるように工夫する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日本近現代史に関する史料に高い関心を持ち、自らくずし字辞典に触れながら解読に努めようとする姿勢が求められる。各回、予習復習合わせて4 時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本近現代史料の所在(講義) 2. 日本近現代史料の特質(講義) 3. 原敬について(講義) 4. 原敬日記の講読1 5. 原敬日記の講読2 6. 原敬日記の講読3 7. 原敬日記の講読4 8. 中間的なまとめ 9. 他の関連史料の講読1 10. 他の関連史料の講読2 11. 他の関連史料の講読3 12. 他の関連史料の講読4 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--------|----------|----|------|
| 科目名 | 日本史料講読Ⅳ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 近現代史料の読解 | 演習 | |
| 担当者 | 松下 孝昭 | | |

[成績評価方法]

試験(80%)、受講状況(20%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業終了後やオフィスアワーの時間を利用して適宜フィードバックする。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。

成績評価方法:試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:試験

[教科書(ISBN)]

毎回プリントを配布する。

[参考書(ISBN)]

なし

| | | | |
|--------|-------|----|------|
| 科目名 | 日本民俗学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 民俗学入門 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|---|----------------|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

民俗学の先人の研究に学びながら、そこに受講生自らの「問い」を見出してもらうことを講義の到達目標とする。

[授業概要]

民俗学とは、人々の日常生活の中から「問い」を見出し、日常生活を少しでも明るく生きがいのあるものにするためにはどうすればよいか、を考える学問である。その入門に当たるこの講義では、民俗学で扱う分野を概観しながら、現代に生きるわれわれにとっての民俗学の意義を問いかけていく。古い習慣や伝統のあり方を検討するのも、われわれがよりよい未来を拓くための拠点を見出すためなのである。先人の研究に学びながら、そこに受講生自らの「問い」を見出してもらうことを目指して講義を進める。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

配付プリントおよび授業中に指摘する関連文献にもとづいて、予習・復習を進めること。
(各回、予習・復習合わせて4時間程度)

[授業計画]

1. 民俗学の歴史
2. 「民俗」とは何か
3. 『遠野物語』の誕生—百年前の日本—
4. 『遠野物語』の世界
5. 家の問題—家族の葛藤、家の盛衰—
6. 河童伝承とムラ社会
7. 妖怪とは何か
8. 来訪神と小正月
9. 沖縄の来訪神儀礼と「はじまりの芸能」
10. 女性と民間信仰
11. 韓国の家族と親族—比較の視点から—
12. 日本列島の文化の位置づけ
13. まとめ

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 日本民俗学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 民俗学入門 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験(80%)と受講態度(20%)を総合して評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業コメント</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>[教科書(ISBN)] プリントを配付</p> <p>[参考書(ISBN)] 遠野物語一付・遠野物語拾遺 著者名:柳田國男 出版社:角川学芸出版(角川ソフィア文庫)(978-4043083206)</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------|----|------|
| 科目名 | 日本民俗学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 民俗学入門 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|---|----------------|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

民俗学の先人の研究に学びながら、そこに受講生自らの「問い」を見出してもらうことを講義の到達目標とする。

[授業概要]

民俗学とは、人々の日常生活の中から「問い」を見出し、日常生活を少しでも明るく生きがいのあるものにするためにはどうすればよいか、を考える学問である。その入門に当たるこの講義では、民俗学で扱う分野を概観しながら、現代に生きるわれわれにとっての民俗学の意義を問いかけていく。古い習慣や伝統のあり方を検討するのも、われわれがよりよい未来を拓くための拠点を見出すためなのである。先人の研究に学びながら、そこに受講生自らの「問い」を見出してもらうことを目指して講義を進める。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

配付プリントおよび授業中に指摘する関連文献にもとづいて、予習・復習を進めること。
(各回、予習・復習合わせて4時間程度)

[授業計画]

1. 民俗学の歴史
2. 「民俗」とは何か
3. 『遠野物語』の誕生—百年前の日本—
4. 『遠野物語』の世界
5. 家の問題—家族の葛藤、家の盛衰—
6. 河童伝承とムラ社会
7. 妖怪とは何か
8. 来訪神と小正月
9. 沖縄の来訪神儀礼と「はじまりの芸能」
10. 女性と民間信仰
11. 韓国の家族と親族—比較の視点から—
12. 日本列島の文化の位置づけ
13. まとめ

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 日本民俗学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 民俗学入門 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験(80%)と受講態度(20%)を総合して評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業コメント</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>[教科書(ISBN)] プリントを配付</p> <p>[参考書(ISBN)] 遠野物語一付・遠野物語拾遺 著者名:柳田國男 出版社:角川学芸出版(角川ソフィア文庫)(978-4043083206)</p> | | | |

| | | | |
|--|------------|----------------|------|
| 科目名 | 日本民俗学資料研究Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 秋・冬の年中行事 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 年中行事の学習、見学をとおして、民俗学の視点と研究方法を身につけることを到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 民俗学は実地調査をおこなうことによって、自分なりの現場に対する実感を育て、その実感をもとにして、いろいろな資料を読み込んで考えていく学問である。この実習では、秋と冬の年中行事に注目して、現在のような年中行事がおこなわれるようになった経緯を学習するとともに、実際の年中行事の現場を訪ねて調査実習をおこなう。現場を訪ねながら資料を読むという民俗学の研究のスタイルを身につけることが、この実習の到達目標である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 配付資料にもとづいて予習・復習をおこなうこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学と民俗調査 2. 年中行事とは何か 3. 秋祭りについて 4. 民俗学関係博物館展示の見学(学外実習) 5. 民俗行事と地域社会 6. 神社と民俗 7. 稲荷信仰について 8. 神社関係行事の調査(学外実習) 9. 来訪神について 10. 仏教と民俗 11. 寺院関係行事の調査(学外実習) 12. お正月の民俗 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|------------|----|------|
| 科目名 | 日本民俗学資料研究Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 秋・冬の年中行事 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| <p>[成績評価方法] 平常点(40%)とレポート(60%)を合わせて評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:学習態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:学習態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 『英語対訳で読む日本のしきたり』 著者名:新谷 尚紀(監修, 監修), Andrew P. Bourdelais(翻訳) 出版社:実業之日本社(978-4408107745)</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 日本民俗学特殊講義 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 異類婚姻譚と人間社会 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>人間と人間以外の者との婚姻を語る異類婚姻譚の考察をとおり、人間の文化のありようを考えるとともに、日本文化の基底にあるものの特徴を把握し、それが現代人にとってどのような意味を持つのかを自分なりに捉える。</p> <p>[授業概要]</p> <p>この授業では、口承の昔話を中心にしながら、古典文学、江戸時代の怪談、近現代の小説、創作童話、現代アニメなどにも視野を広げて、異類婚姻のモチーフを持つ物語を具体例に即して考察していく。地域的には日本本土の伝承を軸としながら、アイヌの伝承、朝鮮半島の伝承、中国の伝承、そしてヨーロッパの伝承、世界各地の先住民の伝承にまで視野を広げていく。</p> <p>考察の中心は、異類婚姻から見える人間社会のありようであり、特にジェンダーやルッキズムの様相に切り込んでいく。考察のテーマとしては「異類の排除」「見るなの禁止」「変身」を取りあげ、それが現代に生きる我々にどのような関わりを持つかを共に考えていきたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>指示にしたがって、配付資料の予習、復習をしておくこと。 (各回、予習・復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異類婚姻譚とは何か 2. 動物の女房① 3. 動物の女房② 4. 動物の夫 5. 水界の者との婚姻 6. 天界の者との婚姻 7. 異形の女房 8. 異形の夫 9. 日本の異類婚姻譚の特徴 10. 「異なるもの」の排除 11. 「見るなの禁止」をめぐって 12. 「変身」をめぐって 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--------|-------------|----|------|
| 科目名 | 日本民俗学特殊講義 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 異類婚姻譚と人間社会 | 講義 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |

[成績評価方法]

試験(80%)と受講状況(20%)を総合して評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法:試験

学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法:試験

学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法:試験

学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法:試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:受講状況

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:試験

[教科書(ISBN)]

ツレが「ひと」ではなかった 異類婚姻譚案内 著者名:川森 博司 出版社:淡交社 (978-4473045713)

[参考書(ISBN)]

なし

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 入門演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 文献の調べ方、専門書や論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法およびレポートの書き方などを学び、大学での勉学の基盤を整えることを到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 少人数でのゼミ形式の授業を通して、図書館の利用方法、文献の調べ方、専門書や専門論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法などを学び、新入生が大学での勉学のスタートを切るための入門的授業とする。あわせて学外での臨地実習なども適宜取り入れる。大学における歴史学の勉強は単なる暗記物ではなく、みずから調べて発表することが中心となるので、この入門演習への積極的な参加が求められる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 図書館の歴史コーナーにどのような図書が架蔵されているか、できる限り頻繁に足を運び、全体の概要を自分なりに確認しておくことが望ましい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 図書館の使い方 3. 資料検索の実際 4. 学外実習(実施日は各ゼミで決定する) 5. テキストの輪読(1) 6. テキストの輪読(2) 7. テキストの輪読(3) 8. テキストの輪読(4) 9. テキストの輪読(5) 10. 学外実習の成果発表に向けて 11. 学外実習の成果発表(履修者全員で実施する) 12. 学外実習の成果発表 今後の課題 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 入門演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対する講評をmanabaレポートのコメント機能を利用して行うとともに、複数教員からの建設的コメントも得られるように工夫する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[教科書(ISBN)] 歴史学入門 新版 著者名:福井憲彦 出版社:(岩波書店)2019年 (9784000000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。適宜指示する。</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------|----|------|
| 科目名 | 入門演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 歴史学入門 | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|---|----------------|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

文献の調べ方、専門書や論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法およびレポートの書き方などを学び、大学での勉学の基盤を整えることを到達目標とする。

[授業概要]

少人数でのゼミ形式の授業を通して、図書館の利用方法、文献の調べ方、専門書や専門論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法などを学び、新入生が大学での勉学のスタートを切るための入門的授業とする。あわせて学外での臨地実習なども適宜取り入れる。大学における歴史学の勉強は単なる暗記物ではなく、みずから調べて発表することが中心となるので、この入門演習への積極的な参加が求められる。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

附属図書館の歴史コーナーにどのような図書が架蔵されているか、できる限り頻繁に足を運び、全体の概要を自分なりに確認しておくことが望ましい。

[授業計画]

1. 授業ガイダンス
2. 図書館の使い方
3. 資料検索の実際
4. 学外実習(実施日は各ゼミで決定する)
5. テキストの輪読(1)
6. テキストの輪読(2)
7. テキストの輪読(3)
8. テキストの輪読(4)
9. テキストの輪読(5)
10. 学外実習の成果発表に向けて
11. 学外実習の成果発表(履修者全員で実施する)
12. 学外実習の成果発表 今後の課題
13. まとめ

| | | | |
|--------|-------|----|------|
| 科目名 | 入門演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 歴史学入門 | 演習 | |
| 担当者 | 鈴木 宏節 | | |

[成績評価方法]

受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

課題に対する講評をmanabaレポートのコメント機能を利用して行うとともに、複数教員からの建設的コメントも得られるように工夫する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

[教科書(ISBN)]

『歴史学入門 新版』 著者名:福井憲彦 出版社:(岩波書店)2019年 (9784000000000)

[参考書(ISBN)]

適宜指示する。

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 入門演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 文献の調べ方、専門書や論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法およびレポートの書き方などを学び、大学での勉学の基盤を整えることを到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 少人数でのゼミ形式の授業を通して、図書館の利用方法、文献の調べ方、専門書や専門論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法などを学び、新入生が大学での勉学のスタートを切るための入門的授業とする。あわせて学外での臨地実習なども適宜取り入れる。大学における歴史学の勉強は単なる暗記物ではなく、みずから調べて発表することが中心となるので、この入門演習への積極的な参加が求められる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 図書館の歴史コーナーにどのような図書が架蔵されているか、できる限り頻繁に足を運び、全体の概要を自分なりに確認しておくことが望ましい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 図書館の使い方 3. 資料検索の実際 4. 学外実習(実施日は各ゼミで決定する) 5. テキストの輪読(1) 6. テキストの輪読(2) 7. テキストの輪読(3) 8. テキストの輪読(4) 9. テキストの輪読(5) 10. 学外実習の成果発表に向けて 11. 学外実習の成果発表(履修者全員で実施する) 12. 学外実習の成果発表 今後の課題 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 入門演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 川森 博司 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対する講評をmanabaレポートのコメント機能を利用して行うとともに、複数教員からの建設的コメントも得られるように工夫する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 『歴史学入門 新版』 著者名:福井憲彦 出版社:(岩波書店)2019年 (978-4-00-028921-4)</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜指示する。</p> | | | |

S53005 [LHH1-011]

| | | | |
|----------------|-------|----------------|------|
| 科目名 | 入門演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

文献の調べ方、専門書や論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法およびレポートの書き方などを学び、大学での勉学の基盤を整えることを到達目標とする。

[授業概要]

少人数でのゼミ形式の授業を通して、図書館の利用方法、文献の調べ方、専門書や専門論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法などを学び、新入生が大学での勉学のスタートを切るための入門的授業とする。あわせて学外での臨地実習なども適宜取り入れる。大学における歴史学の勉強は単なる暗記物ではなく、みずから調べて発表することが中心となるので、この入門演習への積極的な参加が求められる。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

附属図書館の歴史コーナーにどのような図書が架蔵されているか、できる限り頻繁に足を運び、全体の概要を自分なりに確認しておくことが望ましい。

[授業計画]

1. 授業ガイダンス
2. 図書館の使い方
3. 資料検索の実際
4. 学外実習(実施日は各ゼミで決定する)
5. テキストの輪実読(1)
6. テキストの輪読(2)
7. テキストの輪読(3)
8. テキストの輪読(4)
9. テキストの輪読(5)
10. 学外実習の成果発表に向けて
11. 学外実習の成果発表(履修者全員で実施する)
12. 学外実習の成果発表 今後の課題
13. まとめ

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 入門演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 吉村 真美 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対する講評をmanabaレポートのコメント機能を利用して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[教科書(ISBN)] 歴史学入門 新版 著者名:福井憲彦 出版社:(岩波書店)2006年 (9784000000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜指示する。</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 博物館資料論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 松岡 千寿 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>①博物館における資料の収集・保管・調査研究についての基礎的知識を身につけることができる。</p> <p>②博物館資料の取り扱い方や整理方法などの技術・能力を習得することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>博物館に勤務する専門職員(学芸員)にとって、資料の収集・保存・公開・展示・活用・調査研究は、基本となる仕事である。そのなかで博物館資料は、博物館の基本的な要素であり、博物館は資料がなければ成り立たない。本講義では、博物館資料の概念を示し、資料の収集・取り扱い方・整理・調査研究などの基本事項を学び、資料の役割を深く理解することをめざす。学芸員の経験を有する教員が、その経験を活かし、実際の博物館資料を用いて実践的な技能の習得も行う。なお、本講義では博物館現地学習も行う予定である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>博物館資料に関する多くの知識を身につけるため、教科書の該当ページや講義中に配布した資料を読み返すなど、復習を心がけてください。余暇などを利用して博物館を訪れてください。予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(博物館資料論の概要) 2. 博物館資料とは(モノから資料へ) 3. 3～4の間で1回学外研修(博物館見学) 4. 3～4の間で1回学外研修(博物館見学) 5. 博物館資料の収集(収集の理念と方法) 6. 博物館資料の分類と整理(分類方法と収蔵) 7. 7～8の間で1回学外研修(博物館見学) 8. 7～8の間で1回学外研修(博物館見学) 9. 博物館資料の調査研究(保存と研究、それぞれの視点) 10. 10～11の間で1回学外研修(博物館見学) 11. 10～11の間で1回学外研修(博物館見学) 12. 博物館資料の取り扱い(1)(調書作成) 13. 博物館資料の取り扱い(2)(調書作成) <p>※学外研修として、特色ある博物館見学を複数回行います。学外研修の出席は必須とします。</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 博物館資料論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 松岡 千寿 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題とワークショップ(50%)、レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中の課題・ワークショップやレポートについては、授業の中で講評を加える。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 『新時代の博物館学』ほか適宜プリントを配布する。 著者名:全国大学博物館学講座協議会西日本支部編 出版社:芙蓉書房出版</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 博物館概論 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 松岡 千寿 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>①博物館に関する基礎的な知識を理解し、専門職としての学芸員の基礎能力を養う。 ②博物館を取り巻く現状と求められる役割について知る。</p> <p>[授業概要]</p> <p>博物館は資料の収集保存、調査研究、展示、教育普及活動など多岐にわたる業務・事業を行なっている。本講義では、学芸員の経験を有する教員が、博物館に関する法令、諸制度などの基礎知識を現場の実例をもとに紹介し、博物館に関わる様々な事象について多角的に捉えていく。 また、博物館の歴史的経緯と現代における課題を理解し、これからの博物館を積極的に考える視点を提供する。 なお、本講義では博物館現地学習も行う予定である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>新聞やインターネットなどを通して、文化教育一般、博物館関係の記事のリサーチにつとめ、余暇などを利用して博物館を訪れてください。予習復習を合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(学芸員養成課程の概要) 2. 博物館の歴史(1)(海外) 3. 3～4の間で1回学外研修(博物館見学) 4. 3～4の間で1回学外研修(博物館見学) 5. 博物館の歴史(2)(日本) 6. 博物館とは何か(1)(定義・法令) 7. 7～8の間で1回学外研修(博物館見学) 8. 7～8の間で1回学外研修(博物館見学) 9. 博物館とは何か(2)(種類・目的) 10. 10～11の間で1回学外研修(博物館見学) 11. 10～11の間で1回学外研修(博物館見学) 12. 学芸員の仕事(博物館を支える人々) 13. 博物館の役割(資料保存や社会とのかかわり) <p>※学外研修として、特色ある博物館見学を複数回行います。学外研修の出席は必須とします。</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 博物館概論 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 松岡 千寿 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題とワークショップ(50%)、レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中の課題・ワークショップやレポートについては、授業の中で講評を加える。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 『新時代の博物館学』ほか適宜プリントを配布する 著者名: 全国大学博物館学講座協議会西日本支部編 出版社: 芙蓉書房出版 (ISBN-10: 4829505516 ISBN-13: 978-4829505519)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 博物館教育論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 深井 明比古 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>1.博物館における教育プログラムや教育普及の特徴を理解し、基礎的知識を学ぶ。 2.博物館教育の現状を把握し、課題の整理・解決のため、企画検討や実施技術を養う。</p> <p>[授業概要]</p> <p>近年、歴史文化遺産への興味や継承が低下傾向にある中で、博物館が社会との接点を繋ぐ役割が期待されており、博物館教育が重要視されている。 この講義では博物館教育の在り方について歴史系の博物館を例に、博物館と利用者の双方向の活動の必要性や教育活動の現状を的確に把握し、基礎的知識・思考法等を学ぶとともに、課題解決に向けた企画検討法を学ぶ。 授業中に学外実習として、兵庫県立考古博物館等において、博物館教育活動の現状を把握する。後半には博物館学習プログラムの作成についてレポートを作成するとともに、発表・評価によるコミュニケーションの向上と成果の共有を図る。 ※学外実習は兵庫県立考古博物館等において、1日に2コマ分を土曜日もしくは日曜日に実施する。その際、入館料等の負担が必要。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業開始前に博物館・美術館等に出向き、十分な時間を費やし、展示等の事業内容や課題を整理し、説明できるようにしておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、博物館のイメージや課題 2.博物館の教育機能と役割 3.博物館教育・学校教育・生涯学習の比較 4.博物館教育活動の在り方 5.来館者のニーズと博物館活動 6.博物館教育プログラムの企画と実施、博物館ボランティア養成と役割(1) 7.博物館ボランティア養成と役割(2)、まとめ、学外実習事前説明 8.博物館教育活動の現状(学外実習1) 9.博物館教育活動の現状(学外実習2) 10.博物館ボランティア養成と役割(3)、課題解決のための博物館学習プログラム(レポート)の作成 11.博物館学習プログラム発表・批評1 12.博物館学習プログラム発表・批評2 13.博物館学習プログラム発表・批評3、講評、博物館教育の深化と展望 | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 博物館教育論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 深井 明比古 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業態度・発言(20%)、試験(30%)、プログラム作成と発表・批評(50%)により評価</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 『新時代の博物館学』ほか適宜プリントを配布する 著者名:全国大学博物館学講座協議会西日本支部編 出版社:芙蓉書房出版</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

S54005 [LHI2-001]

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 博物館経営論 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 福田 和浩 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] ミュージアムマネジメントの方法と目的、背景となる制度について知り、現状の運営実態とその課題を理解する。現代社会における博物館の存在意義を経済的側面のみならず、教育・福祉・社会的課題など、多様な側面からの視点を持ち、課題解決について考える能力を身に付けることを目標とする。</p> <p>[授業概要] 現役の学芸員である教員が、現場の視点から博物館を取り巻く課題と新しい取り組みを紹介しながら、博物館経営の目的と意義を考えていく。博物館特有の運営体制やマーケティング、広報戦略と情報発信の意義を理解し、博物館を経済社会の中に位置付けるとともに、その存在意義と提供すべきサービスを考える。利用者ニーズの多様性に対応し、現代的課題に向き合い・解決するビジョンを共有するとともに、新しい博物館像について先行事例を踏まえた実践的な検討を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教科書の該当ページを読んで予習しておくこと。新聞やインターネット等を通してたえず文化教育一般、博物館関係の記事のサーチにつとめ、その論評をこころがけること。博物館を訪れ、来館者や地域に向けた取り組みや情報発信について検討・考察する視点で見学すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、博物館経営の意義 2. 博物館の制度と組織(1) 評価 3. 博物館の制度と組織(2) 運営体制 4. 博物館施設の運営と管理 5. 学外研修 6. 学外研修 ※博物館の現場を見学し、展示手法のほか、保存・研究・教育など全般にわたる博物館活動を知る。見学先は特色ある博物館とし、開講時に日程等を示す(2024年10月後半の日曜日を予定)。 7. ワークショップ「博物館の経営分析」 8. 博物館と社会連携(1) 博物館の広報活動 9. 博物館と社会連携(2) 博物館の学習支援 10. 博物館と社会連携(3) 博物館のネットワーク活動 11. 博物館経営の実際と課題(1) 博物館の経済効果 12. 博物館経営の実際と課題(2) 現代的課題と博物館 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 博物館経営論 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 福田 和浩 | | |
| <p>[成績評価方法] 各授業の課題とワークショップ(60%)、課題レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 各授業の課題やワークショップについては、翌週の授業の中で講評を加えることがある。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 『新時代の博物館学』ほか適宜プリントを配布する。 著者名: 全国大学博物館学講座協議会西日本支部編 出版社: 芙蓉書房出版 (ISBN-10: 4829505516 ISBN-13: 978-4829505519)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|----------------|--------------|----------------|------|
| 科目名 | 博物館実習 | 前期～後期 | 3 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂、竹原 千佳誉 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

博物館館務実習にむけて、学芸員としての技術や心構えを身につける。

[授業概要]

博物館実習は、学芸員養成教育の最終段階の科目であり、「学内実習」と「館務実習」が中心である。「館務実習」は主に夏季休暇中に実施する。学内実習で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験し、来館者対応などの実務も担うことで、学芸員として働く心構えを身につけることをめざすものである。「学内実習」は、館務実習の事前・事後指導に加え、本学では、学芸員として必要な拓本・写真・情報処理などの技術をまなび、それを活かした展示を想定した指導をおこなう。特に拓本は、実物資料から直接その情報を写し取ったものであり、きわめて実物資料に近い重要な情報をもった資料である。この拓本資料を展示品として取り扱うことで、幅広い視点で展示をおこなうことが可能である。各自で資料収集、調査をし、展示計画・パワーポイント・アンケート・個人シートなどの作成をするとともに、実習全体の報告書の作成を通して、学芸員の仕事の一つである「展示」を作り上げるプロセスを体験する。すべての実習においては技術的な面に加え、協調性やコミュニケーション能力を最も重視している。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

事前に指定した動画を視聴のうえレポートの作成、実習の記録写真、対象資料の調査と研究

[授業計画]

1. 博物館学芸員の仕事[齋藤・竹原]
2. 採拓実習(瓦など)[齋藤・竹原]
3. 石碑の採拓実習(須磨寺)[齋藤・竹原]
4. 拓本の修復[齋藤・竹原]
5. 写真撮影の実技[齋藤・竹原]
6. 梱包実習[齋藤・竹原・学外講師]
7. 美術資料の取り扱い(講義と実習)[齋藤・竹原・学外講師]
8. 借用資料の取り扱い法[齋藤・竹原]
9. 軸装などの取り扱い実習[齋藤・竹原]
10. 展示実習(ポスター等広報媒体について)[齋藤・竹原]
11. 展示実習(キャプション等の作成)[齋藤・竹原]
12. 館務実習事前指導[齋藤・竹原]
13. 館務実習事前指導[齋藤・竹原]
14. 館務実習報告会[齋藤・竹原]
15. 採拓資料の個別解説[齋藤・竹原]
16. 採拓資料の修復および補強[齋藤・竹原]
17. 展示企画(資料調査)[齋藤・竹原]
18. 展示企画(展示等レイアウト)[齋藤・竹原]
19. 展示企画(キャプション製作)[齋藤・竹原]
20. 展示作業(図録作成)[齋藤・竹原]
21. 展示作業(採拓作品の展示・展示解説・撮影)[齋藤・竹原]
22. 展示作業(採拓作品の展示・展示解説・撮影)[齋藤・竹原]
23. 展示作業(採拓作品の展示・展示解説・撮影)[齋藤・竹原]
24. 展示作業(採拓作品の展示・展示解説・撮影)[齋藤・竹原]
25. 学芸員課程報告 編集[齋藤・竹原]
26. 学芸員課程報告 編集[齋藤・竹原]

| | | | |
|--|--------------|-------|------|
| 科目名 | 博物館実習 | 前期～後期 | 3 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 齋藤 瑞穂、竹原 千佳誉 | | |
| <p>[成績評価方法] レポートや拓本などの作品内容(30%)・実習記録ノート(30%)・受講態度(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号／DP内容: 史学1-1／幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 作品内容・実習記録ノート</p> <p>学科DP番号／DP内容: 史学2-1／講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 作品内容・実習記録ノート</p> <p>学科DP番号／DP内容: 史学3-3／演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 受講態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 作品内容・実習記録ノート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 作品内容・実習記録ノート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 作品内容・実習記録ノート</p> <p>[教科書(ISBN)] 資料を配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] 新時代の博物館学 著者名: 全国大学博物館学講座協議会西日本部会 出版社: 芙蓉書房出版 (978-4829505519)</p> | | | |

S54050 [LHI3-004]

| | | | |
|---|--------|----------------|------|
| 科目名 | 博物館展示論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 竹原 千佳誉 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | 現地学習 |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>①博物館展示についての基本的理念と具体的な方法を身につけることができる。 ②実際の展示事例や展示企画立案を通して、実践的な技術・能力を習得することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>博物館に勤務する専門職員(学芸員)にとって、資料の収集・保存・公開・展示・活用・調査研究は、基本となる仕事である。そのなかで展示は、博物館の基本的な機能であり、博物館活動の基幹となる。本講義では、博物館の展示の概念を示し、展示の歴史や、展示の形態、展示環境、展示ストーリーの作成などの基本事項を学ぶ。博物館の現場経験者としてその経験と実際を授業に活かし、展示に関する実践的な技術と能力の習得をめざす。なお、本講義では博物館現地学習も行う予定である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自主的に博物館・美術館を見学し、展示テーマや展示手法などの視座をもって観覧すること。 ※授業内では、展示の企画書(展示案、開催要項)および展示配置図面、ポスター案の作成、展示キャプションの作成を行います(授業内で適宜指示します。)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「博物館展示論」概要説明・ガイダンス(博物館展示について) 2. 展示の歴史(博物館以前の展示や歴史上話題の展示) 3. 展示資料の調査と収集(調査・研究に基づく展示) 4. さまざまな展示の形態(展示の分類と特性、展示ストーリー) 5. 展示と法令・手続き(文化財借用手続き他) 6. 6～7の間で1回博物館現地学習を予定 7. 6～7の間で1回博物館現地学習を予定 8. 展覧会の企画と展示準備(企画書の作成と出品交渉、資料の運搬) 9. 展覧会の準備(ポスター・展示解説書(図録)、解説パネルの作成(編集やレイアウトなど)) 10. 展示と資料の返却・事業の整理(会場配置・設営・観覧者目線・ユニバーサルデザインの検討など) 11. 展示企画書の発表・検討会 12. 人文系展示および巡回展、連携展の展示(最近の取り組み紹介) 13. 科目のまとめ(展示の評価など) | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 博物館展示論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 竹原 千佳誉 | | |
| <p>[成績評価方法] 教室試験(50%)、授業内課題(35%)、受講態度(15%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出された課題を授業のなかで解説し、適宜具体的に指導。(課題の総まとめとして第11回目講義にて発表と検討会を実施)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業中の課題とレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業中の課題とレポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題とレポート、学外実習での取り組み姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題とレポート、課題の取り組みと発表姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題とレポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 『新時代の博物館学』ほか適宜プリントを配布する 著者名:全国大学博物館学講座協議会西日本支部編 出版社:芙蓉書房出版</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 美術史 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 木村 展子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>美術史 I では日本美術史を学ぶ。平安時代、仏を荘厳するために人々がどのようなモノを創り出していったのか、また人々はどのような思いで仏を荘厳したのか、美術作品が生まれる契機を知り古代の人々の美意識を理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>日本には古代から現代に至るまでの多くの美術作品が現存する。それらには文字資料に表われない思想や社会が表象されており、第一級の視覚資料でもある。美術作品をその時代の思想や社会の反映という視点で再検討する。また、従来各論という形で述べられてきた絵画・彫刻・工芸・建築を有機的に関連したものとして総合的に考察する。美術史 I では主に平安時代の美術を見ていくが、前半は仏教美術、後半では絵巻物を取り上げる。学芸員として四天王寺で多くの国宝・重要文化財を扱ってきた経験をもとに、授業で紹介する美術作品に対するより深い知見を伝える。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>関西で開催される主要な美術展を紹介するので積極的に観に行くこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス～日本の文化財概説 2. 総合芸術としての平等院鳳凰堂 I 3. 装飾経・平家納経 4. 装飾経・扇面法華経冊子 5. 平安の工芸・懸守を中心に 6. 地獄草紙と餓鬼草紙 7. 病草紙と九相図巻 8. 平安時代の服飾と化粧 9. 絵巻の基本 10. 源氏物語絵巻 11. 寝覚物語絵巻 12. 伴大納言絵詞 13. 鳥獣人物戯画 | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 美術史 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 木村 展子 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験 100%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|----------------|---------|----------------|-----|
| 科目名 | 美術史Ⅱ | 後期 | 2単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | S. デュルト | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

西洋美術を鑑賞する際に必要な基礎的な知識を身につける。学芸員資格取得のための必修科目のため、美術館における作品・資料の扱いについても理解を深める。

[授業概要]

先史、古代より現代までの西洋における造形表現を具体的な現存作品に拠って概説する。現在私たちが「芸術作品」と考えている絵や彫刻は、「芸術」という考え方が成立する以前の時代においては、制作された当初からそのように呼ばれていたわけでも、考えられていたわけでもない。「西洋美術」と一口に言っても、国や地域、気候、文化、社会や思想等の要因によりその表現は多種多様なものとなっている。時代や地域における特徴を整理し、中でも、宗教美術については、その主題を理解するのに個々のエピソードに加え、社会文化的背景を含めて総合的に考察することが必要となる。基礎的な知識を身につけ、表現されたものについて、言葉を用いて人に伝えるデスクリプションの能力を養う授業となる。また、授業で取り上げる作品の現在における保存や展覧の状況、著名な作品のコピーやレプリカの存在など、芸術作品のはらむ問題についても言及する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

日頃から美術館や博物館に限らず、自分を取り巻く環境の中にある美術に興味を持ってほしい。また学期の初めに後期に関西で開催される主要な西洋美術の展覧会等を紹介するので積極的に観に行ってもらいたい。

[授業計画]

1. イメージのはじまり(洞窟壁画)
2. 古代ギリシャ
3. 古代ローマ
4. ロマネスク
5. ゴシック
6. ルネサンス(1)
7. ルネサンス(2)
8. バロック
9. 17世紀オランダとロココ
10. 古典主義・アカデミーとサロン
11. ロマン主義・写実主義と印象主義
12. 20世紀の美術
13. 現代美術または須磨と美術

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 美術史Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | S. デュルト | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|------|----------------|------|
| 科目名 | 法律学 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 豊福 一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 社会で活動・生活するために必要な法理解</p> <p>[授業概要] 基礎的な法律について概説する。現代社会Ⅰや現代社会Ⅳの講義より基礎的な内容になっている。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回講義の復習をして、必要なら質問を準備しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 婚姻と離婚 2. 親子 3. 扶養と公的扶助、保険 4. 相続 5. 物権と債権 6. 契約と解除、借地権 7. 契約:消費貸借ほか 8. 不法行為 9. 消費者法 10. 労働法 11. 刑事法 12. 紛争解決 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|------|----|------|
| 科目名 | 法律学 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 豊福 一 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験(100%)の成績による。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 対面授業の場合、試験終了後に解説することを予定しています。 遠隔授業となった場合でも、同様とする予定です。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 「新時代の法学・憲法」 日本国憲法と共通 著者名:山田勉編 出版社:建帛社 (978-4-7679-4346-6)</p> <p>[参考書(ISBN)] 法律条文については、各社の六法を参照。</p> | | | |

| | | | |
|----------------|-----------------|----------------|------|
| 科目名 | 倫理学概論 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | manabaでワークシート提出 | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

西洋倫理学の古典を読み、基本的用語を学び、その意味を理解できる。また、道徳的価値を多面的・多角的に捉え、善悪、正邪等を判断する基準について考えることができる。

[授業概要]

西洋倫理学の主要な思想を学ぶ。特に、アリストテレスの徳倫理学とカントの義務倫理学に重点を置き、彼らの主要著書を読む。各々の思想の基礎的な内容について研究課題を与えるので、学生が個人あるいはグループでその課題について考え、ワークシートに記入して提出する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

指定された文献・資料をよく読んでおくこと。予習・復習合わせて2時間程度。

[授業計画]

1. ガイダンス、倫理学とは？
2. プラトン、四元徳
3. アリストテレス: 徳倫理学
4. エピクロスとストア派
5. 社会契約説: ホッブズ、ロック、ルソー
6. 功利主義倫理学: ベンサム、J.S.ミル
7. カント『道徳形而上学原論』①
8. カント『道徳形而上学原論』②
9. カント『道徳形而上学原論』③
10. カント『道徳形而上学原論』④
11. カント『道徳形而上学原論』⑤
12. 和辻哲郎の倫理学
13. 総括

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 倫理学概論 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |
| <p>[成績評価方法] 小テスト・ワークシートなどの提出物(20%)、定期試験(80%)。受講態度も考慮する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テスト及び定期試験の正解例はmanabaで公開する。レポートは添削して返却する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:小テスト、筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業態度、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:レポート、筆記試験、授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、レポート、筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、レポート、筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 『道徳形而上学原論』 著者名:カント 出版社:岩波文庫 (978-4003362518) 『倫理学入門』 著者名:宇都宮芳明 出版社:ちくま学芸文庫 (978-4-480-09904-4)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業で適宜紹介する。 著者名:授業で適宜紹介する。 出版社:授業で適宜紹介する。(授業で適宜紹介する。)</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----------------|------|
| 科目名 | 歴史資料学入門 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 吉村 真美、松下 孝昭、川森 博司、山内 晋次、村田 路人、鈴木 宏節、齋藤 瑞穂、関 周一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 歴史資料の多様性を知り、その基礎的な理解を深めることができるようになる。</p> <p>[授業概要] 歴史研究に使う史資料は、記録や文書などの文字史料ばかりでなく、それぞれの分野や時代の特徴に基づく史資料を使った研究が進展している。 この授業は、史資料の「姿」(形態)の多様性を知り、それがどのような問題関心と結びついて研究されているかを、主に講義形式で学修する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業中に紹介された参考文献を読み、実物資料に接する機会を積極的に利用し、歴史資料に関する興味をより深める取り組みを強く求める。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1講(日本考古学 齋藤 瑞穂) なぜ「モノ」が歴史を語ってくれるのか? 第2講(日本古代史 山内 晋次①) 日本古代史研究と文献史料 第3講(日本古代史 山内 晋次②) 日本古代史研究とモノ資料 第4講(日本中世史 関 周一①) 日本中世の文献資料 第5講(日本中世史 関 周一②) 日本中世の絵画資料と仏像 第6講(日本近世史 村田 路人①) 近世古文書と日本近世史研究 第7講(日本近世史 村田 路人②) 近世古文書の整理と保存 第8講(日本近現代史 松下 孝昭①) 公文書館の役割と現状 第9講(日本近現代史 松下 孝昭②) デジタル化が進む日本近現代史資料 第10講(東洋史 鈴木 宏節) 中国の歴史史料 第11講(西洋史 吉村 真美①) 西洋史研究のための史資料 第12講(西洋史 吉村 真美②) 史資料の保全とその活用 第13講(日本民俗学 川森 博司) 民俗資料の分類と活用 | | | |

| | | | |
|--|--|----|------|
| 科目名 | 歴史資料学入門 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 吉村 真美、松下 孝昭、川森 博司、山内 晋次、村田 路人、鈴木 宏節、齋藤 瑞穂、関 周一 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(80%)、授業時課題(16%)、全回振り返り課題(4%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba(課題のコメント機能など)・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:レポート(80%)、授業時課題(16%)、全回振り返り課題(4%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(80%)、授業時課題(16%)、全回振り返り課題(4%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。各教員が資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。講義において、適宜紹介する。</p> | | | |

文学部専門科目

教育学科

(授業科目名五十音順)

| | | | | |
|--|-------------|----------------|----|------|
| 科目名 | ICT活用の理論と実践 | | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標]</p> <p>1. 教育現場におけるICT活用や情報活用能力育成の意義や理論について理解する 2. ICTを活用した学習指導の基礎的知識・技能を習得する</p> <p>[授業概要]</p> <p>教育現場におけるICT(情報通信技術)の活用について、その歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解していきます。主に授業における児童生徒及び教員によるICT活用を取り上げながら、情報社会を生きていくために必要な資質・能力である情報活用能力についてその構成要素及び具体的な指導法、教育課程上の位置づけについて解説します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>事前・事後学修として、配布資料の通読、授業のレポートや小テスト等に取り組んでもらう場合があります。また、実践的な学修課題として動画教材やWebテストの制作を行う予定です。 これらの事前・事後学修、課題制作を授業外において、1回あたり平均2時間程度取り組むように努力してください。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.オリエンテーション・現代社会におけるICT活用の意義と理論の概要 2.ICT活用による学習指導や校務の推進の理論と実践①(デジタル教材の作成と利用等) 3.ICT活用による学習指導や校務の推進の理論と実践②(遠隔授業、LMSによる学習履歴の活用、統合型校務支援システム等) 4.教師のICT活用指導力及び情報活用能力育成の基礎的な指導法の概要 5.情報活用能力育成の理論と実践①(情報モラル、各教科等における指導事例) 6.情報活用能力育成の理論と実践②(プログラミング教育、STEAM教育等) 7.まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|---|-------------|----|------|
| 科目名 | ICT活用の理論と実践 | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | |
| <p>[成績評価方法] 各回の小レポート及び小テスト等(20%)、成果物【動画・Webテスト作成】(40%)、最終レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは適宜授業における相互評価やmanabaを通じたコメント等で行う予定です。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] ICT活用の理論と実践 著者名:稲垣忠 佐藤和紀 出版社:北大路書房 (978-4-7628-3180-5)</p> | | | |

| | | | | |
|--|-------------|----------------|----|------|
| 科目名 | ICT活用の理論と実践 | | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標]</p> <p>1. 教育現場におけるICT活用や情報活用能力育成の意義や理論について理解する 2. ICTを活用した学習指導の基礎的知識・技能を習得する</p> <p>[授業概要]</p> <p>教育現場におけるICT(情報通信技術)の活用について、その歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解していきます。主に授業における児童生徒及び教員によるICT活用を取り上げながら、情報社会を生きていくために必要な資質・能力である情報活用能力についてその構成要素及び具体的な指導法、教育課程上の位置づけについて解説します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>事前・事後学修として、配布資料の通読、授業のレポートや小テスト等に取り組んでもらう場合があります。また、実践的な学修課題として動画教材やWebテストの制作を行う予定です。 これらの事前・事後学修、課題制作を授業外において、1回あたり平均2時間程度取り組むように努力してください。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.オリエンテーション・現代社会におけるICT活用の意義と理論の概要 2.ICT活用による学習指導や校務の推進の理論と実践①(デジタル教材の作成と利用等) 3.ICT活用による学習指導や校務の推進の理論と実践②(遠隔授業、LMSによる学習履歴の活用、統合型校務支援システム等) 4.教師のICT活用指導力及び情報活用能力育成の基礎的な指導法の概要 5.情報活用能力育成の理論と実践①(情報モラル、各教科等における指導事例) 6.情報活用能力育成の理論と実践②(プログラミング教育、STEAM教育等) 7.まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|--|-------------|----|------|
| 科目名 | ICT活用の理論と実践 | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | |
| <p>[成績評価方法] 各回の小レポート及び小テスト等(20%)、成果物【動画・Webテスト作成】(40%)、最終レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは適宜授業における相互評価やmanabaを通じたコメント等で行う予定です。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] ICT活用の理論と実践 著者名:稲垣忠 佐藤和紀 出版社:北大路書房 (978-4-7628-3180-5)</p> | | | |

| | | | | |
|---|---------|--|----------------|------|
| 科目名 | 異文化理解教育 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 家入 聖子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 交流体験学習 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>1) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。 2) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。 3) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>異文化理解や異文化コミュニケーションの基本的知識を習得する。文化の違いによる考え方、言語行動、また非言語コミュニケーションにも着目し、その重要性を認識する。テキストに沿って講義を中心に進めるが、Active Learning型の授業を実践するため、グループワークやディスカッション、スピーチ発表等を取り入れる。また、神戸市内在住のさまざまな国籍の外国人との交流を通して、異文化体験学習を実施する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて4時間程度。 日頃から異文化理解に関する国際ニュース等に関心を持つこと。また、日本におけるニュース等が他国でどのように享受されているかにも関心を持つこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 文化とは①<世界における多様化と自国における多様化> 3. 文化とは②<トータルカルチャーとサブカルチャー> 4. 文化とは③<異文化適応> 5. 発表「わたしの異文化体験」 6. 英語が使われている国や地域を中心とした異文化理解①<行動・視点・環境> 7. 英語が使われている国や地域を中心とした異文化理解②<固定観念> 8. 英語が使われている国や地域を中心とした異文化理解③<差別> 9. 英語が使われている国や地域を中心とした異文化理解④<価値観> 10. 非言語コミュニケーション 11. 交流体験学習①<Culture Exchange>(所管:神戸市教育委員会) 12. 交流体験学習②<Culture Exchange>(所管:神戸市教育委員会) 13. 多文化共生社会の実現/まとめ | | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 異文化理解教育 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 家入 聖子 | | |
| <p>[成績評価方法] 毎時間の振り返りレポート(60%)、発表内容(20%)、最終レポート(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 振り返りレポートは次授業時に紹介し、その内容を共有する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] グローバルな時代を生きるための 異文化理解入門 著者名:原沢伊都夫 出版社:研究社 (978-4-327-37734-2)</p> <p>[参考書(ISBN)] 中学校学習指導要領(平成29年度告知) 著者名:文部科学省</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 英語音声学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 「ローマの休日」で学ぶ「音変化の7つのルール」 | 講義 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>1.英語音声学の基礎知識を学ぶ。 2.リスニング力を実践的に高める</p> <p>[授業概要]</p> <p>「ローマの休日」の「ディクテーション」を通して「音変化の7つのルール」を学びながら「リスニング力」を実践的に高めていく。リスニング力を高めるには「速読」のトレーニングが効果的であることから、簡単な英語で書かれた読み物をたくさん読むトレーニングも行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>復習に重点を置く。 授業で学んだ「音変化の7つのルール」を活かしながら、Youtubeの「Nas Daily」にある動画をたくさん聞いて「聞き取る力」を高める。</p> <p>[授業計画]</p> <p>毎回、授業は次の2つのパートから構成される。</p> <p>1. 速読トレーニング 2. 「ローマの休日」を、名場面ごとに、本授業のために開発したエクセルのアプリを使い「ディクテーション」をしながら、以下の「音変化の7つのルール」を学んでいく。</p> <p>第1ルール 音が弱くなる 第2ルール 音が短くなる 第3ルール 音がつながる 第4ルール 音が消える 第5ルール 音が抜け落ちる 第6ルール 音がとなりの音に似る 第7ルール 音が別の音に代わる</p> <p>1. 音が弱くなる① 2. 音が弱くなる② 3. 音が短くなる① 4. 音が短くなる② 5. 音がつながる① 6. 音がつながる② 7. 音が消える① 8. 音が消える② 9. 音が抜け落ちる① 10. 音が抜け落ちる② 11. 音がとなりの音に似る① 12. 音がとなりの音に似る② 13. 音が別の音に変わる①</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------------------------|----|------|
| 科目名 | 英語音声学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 「ローマの休日」で学ぶ「音変化の7つのルール」 | 講義 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |

[成績評価方法]

- ① 速読トレーニングにおける True/False Questions の正解数と関連するタスク (50%)
 ② 「ローマの休日」のディクテーションの正解数と関連するタスク (50%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在

し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

必要あれば、授業で指定する。

[参考書(ISBN)]

『ローマの休日』を観るだけで英語の基本が身につくDVDブック 著者名:藤田 英時 出版社:アスコム (477620908X)

| | | | |
|--|--|----------------|------|
| 科目名 | 英語科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語を教える、特に楽しくてためになる英語の教え方ってどんな方法なのかを一緒に考えていきましょ | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 小学校における外国語活動・外国語科に必要な第二言語の習得に関する理解を深め、英語に関する専門的な知識や技能の基礎を身に付ける。マザーグースやチャンツなどを歌えるようになる。子どもにストーリーテリングができるようになるための基礎力を身に付け、絵本が読めるようになる。</p> <p>[授業概要] 担当者が長年教育現場で培ってきた英語授業の実践を通して教授法の基礎について多角的に教える。英語科教育の意義、目標、カリキュラムを概観し、小学校英語科教育について、小・中学校の接続も踏まえながら、効果的な学習法、指導法についても考察を行う。楽しくてためになる英語授業をみんなで一緒に考えていくことになるので、つねに考えることが重要である。受講生の人数が多いので、とくにあなたの主体性と積極性が求められている。授業では英語独自の音声やリズムを体得することになる。質問やリクエストをどんどんすることを主体的で積極性があるものとして評価する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教科書、参考文献等は自主的に学習して授業に臨んでください。毎回の授業ではあなたの考えや意見が求められますので、英語の教え方について深く考えるようにしてください。疑問点を事前につかんでおくこと。事後にはノート作成を行いましょう(2時間程度)。</p> <p>[授業計画] ここには各回のテーマについて記述しています。受講生の希望等により変更することもあります。 1. コミュニケーション能力(日本における外国語教育)(面接授業) 2. 第二言語習得論 3. 英語の音声と文字 4. 異文化理解 5. 英語の発音と綴りの関係 6. 英語の書き方、ローマ字表記 7. 英語の語彙と文法 8. 相互作用の中で生じる発話の意味と働き 9. 現代社会における英語 10. 児童文学、絵本を選ぶ視点 11. ICTの活用 12. 指導案、あるいは英語教育教材についての討議 13. まとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----|------|
| 科目名 | 英語科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語を教える、特に楽しくてためになる英語の教え方ってどんな方法なのかを 一緒に考えていきましょ | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| <p>[成績評価方法] 振り返しシート及び授業への貢献度(60%) 指導案作成あるいは英語教育教材作成、レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中及びmanabaの掲示板で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:授業への貢献度、と振り返りシートの記述により評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:最終レポート、指導案で評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への貢献度、と振り返りシートの記述により評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への貢献度、と振り返りシートの記述により評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:最終レポート、あるいは指導案で評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)] 電子黒板への招待 その提示力を生かした授業を考える 著者名:齋藤由紀 出版社:関西学院大学出版会 (978-4-86283-204-7)</p> <p>[参考書(ISBN)] 文部科学省 小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784300000000) 文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784300000000) 小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ 小学校外国語科内容論 著者名:酒井英樹・滝沢雄一・ 亘理陽一 出版社:三省堂 (978-4-385-36138-3)</p> | | | |

| | | | |
|---|------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 英語科教育特別演習 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語文法力を向上させて英語授業力の基礎と応用を身につける | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 英語文法について、理解不足がないようにする。文法項目を教える際にどのような方法が考えられるのかについてアイデアを提案できるようになる。ICT機器の活用についても習熟し、使えるようになることを増やす。</p> <p>[授業概要] 授業担当者は教育現場での長年の教授歴をもつので、実践的に展開する授業である。毎回いくつかの英語文法を復習しながら、理解不足の点がないかどうかを確認テスト等により明確化していきます。文法を理解するために説明以外の方法についてアイデアを出し合い、実際に受講生同志で教えてみるレベルも実施しながら、よりよい英語授業法への深い考察を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テキストの指定範囲を毎回学習してくる。質問があればまとめておく。授業後は、理解不足の点について復習を行う。各回、予習復習合わせて2時間程度の学習が必要です。</p> <p>[授業計画] 取り上げる予定の主な文法項目について書いています。受講生のみなさんのリクエストなどにより変更する場合がありますので、リクエストしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在時制 2. 過去時制 3. 完了時制 4. ここまでの振り返り(クイズ1) 5. 名詞と冠詞 6. 形容詞、分詞の修飾 7. ここまでの振り返り(クイズ2) 8. 不定詞 9. 動名詞 10. ここまでの振り返り(クイズ3) 11. 助動詞 12. 文の構成 13. 確認テストとう総復習、今後へ向けて | | | |

| | | | |
|--|------------------------------|----|------|
| 科目名 | 英語科教育特別演習 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語文法力を向上させて英語授業力の基礎と応用を身につける | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への積極的参加度(授業中の取り組み、発言、ペアならびにグループ活動への取り組み)(30%)、振り返りクイズ作成(30%)、確認テスト(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] テストについては毎回解説等を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:振り返りクイズの作成、確認テストにより評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:授業への積極的参加態度で評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:授業への積極的参加態度、振り返りクイズの作成、確認テストにより評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への積極的参加態度により評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業への積極的参加態度により評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:振り返りクイズの作成、確認テストにより評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業への積極的参加態度と振り返りクイズの作成、確認テストにより評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)] 電子黒板への招待 その提示力を生かした授業を考える 著者名:齋藤由紀 出版社:関西学院大学出版会 (978-4-86283-204-7)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 必要に応じて授業で紹介します</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 英語科教育特別演習Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | Graded Readers を活用した授業の理論と実践 | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>1.Graded Readers の文化的・教育的価値を理解する。 2.Graded Readers を活用した様々な授業実践を知り、自らの授業でどのように活用したいかを考える。 3.Graded Readers を毎週読み、教室で読んだ本について語り合い、その良さを経験する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>教科書に沿って、Graded Readersの読書の本質を理解し、授業におけるGraded Readers の効果的な活用方法を検討していく。一方、受講者全員でGraded Readers を読み語り合いながら「読書コミュニティ」を築いていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>毎週、予習復習合わせて2時間程度。 授業後に「振り返りレポート」をA4 で1枚にまとめ、次回の授業開始時に提出する。 Graded Readers を図書館から借りて読み、「ブックレビュー」を書き「ブクログ」に投稿する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.試みられることの少なかったアプローチ—多読とは 2.リーディングの認知的視点 3.学習意欲—リーディングの秘密の花園 4.多読のカー調査・研究からの洞察 5.多読と第二言語教育カリキュラム 6.本物崇拜と平易化神話 7.LLL: Language Learner Literature 8.プログラムの立案—カリキュラムの決定 9.魅力ある教材—読み物とステップアップ 10.オリエンテーション 11.読者のコミュニティを構築する 12.リーディング・コミュニティの実際 13.プログラム評価 | | | |

| | | | |
|---|------------------------------|----|------|
| 科目名 | 英語科教育特別演習Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | Graded Readers を活用した授業の理論と実践 | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、授業の開始時に提出する前回の授業の「振り返りレポート」(50%) ・読んだGraded Readers の冊数と、ブクログに投稿した「ブックレビュー」の質と量 (50%) <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>『多読で学ぶ英語』 著者名:リチャード・デイ/ジュリアンバンフォード著、榊井幹夫監訳 出版社:松柏社 (4775401076)</p> <p>[参考書(ISBN)]</p> <p>なし</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 英語科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校外国語教育の変遷、小学校の外国語活動や外国語科の目標と内容、及び、小・中・高等学校との連携と小学校の役割、課題について理解を深め、教授法の背景にある理論を踏まえた上で、児童の興味・関心・意欲を高める授業を自ら考え展開していくことができる。</p> <p>[授業概要] 小学校学習指導要領をもとに、外国語活動や外国語科の目標と内容、及び、小学校と中学校との接続について理解を深め、児童の興味・関心・意欲を高める授業を自ら考え展開していく。小学生の発達段階に相応しい授業を考え、指導計画を立て、指導案を作成し、模擬授業を実践する。クラスルームイングリッシュを身につけ、模擬授業の中で使用する。模擬授業実践後には、クラス全体で振り返りと意見交換を行う。課題改善に取り組み、自らの指導力を磨いていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 学習指導要領をよく読み、課題に取り組んでおくこと。また、疑問点を整理しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校学習指導要領における外国語活動と外国語科について ICTの効果的な活用・教材研究・学習指導案の作成、評価について 2. 外国語活動の教材分析 3. 外国語活動における教材の開発 4. 模擬授業・振り返り ① 第一・第二グループ 5. 模擬授業・振り返り ② 第三グループ・第四グループ 6. 模擬授業・振り返り ③ 第五グループ・第六グループ 7. 外国語科の教材分析 8. 外国語科における教材の開発 9. 模擬授業・振り返り ① 第一・第二グループ 10. 模擬授業・振り返り ② 第三グループ・第四グループ 11. 模擬授業・振り返り ③ 第五グループ・第六グループ 12. 小学校外国語活動・外国語科における振り返り 13. まとめ <p>※進捗状況により、計画の一部を変更する場合がある。</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 英語科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 定期試験(30%)、課題への取り組み姿勢(40%)、模擬授業(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:定期試験、模擬授業</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:定期試験、課題への取り組み姿勢、模擬授業</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:定期試験、模擬授業</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:定期試験、課題への取り組み姿勢、模擬授業</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題への取り組み姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:定期試験、課題への取り組み姿勢、模擬授業</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:定期試験、課題への取り組み姿勢、模擬授業</p> <p>[教科書(ISBN)] Let's Try! 1 著者名:文部科学省 出版社:東京書籍 (9784487258703) Let's Try! 2 著者名:文部科学省 出版社:東京書籍 (9784487258710) CROWN Jr. 5 著者名:酒井英樹、他28名 出版社:三省堂 (9784385705224) CROWN Jr. 6 著者名:酒井英樹、他28名 出版社:三省堂 (9784385705231) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051685)</p> <p>[参考書(ISBN)] 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692)</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 英語科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校外国語教育の変遷、小学校の外国語活動や外国語科の目標と内容、及び、小・中・高等学校との連携と小学校の役割、課題について理解を深め、教授法の背景にある理論を踏まえた上で、児童の興味・関心・意欲を高める授業を自ら考え展開していくことができる。</p> <p>[授業概要] 小学校学習指導要領をもとに、外国語活動や外国語科の目標と内容、及び、小学校と中学校との接続について理解を深め、児童の興味・関心・意欲を高める授業を自ら考え展開していく。小学生の発達段階に相応しい授業を考え、指導計画を立て、指導案を作成し、模擬授業を実践する。クラスルームイングリッシュを身につけ、模擬授業の中で使用する。模擬授業実践後には、クラス全体で振り返りと意見交換を行う。課題改善に取り組み、自らの指導力を磨いていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 学習指導要領をよく読み、課題に取り組んでおくこと。また、疑問点を整理しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校学習指導要領における外国語活動と外国語科について ICTの効果的な活用・教材研究・学習指導案の作成、評価について 2. 外国語活動の教材分析 3. 外国語活動における教材の開発 4. 模擬授業・振り返り ① 第一・第二グループ 5. 模擬授業・振り返り ② 第三グループ・第四グループ 6. 模擬授業・振り返り ③ 第五グループ・第六グループ 7. 外国語科の教材分析 8. 外国語科における教材の開発 9. 模擬授業・振り返り ① 第一・第二グループ 10. 模擬授業・振り返り ② 第三グループ・第四グループ 11. 模擬授業・振り返り ③ 第五グループ・第六グループ 12. 小学校外国語活動・外国語科における振り返り 13. まとめ <p>※進捗状況により、計画の一部を変更する場合がある。</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 英語科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 定期試験(30%)、課題への取り組み姿勢(40%)、模擬授業(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:定期試験、模擬授業</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:定期試験、課題への取り組み姿勢、模擬授業</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:定期試験、模擬授業</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:定期試験、課題への取り組み姿勢、模擬授業</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題への取り組み姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:定期試験、課題への取り組み姿勢、模擬授業</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:定期試験、課題への取り組み姿勢、模擬授業</p> <p>[教科書(ISBN)] Let's Try! 1 著者名:文部科学省 出版社:東京書籍 (9784487258703) Let's Try! 2 著者名:文部科学省 出版社:東京書籍 (9784487258710) CROWN Jr. 5 著者名:酒井英樹、他28名 出版社:三省堂 (9784385705224) CROWN Jr. 6 著者名:酒井英樹、他28名 出版社:三省堂 (9784385705231) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051685)</p> <p>[参考書(ISBN)] 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692)</p> | | | |

| | | | |
|--|---------|----------------|------|
| 科目名 | 英語科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校外国語活動、外国語科の単元目標を十分に理解した上で、児童に身につけさせたい資質・能力について深く考えながら教材を開発、活用していくことができる。</p> <p>[授業概要] 小学校で使用されている外国語(英語)の検定教科書、補助教材、ICT教材を用いて、教材の中身や構成、ねらいを理解し、実際に教科書を使って授業実践を行うことを通して、教材についての理解を深める。授業実践の振り返りの中で互いに意見交換を行いながら、児童の実態に応じた指導の在り方について考え、新学習指導要領における外国語活動及び外国語科で教材を選定、開発する上で必要な視点について学んでいく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 学習指導要領をよく読んでおくこと。検定教科書の内容を確認し、各学年における学習内容について理解を深めておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校学習指導要領における外国語活動及び外国語科について 外国語教育における小中の学びの接続 2. 外国語活動・外国語科の目標、教材分析の視点 3. 外国語活動(3年生)における教材の分析 4. 外国語活動(4年生)における教材の分析 5. 外国語科(5年生)における教材の分析 6. 外国語科(6年生)における教材の分析 7. 外国語活動における教材の開発 8. 外国語活動における開発教材を用いた授業実践・検証 9. 外国語活動における教材の改善・提案 10. 外国語科における教材の開発 11. 外国語科における開発教材を用いた授業実践・検証 12. 外国語科における教材の改善・提案 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|---------|----|------|
| 科目名 | 英語科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 定期試験(30%)、課題への取り組み姿勢(40%)、授業実践(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:定期試験、授業実践</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:定期試験、授業実践</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:課題への取り組み姿勢</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題への取り組み姿勢、授業実践</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:定期試験、課題への取り組み姿勢、授業実践</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:定期試験、授業実践</p> <p>[教科書(ISBN)] Let's Try! 1 著者名:文部科学省 出版社:東京書籍 (9784487258703) Let's Try! 2 著者名:文部科学省 出版社:東京書籍 (9784487258710) New HORIZON Elementary English Course 5 著者名:アレン玉井 光江、他62名 出版社:東京書籍 (9784487105854) New HORIZON Elementary English Course 6 著者名:アレン玉井 光江、他62名 出版社:東京書籍 (9784487105878)</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051685) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692)</p> | | | |

S64710 [LKH3-038]

| | | | |
|--|---------|----------------|------|
| 科目名 | 英語学概論 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 英語という言葉の特性について、共時的・通時的観点から、意味論的、統語論的、音韻論的に説明することができるとともに、英語学の知見を英語の指導に活かすことができる。</p> <p>[授業概要] 英語学に関する各テーマについて理解を深めていく。音韻論、意味論、統語論などの各分野について説明した後に、グループごとでそれぞれのテーマについて調べ、スライドを用いて発表する。発表の準備に際し、専門用語の解説に加え、各テーマの内容について説明を行う。発表後に、クラス全体で、各テーマにおける諸問題について考え、意見交換を行う。英語学における言語の特性の見方を説明すると共に、英語の指導において英語学の知見を活かすことができるように近年の研究成果も提示する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習・復習合わせて4時間程度。 授業の中で提示する課題に取り組んでおくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> ことばの起源と語族・人間のことばと言語研究 英語の発音とスペリング・英語の語彙の多様性 標準英語の成立・英語のバリエーション・ことばの変化 ことばと音声・音の組み合わせとアクセント 単語ができるしくみ・文ができるしくみ・文の内部構造 ことばの意味とは 語の間の意味関係・意味の拡張 ことばの意味に見られる主観性・ことばの意味とコンテキスト まとまりのある文章・文章中の情報構造 ことばのやりとりにおけるルール・コミュニケーションの民俗誌・英語と文化 ことばと社会・ことばと国家 日本の英語教育と教授法 まとめ | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 英語学概論 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 定期試験(50%)、授業中の課題(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:定期試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:定期試験</p> <p>[教科書(ISBN)] はじめての英語学 著者名:長谷川瑞穂編著 出版社:研究社 (9784330000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて資料を配布する。</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 英語学概論Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語の「最頻出語 2000語」を「自家菜籠中」の物にする | 講義 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校と中学校の英語検定教科書は、英語の話し言葉の「90%」を占め、書き言葉の「80%」を占める「最頻出語 2000語」を主に使い書かれている。「最頻出語 2000語」の学習は「英語力の基盤」を成す。そこで、小学校と中学校の教師になるために、2000語の意味と使い方(文法)について「理解」を深め「習熟(定着)」を図り、2000語を「自家菜籠中」の物にする(いつでも好きなように使うことができるようになる)ことを目指す。</p> <p>[授業概要] 2000語が慣用的に組み合わせさせた「600 のフレーズ」と「600 のセンテンス」を『改訂第2版クタン【Entry】2000語レベル』を通して学んでいく。2000語の中でも特に「基本語」とよばれる単語の意味と使い方(文法)については、認知言語学の「使用基盤モデル」と「レクシカル・アプローチ」と呼ばれる観点から明示的に説明をし「学びほぐし(unlearn)」を図る。フレーズとセンテンスは、本授業のために開発したエクセルのアプリを使って、「整序英作文」と「ディクテーション」を通じて「耳からインプット」していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎週、予習復習合わせて4時間程度。 予習 & 復習:『改訂第2版クタン【Entry】2000語レベル』のディクテーションを行う。</p> <p>[授業計画] 1-600 の「600 のセンテンス」を、整序問題とディクテーションを通して、学期中に以下のスケジュールで「2 Round」繰り返す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1-100 2. 101-200 3. 201-300 4. 302-400 5.401-500 6. 501-600 <ol style="list-style-type: none"> 7.1-100 8.101-200 9.201-300 10.302-400 11.401-500 12.501-600 13.最終テスト | | | |

| | | | |
|---|------------------------------|----|------|
| 科目名 | 英語学概論Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語の「最頻出語 2000語」を「自家菜籠中」の物にする | 講義 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法]</p> <p>①『改訂第2版クタン【Entry】2000語レベル』を使った「整序英作文」の正解数 (50%)。</p> <p>② 速読トレーニングにおける True/False Questions の正解数と関連するタスク (50%)</p> <p>①と②を 総合的に判断して評価する。</p> <p>【重要】② の正解数には、「春休み」に課題として出された「速読トレーニング」の正解数を合算して評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] 『改訂第2版クタン【Entry】2000語レベル』 著者名:文教編集部 出版社:アルク (4757439253)</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------|----------------|------|
| 科目名 | 英語カリキュラム論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語授業の実際を考えていこう | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>英語を教えるときに必要な知識を身に付けるために、文法項目等を難易度別、順に捉えられるようになる。そのことから、どのように学ぶことがより良いといえるのかについて、論理的に説明できるようになる。授業を教授者と学習者の双方の立場から捉えることができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>授業担当者は教育現場での教授経験が豊富であるので、それを活かして実線的に指導する。英語をどのように教えていくのが良いのかについて、課題解決型によるグループワークと個人ワークで重層的にまなぶ方式で展開する。小学校での英語活動、英語教育、中学校での英語の授業をするにあたり学習指導要領を読み込むことと教科書を分析することを基礎として英語の教科書を教える方法(カリキュラムを含む)を考察していく。基本グループでの発表をもとに個人活動も相互評価し、最終レポートも加えて評価していく。課題をまずみつけ、それをどのように解決していくのかについて個人レベルをもちよりグループとしてプレゼンテーションしていく。必修授業であるため、集団として「まなび合う」姿勢を基本とする。グループ発表は2グループで同一テーマによる対抗方式とし、グループは3名で、個人発表を必ず行い個人レベルでも評価を受けることとする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業の前には、毎回のテーマについて考え、質問や自分の意見をまとめておくこと。予習段階で個人学習とグループでの学びが必要です。復習時は、学んだことに基づいて、最終レポート等へどのように反映させるのかといったことを含めて考えておくこと。予習復習で2時間程度が必要です。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、この授業の進め方、グループ決めと発表担当箇所、回の決定等 2. カリキュラムとは？ グループでの討議、発表手順などの相談:3回目以降は2グループの発表 3. 小学校外国語授業への考察(1):5年生を中心として 4. 小学校外国語授業への考察(2):6年生を中心として 5. 小学校外国語授業のまとめと振り返り:小学校学習指導要領との関連性 6. 小学校外国語活動への考察(1):4年生を中心として 7. 小学校外国語活動への考察(2):3年生を中心として 8. 小学校外国語活動のまとめと振り返り:小学校学習指導要領との関連性 9. 小学校外国語活動の実践(1):小学校3年生の内容への考察を踏まえて 10. 小学校外国語活動の実践(2):小学校4年生の内容への考察を踏まえて 11. 小学校英語活動教科書分析発表:教科書を深く知る 12. 中学校のカリキュラムへの考察:中学校との関連性を知る 13. まとめならびに最終レポート提出 | | | |

| | | | |
|--------|----------------|----|------|
| 科目名 | 英語カリキュラム論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語授業の実際を考えていこう | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |

[成績評価方法]

授業への積極的参加度(30%)、ふりかえりシート(30%)、指導案あるいはレポート(40%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

毎回の授業で前回の意見や質問を共有します。指導案や試験は解答、解説を行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:授業への積極的参加度合い、ふりかえりシートへの記述内容により評価する。

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。

成績評価方法:授業への積極的参加度合い、ふりかえりシートへの記述内容により評価する。

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。

成績評価方法:指導案あるいは最終レポートで評価する。

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:授業への積極的参加度合い、ふりかえりシートへの記述内容により評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:授業への積極的参加度合い、ふりかえりシートへの記述内容により評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:指導案あるいは、最終レポートにより評価する。

[教科書(ISBN)]

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (978-4304051685)

中学校学習指導要領 著者名:文部科学省 出版社:東山書房 (978-4-8278-15580)

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784300000000)

[参考書(ISBN)]

小学校英語活動教科書

中学校英語検定教科書

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 英語圏文学 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | アメリカ文学を学ぶ | メディア(講義) | |
| 担当者 | 坂元 敦子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] アメリカ小説・戯曲を読み、作品中に使用されるさまざまな英語表現を学ぶとともに英語の読解力をつける。 英語で外国文学作品を味わう方法を学ぶ。 アメリカ文学作品と時代背景、またアメリカの社会・文化について理解する。 作品の朗読や台詞の発表を通して、コミュニケーションに役立つ英語を学ぶ。</p> <p>[授業概要] 【メディア授業】 この授業では、代表的なアメリカ文学作品の一部(抜粋)を英語で読み、その中の英語表現について学ぶとともに、作品に見られる「アメリカらしさ」とは何かについて考える。作品の背景となる時代やアメリカの社会・文化に焦点をあて、各自が調べたり発表したりすることによって、異なる文化の理解を目指す。また声に出して台詞や文章を読むことによって、英語による文学作品を味わい、自然な英語やコミュニケーションに役立つ英語を学ぶ。作品の多くは映画化されているので、映像作品と原作の違いなどについても考えたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 課題とした文学作品を次の授業までに読み、発表する。辞書を使用してテキストを細かく読み、理解してから授業に臨むこと。また、レポートは字数や形式を守り、作品に関するリサーチをじゅうぶん行うこと。各回、予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画] 第1回: イントロダクション 第2回: 小説と戯曲、アメリカ文学史概観 第3回: アーヴィング『リップ・ヴァン・ウィンクル』を読む 第4回: アーヴィング『リップ・ヴァン・ウィンクル』の時代背景と社会 第5回: オルコット『若草物語』を読む 第6回: オルコット『若草物語』と南北戦争 第7回: フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』を読む 第8回: フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』と20年代 第9回: フォークナー『響きと怒り』を読む 第10回: フォークナー『響きと怒り』とアメリカ南部 第11回: ウィリアムズ『ガラスの動物園』を読む 第12回: ウィリアムズ『ガラスの動物園』とアメリカの家族 第13回: まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--------|-----------|----------|------|
| 科目名 | 英語圏文学 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | アメリカ文学を学ぶ | メディア(講義) | |
| 担当者 | 坂元 敦子 | | |

[成績評価方法]

テスト(30%)、課題(40%)、授業参加(30%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業内でおこない、マナバも使用します。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ

人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

プリント配布 著者名:

[参考書(ISBN)]

小説の技法 著者名:D. ロッジ 出版社:白水社 (9784560000000)

| | | | |
|---|--------|----------------|-----|
| 科目名 | 英語圏文学Ⅱ | 後期 | 2単位 |
| サブタイトル | | メディア(講義) | |
| 担当者 | 森 尚也 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翻訳を通して原作を読み、物語の力を感じる。 ・原作の英文も一部読むので、時代や作者によって変わる英語の文体の違いを知る。 ・イギリスやアイルランドの文学作品とその時代背景、社会や文化について理解する。 ・文学作品を読み、そのなかから問題を探し、調べ、考え、表現する。 <p>[授業概要]</p> <p>【メディア授業】 この授業では、イギリスやアイルランドの代表的な文学作品の一部(抜粋)を英語で読み、その中の英語表現について学ぶとともに、作品に見られる「イギリスらしさ・アイルランドらしさ」とは何かについて考える。作品の背景となる時代や社会・文化にも焦点をあて、各自が調べたり発表したりすることによって、異なる文化の理解を目指す。また声に出して台詞や文章を読むことによって、英語による文学作品を味わい、コミュニケーションの道具を超えた言語表現に触れる。作品の多くは映画化されているので、映像作品と原作の違いなどについても考えたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>図書館やインターネットを使用して、講義関連内容の情報を収集し、興味のある文献を読んでおく。 各回、予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 小説と戯曲、イギリスとアイルランド文学史概観 第3回 スウィフト『ガリバー旅行記』を読む:18世紀の旅行記文学 第4回 スウィフト『ガリバー旅行記』:「憤怒」の人スウィフトと、フーイヌムの悲しみ 第5回:ディケンズ『オリバー・ツイスト』を読む 第6回:ディケンズ『オリバー・ツイスト』:階級社会 第7回:ハーディ『ダーバヴィル家のテス』を読む 第8回:ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』:意識の流れ 第9回:ジョイス『ダブリン市民』を読む ポスト植民地文学 第10回:ジョイス『ダブリン市民』:意識の流れ 第11回:ベケット『ゴドーを待ちながら』を読む:世界に放り出された人間 第12回:ベケット『ゴドーを待ちながら』を読む 戦争の記憶 第13回:まとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----------|-----|
| 科目名 | 英語圏文学Ⅱ | 後期 | 2単位 |
| サブタイトル | | メディア(講義) | |
| 担当者 | 森 尚也 | | |
| <p>[成績評価方法] 音読テスト20% (発音、アクセント、イントネーション、強弱、間など)、最終レポート80%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaやメール等でおこなう</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 『ゴドーを待ちながら』 著者名:サミュエル・ベケット 出版社:白水社 (ISBN-10:4560071837)</p> <p>[参考書(ISBN)] 『ベケット大全』 著者名:高橋康也監修 出版社:白水社 (ISBN-10:4560046662) 『ガリヴァー旅行記』を読む 著者名:富山太佳夫 出版社:岩波書店 (ISBN-10:4000042491) 二十世紀「英国」小説の展開 著者名:高橋和久・丹治愛編著 出版社:松柏社 (978-4-7754-0269-6) 『ガリヴァー旅行記』 著者名:スウィフト (高山宏訳) 出版社:研究社 (4327180521) イェイツとジョイスの時代のダブリン 著者名:リチャード・ケイン 出版社:小鳥遊書房 (978-4-909812-37-7)</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------------|----|------|
| 科目名 | 英語圏文学入門 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | イギリスの恋愛詩を読む | 講義 | |
| 担当者 | 坂本 晃平 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|---|----------------|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

1. 英語で書かれた文学作品を読み解くにあたって必要となる語学力を高めること。
2. 英詩に関する基本的な規則を理解し、それらを用いて英詩を分析する技術を高めること。
3. イギリス文学を読み解くにあたって必要となる歴史・文化への造詣を深めること。
4. 異なる国の異なる時代の文学作品という他者との出会いを通して、異文化理解力を高めること。
5. 小学校及び中学校にて教科英語を講じるに足る専門性や技能を修得すること。

[授業概要]

21世紀の日本という国に生きる我々であっても、たとえばウィリアム・シェイクスピアの『ソネット集』を読むことで、16世紀から17世紀にかけてのイングランドを生きた恋人たちに出会うことができる。こうした出会いを通して我々は、彼らと我々との間のあまりに大きな考え方の違いに絶句するかもしれないし、あるいは生きている国も時代も違ってもかかわらず、彼らが美しいと思ったものを我々もまた美しいと思わずにはおけないという事実に感動するかもしれない。いずれにせよ、文学を読むことは見知らぬ他者との対話の営みである。人口に膾炙した言い方をすれば、異文化理解の謂である。

そこで本講座では、過去から現在までの間、イギリスという国で英語という言葉を用いて書かれてきた詩の作品を各回一篇ずつ取り上げ、それらを各時代の文化や歴史、社会的背景とも照らし合わせつつ読み解いてゆくことで、小中学教科英語を教授するにあたって有用な語学力、及び文学やそれに関連する歴史や文化に関する基礎的知識を修得するのみならず、異文化理解力をも高めることを目指す。そして何より、授業で扱った詩作品を朗読することを通して、詩を味わうことも目指したい。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

毎回の授業について、予習・復習併せて4時間程度を目安とする。予習においては、講義で取り上げる詩作品を辞書等も参照して読み込んだ上で、めいめいがみずから手で翻訳を用意しておくこと。復習においては、詩の朗読の練習をしておくこと。

[授業計画]

1. Introduction
2. William Shakespeare, "Sonnet 18"
3. John Keats, "Bright Star"
4. Andrew Motion, "Gaisford Street"
5. Thomas Campion, "I Care Not for These Ladies"
6. Andrew Marvell, "Top His Coy Mistress"
7. John Donne, "The Flea"
8. John Wilmot, 2nd Earl of Rochester, "The Mistress"
9. Robert Bridges, "I Will Not Let Thee Go"
10. Ben Jonson, "To Celia"
11. Thomas Wyatt, "Whoso List To Hunt"
12. Philip Larkin, "Anus Mirabilis"
13. Ted Hughes, "Her Husband"

| | | | |
|--|-------------|----|------|
| 科目名 | 英語圏文学入門 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | イギリスの恋愛詩を読む | 講義 | |
| 担当者 | 坂本 晃平 | | |
| <p>[成績評価方法] 毎回の小レポート (30%)、朗読テスト (30%)、中間レポート (20%)、期末レポート (20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小レポート及び中間レポート、期末レポートのいずれも採点の上、返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] 『イギリス恋愛詞華集——この瞬間を永遠に』 著者名:齊藤貴子 出版社:研究社 (978-4-327-48167-4)</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし(授業中に適宜紹介する)</p> | | | |

| | | | |
|--|---|----------------|------|
| 科目名 | 英語コミュニケーション I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | Let's join the IWC Project and the ICC Project! | 講義 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>IWC Project と ICC Project に参加し、インターネットを通じて海外の大学生と自分の英語を「国際共通語」として使い交流する。そして、自分の英語を、人と人との絆を結ぶ媒体として「機能」させる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>IWC (Interactive Writing Community)というウェブサイトを紹介して、日本語を母語としない海外の大学生と日常生活の様々なテーマについて「書き言葉」で意見交換をする。</p> <p>さらに、IWC に投稿したエッセイの内容を、ICC (Intercultural Classroom Connections) というウェブサイトを紹介して、同期・非同期で「話し言葉」で「国境を越えた対話」をする。</p> <p>「書く」「読む」「話す」「聞く」の4技能が統合されたICT を活用した授業として、これからの英語教育を担う受講生にとってモデルとなる授業を実践する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業時間内・外に、IWC プロジェクト や ICC プロジェクトに参加し、同期・非同期で、海外の高校生や大学学生と「書き言葉」と「話し言葉」の両方の媒体で「国境を越えた対話」をする。</p> <p>[授業計画]</p> <p>毎回、授業は以下のように構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> IWC のサイトにアクセスし、100 以上あるトピックから1つ選び、そのトピックについて自分の考えを書く。英語の原稿をクラスメートと交換して読み合い意見交流をする。 クラスメートとの対話をもとに、ICC のサイトに投稿するための原稿を作成する。作成した原稿を Read & Look up をしてスラスラ読めるまで練習する。 ICC のサイトにアクセスして、原稿を棒読みせずに「動画」を録画する。 IWC に投稿されている海外の高校生や大学生のエッセイをたくさん読み、誰かのエッセイに「コメント」を書いて投稿する。または、ICC のサイトに投稿されている海外の高校生や大学生の動画をたくさん見る。そして、誰かにコメントを動画で投稿する。 <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション (100 あるトピックの紹介とシステムの使い方) エッセイの投稿①、Read & Look up ①、IWC・ICC への投稿① エッセイの投稿②、Read & Look up ②、IWC・ICC への投稿② エッセイの投稿③、Read & Look up ③、IWC・ICC への投稿③ エッセイの投稿④、Read & Look up ④、IWC・ICC への投稿④ エッセイの投稿⑤、Read & Look up ⑤、IWC・ICC への投稿⑤ エッセイの投稿⑥、Read & Look up ⑥、IWC・ICC への投稿⑥ エッセイの投稿⑦、Read & Look up ⑦、IWC・ICC への投稿⑦ エッセイの投稿⑧、Read & Look up ⑧、IWC・ICC への投稿⑧ エッセイの投稿⑨、Read & Look up ⑨、IWC・ICC への投稿⑨ エッセイの投稿⑩、Read & Look up ⑩、IWC・ICC への投稿⑩ エッセイの投稿⑪、Read & Look up ⑪、IWC・ICC への投稿⑪ まとめと振り返り | | | |

| | | | |
|--|---|----|------|
| 科目名 | 英語コミュニケーション I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | Let's join the IWC Project and the ICC Project! | 講義 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法]</p> <p>① IWC や ICC に投稿するために執筆した原稿と、動画によるプレゼン・コメントの質と量 (80%)</p> <p>② 最終レポート (20%)</p> <p>①と②を総合して評価をする。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>プリントを配布する。教科書が必要になる場合は、第1回の授業のときに詳細を説明する。</p> <p>[参考書(ISBN)]</p> <p>なし</p> | | | |

| | | | | |
|---|--------------|--|----------------|-----|
| 科目名 | 英語コミュニケーションⅡ | | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 中学校外国語科における「話すこと・書くこと」の指導力を高めるために、自らの考えを英語で発信できる語彙や表現力を身につける。</p> <p>[授業概要] 中学校学習指導要領には「話すこと(やり取り)」と「話すこと(発表)」の違いを明確にして指導することが求められている。このような指導力を身に付けるために、本授業では基本となるモデルプレゼンテーションの構造と英語の論理構成を学びながら、的確なプレゼンテーションが行える力を養成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 次に行うUnitに目を通しておくこと。授業の中で提示する課題に取り組んでおくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション & Presentation Structure プレゼンテーションの構造 2. Presentation Skills プレゼンテーションのスキル 3. Preparing for Your Presentation 情報収集と情報倫理 4. How to Arrange a Presentation Setting プレゼンテーション環境の準備 5. Type 1: Listing 列挙型プレゼンテーション 6. Type 2: Classification 分類型プレゼンテーション 7. Type 3: Process プロセス型プレゼンテーション 8. Type 4: Investigation 調査型プレゼンテーション 9. Review Unit: Giving Your Presentation 報告型プレゼンテーションの実践 10. Persuasion 説得型プレゼンテーション 11. Type 6: Problem and Solution 問題解決型プレゼンテーション 12. Type 7: Cause and Effect 原因・結果型プレゼンテーション 13. まとめ | | | | |

| | | | |
|---|--------------|----|-----|
| 科目名 | 英語コミュニケーションⅡ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 定期試験(50%)、授業中の課題(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>[教科書(ISBN)] Winning Presentations 著者名: Akira Morita Shinichi Harada Kazuma Kitamura Sayaka Sugimoto Bill Benfield 出版社: SEIBIDO (9784790000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名: 文部科学省 出版社: 開隆堂 (9784304051692)</p> | | | |

| | | | |
|---|------------|----------------|------|
| 科目名 | 英語史 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語のルーツを探ろう | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 英語という言語の成り立ちを知ることから、英語という言語への理解を深めていきます。現代の英語がどのように今の形になったのか、ブリテン島をめぐる歴史もわかるようになります。</p> <p>[授業概要] 英語ってどのようにして成立してきた言葉なのでしょうか。語彙や文法の根にはどのようなことがあるのでしょうか。受講生のみなさんと毎回のテーマについて考え、意見交換をしながら、英語ということばを多面的にとらえていこうという授業です。担当者からは、毎回テーマに沿った資料を配布しますが、受講生のみなさんの興味や関心事を大切にしながら一緒に英語という言語の成り立ちを探っていきましょう。その過程では、英国という国の歴史や文学作品なども知ることが出来るようになると思っています。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業計画に沿ったテーマについて、授業前には各自で調べてきてください。授業ではそのことの発表や討議を中心に進めます。授業では質問できるようにしてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語発達史概観 2. 英語発達史への考察 3. 印欧祖語民族の言語 4. 印欧祖語民族の文化・神話 5. 英語の語源と印欧語比較言語学 6. 英語の語源と印欧語比較言語学への考察 7. 印欧諸語の中の英語:文法的特徴 8. 印欧諸語の中の英語:動詞を中心に① 9. 印欧諸語の中の英語:動詞を中心に② 10. 古英語から現代英語まで:名詞を中心に 11. 古英語から現代英語まで:人称代名詞を中心に 12. 文字と綴りのルーツ 13. まとめ(英語のルーツについてのレポート) | | | |

| | | | |
|--------|------------|----|------|
| 科目名 | 英語史 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語のルーツを探ろう | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |

[成績評価方法]

授業への主体的参加(60%)、プレゼンテーション、最終レポート(40%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

レポートについては、後日コメントを付すなどして返却します。授業では毎回意見を発表することがもとめられます。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:最終レポートで評価します。

学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。

成績評価方法:授業への主体的参加、プレゼンテーションで評価します。

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業への主体的参加、プレゼンテーションで評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ

人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業への主体的参加、最終レポートで評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:授業への主体的参加、最終レポートで評価します。

[教科書(ISBN)]

なし

レジメや資料を配布します。

[参考書(ISBN)]

なし

必要に応じて授業で紹介します。

| | | | |
|--------|-------------|----|------|
| 科目名 | 英語文化教育論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語で「物語」を味わう | 実習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|---|----------------|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

英語で書かれた絵本をはじめとする様々な物語を読み聞くことを通して、英語独自の音やリズム、表現形式、英語文化を五感を総動員して味わう。このような経験を通して、小学校や中学校での英語教育における絵本や児童文学の役割について考える。

[授業概要]

次のようなタスクをすることを通して、英語で書かれた物語を読み合い味わう「洋書読書コミュニティ」を築いていく。

・やさしい英語で楽しむ世界名作シリーズ(16タイトル)から読みたい物語を選んで読み、読んだ感想を英文を引用しながら授業のサイトに投稿し感想を共有する。

・小学校や中学校の国語や英語の教科書に出てくる有名な絵本をディクテーションをしながらじっくりと味わう。自分の感想や解釈を、英文を引用しながら授業のサイトに投稿し感想を共有する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

復習を中心に行う。

授業中にディクテーションした絵本の動画を、Youtubeで探して聞き直す。自分の解釈を込めてオーバーラッピングをしながら物語を味わう。

[授業計画]

毎回、授業は次の2つのパートから構成される。

1.やさしい英語で楽しむ世界名作シリーズ(16タイトル)から好きな物語を選んで読む。T/F Questionsで理解を確認しながら読み進めていく。

2.絵本のディクテーション

絵本は、以下を予定。

The Giving Tree

Swimmy

The Very Hungry Caterpillar

I'll Always Love You

Badger's Parting Gifts

The Fall of Freddie the Leaf

Oh, the Places You'll Go!

A cat who lived a million lives

1. オリエンテーション

2. 世界名作シリーズの読書①、絵本のディクテーション①

3. 世界名作シリーズの読書②、絵本のディクテーション②

4. 世界名作シリーズの読書③、絵本のディクテーション③

5. 世界名作シリーズの読書④、絵本のディクテーション④

6. 世界名作シリーズの読書⑤、絵本のディクテーション⑤

7. 世界名作シリーズの読書⑥、絵本のディクテーション⑥

8. 世界名作シリーズの読書⑦、絵本のディクテーション⑦

9. 世界名作シリーズの読書⑧、絵本のディクテーション⑧

10. 世界名作シリーズの読書⑨、絵本のディクテーション⑨

11. 世界名作シリーズの読書⑩、絵本のディクテーション⑩

12. 世界名作シリーズの読書⑪、絵本のディクテーション⑪

13. まとめと振り返り

| | | | |
|--------|-------------|----|------|
| 科目名 | 英語文化教育論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語で「物語」を味わう | 実習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |

[成績評価方法]

- ①「やさしい英語で楽しむ世界名作シリーズ」における True/False Questions の正解数 (50%)
 ②「絵本」のディクテーションの正解数 + 小学校や中学校での英語教育における絵本や児童文学の役割についてのレポート (50%)
 ①②を総合して評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
 授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。
 成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。
 成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。
 成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
 成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
 成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
 成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]
 なし。

[参考書(ISBN)]
 なし。

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 英文法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 基本的な英文法力を備えた上で、英語で適切に表現できる力を身につけるとともに、TOEIC、英検などの資格試験、大学の原書講読やライティングの授業にも対応できる英語力をつける。英語の文法的特徴に気づく力を高め、将来、教員として英語指導ができる実力と自信を持てるようにする。</p> <p>[授業概要] 一つひとつの文法事項を確認し、具体的な例文を通して英語の構造や意味の理解を深めるために問題演習と解説を行う。英文法力を高めると同時に、将来、教員として生徒たちに分かりやすく英文法を説明できる力も身につける。英文は何度も声に出して練習する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 各文法項目について、テキストをよく読んでおくこと。基本例文については暗唱し繰り返し声に出して練習すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、動詞の基礎と文型・動詞 2. 時制 3. 助動詞 4. 名詞、冠詞、代名詞、形容詞と副詞 5. 態 6. 否定・疑問 7. 準動詞・接続詞 8. 関係詞 9. 形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句 10. 比較 11. 仮定法 12. 倒置、要素の移動、強調、省略 13. まとめ <p>※進捗状況により、計画の一部を変更する場合がある。</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 英文法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 定期試験(50%)、授業中の課題(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:定期試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:定期試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>[教科書(ISBN)] 大学生のための英文法再入門 著者名:町田健 豊島克己著 出版社:研究社 (9784330000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692)</p> | | | |

| | | | |
|---|---|----------------|------|
| 科目名 | Oral Presentation I | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | Let's join the Intercultural Classroom Connections (ICC) Project! | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] ICC Project に参加し、インターネットを通じて海外の大学生と自分の英語を「国際共通語」として使い交流する。そして、自分の英語を、人と人との絆を結ぶ媒体として「機能」させる。</p> <p>[授業概要] 授業時間内・外に、ICC プロジェクトに参加し、同期・非同期で、海外の高校生や大学学生と「国境を越えた対話」をする。ICT を活用してOral Presentation をたくさん行い、これからの英語教育のモデルとなる授業を実践する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業の時間外に、海外の高校生や大学生が投稿した動画を見て、コメントを「話し言葉」で ICC のサイトに投稿する。</p> <p>[授業計画] 毎回、授業は以下のように構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ICC のサイトにアクセスし、50個あるトピックから1つ選び、そのトピックについて自分の考えを書く。英語の原稿をクラスメートと交換して読み合い意見交流をする。 2. クラスメートとの対話をもとに、英語の原稿を推敲する。推敲した原稿を Read & Look up をしてスラスラ読めるまで練習する。 3. ICC のサイトにアクセスして、原稿を棒読みせずに「動画」を録画する。 4. ICC のサイトに投稿されている海外の高校生や大学生の動画をたくさん見る。そして、誰か2人にコメントを動画で投稿する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (50 あるトピックの紹介とシステムの使い方) 2. プレゼンの投稿①、Read & Look up ①、コメントの投稿① 3. プレゼンの投稿②、Read & Look up ②、コメントの投稿② 4. プレゼンの投稿③、Read & Look up ③、コメントの投稿③ 5. プレゼンの投稿④、Read & Look up ④、コメントの投稿④ 6. プレゼンの投稿⑤、Read & Look up ⑤、コメントの投稿⑤ 7. プレゼンの投稿⑥、Read & Look up ⑥、コメントの投稿⑥ 8. プレゼンの投稿⑦、Read & Look up ⑦、コメントの投稿⑦ 9. プレゼンの投稿⑧、Read & Look up ⑧、コメントの投稿⑧ 10. プレゼンの投稿⑨、Read & Look up ⑨、コメントの投稿⑨ 11. プレゼンの投稿⑩、Read & Look up ⑩、コメントの投稿⑩ 12. プレゼンの投稿⑪、Read & Look up ⑪、コメントの投稿⑪ 13. まとめと振り返り | | | |

| | | | |
|---|---|----|------|
| 科目名 | Oral Presentation I | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | Let's join the Intercultural Classroom Connections (ICC) Project! | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法]</p> <p>① ICC に投稿するために執筆した原稿と、動画によるプレゼン・コメントの質と量 (80%) ② 最終レポート (20%) ①と②を総合して評価をする。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] プリントを配布する。教科書が必要になる場合は、第1回の授業のときに詳細を説明する。</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|----------------------|----------------|------|
| 科目名 | Oral Presentation II | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] プレゼンテーションの組み立て方を身につけ、各テーマについて自分の意見を英語で発信できる。</p> <p>[授業概要] プレゼンテーションの組み立て方や表現方法を学び、社会問題や環境問題など様々な話題について、ペアやグループでの意見交換を行い、自らの意見を英語で簡潔にまとめる。効果的なプレゼンテーションに必要なグラフや関連資料などの提示方法、文の構成、表現方法について説明する。実際にスライドを作成し、クラス全員の前で発表を行う。また、発表において話し手と聞き手として質疑応答ができるように適切な表現を身につけていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 毎回発表を行うので、何度も音声を口から出して練習を重ね、準備を整えておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション & プレゼンテーションの組み立て方 2. プレゼンテーションの構成 3. プレゼンテーションの英語表現 4. 実践 1「テーマ:社会関連」への準備(1) 5. 実践 1への準備(2) 6. プレゼンテーション実践 1 と 振り返り 7. 実践 2「テーマ:環境関連」への準備(1) 8. 実践 2への準備(2) 9. プレゼンテーション実践 2 と 振り返り 10. 実践 3「テーマ:教育関連」への準備(1) 11. 実践 3への準備(2) 12. プレゼンテーション実践 3 と 振り返り 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|----------------------|----|------|
| 科目名 | Oral Presentation II | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 定期試験(50%)、授業中の課題(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:定期試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692) 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051685)</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------|----------------|------|
| 科目名 | 音楽科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児教育・保育現場に必要な音楽基礎力の養成 | 講義 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 幼児教育・保育現場で必要となる音楽の基礎知識を身につける。</p> <p>[授業概要] 幼児教育・保育現場で歌を歌ったり、子どもが楽しめる音楽指導を行うためには、まずは音楽の基礎知識が必要となる。この授業では、幼児教育・保育現場に必要な音楽の基礎知識を身につけることを目的とする。特に音楽を構造的に捉え、楽譜を速く読めるようにすることや、子どもの歌に合わせて伴奏を付けたり自由に演奏できる力を身に付ける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テキスト対応のe-ラーニング教材を活用して、予習・復習を行うこと。特に理解不足の部分は次回の授業までにきちんと自主学習をし、理解を深めておくこと。</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション(授業の進め方について)、譜表と音名、音符と休符 第2回 拍子とリズム、記号と標語(子どもの歌を例に) 第3回 音程①(全音階的音程) 第4回 音程②(半音階的音程) 第5回 和声とコードネーム①(三和音の種類、主要三和音) 第6回 和声とコードネーム②(転回形、四和音) 第7回 コード進行と伴奏付け(子どもの歌やアニメソング・小学校唱歌等の伴奏付け) 第8回 音階と調①(長音階) 第9回 音階と調②(短音階・関係調、移調、様々な音階や旋法) 第10回 音楽におけるICTの活用 第11回 音楽史概論・様々なジャンルの曲 第12回 アレンジや即興演奏など 第13回 テストとまとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|----|------|
| 科目名 | 音楽科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児教育・保育現場に必要な音楽基礎力の養成 | 講義 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| <p>[成績評価方法] 筆記試験(70%)、授業への取り組み(小テストを含む)(30%) 筆記試験後、解答解説を行う。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験終了後に解答解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験と授業への取り組み。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:試験と授業への取り組み。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み・態度。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み、態度。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、レポート等。</p> <p>[教科書(ISBN)] この一冊でわかる楽典と音楽実技 著者名:深見友紀子、小林田鶴子 出版社:音楽之友社 (978-4-276-10052-7)</p> <p>[参考書(ISBN)] みんなが知りたい!音楽実技対策 著者名:深見友紀子 出版社:ヤマハミュージックメディア (978-4-636-95829-4)</p> | | | |

| | | | |
|---|------------------|----------------|------|
| 科目名 | 音楽科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育現場に必要な音楽基礎力の養成 | 講義 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 教育現場で必要となる音楽の基礎知識を身につける。</p> <p>[授業概要] 教育現場で歌を歌ったり、子どもが楽しめる音楽指導を行うためには、まずは音楽の基礎知識が必要となる。この授業では、小学校教育現場に必要な音楽の基礎知識を身につけることを目的とする。特に音楽を構造的に捉え、楽譜を速く読めるようにすることや、子どもの歌に合わせて伴奏を付けたり自由に演奏できる力を身に付ける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テキスト対応のe-ラーニング教材を活用して、予習・復習を行うこと。特に理解不足の部分は次回の授業までにきちんと自主学習をし、理解を深めておくこと。</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション(授業の進め方について)、譜表と音名、音符と休符 第2回 拍子とリズム、記号と標語(子どもの歌を例に) 第3回 音程①(全音階的音程) 第4回 音程②(半音階的音程) 第5回 和声とコードネーム①(三和音の種類、主要三和音) 第6回 和声とコードネーム②(転回形、四和音) 第7回 コード進行と伴奏付け(子どもの歌やアニメソング・小学校唱歌等の伴奏付け) 第8回 音階と調①(長音階) 第9回 音階と調②(短音階・関係調、移調、様々な音階や旋法) 第10回 音楽におけるICTの活用 第11回 音楽史概論・様々なジャンルの曲 第12回 アレンジや即興演奏など 第13回 テストとまとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|------------------|----|------|
| 科目名 | 音楽科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育現場に必要な音楽基礎力の養成 | 講義 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| <p>[成績評価方法] 筆記試験(70%)、授業への取り組み(小テストを含む)(30%) 筆記試験後、解答解説を行う。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験終了後に解答解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験と授業への取り組み。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:試験と授業への取り組み。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み・態度。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み、態度。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、レポート等。</p> <p>[教科書(ISBN)] この一冊でわかる楽典と音楽実技 著者名:深見友紀子、小林田鶴子 出版社:音楽之友社(978-4-276-10052-7)</p> <p>[参考書(ISBN)] みんなが知りたい!音楽実技対策 著者名:深見友紀子 出版社:ヤマハミュージックメディア(978-4-636-95829-4)</p> | | | |

| | | | |
|---|------------------|----------------|------|
| 科目名 | 音楽科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育現場に必要な音楽基礎力の養成 | 講義 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 教育現場で必要となる音楽の基礎知識を身につける。</p> <p>[授業概要] 教育現場で歌を歌ったり、子どもが楽しめる音楽指導を行うためには、まずは音楽の基礎知識が必要となる。この授業では、小学校教育現場に必要な音楽の基礎知識を身につけることを目的とする。特に音楽を構造的に捉え、楽譜を速く読めるようにすることや、子どもの歌に合わせて伴奏を付けたり自由に演奏できる力を身に付ける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テキスト対応のe-ラーニング教材を活用して、予習・復習を行うこと。特に理解不足の部分は次回の授業までにきちんと自主学習をし、理解を深めておくこと。</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション(授業の進め方について)、譜表と音名、音符と休符 第2回 拍子とリズム、記号と標語(子どもの歌を例に) 第3回 音程①(全音階的音程) 第4回 音程②(半音階的音程) 第5回 和声とコードネーム①(三和音の種類、主要三和音) 第6回 和声とコードネーム②(転回形、四和音) 第7回 コード進行と伴奏付け(子どもの歌やアニメソング・小学校唱歌等の伴奏付け) 第8回 音階と調①(長音階) 第9回 音階と調②(短音階・関係調、移調、様々な音階や旋法) 第10回 音楽におけるICTの活用 第11回 音楽史概論・様々なジャンルの曲 第12回 アレンジや即興演奏など 第13回 テストとまとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|------------------|----|------|
| 科目名 | 音楽科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育現場に必要な音楽基礎力の養成 | 講義 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| <p>[成績評価方法] 筆記試験(70%)、授業への取り組み(小テストを含む)(30%) 筆記試験後、解答解説を行う。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験終了後に解答解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験と授業への取り組み。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:試験と授業への取り組み。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み・態度。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み、態度。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、レポート等。</p> <p>[教科書(ISBN)] この一冊でわかる楽典と音楽実技 著者名:深見友紀子、小林田鶴子 出版社:音楽之友社(978-4-276-10052-7)</p> <p>[参考書(ISBN)] みんなが知りたい!音楽実技対策 著者名:深見友紀子 出版社:ヤマハミュージックメディア(978-4-636-95829-4)</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------|----------------|------|
| 科目名 | 音楽科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 児童の感性を育む音楽科の指導法 | 講義 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 初等音楽科教育についての知識を身につけるとともに、児童が音楽を通して豊かな感性や創造性を育むことの重要性を知る。また、教材ならびに指導法の研究を通して、教育現場で必要な技能を修得する。</p> <p>[授業概要] 初等音楽科教育の目標を理解し、わが国の音楽教育の歴史を学ぶことを通して、今後の音楽科教育の動向や課題について考察する。また、子どもの感性や創造性を育む指導法や教材についての研究を行うとともに、実際に楽器の演奏や弾き歌い、音楽づくりをする。最終的に指導案を作成して模擬授業を行い、教育現場で必要な技能を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回の授業に、十分な予習・復習をして臨むこと。課題曲の練習はしっかり行うこと。 共通教材24曲の弾き歌いをみんなの前で演奏する(全員必ず行う)ので練習しておくこと。</p> <p>[授業計画] 第1回:オリエンテーション、小学校音楽教育の目的と内容・意義 第2回:小学校音楽科教育の歴史と現在 第3回:音楽科学習指導要領ー表現、鑑賞、共通事項・幼稚園教育要領との関係 第4回:音楽科の指導内容① 歌唱と器楽(我が国の楽器・手作り楽器を含む)、ICT機器の活用 第5回:音楽科の指導内容② 音楽づくりの指導法(創造的音楽学習を含む)、ICT機器の活用 第6回:音楽科の指導内容③ 鑑賞の指導法(我が国の音楽を含む)、ICT機器の活用 第7回:学習指導案の作成と評価について 第8回:教材研究と模擬授業計画立案、準備 第9回:教材研究と模擬授業、評価方法等の工夫、振り返り(歌唱) 第10回:教材研究と模擬授業、評価方法等の工夫、振り返り(器楽・音楽づくり) 第11回:教材研究と模擬授業、評価方法等の工夫、振り返り(鑑賞) 第12回:教材研究と模擬授業、評価方法等の工夫、振り返り(器楽・音楽づくり) 第13回:試験とまとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------|----|------|
| 科目名 | 音楽科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 児童の感性を育む音楽科の指導法 | 講義 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験25%、模擬授業と指導案25%、授業への取り組み50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験後に解答解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験と模擬授業</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:試験と模擬授業、指導案作成</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:模擬授業、授業への取り組み</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:模擬授業、授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:模擬授業、授業への取り組み</p> <p>[教科書(ISBN)] 「最新 初等科音楽教育法 2017年告示 小学校学習指導要領準拠」 著者名:初等科音楽教育研究会 出版社:音楽之友社 (978-4-276-82102-6) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版 (978-4-491-03465-2)</p> <p>[参考書(ISBN)] 2011年改訂版 小学校音楽科教育法 著者名:有本真紀・阪井恵・山下薫子・他 出版社:教育芸術社 (978-4-877-884918)</p> | | | |

S61060 [LKH2-015]

| | | | |
|--|-----------------|----------------|------|
| 科目名 | 音楽科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 児童の感性を育む音楽科の指導法 | 講義 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 初等音楽科教育についての知識を身につけるとともに、児童が音楽を通して豊かな感性や創造性を育むことの重要性を知る。また、教材ならびに指導法の研究を通して、教育現場で必要な技能を修得する。</p> <p>[授業概要] 初等音楽科教育の目標を理解し、わが国の音楽教育の歴史を学ぶことを通して、今後の音楽科教育の動向や課題について考察する。また、子どもの感性や創造性を育む指導法や教材についての研究を行うとともに、実際に楽器の演奏や弾き歌い、音楽づくりをする。最終的に指導案を作成して模擬授業を行い、教育現場で必要な技能を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回の授業に、十分な予習・復習をして臨むこと。課題曲の練習はしっかり行うこと。 共通教材24曲の弾き歌いをみんなの前で演奏する(全員必ず行う)ので練習しておくこと。</p> <p>[授業計画] 第1回:オリエンテーション、小学校音楽教育の目的と内容・意義 第2回:小学校音楽科教育の歴史と現在 第3回:音楽科学習指導要領ー表現、鑑賞、共通事項・幼稚園教育要領との関係 第4回:音楽科の指導内容① 歌唱と器楽(我が国の楽器・手作り楽器を含む)、ICT機器の活用 第5回:音楽科の指導内容② 音楽づくりの指導法(創造的音楽学習を含む)、ICT機器の活用 第6回:音楽科の指導内容③ 鑑賞の指導法(我が国の音楽を含む)、ICT機器の活用 第7回:学習指導案の作成と評価について 第8回:教材研究と模擬授業計画立案、準備 第9回:教材研究と模擬授業、評価方法等の工夫、振り返り(歌唱) 第10回:教材研究と模擬授業、評価方法等の工夫、振り返り(器楽・音楽づくり) 第11回:教材研究と模擬授業、評価方法等の工夫、振り返り(鑑賞) 第12回:教材研究と模擬授業、評価方法等の工夫、振り返り(器楽・音楽づくり) 第13回:試験とまとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------|----|------|
| 科目名 | 音楽科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 児童の感性を育む音楽科の指導法 | 講義 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験25%、模擬授業と指導案25%、授業への取り組み50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験後に解答解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験と模擬授業</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:試験と模擬授業、指導案作成</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:模擬授業、授業への取り組み</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:模擬授業、授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:模擬授業、授業への取り組み</p> <p>[教科書(ISBN)] 「最新 初等科音楽教育法 2017年告示 小学校学習指導要領準拠」 著者名:初等科音楽教育研究会 出版社:音楽之友社 (978-4-276-82102-6) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版 (978-4-491-03465-2)</p> <p>[参考書(ISBN)] 2011年改訂版 小学校音楽科教育法 著者名:有本真紀・阪井恵・山下薫子・他 出版社:教育芸術社 (978-4-877-884918)</p> | | | |

S61061 [LKH2-015]

| | | | |
|--|----------|----------------|------|
| 科目名 | 音楽科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校の音楽教育 | 演習 | |
| 担当者 | 宮内 晴美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 初等音楽科教育についての知識をつけるとともに、小学校音楽科の教材ならびに指導法の研究を通して、教育現場で必要な技能を習得する。</p> <p>[授業概要] 教育現場で必要とされる技能や知識を学び、実際にそれらを歌唱したり、演奏したりすることにより、音楽表現に活用できる能力と指導する能力を身に付ける。 児童の発達段階に応じた指導法を学び、現場での指導力を向上させる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回の授業に十分な復習をして臨むこと。 また、課題の実技練習をしっかりとすること。 (各回、予習・復習を1時間程度)</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション 第2回 低学年の音楽的発達と歌唱・器楽の教材研究 第3回 中学年の音楽的発達と歌唱・器楽の教材研究 第4回 高学年の音楽的発達と歌唱・器楽の教材研究 第5回 合唱及び合奏の指導法、指揮法、選曲の注意点 第6回 主要三和音、コードネームを使った伴奏法 第7回 発声法、歌唱・器楽の教材研究のまとめと模擬授業 第8回 音楽づくりの教材研究 第9回 音楽づくり発表会 第10回 鑑賞の教材研究(ICT機器の活用) 第11回 教職に必要な音楽理論の確認 第12回 採用試験に向けて筆記と実技の実践 第13回 個人実技発表、まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--------|----------|----|------|
| 科目名 | 音楽科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校の音楽教育 | 演習 | |
| 担当者 | 宮内 晴美 | | |

[成績評価方法]
 授業中の課題(30%)、実技発表(40%)、レポート課題(30%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
 実技発表は毎回の授業で講評と今後の課題を知らせる。
 授業内レポートなどの課題は、次の授業で返却し振り返る。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。
 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。
 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。
 成績評価方法:授業中の課題、実技発表、レポート課題

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
 成績評価方法:授業中の課題、実技発表、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
 成績評価方法:授業中の課題、実技発表、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
 成績評価方法:授業中の課題、実技発表、レポート課題

[教科書(ISBN)]
 最新 初等科音楽教育法 著者名:初等科音楽教育研究会(編) 出版社:音楽之友社(978-4-276-82101-9)

[参考書(ISBN)]
 この一冊でわかるピアノ実技と楽典 著者名:深見友紀子、小林田鶴子、坂本暁美 出版社:音楽之友社(978-4-276-10051-0)

| | | | |
|---|--------------------|----------------|------|
| 科目名 | 海外語学セミナー | 前期 | 3 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 本多 明子、齋藤 由紀、水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 海外での研修を通して、異文化理解教育、第二言語習得理論、海外の教育事情等についての理解を深め、多角的な視点から初等教育、及び、中等英語教育について考え、その学びを児童、生徒たちに対する効果的な英語指導に活かすことができる。</p> <p>[授業概要] 渡航前に教育学科主催の事前研修会に参加し、帰国後には研修レポートを提出する。 また、研修前後に開かれる国際交流推進部のオリエンテーション・結団式・帰国報告会に出席する。</p> <p>教育学科事前研修会の内容は次のとおりである。 ①異文化理解教育について ②海外事情 ③第二言語習得理論の実際</p> <p>帰国後に提出する研修レポートのテーマは「効果的な英語指導についての考察」とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 渡航先での研修に備え、各自、必要な語学力を高めておくこと。また、将来教員として英語教育に携わることを見据え、教授内容、教授法等、教育に関する海外事情についても理解しておく。研修後のレポート課題、報告会での発表に備え、研修中に習得したことを纏め準備を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 1. 事前指導 ① (本多) 2. 事前指導 ② (齋藤) 3. 事前指導 ③ (水野) 4. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 5. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 6. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 7. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 8. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 9. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 10. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 11. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 12. 事後指導 (本多、齋藤、水野) 13. 事後指導・報告会 (本多、齋藤、水野)</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------------|----|------|
| 科目名 | 海外語学セミナー | 前期 | 3 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 本多 明子、齋藤 由紀、水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(50%)、レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは事前・事後指導の中で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:課題、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:課題、レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:課題、レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて資料を配付する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692) 小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051685)</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------------|----------------|------|
| 科目名 | 海外語学セミナー | 後期 | 3 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 本多 明子、齋藤 由紀、水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 海外での研修を通して、異文化理解教育、第二言語習得理論、海外の教育事情等についての理解を深め、多角的な視点から初等教育、及び、中等英語教育について考え、その学びを児童、生徒たちに対する効果的な英語指導に活かすことができる。</p> <p>[授業概要] 渡航前に教育学科主催の事前研修会に参加し、帰国後には研修レポートを提出する。 また、研修前後に開かれる国際交流推進部のオリエンテーション・結団式・帰国報告会に出席する。</p> <p>教育学科事前研修会の内容は次のとおりである。 ①異文化理解教育について ②海外事情 ③第二言語習得理論の実際</p> <p>帰国後に提出する研修レポートのテーマは「効果的な英語指導についての考察」とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 渡航先での研修に備え、各自、必要な語学力を高めておくこと。また、将来教員として英語教育に携わることを見据え、教授内容、教授法等、教育に関する海外事情についても理解しておく。研修後のレポート課題、報告会での発表に備え、研修中に習得したことを纏め準備を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 1. 事前指導 ① (本多) 2. 事前指導 ② (齋藤) 3. 事前指導 ③ (水野) 4. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 5. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 6. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 7. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 8. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 9. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 10. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 11. 海外研修 (授業・異文化体験活動等) 12. 事後指導 (本多、齋藤、水野) 13. 事後指導・報告会 (本多、齋藤、水野)</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------------|----|------|
| 科目名 | 海外語学セミナー | 後期 | 3 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 本多 明子、齋藤 由紀、水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(50%)、レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは事前・事後指導の中で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:課題、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:課題、レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:課題、レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて資料を配付する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692) 小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051685)</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 介護等体験 | 後期～2025年度 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 個人の尊厳や社会連帯の認識を深める | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、植戸 貴子、曾田 里美、木村 あい | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・義務教育に従事予定の教員志望者が、「個人の尊厳及び社会連帯の理念」に関する認識を深めることができる。 ・障がい者や高齢者との関わり方を学び、具体的な体験を通して「思いやりの心・共生の精神」の大切さを実感することができる。 <p>[授業概要]</p> <p>事前指導では、施設等の状況、介護等体験の意義、心構え、社会福祉、高齢者福祉等を学ぶ。また、実習では、特別支援学校・社会福祉施設等で、当該職員の指導を受けながら、障がい者・高齢者等との関わり方について、体験を通して学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>人権教育、特別支援教育、社会福祉施設等について、予習・復習をすること。</p> <p>[授業計画]</p> <p>事前指導 ※一部を除きメディア授業で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(宮本、教職支援センター) ・障がい者施設等の状況について(植戸) ・社会福祉の動向と介護等体験の意義について(曾田) ・高齢者福祉施設の介護について(泉) ・特別支援教育の指導の実際について(宮本) ・体験上の心構えについて(宮本) ・申請手続き説明会(宮本、教職支援センター)【対面授業】 <p>現場体験実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉施設等での体験実習(5日間) ・特別支援学校での体験実習(2日間) <p>事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめと反省(宮本・教職支援センター) | | | |

| | | | |
|--------|-------------------------|--------------|------|
| 科目名 | 介護等体験 | 後期～2025年度 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 個人の尊厳や社会連帯の認識を深める | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、植戸 貴子、曾田 里美、木村 あい | | |

[成績評価方法]
実習体験記録(40%)、取組姿勢(40%)、レポート等(20%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
提出されたレポートにおいて、卓越した内容など特筆すべきことは事後の学習に生かす。
課題のある内容については、全体として再確認したり、個別に助言したりする。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

特別支援学校における介護等体験ガイドブック 新フィリア 著者名:全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟 編著 出版社:ジアース教育新社 (978-4-86371-522-6)
第5版 よくわかる社会福祉施設 ―教員免許志願者のためのガイドブック 著者名:増田 雅暢(執筆代表者) 出版社:全国社会福祉協議会 (978-4-7935-1277-3)

[参考書(ISBN)]

特になし

| | | | |
|---|-------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 介護等体験 | 後期～2025年度 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 個人の尊厳や社会連帯の認識を深める | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、植戸 貴子、曾田 里美、木村 あい | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・義務教育に従事予定の教員志望者が、「個人の尊厳及び社会連帯の理念」に関する認識を深めることができる。 ・障がい者や高齢者との関わり方を学び、具体的な体験を通して「思いやりの心・共生の精神」の大切さを実感することができる。 <p>[授業概要]</p> <p>事前指導では、施設等の状況、介護等体験の意義、心構え、社会福祉、高齢者福祉等を学ぶ。また、実習では、特別支援学校・社会福祉施設等で、当該職員の指導を受けながら、障がい者・高齢者等との関わり方について、体験を通して学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>人権教育、特別支援教育、社会福祉施設等について、予習・復習をすること。</p> <p>[授業計画]</p> <p>事前指導 ※一部を除きメディア授業で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(宮本、教職支援センター) ・障がい者施設等の状況について(植戸) ・社会福祉の動向と介護等体験の意義について(曾田) ・高齢者福祉施設の介護について(泉) ・特別支援教育の指導の実際について(宮本) ・体験上の心構えについて(宮本) ・申請手続き説明会(宮本、教職支援センター)【対面授業】 <p>現場体験実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉施設等での体験実習(5日間) ・特別支援学校での体験実習(2日間) <p>事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめと反省(宮本・教職支援センター) | | | |

| | | | |
|--------|-------------------------|--------------|------|
| 科目名 | 介護等体験 | 後期～2025年度 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 個人の尊厳や社会連帯の認識を深める | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、植戸 貴子、曾田 里美、木村 あい | | |

[成績評価方法]
実習体験記録(40%)、取組姿勢(40%)、レポート等(20%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
提出されたレポートにおいて、卓越した内容など特筆すべきことは事後の学習に生かす。
課題のある内容については、全体として再確認したり、個別に助言したりする。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

特別支援学校における介護等体験ガイドブック 新フィリア 著者名:全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟 編著 出版社:ジアース教育新社 (978-4-86371-522-6)
第5版 よくわかる社会福祉施設 ―教員免許志願者のためのガイドブック 著者名:増田 雅暢(執筆代表者) 出版社:全国社会福祉協議会 (978-4-7935-1277-3)

[参考書(ISBN)]

特になし

| | | | |
|---|---------|----------------|------|
| 科目名 | カウンセリング | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 水澤 慶緒里 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>各自の自己理解を深めながら、面接や対人援助技術についての理論・実践の両面から学び、カウンセリングの基本を習得することを到達目標とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>近年カウンセリングは、教育・医療・福祉・保健など様々な領域で、幅広く用いられている。どの領域においても適切な援助を行うにあたり共通して求められることは、まず援助を受ける側の気持ちや不安、心理的葛藤等を理解することである。この授業では、「カウンセリングとは」の問いから始まり、対象者理解・自己理解演習をキーワードに、面接の基本的なスキルについて学んでいく。授業では、ロールプレイングや事例検討なども取り入れ、ビデオ教材なども用いながら、面接や対人援助技術についての理論・実践の両面から学び、カウンセリングの基本を修得していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>「心理学」で学ぶ人間のもつ心理的特性について復習しながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から心のケアやその対応等についても関心をもつこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングとは 2. 自己理解(パーソナリティテストを用いて) 3. 他者理解(精神疾患の理解) 4. カウンセリングの基礎理論 1 (精神分析・来談者中心療法・認知行動療法) 5. カウンセリングの基礎理論 2 (ソリューション・フォーカスト・アプローチ) 6. 面接の基本的なスキル 1 (ノンバーバルコミュニケーションとロールプレイング) 7. 面接の基本的なスキル 2 (受容・共感・ジョイニングとロールプレイング) 8. 面接の基本的なスキル 3 (反復・要約・リフレーミングとロールプレイング) 9. ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法 1(基本的な考えと特徴) 10. ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法 2(解決構築) 11. ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法 3(質問技法) 12. 試行カウンセリング(応答訓練) 13. まとめ・テスト | | | |

| | | | |
|--------|---------|----|------|
| 科目名 | カウンセリング | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 水澤 慶緒里 | | |

[成績評価方法]

授業中の課題(20%)、レポート提出(20%)、テスト(60%)等を総合的に判断して評価する。
 ・授業中の課題やレポートは、授業内でフィードバックします。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

なし。必要に応じて資料を配布する。

[参考書(ISBN)]

対人援助技術の実際―面接技法を中心に― 著者名:白石大介 出版社:創元社 (4-422-11124-8)

| | | | | |
|--|-------------------|--|----------------|------|
| 科目名 | 学校インターンシップ I | | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、金岩 俊明、佐藤 浩樹 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 学級経営や授業づくり等を観察し、教師の仕事の概要を把握するとともに、自分なりの将来の教師像を描くことができる。今後のインターンシップへの意欲を高めることができる。</p> <p>[授業概要] ・観察実習の前に、インターンシップの意義や心構え・必要な準備等を理解する。 ・観察実習を通して、教員としての使命感・責任感等の重要性を認識し、教員に求められる資質・能力について理解する。 ・教員の服務や組織の一員としての立場に着目し、自分自身の適性を考察し、今後の学修の課題を自覚する。 ・子供と実際に触れ合うことを通して、教職のやりがいを自分なりに見出す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 訪問前には、学校現場で観察したいこと、学びたいこと、可能なら経験したいことなどを整理する。 訪問後には、活動内容や方法、子供の反応等を振り返り、自分自身が再認識したことや新たな課題など今後の力点をまとめる。</p> <p>[授業計画] 第1 回事前指導①(目的・内容・日程・期間・留意事項・報告書等)……宮本 第2 回事前指導②(実習先の内定・子供理解の例・活動の具体事例)……宮本 第3 回学校現場の実情(受入校の校長代表講話・外部特別講師)……宮本 第4 回先輩学生の体験談(スクールサポーター経験者2~3名)……佐藤 第5 回学校現場実習① 第6 回学校現場実習② ※10~12小学校に受け入れを依頼し各々4人程度に分担する 第7 回学校現場実習③ ※割り当てられた1つの学校に毎週木曜日に全6回訪問する 第8 回学校現場実習④ ※受け入れ校には、金岩・佐藤・宮本が分担して訪問する 第9 回学校現場実習⑤ 第10回学校現場実習⑥ 第11回体験交流会(簡易体験記に基づく情報交換、『学びのレポート作成』)…宮本 第12回体験発表会(『学びのレポート』活用、質疑応答等)…金岩・佐藤・宮本 第13回全体の総括(スクールサポーター制度の説明を含む[神戸市教委])…宮本</p> | | | | |

| | | | |
|---|-------------------|----|------|
| 科目名 | 学校インターンシップ I | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、金岩 俊明、佐藤 浩樹 | | |
| <p>[成績評価方法] 学校現場での実習態度・活動時間(50%)、簡易体験談(10%)、学びのレポート(20%) 学内の学習態度やグループ活動観察記録(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manaba等で課題提出を求めることがある。 不十分なレポート等については、個別に指導を行い再提出を求める。 実施上の悩みや心配事等については、随時相談に応じていく。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------|----------------|------|
| 科目名 | 学校インターンシップ I | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕、山成 昭世 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 学外での実習体験を通して、教職についての理解を深め、その責任感・使命感を体得し、社会性・コミュニケーション力・幼児理解等の必要性を認識する</p> <p>[授業概要] ・インターンシップに行く前、行ったとき、行った後の3局面を通して、社会人としてのマナーやモラル等を理解するとともに、教員としての資質・能力を高め、職業としての重要性や必要性の理解を深めていく。 ・学校園現場で実習体験を実施するに当たっての、自分なりの目的意識を明確に持つ。 ・子供たちと接する具体的な場面を観察する中で課題解決等の方策を見出す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 学校園現場で実習体験を実施するに当たっての、自分なりの目的意識を明確に持つ</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション(幼小合同) 2. オリエンテーション 3. 事前指導 4. 事前挨拶 5. 幼稚園実習・記録提出 6. 幼稚園実習・記録提出 7. 幼稚園実習・記録提出 8. 幼稚園実習・記録提出 9. 幼稚園実習・記録提出 10. 幼稚園実習・記録提出 11. 幼稚園実習・記録提出 12. 幼稚園実習・記録提出・記録まとめ 13. まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------|----|------|
| 科目名 | 学校インターンシップ I | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕、山成 昭世 | | |
| <p>[成績評価方法] 実習態度 60% 授業態度 20% 報告書内容 20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 学校インターンシップⅡ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、大西 雅裕、金岩 俊明、佐藤 浩樹、山成 昭世 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教師の職務内容を具体的に学び、教育公務員としての責任の重さを認識したうえで、自分なりの教師像を確立する。</p> <p>[授業概要] ・学校での現場体験を通して、多様な子供たちの存在と各学校には独自の教育課題があることを理解する。 ・学級担任だけでなく、管理職や専科教員、スクールサポートスタッフなど専門性を生かした教職員の組織体として機能していることを二か指揮する。 ・子供理解や地域理解を深めつつ、学校が常に組織的な対応を求められ、保護者や地域、関係機関と緊密な連携を行っていることに着目する。 ・授業の重要性を再認識し、今後の学修における自分自身の課題を明確化する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前に学校のホームページや自治体教育委員会のホームページを検索して、必要な情報を収集しておくこと。 事後には、過去の現場体験との違いに着目して、各学校の教育活動の特色を整理するとともに、それぞれの教育的な意義について整理すること。</p> <p>[授業計画] 事前指導 ・幼保と小学校は別々に行う 幼保(大西・山成) 小学校(宮本・金岩・佐藤) ・実習先学校園の確認、活動状況、今後の意思確認、活動上の目標の設定 学校園インターンシップ <担当教員は必ず学校園を訪問して学生の活動状況を聴取のうえ把握する> ・管理職の講話 ・担当教員との打ち合わせと指導 ・授業中の支援の仕方 ・休み時間、放課後の関わり方 ・給食の時間の支援や援助 ・清掃活動の支援や援助 ・教育相談活動の在り方 ・大学教員訪問時における指導助言 ・反省と課題 ・インターンシップの自己評価 事後指導(担当教員) ・インターンシップの報告書作成と自己評価 ・学生同士の報告会と課題整理の意見交換 ・学校からの報告書をもとに総合評価</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------|----|------|
| 科目名 | 学校インターンシップⅡ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、大西 雅裕、金岩 俊明、佐藤 浩樹、山成 昭世 | | |
| <p>[成績評価方法] 活動時間数(60%)、期末レポート(20%)、観察記録(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 不十分なレポート等については、個別に指導を行い再提出を求める。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|---|-------------------------------|--|----------------|------|
| 科目名 | 学校インターンシップⅢ | | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、大西 雅裕、金岩 俊明、佐藤 浩樹、山成 昭世 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教師の職務内容を具体的に学び、教育公務員としての責任の重さを認識したうえで、自分なりの教師像を確立することができる。</p> <p>[授業概要] ・学校での現場体験を通して、多様な子供たちの存在と各学校には独自の教育課題があることを理解する。 ・学級担任だけでなく、管理職や専科教員、スクールサポートスタッフなど専門性を生かした教職員の組織体として機能していることを認識する。 ・子供理解や地域理解を深めつつ、学校が常に組織的な対応を求められ、保護者や地域、関係機関と緊密な連携を行っていることを理解する。 ・授業の重要性を再認識し、今後の学修における自分自身の課題を明確にする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前に学校のホームページや自治体教育委員会のホームページを検索して、必要な情報を収集しておくこと。 事後には、過去の現場体験との違いに着目して、各学校の教育活動の特色を整理するとともに、それぞれの教育的な意義について整理すること。</p> <p>[授業計画] 事前指導 ・幼保と小学校は別々に行う 幼保(大西・山成) 小学校(宮本・金岩・佐藤) ・実習先学校園の確認、活動状況、今後の意思確認、活動上の目標の設定 学校園インターンシップ <担当教員は必ず学校園を訪問して学生の活動状況を聴取のうえ把握する> ・管理職の講話 ・担当教員との打ち合わせと指導 ・授業中の支援の仕方 ・休み時間、放課後の関わり方 ・給食の時間の支援や援助 ・清掃活動の支援や援助 ・教育相談活動の在り方 ・大学教員訪問時における指導助言 ・反省と課題 ・インターンシップの自己評価 事後指導(担当教員) ・インターンシップの報告書作成と自己評価 ・学生同士の報告会と課題整理の意見交換 ・学校からの報告書をもとに総合評価</p> | | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------|----|------|
| 科目名 | 学校インターンシップⅢ | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、大西 雅裕、金岩 俊明、佐藤 浩樹、山成 昭世 | | |
| <p>[成績評価方法] 活動時間数(60%)、期末レポート(20%)、観察記録(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 不十分なレポート等については、個別に指導を行い再提出を求める。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|---|-------------------------------|--|----------------|------|
| 科目名 | 学校インターンシップⅣ | | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、大西 雅裕、金岩 俊明、佐藤 浩樹、山成 昭世 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教師の職務内容を具体的に学び、教育公務員としての責任の重さを認識したうえで、自分なりの教師像を確立する。</p> <p>[授業概要] ・学校での現場体験を通して、多様な子供たちの存在と各学校には独自の教育課題があることを理解する。 ・学級担任だけでなく、管理職や専科教員、スクールサポートスタッフなど専門性を生かした教職員の組織体として機能していることを二か指揮する。 ・子供理解や地域理解を深めつつ、学校が常に組織的な対応を求められ、保護者や地域、関係機関と緊密な連携を行っていることに着目する。 ・授業の重要性を再認識し、今後の学修における自分自身の課題を明確化する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前に学校のホームページや自治体教育委員会のホームページを検索して、必要な情報を収集しておくこと。 事後には、過去の現場体験との違いに着目して、各学校の教育活動の特色を整理するとともに、それぞれの教育的な意義について整理すること。</p> <p>[授業計画] 事前指導 ・幼保と小学校は別々に行う 幼保(大西・山成) 小学校(宮本・金岩・佐藤) ・実習先学校園の確認、活動状況、今後の意思確認、活動上の目標の設定 学校園インターンシップ <担当教員は必ず学校園を訪問して学生の活動状況を聴取のうえ把握する> ・管理職の講話 ・担当教員との打ち合わせと指導 ・授業中の支援の仕方 ・休み時間、放課後の関わり方 ・給食の時間の支援や援助 ・清掃活動の支援や援助 ・教育相談活動の在り方 ・大学教員訪問時における指導助言 ・反省と課題 ・インターンシップの自己評価 事後指導(担当教員) ・インターンシップの報告書作成と自己評価 ・学生同士の報告会と課題整理の意見交換 ・学校からの報告書をもとに総合評価</p> | | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------|----|------|
| 科目名 | 学校インターンシップⅣ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、大西 雅裕、金岩 俊明、佐藤 浩樹、山成 昭世 | | |
| <p>[成績評価方法] 活動時間数(60%)、期末レポート(20%)、観察記録(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 不十分なレポート等については、個別に指導を行い再提出を求める。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|---|-------------------------------|--|----------------|------|
| 科目名 | 学校インターンシップⅤ | | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、大西 雅裕、金岩 俊明、佐藤 浩樹、山成 昭世 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>各学校における日々の教育活動や、教職員による多種多様な子供への関わりを観察しながら、学習指導や生徒指導等の具体的なポイントを学び取ることができる。 特別支援教育の視点で子供理解を深めるとともに、ICTの積極的な活用の重要性を認識して、今後の学修における自分自身の力点を見極めることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育力や授業力の向上に直結するような教員の事前準備を具体的に学ぶ。 ・保育や授業における子供とのかかわりや子供同士のつながりについて学ぶ。 ・保育や授業後の子供たちの反応や作品などを通して指導や支援の改善を図る。 ・最新の教育動向を学び、現場教員の意見も参考にして新たな研究の視点を得る。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>事前に学校のホームページを検索して、学校の概要や特色ある教育活動などを把握する。 教育委員会のホームページを検索して、最新の教育動向をつかみ具体的な施策を研究する。 事後には、現場体験から学んだことを自分なりに整理し、不勉強なジャンルについて研究する。</p> <p>[授業計画]</p> <p>事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保と小学校は別々に行う 幼保(大西・山成) 小学校(宮本・金岩・佐藤) ・実習先学校園の確認、活動状況、今後の意思確認、活動上の目標の設定 <p>学校園インターンシップ</p> <p><担当教員は必ず学校園を訪問して学生の活動状況を聴取のうえ把握する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職の講話 ・担当教員との打ち合わせと指導 ・授業中の支援の仕方 ・休み時間、放課後の関わり方 ・給食の時間の支援や援助 ・清掃活動の支援や援助 ・教育相談活動の在り方 ・大学教員訪問時における指導助言 ・反省と課題 ・インターンシップの自己評価 <p>事後指導(担当教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの報告書作成と自己評価 ・学生同士の報告会と課題整理の意見交換 ・学校からの報告書をもとに総合評価 | | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------|----|------|
| 科目名 | 学校インターンシップⅤ | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、大西 雅裕、金岩 俊明、佐藤 浩樹、山成 昭世 | | |
| <p>[成績評価方法] 活動時間数(60%)、期末レポート(20%)、観察記録(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 不十分なレポート等については、個別に指導を行い再提出を求める。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 学校インターンシップⅥ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、大西 雅裕、金岩 俊明、佐藤 浩樹、山成 昭世 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 各学校における日々の教育活動や、教職員による多種多様な子供への関わりを観察しながら、学習指導や生徒指導等の具体的なポイントを学び取っていく。 特別支援教育の視点で子供理解を深めるとともに、ICTの積極的な活用の重要性を認識して、今後の学修における自分自身の力点を見極めていく。</p> <p>[授業概要] ・保育力や授業力の向上に直結するような教員の事前準備を具体的に学ぶ。 ・保育や授業における子供とのかかわりや子供同士のつながりについて学ぶ。 ・保育や授業後の子供たちの反応や作品などを通して指導や支援の改善を図る。 ・最新の教育動向を学び、現場教員の意見も参考にして新たな研究の視点を得る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前に学校のホームページを検索して、学校の概要や特色ある教育活動などを把握する。 教育委員会のホームページを検索して、最新の教育動向をつかみ具体的な施策を研究する。 事後には、現場体験から学んだことを自分なりに整理し、不勉強なジャンルについて研究する。</p> <p>[授業計画] 事前指導 ・幼保と小学校は別々に行う 幼保(大西・山成) 小学校(宮本・金岩・佐藤) ・実習先学校園の確認、活動状況、今後の意思確認、活動上の目標の設定 学校園インターンシップ <担当教員は必ず学校園を訪問して学生の活動状況を聴取のうえ把握する> ・管理職の講話 ・担当教員との打ち合わせと指導 ・授業中の支援の仕方 ・休み時間、放課後の関わり方 ・給食の時間の支援や援助 ・清掃活動の支援や援助 ・教育相談活動の在り方 ・大学教員訪問時における指導助言 ・反省と課題 ・インターンシップの自己評価 事後指導(担当教員) ・インターンシップの報告書作成と自己評価 ・学生同士の報告会と課題整理の意見交換 ・学校からの報告書をもとに総合評価</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------|----|------|
| 科目名 | 学校インターンシップⅥ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎、大西 雅裕、金岩 俊明、佐藤 浩樹、山成 昭世 | | |
| <p>[成績評価方法] 活動時間数(60%)、期末レポート(20%)、観察記録(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 不十分なレポート等については、個別に指導を行い再提出を求める。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|--|--|----------------|----|------|
| 科目名 | 学校と地域連携・協働 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 学校が地域に果たす役割やそのことにより社会をどのように変革できるのかについて考えてみたい | | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標] 学校が開ざされたものではなく、地域に開かれたものであるということをどのように実現していくのかについて私見を述べる事ができる。自分と社会を俯瞰的に眺めることで、学校の果たす役割を多面的に捉えられる。</p> <p>[授業概要] 今日の教育政策は、教育改革として、地方分権、規制緩和を軸に国民社会の変容に対応する公教育システムの転換を図るものとして展開されてきている。保護者や地域住民のニーズに応えるために、「開かれた学校」「特色ある学校」の実現、「学校の自律性確立」が課題とされ、学校経営を自律的に担うスクールリーダーの育成が求められている。教育改革の意味するものを明らかにし、自律的学校経営を確立するために必要な教育行政と学校経営の新たな関係について考察する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] このテーマに関する文献を渉猟して発表することなどが毎回課せられるので、予復習に2時間程度必要です。</p> <p>[授業計画] 以下は毎回取り上げるテーマを示しています。受講生はテーマについて調査して発表し、討議するスタイルで授業が進みます。 第1回 学校とは、学校の誕生 第2回 教育政策 第3回 教育改革 第4回 開かれた学校 第5回 特色ある学校 第6回 SDGsと学校、教育 第7回 学校のあゆみ 第8回 これからの動向 第9回 私の学校 第10回 未来の学校の姿 第11回 教員としての学校へのかかわり方 第12回 誰ひとり取り残さないためにできること 第13回 まとめ、最終レポート作成のための討議</p> | | | | |

| | | | |
|--|--|----|------|
| 科目名 | 学校と地域連携・協働 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 学校が地域に果たす役割やそのことにより社会をどのように変革できるのかについて考えてみたい | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への主体的な参加 (30%) プレゼンテーション (30%) 最終レポートと発表 (40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出された課題については評価の観点に基づき、事後にコメント等を付して返却を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:最終レポートと発表で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:授業への主体的参加、プレゼンテーションで評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:授業への主体的な参加、最終レポートと発表で評価します。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業への主体的な参加で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への主体的な参加、プレゼンテーションで評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:最終レポートと発表で評価します。</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] 授業で必要に応じて紹介します。</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 家庭科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校家庭科の目標・内容・特性を踏まえ、衣食住、消費生活、環境に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、家族・家庭生活の意義や地域の人々との関わり的重要性について理解する。ひとりの生活者・消費者として健全なライフスタイルを築き、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するために生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成する。</p> <p>[授業概要] 小学校家庭科教育のねらいは家庭生活に関する学習を通して生活者としての基礎・基本を習得させることであり、家族関係の学習を通して人間としての生き方をみつめ、考えさせることにある。本講座では家庭科の基礎・基本の学習内容を取り扱うとともに他教科との関連性にも言及し、生活に役立つ実践的・体験的な授業の分析や学習教材の開発、並びに消費者教育における情報機器の活用・情報活用能力の育成等に力点を置く。受講者自身が消費者・生活者としての健全なライフスタイルを築き、生活・生命の質(QOL)を高めようとする資質を身に付けさせたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の予習・復習を行い、学習内容を基に実生活で問題を発見し、それらを解決するために各自が主体的に問題意識を持って受講すること</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 家庭科教育の概念 2. 学習指導要領と授業づくりの実際 3. 年間指導計画の作成 4. 家族・家庭生活の学習Ⅰ 社会の変化と家族－地球家族－ 5. 家族・家庭生活の学習Ⅱ 高齢者や乳幼児の関わりと福祉 6. 食生活の学習 食生活の現状と課題－防災教育－ 7. 衣生活の学習Ⅰ 衣生活の現状と課題－ファストファッションの実際－ 8. 衣生活の学習Ⅱ 衣服の手入れ－手縫いの基礎－ 9. 住生活の学習 住生活の現状とまちづくり 10. 消費生活の学習 消費生活の実態と課題－情報リテラシー－ 11. 環境の学習 環境に配慮した生活 12. 国際理解 13. 総括</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 家庭科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(50%) 試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは授業及びmanabaの掲示板で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題・試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 新しい教職教育講座 教科教育編 初等家庭科教育 著者名:三沢徳枝 勝田映子 出版社:ミネルヴァ書房 (9784623082049) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (9784491034669)</p> <p>[参考書(ISBN)] 文部科学省検定済教科書 出版社:開隆堂 ()</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 家庭科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校家庭科の目標や内容について理解したうえで学習指導案を作成し、模擬授業の実施と振り返りを通じて実践的な指導、教材の開発、情報機器の活用、目標に準拠した評価とコメントなど教師としての資質や能力を養う。児童の立場に立った「わかる授業」を目標にPCK(内容と教え方を網羅した教師に必要な専門職としての力)を育み、効果的な授業が実施できる能力を培う。</p> <p>[授業概要] 家庭科を担当するにあたって適切な教材観、指導観を養い、指導力を高めることをねらいとしている。本講座では体験学習を通して家庭科の目標を達成するための指導方法及び学習教材の選択と運用、観点別評価基準に基づく評価活動などを学ぶ。学習指導計画案を作成し、模擬授業を通して実践する指導力や目標に準拠した評価(絶対評価)力、新たな学習教材を開発する能力、情報機器及び通信機器の活用、児童の自己効力感を高めるコメント力など教師として必要な能力を身に付ける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の予習・復習を行うとともに模擬授業の内容について評価し、習得したことを生かせるよう学習指導要領及び教科書を読み込んだうえで受講すること</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 家庭科の意義・目標・内容 2. 授業づくりと評価 3. 家庭科の授業における課題の発見と授業内容の立案 4. 模擬授業(1)(2) 家族・家庭生活 5. 模擬授業(3)(4) 幼児との関わり 6. 模擬授業(5)(6) 高齢者との関わり 7. 模擬授業(7)(8) 食生活 8. 模擬授業(9)(10) 衣生活 9. 模擬授業(11)(12) 住生活 10. 模擬授業(13)(14) 消費生活 11. 模擬授業(15)(16) 環境 12. 模擬授業(17)(18) 国際理解 13. 総括 今後の家庭科の展望</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 家庭科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(60%) 試験(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは授業及びmanabaの掲示板で行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:課題</p> <p>[教科書(ISBN)] 対話で学ぶ 家庭科の授業 著者名:伊深祥子 出版社:大学図書出版 (9784909655745) 文部科学省検定済教科書 出版社:開隆堂</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (9784491034669) 新しい教職教育講座 教科教育編 初等家庭科教育 著者名:三沢 徳枝 勝田 映子 出版社:ミネルヴァ書房 (9784623082049)</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 家庭科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校家庭科の目標や内容について理解したうえで学習指導案を作成し、模擬授業の実施と振り返りを通じて実践的な指導、教材の開発、情報機器の活用、目標に準拠した評価とコメントなど教師としての資質や能力を養う。児童の立場に立った「わかる授業」を目標にPCK(内容と教え方を網羅した教師に必要な専門職としての力)を育み、効果的な授業が実施できる能力を培う。</p> <p>[授業概要] 家庭科を担当するにあたって適切な教材観、指導観を養い、指導力を高めることをねらいとしている。本講座では体験学習を通して家庭科の目標を達成するための指導方法及び学習教材の選択と運用、観点別評価基準に基づく評価活動などを学ぶ。学習指導計画案を作成し、模擬授業を通して実践する指導力や目標に準拠した評価(絶対評価)力、新たな学習教材を開発する能力、情報機器及び通信機器の活用、児童の自己効力感を高めるコメント力など教師として必要な能力を身に付ける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の予習・復習を行うとともに模擬授業の内容について評価し、習得したことを生かせるよう学習指導要領及び教科書を読み込んだうえで受講すること</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 家庭科の意義・目標・内容 2. 授業づくりと評価 3. 家庭科の授業における課題の発見と授業内容の立案 4. 模擬授業(1)(2) 家族・家庭生活 5. 模擬授業(3)(4) 幼児との関わり 6. 模擬授業(5)(6) 高齢者との関わり 7. 模擬授業(7)(8) 食生活 8. 模擬授業(9)(10) 衣生活 9. 模擬授業(11)(12) 住生活 10. 模擬授業(13)(14) 消費生活 11. 模擬授業(15)(16) 環境 12. 模擬授業(17)(18) 国際理解 13. 総括 今後の家庭科の展望</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 家庭科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(60%) 試験(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは授業及びmanabaの掲示板で行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:課題</p> <p>[教科書(ISBN)] 対話で学ぶ 家庭科の授業 著者名:伊深祥子 出版社:大学図書出版 (9784909655745) 文部科学省検定済教科書 出版社:開隆堂</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (9784491034669) 新しい教職教育講座 教科教育編 初等家庭科教育 著者名:三沢 徳枝 勝田 映子 出版社:ミネルヴァ書房 (9784623082049)</p> | | | |

| | | | |
|---|---------|----------------|------|
| 科目名 | 家庭科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 学習指導要領に基づいて対象学年に応じた学習内容と学習教材を開発する能力を身につける</p> <p>[授業概要] 家庭科概説に準じた小学校・中学校・高等学校の家庭科の授業や実習について主に調べ学習や体験学習を中心に学習し、子どもたちが楽しみながら主体的に学べる授業や実習の内容を考える。授業開発ならびに教材開発として適切な教具・教材を作成し、授業実践につなげる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 作成した学習内容を基に現実の家庭生活の問題発見、さらにこの問題発見から、問題解決に至るにはどのようにすればよいかを理解、行動するかを考える。また、実際に実習や作品を作ることにより、技能を高め、教材開発となるようにする。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(グループ分け) 2. 生活を豊かにするための布を用いた製作Ⅰ 3. 生活を豊かにするための布を用いた製作Ⅱ 4. 豊かな食生活を送るための調理計画 5. 豊かな食生活を送るための調理実験 6. 家庭科の授業における課題の発見と授業内容の立案 7. 家族・家庭生活と福祉の教材研究(発表と実践) 8. 食生活の教材研究(発表と実践) 9. 衣生活の教材研究(発表と実践) 10. 住生活と防災教育の教材研究(発表と実践) 11. 消費生活の教材研究(発表と実践) 12. 環境と国際理解の教材研究(発表と実践) 13. 総括 | | | |

| | | | |
|--|---------|----|------|
| 科目名 | 家庭科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(60%) 試験(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは授業及びmanabaの掲示板で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題</p> <p>[教科書(ISBN)] 対話で学ぶ 家庭科の授業 著者名:伊深祥子 出版社:大学図書出版 (9784909655745) 文部科学省検定済教科書 出版社:開隆堂</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (9784491034669) 新しい教職教育講座 教科教育編 初等家庭科教育 著者名:三沢 徳枝 勝田 映子 出版社:ミネルヴァ書房 (9784623082049)</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----------------|------|
| 科目名 | 器楽 I | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | ピアノ及び弾き歌いの基礎技能習得と音楽を楽しむ。 | 演習 | |
| 担当者 | 東 恵子、鈴江 美子、山下 佑子、宮内 晴美、久我 裕子、田中 琴弓、山口 雅敏、福田 可織、福田 絵麻、雪原 典子、辻 真理子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 演奏の基礎技能と人前での表現力を身につけ、保育園・幼稚園や小学校の実習等に対応でき、こどもと音楽を楽しめる力をつける。</p> <p>[授業概要] 音楽の基礎的な技能を習得すると共に、特にピアノ技能、弾き歌い技能を身につける。 音楽の基礎的な部分については、基本的にグループレッスンの形態をとる。 また、到達度確認によって、習得度を確認する。 詳しくは、オリエンテーション時に説明する。(教科書は必要なものを確認してから購入すること)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 実技授業なので、与えられた課題をやり、必ず予習復習をして臨むこと。レッスン前後の時間がある場合は練習室などでしっかり練習すること。</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション 第2回 音楽の基礎的な内容についてのグループレッスン、個人レッスン1 第3回 歌唱の基礎的な内容についてのグループレッスン、個人レッスン2 第4回 小学校歌唱教材の弾き歌いについてのグループレッスン、個人レッスン3 第5回 こどもの歌の弾き歌いについてのグループレッスン、個人レッスン4 第6回 弾き歌いの伴奏付けについてのグループレッスン、個人レッスン5 第7回 音楽の基礎的な内容についてのグループレッスン、個人レッスン6 第8回 こどもの歌の弾き歌いについてのグループレッスン、個人レッスン7 第9回 小学校歌唱教材の弾き歌いについてのグループレッスン、個人レッスン8 第10回 こどもの歌や小学校歌唱教材のまとめのグループレッスン、個人レッスン9 第11回 人前で演奏するためのグループレッスン1、個人レッスン10 第12回 人前で演奏するためのグループレッスン2、個人レッスン11 第13回 到達度確認、まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|--|----|------|
| 科目名 | 器楽 I | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | ピアノ及び弾き歌いの基礎技能習得と音楽を楽しむ。 | 演習 | |
| 担当者 | 東 恵子、鈴江 美子、山下 佑子、宮内 晴美、久我 裕子、田中 琴弓、山口 雅敏、福田 可織、福田 絵麻、雪原 典子、辻 真理子 | | |
| <p>[成績評価方法] 実技テストの成績とレッスンの状況、クラス授業への取り組みによって総合的に評価する。 (実技テスト60%、その他40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験終了後、掲示板と担当教員から結果と今後の課題を連絡</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験時に評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内に評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業内に評価する</p> <p>[教科書(ISBN)] 標準バイエルピアノ教則本 著者名:バイエル 出版社:全音出版社(9784110000000) 初等科音楽教育法 * 小学校免許取得希望者の弾き歌いで使用 著者名:初等科音楽教育研究会 出版社:音楽之友社(978-4-276-82101-9) こどものうた100 * 幼稚園免許取得希望者の弾き歌いで使用。著者名:小林美実:監修 出版社:チャイルド本社(978-4-804-8186-8) この一冊でわかる楽典と音楽実技 著者名:深見友紀子、小林田鶴子 出版社:音楽之友社(978-4-276-10052-7)</p> <p>[参考書(ISBN)] 保育のためのマーチ、スキップ、ギャロップ、ワルツ、リズム曲集 * 幼稚園免許取得希望者の表現 著者名:茂田すすむ:編著 出版社:全音出版社(978-4111701957)</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----------------|------|
| 科目名 | 器楽 I | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | ピアノ及び弾き歌いの基礎技能習得と音楽を楽しむ。 | 演習 | |
| 担当者 | 東 恵子、鈴江 美子、山下 佑子、宮内 晴美、久我 裕子、田中 琴弓、山口 雅敏、福田 可織、雪原 典子、辻 真理子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 演奏の基礎技能と人前での表現力を身につけ、保育園・幼稚園や小学校の実習等に対応でき、こどもと音楽を楽しめる力をつける。</p> <p>[授業概要] 音楽の基礎的な技能を習得すると共に、特にピアノ技能、弾き歌い技能を身につける。 音楽の基礎的な部分については、基本的にグループレッスンの形態をとる。 また、到達度確認によって、習得度を確認する。 詳しくは、オリエンテーション時に説明する。(教科書は必要なものを確認してから購入すること)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 実技授業なので、与えられた課題をやり、必ず予習復習をして臨むこと。レッスン前後の時間がある場合は練習室などでしっかり練習すること。</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション 第2回 音楽の基礎的な内容についてのグループレッスン、個人レッスン1 第3回 歌唱の基礎的な内容についてのグループレッスン、個人レッスン2 第4回 小学校歌唱教材の弾き歌いについてのグループレッスン、個人レッスン3 第5回 こどもの歌の弾き歌いについてのグループレッスン、個人レッスン4 第6回 弾き歌いの伴奏付けについてのグループレッスン、個人レッスン5 第7回 音楽の基礎的な内容についてのグループレッスン、個人レッスン6 第8回 こどもの歌の弾き歌いについてのグループレッスン、個人レッスン7 第9回 小学校歌唱教材の弾き歌いについてのグループレッスン、個人レッスン8 第10回 こどもの歌や小学校歌唱教材のまとめのグループレッスン、個人レッスン9 第11回 人前で演奏するためのグループレッスン1、個人レッスン10 第12回 人前で演奏するためのグループレッスン2、個人レッスン11 第13回 到達度確認、まとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----|------|
| 科目名 | 器楽 I | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | ピアノ及び弾き歌いの基礎技能習得と音楽を楽しむ。 | 演習 | |
| 担当者 | 東 恵子、鈴江 美子、山下 佑子、宮内 晴美、久我 裕子、田中 琴弓、山口 雅敏、福田 可織、雪原 典子、辻 真理子 | | |
| <p>[成績評価方法] 実技テストの成績とレッスンの状況、クラス授業への取り組みによって総合的に評価する。 (実技テスト60%、その他40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験終了後、掲示板と担当教員から結果と今後の課題を連絡</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験時に評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内に評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業内に評価する</p> <p>[教科書(ISBN)] 標準バイエルピアノ教則本 著者名:バイエル 出版社:全音出版社 (9784110000000) 初等科音楽教育法 * 小学校免許取得希望者の弾き歌いで使用 著者名:初等科音楽教育研究会 出版社:音楽之友社 (978-4-276-82101-9) こどものうた100 * 幼稚園免許取得希望者の弾き歌いで使用。 著者名:小林美実:監修 出版社:チャイルド本社 (978-4-804-8186-8) この一冊でわかる楽典と音楽実技 著者名:深見友紀子、小林田鶴子 出版社:音楽之友社 (978-4-276-10052-7)</p> <p>[参考書(ISBN)] 保育のためのマーチ、スキップ、ギャロップ、ワルツ、リズム曲集 * 幼稚園免許取得希望者の表現 著者名:茂田すすむ:編著 出版社:全音出版社 (978-4111701957)</p> | | | |

| | | | |
|--|--|----------------|------|
| 科目名 | 器楽Ⅱ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | ピアノおよび弾き歌いの技能習得と音楽を楽しむ。 | 演習 | |
| 担当者 | 東 恵子、鈴江 美子、山下 佑子、宮内 晴美、久我 裕子、田中 琴弓、山口 雅敏、雪原 典子、辻 真理子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 器楽Ⅰで習得した演奏の基礎技能と人前での表現力をさらに伸ばし、幼稚園の実習等に対応でき、こどもと音楽を楽しめる力をつける。</p> <p>[授業概要] 器楽Ⅰで習得した音楽の基礎技能を元に、ピアノ技能、弾き歌い技能を伸ばす。実技テストによって、習得度を測る。 詳しくは、オリエンテーション時に説明する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 実技授業なので、必ず予習復習をして臨むこと。また、レッスンの前後は、ピアノ練習室等でしっかり練習すること。</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション・個人レッスン1 第2回 現場で活用できる内容についてのグループレッスン・個人レッスン2 第3回 歌唱の現場で活用できる内容についてのグループレッスン・個人レッスン3 第4回 こどもの歌唱教材の弾き歌いについてのグループレッスン・個人レッスン4 第5回 人前で演奏するためのグループレッスン1・個人レッスン5 第6回 人前で演奏するためのグループレッスン2・個人レッスン6 第7回 到達度確認、前半のまとめ 第8回 こどもの歌の弾き歌いについてのグループレッスン・個人レッスン7 第9回 こどもの歌唱教材の弾き歌いについてのグループレッスン・個人レッスン8 第10回 こどもの歌のまとめのグループレッスン・個人レッスン9 第11回 人前で演奏するためのグループレッスン3・個人レッスン10 第12回 人前で演奏するためのグループレッスン4・個人レッスン11 第13回 到達度確認、後半のまとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----|------|
| 科目名 | 器楽Ⅱ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | ピアノおよび弾き歌いの技能習得と音楽を楽しむ。 | 演習 | |
| 担当者 | 東 恵子、鈴江 美子、山下 佑子、宮内 晴美、久我 裕子、田中 琴弓、山口 雅敏、雪原 典子、辻 真理子 | | |
| <p>[成績評価方法] 2回の実技テスト(60%)と、レッスンの状況等(40%)によって総合的に評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験終了後、掲示板と担当教員から結果と今後の課題を連絡</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験時に評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内に評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業内に評価する</p> <p>[教科書(ISBN)] 標準バイエルピアノ教則本 著者名:バイエル 出版社:全音出版社(978411000000) 初等科音楽教育法 * 小学校免許取得希望者の弾き歌いで使用 著者名:初等科音楽教育研究会 出版社:音楽之友社(978-4-276-82101-9) こどものうた100 * 幼稚園免許取得希望者の弾き歌いで使用。 著者名:小林美実:監修 出版社:チャイルド本社(978-4-8054-8186-8) この一冊でわかる楽典と音楽実技 著者名:深見友妃子、小林田鶴子 出版社:音楽之友社(978-4-276-10052-7)</p> <p>[参考書(ISBN)] 保育のためのマーチ、スキップ、ギャロップ、ワルツ、リズム曲集 * 幼児教育コースの表現で使用 著者名:茂田すすむ:編著 出版社:全音出版社(978-4111701957)</p> | | | |

| | | | |
|--|--|----------------|------|
| 科目名 | 器楽Ⅱ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | ピアノ及び弾き歌いの技能習得と音楽を楽しむ。 | 演習 | |
| 担当者 | 東 恵子、鈴江 美子、山下 佑子、宮内 晴美、久我 裕子、田中 琴弓、山口 雅敏、福田 可織、福田 絵麻、雪原 典子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 器楽Ⅰで習得した演奏の基礎技能と人前での表現力をさらに伸ばし、小学校・幼稚園の実習等に対応でき、こどもと音楽を楽しめる力をつける。</p> <p>[授業概要] 器楽Ⅰで習得した音楽の基礎技能を元に、ピアノ技能、弾き歌い技能を伸ばす。実技テストによって、習得度を測る。 詳しくは、オリエンテーション時に説明する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 実技授業なので、必ず予習復習をして臨むこと。また、レッスンの前後は、ピアノ練習室等でしっかり練習すること。</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション・個人レッスン1 第2回 音楽の現場で活用できる内容についてのグループレッスン・個人レッスン2 第3回 歌唱の現場で活用できる内容についてのグループレッスン・個人レッスン3 第4回 小学校の歌唱教材の弾き歌いについてのグループレッスン・個人レッスン4 第5回 人前で演奏するためのグループレッスン・個人レッスン5 第6回 人前で演奏するためのグループレッスン・個人レッスン6 第7回 到達度確認、前半のまとめ 第8回 音楽の基礎的な内容のグループレッスン・個人レッスン7 第9回 小学校の歌唱教材の弾き歌いについてのグループレッスン・個人レッスン8 第10回 こどもの歌や小学校の歌唱教材のまとめのグループレッスン・個人レッスン9 第11回 人前で演奏するためのグループレッスン・個人レッスン10 第12回 人前で演奏するためのグループレッスン・個人レッスン11 第13回 到達度確認、後半のまとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----|------|
| 科目名 | 器楽Ⅱ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | ピアノ及び弾き歌いの技能習得と音楽を楽しむ。 | 演習 | |
| 担当者 | 東 恵子、鈴江 美子、山下 佑子、宮内 晴美、久我 裕子、田中 琴弓、山口 雅敏、福田 可織、福田 絵麻、雪原 典子 | | |
| <p>[成績評価方法] 2回の実技テスト(60%)と、レッスンの状況等(40%)によって総合的に評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験終了後、掲示板と担当教員から結果と今後の課題を連絡</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験時に評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験時に評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内に評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業内に評価する</p> <p>[教科書(ISBN)] 標準バイエルピアノ教則本 著者名:バイエル 出版社:全音出版社(9784110000000) 初等科音楽教育法*小学校免許取得希望者の弾き歌いで使用。著者名:初等科音楽教育研究会 出版社:音楽之友社(978-4-276-82101-9) こどものうた100*幼稚園免許取得希望者の弾き歌いで使用。著者名:小林美実:監修 出版社:チャイルド本社(978-4-8054-8186) この一冊でわかる楽典と音楽実技の本 著者名:深見友妃子、小林田鶴子 出版社:音楽之友社(978-4-276-10052-7)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----------------|------|
| 科目名 | 器楽Ⅲ | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | ピアノ及び弾き歌いの技能習得と音楽を楽しむ。 | 演習 | |
| 担当者 | 東 恵子、鈴江 美子、久我 裕子、上原 輝子、田中 琴弓、山口 雅敏、福田 可織、福田 絵麻、雪原 典子、辻 真理子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 器楽Ⅰ、Ⅱで培った音楽基礎的能力をもとに、人前での演奏力を伸ばし、さらに高い音楽技術・こどもと音楽を楽しむ力の獲得を目指す。</p> <p>[授業概要] 保育教育実習などへの実践力をつけるため、ピアノ演奏と弾き歌い及び応用力を養う個人レッスン及びグループ指導を行う。試験は基本的にピアノ演奏と弾き歌い、表現からなっている。到達度確認を2回行う。詳細内容は別記の課題曲、内規などを参照のこと。 (必要教材は1回目の授業時に説明するので、それによって購入すること)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回のレッスンに、十分な練習をして臨むこと。また、レッスン前後で時間がある場合は、ピアノ練習室などでしっかり練習すること。</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション、個人レッスン1 第2回 個人レッスン2 第3回 個人レッスン3・現場で活用できる歌唱のグループレッスン 第4回 個人レッスン4 第5回 個人レッスン5・人前で演奏するためのグループレッスン① 第6回 個人レッスン6・人前で演奏するためのグループレッスン② 第7回 到達度確認、前半のまとめ 第8回 個人レッスン7 第9回 個人レッスン8・こどもに対応する応用力をつけるグループレッスン 第10回 個人レッスン9 第11回 個人レッスン10・こどもに対応する応用力をつけるグループレッスン 第12回 個人レッスン11・人前で演奏するためのグループレッスン③ 第13回 到達度確認、後半のまとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----|------|
| 科目名 | 器楽Ⅲ | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | ピアノ及び弾き歌いの技能習得と音楽を楽しむ。 | 演習 | |
| 担当者 | 東 恵子、鈴江 美子、久我 裕子、上原 輝子、田中 琴弓、山口 雅敏、福田 可織、福田 絵麻、雪原 典子、辻 真理子 | | |
| <p>[成績評価方法] ピアノ及び弾き歌い等の実技テストとレッスン状況によって評価する。(テスト60%、レッスン状況40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験終了後、掲示板と担当教員から結果と今後の課題を連絡</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験時に評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内に評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業内に評価する</p> <p>[教科書(ISBN)] ピアノ教本 レッスンとワーク 著者名:公文征子、高塚由美、飯泉裕美子 出版社:共同音楽出版社 (9784780000000) こどものうた100 *弾き歌いで使用。著者名:小林美実:監修 出版社:チャイルド本社 (978-4-8054-8186) 保育のためのマーチ、スキップ、ギャロップ、ワルツ、リズム曲集 *表現で使用。著者名:茂田すすむ:編著 出版社:全音出版社 (978-4111701957) 標準バイエルピアノ教則本 著者名:バイエル 出版社:全音出版社 (9784110000000) ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ等進度によって対応</p> <p>[参考書(ISBN)] この一冊でわかる楽典と音楽実技の本 著者名:深見友紀子、小林田鶴子 出版社:音楽之友社 (978-4-276-10052-7) 初等科音楽教育法 著者名:初等科音楽教育研究会 出版社:音楽之友社 (978-4276-82101-9)</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----------------|------|
| 科目名 | 器楽Ⅳ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | ピアノ及び弾き歌いの技能習得と音楽を楽しむ。 | 演習 | |
| 担当者 | 東 恵子、山下 佑子、久我 裕子、上原 輝子、福田 可織、福田 絵麻、辻 真理子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 器楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで習得した演奏の基礎技能と人前での表現力をさらに伸ばし、保育・教育実習・幼稚園の実習等に対応でき、こどもと音楽を楽しめる力をつける。</p> <p>[授業概要] 保育教育実習などへの実践力をつけ、また就職試験に向けての実技の充実をめざす。 授業は、就職試験内容等に対応した4つのコースを設けて各自が選択する。 試験はピアノ演奏や弾き歌い、表現等を行う。到達度確認を2回行う。 詳細内容は1回目の授業時に説明する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 実技授業なので、必ず予習復習をして臨むこと。また、レッスンの前後は、ピアノ練習室等でしっかり練習すること。</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション・個人レッスン1 第2回 個人レッスン2 第3回 個人レッスン3 第4回 個人レッスン4 第5回 個人レッスン5 第6回 個人レッスン6 第7回 到達度確認、前半のまとめ 第8回 個人レッスン7 第9回 個人レッスン8 第10回 個人レッスン9 第11回 個人レッスン10 第12回 個人レッスン11 第13回 到達度確認、後半のまとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----|------|
| 科目名 | 器楽Ⅳ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | ピアノ及び弾き歌いの技能習得と音楽を楽しむ。 | 演習 | |
| 担当者 | 東 恵子、山下 佑子、久我 裕子、上原 輝子、福田 可織、福田 絵麻、辻 真理子 | | |
| <p>[成績評価方法] 2回の実技テスト(60%)と、レッスンの状況等(40%)によって総合的に評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験終了後、掲示板と担当教員から結果と今後の課題を連絡</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験時に評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内に評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業内に評価する</p> <p>[教科書(ISBN)] ピアノ教本 レッスンとワーク 著者名:公文征子、高塚由美、飯泉裕美子 出版社:共同音楽出版社(978-4-7785-0056-6) こどものうた100*弾き歌いで使用。著者名:小林美実、監修 出版社:チャイルド本社(978-4-8054-8186-8) 保育のためのマーチ、スキップ、ギャロップ、ワルツ、リズム曲集 著者名:茂田すすむ、編著 出版社:全音出版社(978-4111701957) 標準バイエルピアノ教則本 著者名:バイエル 出版社:全音出版社(9784110000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] この一冊でわかる楽典と音楽実技の本 著者名:深見友紀子、小林田鶴子 出版社:音楽之友社(978-4-276-10052-7)</p> | | | |

| | | | |
|---|---|----------------|------|
| 科目名 | 器楽Ⅳ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | ピアノ及び弾き歌いの技能習得と音楽を楽しむ。 | 演習 | |
| 担当者 | 山口 雅敏、鈴江 美子、宮内 晴美、田中 琴弓、福田 可織、雪原 典子、辻 真理子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 器楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで習得した演奏の基礎技能と人前での表現力をさらに伸ばし、保育・教育実習・幼稚園の実習等に対応でき、こどもと音楽を楽しめる力をつける。</p> <p>[授業概要] 保育教育実習などへの実践力をつけ、また就職試験に向けての実技の充実をめざす。 授業は、就職試験内容等に対応した4つのコースを設けて各自が選択する。 試験はピアノ演奏や弾き歌い、表現等を行う。到達度確認を2回行う。 詳細内容は1回目の授業時に説明する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 実技授業なので、必ず予習復習をして臨むこと。また、レッスンの前後は、ピアノ練習室等でしっかり練習すること。</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション・個人レッスン1 第2回 個人レッスン2 第3回 個人レッスン3 第4回 個人レッスン4 第5回 個人レッスン5 第6回 個人レッスン6 第7回 到達度確認、前半のまとめ 第8回 個人レッスン7 第9回 個人レッスン8 第10回 個人レッスン9 第11回 個人レッスン10 第12回 個人レッスン11 第13回 到達度確認、後半のまとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|---|----|------|
| 科目名 | 器楽Ⅳ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | ピアノ及び弾き歌いの技能習得と音楽を楽しむ。 | 演習 | |
| 担当者 | 山口 雅敏、鈴江 美子、宮内 晴美、田中 琴弓、福田 可織、雪原 典子、辻 真理子 | | |
| <p>[成績評価方法] 2回の実技テスト(60%)と、レッスンの状況等(40%)によって総合的に評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験終了後、掲示板と担当教員から結果と今後の課題を連絡</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験時に評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レッスン時に評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内に評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業内に評価する</p> <p>[教科書(ISBN)] ピアノ教本 レッスンとワーク 著者名:公文征子、高塚由美、飯泉裕美子 出版社:共同音楽出版社(978-4-7785-0056-6) こどものうた100*弾き歌いで使用。著者名:小林美実、監修 出版社:チャイルド本社(978-4-8054-8186-8) 保育のためのマーチ、スキップ、ギャロップ、ワルツ、リズム曲集 著者名:茂田すすむ、編著 出版社:全音出版社(978-4111701957) 標準バイエルピアノ教則本 著者名:バイエル 出版社:全音出版社(9784110000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] この一冊でわかる楽典と音楽実技の本 著者名:深見友紀子、小林田鶴子 出版社:音楽之友社(978-4-276-10052-7)</p> | | | |

| | | | | |
|---|-------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒論テーマを設定する。</p> <p>[授業概要] 前期の「教育学購読」を踏まえて、研究テーマを設定しグループもしくは個人で研究を行う。研究・発表することを通して、教材研や授業づくりが自分で行えるようになるための方法を身につけ、4年次の卒業研究につなげる。 なお、当研究室では、当科目の単位を修得しなければ、次の年の「卒業論文」には進めないののでしっかり学ぶこと。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 発表者は、必ずレジュメを用意する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの設定① 2. 研究テーマの設定② 3. グループ(もしくは個人)での研究① 4. グループ(もしくは個人)での研究② 5. グループ発表と討議① 6. グループ発表と討議② 7. グループ発表と討議③ 8. グループ発表と討議④ 9. グループ発表と討議⑤ 10. 総括とレポート作成に向けて 11. 最終レポート作成① 12. 最終レポート作成② 13. 最終レポート作成③ | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| <p>[成績評価方法] 発表(50%)、提出物(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表、提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、提出物</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編 平成29年7月 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版 (978-4536590105)</p> | | | |

| | | | | |
|--|-------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 興味関心に沿った問題意識を持ち、研究方法について知る。 保育実践力を身につける。</p> <p>[授業概要] 各自の興味関心に沿いながら、研究を進めていくための具体的方法について学ぶ。卒業研究をすすめるための基盤となる事柄を身につける。また、学外で子どもと触れ合うことを通じて実践力を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各自授業内で指示する課題に取り組むこと 各回予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画] 1.子どもをとりまく問題点について考える 2.各自の問題意識を発表及びディスカッション 3.子どもの発達を学ぶ(学外) 4.文献検索及び先行研究検索 5.研究活動における倫理 6.質問紙の作成法 7.観察研究に必要な視点(学外) 8.実験デザイン 9.データのまとめかた 10.データ分析のしかた 11.報告書の作成 12.報告内容発表 13.総括</p> | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題探究の姿勢30% 受講態度20% レポート50% 課題探究は内容で評価をする 受講態度は積極性や、行動を評価する レポートは提出期限、形式を含めて評価する</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート 課題は 翌回 返却し、講評する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:課題探究の姿勢 受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:課題探究の姿勢 受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:課題探究の姿勢 受講態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題探究の姿勢 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題探究の姿勢 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題探究の姿勢 受講態度 レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題探究の姿勢 レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題探究の姿勢 レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] なし 著者名:× 出版社:×</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 著者名:× 出版社:×</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 稲垣 善茂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校の教育現場で生徒を指導できるよう、算数、理科など基礎学力の向上、小学校学習指導要綱の学習内容にかかわる基本的な原理・原則を理解・習得する。さらに卒業論文を執筆するために必要な基礎学力、専門系学力を向上させる。</p> <p>[授業概要] 小学校学習指導要綱の学習内容にかかわる基本的な原理・原則を習得・理解する。もちろん小学校3年生から始まる理科のために、小学校教員として必要な理科の基礎学力、応用力、魅力ある教え方の習得を目指す。また、卒業論文執筆に必要な論文(英語・日本語)やエッセイ(英語・日本語)を読み込んで紹介し、基礎学力、専門系学力の向上に努める。論文紹介時は、携帯電話、タブレット、PCの使用を認めている。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] Word, Excel, PowerPointの使用方法になれていることが必要である。また、模擬授業や論文紹介(PowerPoint使用)については、発表担当者が事前の準備をすること(指導案やワークシート、板書計画、論文説明資料:A4表裏1-2枚以内)。予習復習の時間数は各回、合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. エッセイ(英語・日本語)の講読と紹介1 2. エッセイ(英語・日本語)の講読と紹介2 3. エッセイ(英語・日本語)の講読と紹介3 4. エッセイ(英語・日本語)の講読と紹介4 5. 論文(英語・日本語)の講読と紹介1 6. 論文(英語・日本語)の講読と紹介2 7. 論文(英語・日本語)の講読と紹介3 8. 論文(英語・日本語)の講読と紹介4 9. 卒業論文執筆に向けての準備① 10. 卒業論文執筆に向けての準備② 11. 卒業論文執筆に向けての準備③ 12. 卒業論文執筆に向けての準備④ 13. 卒業論文執筆に向けての準備⑤</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 稲垣 善茂 | | |

[成績評価方法]

課題提出(50%)、授業中のプレゼンテーション、グループワーク(50%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

指導案、小論文課題、レポート、グループワーク課題などの提出物については、赤字で添削したのち、直接返却しています。また、manabaの小テストによる課題に対しては、課題締め切り後に、ポートフォリオに採点結果と正答が公開されるようになっていきます。ポートフォリオを確認して復習に利用してください。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。

成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。

成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)

[教科書(ISBN)]

事前にプリントなどを配布する。

教科書はない。

[参考書(ISBN)]

新しい学びを拓く「理科」授業の理論と実践(小学校編) 著者名:角屋重樹 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-06042-9)

小学校学習指導要領解説(理科編)平成20年8月 著者名:文部科学省大日本図書 出版社:大日本図書 (978-4-477-01949-9)

「アクティブラーニング」を考える 著者名:教育課程研究会編著 出版社:東洋館出版社 (978-4-491-03185-9)

| | | | | |
|---|-------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 子どもを取り巻く環境及び子育て環境について理解し、それらの課題に対する支援策について実践的、経験的な観点から学ぶことを目標とする。また、4回生の卒業論文を目指して、研究計画書の作成を目指す。</p> <p>[授業概要] 子どもを育てる環境としての家庭機能は、今日のさまざまな社会変化の中で、多様化、脆弱化してきている。本演習では、その家庭の今日的状況を踏まえて、子育て支援策の展開、諸機関の機能についてより具体的に学ぶ。その上で学生自身が主体性をもってどのように対応していかなければならないかについて学ぶ。 以上を踏まえて、4回生での卒業論文の前段階として、研究計画書の作成、文献探し、調査方法、草稿、推敲、清書までのプロセスについて学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 3回生前期を踏まえて、後期では、より各学生の興味のある分野を選定する必要がある。そのために自らの研究を進めていく分野について、ある程度限定できるように学修を進めておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. テーマの理解を深める 3. グループ編成を行う 4. 研究課題の整理、設定① 5. 研究課題の整理、設定② 6. 研究計画の設定 7. フィールドワーク① 8. フィールドワーク② 9. フィールドワーク③ 10. 中間まとめ 11. 卒業論文にむけての学習1 12. 文献調査の練習 13. まとめ | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] レポートによって評価を行う。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題等は授業内で評価フィードバックします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] よくわかる卒論の書き方[第2版]</p> <p>必要に応じて資料を配付する。 著者名:白井 利明・高橋 一郎 著 出版社:ミネルヴァ書房 (9784620000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜紹介する。</p> | | | |

| | | | | |
|---|--|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 乳幼児及び児童(障害のある幼児、児童、を含む)への理解を深め保育者の 在り方を考えます | | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 乳幼児の発達・障害や保育に関連する問題を理論的・実証的に考える力を養う。</p> <p>[授業概要] 研究の手順、文献等の収集と整理法、主な研究方法を学びながら、各自のテーマ設定に向けて情報収集を行う。それと同時に発表ならびにディスカッションを通して幼児教育研究についての知識を深め、効果的なプレゼンテーションを行う力を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 共通理解のため受講生と選んだ資料および配布された文献は熟読し、ディスカッションができる準備をすること。各回、予習・復習合わせて最低2時間程度の自主学習が必要です。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 研究の進め方1 卒業研究に向けたテーマ設定 3. 研究の進め方2 個人課題に沿った文献研究の発表 4. 保育教材の研究 ICTを用いて 1 5. 保育教材の研究 ICTを用いて 2 6. 保育教材の研究 ICTを用いて 3 7. 保育教材の研究 ICTを用いて 4 8. 保育教材の研究 ICTを用いて 5 9. 保育教材の研究 ICTを用いて 6 10. 総合発表に向けての検討1 11. 総合発表に向けての検討2 12. 発表 13. まとめ 実践発表の振り返り | | | | |

| | | | |
|--|--|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 乳幼児及び児童(障害のある幼児、児童、を含む)への理解を深め保育者の 在り方を考え | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| <p>[成績評価方法] 発表の内容と方法およびディスカッションへの参加態度、提出物、などを総合的に評価する。(発表内容と方法およびディスカッションへの参加態度70%、提出物30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中口頭でアドバイスやフィードバックを行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。必要に応じて指示する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 保育発達学(第2版) 著者名:服部照子・岡本雅子編著 出版社:ミネルバ書房(9784620000000)</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 研究テーマのデザインと研究プロジェクト | 演習 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 研究課題を設定し、必要な文献講読や具体的実践を通して、各自の研究デザインを構成し、卒業論文の作成に向けて取り組む。</p> <p>[授業概要] 教育学講読の内容や、教育実践の課題から、研究課題を明らかにする。文献研究や研究調査を通じて、教師の力量としての教育実践の企画力・表現力の育成に向けた取り組みを行う。また、研究の道筋を定め、議論しながら研究デザインを構築し卒業論文への見通しが持てるようにする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日常的に、研究テーマに沿った文献研究や資料講読を進めておくこと。受講生の研究テーマについても、自らの視点で論議できるように予習・復習を行うこと。(各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 文献紹介① 3. 文献紹介② 4. 文献紹介③ 5. 卒論中間発表会への参加 6. 研究プロジェクト① 7. 研究プロジェクト② 8. 研究プロジェクト③ 9. 研究プロジェクト④ 10. 研究内容プロット及び文献発表① 11. 研究内容プロット及び文献発表② 12. 研究内容プロット及び文献発表③ 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|---------------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 研究テーマのデザインと研究プロジェクト | 演習 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| <p>[成績評価方法] 研究発表(50%)研究プロジェクト及び討議への参加(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題は授業内で評価します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] なし 必要に応じて資料を配布</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|---|-------|----------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標] 卒業論文に関する研究活動を進める上で必要な研究テーマの設定、研究方法の選択、研究計画の立案等に関する基礎的な知識・技能を身につけることができる。</p> <p>[授業概要] 卒業論文のテーマに従って、研究の目的を設定し、研究の背景や先行研究を整理した上で文章化していきます。研究全体の大まかな計画を立案し、設定した研究課題の解決を目指します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、準備とふりかえりについて4時間程度の学習を求めます。具体的には、各回で指定された課題に取り組み、その成果をプレゼンテーションできるようにしておいてください。</p> <p>[授業計画] 1.研究テーマの検討 2.研究テーマの発表 3.研究の目標・研究の背景の執筆① 4.研究の目標・研究の背景の執筆② 5.先行研究の整理の執筆① 6.先行研究の整理の執筆② 7.先行研究の整理の執筆③ 8.先行研究の整理の執筆④ 9.問題の所在・研究のアプローチの執筆① 10.問題の所在・研究のアプローチの執筆② 11.学会発表等の見学やフィールドワーク① 12.学会発表等の見学やフィールドワーク② 13.学会発表等の見学やフィールドワーク③</p> | | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | |
| <p>[成績評価方法] ゼミ活動に対する取り組み(20%)、各回の課題(60%)、課題に関するプレゼンテーション(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 各回の課題に対しては、ゼミ活動の中でコメントや添削等のフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|---|-------------|----------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 音楽教育学の基礎的研究 | | 演習 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽教育学や音楽に関する文献を読んで、理解を深める。 2. 小学校、幼稚園・保育所等の教育現場や音楽関係機関の音楽教育を調べ、表現教育の現状を知る。 3. 各自の研究テーマに沿って研究を進める <p>[授業概要]</p> <p>音楽教育を中心に自らの課題意識に沿った研究テーマを探究する。 教育・保育現場での音楽教育の現状を踏まえ、それをレポートや論文にあらわす。 教育・保育現場に実際に音楽を使ってアプローチすることも考える。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>音楽や幼児教育に関する、文献、雑誌、新聞記事など、身の周りのものに常に興味を持っておく。 音楽の教育について、疑問に思ったことがあれば、自ら調べる姿勢を持つようにする。</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 小学校、幼稚園・保育所での音楽の現状について(実習等を踏まえて)(1) 第3回 小学校、幼稚園・保育所での音楽の現状について(実習等を踏まえて)(2) 第4回 文献講読(1) 第5回 探究テーマについての研究や実践(1) 第6回 文献講読(2) 第7回 探究テーマについての研究や実践(2) 第8回 探究テーマについての研究や実践(4)(外部講師招聘予定) 第9回 卒業論文の構成案を考える 第10回 卒業論文の基本(レポート)作成 第11回 中間発表に向けての準備 第12回 卒業論文中間発表 第13回 まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|--------|-------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 音楽教育学の基礎的研究 | 演習 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |

[成績評価方法]

授業への取り組み(50%) 課題・レポート(50%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

その都度、ゼミの中で指導する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:授業への取り組みとレポート等

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:授業への取り組み・レポート

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。

成績評価方法:授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。

成績評価方法:授業への取り組み

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み・発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:レポート

[教科書(ISBN)]

必要に応じて紹介する

[参考書(ISBN)]

必要に応じて紹介する

| | | | |
|---|----------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 図書館の教育的価値を証明する | 演習 | |
| 担当者 | 坂下 直子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 先行研究批判に基づいて、自分の取り組むべき研究対象と課題の明確化を図る。</p> <p>[授業概要] 前期の教育学講読で学んだこと、興味を持ったことについて、さらに文献講読を通して理解を深める。各自設定した研究テーマについて先行研究を検索し、読み、考え、自分の研究対象と課題をより明確にする。演習においては、教員が司書としての実務経験にもとづく具体的な知識と技術を生かしてより実践的な指導をする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回、次の文献の指定箇所をしっかりと読んでおくこと。 常に自分の卒業論文のテーマについて意識しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 文献購読① 3. 文献購読② 4. 文献購読③ 5. 文献購読④ 6. 文献購読⑤ 7. 各自の研究テーマ発表と講評① 8. 各自の研究テーマ発表と講評② 9. 各自の研究テーマ発表と講評③ 10. 各自の研究テーマ発表と講評④ 11. 各自の研究テーマ発表と講評⑤ 12. 各自の研究テーマ発表と講評⑥ 13. 学会参加 | | | |

| | | | |
|--------|----------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 図書館の教育的価値を証明する | 演習 | |
| 担当者 | 坂下 直子 | | |

[成績評価方法]

発表(50%)、議論への取り組み度(50%)で総合的に評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

講義内および、manaba,メールで行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

授業中に指示する

[参考書(ISBN)]

授業中に指示する

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 教育実習の振り返り等を通して、教育に対する考えづくり、小学校教師としての実践的指導力の基礎を身に付ける。 自分の問題意識を明確化し、卒業研究テーマを仮決定して、文献講読・発表を行って卒業研究に向けての基盤を作る。</p> <p>[授業概要] ①関心のあるテーマについて文献を読んでレポートを作成し、発表・討議する。 ②教育実習を振り返ってレポートを作成・発表する。教師として必要な資質について演習形式で学ぶ。教育実習の学びについてプレゼンテーションする。 ③卒業研究の方法について学ぶ。卒業研究テーマを仮決定し、先輩の卒論を紹介をして討議する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 参加者全員がテーマについて問題意識を持って授業に臨むことを期待する。</p> <p>[授業計画] 1. 文献紹介と討議① 2. 文献紹介と討議② 3. 教育実習の振り返り演習① 4. 教育実習の振り返り演習② 5. 卒論中間発表会参加 6. 教師として必要な資質・能力に関する討議 7. 教育実習からの学びの発表① 8. 教育実習からの学びの発表② 9. 卒業論文作成、研究テーマ設定、文献検索について 10. 先輩の卒論の紹介と討議① 11. 先輩の卒論の紹介と討議② 12. 研究テーマ発表と討議 13. 卒論発表会参加</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への姿勢(60%)、レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて、授業の中で適宜紹介する。</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 研究デザインの構築 | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 研究テーマを設定し、必要な文献講読を行い、テーマに即した具体的な調査方法を構築していく。それらを通じて、卒業論文の作成に向けて取り組む。</p> <p>[授業概要] 教育学講読の内容や自己経験の課題から、研究テーマを設定する。文献研究や研究調査を通じて、研究の道筋を定め、議論しながら研究デザインを構築し卒業論文への見通しが持てるようにする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日常的に、研究テーマに沿った文献や資料講読を進めておくこと。同授業の他受講生の研究テーマについても、自らの視点で論議できるように予習・復習を行うこと。 各回、予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの発表と文献紹介① 2. 研究テーマの発表と文献紹介② 3. 研究テーマの発表と文献紹介③ 4. 研究テーマの発表と文献紹介④ 5. 研究テーマの発表と文献紹介⑤ 6. 研究計画の作成① 7. 研究計画の作成② 8. 研究計画の作成③ 9. 研究計画の発表① 10. 研究計画の発表② 11. 小学校体育科校内研修に見学参加 12. 幼稚園、保育園、こども園の運動遊び実践の見学参加 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--------|-----------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 研究デザインの構築 | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |

[成績評価方法]
提出課題(30%)、発表(30%)、ディスカッション(20%)、受講態度(20%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
※課題のフィードバックは授業内で行う

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

| | | | | |
|--|-------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 竹田 和恵 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>授業を通して、次のことを目標とする。</p> <p>①ICTの基本概念を具体的な保育教材に結びつけ、実際の研究と開発に応用するスキルを身につける。</p> <p>②研究計画を立案し、研究の進行とデータ収集・分析を効果的に実施する能力を向上させる。</p> <p>③グループワークやディスカッションを通じて、アイデアや知識を共有するスキルを向上させる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>ICTを活用した保育教材の理解と開発スキルの向上を目指す。教育の情報化やICTの基本概念を学び、それを具体的な保育教材の研究・開発に応用する。さらに、開発した教材を用いて実演し、研究計画の策定や実行、グループでの協働とコミュニケーション能力を強化する。文献調査とディスカッションを通じて理論を実践に結びつけ、総合的な発表スキルおよび教材の効果的な運用に関する洞察力を養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の講義の復習</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.ICTを活用した保育教材の研究(1) 3.ICTを活用した保育教材の研究(2) 4.ICTを活用した保育教材の研究(3) 5.ICTを活用した保育教材の研究(4) 6.ICTを活用した保育教材の研究(5) 7.研究計画の作成(1) 8.研究計画の作成(2) 9.研究計画の発表(1) 10.研究計画の発表(2) 11.総合発表に向けて(1) 12.総合発表に向けて(2) 13.総合発表に向けて(3) | | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 竹田 和恵 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(80%)、最終レポート(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育と哲学 | 演習 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>口頭発表を行い、質疑応答を通してディスカッションする能力が身につく。</p> <p>[授業概要]</p> <p>まずルソーが叙述する自然状態あるいは未開状態における人間像を捉え、人類が自然状態から社会状態へ移行するというルソーの歴史観を理解する。さらに自然的教育を賞賛するルソーの教育論の根幹を把握する。次に、ルソーの影響を受けながら「人間」について学ぶことに目覚めたカントの思想を概観する。カントが道徳哲学、教育哲学を通して「人間の学」の構築を目指したことを学び、道徳的理性的人間の養成と自由の確立を目標としたカントの思想を研究する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>問題意識を持ってテキストを予め読んでおくこと。積極的に議論に参加すること。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、教育と哲学 2. ルソーの自然的教育、『エミール』① 3. ルソーの自然的教育、『エミール』② 4. ルソーの自然的教育、『エミール』③ 5. カントの道徳哲学① 6. カントの道徳哲学② 7. カントの道徳哲学③ 8. カントの道徳哲学④ 9. カントの道徳哲学⑤ 10. 各自の発表準備① 11. 各自の発表準備② 12. 学生発表① 13. 学生発表② | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育と哲学 | 演習 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |
| <p>[成績評価方法] ゼミでの発言・活動(20%)、発表(30%)、レポート(50%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して返却する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業態度、ディスカッション、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 授業中に指示する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に適宜紹介する。</p> | | | |

| | | | | |
|--|-----------|----------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | 模擬授業、場面指導 | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習での経験を生かし、自分に足りない点を意識し、教員としての資質を高める。 ・自分のよさを教員としてどう生かすかを考え、実践していく。 ・卒業論文作成に向けて、研究テーマを絞り込む。 ・全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、基礎・基本となる力の「知識・技能」、考える力としての「思考力・判断力・表現力等の能力」、そして、それらを活用するときの態度に現れる「主体性・多様性・協働性」を身につける。 <p>[授業概要]</p> <p>この授業では、学校現場における教員経験があるものが、その経験を活かして、今日的な課題(特別支援教育等)への対応を指導する。教育実習を終えて、学校現場が直面する教育課題について自ら関心を持って探究し、どのような教員が求められているのかを考え、自身の資質を高めていく授業を行う。自分のよさを知り、他人の良さに気づき、相手に分かるように表現する力を身に付ける練習を反復し自信をつける。見聞を広め、様々な体験を進んで行う機会を多く持つことで、教員としての豊かな知識と感性を培う。各自で英語力を高める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>身の回りの事象に常に関心を持ち、表現を工夫して相手に伝えられるようにしておく。 学外の体験学習(フィールドワーク)に参加する。自身の英語の学習を進める。課題レポートを作成する。 ※各回、予習復習合わせて2時間程度おこなうこと</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業研究「国語」(模擬授業) 2. 授業研究「算数」(模擬授業) 3. 教育実習報告と教育課題①(プレゼンテーション) 4. 教育実習報告と教育課題②(プレゼンテーション) 5. 教育実習報告と教育課題③(プレゼンテーション) 6. 卒業論文のテーマと研究目的の発表①(プレゼンテーション) 7. 卒業論文のテーマと研究目的の発表②(プレゼンテーション) 8. 卒業論文のテーマと研究目的の発表③(プレゼンテーション) 9. 卒業論文のテーマと研究目的の発表④(プレゼンテーション) 10. 教員の資質を高めるフィールドワーク①<学外> 11. 教員の資質を高めるフィールドワーク②<学外> 12. 信頼される教員とは(ディスカッション) 13. まとめ | | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題(50%)、授業以外の研究課題(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中の課題に対してコメント等のフィードバックを返します。 授業以外の研究課題に対して添削等の指導を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。別途プリントを配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業の進度に応じて紹介する</p> | | | |

| | | | | |
|--|-------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 英語学・英語教育学の知識、理解を深め、卒業論文のテーマを決定し、研究を進めていくことができる。</p> <p>[授業概要] 英語学、英語教育学に関する各自の設定したテーマについて文献を調べ、必要なデータを収集し分析を行い、理論と実践の両面から理解する。意見交換、報告会を実施しながら課題研究を進めていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 問題解決の見通しを立てて、文献を読むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 研究テーマに関する文献調査と発表① 3. 研究テーマに関する文献調査と発表② 4. 研究テーマに関する文献調査と発表③ 5. 研究テーマに関する文献調査と発表④ 6. データの取得方法について 7. データ収集と分析① 8. データ収集と分析② 9. データ収集と分析③ 10. データ収集と分析④ 11. データ分析結果のまとめ 12. 成果発表会 13. まとめ | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 発表(50%)、研究レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:発表、研究レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:発表、研究レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:発表、研究レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表、研究レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、研究レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:研究レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、研究レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692)) 小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051685)</p> | | | |

| | | | | |
|---|-------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 科学的・研究的な視点から、就学前の保育や教育、子どもの育ちを捉えることのできる高い専門性に裏づけられた実践力の構築を目指す。</p> <p>[授業概要] 教育学講読において進めてきた学習・研究を土台に、卒業研究に向けた自らの研究課題の模索を意識しつつ、関連する文献や先行研究のリサーチ、フィールドワーク等を実施し、その結果を発表する。また、研究のまとめや報告書、論文の作成の仕方についても学びを深めていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究)に関する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究についてのガイダンス 2. 研究課題の模索 3. 研究課題の構想1(発表会) 4. 研究課題の構想2(発表会) 5. 研究方法について学ぶ 6. フィールドワーク等の計画・実施 7. フィールドワーク等のまとめ 8. フィールドワーク等のレポート1(発表会) 9. フィールドワーク等のレポート2(発表会) 10. 研究課題の整理 11. 卒業研究計画についてのプレゼンテーションの準備 12. 卒業研究計画についてのプレゼンテーション1 13. 卒業研究計画についてのプレゼンテーション2 | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題研究の成果(60%)発表(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] その都度、指導を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:課題研究の成果(60%)発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:課題研究の成果(60%)発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:課題研究の成果(60%)発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:課題研究の成果(60%)発表(40%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題研究の成果(60%)発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題研究の成果(60%)発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題研究の成果(60%)発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題研究の成果(60%)発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題研究の成果(60%)発表(40%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 後日連絡する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配布を行う。</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 村田 恵子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校理科(主に地学・物理分野)の教育課程についての知識を深める。 教員として必要な基礎学力、応用力、実践力を身につける。</p> <p>[授業概要] 地球の歴史について学ぶことにより、個体地球に関する知識を深める。物理分野(力学など)と地学分野(天体・天気など)の基本的な原理・原則を理解しながら、小学校理科の教育課程の指導方法について議論する。また、教員採用試験に対応できる学力を身につけるために、理科の演習問題に取り組む。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回配布される次回のプリントを読み、おおまかな内容を予習する。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.英語で読む理科①・物理(力学・熱力学)① 3.英語で読む理科②・物理(力学・熱力学)② 4.英語で読む理科③・物理(力学・熱力学)③ 5.英語で読む理科④・物理(力学・熱力学)④ 6.英語で読む理科⑤・天体・湿度・天気① 7.英語で読む理科⑥・天体・湿度・天気② 8.論文の輪読① 9.論文の輪読② 10.論文の輪読③ 11.論文の輪読④ 12.論文の輪読⑤ 13.まとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 村田 恵子 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に解説</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--------|------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 美術作品の制作と研究 | 演習 | |
| 担当者 | 守本 智美 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|---|----------------|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

美術作品を制作し、また各自興味を持てるテーマで美術の研究を行い、豊かな感性を育むことを目的とする。

[授業概要]

美術作品の制作を通して、描き、創造する喜びや楽しさを学びます。特にあらゆる美術の基礎となるデッサンには重点を置き、観察力、描写力をつけ、多様な表現を試みます。題材としては主として静物、風景、人物、さらには抽象的なものを取り上げてデッサンの技法の習得を行い、デッサン用具の扱いになれることに主眼を置きます。着色は水彩絵具または油絵具等で行い作品を完成させます。また、好きな作家や作品、その他、技法、材料等をはじめ、美術に関係したことの中から各自興味のあるテーマを設定し研究を行います。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて4時間程度。美術館で本物の作品を鑑賞したり、画集でも授業で関連する内容の作品はよく見て、自分の作品制作や研究に生かすこと。manaba(マナバ)にて授業に必要な連絡をするので、必ずmanabaに登録しておくこと。

[授業計画]

- 1.はじめに(manaba上にて指示します)
- 2.デッサン(自由テーマの設定、静物・風景・人物等のジャンルから)
- 3.デッサン①
- 4.デッサン②(仕上げ)
- 5.作品制作①(絵具等による着色)
- 6.作品制作②(仕上げ)
- 7.作家・作例研究の方法
- 8.作家作例研究①(古今東西の作例検討)
- 9.作家作例研究②
- 10.研究発表
- 11.オリジナル作品の制作①
- 12.オリジナル作品の制作②(仕上げ)
- 13.まとめ

| | | | |
|---|------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 美術作品の制作と研究 | 演習 | |
| 担当者 | 守本 智美 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(40%)・作品(60%)による総合評価。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出課題に対してコメントを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:レポート(40%)・作品(60%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:レポート(40%)・作品(60%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:レポート(40%)・作品(60%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:レポート(40%)・作品(60%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(40%)・作品(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート(40%)・作品(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート(40%)・作品(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート(40%)・作品(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート(40%)・作品(60%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。参考書、プリント等使用。</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。プリント資料等、授業中に指示する。</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育学に関する興味・関心を深める | 演習 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自らの研究テーマに関する興味・関心を深める 2 レポートを作成する能力・プレゼンテーションする力を高める 3 実地調査研究の発展的な手法を学ぶ <p>[授業概要]</p> <p>自らの研究テーマに関する書物を読解し、その要約を発表させる。発表内容について参加者で討論を行い、関心を焦点化させ、発展的な知識への意欲を高めていくようにする。また、適時、実地調査研究を行い調査研究の発展的な手法を取得できるようにする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日ごろから教育に関する新聞記事やニュースを見るようにし、興味・関心を喚起する教育問題についてアンテナを張っておくこと。また発表時には、レジュメを作成し、分かりやすい文章づくりを行うこと。授業後は問題となった学習課題について、図書館等で調べること。予習と復習で2時間を充てること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 学外実習① 実地調査研究 3 発表1&ディスカッション 発表2&ディスカッション 4 発表3&ディスカッション 発表4&ディスカッション 発表5&ディスカッション 5 発表6&ディスカッション 発表7&ディスカッション 6 発表8&ディスカッション 発表9&ディスカッション 発表10&ディスカッション 7 学外実習② 実地調査研究 8 発表11&ディスカッション 発表12&ディスカッション 9 発表13&ディスカッション 発表14&ディスカッション 発表15&ディスカッション 10 発表16&ディスカッション 発表17&ディスカッション 11 発表18&ディスカッション 発表19&ディスカッション 発表20&ディスカッション 12 学外実習③ 実地調査研究 13 まとめ | | | |

| | | | |
|--|------------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育学に関する興味・関心を深める | 演習 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |
| <p>[成績評価方法] 発表内容50% 実施調査レポート30% 討議内容20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを通じてフィードバックを行う。オフィスアワーでも対応する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語教育の今日的課題をみつけよう。 | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|---|----------------|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

日本の英語教育についての課題を発見することができる。できるだけ多くの文献を渉猟することを含めて研究の基礎を身に着ける。

[授業概要]

英語教育の課題を見つけていくことを目標にして進めます。受講生の方には自分が受けてきた英語授業を振り返る中で、どのような授業が行われてきたのか、またそれはなぜそのように行われているのかについて分析していくことから始め、関連する文献でどのようなことが明らかになっているのかを調査してもらいます。研究の骨組みを創っていく授業です。担当者は小学生から大学生まで英語の授業をしている経験がありますので、討議しながら到達目標に向かっていっしょに研究するつもりです。気楽に質問してください。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

授業前には、自分の疑問を洗い出してください。授業後は、気づいたことや見つけたこと、さらなる疑問について整理しておきましょう。図書館の機能を有効活用して、関連分野の文献をたくさん探してください。予習復習でおおよそ2時間が必要となるでしょう。

[授業計画]

以下はシラバス執筆時の取り上げる予定テーマです。受講生の興味関心をできるだけ取り上げるつもりです。

1. どのような英語授業を受けてきたのかへの振り返り
2. 英語授業で行われる手法、方略への考察
3. 英語という言語への考察
4. 英語教育 中学校
5. 英語教育 小学校
6. 英語教育 高等学校
7. 英語教育 大学
8. EFLとESL
9. 英語の4技能への考察
10. 教員の役割
11. 今日的英語教育の課題
12. 英語と他教科の連携
13. まとめとしての討議および最終レポート作成

| | | | |
|--|-------------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語教育の今日的課題をみつけよう。 | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への主体的参加(60%)、最終レポートあるいはプレゼンテーション(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートについては、コメントを付すことやよりよい内容となるように助言をして返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:最終レポートあるいはプレゼンテーションで評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:授業への主体的参加態度で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:授業への主体的参加、プレゼンテーションで評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:最終レポートで評価します。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への主体的な参加で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への主体的参加態度で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:最終レポートで評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:最終レポートおよびプレゼンテーションで評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業への主体的参加で評価します。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 電子黒板への招待 その提示力を生かした授業を考える 著者名:齋藤由紀 出版社:関西学院大学出版会(978-4-86283-204-7)</p> | | | |

| | | | | |
|--|----------------------------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 自らの「学習観」「授業観」「教師観」を吟味し探求する | | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] これまで自分が受けてきた学校教育での学びを振り返り、自分が抱いた「素朴な疑問」をリストアップしていき、卒業論文で取り組みたい「問い」を立てる。</p> <p>「問い」に対する答えを出すために参考文献を読みながら「引用カード」を作成していく。そして、卒業論文のおおまかなアウトラインを作成する。</p> <p>[授業概要] ゼミ生一人ひとり興味・関心が異なる。そのため、各自が探求したいことを楽しんで探求していく。ゼミのメンバーから自分が知らないことをいろいろと教えてもらい、意見を交流をしながら、教養を豊かにしていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎週、予習復習合わせて2時間程度。 発表のために資料を探し、レジュメにまとめる。 授業後、ゼミでの議論の「振り返り」のレポートを書いて提出する。</p> <p>[授業計画] 毎週、自分の「問い」を広く深く掘り下げていくうえで必要な資料や文献を探して、それを事前に読み考察したことを、A4で1枚のレジュメにまとめる。授業では、レジュメをもとに発表をし、発表後、ゼミのメンバー全員で議論する。議論をもとに、各自が次回までに何をすべきかを考え、次回の発表へつなげる。このようなインタラクティブな授業に参加しながら、卒業論文で取り組む「問い」を具体的に明確にしていき、アウトラインを作成し、卒業論文執筆の基盤をつくる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 読んできた本の紹介とディスカッション① 3. 読んできた本の紹介とディスカッション② 4. 読んできた本の紹介とディスカッション③ 5. 読んできた本の紹介とディスカッション④ 6. 読んできた本の紹介とディスカッション⑤ 7. 読んできた本の紹介とディスカッション⑥ 8. 読んできた本の紹介とディスカッション⑦ 9. 読んできた本の紹介とディスカッション⑧ 10. 読んできた本の紹介とディスカッション⑨ 11. 読んできた本の紹介とディスカッション⑩ 12. 読んできた本の紹介とディスカッション⑪ 13. まとめと振り返り | | | | |

| | | | |
|---|----------------------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 自らの「学習観」「授業観」「教師観」を吟味し探求する | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート (50%)、発表 (50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 卒業論文のアウトラインを構築し執筆していくことを効果的に効率的よく行うために、以下のアプリケーションをオンラインで購入する。 Idea Tree http://www.dicre.com/soft/itree.htm</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 久木山 健一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 各自が心理学の特定テーマに関する理解と知識及びその研究方法論を修得することを到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 各自が関心をもつテーマについて、自分たちで実験や調査を計画立案すると共に、データ収集、データの整理と分析を行い研究レポートを作成する。まず、自分たちが計画した問題(テーマ)や方法(実験、調査内容など)について、互いに議論を行うことで内容を深める。その後、互いに協力して調査や実験を実施し、得られたデータを整理分析し、その結果を報告して相互討議する。さらに、まとめとして研究レポートを作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テーマ確定、資料収集、文献の講読、調査実験、収集データの統計的分析、研究レポートの作成など、各ステップで当面する課題の準備を行うこと。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 心理学論文作成の方法について 3. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表1 4. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表2 5. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表3 6. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表4 7. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表5 8. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表6 9. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション1 10. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション2 11. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション3 12. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション4 13. 全体のまとめ | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 久木山 健一 | | |
| <p>[成績評価方法] 発表(30%), 討議への参加態度(20%), レポート(50%)によります。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。必要に応じて資料を配付します。</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。必要に応じて資料を配付します。</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------|----------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標] 教育学講読を踏まえて文献講読や実践を通じて研究テーマの設定及び研究デザインを構成し、卒業研究に向けて必要な基礎学力と専門知識を身につける。研究テーマへの興味・関心を深め、要点をまとめる力やプレゼンテーション能力を培う。</p> <p>[授業概要] 教育学講読や教育実践から課題を見出し、関心のあるテーマに関する先行研究を理解したうえで研究テーマの設定と研究デザインを構成し、卒業研究につなげる。発表や議論を通じて要点をまとめる力やプレゼンテーション能力を養う。研究計画を立案し、設定した研究課題の解決を目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の予習・復習を行い、日常的に家庭生活におけるあらゆる事象に関心と問題意識を持つようにする。自主的に関連する文献講読を進めたうえで先行研究や実践例を調べてから受講すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションと論文の書き方 2. 研究テーマの探求 3. 先行研究の収集と分析・発表・討議Ⅰ 4. 先行研究の収集と分析・発表・討議Ⅱ 5. 研究テーマに関する社会的背景の整理 6. 学会発表の見学 7. 研究背景の発表とテーマの再考 8. 研究計画の立案 9. 研究計画の発表と討議 10. 調査または教材開発Ⅰ 11. 調査または教材開発Ⅱ 12. 調査または教材開発Ⅲ 13. 総括 | | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| <p>[成績評価方法] 課題 (50%) 発表 (50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは授業及びmanabaの掲示板で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:課題・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:課題・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:課題・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:課題・発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題・発表</p> <p>[教科書 (ISBN)] 必要に応じて授業中に適宜紹介する。</p> <p>[参考書 (ISBN)] 必要に応じて授業中に適宜紹介する。</p> | | | |

| | | | | |
|---|---|----------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | ダイバーシティ(多様性)の時代に対応した多様な学びの場と共生社会を理解 学級経営に活かす | | 演習 | |
| 担当者 | 上野 昌稔 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育システム構築のための多様な学びの場や教育機関の実際を観察し、個別最適な学びについて深く理解する。 ・ダイバーシティのなかで芸術活動やイベント活動を通して共生社会を創造しているNPO法人の活動の実際からインクルーシブ教育のこれからを考察し、技能を身につける。 ・全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、基礎・基本となる力の「知識・技能」、考える力としての「思考力・判断力・表現力等の能力」、そして、それらを活用するときの態度に現れる「主体性・多様性・協働性」を身につける。 <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、学校現場での教員や教育行政(教育委員会、文部科学省)等の経験のある教員が、その経験を活かして、ダイバーシティ(多様性)に対応した学級経営の工夫について指導する。 ・共生社会を創造している現場の取り組みを観察し、インクルーシブ教育システムのこれからについて考察する。 ・これらの授業を通じて、インクルーシブな社会の基礎となる多様性を認め合うための学級経営を目指す教員となるための資質を涵養する。 <p>※フィールドワークについては、訪問場所の日程が前後する可能性があります。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関する基礎となる用語等について調べて理解しておくこと ・授業中に提示する課題に関してレポート、パワーポイント等にして提出 ※各回で示した資料等を確認することなど予習復習を合わせて2時間程度行うこと <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インクルーシブ教育システム構築のための多様な学びの場について 2. 多様なニーズのある児童生徒に求められる対応①(自尊感情・自己理解) 3. 多様なニーズのある児童生徒に求められる対応②(コミュニケーションと社会性) 4. 神戸市特別支援教育センター訪問(柔軟な学びの場の変更についての取り組み) 5. 通級指導教室における指導の実際(近隣校での観察) 6. 特別支援学校における教育の実際(近隣校での観察) 7. これまでの現場観察を通じた多様な学びの場についての考察(アウトプット) 8. 共生社会を創造している芸術活動の実際(コンテンポラリーダンス) 9. コンテンポラリーダンス体験 10. 芸術活動を通して学んだダイバーシティ(多様性)への対応についての討議(アウトプット) 11. 個に応じた多様な学びの場の変更について(その重要性と課題) 12. これまでの演習を通して考察した多様性に対応した学級経営の視点(アウトプット) 13. まとめ | | | | |

| | | | |
|--|---|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | ダイバーシティ(多様性)の時代に対応した多様な学びの場と共生社会を理解 学級経営に活かす | 演習 | |
| 担当者 | 上野 昌稔 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート及び発表内容(40%)、討議内容(40%)、12回目の発表内容(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・授業中におけるコメント等によるフィードバック ・オフィスアワーにおける対応</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし、別途プリントを配布</p> <p>[参考書(ISBN)] これからの特別支援教育はどうあるべきか 著者名:全日本特別支援教育研究連盟 出版社:東洋館出版社 (978-4-491-05388-2) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 著者名:文部科学省 出版社:文部科学省(HPにPDFあり)</p> | | | |

| | | | | |
|---|--|----------------|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 発達障害のある子どもなどが在籍することを前提にした授業づくり・学級づくり を由ひに | | 演習 | |
| 担当者 | 田中 裕一 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害のある子どもなどが在籍することを前提にした授業づくり・学級づくりについて学び、卒業論文研究テーマ及び研究目的を設定する。 ・自身が学び続ける教員であるために必要な資質を考え、自分に合った方法を考えることができる。 ・全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、基礎・基本となる力の「知識・技能」、考える力としての「思考力・判断力・表現力等の能力」、そして、それらを活用するときの態度に現れる「主体性・多様性・協働性」を身につける。 <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、学校現場での教員や教育行政(教育委員会、文部科学省)等の経験のある教員が、その経験を活かして、発達障害のある子どもなどが在籍することを前提にした授業づくり、学級づくりについて指導する。 ・発達障害のある子どもなどが在籍することを前提にした授業づくり、学級づくりを行うために必要な教員の資質を検討し、自分自身に合った方法を検討する。 ・これらの授業を通じて、インクルーシブな社会の基礎となる多様性を認め合うための、授業づくり、学級づくりを目指す教員となるための資質を涵養する。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に示した課題に関してレポート、パワーポイント等にしてまとめて提出 ※各回で示した資料等を確認することなど予習復習を合わせて2時間程度行うこと <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 当事者を支える施設等へのフィールドワーク【学外授業】 3. 第2回のフィールドワークの感想と討議(1) 4. 第2回のフィールドワークの感想と討議(2) 5. 学び続ける教員であり続けるには(1)【発表、質疑】 6. 学び続ける教員であり続けるには(2)【発表、質疑】 7. 学び続ける教員であり続けるには(3)【ディスカッション】 8. 卒業論文テーマと研究目的の発表(1) 9. 卒業論文テーマと研究目的の発表(2) 10. 卒業論文テーマと研究目的の発表(3) 11. 卒業論文テーマと研究目的の発表(4) 12. 卒業論文テーマと研究目的の発表(5) 13. まとめ <p>※当事者を支える施設等へのフィールドワークの実施時期については、時期が変更となる可能性がある</p> | | | | |

| | | | |
|---|--|----|------|
| 科目名 | 教育学演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 発達障害のある子どもなどが在籍することを前提にした授業づくり・学級づくり を由ひに | 演習 | |
| 担当者 | 田中 裕一 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート及び発表内容(50%)、討議内容(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・授業中におけるコメント等によるフィードバック ・オフィスアワーにおける対応</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。別途プリントを配布。</p> <p>[参考書(ISBN)] 通常学級の発達障害児の「学び」を、どう保障するか 著者名:田中裕一 出版社:小学館(9784098402137) その他は授業に応じて紹介</p> | | | |

| | | | |
|---|----------------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学概論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育の哲学・歴史・思想・方法・実践の基礎 | 講義 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.教育概念や人間形成の概念について、基本的な知識を身に着けている。 2.世界の子育てや教育思想について基礎的な事項を理解している。 3.現代的な教育問題について哲学的に考える 4.授業や保育の環境設定について、概念的に把握している。 <p>[授業概要]</p> <p>教育学概論では、教育学を志す学生が知っておくべき、教育の哲学・歴史・思想・方法・実践についての基礎理論を提供する。幼児、児童、生徒、成人のすべての人たちの営みを対象とし、そこに関わる保育者・教育者の使命や責任についても考えていく。授業実践は、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行い、各自の問題意識を高めていくようにしていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>教育に関する理念や思想を学ぶために、課題を出す。加えて、各回、授業の復習を行うこと。合わせて4時間程度を充てること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.学力の基本概念——見える学力と見えない学力 2.保育者論——保育実践ジャーゴンとその応用 3.人間形成の理論①——豚のPちゃん 4.人間形成の理論②——反抗すること 5.人間形成の理論③——旅をすること 6.縄文教育論——縄文時代の子育て 7.子育て論——世界の子育て 8.教育思想①——$\pm\alpha$の思想家たち 9.教育思想②——完璧マスター 10.現代教育論①——ケアの概念 11.現代教育論②——夜回り先生 12.授業論——思考を促す授業とは 13.学びの環境論——思考を促す保育とは | | | |

| | | | |
|---|----------------------|----|------|
| 科目名 | 教育学概論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育の哲学・歴史・思想・方法・実践の基礎 | 講義 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業後の小テスト(70%)と課題提出(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストについてはmanabaを通じて採点し、結果を閲覧できるようにする。 課題については、manabaから講評を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:小テスト、まとめのテスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:小テスト、まとめのテスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:小テスト、まとめのテスト</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、まとめのテスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、まとめのテスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、まとめのテスト</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 『新時代の教育課程論』 著者名:山内紀幸(編) 出版社:一藝社(978-4863592513) 『ナラティブとしての保育学』 著者名:磯部裕子・山内紀幸 出版社:萌文書林(978-4893471017)</p> | | | |

| | | | | |
|---|-------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒論テーマの設定に向けての基本的な事柄を修得する。</p> <p>[授業概要] 初等教育における算数教育の課題を知り、それらの課題に対して、各自が解決方法を提案することを通して、算数教育の方法を学ぶ。今年度は算数教育の課題として、2020年度に必修化されたプログラミングを「算数におけるプログラミング」として考察することも含む。基本文献を購読し、討論もしくは模擬授業を行う。 なお、当研究室では、当科目の単位を修得しなければ、次の年の「卒業論文」には進めないののでしっかり学ぶこと。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 発表者は、必ずレジュメを用意する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 算数教育の課題の概観① 3. 算数教育の課題の概観② 4. 算数教育の課題の概観③ 5. 基本文献の講読、発表① 6. 基本文献の講読、発表② 7. 基本文献の講読、発表③ 8. 基本文献の講読、発表④ 9. 基本文献の輪読、発表⑤ 10. 基本文献の講読、発表⑥ 11. 基本文献の講読、発表⑦ 12. 基本文献の講読、発表⑧ 13. 基本文献の講読、発表⑨ | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| <p>[成績評価方法] 発表(50%)、提出物(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、提出物</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版 (9784540000000)</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 子どもや保育をめぐるさまざまな諸問題について関心を持ち、まとめることができる。</p> <p>[授業概要] 各自問題意識を掘り下げ、その問題に関連する文献を収集し、発表する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業内で指示する課題を完成させてくること。新聞に目を通し、社会問題にも目を向けること。 各回予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.子どもや保育をめぐる諸問題について考える 2.ディスカッション 視野を広げる 3.関連文献検索方法 4.関連文献収集、読み込み 5.文献紹介 6.文献紹介相互評価 7.ディスカッション 8.問題意識を深化させる 9.関連文献収集 10.文献及び考察まとめ 11.文献及び考察 発表 12.相互評価 13.最終発表 | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業参加態度50% 提出物50% 授業参加態度は積極的な態度や発言について評価をする 提出物は内容は当然のこと、期限や形式についても評価をする</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:授業参加態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:提出物</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要な時に授業内で提示する 出版社:×</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 稲垣 善茂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校の教育現場で生徒を指導できるよう、国語、英語、算数など基礎学力の向上、小学校学習指導要綱の学習内容にかかわる基本的な原理・原則を理解・習得しながら、模擬授業などで授業実践力を身につけさせる。</p> <p>[授業概要] TOEICなどを題材にした英語学習、卒業論文に関わる論文(英語・日本語)やエッセイ(英語・日本語)を読み込んで基礎学力、専門系学力の向上に努める。また、小学校学習指導要綱の学習内容にかかわる基本的な原理・原則を習得・理解する。もちろん小学校3年生から始まる理科のために、小学校教員として必要な理科を中心に、算数、国語、社会、英語の基礎学力、応用力、魅力ある教え方の習得を目指す。さらに、授業指導案作成および模擬授業を行うことにより、具体的な教授方法・授業実践力を身につける。論文紹介時は、携帯電話、タブレット、PCの使用を認めている。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] Word, Excel, PowerPointの使用方法になれていることが必要である。また、模擬授業や論文紹介(PowerPoint使用)については、発表担当者が事前の準備をすること(指導案やワークシート、板書計画、論文説明資料:A4表裏1-2枚以内)。予習復習の時間数は各回、合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. TOEICなどを題材にした英語学習1 2. TOEICなどを題材にした英語学習2 3. TOEICなどを題材にした英語学習3 4. 模擬授業① 5. 模擬授業② 6. 模擬授業③ 7. 模擬授業④ 8. エッセイ(英語・日本語)の講読と紹介1 9. エッセイ(英語・日本語)の講読と紹介2 10. エッセイ(英語・日本語)の講読と紹介3 11. 論文(英語・日本語)の講読と紹介1 12. 論文(英語・日本語)の講読と紹介2 13. 論文(英語・日本語)の講読と紹介3</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 稲垣 善茂 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題提出(50%)、授業中のプレゼンテーション、グループワーク(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 指導案、小論文課題、レポートなどの提出物については、赤字で添削したのち、直接返却しています。また、manabaの小テストによる課題に対しては、課題締め切り後に、ポートフォリオに採点結果と正答が公開されるようになっていきます。ポートフォリオを確認して復習に利用してください。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>[教科書(ISBN)] 事前にプリントなどを配布する。 教科書はない。</p> <p>[参考書(ISBN)] 新しい学びを拓く「理科」授業の理論と実践(小学校編) 著者名:角屋重樹 出版社:ミネルヴァ書房(978-4-623-06042-9) 小学校学習指導要領解説(理科編)平成20年8月 著者名:文部科学省大日本図書 出版社:大日本図書(978-4-477-01949-9) 「アクティブラーニング」を考える 著者名:教育課程研究会編著 出版社:東洋館出版社(978-4-491-03185-9)</p> | | | |

| | | | | |
|---|-------|----------------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標] 保育、教育の専門職活動の基礎的な考え方(理念、思想、理論等)について、より具体的に学ぶことを目標とする。</p> <p>[授業概要] 本授業では、保育、幼児教育等の基礎的な考え方(理念、思想、理論等)を先達の研究業績をまず概観する。その後それを踏まえて学生自身が主体性をもって実践活動に連結し、専門的実践活動の方法を学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 社会福祉学・教育学の文献資料を選定して、事前に配布する。ゼミの時間にそれを踏まえての議論を行うことにするので、必ず事前に読み込んでくること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 研究の方法 3. 研究課題の探索、整理(1) 4. 研究課題の探索、整理(2) 5. 研究課題の探索、整理(3) 6. 図書館での文献資料探索 7. 文献等の講読(1) 8. 文献等の講読(2) 9. 教育、保育、福祉関連での活動実践(1) 10. 教育、保育、福祉関連での活動実践(2) 11. 教育、保育、福祉関連での活動実践(3) 12. 発表、報告、まとめ(1) 13. 発表、報告、まとめ(2) | | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] ゼミでの学習への取り組み姿勢や課題レポートで評価を行う。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート等については、添削して返却。面接指導の資料とする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] レジュメ、資料を作成し配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜紹介する。</p> | | | |

| | | | | |
|---|--|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 乳幼児及び児童(障害のある幼児、児童、を含む)への理解を深め保育者の 在り方を考えます | | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 乳幼児の発達・障害や保育に関連する問題を理論的・実証的に考える力を養う。</p> <p>[授業概要] 研究の手順、文献等の収集と整理法、主な研究方法を学びながら、各自のテーマ設定に向けて情報収集を行う。それと同時に発表ならびにディスカッションを通して幼児教育研究についての知識を深め、効果的なプレゼンテーションを行う力を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 共通理解のため受講生と選んだ資料および配布された文献は熟読し、ディスカッションができる準備をすること。各回、予習・復習合わせて最低2時間程度の自主学習が必要です。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 研究の進め方1 テーマについての話し合い 3. 研究の進め方2 文献、資料、データの集め方と整理の方法 4. 研究の進め方3 調査、実験の方法 5. 研究の進め方4 プレゼンテーションと研究のまとめ方 6. グループスタディの発表とディスカッション① 7. グループスタディの発表とディスカッション② 8. グループスタディの発表とディスカッション③ 9. 文献研究の発表とディスカッション① 10. 文研研究の発表とディスカッション② 11. 文献研究の発表とディスカッション③ 12. 参与観察の発表とディスカッション 13. まとめ 個人発表と後期に向けて | | | | |

| | | | |
|--|--|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 乳幼児及び児童(障害のある幼児、児童、を含む)への理解を深め保育者の 在り方を考えよう | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| <p>[成績評価方法] 発表の内容と方法およびディスカッションへの参加態度、提出物、などを総合的に評価する。(発表内容と方法およびディスカッションへの参加態度70%、提出物30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中口頭でアドバイスやフィードバックを行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。必要に応じて指示する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 保育発達学(第2版) 著者名:服部照子・岡本雅子編著 出版社:ミネルバ書房(9784620000000)</p> | | | |

| | | | |
|--|---------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 「学び」としての授業づくり | 演習 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>文献や先行研究から教育論及び授業論の基礎・基本を習得し、生活科をはじめとする学習指導の実践に必要な知識を習得や指導技術を習得する。また、小学校教育現場における諸問題についても見識を深める。</p> <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ別に文献を講読し、小学校教師としての授業スタイルを確立するための知識や技能を学ぶ。さらに、模擬授業を進めながら論議し、授業の実践力を培う。 ・現代の教育課題についての見識をひろげ、小学校教育の在り方を展望する。 ・小学校現場での指導経験を生かし、具体的に指導法を教示する。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業研究や教育現場の喫緊の問題についてのテーマをも定め、自主的に関連する文献講読を進めておくこと。なお、模擬授業の実施にあたっては、事前にプレ授業等を行い検討課題が提案できるようにしておくこと。(各回、予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 文献講読とディスカッション① 3. 文献講読とディスカッション② 4. 文献講読とディスカッション③ 5. 文献講読とディスカッション④ 6. 文献講読とディスカッション⑤ 7. 模擬授業の実践と評価① 8. 模擬授業の実践と評価② 9. 模擬授業の実践と評価③ 10. 模擬授業の実践と評価④ 11. 模擬授業の実践と評価⑤ 12. 模擬授業の実践と評価⑥ 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--------|---------------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 「学び」としての授業づくり | 演習 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |

[成績評価方法]

ディスカッション及び模擬授業実践(100%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

提出課題については、授業内で返却します。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:発表・模擬授業・レポート

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。

成績評価方法:発表・模擬授業・レポート

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:発表・模擬授業・レポート

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:発表・模擬授業・レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:発表・模擬授業・レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:発表・模擬授業・レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:発表・模擬授業・レポート

[教科書(ISBN)]

なし その都度資料を配布

[参考書(ISBN)]

『授業デザインの最前線』 著者名:高垣マユミ 出版社:北大路書房 (978-4-7628-2423-4)

| | | | | |
|----------------|-------|----------------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |

[到達目標]

卒業論文に関する研究活動を進める上で必要な、情報を収集、分析、整理、表現する力を身につけることができる。

[授業概要]

卒業論文に取り組む上で必要な、ゼミでの学び方や研究の進め方を理解するために文献の探索や要約、分類や学会発表の見学等を行います。その中で卒業論文のテーマを設定していきます。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、準備とふりかえりについて4時間程度の学習を求めます。具体的には、自身の興味関心に合わせて諸津行論文のテーマと関連のありそうな文献を見つけ出し、精読した上でその内容をプレゼンテーションできるようにまとめておいてください。

[授業計画]

- 1.ゼミでの学び方
- 2.論文の書き方
- 3.文献の集め方
- 4.研究の進め方
- 5.卒業論文の書き進め方
- 6.研究テーマ(仮)の検討
- 7.研究テーマ(仮)に関連する社会的背景の整理
- 8.研究テーマ(仮)に関連する先行研究の講読・要約①
- 9.研究テーマ(仮)に関連する先行研究の講読・要約②
- 10.研究テーマ(仮)に関連する先行研究の講読・要約③
- 11.研究テーマ(仮)に関連する先行研究の講読・要約④
- 12.学会発表等の見学やフィールドワーク①
- 13.学会発表等の見学やフィールドワーク②

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | |
| <p>[成績評価方法] ゼミ活動に対する取り組み(20%)、各回の課題(60%)、先行研究のプレゼンテーション(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 各回の課題に対しては、ゼミ活動の中でコメントや添削等のフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 創造性を育む音楽教育 | 演習 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽教育学や音楽に関する文献を読んで、理解を深める。 2. 小学校や幼稚園、保育所等の教育現場や音楽関係機関の音楽教育を調べ、表現教育の現状を知る。 3. 広い視野を持って音楽教育、表現教育についての課題を考える。 4. 論文の基礎的な書き方を学ぶ。 5. 研究テーマを決める <p>[授業概要]</p> <p>音楽教育について、これまで学んできた知識・技能を活かしつつ、探究を深め、卒業論文のテーマを決める。その際、音楽に限らず表現教育全体について広い視野を持って考える。 ゼミ形式で授業を行うので、個人の研究テーマを重点的に指導する。 授業の詳細については、ゼミのメンバーや研究テーマにしたがって決める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>常に音楽や音楽教育、表現教育に興味を持って臨むこと。自主的に進んで学修すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション: ゼミの進め方について 第2回 音楽教育学(小学校)についての概説 第3回 音楽教育学(幼児)についての概説 第4回 文献講読・ネット探索 第5回 先輩の論文等から学ぶ 第6回 研究テーマについての探求(全体的) 第7回 教育・保育現場の状況視察(可能であれば見学やセミナー参加) 第8回 音楽施設の外部視察(ミュージアムの見学やセミナー参加) 第9回 論文の書き方について 第10回 教育についての多様な視点(外部講師招聘予定) 第11回 研究テーマについての探求(個別的) 第12回 論文テーマ決定 第13回 論文概要のまとめ | | | |

| | | | |
|---|------------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 創造性を育む音楽教育 | 演習 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への取り組み(50%)、課題・レポート提出(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] その都度ゼミの中で指導する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:授業への取り組み・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:授業への取り組み・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:授業への取り組み・レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業への取り組み・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業への取り組み・レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] ゼミの履修者を見て、オリエンテーション時に紹介</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業の都度紹介する</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 図書館の教育的価値を知る | 演習 | |
| 担当者 | 坂下 直子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広義の教育における図書館の意義を理解する。 ・人類の歴史において、知の欲求を充足するために、時空を超えて発展を遂げた図書館が、狭義の教育現場で果たす役割についても理解する。 ・文献講読を通して、問題意識を芽吹かせる。 <p>[授業概要]</p> <p>論文を執筆する際に必要なアカデミック・スキルズを学び、各段階での作業に取り組む。とりわけ本科目においては、各自で参考となる文献を見出し、読解し、要約した内容を発表し合い、参加者全員で討論をする。時には、各図書館種等を訪問し、フィールドワークを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>保・幼・小・中・高・大の時代に体験した図書館での学びについて想起し、図書館と教育に関する報道から現代的な事項を知って論点を探ってほしい。講義で議論となった点については、webおよび図書館等で調べ、次回の講義で成果を発表し合うので、予習・復習で約2時間を要することとなる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. アカデミック・スキルズ① 知る 3. アカデミック・スキルズ② 調べる 4. アカデミック・スキルズ③ 読む 5. アカデミック・スキルズ④ 考える 6. アカデミック・スキルズ⑤ 整理する 7. アカデミック・スキルズ⑥ 伝える 8. アカデミック・スキルズ⑦ 書く(基礎編・応用編) 9. 文献講読と発表 10. 文献講読と発表 11. 文献講読と発表 12. 文献講読と発表 13. 文献講読と発表 | | | |

| | | | |
|--------|--------------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 図書館の教育的価値を知る | 演習 | |
| 担当者 | 坂下 直子 | | |

[成績評価方法]

発表(50%)、議論への取り組み度(50%)で総合的に評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

講義内および、manaba、メールで行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

プリントを適宜配布する。

[参考書(ISBN)]

講義中に指示する。

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>文献の講読を通して、教育および授業について考えを深めることができる。 授業づくりの演習・学級づくりの演習を通して、授業づくり・学級づくりのポイントを理解することができる。 研究的な視点を持って学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。模擬授業を振り返り、よい授業に必要なことを考えることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①教育のあり方、教師のあり方、授業のあり方に関わる文献を講読・発表し、ディスカッションする。 ②授業づくり演習・学級づくり演習を行い、授業づくり・学級づくりのポイントについて考え、ディスカッションする。 ③各自テーマを決めて教材研究を行い、授業案を作成する。模擬授業を行い、ディスカッションする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>発表レポート、模擬授業案作成には、質の高いものを作成しようとする姿勢で取り組むこと。参加者全員がテーマについて問題意識を持って授業に臨むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 基本文献の講読・発表とディスカッション① 3. 基本文献の講読・発表とディスカッション② 4. 先輩の模擬授業から学ぶ 5. 授業づくり演習① 6. 授業づくり演習② 7. 学級通信の分析 8. 学級づくり演習 9. 模擬授業とディスカッション① 10. 模擬授業とディスカッション② 11. 模擬授業とディスカッション③ 12. 模擬授業の振り返りーよい授業とはー 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(40%)、模擬授業への取り組み(40%)、授業への姿勢(20%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて、授業の中で適宜紹介する。</p> | | | |

| | | | | |
|---|-------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 保育や教育(特に体育・スポーツ分野)に関する理論や知識、考え方などを経験的・実践的な視点から学ぶことを目標とする。</p> <p>[授業概要] 文献や先行研究から体育・スポーツに関わる基礎・基本を習得し、小学校の体育授業や幼児期の運動遊びに必要な実践的指導力を高める。また、学校園現場における諸問題についても見識を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教育現場に出向き、子どもの実態を知る。または遊びの現場でこどもと身近に触れ合い子ども理解をする。</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション: ゼミの進め方について 第2回 体育科教育学(幼児期の運動遊びも含む)についての概説 第3回 体育・スポーツについての概説 第4回 文献講読(1) 第5回 文献講読(2) 第6回 文献講読(3) 第7回 研究テーマについての探求(1) 第8回 研究テーマについての探求(2) 第9回 研究テーマについての探求(3) 第10回 論文の書き方について(1) 第11回 論文の書き方について(2) 第12回 保育教育現場の状況視察(可能であれば見学) 第13回 保育教育現場の状況視察(可能であれば見学)</p> | | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度(授業参加度など)30%、課題内容70%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中、授業前後に行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|--|-------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 竹田 和恵 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 授業を通して、次のことを目標とする。 ①教育の情報化と情報技術の基本概念を理解し、教育現場での役割を把握する。 ②ICTを活用して保育教材を開発するスキルを向上し、実践的な利用能力を身につける。 ③情報収集や調査方法など、研究の進め方について理解を深める。</p> <p>[授業概要] 教育の情報化と情報技術の基本概念を理解し、ICTを活用した保育教材の開発スキルを向上させる。また、文献調査、研究テーマの発表を通して、総合的な学習スキルを育成し、異なる分野の知識を統合するための学術的なアプローチを習得する。そして、研究と実践を組み合わせ、教育現場における有効な教育方法について検討する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の講義の復習</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 教育の情報化についての概説 3. 情報技術についての概説 4. ICTを活用した保育教材の研究(1) 5. ICTを活用した保育教材の研究(2) 6. ICTを活用した保育教材の研究(3) 7. 研究の進め方1 テーマについての話し合い 8. 研究の進め方2 文献、資料、データの集め方と整理の方法 9. 研究の進め方3 調査、実験の方法 10. 文献講読(1) 11. 文献講読(2) 12. 研究テーマの発表と文献紹介(1) 13. 研究テーマの発表と文献紹介(2)</p> | | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 竹田 和恵 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題 (100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|---|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 文献を精読し解釈する能力を身につけ、問題点を見つけ理路整然と議論をまとめることができる。</p> <p>[授業概要] 教育学史上で重要な古典的文献をクラスで読みながら、教育学の持つ意義と役割を西洋思想を通して理解し、教育学に関する基礎的知識を得る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 指定された文献・資料をあらかじめ読んでおくこと。各回、予習復習あわせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 導入、教育学とは? 2. プラトン『ソクラテスの弁明』① 3. プラトン『ソクラテスの弁明』② 4. プラトン『ソクラテスの弁明』③ 5. ルソー『エミール』① 6. ルソー『エミール』② 7. ルソー『エミール』③ 8. ルソー『エミール』④ 9. ルソー『エミール』⑤ 10. カント『道徳形而上学原論』① 11. カント『道徳形而上学原論』② 12. カント『道徳形而上学原論』③ 13. カント『道徳形而上学原論』④</p> | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業での発言・活動(50%)、レポート(50%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して返却する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:授業態度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:レポート、研究発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:授業態度、研究発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:研究発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート、研究発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] ルソー『エミール』(上) 著者名:ルソー 出版社:岩波文庫 (978-4003362211) 『ソクラテスの弁明・クリトン』 著者名:プラトン 出版社:講談社学術文庫 (978-4061593169) 『道徳形而上学原論』 著者名:カント 出版社:岩波文庫 (978-4003362518)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に適宜指示する。</p> | | | |

| | | | | |
|--|-------|----------------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | 模擬授業 | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これからの社会を生きる力の育成」や「ユニバーサルデザインの授業」について研究し、卒業論文研究に向けてテーマを絞っていく。 ・学校現場等で積極的に活動を行い、資質の高い教員としての実践力を身に付けていく。 ・全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、基礎・基本となる力の「知識・技能」、考える力としての「思考力・判断力・表現力等の能力」、そして、それらを活用するときの態度に現れる「主体性・多様性・協働性」を身につける。 <p>[授業概要]</p> <p>この授業では、学校現場における教員経験があるものが、その経験を活かして、今日的な課題(特別支援教育等)への対応を指導する。生徒指導論や教育相談の授業で学んだ理論および指導方法をさらに深める。最新の教育課題について関心を持ち進んで探究し、ディスカッションを通して考察を広げていく。ユニバーサルデザインの授業の視点での指導方法を模擬授業を通して研究する。フィールドワークや体験活動を積極的に取り入れ、知識や見聞を広め、多様性を認め合う社会、多様性を認め合う学級づくりをめざす教員としての資質を涵養する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>関心を持った教育課題を探求し、レポートにまとめ提出する。<2時間程度> 各自の卒業論文のテーマに毎週取り組む。<2時間程度></p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ユニバーサルデザイン(UD)の授業 2. UD模擬授業とこれからの社会を生きる力ディスカッション① 3. UD模擬授業とこれからの社会を生きる力ディスカッション② 4. UD模擬授業とこれからの社会を生きる力ディスカッション③ 5. フィールドワーク①<学外授業> 6. ICT・タブレットの授業教材作成① 7. ICT・タブレットの授業教材作成② 8. ICT・タブレットの授業教材作成③ 9. 「算数」(低学年)の授業と課題(教育実習に向けて) 10. 「算数」(高学年)の授業と課題(教育実習に向けて) 11. 「国語」の授業と課題(教育実習に向けて) 12. 「道徳」の授業と課題(教育実習に向けて) 13. フィールドワーク②<学外授業> | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題(口頭試問を含む)(50%)、授業以外の研究課題(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中の課題に対してコメント等のフィードバックを返します。 授業以外の研究課題に対して個別に指導助言、小論文の添削等を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。別途プリントを配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業に応じて紹介</p> | | | |

| | | | |
|----------------|-------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

英語学、英語教育学に関わる論文や文献資料を自ら収集し、それらを読み解き、日本語・英語を使って論理的に説明できると同時に、多角的な視点から意見交換ができる。

[授業概要]

英語学、英語教育学に関するテーマについて文献を調べ、纏め、日本語と英語の両言語を使って発表を行う。その際、文献の探し方、専門用語等について説明する。意見交換をしながら、各テーマに関する学びの理解を深めていく。さらに、模擬授業を実践し、その改善を図っていくことを通して、各自の研究テーマを設定する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習を合わせて2時間程度。

毎回発表を行うので、日本語・英語ともに、何度も音声を出して練習を重ね、準備を整えておくこと。

[授業計画]

1. オリエンテーション
2. 文献講読と意見交換①
3. 文献講読と意見交換②
4. 文献講読と意見交換③
5. 文献講読と意見交換④
6. 文献講読と意見交換⑤
7. 模擬授業の実践と振り返り①
8. 模擬授業の実践と振り返り②
9. 模擬授業の実践と振り返り③
10. 模擬授業の実践と振り返り④
11. 模擬授業の実践と振り返り⑤
12. 研究テーマについての検討
13. まとめ

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 発表・レジュメ(50%)、レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:発表・レジュメ</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:発表・レジュメ、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:発表・レジュメ</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表・レジュメ</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表・レジュメ</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表・レジュメ、レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051685) 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692)</p> | | | |

| | | | | |
|--|-------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 保育や教育に関する確かな理念を構築し、専門職としての豊かな実践力の基盤となる理論や知識、考え方などを経験的・実践的な視点から学ぶことを目標とする。さらに、今後専門性を高めていくための動機を高め、研究的な視点からそれらを捉えていくための感覚を身につけていく。</p> <p>[授業概要] 本授業では、実践現場での経験をもとに以下の内容に関するものの中から各自が課題を見つけ出し、反省的な視点から基盤となる文献や先行研究の講読を行う。また、各自が行っている保育や教育現場での自主実習・ボランティア等についての報告を行い、保育・教育の実践力の構築につなげ、共有化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顕在的・潜在的カリキュラムに関する事 ・保育や教育の内容・方法に関する事 ・子どもをとりまくコミュニケーション(主に人(保護者や保育者、周囲の子どもなど)とのかわり)に関する事 ・子どもの心の育ち(道徳性の芽生えなど)に関する事 ・幼保小の連携などの保育・教育現場の諸問題に関する事 ・保育や教育の改善を目指した研究法に関する事 ・諸外国の幼児教育・保育に関する事 ・子どもの遊び・遊び集団に関する事 ・「資質・能力」を育む保育や教育に関する事 など <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究)に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. これまでのボランティア等のフィールドワークについてのレポート 3. 保育・幼児教育の実践への理解を深める1(保育の計画) 4. 保育・幼児教育の実践への理解を深める2(保育の実施と反省) 5. 自らの問題意識と学びの模索 6. 自らの問題意識と学びの方向性の構築(発表会) 7. ボランティア等のフィールドワークについてのレポート1 8. 研究に向けてのガイダンス 9. 保育・幼児教育現場・実践者からの学び(先輩保育者との交流を通して) 10. 研究課題に関する文献等の講読1 11. 研究課題に関する文献等の講読2 12. ボランティア等のフィールドワークについてのレポート2 13. 学びのまとめ(研究発表会) | | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート課題(60%) 発表(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] その都度指導を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:レポート課題(60%) 発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:レポート課題(60%) 発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:レポート課題(60%) 発表(40%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題(60%) 発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題(60%) 発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題(60%) 発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題(60%) 発表(40%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 後日連絡する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配布を行う。</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 村田 恵子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校の教育現場で理科を指導できるよう、小学校理科の学習内容にかかわる基本的な原理・原則を理解・習得しながら、授業実践力を身につける。</p> <p>[授業概要] 小学校理科の学習内容(主に地学・物理分野)にかかわる基本的な原理・原則を習得・理解する。また、個別に小学校理科の授業指導案作成および模擬授業を行うことにより、具体的な教授方法・授業実践力を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 模擬授業担当者は、授業前に準備(指導案・ワークシート・板書計画の作成など)をする。担当者以外の方は、模擬授業で扱う単元について予習する。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.小学校理科の教育課程について① 3.小学校理科の教育課程について② 4.模擬授業① 5.模擬授業② 6.模擬授業③ 7.模擬授業④ 8.模擬授業⑤ 9.小学校理科の教育課程について③ 10.小学校理科の教育課程について④ 11.小学校理科の教育課程について⑤ 12.小学校理科の教育課程について⑥ 13.まとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 村田 恵子 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題 (60%)・プレゼンテーション (模擬授業) (40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 指導案・ワークシートなどの添削・修正を繰り返し完成させる。修正箇所については随時説明する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:課題・プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:課題・プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:課題・プレゼンテーション</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題・プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題・プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題・プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題・プレゼンテーション</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 美術作品の研究と制作 | 演習 | |
| 担当者 | 守本 智美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 美術作品を制作し、また各自興味を持てるテーマで美術の研究を行い、豊かな感性を育むことを目的とする。</p> <p>[授業概要] 美術作品の制作を通して、描き、創造する喜びや楽しさを学びます。特にあらゆる美術の基礎となるデッサンには重点を置き、観察力、描写力をつけ、多様な表現を試みます。題材としては主として静物、風景、人物、さらには抽象的なものを取り上げてデッサンの技法の習得を行い、デッサン用具の扱いになれることに主眼を置きます。着色は水彩絵具または油絵具等で行い作品を完成させます。さらに、各自の好きなテーマで作品制作を行います。また、好きな作家や作品、その他、技法、材料等をはじめ、美術に関係したことの中から各自興味のあるテーマを設定し研究を行います。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。美術館で本物の作品を鑑賞したり、画集でも授業で関連する内容の作品はよく見て、自分の作品制作や研究に生かすこと。manaba(マナバ)にて授業に必要な連絡をするので、必ずmanabaに登録しておくこと。</p> <p>[授業計画] 1.はじめに(manaba上にて指示します) 2.デッサンの技法と作例鑑賞 3.デッサン①(静物・風景・人物のジャンルから) 4.デッサン②(制作) 5.各自のテーマを見つけて作品制作①(絵画、デザイン、彫刻、工芸) 6.各自のテーマを見つけて作品制作②(絵画、デザイン、彫刻、工芸) 7.各自のテーマを見つけて作品制作③(絵画、デザイン、彫刻、工芸) 8.各自のテーマを見つけて作品制作(仕上げ) 9.好きな作品を探そう①(日本美術、西洋美術) 10.好きな作品を探そう②(日本美術、西洋美術) 11.好きな作品の研究①(日本美術、西洋美術) 12.好きな作品の研究②(日本美術、西洋美術) 13.まとめ(作品・研究の解説)</p> | | | |

| | | | |
|---|------------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 美術作品の研究と制作 | 演習 | |
| 担当者 | 守本 智美 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(50%)・作品(50%)による総合評価。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題作品等に対するコメントを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:レポート(50%)・課題作品(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:レポート(50%)・課題作品(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:レポート(50%)・課題作品(50%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(50%)・課題作品(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート(50%)・課題作品(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート(50%)・課題作品(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート(50%)・課題作品(50%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。ある場合は授業中に指示する。</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。ある場合は授業中に指示する。</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育学に関する興味・関心を深める | 演習 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育学に関する興味・関心を深める 2 簡単なレポートを作成する能力を高める 3 実地調査研究の基本的な手法を学ぶ <p>[授業概要]</p> <p>教育学に関する書物を読解し、その要約を発表させる。発表内容について参加者で討論を行い、問題所在の整理、関連事項への関心を高めていけるようにする。また、適時、実地調査研究を行い調査研究の基本的な手法を取得できるようにする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日ごろから教育に関する新聞記事やニュースを見るようにし、興味・関心を喚起する教育問題についてアンテナを張っておくこと。また発表時には、レジュメを作成し、分かりやすい文章づくりを行うこと。授業後は問題となった学習課題について、図書館等で調べること。予習と復習で2時間を充てること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 学外実習① 実地調査研究 3 発表1&ディスカッション 発表2&ディスカッション 4 発表3&ディスカッション 発表4&ディスカッション 5 発表5&ディスカッション 発表6&ディスカッション 6 学外実習① 実地調査研究 7 学外実習② 実地調査研究 8 発表7&ディスカッション 発表8&ディスカッション 9 発表9&ディスカッション 発表10&ディスカッション 10 発表11&ディスカッション 発表12&ディスカッション 11 学外実習③ 実地調査研究 12 学外実習④ 実地調査研究 13 まとめ | | | |

| | | | |
|--|------------------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育学に関する興味・関心を深める | 演習 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |
| <p>[成績評価方法] 発表内容50% 実施調査レポート30% 討議内容20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを通じてフィードバックを行う。オフィスアワーでも対応する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:発表内容を評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:発表内容や質問の視点を評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:実習態度を評価する</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表内容や質問の視点を評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表内容を評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表内容を評価する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習態度を評価する</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|----------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 私と英語教育との関わり、視点から英語教育の課題発見へ | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 日本の英語教育をめぐる話題について知り、受講生自身の経験と照らし合わせながら分析を加えることができるようになる。必要な文献を的確に調査し、読解できるようになる。そのことから英語教育について客観的に考える力を身に着けるとともに、日本の英語教育の現状を知り、課題を発見できるようになる。</p> <p>[授業概要] これまでに受けてきた英語教育について振り返ることから始めます。どのような授業を受けてきたでしょうか。教科書はどのような内容で構成されていたのでしょうか。英語の授業ではどんな方略が使われていたでしょうか。それらのことを英語教育について書かれた文献と照らし合わせながら、分析を試みてみましょう。そのことから英語教育の課題を発見していくこととします。担当教員は、中学校で英語授業を行っていました。さらに、小学生から大学生まで英語を教えた経験がありますので、それらの経験も活かしながら授業を進めていきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回、文献を探して読み、その中からわかったことを発表できるようにしておきましょう。わからない部分は質問することにしてノートに書きだして授業に参加すること。あなたの発見と疑問に基づいて授業では背景にある理論や歴史を考えていくこととなります。予習復習合わせて4時間程度の学習が必要になるでしょう。</p> <p>[授業計画] 以下に毎回取り扱うテーマを設定してありますので、これに基づいて、自習しましょう。これらと並行して受講生に合う英語練習問題にも取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語教育って何: イントロダクション 2. これまでに受けてきた英語教育: 自身の興味関心を的確にする 3. 学習者としての英語教育 4. 英語授業での学習方略 5. 英語のリスニング 6. 英語のスピーキング 7. 英語のリーディング 8. 英語のライティング 9. 教科書を分析してみよう 10. 英語の語彙学習 11. 英語文法の学習方法 12. 英語授業の成立とはどのようなこと 13. まとめとしての中間発表、ならびに討議 | | | |

| | | | |
|--------|----------------------------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 私と英語教育との関わり、視点から英語教育の課題発見へ | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |

[成績評価方法]

授業の予習(30%)、復習および自習(30%)、中間発表(40%)：予習は文献調査と読解。復習はわかったことや疑問をまとめること、中間発表会を実施しますので、原稿やスライドを作成して発表し、受講生同士の相互評価も行う。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

レポートは、後日添削して返却します。中間発表は学習の総まとめとして行います。相互評価を含めて事後に深化する時間を設けず。あわせて、レポートを提出します。詳細は授業で指示します。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:授業の予習、復習で評価します。

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。

成績評価方法:授業の予習、復習で評価します。

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:授業の予習、復習、中間発表の内容で評価します。

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:授業の予習、復習で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:中間発表、まとめで評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:中間発表、まとめで評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業の予習、復習で評価します。

[教科書(ISBN)]

電子黒板への招待 その提示力を生かした授業を考える 著者名:齋藤 由紀 出版社:関西学院大学出版会 (978-4-86283-204-7)

[参考書(ISBN)]

なし

授業で必要に応じて紹介します

| | | | |
|---|----------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 「学ぶ」ことの意味を問い直す | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 「学び」に関する様々な考え方を吟味し、「教師」として扱って立つ「学習観」を築く。</p> <p>[授業概要] 参考書の『「学ぶ」ということの意味』が問題提起する「学び」に関する論考を軸に、その本の参考文献で取り上げられている様々な文献を読み進めながら、「学ぶ」ことの意味を問い直していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎週、予習復習合わせて2時間程度。 毎週、事前に配布した資料を読み、A4で1枚に要旨とコメントを書く。 授業後、授業の「振り返り」レポートを書き次回の授業で提出する。</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.人はなぜ学ぶのか 3.教えることと学ぶこと 4.学びにおける他者 5.学びのドーナツ論(1) 6.学びのドーナツ論(2) 7.「まねる」と「学ぶ」こと 8.「なってみる」ことによる学び 9.参加としての学び(1) 10.参加としての学び(2) 11.共同体への参加(1) 12.共同体への参加(2) 13.学びを回復する道</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 「学ぶ」ことの意味を問い直す | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート (50%)、発表 (50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] 『「学ぶ」ということの意味』 著者名:佐伯 胖 出版社:岩波書店 (4000039326)</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 久木山 健一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 各自が自分の興味に関連のある論文を読み込むことを通じてテーマに関する問題意識を高めると共に、論文を問題と目的・方法・結果・考察・文献の構造に沿って理解できるようになり、心理学演習での取り組みに発展させることも目指します。</p> <p>[授業概要] ゼミ担当教員の指導のもとに、心理学の各領域に関する論文を講読します。「発達」「認知・学習」「人格（パーソナリティ）」「臨床」「社会」などの領域から、ゼミ担当教員の専門領域を中心に各自が関心をもつ領域・テーマにそった論文をえらび、順番にその内容について発表資料を作成して紹介しあいディスカッションしながら心理学の専門的テーマへの理解を深めていきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予習:論文を読むために必要な心理学の知識や研究法について幅広く知識を高めておいてください。 復習:論文の中で分からない用語や分析手法があった場合は、逐一調べておいてください。 各回、予習復習合わせて2時間程度の学習が求められます。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 文献検索の方法について 3. 先行研究や最新データについて 4. 心理学研究法(文献研究、事例研究)について 5. 心理学研究法(調査研究、実験研究)について 6. 文献研究についての発表とディスカッション1 7. 文献研究についての発表とディスカッション2 8. 文献研究についての発表とディスカッション3 9. 文献研究についての発表とディスカッション4 10. 文献研究についての発表とディスカッション5 11. 文献研究についての発表とディスカッション6 12. 文献研究についての発表とディスカッション7 13. 各研究テーマのまとめ | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 久木山 健一 | | |
| <p>[成績評価方法] 発表(60%), 討議への参加態度(40%)によります。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。必要に応じて資料を配付します。</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。必要に応じて資料を配付します。</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校家庭科に関する文献読解を通じて家庭科教育の課題を見出すとともに教育論及び授業論の原理・原則を理解する。調査・研究を通じて課題を解決する力を習得する。模擬授業では研究的な視点から学習指導案を作成し、学習指導の実践に必要な指導技術と問題解決力を身につける。</p> <p>[授業概要] 小学校の家庭科教育の在り方を文献講読とその要約の発表及び討議を通じて展望するとともに家庭科教育・家庭生活に関連する問題を設定し、調査・研究する。これらを基に家庭科教育の現状と課題を理解したうえで課題解決に向けた教材研究と学習指導案の作成及び模擬授業の実施・評価・議論を行い、課題を見出す能力と問題解決力を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の予習・復習を行い、日常的に家庭生活におけるあらゆる事象に関心と問題意識を持つようにする。自主的に関連する文献講読を進めたうえで先行研究や実践例を調べてから受講すること。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション(文献の集め方・研究の進め方) 2. 文献講読・発表・討議Ⅰ 家庭科教育 3. 文献講読・発表・討議Ⅱ 家族・家庭生活 4. 文献講読・発表・討議Ⅲ 福祉 5. 文献講読・発表・討議Ⅳ 食生活 6. 文献講読・発表・討議Ⅴ 衣生活 7. 文献講読・発表・討議Ⅵ 住生活 8. 文献講読・発表・討議Ⅶ 防災 9. 文献講読・発表・討議Ⅷ 国際理解 10. 文献講読・発表・討議Ⅷ 消費生活 11. 文献講読・発表・討議Ⅸ 環境 12. 家庭科教育の課題の発見・発表・討議 13. 総括と研究テーマの探求</p> | | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(50%) 発表(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは授業及びmanabaの掲示板で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:課題・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:課題・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:課題・発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題・発表</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて授業中に適宜紹介する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて授業中に適宜紹介する。</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | ダイバーシティ(多様性)の時代に対応した小学校等での学級経営の視点 | 演習 | |
| 担当者 | 上野 昌稔 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティ(多様性)の時代、発達障害等のある子ども、LGBTQ、日本語指導を必要とする子どもなどが在籍することを前提にした学級担任として理解しておくべき知識及び技能を身につける。 ・生徒指導と多様性への対応(集団指導と個別指導)、自立活動、表現者としての教師(子どもにとって魅力のある教師とは)、アウトプットの質と量など多面的に学級経営を捉え、学級経営の実際に活かせる技能を身につける。 ・全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、基礎・基本となる力の「知識・技能」、考える力としての「思考力・判断力・表現力等の能力」、そして、それらを活用するときの態度に現れる「主体性・多様性・協働性」を身につける。 <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、学校現場での教員や教育行政(教育委員会、文部科学省)等の経験のある教員が、その経験を活かして、発達障害のある子どもなどが在籍することを前提にした授業づくり、学級づくりに関する基本的な事項、対応方法について指導する。 ・多面的な学級経営に関して、自らを表現者としてディスカッションを通して、主体性をさらに伸ばしていく。 ・ノンバーバルコミュニケーションについては、コンテンポラリーダンスなどの実技を通して、その重要性和効果について実感できる機会を設定し、さらに後期の「教育学演習」において、深く学んでいく。 ・これらの授業を通じて、子どもの多様性理解とその対応方法等について学び、インクルーシブな社会の基礎となる多様性を尊重した「令和の時代の学級経営」に対応できる教員となるための資質を涵養する。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関する基礎となる用語等について調べて理解しておくこと ・授業中に提示する課題に関してレポート、パワーポイント等にして提出 ※各回で示した資料等を確認することなど予習復習を合わせて2時間程度行うこと <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ダイバーシティと学校教育の現状 2. ニューロダイバーシティの考え方とリーダーシップ 3. 多様な背景のある児童生徒の生徒指導 4. 通常の学級における「自立活動」の重要性 5. ユニバーサルデザインと学級経営 6. ノンバーバルコミュニケーションの重要性1(どれだけの情報が伝わるのか) 7. ノンバーバルコミュニケーションの重要性2(心理学的側面からのアプローチ) 8. 表現者としての教師①(コンテンポラリーダンスによるアウトプットを通して) 9. 表現者としての教師②(コンテンポラリーダンス体験) 10. これまでの講話を振り返り、「自立活動」と学級経営についての考察 11. 「令和の時代の学級経営」に必要な知識・技能に関する発表(アウトプット) 12. 「令和の時代の学級経営」に必要な知識・技能に関する討議 13. まとめ <p>※コンテンポラリーダンス体験の実施時期については、時期が変更となる可能性がある</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------------------------|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | ダイバーシティ(多様性)の時代に対応した小学校等での学級経営の視点 | 演習 | |
| 担当者 | 上野 昌稔 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート及び発表内容(50%)、討議内容(40%)、表現力(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・授業中におけるコメント等によるフィードバック ・オフィスアワーにおける対応</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:人に伝わりやすい表情、音量、声色、姿勢や態度への工夫</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし、別途プリントを配布</p> <p>[参考書(ISBN)] 身体感覚を取り戻す 著者名:斎藤 孝 出版社:NHKBooks (4-14-001893-3) 生徒指導提要(改訂版) 出版社:文部科学省(HPIにPDFあり) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 出版社:文部科学省(HPIにPDFあり)</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 発達障害のある子どもなどが在籍することを前提にした授業づくり・学級づくり を由ひに | 演習 | |
| 担当者 | 田中 裕一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害のある子どもなどが在籍することを前提にした授業づくり・学級づくりについて学び、卒業論文研究のテーマを絞り込む。 ・発達障害を含む学びに困難を抱える子どもの対応について考え、学校現場において子どもの困難に対応できる実践力を身につける。 ・全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、基礎・基本となる力の「知識・技能」、考える力としての「思考力・判断力・表現力等の能力」、そして、それらを活用するときの態度に現れる「主体性・多様性・協働性」を身につける。 <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、学校現場での教員や教育行政(教育委員会、文部科学省)等の経験のある教員が、その経験を活かして、発達障害のある子どもなどが在籍することを前提にした授業づくり、学級づくりに関する基本的な事項、対応方法について指導する。 ・授業づくり、学級づくりに関して、興味関心のある書物を講読し、レポート等にまとめて発表する。 ・発達障害を含む学びに困難を抱えた経験がある当事者とのディスカッションやそれらの当事者を支える施設等へのフィールドワークを実施する。 ・これらの授業を通じて、発達障害を含む学びに困難を抱える子どもの現状とその対応方法等について学び、インクルーシブな社会の基礎となる多様性を認め合うための、授業づくり、学級づくりを目指す教員となるための資質を涵養する。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業づくり、学級づくりに関する書物を講読した学びをレポート、パワーポイント等にまとめて提出 ・授業中に示した課題に関してレポート、パワーポイント等にして提出 ※各回で示した資料等を確認することなど予習復習を合わせて2時間程度行うこと <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての子どもがわかる授業づくり、多様な子どもが在籍することを踏まえた学級づくりとは何か(1) 2. すべての子どもがわかる授業づくり、多様な子どもが在籍することを踏まえた学級づくりとは何か(2) 3. レポート発表&ディスカッション(1) 4. レポート発表&ディスカッション(2) 5. レポート発表&ディスカッション(3) 6. レポート発表&ディスカッション(4) 7. 障害を含む学びに困難を抱えた経験がある当事者とのディスカッション 8. 第8回のディスカッションの感想と討議(1) 9. 第8回のディスカッションの感想と討議(2) 10. 当事者を支える施設等へのフィールドワーク【学外授業】 11. 第10回のフィールドワークの感想と討議(1) 12. 第10回のフィールドワークの感想と討議(2) 13. まとめ <p>※当事者とのディスカッション及び当事者を支える施設等へのフィールドワークの実施時期については、時期が変更となる可能性がある</p> | | | |

| | | | |
|--|--|----|------|
| 科目名 | 教育学講読 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 発達障害のある子どもなどが在籍することを前提にした授業づくり・学級づくり を由ひに | 演習 | |
| 担当者 | 田中 裕一 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート及び発表内容(50%)、討議内容(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・授業中におけるコメント等によるフィードバック ・オフィスアワーにおける対応</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。別途プリントを配布。</p> <p>[参考書(ISBN)] 通常学級の発達障害児の「学び」を、どう保障するか 著者名:田中裕一 出版社:小学館 (9784098402137) その他は授業に応じて紹介</p> | | | |

| | | | | |
|--|-------------------------------|----------------|----|------|
| 科目名 | 教育課程論 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育課程は学校力の最高傑作・カリマネの主役は教職員一人一人 | | 講義 | |
| 担当者 | 宮垣 覚 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | 2分間スピーチ | 実務経験のある教員による授業 | | ○ |
| <p>[到達目標] かつてないほどに「教育課程」が注目されている背景をさぐり、「教育課程」とは何かを具体的に整理する。教育課程の基準となる学習指導要領について、戦後の教育改革から現在に至る改訂の変遷を大まかにつかみ、未来の学校教育のあり方を考える。また、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、実際の学校現場における教育課程編成のプロセスを学び、教育課程の創造的編成の基礎を習得する。</p> <p>[授業概要] 教育課程には、教育目標や年間学習指導計画、週時程表、生活時間帯など数多くの内容が含まれている。教育課程は、各学校が独自に編成すべきものであるが、公教育を担っている性格上、守るべき水準がある。しかし、それぞれの学校には、歴史的な経緯や地域性の違いだけでなく、学校規模や施設環境などの違いもある。何よりも、克服すべき課題が異なる。この課題を克服しようと努力していく過程で、各学校の特色ある教育活動は生まれてくる。学習指導要領の改訂の変遷を概観するとともに、今日的な教育課題としての新型コロナ対応やGIGAスクール構想の実現に向けた努力も学んでいく。そのうえで、各学校が行う教育課題の克服に向けた大きな計画が「教育課程」にあることを理解する。教育課程の実施状況に加えて、学校評価や学校運営協議会(コミュニティ・スクール構想)も幅広く学び、教育課程全般の基礎を理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 学習指導要領(平成29年告示)解説・総則編を中心に概要を調べておくことが望ましい。授業後は、本時の学習内容について、配付プリント等や学習指導要領解説・総則編等を参考に復習すること。</p> <p>[授業計画] 1. 教育課程論 ～ ガイダンス、目標 ～ 2. 教育課程 ～ 学習指導要領総則より、内容、目的、方法 ～ 3. 戦前、戦後の教育課程の歩み ～ 戦前戦後の比較、学習指導要領の変遷 ～ 4. 現行学習指導要領のポイント ～ 主体的対話的で深い学び、令和の日本型学校教育～ 5. GIGAスクール構想 ～ デジタル化の目的、期待されること ～ 6. 特色ある教育活動 ～ 各学校の特色ある教育活動、学校行事他 ～ 7. 健全育成等への取組 ～ 安全教育、学校規模や生徒の課題等と生徒指導 ～ 8. カリキュラム開発実践例 ～ 各校の実践に学ぶ ～ 9. カリキュラムと教育環境 ～ 学校・学級、コミュニティスクール ～ 10. 授業研究 ～ 授業形態、授業デザイン、共同する授業 ～ 11. 教育評価 ～ 実施状況調査、「新たな学校評価」のあり方と教育課程編成の関係 ～ 12. カリキュラム・マネジメント ～ 創造的実践、教科横断的な指導、課題 ～ 13. まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------|----|------|
| 科目名 | 教育課程論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育課程は学校力の最高傑作・カリマネの主役は教職員一人一人 | 講義 | |
| 担当者 | 宮垣 覚 | | |
| <p>[成績評価方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～12回 10分程度の授業レポート(50%) ・1～12回 授業中のグループワーク・スピーチ等(20%) ・まとめのレポート(30%) <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業レポートは、次回添削して返却します。 ・質問や望ましい意見は、要約して次回の講義で紹介する。 ・解決できていない学習上の問題点については、個別に対応する。 <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社</p> <p>[参考書(ISBN)]</p> <p>『教育課程論』 著者名:柴田義松編著 出版社:学文社 (978-4-7620-1896-1) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社</p> | | | |

| | | | |
|----------------|-------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育課程論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育課程は学校力の最高傑作・カリマネの主役は教職員一人一人 | 講義 | |
| 担当者 | 宮垣 覚 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 2分間スピーチ | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

かつてないほどに「教育課程」が注目されている背景をさぐり、「教育課程」とは何かを具体的に整理する。教育課程の基準となる学習指導要領について、戦後の教育改革から現在に至る改訂の変遷を大まかにつかみ、未来の学校教育のあり方を考える。また、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、実際の学校現場における教育課程編成のプロセスを学び、教育課程の創造的編成の基礎を習得する。

[授業概要]

教育課程には、教育目標や年間学習指導計画、週時程表、生活時間帯など数多くの内容が含まれている。教育課程は、各学校が独自に編成すべきものであるが、公教育を担っている性格上、守るべき水準がある。しかし、それぞれの学校には、歴史的な経緯や地域性の違いだけでなく、学校規模や施設環境などの違いもある。何よりも、克服すべき課題が異なる。この課題を克服しようと努力していく過程で、各学校の特色ある教育活動は生まれてくる。学習指導要領の改訂の変遷を概観するとともに、今日的な教育課題としての新型コロナ対応やGIGAスクール構想の実現に向けた努力も学んでいく。そのうえで、各学校が行う教育課題の克服に向けた大きな計画が「教育課程」にあることを理解する。教育課程の実施状況に加えて、学校評価や学校運営協議会(コミュニティ・スクール構想)も幅広く学び、教育課程全般の基礎を理解する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

学習指導要領(平成29年告示)解説・総則編を中心に概要を調べておくことが望ましい。授業後は、本時の学習内容について、配付プリント等や学習指導要領解説・総則編等を参考に復習すること。

[授業計画]

1. 教育課程論 ～ ガイダンス、目標 ～
2. 教育課程 ～ 学習指導要領総則より、内容、目的、方法 ～
3. 戦前、戦後の教育課程の歩み ～ 戦前戦後の比較、学習指導要領の変遷 ～
4. 現行学習指導要領のポイント ～ 主体的対話的で深い学び、令和の日本型学校教育～
5. GIGAスクール構想 ～ デジタル化の目的、期待されること ～
6. 特色ある教育活動 ～ 各学校の特色ある教育活動、学校行事他 ～
7. 健全育成等への取組 ～ 安全教育、学校規模や生徒の課題等と生徒指導 ～
8. カリキュラム開発実践例 ～ 各校の実践に学ぶ ～
9. カリキュラムと教育環境 ～ 学校・学級、コミュニティスクール ～
10. 授業研究 ～ 授業形態、授業デザイン、共同する授業 ～
11. 教育評価 ～ 実施状況調査、「新たな学校評価」のあり方と教育課程編成の関係 ～
12. カリキュラム・マネジメント ～ 創造的実践、教科横断的な指導、課題 ～
13. まとめ

| | | | |
|---|-------------------------------|----|------|
| 科目名 | 教育課程論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育課程は学校力の最高傑作・カリマネの主役は教職員一人一人 | 講義 | |
| 担当者 | 宮垣 覚 | | |
| <p>[成績評価方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～12回 10分程度の授業レポート(50%) ・1～12回 授業中のグループワーク・スピーチ等(20%) ・まとめのレポート(30%) <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業レポートは、次回添削して返却します。 ・質問や望ましい意見は、要約して次回の講義で紹介する。 ・解決できていない学習上の問題点については、個別に対応する。 <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社</p> <p>[参考書(ISBN)]</p> <p>『教育課程論』 著者名:柴田義松編著 出版社:学文社 (978-4-7620-1896-1) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 稲垣 善茂 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育をとりまく諸問題の基礎を理解するために、情報を適切に得ることができる。それらの問題に対し、自らの考えを言語化し、適切な方法で伝達することができる。</p> <p>[授業概要] 本授業では、教育の基礎理論および教育学研究の基礎を学ぶとともに、教育という事象を分析する上で重要となる視点や考え方を養う。加えて、ディベート、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを通して批判的思考力、調査能力、意見表明能力、ICT活用能力の基礎を育む。さらに、入学時に配布された『レポート執筆の基礎』に基づいて、レポートを作成するスキルを身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 各自の発表に向けた主体的な取り組みを求める。</p> <p>[授業計画] 以下に記すのは、各クラス共通の授業内容であるが、担当教員、クラスの人数によって、各時間の順序、ディベートを行う回数などの変更はあり得る。図書館の利用ガイダンスを受ける日程は、なるべく早いほうが良いが、第2週に限定されない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 図書館利用案内・利用実習 3. ディベートの意味と流れ、ディベートのルール 4. ディベートのテーマとグループ決定、ディベートの準備:『レポート執筆の基礎』を基に情報収集・情報整理について学ぶ。 5. ディベートの準備:各グループで意見表明準備 6. ディベートの実施と反省会 7. グループ別学習:グループ分け、テーマ決定:『レポート執筆の基礎』を基にプレゼンテーションの技術について学ぶ。 8. グループ別学習:情報収集・情報整理 9. グループ別学習:発表準備、PowerPointのスライド作成 10. グループ別プレゼンテーション① 11. グループ別プレゼンテーション② 12. レポートの書き方(理論):『レポート執筆の基礎』に基づき、レポート作成の基礎を学ぶ 13. レポートの書き方(実践):例あるいは実際のレポートを使って、添削の練習をしながらレポートの書き方・参考文献の引用のしかた等を学ぶ <p>* なお、授業中にPC、携帯、タブレットを使って情報収集、WEB上の図書館利用を行うことがある。</p> | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 稲垣 善茂 | | |
| <p>[成績評価方法] 担当回のディベートの内容(30%)、グループ別プレゼンテーションの内容(30%)、最終レポート(2000字程度)(40%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 原則的には、フィードバックは適宜授業時間内で行い、最終レポートのフィードバックは返却、メールまたはmanabaを通じて行う。具体的には各担当教員の裁量に任せられる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>[教科書(ISBN)] 新入生オリエンテーションの時に配布される「レポート執筆の基礎」という冊子</p> <p>[参考書(ISBN)] ディベートの基本が面白いほど身につく本—論理力・説得力・対人力が高まるトレーニング 著者名:太田龍樹 出版社:中経出版 (978-4806126942)</p> | | | |

| | | | | |
|---|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育をとりまく諸問題の基礎を理解するために、情報を適切に得ることができる。それらの問題に対し、自らの考えを言語化し、適切な方法で伝達することができる。</p> <p>[授業概要] 本授業では、教育の基礎理論および教育学研究の基礎を学ぶとともに、教育という事象を分析する上で重要となる視点や考え方を養う。加えて、ディベート、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを通して批判的思考力、調査能力、意見表明能力、ICT活用能力の基礎を育む。さらに、入学時に配布された『レポート執筆の基礎』に基づいて、レポートを作成するスキルを身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 各自の発表に向けた主体的な取り組みを求める。</p> <p>[授業計画] 以下に記すのは、各クラス共通の授業内容であるが、担当教員、クラスの人数によって、各時間の順序、ディベートを行う回数などの変更はあり得る。図書館の利用ガイダンスを受ける日程は、なるべく早いほうが良いが、第2週に限定されない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 図書館利用案内・利用実習 3. ディベートの意味と流れ、ディベートのルール 4. ディベートのテーマとグループ決定、ディベートの準備: 各グループで情報収集・情報整理 5. ディベートの準備: 各グループで意見表明準備 6. ディベートの実施と反省会 7. グループ別学習: グループ分け、テーマ決定、発表方法 (PowerPointの使い方) について 8. グループ別学習: 情報収集・情報整理 9. グループ別学習: 発表準備、PowerPointのスライド作成 10. グループ別プレゼンテーション① 11. グループ別プレゼンテーション② 12. レポートの書き方(理論): 『レポート執筆の基礎』に基づき、レポート作成の基礎を学ぶ 13. レポートの書き方(実践): 例あるいは実際のレポートを使って、添削の練習をしながらレポートの書き方・参考文献の引用のしかた等を学ぶ | | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| <p>[成績評価方法] 担当回のディベートの内容(30%)、グループ別プレゼンテーションの内容(30%)、最終レポート2000字程度(40%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 原則的には、フィードバックは適宜授業時間内で行い、最終レポートのフィードバックは返却、メールまたはmanabaを通じて行う。具体的には各担当教員の裁量に任せられる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] ディベートの基本が面白いほど身につく本—論理力・説得力・対人力が高まるトレーニング 著者名:太田龍樹 出版社:中経出版 (978-4806126942)</p> | | | |

| | | | |
|----------------|--------|----------------|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 久木山 健一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

教育をとりまく諸問題の基礎を理解するために、情報を適切に得ることができる。それらの問題に対し、自らの考えを言語化し、適切な方法で伝達することができる。

[授業概要]

本授業では、教育の基礎理論および教育学研究の基礎を学ぶとともに、教育という事象を分析する上で重要となる視点や考え方を養う。加えて、ディベート、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを通して批判的思考力、調査能力、意見表明能力、ICT活用能力の基礎を育む。さらに、入学時に配布された『レポート執筆の基礎』に基づいて、レポートを作成するスキルを身につける。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習を合わせて2時間程度。
各自の発表に向けた主体的な取り組みを求める。

[授業計画]

以下に記すのは、各クラス共通の授業内容であるが、担当教員、クラスの人数によって、各時間の順序、ディベートを行う回数などの変更はあり得る。図書館の利用ガイダンスを受ける日程は、なるべく早いほうが良いが、第2週に限定されない。

1. オリエンテーション
2. 図書館利用案内・利用実習
3. ディベートの意味と流れ、ディベートのルール
4. ディベートのテーマとグループ決定、ディベートの準備: 各グループで情報収集・情報整理
5. ディベートの準備: 各グループで意見表明準備
6. ディベートの実施と反省会
7. グループ別学習: グループ分け、テーマ決定、発表方法 (PowerPointの使い方) について
8. グループ別学習: 情報収集・情報整理
9. グループ別学習: 発表準備、PowerPointのスライド作成
10. グループ別プレゼンテーション①
11. グループ別プレゼンテーション②
12. レポートの書き方(理論): 『レポート執筆の基礎』に基づき、レポート作成の基礎を学ぶ
13. レポートの書き方(実践): 例あるいは実際のレポートを使って、添削の練習をしながらレポートの書き方・参考文献の引用のしかた等を学ぶ

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 久木山 健一 | | |
| <p>[成績評価方法] 担当回のディベートの内容(30%)、グループ別プレゼンテーションの内容(30%)、最終レポート2000字程度(40%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 原則的には、フィードバックは適宜授業時間内で行い、最終レポートのフィードバックは返却、メールまたはmanabaを通じて行う。具体的には各担当教員の裁量に任せられる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] ディベートの基本が面白いほど身につく本—論理力・説得力・対人力が高まるトレーニング 著者名:太田龍樹 出版社:中経出版 (978-4806126942)</p> | | | |

| | | | | |
|---|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育をとりまく諸問題の基礎を理解するために、情報を適切に得ることができる。それらの問題に対し、自らの考えを言語化し、適切な方法で伝達することができる。</p> <p>[授業概要] 本授業では、教育の基礎理論および教育学研究の基礎を学ぶとともに、教育という事象を分析する上で重要となる視点や考え方を養う。加えて、ディベート、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを通して批判的思考力、調査能力、意見表明能力、ICT活用能力の基礎を育む。さらに、入学時に配布された『レポート執筆の基礎』に基づいて、レポートを作成するスキルを身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 各自の発表に向けた主体的な取り組みを求める。</p> <p>[授業計画] 以下に記すのは、各クラス共通の授業内容であるが、担当教員、クラスの人数によって、各時間の順序、ディベートを行う回数などの変更はあり得る。図書館の利用ガイダンスを受ける日程は、なるべく早いほうが良いが、第2週に限定されない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 図書館利用案内・利用実習 3. ディベートの意味と流れ、ディベートのルール 4. ディベートのテーマとグループ決定、ディベートの準備:『レポート執筆の基礎』を基に情報収集・情報整理について学ぶ。 5. ディベートの準備:各グループで意見表明準備 6. ディベートの実施と反省会 7. グループ別学習:グループ分け、テーマ決定:『レポート執筆の基礎』を基にプレゼンテーションの技術について学ぶ。 8. グループ別学習:情報収集・情報整理 9. グループ別学習:発表準備、PowerPointのスライド作成 10. グループ別プレゼンテーション① 11. グループ別プレゼンテーション② 12. レポートの書き方(理論):『レポート執筆の基礎』を基にレポート作成の基礎を学ぶ。 13. レポートの書き方(実践):例あるいは実際のレポートを使って、添削の練習をしながらレポートの書き方・参考文献の引用の仕方等を学ぶ。 | | | | |

| | | | |
|--------|--------|----|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |

[成績評価方法]

担当回のディベートの内容(30%)、グループ別プレゼンテーションの内容(30%)、最終レポート2000字程度(40%)。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

原則的には、フィードバックは適宜授業時間内で行い、最終レポートのフィードバックは返却、メールまたはmanabaを通じて行う。具体的には各担当教員の裁量に任せられる。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:グループワーク、レポート

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:授業態度、グループワーク、レポート

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。

成績評価方法:ディベート、ディスカッション、プレゼンテーション

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。

成績評価方法:レポート

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:授業態度、ディベート、ディスカッション

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:ディベート、グループワーク

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:ディベート、ディスカッション

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:ディベート、ディスカッション

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:レポート、プレゼンテーション

[教科書(ISBN)]

新入生オリエンテーションの時に配布される『レポート執筆の基礎』という冊子

[参考書(ISBN)]

ディベートの基本が面白いほど身につく本—論理力・説得力・対人力が高まるトレーニング(購入する必要はない)

著者名:太田龍樹 出版社:中経出版 (978-4806126942)

| | | | | |
|---|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育をとりまく諸問題の基礎を理解するために、情報を適切に得ることができる。それらの問題に対し、自らの考えを言語化し、適切な方法で伝達することができる。</p> <p>[授業概要] 本授業では、教育の基礎理論および教育学研究の基礎を学ぶとともに、教育という事象を分析する上で重要となる視点や考え方を養う。加えて、ディベート、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを通して批判的思考力、調査能力、意見表明能力、ICT活用能力の基礎を育む。さらに、入学時に配布された『レポート執筆の基礎』に基づいて、レポートを作成するスキルを身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 各自の発表に向けた主体的な取り組みを求める。</p> <p>[授業計画] 以下に記すのは、各クラス共通の授業内容であるが、担当教員、クラスの人数によって、各時間の順序、ディベートを行う回数などの変更はあり得る。図書館の利用ガイダンスを受ける日程は、なるべく早いほうが良いが、第2週に限定されない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 図書館利用案内・利用実習 3. ディベートの意味と流れ、ディベートのルール 4. ディベートのテーマとグループ決定、ディベートの準備:『レポート執筆の基礎』を基に情報収集・情報整理について学ぶ。 5. ディベートの準備:各グループで意見表明準備 6. ディベートの実施と反省会 7. グループ別学習:グループ分け、テーマ決定:『レポート執筆の基礎』を基にプレゼンテーションの技術について学ぶ。 8. グループ別学習:情報収集・情報整理 9. グループ別学習:発表準備、PowerPointのスライド作成 10. グループ別プレゼンテーション① 11. グループ別プレゼンテーション② 12. レポートの書き方(理論):『レポート執筆の基礎』を基にレポート作成の基礎を学ぶ。 13. レポートの書き方(実践):例あるいは実際のレポートを使って、添削の練習をしながらレポートの書き方・参考文献の引用の仕方等を学ぶ。 | | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | |
| <p>[成績評価方法] 担当回のディベートの内容(30%)、グループ別プレゼンテーションの内容(30%)、最終レポート2000字程度(40%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 原則的には、フィードバックは適宜授業時間内で行い、最終レポートのフィードバックは返却、メールまたはmanabaを通じて行う。具体的には各担当教員の裁量に任せられる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] ディベートの基本が面白いほど身につく本—論理力・説得力・対人力が高まるトレーニング 著者名:太田龍樹 出版社:中経出版 (978-4806126942)</p> | | | |

| | | | | |
|---|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育をとりまく諸問題の基礎を理解するために、情報を適切に得ることができる。それらの問題に対し、自らの考えを言語化し、適切な方法で伝達することができる。</p> <p>[授業概要] 本授業では、教育の基礎理論および教育学研究の基礎を学ぶとともに、教育という事象を分析する上で重要となる視点や考え方を養う。加えて、ディベート、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを通して批判的思考力、調査能力、意見表明能力、ICT活用能力の基礎を育む。さらに、入学時に配布された『レポート執筆の基礎』に基づいて、レポートを作成するスキルを身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 各自の発表に向けた主体的な取り組みを求める。</p> <p>[授業計画] 以下に記すのは、各クラス共通の授業内容であるが、担当教員、クラスの人数によって、各時間の順序、ディベートを行う回数などの変更はあり得る。図書館の利用ガイダンスを受ける日程は、なるべく早いほうが良いが、第2週に限定されない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 図書館利用案内・利用実習 3. ディベートの意味と流れ、ディベートのルール 4. ディベートのテーマとグループ決定、ディベートの準備: 各グループで情報収集・情報整理 5. ディベートの準備: 各グループで意見表明準備 6. ディベートの実施と反省会 7. グループ別学習: グループ分け、テーマ決定、発表方法 (PowerPointの使い方) について 8. グループ別学習: 情報収集・情報整理 9. グループ別学習: 発表準備、PowerPointのスライド作成 10. グループ別プレゼンテーション① 11. グループ別プレゼンテーション② 12. レポートの書き方(理論): 『レポート執筆の基礎』に基づき、レポート作成の基礎を学ぶ 13. レポートの書き方(実践): 例あるいは実際のレポートを使って、添削の練習をしながらレポートの書き方・参考文献の引用のしかた等を学ぶ | | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| <p>[成績評価方法] 担当回のディベートの内容(30%)、グループ別プレゼンテーションの内容(30%)、最終レポート2000字程度(40%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 原則的には、フィードバックは適宜授業時間内で行い、最終レポートのフィードバックは返却、メールまたはmanabaを通じて行う。具体的には各担当教員の裁量に任せられる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] ディベートの基本が面白いほど身につく本—論理力・説得力・対人力が高まるトレーニング 著者名:太田龍樹 出版社:中経出版 (978-4806126942)</p> | | | |

| | | | |
|----------------|--------|----------------|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 守本 智美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

教育をとりまく諸問題の基礎を理解するために、情報を適切に得ることができる。それらの問題に対し、自らの考えを言語化し、適切な方法で伝達することができる。

[授業概要]

本授業では、教育の基礎理論および教育学研究の基礎を学ぶとともに、教育という事象を分析する上で重要となる視点や考え方を養う。加えて、ディベート、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを通して批判的思考力、調査能力、意見表明能力、ICT活用能力の基礎を育む。さらに、入学時に配布された『レポート執筆の基礎』に基づいて、レポートを作成するスキルを身につける。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習を合わせて2時間程度。
各自の発表に向けた主体的な取り組みを求める。

[授業計画]

以下に記すのは、各クラス共通の授業内容であるが、担当教員、クラスの人数によって、各時間の順序、ディベートを行う回数などの変更はあり得る。図書館の利用ガイダンスを受ける日程は、なるべく早いほうが良いが、第2週に限定されない。

1. オリエンテーション
2. 図書館利用案内・利用実習
3. ディベートの意味と流れ、ディベートのルール
4. ディベートのテーマとグループ決定、ディベートの準備: 各グループで情報収集・情報整理
5. ディベートの準備: 各グループで意見表明準備
6. ディベートの実施と反省会
7. グループ別学習: グループ分け、テーマ決定、発表方法 (PowerPointの使い方) について
8. グループ別学習: 情報収集・情報整理
9. グループ別学習: 発表準備、PowerPointのスライド作成
10. グループ別プレゼンテーション①
11. グループ別プレゼンテーション②
12. レポートの書き方(理論): 『レポート執筆の基礎』に基づき、レポート作成の基礎を学ぶ
13. レポートの書き方(実践): 例あるいは実際のレポートを使って、添削の練習をしながらレポートの書き方・参考文献の引用のしかた等を学ぶ

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 守本 智美 | | |
| <p>[成績評価方法] 担当回のディベートの内容(30%)、グループ別プレゼンテーションの内容(30%)、最終レポート2000字程度(40%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 原則的には、フィードバックは適宜授業時間内で行い、最終レポートのフィードバックは返却、メールまたはmanabaを通じて行う。具体的には各担当教員の裁量に任せられる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:ディベート、プレゼンテーション、最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:ディベート、プレゼンテーション、最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:ディベート、プレゼンテーション、最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:ディベート、プレゼンテーション、最終レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:ディベート、プレゼンテーション、最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:ディベート、プレゼンテーション、最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:ディベート、プレゼンテーション、最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:ディベート、プレゼンテーション、最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:ディベート、プレゼンテーション、最終レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] ディベートの基本が面白いほど身につく本—論理力・説得力・対人力が高まるトレーニング 著者名:太田龍樹 出版社:中経出版 (978-4806126942)</p> | | | |

| | | | | |
|---|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育をとりまく諸問題の基礎を理解するために、情報を適切に得ることができる。それらの問題に対し、自らの考えを言語化し、適切な方法で伝達することができる。</p> <p>[授業概要] 本授業では、教育の基礎理論および教育学研究の基礎を学ぶとともに、教育という事象を分析する上で重要となる視点や考え方を養う。加えて、ディベート、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを通して批判的思考力、調査能力、意見表明能力、ICT活用能力の基礎を育む。さらに、入学時に配布された『レポート執筆の基礎』に基づいて、レポートを作成するスキルを身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 各自の発表に向けた主体的な取り組みを求める。</p> <p>[授業計画] 以下に記すのは、各クラス共通の授業内容であるが、担当教員、クラスの人数によって、各時間の順序、ディベートを行う回数などの変更はあり得る。図書館の利用ガイダンスを受ける日程は、なるべく早いほうが良いが、第2週に限定されない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 図書館利用案内・利用実習 3. ディベートの意味と流れ、ディベートのルール 4. ディベートのテーマとグループ決定、ディベートの準備: 各グループで情報収集・情報整理 5. ディベートの準備: 各グループで意見表明準備 6. ディベートの実施と反省会 7. グループ別学習: グループ分け、テーマ決定、発表方法 (PowerPointの使い方) について 8. グループ別学習: 情報収集・情報整理 9. グループ別学習: 発表準備、PowerPointのスライド作成 10. グループ別プレゼンテーション① 11. グループ別プレゼンテーション② 12. レポートの書き方(理論): 『レポート執筆の基礎』に基づき、レポート作成の基礎を学ぶ 13. レポートの書き方(実践): 例あるいは実際のレポートを使って、添削の練習をしながらレポートの書き方・参考文献の引用のしかた等を学ぶ | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 担当回のディベートの内容(30%)、グループ別プレゼンテーションの内容(30%)、最終レポート2000字程度(40%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 原則的には、フィードバックは適宜授業時間内で行い、最終レポートのフィードバックは返却、メールまたはmanabaを通じて行う。具体的には各担当教員の裁量に任せられる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:ディベート、プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:ディベート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:ディベート、プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:ディベート、プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:ディベート、プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] ディベートの基本が面白いほど身につく本—論理力・説得力・対人力が高まるトレーニング 著者名:太田龍樹 出版社:中経出版 (978-4806126942)</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育をとりまく諸問題の基礎を理解するために、情報を適切に得ることができる。それらの問題に対し、自らの考えを言語化し、適切な方法で伝達することができる。</p> <p>[授業概要] 本授業では、教育の基礎理論および教育学研究の基礎を学ぶとともに、教育という事象を分析する上で重要となる視点や考え方を養う。加えて、ディベート、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを通して批判的思考力、調査能力、意見表明能力、ICT活用能力の基礎を育む。さらに、入学時に配布された『レポート執筆の基礎』に基づいて、レポートを作成するスキルを身につける。担当者は教育現場での教授歴があるので、それを活かして実践的に授業を行うこととする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 各自の発表に向けた主体的な取り組みを求める。</p> <p>[授業計画] 以下に記すのは、各クラス共通の授業内容であるが、担当教員、クラスの人数によって、各時間の順序、ディベートを行う回数などの変更はあり得る。図書館の利用ガイダンスを受ける日程は、なるべく早いほうが良いが、第2週に限定されない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 図書館利用案内・利用実習 3. ディベートの意味と流れ、ディベートのルール 4. ディベートのテーマとグループ決定、ディベートの準備: 各グループで情報収集・情報整理 5. ディベートの準備: 各グループで意見表明準備 6. ディベートの実施と反省会 7. グループ別学習: グループ分け、テーマ決定、発表方法(PowerPointの使い方)について 8. グループ別学習: 情報収集・情報整理 9. グループ別学習: 発表準備、PowerPointのスライド作成 10. グループ別プレゼンテーション① 11. グループ別プレゼンテーション② 12. レポートの書き方(理論): 『レポート執筆の基礎』に基づき、レポート作成の基礎を学ぶ 13. レポートの書き方(実践): 例あるいは実際のレポートを使って、添削の練習をしながらレポートの書き方・参考文献の引用のしかた等を学ぶ | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| <p>[成績評価方法] 担当回のディベートの内容(30%)、グループ別プレゼンテーションの内容(30%)、最終レポート2000字程度(40%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 原則的には、フィードバックは適宜授業時間内で行い、最終レポートのフィードバックは返却、メールまたはmanabaを通じて行う。具体的には各担当教員の裁量に任せられる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:ディベート、グループ別プレゼンテーションの内容、態度で評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:ディベート、グループ別プレゼンテーションの内容、態度で評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:ディベート、グループ別プレゼンテーションの内容、態度で評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:最終レポートの内容により評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:ディベート、グループ別プレゼンテーションの内容、態度で評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:ディベート、グループ別プレゼンテーションの内容、態度で評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:ディベート、グループ別プレゼンテーションの内容、態度で評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:最終レポートで評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:最終レポートで評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。適宜資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] ディベートの基本が面白いほど身につく本—論理力・説得力・対人力が高まるトレーニング 著者名:太田龍樹 出版社:中経出版 (978-4806126942)</p> | | | |

| | | | | |
|---|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 教育をとりまく諸問題の基礎を理解するために、情報を適切に得ることができる。それらの問題に対し、自らの考えを言語化し、適切な方法で伝達することができる。</p> <p>[授業概要] 本授業では、教育の基礎理論および教育学研究の基礎を学ぶとともに、教育という事象を分析する上で重要となる視点や考え方を養う。加えて、ディベート、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを通して批判的思考力、調査能力、意見表明能力、ICT活用能力の基礎を育む。さらに、入学時に配布された『レポート執筆の基礎』に基づいて、レポートを作成するスキルを身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 各自の発表に向けた主体的な取り組みを求める。</p> <p>[授業計画] 以下に記すのは、各クラス共通の授業内容であるが、担当教員、クラスの人数によって、各時間の順序、ディベートを行う回数などの変更はあり得る。図書館の利用ガイダンスを受ける日程は、なるべく早いほうが良いが、第2週に限定されない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 図書館利用案内・利用実習 3. ディベートの意味と流れ、ディベートのルール 4. ディベートのテーマとグループ決定、ディベートの準備: 各グループで情報収集・情報整理 5. ディベートの準備: 各グループで意見表明準備 6. ディベートの実施と反省会 7. グループ別学習: グループ分け、テーマ決定、発表方法 (PowerPointの使い方) について 8. グループ別学習: 情報収集・情報整理 9. グループ別学習: 発表準備、PowerPointのスライド作成 10. グループ別プレゼンテーション① 11. グループ別プレゼンテーション② 12. レポートの書き方(理論): 『レポート執筆の基礎』に基づき、レポート作成の基礎を学ぶ 13. レポートの書き方(実践): 例あるいは実際のレポートを使って、添削の練習をしながらレポートの書き方・参考文献の引用のしかた等を学ぶ | | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| <p>[成績評価方法] 担当回のディベートの内容(30%)、グループ別プレゼンテーションの内容(30%)、最終レポート2000字程度(40%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 原則的には、フィードバックは適宜授業時間内で行い、最終レポートのフィードバックは返却、メールまたはmanabaを通じて行う。具体的には各担当教員の裁量に任せられる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 新入生オリエンテーションの時に配布される『レポート執筆の基礎』という冊子</p> <p>[参考書(ISBN)] ディベートの基本が面白いほど身につく本—論理力・説得力・対人力が高まるトレーニング(購入する必要はない) 著者名:太田龍樹 出版社:中経出版(978-4806126942)</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育原理 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育の概念・思想・歴史 | 講義 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育概念や教師—子ども関係について、基本的な知識を身に付けている。 2 西洋や日本の教育史や教育思想について、基礎的な事項を理解している。 3 授業論や学び論について、概念的に把握している <p>[授業概要]</p> <p>本授業では、教育を巡る様々な概念(教育、学習、子ども、教師、人間形成)について講義した後に、西洋の教育史、西洋の教育思想家の教育思想について理解させる。その後、日本の教育史を学ばせ、現代の教育問題や授業論や学び論について基本的な事項を習得させる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>教育に関する理念や思想を広く獲得できるよう、毎回、指定テキストの論考の要約課題を出す。加えて、各回、授業の復習を行うこと。合わせて4時間程度を充てること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.教育の基本理念——語源・目的・目標 2.教師と子どもの臨床哲学——信頼される教師 3.人間形成の理論①——エリオット先生の差別授業 4.人間形成の理論②——デーケンの悲嘆のプロセス 5.古代ギリシアの教育——スパルタとアテネ 6.西洋の子ども観——子ども期の発見・近代家族の成立 7.西洋教育思想①——ソクラテス・コメニウス・ロック・ルソー 8.西洋教育思想②——ペスタロッチ・ヘルバルト・フレーベル・ケイ・デューイ・モンテッソーリ・パーカスト 9.日本の子ども観——子宝思想の誕生 10.近代教育制度の成立——森有礼と元田永孚 11.戦後日本教育史——学習指導要領と教育問題 12.授業論——学びの楽しさを生み出す授業 13.学びの空間論——学びのスタイルと学習空間 | | | |

| | | | |
|--------|-------------|----|------|
| 科目名 | 教育原理 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育の概念・思想・歴史 | 講義 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |

[成績評価方法]

小テスト(70%)、総括レポート(30%)によって評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

課題に対する講評を授業時間内に行う。
最終(に近い)回のレポートの講評はmanabaから配信することがある。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:小テスト、まとめのテスト

学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。

成績評価方法:小テスト、まとめのテスト

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。

成績評価方法:小テスト、まとめのテスト

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:小テスト、まとめのテスト

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:小テスト、まとめのテスト

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:小テスト、まとめのテスト

[教科書(ISBN)]

『ちょっと変わった校長式辞集:教育哲学者からのメッセージ』 著者名:山内紀幸 出版社:一藝社 (978-4-86359-237-7)

[参考書(ISBN)]

『教育思想史』 著者名:今井康雄(編) 出版社:有斐閣 (978-4-641-12384-7)

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 教育史 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 教育の歴史について基本的事項を理解する。 教育史の学習を通じて、現代における教育の在り方について考える。</p> <p>[授業概要] 教育史といっても、どの年代、どの地域に焦点を当てるかによって様々な歴史的事象が現れてくる。本授業では、①西洋の古代と中世、②西洋の近代、③東洋の古代と修正、④日本の近世・近代、⑤現代、の5つの区分から授業を実施していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業後には、授業内容について復習する。事前課題文献が配布された場合は、その文献を読んでおく。</p> <p>[授業計画] 1.古代の教育①:ギリシアの教育 2.古代の教育②:ローマの教育 3.中世の教育:アウグスティヌスの思想 4.近世の教育①:ルソーとその時代 5.近世の教育②:ペスタロッチのその時代 6.近世の教育③:フレーベルとその時代 7.日本の近世の教育①:貝原益見 8.日本の近世の教育②:江戸の教育 9.日本の近代の教育①:近代教育の誕生 10.日本の近代の教育①:戦時下の教育 11.現代の教育①:戦後の教育 12.現代の教育:子どもの権利条約 13.まとめと試験</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 教育史 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業内課題 (60%) 試験(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内課題と期末試験の後に講評を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし(授業内で資料を配布する)</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし(授業内で参考文献を紹介する)</p> | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------------|------|
| 科目名 | 教育社会学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 「教育」を多面的に考えよう。 | 講義 | |
| 担当者 | 伴仲 謙欣 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>manaba, respon等により意見交換を行います。</small> | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

現代社会の変化がもたらす教育的事象・環境への影響について、授業内容の理解を前提にクリティカルな視点を持って自分なりに考えることができる。

[授業概要]

現代社会に暮らす私たちは、幼い頃から公私を問わず、必ず何かしらの「教育的行為」を経験します。「教育」とは「人を人として」育み、社会の一員に迎えるための営みといえるでしょう。つまり「教育」と「社会」は、互いに不可分かつ表裏一体な関係にあり、強い相関を持ちながら刻々と変化していくものです。本講義では、「教育」・「学校」・「社会」という三者を統合的に捉えつつ、教育と社会的事象がどのようにつながりもつのかについて、具体的な事例を踏まえて社会学的観点(クリティカル)から考えていきます。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

新聞、その中でも特に教育問題に関する記事を読むことを習慣化してください。(各回、事前・事後学修合わせて4時間程度)。※可能であれば「教育新聞」を推奨しますが、どの新聞でも構いません。

[授業計画]

- 1.オリエンテーション
- 2.教育社会学とは
- 3.教育と社会化①～社会化の条件～
- 4.教育と社会化②～社会化の概念～
- 5.社会における「学校」とは何か?①～制度としての学校～
- 6.社会における「学校」とは何か?②～学校的コミュニケーション～
- 7.教育とメディア①～メディアとは～
- 8.教育とメディア②～メディアと学校～
- 9.教育と少子化①～少子化とは～
- 10.教育と少子化②～少子化と学校～
- 11.学校とこども
- 12.教育とジェンダー①～ジェンダーとは～
- 13.教育とジェンダー②～ジェンダーと学校～

| | | | |
|--|----------------|----|------|
| 科目名 | 教育社会学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 「教育」を多面的に考えよう。 | 講義 | |
| 担当者 | 伴仲 謙欣 | | |
| <p>[成績評価方法] 以下の評価項目と割合で総合評価します。 ①定期試験:50% ②各授業で示す提出物:50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出物に対して、毎回の授業中にコメントやおさらい等のフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:定期試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:提出物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:定期試験</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 『新しい時代の教育社会学(シリーズ現代の教職)』(2012) 著者名:加野 芳正、越智 康詞 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4623064427) 『よくわかる教育社会学(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』(2012) 著者名:酒井 朗、中村 高康、多賀 太 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4623062935) 『半径5メートルからの教育社会学(大学生の学びをつくる)』(2017) 著者名:片山 悠樹、内田 良、古田 和久、牧野 智和 出版社:大月書店 (978-4272412389)</p> | | | |

| | | | |
|---|---------|----------------|------|
| 科目名 | 教育相談 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 1分間スピーチ | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校における教育相談緒意義と課題を理解している。 ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎知識を含む)を理解している。 ・いじめ、不登校、虐待、非行、発達障害等、最近の教育課題への教育相談の進め方や組織的な取り組みや連携の必要性を理解している。 ・全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、基礎・基本となる力の「知識・技能」、考える力としての「思考力・判断力・表現力等の能力」、そして、それらを活用するときの態度に現れる「主体性・多様性・協働性」を身につける。 <p>[授業概要]</p> <p>この授業では、学校現場における教員経験があるものが、その経験を活かして、今日的な課題(教育相談等)への対応について講義をします。学校現場では、いじめ、不登校、非行、学級崩壊といった教育課題にどう対処するかが重要になっています。児童生徒一人ひとりの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格を成長させる力が教員には求められています。授業では、学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談の意義や基本的な技法、教育相談の進め方などを実際によくある事例をもとにグループで学習を進めていくアクティブラーニングの手法で行います。特に、発達障害のある子供の理解や支援の方法を中心に、多様な背景を持つ子供の理解と支援、保護者や関係機関との望ましい連携のあり方(カウンセリングの基礎基本を含む)について理解し、実際に日常生活で学んだことを実践していくことをめざしていきます。</p> <p>テキストは、『生徒指導提要(平成22年3月版)第5章』(文部科学省HPよりダウンロード)を用います。適宜、生徒指導提要改訂版令和4年12月もダウンロード版を併用します。購入する必要はありません。</p> <p>ノートについては、手書きのノートのはかに、パソコンをノート代わりにしてもかまいません。授業の板書は写真撮影 OKです。</p> <p>ICTを活用して授業を受けてみると、その効果や課題が実感でき、今後の児童生徒への指導に役立つ視点が得られると考えるからです。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で出された宿題や探究課題について主体的に取り組む(復習)。<2時間> ・授業で予告された次回の内容について探究する(予習)。<2時間> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.教育相談とは(カウンセリング技法:受容、共感等)4 2.相談にのるということ 3.予防的・開発的教育相談(リフレーミング1) 4.アセスメント・コーピング(リフレーミング2) 5.進路や生き方(グループエンカウンター1) 6.価値観の違いを認め合う(グループエンカウンター2) 7.相手の主訴を傾聴する教育相談(グループエンカウンター3) 8.愛着障害、保護者の障害受容の理解(いじめ、不登校、虐待、非行等) 9.好ましい人間関係(アサーショントレーニング) 10.多様な背景を持つ児童生徒の理解 <学外フィールドワーク> 11.関係諸機関との連携 <出前授業> 12.関係諸機関・保護者の連携(「ケース会議」のロールプレイ) 13.まとめ | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 教育相談 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | |
| <p>[成績評価方法] まとめ(論述あり)(50%)、授業小テスト(記述式)(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] コメント等のフィードバックを返します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>[教科書(ISBN)] 『生徒指導提要第5章』をダウンロード https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2018/04/27/1404008_03.pdf 著者名:文部科学省生徒指導提要第5章 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2018/04/27/1404008_03.pdf 出版社:文部科学省生徒指導提要第5章 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2018/04/27/1404008_03.pdf (文部科学省生徒指導提要第5章 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2018/04/27/1404008_03.pdf)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業進度に応じて紹介</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 教育の方法及び技術 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 基礎的な教育方法や技術を知り、学習指導案の基本的な要素と作成の流れを理解した上で実際に授業設計できる。</p> <p>[授業概要] 授業設計(インストラクショナルデザイン)に関わる基本的な考え方、授業場面での指導技術等を学びます。学習指導案作成に関する知識・技能を身につけ、模擬授業を通して実践的な授業力の育成する上での基礎を身につけていきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を求めます。予習としては、事前に資料を配布する場合は、その資料の内容を大まかに理解しておいてください。復習としては、重要な内容に関して振り返り、自分の言葉で説明できるようにノートにまとめる等してください。</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション・これからの子どもたちに育みたい資質・能力 2.教師に求められる授業力とは 3.授業をつくるということ①(ADDIEモデル、ガニエの9教授事象等) 4.授業をつくるということ②(主体的・対話的で深い学びにつながる教育方法等) 5.授業評価をデザインする 6.学習環境をデザインする 7.授業を支える指導技術・学びを引き出す指導技術 8.学習指導案をつくる①(学習目標の設定等) 9.学習指導案をつくる②(深い学びを導く教材研究等) 10.学習指導案をつくる③(主体的・対話的な学習過程等) 11.学習指導案をつくる④(学びが見える評価方法等) 12.模擬授業(マイクロティーチング)の実施① 13.模擬授業(マイクロティーチング)の実施②・まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------|----|------|
| 科目名 | 教育の方法及び技術 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | |
| <p>[成績評価方法] 小レポートもしくは小テスト(30%)、学習指導案の作成(30%)、模擬授業のリフレクション(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは適宜授業における相互評価やmanabaを通じたコメント等で行う予定です。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 教育の方法及び技術 著者名:稲垣忠 出版社:北大路書房 (978-4-7628-3060-0)</p> | | | |

| | | | |
|--|------------|----------------|------|
| 科目名 | 教育心理学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 児童生徒の発達と学習 | 講義 | |
| 担当者 | 久木山 健一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の中での心理学の有効性の理解 ・今自分が受けている教育の意義の理解 ・過去自分が受けてきた教育の影響の理解 ・学習活動を支えるさまざまな心理的要因の理解 <p>[授業概要]</p> <p>本授業では教育という現象を心理学的に理解できるようになることを目標として教育心理学のさまざまな理論を概観します。その際、単に理論を知識として学ぶだけでなく、過去から現在までに自分が体験してきた教育活動と関連づけて修得できることを目指します。学習過程、動機づけ、知能と学力、教室の仲間関係、教師と生徒の関係、教育評価などの基礎的な知識に加え、いじめ、不登校などの学校不適応への対応や、心身障害児への対応などの理解も目指します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習:授業で学ぶ予定のある内容について各自で事前に予習をしてください。 復習:授業で学んだことを参考に自分自身、自分の受けてきた教育、これから自分が行おうと考えている教育について考察をしてください。 各回、予習復習合わせて4時間程度が求められます。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育心理学とは(意義, 他の学問とのかかわり, 研究法など) 2 発達(基本的法則, 発達の要因, ピアジェ, エリクソンなど) 3 学習(定義, 条件づけ, 行動分析, 社会的学習, 認知論など) 4 動機づけ(コンピテンス, 種類, 原因帰属, 自己調整学習など) 5 知能・記憶・メタ認知(定義, 知能テストの種類, 記憶, メタ認知など) 6 教授学習過程(授業形態, 授業構造, 有意味受容学習と発見学習など) 7 教育評価(意義, 通知表, 評価の時期と方法, 相対・絶対評価など) 8 教師(好まれる教師像, ビリーフ, リーダーシップ, ピグマリオン効果など) 9 仲間関係(遊びの発達, 仲間関係の理解法, 児童期・青年期の仲間関係など) 10 パーソナリティ(定義, 類型論, 特性論, 性格検査の種類など) 11 学校における不適応(いじめ, 非行, 不登校, 学級集団の荒れなど) 12 ストレスと健康(ストレス過程, 学校ストレス, PTSD, 摂食行動など) 13 発達障害と特別支援教育(種類, 特別支援教育, ユニバーサルデザインなど) | | | |

| | | | |
|--|------------|----|------|
| 科目名 | 教育心理学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 児童生徒の発達と学習 | 講義 | |
| 担当者 | 久木山 健一 | | |
| <p>[成績評価方法] 毎回の小テストおよび授業の感想の提出、定期試験などによって行います。 小テストおよび授業の感想(3割)、定期試験(7割)で成績評価します。 ただし、定期試験が実施できない場合は、小テストおよび授業の感想(7割)、 最終レポート課題(3割)で成績評価を行います。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは問合せに応じて回答を解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ 人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 四訂版 ようこそ教育心理学の世界へ 著者名:神藤貴昭・久木山健一 出版社:北樹出版</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜指摘する</p> | | | |

| | | | |
|---|---|----------------|------|
| 科目名 | 教職実践演習(幼・小・中) | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 実践力のある小学校教師を目指して | 演習 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹、金岩 俊明、穴田 恭輔、谷山 優子、小林 田鶴子、堀江 祐爾、住本 純、黒田 昌克 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 授業実践力や児童理解力、心構え等、教員としての職務に必要な資質・能力を整理して、自分にとって何が課題であるかを自覚する。そして、不足している知識や技能を補い、その定着を図り、教員生活を円滑にスタートできるようにする。</p> <p>[授業概要] 学校見学や現場教師・指導主事等の講義などを通して、学校現場の実情を学び、実務に当たっての心構えを学ぶ。また、指導計画の立案や模擬授業、事例研究などについて、グループ学習や討論を行い、実践力の育成を図る。また、これらの活動を通して、教員としての自己の課題を自覚するとともに、必要な知識・技能の定着を図る。 ※小学校教諭免許状取得予定者は必修である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教職に向けての仕上げであることを意識して、専門科目、学級経営、指導技術等、これまでの学修内容を復習しておく。講義前には、学校園現場での指導を意識して、課題を持って講義に臨むようにすること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (佐藤) 2. 教職の意義や教員の役割 外部講師 (佐藤) 3. 学校見学および現場での指導(穴田、堀江) 4. 学校見学および現場での指導(穴田、堀江) 5. 学校見学の感想・課題の話し合い、学級経営案作成 (穴田、堀江) 6. 豊かな感性と創造性を育む小学校音楽教育 (小林) 7. あたたかい学級づくりとユニバーサルデザインの授業(谷山) 8. 小学校におけるプログラミング教育 (黒田) 9. 教師の成長と授業リフレクション (住本) 10. 保護者や地域との連携 (金岩) 11. 卒業生を招いたシンポジウム (佐藤) 12. 模擬授業の実践と協議 外部講師 (小林) 13. 教職への決意・総まとめ (金岩、住本、谷山、黒田) | | | |

| | | | |
|---|---|----|------|
| 科目名 | 教職実践演習(幼・小・中) | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 実践力のある小学校教師を目指して | 演習 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹、金岩 俊明、穴田 恭輔、谷山 優子、小林 田鶴子、堀江 祐爾、住本 純、黒田 昌克 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業内容の理解、ワークシート、レポート(50%)、授業への取組姿勢(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 適宜プリント等を配布</p> <p>[参考書(ISBN)] これまで教職、教科に関する科目で使用してきたテキスト</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 教職実践演習(幼・小・中) | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 実践力のある幼稚園教諭を目指して | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫、金岩 俊明、小林 田鶴子、宮本 晃郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | ロールプレー等 | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 保育実践力や幼児理解力、心構え等、教員としての職務に必要な資質・能力を整理して、自分にとって何が課題であるかを自覚する。そして、不足している知識や技能を補い、その定着を図り、教員生活を円滑にスタートできるようにする。</p> <p>[授業概要] 保育・幼児教育の第一線で活躍する園長や教諭・指導主事等の講義やワークショップなどを通して、幼稚園現場の実情を学び、実務に当たっての心構えを学ぶ。また、保育計画の立案や模擬保育、事例研究などについて、グループ学習や討論を行い、実践力の育成を図る。さらに、これらの活動を通して、教員としての自己の課題を自覚するとともに、必要な知識・技能の定着を図る。 ※幼稚園教諭免許状取得予定者は必修である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教職に向けての総仕上げであることを意識して、専門科目、学級経営、保育技術等、これまでの学修内容を復習しておく。講義前には、幼稚園現場での指導者としての立場を意識して、課題を持って講義に臨むようにすること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション(講義の趣旨及び計画)(三宅) 2. 教職の意義と教員の役割(指導主事による講義とグループ討議)(外部講師・宮本) 3. 学校園経営と担任の役割(幼稚園長による講義とグループ討議)(外部講師・宮本) 4. 学校園における安全管理／保育環境、事故例とその対応(三宅) 5. 幼児・児童理解の方法と対応／特別支援教育の実際(講義とグループ討議)(三宅) 6. 幼小連携の意味と実態、課題について(講義)(金岩) 7. 社会人としての基本の習得(講義とロールプレイ)(キャリア・サポートセンター講師・宮本) 8. 保護者や地域との連携／幼稚園教育におけるICT活用の考え方と実際(講義とロールプレイ、グループ討議)(三宅) 9. 授業・保育の基礎技術／伴奏、弾き歌い(講義、実習)(小林田) 10. 自らの保育観の省察とさらなる構築に向けて(演習)(三宅) 11. 教育改革とこれからの学校教育、幼児教育の展望(講義)(三宅) 12. 教職実践演習のまとめ、教職に向けての決意1(発表準備)(三宅) 13. 教職実践演習のまとめ、教職に向けての決意2(発表会)(三宅)</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------------------|----|------|
| 科目名 | 教職実践演習(幼・小・中) | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 実践力のある幼稚園教諭を目指して | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫、金岩 俊明、小林 田鶴子、宮本 晃郎 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(50%) 発表(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] その都度、指導を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:課題(50%) 発表(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:課題(50%) 発表(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:課題(50%) 発表(50%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:課題(50%) 発表(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題(50%) 発表(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題(50%) 発表(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:課題(50%) 発表(50%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 適宜プリント等を配布</p> <p>[参考書(ISBN)] これまで教職、教科に関する科目で使用してきたテキスト</p> | | | |

| | | | |
|---|---|----------------|------|
| 科目名 | 教職論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 学校教育の変遷・実情・課題・やりがい・求められる教師像等について自分なりの考えを述べる | 講義 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 学校教育全般についての理解を深めるとともに、「教職とは何か」について、教職の意義や役割、資質能力、職務内容等を概観することができる。また、期待される教職像を探究し、教職の適性を考え、教職への意識と意欲を高める。</p> <p>[授業概要] 変化する社会情勢と教育動向を概観し、「教育とは」「学校とは」「教育者とは」何かを考える。そして、教育関係法規や学習指導要領などをもとに公教育の重要性を理解し、教職に求められる資質・能力について考え、将来の教職像を明らかにしていく。また、最新の教育課題を事例研究で学び、現場の厳しさにも目を向けて、幅広い視野と強い責任感が求められることを意識したい。その際、現場経験(校長、教頭、教諭)と教育委員会事務局(教職員課・指導課)の経験も活かして、今日的課題への対応についてともに考えたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予告された次回の授業内容や最新の教育事情等そのキーワード等について各自が情報を収集し、可能な限り自分なりの課題意識を持って授業に臨めるようにしておく。1テーマについて授業前後で1時間程度の自己学修に取り組まれたい。</p> <p>[授業計画] 1. 教育の目的と意義・役割 —人間にとっての教育・忘れられない魅力的な教師— 2. 学校教育と教職の意義等 —家庭教育との違い・学校の種類・教育関係法規— 3. 公教育を担う教職への道 —公務員と民間の違い・教育公務員・教員免許— 4. 教職の役割及び資質能力 —聖職者・労働者・専門職としての教職観の変遷— 5. 教員の資質能力の構造化 —新たな専門職的教職観・学習指導と生徒指導等— 6. これからの授業力の向上 —素材研究・教材研究・発問や板書・ICT活用— 7. これからの指導力の向上 —生徒指導・健康安全指導・特別支援教育の視点— 8. これからの教師力の向上 —行事・校務分掌・保護者対応・関係機関連携等— 9. 信頼される学校力の向上 —情報発信・地域連携・学校評価・教育課程編成— 10. 教育公務員としての教職 —教員採用・研修・教員としてのライフサイクル— 11. 教育新時代における教職 —新たな教育課題・幅広い知見と「チーム学校」— 12. 学び続ける教師への期待 —若手教員の輝きと苦悩・自分自身の適性と力点— 13. 教職論のまとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|---|----|------|
| 科目名 | 教職論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 学校教育の変遷・実情・課題・やりがい・求められる教師像等について自分なりの考えを述べる | 講義 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎 | | |
| <p>[成績評価方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間のレポート課題 (40%) ・学習態度(グループ討議や発表を含む) (40%) ・総合的なまとめの試験(20%) <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>manabaを積極的に活用し、その都度コメント等でフィードバックを行う。 教職支援センター又は研究室にて個別指導も可</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>レジメ・資料を作成し配布する</p> <p>[参考書(ISBN)]</p> <p>適時指示する。</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|----------------|-----|
| 科目名 | 国語科概説(書写を含む。) | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 小学校国語科授業づくりの基礎を身につけよう | 講義 | |
| 担当者 | 堀江 祐爾 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校国語教科書教材を用いて、国語科授業づくりの基礎を身につけることをめざしている。授業実践ビデオから学びながら、それぞれが教材にふさわしい言語活動を考え、工夫する力を身につけて欲しい。</p> <p>[授業概要] 学習指導要領が求める小学校国語科授業のポイントをしっかりと押さえる。そして、小学校国語教材の教材研究をもとに、適切な学習のめあてや言語活動を設定するという授業づくりの基本を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、教材をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうか、考えておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション「国語科に関する調査」(これまで言葉をどのように学んできたか) 2. 入門期の指導—二つの言葉— 3. 入門期の学習指導—1年生のノート为例に— 4. 文学教材の学習指導—2年生のノート为例に— 5. 説明文教材の学習指導—2年生の教材为例に— 国語科授業におけるICT活用 6. 書くことの学習指導—3年生の教材为例に— 7. 教材研究の方法 8. ワークシートを用いた学習指導—6年生の教材为例に— 9. 学習指導要領のポイント 学習指導案の書き方 10. 筆順—書写の基本— 11. 漢字の成り立ち—書写の基礎— 12. 書写の指導—小学校低学年の書道授業」から学んだこと— 13. どんな「言葉の力」を身につけたか 授業の振り返り ※授業の展開の都合により順序が変わることがある。</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|----|------|
| 科目名 | 国語科概説(書写を含む。) | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校国語科授業づくりの基礎を身につけよう | 講義 | |
| 担当者 | 堀江 祐爾 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中の課題については授業の中でフィードバックする。レポートについては研究室に取りに来れば返却可能。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領解説国語編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (978-4491034621)</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|----------------|-----|
| 科目名 | 国語科概説(書写を含む。) | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | 小学校国語科授業づくりの基礎を身につけよう | 講義 | |
| 担当者 | 堀江 祐爾 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校国語教科書教材を用いて、国語科授業づくりの基礎を身につけることをめざしている。授業実践ビデオから学びながら、それぞれが教材にふさわしい言語活動を考え、工夫する力を身につけて欲しい。</p> <p>[授業概要] 学習指導要領が求める小学校国語科授業のポイントをしっかりと押さえる。そして、小学校国語教材の教材研究をもとに、適切な学習のめあてや言語活動を設定するという授業づくりの基本を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、教材をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうか、考えておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション「国語科に関する調査」(これまで言葉をどのように学んできたか) 2. 入門期の指導—二つの言葉— 3. 入門期の学習指導—1年生のノート为例に— 4. 文学教材の学習指導—2年生のノート为例に— 5. 説明文教材の学習指導—2年生の教材为例に— 国語科授業におけるICT活用 6. 書くことの学習指導—3年生の教材为例に— 7. 教材研究の方法 8. ワークシートを用いた学習指導—6年生の教材为例に— 9. 学習指導要領のポイント 学習指導案の書き方 10. 筆順—書写の基本— 11. 漢字の成り立ち—書写の基礎— 12. 書写の指導—小学校低学年の書道授業」から学んだこと— 13. どんな「言葉の力」を身につけたか 授業の振り返り ※授業の展開の都合により順序が変わることがある。</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|----|------|
| 科目名 | 国語科概説(書写を含む。) | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校国語科授業づくりの基礎を身につけよう | 講義 | |
| 担当者 | 堀江 祐爾 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中の課題については授業の中でフィードバックする。レポートについては研究室に取りに来れば返却可能。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領解説国語編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社(978-4491034621)</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------|----------------|------|
| 科目名 | 国語科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 言葉の力をつける国語科授業づくり | 講義 | |
| 担当者 | 堀江 祐爾 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校国語教材を用いて、国語科授業づくりの基礎を身につけることをめざしている。特に共通教材である「ごんぎね」と説明文教材についてじっくりと取り組む。多様な言語活動を展開した模擬授業をおこない授業実践力を身につける。</p> <p>[授業概要] 授業実践ビデオを放映し、すぐれた教師の指導法を学ぶ。それをもとに、小学校国語教科書の教材研究をおこない、学習のめあてや言語活動を設定する授業づくりの基本を押さえる。さらに、学習指導案(板書計画、評価方法などを含む)を作成し、模擬授業をおこないながら授業実践力を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、国語科教科書をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうかについて、考えておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 学習指導案の書き方 興味・関心調査 2. 物語教材「ごんぎつね」の教材分析その1—第1・2場面— 3. 物語教材「ごんぎつね」の教材分析その2—第3・4場面— 4. 物語教材「ごんぎつね」の教材分析その3—第5・6場面— 5. 物語教材「ごんぎつね」の模擬授業①—チームA— 6. 物語教材「ごんぎつね」の模擬授業②—チームB— 7. 物語教材「ごんぎつね」の模擬授業③—チームC— 8. 物語教材「ごんぎつね」の模擬授業④—チームD— 9. 物語教材「ごんぎつね」の模擬授業⑤—チームE— 10. 説明文教材の教材分析 国語科授業におけるICT活用 11. 説明文教材の模擬授業①—チームF— 12. 説明文教材の模擬授業②—チームG— 13. 身につけた力の振り返り ※授業の展開の都合により順序や内容が変わることがある。</p> | | | |

| | | | |
|---|------------------|----|------|
| 科目名 | 国語科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 言葉の力をつける国語科授業づくり | 講義 | |
| 担当者 | 堀江 祐爾 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領解説国語編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (978-4491034621)</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------|----------------|------|
| 科目名 | 国語科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 言葉の力をつける国語科授業づくり | 講義 | |
| 担当者 | 堀江 祐爾 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校国語教材を用いて、国語科授業づくりの基礎を身につけることをめざしている。特に共通教材である「ごんぎね」と説明文教材についてじっくりと取り組む。多様な言語活動を展開した模擬授業をおこない授業実践力を身につける。</p> <p>[授業概要] 授業実践ビデオを放映し、すぐれた教師の指導法を学ぶ。それをもとに、小学校国語教科書の教材研究をおこない、学習のめあてや言語活動を設定する授業づくりの基本を押さえる。さらに、学習指導案(板書計画、評価方法などを含む)を作成し、模擬授業をおこないながら授業実践力を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、国語科教科書をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうかについて、考えておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 学習指導案の書き方 興味・関心調査 2. 物語教材「ごんぎつね」の教材分析その1―第1・2場面― 3. 物語教材「ごんぎつね」の教材分析その2―第3・4場面― 4. 物語教材「ごんぎつね」の教材分析その3―第5・6場面― 5. 物語教材「ごんぎつね」の模擬授業①―チームA― 6. 物語教材「ごんぎつね」の模擬授業②―チームB― 7. 物語教材「ごんぎつね」の模擬授業③―チームC― 8. 物語教材「ごんぎつね」の模擬授業④―チームD― 9. 物語教材「ごんぎつね」の模擬授業⑤―チームE― 10. 説明文教材の教材分析 国語科授業におけるICT活用 11. 説明文教材の模擬授業①―チームF― 12. 説明文教材の模擬授業②―チームG― 13. 身につけた力の振り返り ※授業の展開の都合により順序や内容が変わることがある。</p> | | | |

| | | | |
|---|------------------|----|------|
| 科目名 | 国語科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 言葉の力をつける国語科授業づくり | 講義 | |
| 担当者 | 堀江 祐爾 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領解説国語編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (978-4491034621)</p> | | | |

| | | | |
|---|---------|----------------|------|
| 科目名 | 国語科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 堀江 祐爾 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校国語教材の教材研究を叙述に基づいておこなう力をつけるとともに、適切な学習のめあてや言語活動を設定するという授業づくりの基本を身につける。</p> <p>[授業概要] 学習指導要領が求める小学校国語科授業のポイントをしっかりと押さえる。そして、小学校国語教材の教材研究をもとに、適切な学習のめあてや言語活動を設定するという授業づくりの基本を身につける。特に教材研究の力を身につけることをめざす。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回の授業内容を復習して教材研究についての理解を確かなものにするるとともに、教材をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうか考えておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 国語科教材に関する調査 小テスト 2. 国語科教材研究の基本 国語科授業におけるICT活用 小テスト 3. 低学年の教材の研究:文学教材 小テスト 4. 低学年の教材の研究:説明文教材 小テスト 5. 低学年の教材の研究:知識教材 小テスト 6. 中学年の教材の研究:文学教材 小テスト 7. 中学年の教材の研究:説明文教材 小テスト 8. 中学年の教材の研究:知識教材 小テスト 9. 高中学年の教材の研究:文学教材 小テスト 10. 高学年の教材の研究:文学教材 小テスト 11. 高学年の教材の研究:説明文教材 小テスト 12. 高学年の教材の研究:知識教材 小テスト 13. 国語科教材研究の方法のまとめ 授業の振り返り ※授業の展開の都合により順序や内容が変わることがある。</p> | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 国語科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 堀江 祐爾 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] 小学校学習指導要領解説国語編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (978-4491034621)</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 子育て支援 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>1. 保護者に対する相談、助言、情報提供等について、その特性と展開を具体的に理解する。</p> <p>2. 様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>子育て支援の援助活動は、知識はもちろんのこと、援助者である保育士にとって必要となる姿勢、態度を習得することが大切である。本授業では、講義とワーク、事例研究等を取り入れた演習方式を組み合わせ、保育士にとって必要な技術、技能を習得することを目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃より、子どもたちの生活について興味を持ち、新聞、テレビ等のマスメディアを活用すること。授業で行ったことについて、必ず復習をするように。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 子育て支援と子育て支援 2. 子育て支援の概念 3. 子育て支援の歴史的経過① 4. 子育て支援と相談援助、ソーシャルワーク 5. 子育て支援の方法としての相談援助 6. 子育て支援の方法 ソーシャルワーク実践の基礎 7. 子育て支援の方法と展開① 8. 子育て支援の方法と展開② 9. 子育て支援の実際① 10. 子育て支援の実際② 11. 子育て支援の実際③ 12. 子育て支援の実際④ 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 子育て支援 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題(20%)レポート試験(80%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中での課題について後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 「子育て支援セミナー」 著者名:大西 雅裕 編著 出版社:建帛社 (978-4-7679-5106-5)</p> <p>[参考書(ISBN)] 相談援助セミナー 著者名:赤木正典、大西雅裕編著 出版社:建帛社 (9784767933009)</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 子育て支援 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>1. 保護者に対する相談、助言、情報提供等について、その特性と展開を具体的に理解する。</p> <p>2. 様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>子育て支援の援助活動は、知識はもちろんのこと、援助者である保育士にとって必要となる姿勢、態度を習得することが大切である。本授業では、講義とワーク、事例研究等を取り入れた演習方式を組み合わせ、保育士にとって必要な技術、技能を習得することを目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃より、子どもたちの生活について興味を持ち、新聞、テレビ等のマスメディアを活用すること。授業で行ったことについて、必ず復習をするように。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 子育て支援と子育て支援 2. 子育て支援の概念 3. 子育て支援の歴史的経過① 4. 子育て支援と相談援助、ソーシャルワーク 5. 子育て支援の方法としての相談援助 6. 子育て支援の方法 ソーシャルワーク実践の基礎 7. 子育て支援の方法と展開① 8. 子育て支援の方法と展開② 9. 子育て支援の実際① 10. 子育て支援の実際② 11. 子育て支援の実際③ 12. 子育て支援の実際④ 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 子育て支援 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題(20%)レポート試験(80%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中での課題について後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 「子育て支援セミナー」 著者名:大西 雅裕 編著 出版社:建帛社 (978-4-7679-5106-5)</p> <p>[参考書(ISBN)] 相談援助セミナー 著者名:赤木正典、大西雅裕編著 出版社:建帛社 (9784767933009)</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------|----------------|------|
| 科目名 | 子ども家庭支援の心理学 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 子どもと家庭支援の心理学的理解 | 講義 | |
| 担当者 | 河野 淳子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 生涯発達に関する心理学的な基礎知識を習得し、子どもや家庭を支援するための視点を身につける。</p> <p>[授業概要] 本講では、まず生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。人の生涯における乳幼児期の重要性、その後の発達過程の諸段階での特徴や発達課題、支援を明らかにしていく。また子育てを取り巻く現状と課題、家族の意義や機能を理解するとともに、親になること・親としての育ちについて学んでいく。さらに特別な配慮を必要とする家庭や発達支援の必要な家庭を取り上げ、配慮や支援の方法を学ぶ。子どもの精神保健とにかかわる基礎的事項を理解し、保育者が行う支援を理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 新聞やテレビ、ネットニュースなどにおいて、家族に関する諸問題に関心をもつように努める。そのうえで、毎回の授業で取り上げたテーマと関連づけて考えてみる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 生涯発達とは何か 3. 乳幼児期から学童期前期にかけての発達 4. 学童期後期から青年期にかけての発達 5. 成人期・老年期における発達 6. 子育てを取り巻く社会的状況 7. 家族・家庭の意義と機能、親子・家族関係の理解 8. 子育ての経験と親としての育ち 9. 多様な家庭形態とその理解 10. 特別な配慮を必要とする家庭 11. 発達支援の必要な子どものいる家庭 12. 子どもの精神保健 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|-----------------|----|------|
| 科目名 | 子ども家庭支援の心理学 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 子どもと家庭支援の心理学的理解 | 講義 | |
| 担当者 | 河野 淳子 | | |
| <p>[成績評価方法] レポートによる</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 口頭で講評する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 【シリーズ知のゆりかご】 子ども家庭支援の心理学 著者名:青木紀久代 編 出版社:株式会社 みらい (978-4-86015-482-0)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業時に適宜資料を配布する。</p> | | | |

| | | | | |
|---|----------------------|----------------|----|------|
| 科目名 | 子ども家庭支援論 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 子どもの育ちを多面的に支える方法への学び | | 講義 | |
| 担当者 | 溝渕 淳 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| [到達目標] | | | | |
| <p>① 子育て家庭を中心とする支援の意義や視点について理解できる。 ② 子ども家庭支援の基本とそこでの保育士の役割について理解できる。 ③ 子育て家庭に対する支援の体制や連携の実際について理解できる。 ④ 子育て家庭のニーズの実際と、それらに応じた多様な支援について理解できる。 ⑤ 子ども家庭支援の現状と今後の課題について理解できる。</p> | | | | |
| [授業概要] | | | | |
| <p>保育士という立場から、子どもと家庭を支援する際の視点や方法、そして、支援の助けとなる社会資源の存在や支援の妨げとなる要因等について学ぶ。</p> | | | | |
| [準備学修(予習・復習)の内容・時間] | | | | |
| <p>現代の子どもと家庭をめぐる問題を「自分ごと」として考え、不明点を明確にし、自分なりに調べ、他者と共有することを意識しながら、一定時間の予習(2時間程度)と復習(2時間程度)をおこなってください。</p> | | | | |
| [授業計画] | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに「子ども家庭」という表現が意味するもの 2. 現代における子どもや家庭をめぐる「生きづらさ」① 3. 現代における子どもや家庭をめぐる「生きづらさ」② 4. 子ども家庭支援の視点① 5. 子ども家庭支援の視点② 6. 子ども家庭支援の担い手① 7. 子ども家庭支援の担い手② 8. 子ども家庭支援の仕組み① 9. 子ども家庭支援の仕組み② 10. 子ども家庭支援の進め方と用いられる技術① 11. 子ども家庭支援の進め方と用いられる技術② 12. 子ども家庭支援における保育士の役割 13. 子ども家庭支援の基盤となる地域社会の役割 まとめ | | | | |

| | | | |
|---|----------------------|----|------|
| 科目名 | 子ども家庭支援論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 子どもの育ちを多面的に支える方法への学び | 講義 | |
| 担当者 | 溝渕 淳 | | |
| <p>[成績評価方法]</p> <p>授業内でのワーク等への取り組み(20%)、事例に基づくレポート課題(50%)、毎回提出のミニレポート課題(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 毎回、リアクションペーパーや提出物に関するフィードバックを行うとともに、それらの内容についてさらなる学びを深めるための文献・資料等を紹介する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。下記の参考書の内容を中心に、担当者が適宜レジュメ・資料等を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 子ども家庭福祉 子ども・家族・社会をどうとらえるか 著者名:垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ(編) 出版社:生活書院(9784870000000) 実践 子ども家庭支援論 著者名:松本園子・永田陽子・福川須美・森和子 出版社:ななみ書房 (9784900000000) 学び、考え、実践力をつける家庭支援論 著者名:木村志保・津田尚子(編) 出版社:教育情報出版 (9784910000000) ひと目でわかる 保育者のための子ども家庭福祉データブック 2024 著者名:一般社団法人全国保育士養成協議会(監修)・宮島清・山縣文治(編) 出版社:中央法規(9784810000000) 「日本」ってどんな国?—国際比較データで社会が見えてくる 著者名:本田由紀 出版社:筑摩書房 (9784480000000)</p> | | | |

| | | | |
|--|---------|----------------|------|
| 科目名 | 子ども家庭福祉 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 小林 洋司 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 子ども家庭福祉の現状を概観する中で、その定義や本質、理念、制度施策及び実践活動の現状について学び、子どもの置かれている状況の把握し、理解することを目標とする。</p> <p>[授業概要] 子ども家庭福祉の概念、歴史的展開、児童の置かれている現代的な社会状況について概説する中で、保育と子ども家庭福祉との関係や、制度、実践活動体系について学ぶ。そして学生自身が保育士としてより主体的、積極的な実践活動の展開ができるように、より具体的に学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日常的に子どもについて、また子どもを取り巻く環境等についての情報をインターネット、新聞、雑誌等から収集に努めること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 子ども家庭福祉と人口減少社会 3. 子ども家庭福祉の基本的考え方 4. 子ども家庭福祉の歴史 5. 子ども家庭福祉問題と対応 6. 子ども家庭福祉の制度体系 7. 子ども家庭福祉施設(児童福祉施設) 8. 母子保健と健全育成、地域での子育て支援 9. 虐待を受けている子どもと子ども家庭福祉 10. 子どもの貧困とひとり親家庭と子ども家庭福祉 11. 障がいのある子どもと子ども家庭福祉 12. ふりかえり 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 子ども家庭福祉 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 小林 洋司 | | |
| <p>[成績評価方法] 定期試験及びレポート課題によって評価を行う。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 紙による課題は原則返却し、授業の中で振り返りつつ進める。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] 適宜紹介する</p> | | | |

| | | | |
|---|----------|----------------|------|
| 科目名 | 子どもの食と栄養 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 基本的・基礎的な栄養学の知識を身につけたうえで食育の重要性を理解し、学んだことを実践につなげられるよう食育の担い手として自らも望ましい食生活を実践できる。</p> <p>[授業概要] 小児期の栄養、食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎を築くものである。基本的・基礎的な栄養学ならびに食生活の正しい知識を習得し、小児を取り巻く近年の食生活の現状と課題を理解するとともに発達や健康状態への影響など幅広い視点で学ぶことによって即応できる応用力を養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の講義について予習・復習を行い、日ごろから自身の食生活だけでなく、家族や周りの人の食と健康に興味関心をもって受講すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたちの健康と食生活の現状と課題 2. 栄養の基本的概念及び食事摂取基準と和食 3. 食に関する基礎知識Ⅰ炭水化物・脂質・たんぱく質 4. 食に関する基礎知識Ⅱミネラル・ビタミン・水分 5. 食べ物の消化と吸収 6. 献立作成及び調理の基本と食中毒の予防 7. 発育・発達の基本と胎児期(妊娠期)の食生活 8. 乳児期の授乳・離乳の意義と幼児期の心身の発達 9. 学童期の心身の発達と生涯発達 10. 食育の基本及び内容と洋食 11. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 12. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 13. 総括 | | | |

| | | | |
|--|----------|----|------|
| 科目名 | 子どもの食と栄養 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(40%) 試験(60%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは授業及びmanabaの掲示板で行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題・試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 最新子どもの食と栄養一食生活の基礎を築くために一 著者名:飯塚美和子他 出版社:学建書院 (9784762468414)</p> <p>[参考書(ISBN)] 子どもの食と栄養演習 著者名:小川雄二 出版社:建帛社 (9784767951386) 子どもの食と栄養「生きる力」を育むために(栄養士テキストシリーズ) 著者名:青木三恵子 出版社:講談社 (9784065167519)</p> | | | |

| | | | |
|--|----------|----------------|------|
| 科目名 | 子どもの食と栄養 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 基本的・基礎的な栄養学の知識を身につけたうえで食育の重要性を理解し、学んだことを実践につなげられるよう食育の担い手として自らも望ましい食生活を実践できる。</p> <p>[授業概要] 小児期の栄養、食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎を築くものである。基本的・基礎的な栄養学ならびに食生活の正しい知識を習得し、小児を取り巻く近年の食生活の現状と課題を理解するとともに発達や健康状態への影響など幅広い視点で学ぶことによって即応できる応用力を養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の講義について予習・復習を行い、日ごろから自身の食生活だけでなく、家族や周りの人の食と健康に興味関心をもって受講すること。</p> <p>[授業計画] 1. 子どもたちの健康と食生活の現状と課題 2. 栄養の基本的概念及び食事摂取基準と和食 3. 食に関する基礎知識Ⅰ炭水化物・脂質・たんぱく質 4. 食に関する基礎知識Ⅱミネラル・ビタミン・水分 5. 食べ物の消化と吸収 6. 献立作成及び調理の基本と食中毒の予防 7. 発育・発達の基本と胎児期(妊娠期)の食生活 8. 乳児期の授乳・離乳の意義と幼児期の心身の発達 9. 学童期の心身の発達と生涯発達 10. 食育の基本及び内容と洋食 11. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 12. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 13. 総括</p> | | | |

| | | | |
|---|----------|----|------|
| 科目名 | 子どもの食と栄養 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 奥川 あかり | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(40%) 試験(60%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは授業及びmanabaの掲示板で行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:課題・試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題・試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 最新子どもの食と栄養一食生活の基礎を築くために一 著者名:飯塚美和子他 出版社:学建書院 (9784762468414)</p> <p>[参考書(ISBN)] 子どもの食と栄養演習 著者名:小川雄二 出版社:建帛社 (9784767951386) 子どもの食と栄養「生きる力」を育むために(栄養士テキストシリーズ) 著者名:青木三恵子 出版社:講談社 (9784065167519)</p> | | | |

| | | | |
|---|----------|----------------|------|
| 科目名 | 子どもの保健 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 石田 寿子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境が与える母子への影響について説明できる。 2. 各期の子どもの発育・発達について説明できる。 3. 子どもの健康状態を把握するための方法について説明できる。 4. これからの保育士の活動の広がりについて記述できる。 <p>[授業概要]</p> <p>小児病棟や小児科外来の経験を有する教員が具体的な事例を示しながら、成長発達過程にある子どもの健康と健康状態の把握方法について指導します。また、子どもを取り巻く環境について胎児期からとらえ、子どもの健全な発育を支援するために必要な知識について講義します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業前は指示された課題に取り組み、課題内で指定された範囲の教科書を読み、初めて知る用語や分からない箇所を明確にしてください。</p> <p>前回の講義・演習内容に関する確認から始めますので、復習しておいてください。</p> <p>各回、予習・復習合わせて1時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.子どもの保健を学ぶ意義・子どもを取り巻く環境 2.健康と健康指標 3.子どもの身体の発育と保健 4.子どもの運動・精神機能と感覚器の発達と保健 5.子どもの生理機能の発達①(呼吸・循環) 6.子どもの生理機能の発達②(消化機能) 7.子どもの生理機能の発達③(免疫・体温調節・水分代謝) 8.子どもの健康状態の把握①(呼吸・循環・体温) 9.子どもの健康状態の把握②(活動・生活) 11.体調のよくない子どもへの対応 10.発育と発達の評価 12.子どもの保健と保育士の役割 13.子どもの保健 I ふりかえり、学びの確認 | | | |

| | | | |
|--|----------|----|------|
| 科目名 | 子どもの保健 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 石田 寿子 | | |
| <p>[成績評価方法] 理解度確認試験50%、レポート30%、授業態度20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験後、解答の解説を行う。 提出物はコメントを入れて返却、もしくは返却時に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:理解度確認試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:理解度確認試験・レポート・授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:レポート・授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:理解度確認試験・レポート・授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:理解度確認試験・レポート・授業態度</p> <p>[教科書 (ISBN)] 保育者のためのわかりやすい子どもの保健第2版 著者名:飯島一誠 編者:稲垣由子他 出版社:総合医学社 (ISBN 978-4-88378-986-3)</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|--|---------|--|----------------|------|
| 科目名 | 子どもの保健Ⅱ | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 内 正子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。 3 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。 4 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。 <p>[授業概要]</p> <p>子どもの心身の健康状態の観察や不調等の早期発見などを理解し、健康状態の把握の方法について学ぶ。また、子どもに多く見られる疾病の特徴を理解し、予防方法および他職種間の連携・協働の下で適切な対応について学ぶ。</p> <p>小児保健の経験がある教員がその経験を活かして、学生の理解が深まる教授を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>子どもの保健Ⅰの講義内容を復習しておくこと。 日頃より子どもに関するニュースなどに関心をもっておくこと。 各回の授業についての予習・復習1時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの疾病と適切な対応① 子どもの病気の特徴 2 子どもの疾病と適切な対応② 感染症 3 子どもの疾病と適切な対応③ アレルギー 4 子どもの疾病と適切な対応④ その他の病気1 5 子どもの疾病と適切な対応⑤ その他の病気2 6 症状・けがへの対応① 健康観察、主な症状と対応 7 症状・けがへの対応② 子どもの事故とけがへの対応(救急蘇生を含む) 8 子どもの発達障害とその対応 9 子どもの環境と保健① 環境整備・衛生管理 10 子どもの環境と保健② 事故防止及び安全対策 11 子どもの環境と保健③ 危機管理と災害への備え 12 母子保健・地域保健と保育 13 まとめと確認 | | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 子どもの保健Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 内 正子 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験 (60%)、レポート (30%)、授業への取り組み (10%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] manabaシステムを活用したフィードバックを行う。</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法: 試験およびレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法: 試験およびレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法: 試験およびレポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験およびレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験およびレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験およびレポート</p> <p>[教科書 (ISBN)] これならわかる! 子どもの保健演習ノート 改訂第3版追補 著者名: 榊原洋一・小林美由紀 出版社: 診断と治療社 (978-4-7878-2407-3)</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 子どもの保健Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 子どもの健康と安全 | 演習 | |
| 担当者 | 石田 寿子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | ○技術演習 | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.望ましい保育環境の管理方法が説明できる。 2.子どもの怪我や体調不良時の適切な対応が説明できる。 3.子どもの応急処置ができるようになる。 4.子どもの救急蘇生ができるようになる。 5.子どもの健康と安全のための取組みについて説明できる。 <p>[授業概要]</p> <p>乳幼児の健康と発育を保障するために、保育者は医学・保健学の知識に基づいた専門的な知識と技術が必要になります。小児病棟や小児科外来の経験を有する教員が子どもの健康安全管理、救急時の対応について指導します。</p> <p>教科書は2年次購入教科書を使用</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業前は指示された課題に取り組み、課題内で指定された範囲の教科書を読み、初めて知る用語や分からない箇所を明確にしてください。</p> <p>前回の講義・演習内容に関する小テストを行うので、復習しておいてください。</p> <p>各回、予習・復習合わせて1時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.子どもの健康と環境 2.安全対策(事故・災害) 3.子どもの主な症状への対応 4.保育所における応急処置①(基礎知識) 5.保育所における応急処置②(包帯法) 6.救急処置および救急蘇生①(基礎知識) 7.救急処置および救急蘇生②(異物除去) 8.保育所における与薬、感染症対策 9.保育所における保健の技術①(基礎知識) 10.保育所における保健の技術②(沐浴) 11.保育所における保健の技術③(身体計測) 12.個別な配慮を必要とする子どもへの対応 13.子どもの健康と安全 まとめ | | | |

| | | | |
|---|-----------|----|------|
| 科目名 | 子どもの保健Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 子どもの健康と安全 | 演習 | |
| 担当者 | 石田 寿子 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業態度20%、提出物50%、小テスト30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験後、解答の解説を行う。 提出物はコメントを入れて返却、もしくは返却時に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:提出物、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:授業態度、提出物、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:授業態度、提出物、小テスト</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度、提出物、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度、提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:提出物、小テスト</p> <p>[教科書(ISBN)] 保育者のためのわかりやすい子どもの保健 著者名:飯島一誠 出版社:総合医学社 (9784883789467)</p> <p>[参考書(ISBN)] 子どもの保健演習ノート 改訂第3版 著者名:榊原洋一 出版社:診断と治療社 (9784790000000)</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 子どもの保健Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 子どもの健康と安全 | 演習 | |
| 担当者 | 石田 寿子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | ○技術演習 | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.望ましい保育環境の管理方法が説明できる。 2.子どもの怪我や体調不良時の適切な対応が説明できる。 3.子どもの応急処置ができるようになる。 4.子どもの救急蘇生ができるようになる。 5.子どもの健康と安全のための取組みについて説明できる。 <p>[授業概要]</p> <p>乳幼児の健康と発育を保障するために、保育者は医学・保健学の知識に基づいた専門的な知識と技術が必要になります。小児病棟や小児科外来の経験を有する教員が子どもの健康安全管理、救急時の対応について指導します。</p> <p>教科書は2年次購入教科書を使用</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業前は指示された課題に取り組み、課題内で指定された範囲の教科書を読み、初めて知る用語や分からない箇所を明確にしてください。</p> <p>前回の講義・演習内容に関する小テストを行うので、復習しておいてください。</p> <p>各回、予習・復習合わせて1時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.子どもの健康と環境 2.安全対策(事故・災害) 3.子どもの主な症状への対応 4.保育所における応急処置①(基礎知識) 5.保育所における応急処置②(包帯法) 6.救急処置および救急蘇生①(基礎知識) 7.救急処置および救急蘇生②(異物除去) 8.保育所における与薬、感染症対策 9.保育所における保健の技術①(基礎知識) 10.保育所における保健の技術②(沐浴) 11.保育所における保健の技術③(身体計測) 12.個別な配慮を必要とする子どもへの対応 13.子どもの健康と安全 まとめ | | | |

| | | | |
|---|-----------|----|------|
| 科目名 | 子どもの保健Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 子どもの健康と安全 | 演習 | |
| 担当者 | 石田 寿子 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業態度20%、提出物50%、小テスト30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験後、解答の解説を行う。 提出物はコメントを入れて返却、もしくは返却時に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:提出物、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:授業態度、提出物、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:授業態度、提出物、小テスト</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度、提出物、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度、提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:提出物、小テスト</p> <p>[教科書(ISBN)] 保育者のためのわかりやすい子どもの保健 著者名:飯島一誠 出版社:総合医学社 (9784883789467)</p> <p>[参考書(ISBN)] 子どもの保健演習ノート 改訂第3版 著者名:榊原洋一 出版社:診断と治療社 (9784790000000)</p> | | | |

| | | | | |
|---|-----------|--|----------------|------|
| 科目名 | 子どもの理解と援助 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>①保育場面における乳幼児の心身の発達を実践的に理解する。 ②乳幼児の体験や学びの過程をふまて保育士の基本的援助や態度について理解する ③子どもを理解するための具体的な方法を学ぶ</p> <p>[授業概要]</p> <p>乳幼児にとっては、遊びを中心とするに日常生活が学びの場であり、他者との相互的にかかわりを通して様々な心的機能を確立する。この点を重視し、本授業では社会性の発達を中心に乳幼児期の心身の発達を促す保育士の援助や態度について演習形式で学ぶ</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>①授業内で紹介する参考資料を熟読してください ②各自の保育観を育めるよう、授業内容をしっかり復習してください なお、各回予習・復習あわせて2時間程度の自主学習が必要です</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.保育におけるこども理解の意義 2.乳幼児期の学びについて 3.子どもに対する共感的理解と保育者のかかわり 4.グループワーク1:子どもの生活と遊び 遊びと主体性 5.グループワーク2:子どもの生活と遊び 遊びの中の他者のかかわりー自己理解と他者理解ー 6.グループワーク3:子どもの生活と遊び 遊びの中で獲得される社会スキルー自己調整能力ー 7.グループワーク4:子どもの生活と遊び 基本的生活習慣の獲得と社会スキル 8.グループワーク5:子どもの生活と遊び 遊びを中心とする日常生活で育まれる「わたし」の基盤 9.グループワークワーク6:子どもの生活とあそび 発達に応じた保育環境 10.グループワーク7:乳幼児期の学びを支える保育 保護者への支援 11.グループワーク8:乳幼児期の学びを支える保育 発達の連続性と就学へ向けた支援 12.グループワーク成果発表 13.まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|--|-----------|----|------|
| 科目名 | 子どもの理解と援助 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート課題(70%)、グループ発表(20%)、その他の提出物(10%)を総合的に評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 発表後、及び提出物の返却時に口頭でフィードバックを行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼穂連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉出版社: チャイルド社 (978-4-8054-0258-0)</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 子どもの理解と発達 I | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 乳幼児期の子どもの発達や子育て支援についての知識や技能について学び、それらを保育や子育て支援の実際において活かすことのできる資質へと高めることを目指す</p> <p>[授業概要] 本学では地域への子育て支援における社会貢献や実践力のある保育者養成を目指している。子どもの発達理解や保育技術の修得、保育観や教育観、発達観等の構築、保育の計画や環境構成などの保育構成に関する知識や技術の修得を行う。また、保育者の資質として求められるようになった子育て支援に関する知識や技能の修得、子どもや保護者等へのコミュニケーション能力の獲得などについて、さまざまな角度や方法で学ぶ。見学や実践に関しては、土曜日等を利用する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 子どもの発達理解や子育て支援など関連科目の知識や学びについて、整理しておく。 テーマごとに、予習、復習をすること。グループでの準備作業等もある。各回3時間程度の予習、準備、復習が必要となる。</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション・学習課題の設定 2.6か月未満児の発達について 3.6か月未満児に関する育児不安について 4.保育所見学(学外) 5.か月未満児の保育計画 6.実践準備 7.保育実践(学外) 8.振り返り 9.6か月以上1歳未満児の発達について 10.か月以上1歳未満児の保育計画 11.実践準備 12.保育実践(学外) 13.振り返り まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----|------|
| 科目名 | 子どもの理解と発達 I | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 取組への姿勢(相互評価)40% 提出物60% 取組みへの姿勢は毎回の授業後にグループ内で相互評価で評価する 提出物は期限、形式、内容を踏まえて評価をする</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 翌日に指導・提出物の返却フィードバックを行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:取組みへの姿勢 提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:取組みへの姿勢 提出物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:取組みへの姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:取組みへの姿勢 提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:取組みへの姿勢 提出物</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 指定はしないが、各自必要なものを探すこと</p> | | | |

| | | | |
|--|------------|----------------|------|
| 科目名 | 子どもの理解と発達Ⅱ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 乳幼児期の子どもの発達や子育て支援についての知識や技能について学び、それらを保育や子育て支援の実際において活かすことのできる資質へと高めることを目指す</p> <p>[授業概要] 本学では地域への子育て支援における社会貢献や実践力のある保育者養成を目指している。子どもの発達理解や保育技術の修得、保育観や教育観、発達観等の構築、保育の計画や環境構成などの保育構成に関する知識や技術の修得を行う。また、保育者の資質として求められるようになった子育て支援に関する知識や技能の修得、子どもや保護者等へのコミュニケーション能力の獲得などについて、さまざまな角度や方法で学ぶ。実践のため、土曜日等を利用して、学外に出かける。なお本授業の履修にあたっては、前期の子どもの理解と発達Iを履修することを必須とする</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 子どもの発達理解や子育て支援など関連科目の知識や学びについて、整理しておく。 テーマごとに、予習、復習をすること。グループでの準備作業等もある。各回3時間程度の予習、準備、復習が必要となる。</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション グループ分け 課題設定 2.子育て支援施設見学1(学外) 3.子育て支援施設見学2(学外) 4.見学振り返り 5.1-2歳児の発達について 6.1-2歳児に関する育児不安について 7.1-2歳児の保育計画 8.実践準備 9.実践(学外) 10.振り返り 11.保護者支援とは 12.保護者支援ロールプレイ 13.取り組み全体の反省と活動のまとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|------------|----|------|
| 科目名 | 子どもの理解と発達Ⅱ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 取組への姿勢(相互評価)40% 提出物60%取組への姿勢 取り組みへの姿勢は毎回の授業後にグループ内で相互評価で評価する 提出物は期限、形式、内容を踏まえて評価をする</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 翌日に指導・提出物の返却フィードバックを行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:取り組みへの姿勢 提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:取り組みへの姿勢 提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:提出物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:取り組みへの姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:取り組みへの姿勢 提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:取り組みへの姿勢 提出物</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 各自探すこと</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 算数科概説 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校算数科における学習内容とその教授方法を修得する。特に、「数学的活動」によって算数・数学に必要な概念を構成できる能力を養成する。算数教育に有用なソフトウェアを算数科の授業に利用できる。</p> <p>[授業概要] 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』によって、小学校の算数科の内容と方法を理解し、実践化する。本講義では、算数の背景にある数学的内容、算数を教えるために必要な認知心理学的な背景を述べたい。現在私たちが使う記数法には位取りの原理が使われており、そのよさはその構造を自覚してこそわかる。また、算数教育の数概念の形成の裏には常に必ず量が介在しており、抽象的な「数」を理解する上には、心理的、認知的な問題が含まれている。これらを自らの「数学的活動」として学ぶことで、学習指導要領の算数科の目標に掲げられる「数学的活動を通して」を体験する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の復習に加え、本授業の内容をしっかりと理解できるよう教科書として示した本を読んでおくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 算数という教科の意義・目標・内容 算数教育とその目標の変遷(和算～黒表紙教科書の時代まで) 算数教育とその目標の変遷(緑表紙教科書～現在) 記数法と命数法 加法 減法 乗法 除法 量(外延量と内包量)、測定 小数 分数 変化と関係(関数の考え)、データの活用 まとめ | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 算数科概説 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| <p>[成績評価方法] 小テスト・発表・提出物等 (30%)、試験 (70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manaba の自動採点、コースニュースおよび掲示板で適宜コメントします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:授業中の発表、提出物、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:授業中の発表、試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の発表、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の発表、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の発表、試験</p> <p>[教科書 (ISBN)] 小学校算数科教育法 著者名:鈴木将史 出版社:建帛社 (9784770000000) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版 (9784540000000)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 入門算数学 著者名:黒木哲徳 出版社:日本評論社 (9784540000000) 数学の学び方・教え方 著者名:遠山啓 出版社:岩波新書 (9784000000000)</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 算数科概説 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校算数科における学習内容とその教授方法を修得する。特に、「数学的活動」によって算数・数学に必要な概念を構成できる能力を養成する。算数教育に有用なソフトウェアを算数科の授業に利用できる。</p> <p>[授業概要] 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』によって、小学校の算数科の内容と方法を理解し、実践化する。本講義では、算数の背景にある数学的内容、算数を教えるために必要な認知心理学的な背景を述べたい。現在私たちが使う記数法には位取りの原理が使われており、そのよさはその構造を自覚してこそわかる。また、算数教育の数概念の形成の裏には常に必ず量が介在しており、抽象的な「数」を理解する上には、心理的、認知的な問題が含まれている。これらを自らの「数学的活動」として学ぶことで、学習指導要領の算数科の目標に掲げられる「数学的活動を通して」を体験する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の復習に加え、本授業の内容をしっかりと理解できるよう教科書として示した本を読んでおくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 算数という教科の意義・目標・内容 算数教育とその目標の変遷(和算～黒表紙教科書の時代まで) 算数教育とその目標の変遷(緑表紙教科書～現在) 記数法と命数法 加法 減法 乗法 除法 量(外延量と内包量)、測定 小数 分数 変化と関係(関数の考え)、データの活用 まとめ | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 算数科概説 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| <p>[成績評価方法] 小テスト・発表・提出物等 (30%)、試験 (70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manaba の自動採点、コースニュースおよび掲示板で適宜コメントします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:授業中の発表、提出物、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:授業中の発表、試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の発表、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の発表、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の発表、試験</p> <p>[教科書 (ISBN)] 小学校算数科教育法 著者名:鈴木将史 出版社:建帛社 (9784770000000) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版 (9784540000000)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 入門算数学 著者名:黒木哲徳 出版社:日本評論社 (9784540000000) 数学の学び方・教え方 著者名:遠山啓 出版社:岩波新書 (9784000000000)</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----------------|------|
| 科目名 | 算数科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 学習指導要領に示された算数に関する目標と内容についてその詳細を理解する。また、基礎的な学習指導理論を理解し、指導方法と授業設計について、基礎的な技能および情報機器の活用技能を身につける。</p> <p>[授業概要] 算数教育の目的、数学的な見方・考え方の指導、カリキュラムの内容の系統(五つの領域)について解説する。学習指導案の作成とグループワークで授業づくりを行い、模擬授業を実施する。数学的活動についてLMSを活用した意見交換をしながら「授業研究」を体験する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各自時間をつくって、本講義の教科書および参考書として示した本を読み物として少しずつ読んでおくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 算数科の目標と内容の系統 実践的な実際の授業から学ぶ(ビデオの視聴) 実践的な実際の授業から学ぶ(研究授業の分析と評価) 算数科の学習指導案 学習指導案を作成する(教材観と教育目標を中心に) 学習指導案を作成する(本時の学習過程を中心に) 学習指導案について意見交換(グループ作業) グループ1, 2による模擬授業の実施とLMSを活用した意見交換と振り返り グループ3, 4による模擬授業の実施とLMSを活用した意見交換と振り返り グループ5, 6による模擬授業の実施とLMSを活用した意見交換と振り返り グループ7, 8による模擬授業の実施とLMSを活用した意見交換と振り返り グループ9, 10による模擬授業の実施とLMSを活用した意見交換と振り返り 正多面体についての操作活動と考察 | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 算数科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| <p>[成績評価方法] 小テストおよび平常試験・提出物等 (40%)、発表・グループ活動・模擬授業等 (60%) で総合評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manaba の自動採点、コースニュースおよび掲示板で適宜コメントします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:平常試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:模擬授業</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:模擬授業</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表、模擬授業</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:グループ活動</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:模擬授業</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:模擬授業</p> <p>[教科書 (ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編 平成29年7月 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版 (978-4-536-59010-5)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 小学校算数科教育法 著者名:鈴木将史 出版社:建帛社 (978-4-7679-2112-9) 数学の学び方・教え方 著者名:遠山啓 出版社:岩波新書 (978-4004160076)</p> | | | |

| | | | |
|----------------|--------|----------------|------|
| 科目名 | 算数科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

学習指導要領に示された算数に関する目標と内容についてその詳細を理解する。また、基礎的な学習指導理論を理解し、指導方法と授業設計について、基礎的な技能および情報機器の活用技能を身につける。

[授業概要]

算数教育の目的、数学的な見方・考え方の指導、カリキュラムの内容の系統(五つの領域)について解説する。学習指導案の作成とグループワークで授業づくりを行い、模擬授業を実施する。数学的活動についてLMSを活用した意見交換をしながら「授業研究」を体験する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各自時間をつくって、本講義の教科書および参考書として示した本を読み物として少しずつ読んでおくこと。

[授業計画]

1. 算数科の目標と内容の系統
2. 実践的な実際の授業から学ぶ(ビデオの視聴)
3. 実践的な実際の授業から学ぶ(研究授業の分析と評価)
4. 算数科の学習指導案
5. 学習指導案を作成する(教材観と教育目標を中心に)
6. 学習指導案を作成する(本時の学習過程を中心に)
7. 学習指導案について意見交換(グループ作業)
8. グループ1, 2による模擬授業の実施とLMSを活用した意見交換と振り返り
9. グループ3, 4による模擬授業の実施とLMSを活用した意見交換と振り返り
10. グループ5, 6による模擬授業の実施とLMSを活用した意見交換と振り返り
11. グループ7, 8による模擬授業の実施とLMSを活用した意見交換と振り返り
12. グループ9, 10による模擬授業の実施とLMSを活用した意見交換と振り返り
13. 正多面体についての操作活動と考察

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 算数科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| <p>[成績評価方法] 小テストおよび平常試験・提出物等 (40%)、発表・グループ活動・模擬授業等 (60%) で総合評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manaba の自動採点、コースニュースおよび掲示板で適宜コメントします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:平常試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:模擬授業</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:模擬授業</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表、模擬授業</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:グループ活動</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:模擬授業</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:模擬授業</p> <p>[教科書 (ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編 平成29年7月 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版 (978-4-536-59010-5)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 小学校算数科教育法 著者名:鈴木将史 出版社:建帛社 (978-4-7679-2112-9) 数学の学び方・教え方 著者名:遠山啓 出版社:岩波新書 (978-4004160076)</p> | | | |

| | | | | |
|--|---------|----------------|----|------|
| 科目名 | 算数科教材研究 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標] 小学校算数科における学習内容を「数学的な見方や考え方」に着目して修得する。さらに、「数学的活動」による算数教育を構築することをめざす。 また、図形ツールなどのソフトウェアを利用した授業を構成できるようになることもめざす。</p> <p>[授業概要] 学校数学で扱う概念は日常の人間行動や自然現象を抽象化したものである。人間行動がいかんにして抽象化・形式化されて、小学校算数科の教材となるかといった教材を高い立場から見直すことで、算数・数学の理解を深めることを目的とする。このことで、採用試験にも対する自信をつけてもらえると考え。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自ら演習問題を解いておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 算数「割合と比」 / 数学「数と式(絶対値)」 算数「濃度/数と式」 / 数学「数と式(式の計算)」 算数「仕事算」 / 数学「方程式」 算数「売買損益」 / 数学「不等式」 算数「倍数算」 / 数学「2次関数」 算数「旅人算」 / 数学「2次関数の最大・最小」 算数「速さ」 / 数学「正弦定理・余弦定理」 算数「速さとグラフ」 / 数学「相似」 算数「通過算」 / 数学「命題と論証」 算数「図形を使った数列」 / 数学「場合の数」 算数「等差数列」 / 数学「確率」 算数「差集め算」 / 数学「平面図形」 まとめ | | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 算数科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| <p>[成績評価方法] 各回の発表(30%)、試験(70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manaba のコースニュースおよび掲示板で適宜コメントします。 採点が済んだ試験を返却します。希望者はとりにきてください。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:発表、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:発表、試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編 平成29年7月 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版 (978-4536590105)</p> <p>[参考書(ISBN)] 自分が高校のとき使ったものでよいかから、各自、「数学I」と「数学A」の教科書をいつでも参照できるように用意する。</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 時事英語 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 時事問題について関心や理解を深め、自分の考えを英語で伝え合うことができる。</p> <p>[授業概要] 様々なテーマの時事問題を取り上げ、丁寧に内容を理解した上で、自分の考えを英語で纏めていく。英語での意見交換を行いながら、それぞれの話題についての理解を深めると共に、英語運用能力を高めていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 時事問題について理解を深めておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、時事英語について 2. 時事英語における表現 3. テーマ1「教育」内容理解 4. テーマ1「教育」に関する意見交換 5. テーマ2「環境」内容理解 6. テーマ2「環境」に関する意見交換 7. テーマ3「国際」内容理解 8. テーマ3「国際」に関する意見交換 9. テーマ4「科学」内容理解 10. テーマ4「科学」に関する意見交換 11. テーマ5「文化」内容理解 12. テーマ5「文化」に関する意見交換 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 時事英語 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 定期試験(50%)、授業中の課題(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:定期試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:定期試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692)</p> | | | |

| | | | | |
|---|----------|--|----------------|------|
| 科目名 | 実践英語表現 I | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 中学校外国語科の授業において英語で授業ができる実践的な英語力を養うために、英語で考え、英語で発信する力を身に付ける。</p> <p>[授業概要] 身近なテーマに関する英文に触れながら、自分の考えや意見を明確に伝えるための表現方法や提示の仕方を学ぶ。アウトプット活動を取り入れながら「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」の4技能をバランスよく高めていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 各テーマについて、自分の意見も考えておくこと。付属のCDを聴き、英語の発話練習(音読)を繰り返し行っておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション & Fee's Pickles 2. Boat Schools 3. Colors in the UK 4. Homes on Wheels 5. Maddy in the City 6. Falcons at Work 7. Diwali in New York 8. Estate of the Arts 9. Plants Around Us 10. Farmers Market 11. Party Planning 12. Climbing Buddies 13. まとめ <p>※進捗状況により、計画の一部を変更する場合がある。</p> | | | | |

| | | | |
|---|----------|----|------|
| 科目名 | 実践英語表現 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 定期試験(50%)、授業中の課題(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>[教科書(ISBN)] GLOBAL GATE 著者名:Shoma Aota Ayaka Koshiishi Bill Benfield Akira Morita 出版社:SEIBIDO (9784791972814)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------|----------------|------|
| 科目名 | 実践英語表現Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語で授業ができるようになる。 | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 中学校検定教書(英語科)をつかって授業ができるようになる。そのために中学校検定教科書の本文の読みを徹底して行い、モデルレベルまで到達する。目標とする文法項目を身に着けるためのタスク活動や授業中の活動を計画して、英語科学習指導案を作成できるようになる。指導案に沿った教材を作成できる。授業を一人で担当できるようになる。</p> <p>[授業概要] 中学校学習指導要領には、「話すこと(やり取り)」と「話すこと(発表)」の違いを明確にして指導することが求められている。このような指導力を身に付けるために、本授業では、受講生が教員となり自ら考案した英語科学習指導案に基づいて模擬授業を行い、実践力を培う。その際、小学校ならびに高等学校との連携を視野に入れる。ICT技術を効果的に取り入れることにもトライする。毎回教科書本文の読みを練習し、モデルリーディングレベルに到達するように努力していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 次に行うUnitに目を通しておくこと。授業の中で提示する課題に取り組んでおくこと。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション ならびに 模擬授業の担当会、内容を決定していく。 2. 模擬授業1 教科書を中心にした授業のすすめ方 3. 模擬授業2 Readingに主眼をおいた授業のすすめ方 4. 模擬授業3 板書事項、発話への考察 5. 模擬授業4 Listening、speakingに主眼をおいた授業のすすめ方 6. 模擬授業5 授業のながれとテンポを意識した授業のすすめ方 7. 模擬授業6 Readingとwritingに主眼をおいた授業のすすめ方 8. 模擬授業7 導入と展開のつながりを意識した授業のすすめ方 9. 模擬授業8 ICTを活かす授業について 10. 模擬授業9 インタクションに主眼をおいた授業のすすめ方 11. 模擬授業10 タスク活動を考察することを主眼にした授業について 12. 模擬授業11 今日の課題を考察する 13. まとめとしての英語科学習指導案の作成</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------|----|------|
| 科目名 | 実践英語表現Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語で授業ができるようになるろう。 | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への主体的参加度(30%)、模擬授業での取り組みに対する評価(50%)、最終指導案(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業やmanabaで行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:授業への主体的参加度、模擬授業への取り組みで評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:最終指導案で評価します。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:模擬授業への取り組みで評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への主体的参加度で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:最終指導案で評価します。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784300000000)</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 児童英語教育概論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語初学者へ英語を教えることを具体化していこう:実践力の育成 | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 実際に幼児や児童に英語を教えることができるようになる。マザー・グースを2つ以上覚えて児童に指導できるようになる。アルファベットや身近にあるもの、学習者目線での英語を教えることができるようになる。英語のストーリーテリングなどを身に着け、実際に語れるようになる。</p> <p>[授業概要] この授業では幼い子どもへ英語を楽しく学ぶ方法を考え、それに基づいた教材を探すことや語りを身に着けることで実践力を身に着けます。歌やチャンツ、絵本や紙芝居などを用いて、楽しくまなぶことを教室で展開していき、受講生同士のお互いのスキルをブラッシュアップしていきましょう。この授業が終わるころには、英語のフレーズがいくつも身につき、たくさんの授業アイデアを提供できるようになるようにお互い切磋琢磨していきましょう。そのためにもみんなでアイデアを出し合って楽しい英語授業を一緒につくっていくものです。担当者は教育現場での教授歴があるので、実践的に展開していきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] JLCを活用して手本となる英語教師の授業を視聴し、優れている点などを分析しておく。毎回、教えることを実践しながら英語の歌やチャンツ、ストーリーを語れるようになっていくことが求められているので、練習をおこたらないことが重要です。最終的には自分およびグループで作品を完成することを目指しましょう。</p> <p>[授業計画] 受講生のリクエスト等により変更することはありますが、現在のところ以下のように計画しています。 第1回: 授業の進め方、アルファベットの教え方 第2回: 英語のチャンツ、マザーグース その1 第3回: 英語のチャンツ、マザーグース その2 第4回: 英語のチャンツ、マザーグースの発表、相互評価、課題設定 第5回: 英語のストーリーテリング その1(グループ内発表) 第6回: 英語のストーリーテリング その2(グループ内発表) 第7回: 英語のストーリーテリング 合同発表会 第8回: 英語のストーリーテリング 振り返り、相互評価 第9回: 英語のストーリーテリングを中心とした英語活動1 第10回: 英語のストーリーテリングを中心とした英語活動2(メンバー入れ替え) 第11回: 英語のオリジナルストーリー創作 第12回: 英語のオリジナルストーリー発表会 第13回: 振り返りと今後へ向けて</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------------------------|----|------|
| 科目名 | 児童英語教育概論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 英語初学者へ英語を教えることを具体化していこう:実践力の育成 | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への積極的参加(発言、推進等)(30%)、個人ワーク(30%)、最終課題(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題については、後日評価やコメントを付して返却します。授業ではあなたの質問がよりよい創意工夫を生み出します。主体的に参加してください。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:授業への積極的参加態度、発言内容や取り組み方で評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:個人ワークにより評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:最終課題により評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:個人ワークにより評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への積極的参加度により評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:最終課題により評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。中学校。小学校の検定教科書は役立ちます。</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に紹介します。</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------|----------------|------|
| 科目名 | 社会科概説 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校社会科の基礎・基本 | 講義 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校社会科教育の基礎を理解する。 小学校社会科授業を担当する教員として必要な地域学習、地理的学習、歴史的学習、公民的学習に関わる基礎的・基本的な知識・理解と能力を養う。</p> <p>[授業概要] 社会科教育の意義・目標、歴史、カリキュラムを概観し、小学校社会科教育の基礎について、授業実践例も取り上げて解説する。 また、小学校社会科の地理的内容、歴史的内容、公民的内容について、授業実践例の紹介や模擬授業なども取り入れて講義する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の学習内容を復習して理解し、次回の授業を予習しておく。各自が問題意識・主体者意識を持って授業に臨んでほしい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会科教育の意義・目標 2. 社会科教育の歴史 3. 社会科教育のカリキュラム 4. 地理的学習の内容① 5. 地理的学習の内容② 6. 地理的学習の内容③ 7. 歴史的学習の内容① 8. 歴史的学習の内容② 9. 歴史的学習の内容③ 10. 公民的学習の内容① 11. 公民的学習の内容② 12. 公民的学習の内容③、地域学習の内容 13. まとめ、テスト | | | |

| | | | |
|---|--------------|----|------|
| 科目名 | 社会科概説 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校社会科の基礎・基本 | 講義 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業に取り組む姿勢・提出物(20%)、レポート(20%)、試験(60%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版 (9784540000000) テキスト初等社会科 著者名:佐藤浩樹ほか編 出版社:学文社 (9784760000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------|----------------|------|
| 科目名 | 社会科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校社会科の授業づくり | 講義 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校社会科の学習指導に関わる基礎的事項について理解する。 学習指導案を作成して模擬授業を行い、小学校社会科の実践的指導力を身に付ける。</p> <p>[授業概要] 前半は、小学校社会科の学習指導法や授業構成、教材研究から学習指導案作成の過程、評価について講義する。まとめとして各自が地域学習の学習指導案を作成する。後半は、グループで学習指導案を作成して模擬授業を行い、社会科の実践的指導力を養っていく。模擬授業について相互に討論することを通して、授業を分析する力も養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の学習内容を復習して理解し、次回の授業を予習しておく。各自が問題意識・主体者意識を持って授業に臨んでほしい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会科の学習指導論と学習過程 2. 社会科の学習過程と授業構成 3. 社会科の学習形態と学習活動 4. 社会科授業づくりとICTの活用 5. 社会科教材研究と学習指導案の作成 6. 社会科の評価 7. 社会科学習指導案の検討・発表、模擬授業に向けて 8. 社会科模擬授業①(第3学年の内容) 9. 社会科模擬授業②(第4学年の内容) 10. 社会科模擬授業③(第5学年の内容) 11. 社会科模擬授業④(第5、6学年の内容) 12. 社会科模擬授業⑤(第6学年の内容) 13. まとめ、テスト | | | |

| | | | |
|--|--------------|----|------|
| 科目名 | 社会科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校社会科の授業づくり | 講義 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業に取り組む姿勢(20%)、レポート(10%)、模擬授業(20%)、試験(50%)、</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 『小学校学習指導要領解説 社会編』(平成29年版) 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版(9784540000000) 『テキスト初等社会科』 著者名:佐藤浩樹ほか編 出版社:学文社(9784760000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------|----------------|------|
| 科目名 | 社会科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校社会科の授業づくり | 講義 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校社会科の学習指導に関わる基礎的事項について理解する。 学習指導案を作成して模擬授業を行い、小学校社会科の実践的指導力を身に付ける。</p> <p>[授業概要] 前半は、小学校社会科の学習指導法や授業構成、教材研究から学習指導案作成の過程、評価について講義する。まとめとして各自が地域学習の学習指導案を作成する。後半は、グループで学習指導案を作成して模擬授業を行い、社会科の実践的指導力を養っていく。模擬授業について相互に討論することを通して、授業を分析する力も養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の学習内容を復習して理解し、次回の授業を予習しておく。各自が問題意識・主体者意識を持って授業に臨んでほしい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会科の学習指導論と学習過程 2. 社会科の学習過程と授業構成 3. 社会科の学習形態と学習活動 4. 社会科授業づくりとICTの活用 5. 社会科教材研究と学習指導案の作成 6. 社会科の評価 7. 社会科学習指導案の検討・発表、模擬授業に向けて 8. 社会科模擬授業①(第3学年の内容) 9. 社会科模擬授業②(第4学年の内容) 10. 社会科模擬授業③(第5学年の内容) 11. 社会科模擬授業④(第5、6学年の内容) 12. 社会科模擬授業⑤(第6学年の内容) 13. まとめ、テスト | | | |

| | | | |
|--|--------------|----|------|
| 科目名 | 社会科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校社会科の授業づくり | 講義 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業に取り組む姿勢(20%)、レポート(10%)、模擬授業(20%)、試験(50%)、</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 『小学校学習指導要領解説 社会編』(平成29年版) 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版(9784540000000) 『テキスト初等社会科』 著者名:佐藤浩樹ほか編 出版社:学文社(9784760000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|---------|----------------|------|
| 科目名 | 社会科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 社会科授業における教材、単元構成、カリキュラム・マネジメントの重要性を理解し、地域教材づくり、学習指導案作成、単元構想開発をすることができる。</p> <p>[授業概要] 教材研究、単元構成、カリキュラムマネジメントについて講義し、それに基づいて写真を活用した地域教材づくり、総合的な単元構想、小学校区域の地図作成、子どもの関心と意欲を高める教材開発を行う。 神戸市の小学校を訪問し、授業を参観するとともに教材づくりに関わる講義を受講する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 社会科教材づくり・授業づくり、カリキュラム・マネジメントに関わる本を読むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会科授業における教材研究① 2. 社会科授業における教材研究② 3. 社会科地域学習とフィールドワーク 4. 社会科授業における地域教材開発① 5. 社会科授業における地域教材開発② 6. 小学校社会科授業の参観と教材研究① 7. 小学校社会科授業の参観と教材研究② 8. 地理院地図を活用した小学校区域の地図作成 9. 社会科におけるカリキュラム・マネジメント 10. 社会科を中心とした横断的・総合的単元の構想① 11. 社会科を中心とした横断的・総合的単元の構想② 12. 子どもの関心・意欲を高める社会科教材開発① 13. 子どもの関心・意欲を高める社会科教材開発② | | | |

| | | | |
|--|---------|----|------|
| 科目名 | 社会科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業に取り組む姿勢(30%)、課題・レポート(70%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中にコメントする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 『テキスト初等社会科』 著者名:佐藤浩樹他編著 出版社:学芸図書 (9784760000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|---|---------|--|----------------|------|
| 科目名 | 社会的養護 I | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 児童福祉施設での児童養護の理論、実践方法、今日的動向を概観する中で、専門職としての保育士が必要な知識等を習得することを目標とする。</p> <p>[授業概要] “子どもは家庭で成長することが望ましい”。しかし今日の家庭状況は、現代社会のさまざまな構造要因によって、親たちが家庭のみで子育てを十分に行うことができない場合がある。 本授業では、「児童養護とは何か」について学ぶ。また社会的養護の必要な子どもたちは、家庭を離れて児童福祉施設等で生活したり、また家庭から通園して養護を受けていることがある。子どものすこやかな成長発達を保障するために必要な児童養護とはなにかについて学び、その場としての社会資源としての児童福祉施設についての理解も深めたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 児童養護についての普段より情報を収集し、児童福祉施設の種類、家庭的養護等の内容について社会的養護全般に対する知識を積極的に収集すること。</p> <p>[授業計画] テキストを基本使用し、適宜必要な資料を作成して配布する。また、実際の現場状況を理解するために、DVD教材等を視聴してより実践的な理解を深める。 以下の計画で授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 「子ども」「子ども観」「子どもの権利」等を理解すること 3. 社会的養護とは 4. 社会的養護の基本原則 5. 施設養護の指導と基本原理 6. 児童養護の歴史 7. 児童養護の制度 8. 施設養護の実際① 9. 施設養護の実際② 10. 施設養護の実際③ 11. 家庭的養護① 12. 家庭的養護② 13. まとめ、今後の課題 | | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 社会的養護 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート試験で評価を行う</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 「新・プリマーズ 社会的養護」 著者名:小池由佳・山縣文治編著 出版社:ミネルヴァ書房 (9784623076567)</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜紹介する</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 社会的養護Ⅱ | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 児童福祉施設での児童の養育について重要な責務を担うのが保育士である。その保育士に必要な専門的知識、技能について学ぶ、実際役立つ実践力を体得する。</p> <p>[授業概要] 児童福祉施設に入所する子どもたちの抱える問題は、今日、複雑・多様化してきている。それらの問題に対応する処遇方法について学ぶ。まず児童福祉施設での具体的事例等を通して、具体的な実践方法について学ぶ。また家庭型養護である里親制度の事例について検討する。その上で援助者としての価値観、子ども観、施設養護観等について学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 2回生の社会的養護で学んだ原理、実際、現状等を再度学修しておくこと。 授業の進め方として、毎回学生に進行してもらいます。主体的に取り組んでください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・児童養護の基本的理解 2. 児童福祉施設での処遇の現状① 3. 児童福祉施設での処遇の現状② 4. 児童福祉施設等での実際① 5. 児童福祉施設等での実際② 6. 児童福祉施設等での実際③ 7. 児童福祉施設等での実際④ 8. 児童福祉施設等での実際⑤ 9. その他の施設での現状理解 10. 障がい児施設での実際① 11. 里親制度での実際① 12. 里親制度での実際② 13. まとめ、今後の課題 | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 社会的養護Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] 最終レポートと授業中での積極的授業参加状況、小テスト等で評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業で評価し、レポートを返却します</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] 事例で学ぶ社会的養護 著者名:大西 雅裕、浦田 雅夫、阪野 学、山川 宏和 著 出版社:八千代出版 (978-4-8429-1805-1)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 適宜紹介します。</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 社会的養護Ⅱ | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 児童福祉施設での児童の養育について重要な責務を担うのが保育士である。その保育士に必要な専門的知識、技能について学ぶ、実際役立つ実践力を体得する。</p> <p>[授業概要] 児童福祉施設に入所する子どもたちの抱える問題は、今日、複雑・多様化してきている。それらの問題に対応する処遇方法について学ぶ。まず児童福祉施設での具体的事例等を通して、具体的な実践方法について学ぶ。また家庭型養護である里親制度の事例について検討する。その上で援助者としての価値観、子ども観、施設養護観等について学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 2回生の社会的養護で学んだ原理、実際、現状等を再度学修しておくこと。 授業の進め方として、毎回学生に進行してもらいます。主体的に取り組んでください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・児童養護の基本的理解 2. 児童福祉施設での処遇の現状① 3. 児童福祉施設での処遇の現状② 4. 児童福祉施設等での実際① 5. 児童福祉施設等での実際② 6. 児童福祉施設等での実際③ 7. 児童福祉施設等での実際④ 8. 児童福祉施設等での実際⑤ 9. その他の施設での現状理解 10. 障がい児施設での実際① 11. 里親制度での実際① 12. 里親制度での実際② 13. まとめ、今後の課題 | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 社会的養護Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] 最終レポートと授業中での積極的授業参加状況、小テスト等で評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業で評価し、レポートを返却します</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] 事例で学ぶ社会的養護 著者名:大西 雅裕、浦田 雅夫、阪野 学、山川 宏和 著 出版社:八千代出版 (978-4-8429-1805-1)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 適宜紹介します。</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 社会福祉 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 保育士として保育実践を行う専門職の基礎的体系として社会福祉はその基盤をなす。社会福祉の本質、目的、価値、方法等を理解し、実践力を高めることを目標とする。</p> <p>[授業概要] 必然的所産として社会福祉が体系化されている現代社会の現状を把握し、保育実践への基礎体系構築のために社会福祉の定義、理念等や、制度施策、実践活動等の現状について学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 社会福祉は、この社会の中で起こっている事象をその対象とします。今日の社会で起こっていることに注目し主体的にとらえておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス「社会福祉とは何か」 2. 社会福祉の定義と基本的枠組み 3. 社会福祉の基本的枠組み(問題のとらえ方) 4. 社会福祉の基本的枠組み(援助資源とその方法) 5. 社会福祉の現代的背景 6. 社会福祉の価値と倫理 7. 社会福祉の制度 8. 社会福祉の担い手 9. 社会福祉援助技術について 10. 社会福祉援助技術について 11. 社会福祉の分野① 12. 社会福祉の分野② 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 社会福祉 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] 最終試験によって評価を行う。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業で評価、アドバイスをします</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 新ブリマーズ 社会福祉 第6版 著者名:石田慎二・山縣文治編著 出版社:ミネルヴァ書房 (9784620000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 福祉小六法2021 著者名:大阪ボランティア協会(編集) 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-8223-8)</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----------------|------|
| 科目名 | 障がい児保育 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>①障がいに対する理念や障害の種類、特性を理解している。 ②保育場面で出来る配慮や環境の工夫などを理解している</p> <p>[授業概要]</p> <p>障がい児保育の歴史と現状を把握する。神経心理学的な立場から脳の発達と障害を理解し、保育・教育場面で出逢うことの多い障害を中心に概説する。具体的には、障害の基本特性について平易に解説し、支援・指導の方向性について考え、幼稚園教諭、保育士、保育教諭として子どもの発達上の混乱の解消、支援の方法を学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>教科書及び事前に指示された資料は必ず目を通すこと。 各回、予習復習あわせて2時間程度の自主学習が必要です</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションー障害とはー 2. 障がい児保育のあゆみ 3. 障害のある子どもの通う療育・保育機関とかかわる人々について 4. 障害児保育の基本と取り組み方 5. 障害のある子どもの家族の心理 6. 小学校・特別支援学校との連携 7. グループワーク:障がい児保育の実際① 知的障害の理解と保育のポイント 8. グループワーク:障がい児保育の実際② 肢体不自由の理解と保育のポイント 9. グループワーク:障がい児保育の実際③ 視覚障害の理解と保育のポイント 10. グループワーク:障がい児保育の実際④ 聴覚障害の理解と保育のポイント 11. グループワーク:障がい児保育の実際⑤ 発達障害の理解と保育のポイント1ーASD 12.グループワーク:障がい児保育の実際 ⑥ 発達障害の理解と保育のポイント2ーADHDとLD 13.まとめ | | | |

| | | | |
|--------|--------|----|------|
| 科目名 | 障がい児保育 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |

[成績評価方法]

レポート試験と講義中にしばしば実施する小テスト(小レポートを含む)ならびにグループワークを総合的に評価する(レポート試験・小テスト70%、グループワーク30%)。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

フィードバックは口頭で行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

なし 適宜指示する

[参考書(ISBN)]

適宜指示する。

| | | | |
|---|--------|----------------|------|
| 科目名 | 障がい児保育 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>①障がいに対する理念や障害の種類、特性を理解している。 ②保育場面で出来る配慮や環境の工夫などを理解している</p> <p>[授業概要]</p> <p>障がい児保育の歴史と現状を把握する。神経心理学的な立場から脳の発達と障害を理解し、保育・教育場面で出逢うことの多い障害を中心に概説する。具体的には、障害の基本特性について平易に解説し、支援・指導の方向性について考え、幼稚園教諭、保育士、保育教諭として子どもの発達上の混乱の解消、支援の方法を学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>教科書及び事前に指示された資料は必ず目を通すこと。 各回、予習復習あわせて2時間程度の自主学習が必要です</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションー障害とはー 2. 障がい児保育のあゆみ 3. 障害のある子どもの通う療育・保育機関とかかわる人々について 4. 障害児保育の基本と取り組み方 5. 障害のある子どもの家族の心理 6. 小学校・特別支援学校との連携 7. グループワーク:障がい児保育の実際① 知的障害の理解と保育のポイント 8. グループワーク:障がい児保育の実際② 肢体不自由の理解と保育のポイント 9. グループワーク:障がい児保育の実際③ 視覚障害の理解と保育のポイント 10. グループワーク:障がい児保育の実際④ 聴覚障害の理解と保育のポイント 11. グループワーク:障がい児保育の実際⑤ 発達障害の理解と保育のポイント1ーASD 12.グループワーク:障がい児保育の実際 ⑥ 発達障害の理解と保育のポイント2ーADHDとLD 13.まとめ | | | |

| | | | |
|--------|--------|----|------|
| 科目名 | 障がい児保育 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |

[成績評価方法]

レポート試験と講義中にしばしば実施する小テスト(小レポートを含む)ならびにグループワークを総合的に評価する(レポート試験・小テスト70%、グループワーク30%)。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

フィードバックは口頭で行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

なし 適宜指示する

[参考書(ISBN)]

適宜指示する。

| | | | | |
|--|---------|--|----------------|------|
| 科目名 | 小学校基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | △ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校教員として求められる実践的指導力に結びつく基本力となるコミュニケーション力やソーシャルスキル、プレゼンテーション力、教育的観察眼、教科指導に必要な知識等を養う。</p> <p>[授業概要] 現代の小学校の教育課題等をテーマとして、ワークショップやグループディスカッション等により教育的関心を高め、発表や表現等のスキルを高める。また、3回の5教科基礎テストをにより、基本的な知識定着を確かめる機会とする。(なお、小学校訪問で、教育の実情を学ぶ機会をつくることもある。)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日頃から、学校教育に対して関心を持ち、文献等で考察を深めておく。(各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、基礎テスト1 2. めざす教師像、学級づくりについて 3. テストのふりかえり、学校現場の課題(1) 4. 学校現場の課題(2) 5. 教育に関する新聞(ネット)記事を読んでプレゼンテーション(1) 6. 教育に関する新聞(ネット)記事を読んでプレゼンテーション(2) 7. 基礎テスト2、各ゼミの課題研究(1)又は小学校訪問事前準備 8. 各ゼミの課題研究(2)又は小学校訪問 9. ワークショップ型の学び(1) 10. ワークショップ型の学び(2)、テストのふりかえり 11. 学校インターンシップ(学校観察)等の報告と討議(1) 12. 学校インターンシップ(学校観察)等の報告と討議(2)、基礎テスト3 13. テストのふりかえり・まとめ <p>※ 順番は、入れ替わることがあります。 ※ 学校観察として小学校見学等の実地学習を行うことがあります。(曜日変更あり)</p> | | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 小学校基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度(40%)授業中の発表(30%) 基礎テスト(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出課題テストについては、授業内で返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>[教科書(ISBN)] なし(プリントを配布)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|--|---------|--|----------------|------|
| 科目名 | 小学校基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | △ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校教員として求められる実践的指導力に結びつく基本力となるコミュニケーション力やソーシャルスキル、プレゼンテーション力、教育的観察眼、教科指導に必要な知識等を養う。</p> <p>[授業概要] 現代の小学校の教育課題等をテーマとして、ワークショップやグループディスカッション等により教育的関心を高め、発表や表現等のスキルを高める。また、3回の5教科基礎テストをにより、基本的な知識定着を確かめる機会とする。(なお、小学校訪問で、教育の実情を学ぶ機会をつくることもある。)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日頃から、学校教育に対して関心を持ち、文献等で考察を深めておく。(各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、基礎テスト1 2. めざす教師像、学級づくりについて 3. テストのふりかえり、学校現場の課題(1) 4. 学校現場の課題(2) 5. 教育に関する新聞(ネット)記事を読んでプレゼンテーション(1) 6. 教育に関する新聞(ネット)記事を読んでプレゼンテーション(2) 7. 基礎テスト2、各ゼミの課題研究(1)又は小学校訪問事前準備 8. 各ゼミの課題研究(2)又は小学校訪問 9. ワークショップ型の学び(1) 10. ワークショップ型の学び(2)、テストのふりかえり 11. 学校インターンシップ(学校観察)等の報告と討議(1) 12. 学校インターンシップ(学校観察)等の報告と討議(2)、基礎テスト3 13. テストのふりかえり・まとめ <p>※ 順番は、入れ替わることがあります。 ※ 学校観察として小学校見学等の実地学習を行うことがあります。(曜日変更あり)</p> | | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 小学校基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度(40%)授業中の発表(30%) 基礎テスト(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出課題テストについては、授業内で返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>[教科書(ISBN)] なし(プリントを配布)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|--|---------|--|----------------|------|
| 科目名 | 小学校基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | △ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校教員として求められる実践的指導力に結びつく基本力となるコミュニケーション力やソーシャルスキル、プレゼンテーション力、教育的観察眼、教科指導に必要な知識等を養う。</p> <p>[授業概要] 現代の小学校の教育課題等をテーマとして、ワークショップやグループディスカッション等により教育的関心を高め、発表や表現等のスキルを高める。また、3回の5教科基礎テストをにより、基本的な知識定着を確かめる機会とする。(なお、小学校訪問で、教育の実情を学ぶ機会をつくることもある。)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日頃から、学校教育に対して関心を持ち、文献等で考察を深めておく。(各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、基礎テスト1 2. めざす教師像、学級づくりについて 3. テストのふりかえり、学校現場の課題(1) 4. 学校現場の課題(2) 5. 教育に関する新聞(ネット)記事を読んでプレゼンテーション(1) 6. 教育に関する新聞(ネット)記事を読んでプレゼンテーション(2) 7. 基礎テスト2、各ゼミの課題研究(1)又は小学校訪問事前準備 8. 各ゼミの課題研究(2)又は小学校訪問 9. ワークショップ型の学び(1) 10. ワークショップ型の学び(2)、テストのふりかえり 11. 学校インターンシップ(学校観察)等の報告と討議(1) 12. 学校インターンシップ(学校観察)等の報告と討議(2)、基礎テスト3 13. テストのふりかえり・まとめ <p>※ 順番は、入れ替わることがあります。 ※ 学校観察として小学校見学等の実地学習を行うことがあります。(曜日変更あり)</p> | | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 小学校基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度(40%)授業中の発表(30%) 基礎テスト(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出課題テストについては、授業内で返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>[教科書(ISBN)] なし(プリントを配布)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|--|---------|--|----------------|------|
| 科目名 | 小学校基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 村田 恵子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | △ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校教員として求められる実践的指導力に結びつく基本力となるコミュニケーション力やソーシャルスキル、プレゼンテーション力、教育的観察眼、教科指導に必要な知識等を養う。</p> <p>[授業概要] 現代の小学校の教育課題等をテーマとして、ワークショップやグループディスカッション等により教育的関心を高め、発表や表現等のスキルを高める。また、3回の5教科基礎テストをにより、基本的な知識定着を確かめる機会とする。(なお、小学校訪問で、教育の実情を学ぶ機会をつくることもある。)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日頃から、学校教育に対して関心を持ち、文献等で考察を深めておく。(各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、基礎テスト1 2. めざす教師像、学級づくりについて 3. テストのふりかえり、学校現場の課題(1) 4. 学校現場の課題(2) 5. 教育に関する新聞(ネット)記事を読んでプレゼンテーション(1) 6. 教育に関する新聞(ネット)記事を読んでプレゼンテーション(2) 7. 基礎テスト2、各ゼミの課題研究(1)又は小学校訪問事前準備 8. 各ゼミの課題研究(2)又は小学校訪問 9. ワークショップ型の学び(1) 10. ワークショップ型の学び(2)、テストのふりかえり 11. 学校インターンシップ(学校観察)等の報告と討議(1) 12. 学校インターンシップ(学校観察)等の報告と討議(2)、基礎テスト3 13. テストのふりかえり・まとめ <p>※ 順番は、入れ替わることがあります。 ※ 学校観察として小学校見学等の実地学習を行うことがあります。(曜日変更あり)</p> | | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 小学校基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 村田 恵子 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度(40%)授業中の発表(30%) 基礎テスト(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出課題テストについては、授業内で返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験・課題発表・レポート課題</p> <p>[教科書(ISBN)] なし(プリントを配布)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 初等教育実習 I | 後期～2025年度 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 授業力・指導力・教師力・学校力の基礎・基本を学ぶ | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力や指導力、教師力、学校力の違いを理解することができる。 ・子どもから学ぶとは、どういうことかを具体的に論じることができる。 ・学習指導や生徒指導などの具体的な場面をもとに学び、自分の力点を自覚できる。 <p>[授業概要]</p> <p>各学校での管理職をはじめ校務担当教員の講話、学級担任・教科担任の指導を受けて、観察実習を中心に、教科指導力の向上を図る。また、教科指導のほか、生徒指導をはじめとする校務にも携わり、実践的な指導力の向上を図る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各教科指導法の概要・学習指導案の作成、人権・学級経営・生徒指導等の学校での学習指導に必要な事項について、その概要を復習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>事前指導(宮本)</p> <p>学校実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職の講話 ・校務担当教職員の講話と指導 ・校務処理の仕方について ・学級担任の指導、学級経営の実際 ・教科担任の指導と観察実習 ・学習指導案の作成と指導 ・授業実践と指導 ・大学教員の指導等 ・研究授業と反省 ・実習のまとめ <p>事後指導(宮本)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習後の課題の整理等 | | | |

| | | | |
|--------|--------------------------|--------------|------|
| 科目名 | 初等教育実習 I | 後期～2025年度 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 授業力・指導力・教師力・学校力の基礎・基本を学ぶ | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎 | | |

[成績評価方法]

実習状況(40%)、実習校からの評価資料(40%)、実習記録等(20%)
実習記録はコメントを記入の上本人に返却する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

不十分なレポート等については、個別に指導を行い再提出を求める。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

適宜プリント等を配付

[参考書(ISBN)]

各自調達のこと

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 初等教育実習 I | 前期～後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美、山成 昭世 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] これまで習得してきた知識や技能を基盤にして、教育実習を経験することにより、幼児教育の場で活躍できる実践力を養う。また、今後の課題を見つけ、将来の展望をしっかりと持てるようになる。</p> <p>[授業概要] 幼稚園で幼児と共に生活し、保育者や大学教員の指導を受けながら、観察実習、部分実習、1日実習を経験する。また、様々な行事への取り組みや学級の管理運営、教員の服務に関すること等幼児教育の全般にわたり実習を経験する。さらに、園外保育、預かり保育、未就園児保育、園庭開放に参加しながら、それぞれの役割や意義を知る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教育実習指導で学んだことを基礎に復習すること</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前指導(実習の心得・実習内容と方法・実習記録の書き方等) 2. オリエンテーション 3. 観察実習・部分実習・1日実習 4. 実習記録・指導案作成 5. 研究保育・反省会 6. 園長講話・大学教員指導 7. 事後指導(今後の課題・実習の活用・将来への展望等) | | | |

| | | | |
|---|-------------|-------|------|
| 科目名 | 初等教育実習 I | 前期～後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美、山成 昭世 | | |
| <p>[成績評価方法] 実習園の評価(60%)、実習記録(20%)、実習態度(20%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (9.78E+12)</p> | | | |

S60241 [LKH3-015]

| | | | |
|---|-----------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 初等教育実習Ⅱ | 後期～2025年度 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 授業力・指導力・教師力・学校力の基礎・基本をさらに学ぶ | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力や指導力、教師力、学校力の違いを一段と理解することができる。 ・子どもから学ぶや先輩教師から学ぶとは、どういうことかを具体的に論じることができる。 ・学習指導や生徒指導などの具体的な場面をもとに、子供への関わり方をさらに追究する。 <p>[授業概要]</p> <p>各学校での管理職をはじめ校務担当教員の講話、学級担任・教科担任の指導を受けて、観察実習を中心に、教科指導力の向上を図る。また、教科指導のほか、生徒指導をはじめとする校務にも携わり、実践的な指導力の向上を図る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各教科指導法の概要・学習指導案の作成、人権・学級経営・生徒指導等の学校での学習指導に必要な事項について、その概要を復習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>事前指導(宮本)</p> <p>学校実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職の講話 ・校務担当教職員の講話と指導 ・校務処理の仕方について ・学級担任の指導、学級経営の実際 ・教科担任の指導と観察実習 ・学習指導案の作成と指導 ・授業実践と指導 ・大学教員の指導等 ・研究授業と反省 ・実習のまとめ <p>事後指導(宮本)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習後の課題の整理等 | | | |

| | | | |
|---|-----------------------------|--------------|------|
| 科目名 | 初等教育実習Ⅱ | 後期～2025年度 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 授業力・指導力・教師力・学校力の基礎・基本をさらに学ぶ | 実習 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎 | | |
| <p>[成績評価方法] 実習状況(40%)、実習校からの評価資料(40%)、実習記録等(20%) 実習記録はコメントを記入の上本人に返却する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 不十分なレポート等については、個別に指導を行い再提出を求める。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 適宜プリント等を配付</p> <p>[参考書(ISBN)] 各自調達のこと</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 初等教育実習Ⅱ | 前期～後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美、山成 昭世 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] これまで習得してきた知識や技能を基盤にして、教育実習を経験することにより、幼児教育の場で活躍できる実践力を養う。また、今後の課題を見つけ、将来の展望をしっかりと持てるようになる。</p> <p>[授業概要] 幼稚園で幼児と共に生活し、保育者や大学教員の指導を受けながら、観察実習、部分実習、1日実習を経験する。また、様々な行事への取り組みや学級の管理運営、教員の服務に関すること等幼児教育の全般にわたり実習を経験する。さらに、園外保育、預かり保育、未就園児保育、園庭開放に参加しながら、それぞれの役割や意義を知る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教育実習指導で学んだことを基礎に復習すること</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前指導(実習の心得・実習内容と方法・実習記録の書き方等) 2. オリエンテーション 3. 観察実習・部分実習・1日実習 4. 実習記録・指導案作成 5. 研究保育・反省会 6. 園長講話・大学教員指導 7. 事後指導(今後の課題・実習の活用・将来への展望等) | | | |

| | | | |
|---|-------------|-------|------|
| 科目名 | 初等教育実習Ⅱ | 前期～後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美、山成 昭世 | | |
| <p>[成績評価方法] 実習園の評価(60%)、実習記録(20%)、実習態度(20%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (9.78E+12)</p> | | | |

S60251 [LKH3-016]

| | | | |
|---|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 初等教育実習Ⅲ | 前期～後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 黒田 昌克、宮本 晃郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] これまで習得してきた知識や技能を基盤にして、教育実習を経験することにより、幼児教育の場で活躍できる実践力を養う。また、今後の課題を見つけ、将来の展望をしっかりと持てるようになる。</p> <p>[授業概要] 幼稚園で幼児と共に生活し、保育者や大学教員の指導を受けながら、観察実習、部分実習、1日実習を経験する。また、様々な行事への取り組みや学級の管理運営、教員の服務に関すること等幼児教育の全般にわたり実習を経験する。さらに、園外保育、預かり保育、未就園児保育、園庭開放に参加しながら、それぞれの役割や意義を知る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教育実習指導(幼)で学んだことを基礎に復習すること</p> <p>[授業計画] 幼稚園実習 ・観察実習・部分実習・1日実習 ・実習記録・指導案作成 ・研究保育・反省会 ・園長講話・大学教員指導</p> <p>事後指導 ・実習記録へのフィードバック ・実習後の課題の整理等 ・初等教育実習指導(幼)との合同報告会</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------|-------|------|
| 科目名 | 初等教育実習Ⅲ | 前期～後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 黒田 昌克、宮本 晃郎 | | |
| <p>[成績評価方法] 実習状況(40%)、実習園からの評価・実習態度(40%)、事後指導での評価(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:実習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:実習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:実習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:実習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:実習態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習態度、実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習態度、実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習態度、実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習態度、実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習態度、実習記録</p> <p>[教科書(ISBN)] 配布資料等</p> <p>[参考書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (9.78E+12)</p> | | | |

S60255 [LKH3-017]

| | | | |
|--|---------------|----------------|------|
| 科目名 | 初等教育実習指導(小) | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 充実した教育実習を目指して | 講義 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 学校現場で教育実習を行うために必要な心得や基礎的知識・技能を身に付ける。 学習指導や生徒指導・子供理解・学級経営等に携わることができる素地を身に付ける。 自らの教育実習を評価し、課題を整理して今後の力点を具体的に設定できる。</p> <p>[授業概要] 教育実習参加の前提として、事前・事後指導の履修が課せられている。本講義は、教育職員免許法の趣旨に基づき、これまでに学修した関係科目の内容の総合的理解を図り、教育実習生として必要な心得や行動、教科指導や生徒指導、学級経営に携わる素地を身につけるとともに、児童との人間的な関わりを通して、教師としての責務や使命を感得する。また、模擬授業を実施することにより、各教科の指導法で学んだ内容を基礎として、学習指導案の書き方や授業実践の方法を整理していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業資料や参考書・書籍、論文等で授業内容をさらに深め自分のものとしていくこと。 受け身に回ることなく、学習内容についての質問事項等を準備したうえで受講すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義と目的(実習内容と方法・現場の変化・求められる資質・能力) 2. 教育実習の準備(観察・参加・実習の流れ・教育実習ノートの活用の仕方など) 3. 子供理解と生徒指導①(子供の表現・教師の観察力と想像力・言葉かけの違い等) 4. 子供理解と生徒指導②(子供の背景・教師間や関係機関との連携・組織的対応等) 5. 授業づくりのポイント①(素材研究と教材研究・一単位時間の授業の組み立て等) 6. 授業づくりのポイント②(発問や指示、板書、資料づくり、学習環境、ICT等) 7. 教育実習受け入れ校の校長講話(教師のやりがい・すばらしい実習に向けての助言) 8. 模擬授業の演習と意見交換①(素材研究と教材研究の違いに着目して) 9. 模擬授業の演習と意見交換②(単元計画と1単位時間の目標に着目して) 10. 模擬授業の演習と意見交換③(発問や説明、指示、指名、板書等に着目して) 11. 模擬授業の演習と意見交換④(ICT活用や学習形態、体験的活動に着目して) 12. 教育実習前後の事務手続きと最終準備(実習校打ち合わせ・挨拶・礼状書き方等) 13. 教育実習指導のまとめ(あらゆる場面での質問・疑問に対する回答と意見交換) | | | |

| | | | |
|--------|---------------|----|------|
| 科目名 | 初等教育実習指導(小) | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 充実した教育実習を目指して | 講義 | |
| 担当者 | 宮本 晃郎 | | |

[成績評価方法]

模擬授業と授業計画レポート(50%)、学習態度・グループワーク(30%)
その他の課題レポート(20%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

manabaを積極的に活用し、その都度のコメント等でフィードバックを行う。
模擬授業については教職支援センター又は研究室等にて個別指導も可。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範
やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿
勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決
方法を見出せる能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

「教育実習の手引きと記録」授業時に配布予定 著者名:神戸女子大学 出版社:神戸女子大学

[参考書(ISBN)]

なし

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 初等教育実習指導(幼) | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 植田 恵理子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育実習の意義や目的を理解し、目的の達成をより確かなものにするため、この授業を行う。これまで学んできた知識や技術を基に、指導記録、指導計画、模擬保育等に対して実践的に学び、必要な教育力の向上を目指すことにより、実習を意味のある有意義な経験にすることができるようにする。また、授業内で、各自の幼稚園での指導に対する課題を見つける。</p> <p>[授業概要] この授業では、実習の意義と目的の理解、実習に関わる具体的方法の理解の基、幼稚園での観察・責任実習等の流れを把握し、記録の書き方、指導案の立案について学ぶ。また、実習中の「留意点」や、「様々な立場の子どもに対しての関わり」を理解した上で、具体的な対応や声掛けについても模擬保育を通して学ぶ。教育実習生として必要な態度や行動を考え、自らの課題を見つけて取り組み、幼稚園実習の準備をしていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 「幼児教育指導法」を始め、保育内容等の関連科目、支援が必要な子どもとのかかわりについて学習しておくこと。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 実習の意義と目的 2. 実習の内容の理解 実習方法の理解 3. 実習中の留意点 支援が必要な子ども 4. 実習計画と記録の理解① 記録を取ることの意義・目的 5. 実習計画と記録の理解② 実習記録の具体的内容 記録の方法 6. 実習計画と記録の理解③ 実習記録のまとめ 7. 指導計画と指導案① 指導計画の内容の理解と指導案の具体的内容 8. 指導計画と指導案② 指導案の作成方法 9. 指導計画と指導案③ 指導案のまとめ 10. 3歳児の指導案と模擬保育 振り返り 11. 4歳児の指導案と模擬保育 振り返り 12. 5歳児の指導案と模擬保育 振り返り 13. 実習事前オリエンテーション(実習報告会との合同授業)</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----|------|
| 科目名 | 初等教育実習指導(幼) | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 植田 恵理子 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への取り組み20% 授業内発表 30% 提出物 50% (本講義科目は、必須である「教育実習」の事前指導にあたるもので、これを履修・修得していなければ、幼稚園実習に参加することが認められない)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出物については、次回の講義時に、学生に役立つ点、留意点等を取り上げ、適宜解説を実施する。授業内の発表については、発表終了時にフィードバックを行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (9784580000000)</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 初等教育実習指導(幼) | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] これまで習得してきた知識や技能を基盤にして、有意義な教育実習を経験できるように、実習記録や指導計画の作成を行うとともに、実習の意義を確認する。</p> <p>[授業概要] 「初等教育実習履修の前提として、事前・事後指導の必修が課せられている。本講義は、教育職員免許法の趣旨に基づいて行うものである。現在まで学修した関係科目の内容を総合的にまとめて理解し、教育実習生として必要な態度や行動を身につける。また自己の課題を明確にしつつ、将来幼稚園の教員として有効に生かせるように学修する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 「幼児教育指導法」を含め、関連科目を学修</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.観察とは—観察の視点 3.記録とは—記録の練習 4.幼稚園見学(学外) 5.幼稚園見学(学外) 幼稚園の概要説明 6.指導案作成 7.指導案振り返り 8.子どもの絵本について 9.幼児期の特別支援教育 10.外部講師による、実習に対する心構え 11.グループワーク (実習に対する疑問など) 12.記録のとりかた 13.実習の手続き、実習中のトラブルの対応</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------|----|------|
| 科目名 | 初等教育実習指導(幼) | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業参加度(50%) 提出物 レポート(50%) 授業参加度は積極的発言、行動、respon等で評価をします。 提出物レポートは、締め切り、形式も含め、内容を評価します。</p> <p>(本講義科目は、必須出会う「初等教育実習」の事前指導に当たるもので、これを履修・修得していなければ幼稚園実習に参加することが認められない)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:授業参加度 提出物 レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:提出物 レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:授業参加度 提出物 レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度 提出物 レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:提出物 レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館</p> | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------------|------|
| 科目名 | 人権教育 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>manabaで小テスト実施。manabaで新聞記事を読み、アクチュアルな問題について意見をまとめる。</small> | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

「生きる力」を育む教育活動において重要となる、基本的な人権に関する知識を習得し、現実にも人権問題に直面した時に的確な判断を行い対処できる能力が身につく。

[授業概要]

本講義では西洋近代における自然法思想における「自然権」を始点として、18世紀啓蒙思想における人権の意義と人権尊重の理念を把握し、人権という概念が、自由の概念とともに確立されてきたことを歴史的に認識する。さらに現代の日本に目を向け、学校、家庭および地域社会の中で様々な状況において台頭する人権の問題を、身近な例を取り上げながら学ぶ。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

指定された文献・資料に目を通して疑問点を見つけしておく。日頃から人権に関する時事問題に関心を持つように努めること。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]

1. 人権とは何か。人権問題とは何か。
2. 人権の意義と理念(1) ロック、ホブズにおける自然権
3. 人権の意義と理念(2) ルソーとフランス革命
4. 人権の意義と理念(3) 国連世界人権宣言と日本国憲法
5. 先住民および在日外国人の人権
6. 障害者の人権
7. 高齢者の人権
8. 女性の人権(1) 家庭における女性
9. 女性の人権(2) 社会における女性
10. 同和教育(1) 部落の歴史: 中世から江戸時代、DVD鑑賞
11. 同和教育(2) 部落の歴史: 明治以降、DVD鑑賞
12. 子供の人権
13. 総括

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 人権教育 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |
| <p>[成績評価方法] 期末試験(100%)、授業態度、小テストの提出等も考慮する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験の解答例は学内ウェブで公表する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:筆記試験、授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、小テスト</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。別途プリント配付。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] 『人権をめぐる十五講—現代の難問に挑む(岩波現代全書)』2013年 テキストを購入する必要はない。 著者名:辻村 みよ子 出版社:岩波書店 (なし。) これでわかった!部落の歴史—私のダイガク講座 (購入必要なし) 著者名:上杉聡 出版社:解放出版社 (978-4759240405)</p> | | | |

| | | | |
|--|------------|----------------|------|
| 科目名 | 図画工作科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 図画工作の基礎を学ぶ | 講義 | |
| 担当者 | 守本 智美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 造形能力を育成し、美術を愛好する豊かな心と情操を養い、感性を高めることを目標とする。</p> <p>[授業概要] 小学校学習指導要領の中で示されている、図画工作科の目標をもとに、その実現に向けて必要な能力修得の為、児童の表現実態の理解を深めると共に、美術造形の表現の基礎実習、学習指導計画及び指導案の作成、並びに美術作品の鑑賞等を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。美術についての参考書籍を読んだり、質の高い作品作りを心がけるとともに、美術作品を日頃から美術館や画集等で見て、鑑賞眼を養うこと。 manaba(マナバ)にて授業に必要な連絡をするので、必ずmanabaに登録しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.はじめに(manaba上にて指示します) 授業の進め方 準備物等について 2.学習指導要領にみる図画工作科の目標、内容、指導計画、指導案等について 3写真、パソコン等の情報機器の操作と活用方法について 4.鉛筆デッサンstep1 5.鉛筆デッサンstep2 6.モダンテクニックを使った作品作りstep1(スパッタリング等) 7.モダンテクニックを使った作品作りstep2 8.作品の中間提出とプレゼンテーション 9.風景画の制作step1 10.風景画の制作step2 11.素材・表現 作品制作 12.日本美術史上の芸術作品の作例鑑賞と感想 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--------|------------|----|------|
| 科目名 | 図画工作科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 図画工作の基礎を学ぶ | 講義 | |
| 担当者 | 守本 智美 | | |

[成績評価方法]

レポート(40%)・課題作品(60%)による総合評価。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

manaba等にて質問、課題作品等に対するアドバイス、コメント要望を受け付けます。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:レポート(40%)・課題作品(60%)

学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。

成績評価方法:レポート(40%)・課題作品(60%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:レポート(40%)・課題作品(60%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:レポート(40%)・課題作品(60%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:レポート(40%)・課題作品(60%)

[教科書(ISBN)]

小学校学習指導要領解説 図画工作編 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版株式会社 (978-4-536-59011-2)

[参考書(ISBN)]

『図画工作・美術 用具用法事典』 著者名:相田盛二 著 出版社:日本文教出版 (978-4-7830-40050-7)

| | | | |
|--|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 図画工作科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 図画工作を理解する | 講義 | |
| 担当者 | 守本 智美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 授業の到達目標及びテーマ 「図画工作科概説」で学んだ技法、材料、用具、表現等の基礎的な知識や内容をもとに、それらをさらに発展させ幅広い美術教育分野に通じた、感性豊かな実践力のある教員を育成することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図画工作科の目標と指導内容、指導方法、指導計画、評価等を理解すること。 2. 様々な造形表現、技術、技能を身に着け、鑑賞教育にも精通すること。 3. 授業構成力を身に着け、情報機器も適切に扱える授業展開が出来るようになること。 <p>[授業概要] 小学校学習指導要領の中で示されている、図画工作科の目標をもとに、その実現に向けて児童の表現に対する理解を深め、美術造形の表現の基礎実習、カメラやコンピュータ等の情報機器の操作を取り入れた作品制作や図画工作の授業の構成方法の考察を行う。また学習指導計画及び指導案の作成の仕方について学び、模擬授業学習並びにスマートフォン等の操作を取り入れた作品検索による美術作品の鑑賞等を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。授業に関係する美術書籍類をよく読み、各回の授業内容を理解できるようにしておくこと。また美術館にも出かけて美術作品にも日頃から慣れ親しんでおくこと。 manaba(マナバ)にて授業に必要な連絡をするので、必ずmanabaに登録しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.はじめに(manaba上にて指示します) 授業の進め方 準備物等について 2.色と形の理解((彩色、切り紙、コラージュ等) 3.作品制作実習step1 4.作品制作実習step2 5.折り紙等の作品制作実習 6.課題の中間提出とプレゼンテーション 7.材料、用具、技法について 8.工作の作品制作実習(カード作り等)step1 9.工作の作品制作実習step2 10.美術史上の芸術作品の作例鑑賞(西洋美術を中心として) 素材、表現をめぐって 11.図画工作科の学習指導要領に示された目的と内容の理解、学習指導案の作成方法 12.写真等の情報機器の教材の授業への活用方法について (カメラ、通信機器等を用いた授業構成の実践) 13.作品制作による模擬授業の研究及びまとめ | | | |

| | | | |
|--|-----------|----|------|
| 科目名 | 図画工作科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 図画工作を理解する | 講義 | |
| 担当者 | 守本 智美 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(50%)・課題作品(50%)による総合評価。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manaba等にて質問、課題作品等に対するアドバイス、コメント要望を受け付けます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:レポート(50%)・課題作品(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:レポート(50%)・課題作品(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:レポート(50%)・課題作品(50%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(50%)・課題作品(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート(50%)・課題作品(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート(50%)・課題作品(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート(50%)・課題作品(50%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 小学校学習指導要領解説 図画工作編 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版株式会社 (978-4-536-59011-2)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 授業中に指示する</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 図画工作科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 安部 永 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 将来、小学校や幼稚園などの教育現場で役立つ立体造形や工作の知識・技能を習得します。 子どもたちに指導できるように、基本的な道具素材(のこぎり、金づち、ねんど等)の使い方、特性を理解します。</p> <p>[授業概要] 立体造形の中で、主に粘土による制作を中心にします。対象をじっくり見つめ観察し、粘土で制作します。また、石膏や焼き物にも挑戦します。少し本格的な作業ですが、さまざまなことが学べます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業の制作内容をふりかえり、次回の授業に向け制作の手順を確認しておくこと。普段よりパブリックアートに関心を持つよう心がけること</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業進行・成績評価等の説明、立体造形や工作で使用する道具や素材についての解説 2. 粘土を楽しもう、粘土や身の回りの物をつかって楽しい作品作り 3. 粘土による制作(粘土遊び) 4. 粘土による制作(象嵌技法について) 5. 粘土による制作(手ひねりの練習) 6. 石膏でかたどる造形(石膏を使ってみよう) 7. 石膏でかたどる造形(石膏素材に慣れる) 8. 石膏でかたどる造形(石膏型の完成) 9. 彩色(立体作品に色をつけよう) 10. げずって作る立体(素材紹介、素材体験) 11. げずって作る立体(大きく削る。のこぎり、金づち、ノミ、などを使って) 12. 作にも役立つ道具たち～のこぎり、金づち、ペンチなどを使ってみよう 13. 作品展示、鑑賞 | | | |

| | | | |
|---|-----------|----|------|
| 科目名 | 図画工作科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 安部 永 | | |
| <p>[成績評価方法] 作品(40%)、実技 (30%)、授業態度(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | Speaking & Listening I | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 圧倒的なインプットを浴びて、アウトプットも向上させよう。 | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 本物の英語をたくさん聞くことを通して、アウトプット(スピーキング力)を向上させる。英語を実際に聞き取れるようになる。</p> <p>[授業概要] 映画を聞き取りながらリスニング力を向上させます。映画の場面を毎回視聴しながら、台詞の聞き取りをします。その後、役柄になり切って、会話をしていきます。会話では、その人物のその時の感情を考えて、どのように発話すべきかを考えることが求められます。スピーキングへの心理的なハードルを下げることで、英語を使うことが確実に身に着きます。さらに、扱う映画作品を通して英国の歴史や文化といった背景知識も知ることとなるでしょう。英語教員となったときに豊富な話題を提供することも可能になります。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 英語が誕生した国、英国について興味をもって事前学習してくる。授業で学習した表現をつかって、日常でも応用してつかうことを目指してください。予習復習内容については授業で発言をしてください。おおよそ2時間程度が必要となるでしょう。</p> <p>[授業計画] 扱う映画作品は、The King's Speech です。 1. Opening 英国について背景知識を得る。 2. Complex 基礎的な聴解力を知る。 3. Searching for a Cure 聴解力向上のために努力する。 4. My Castle, My Rules 英国王室について背景知識を得る。 5. Unorthodox Lessons 英語の発音について深く知る。 6. King's Death 英国王室の歴史の基礎を知る。 7. Sibling Troubles 英国の王室の呼称、署名を知る。 8. Rise to the Throne 聴解力の向上の有無を確認する。 9. Starting Over 19世紀英国庶民の生活の一端を知る。 10. Uniting the People ジョージ6世について知る。 11. The King's speech 実際のスピーチを聴けるようになる。 12. Presentation1 聴解力と発話力を深める。 13. Presentation 2 & Closing 全体の振り返りとまとめとしてのレポート提出</p> | | | |

| | | | |
|---|------------------------------|----|------|
| 科目名 | Speaking & Listening I | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 圧倒的なインプットを浴びて、アウトプットも向上させよう。 | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への積極的参加度(60%)、最終レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 必要に応じて、コメントや解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:授業への主体的参加で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:最終レポートで評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:授業への主体的参加で評価します。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への主体的参加で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業への主体的参加で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:最終レポートで評価します。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし 毎回必要な資料を配布します。</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 必要に応じて授業で紹介します。</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|----------------|------|
| 科目名 | Speaking & Listening II | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 映画の英語を聞き取れるようになろう！ | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 本物の英語を聞き取れるようになる。 背景知識を知り、登場人物の感情を推し量り、言葉に感情を込めることが出来るようになる。 映画の鑑賞術を磨き、より深く映画鑑賞ができるようになる。</p> <p>[授業概要] 「習うより慣れろ」という言葉があるように、英語力向上のためには、本物の英語をたくさんインプットすることが有効です。この授業では、いまなお名作の名を冠している「ローマの休日」を素材に英語の聴解力を鍛えます。毎回の授業で、約15分程度のシーンを視聴した後、空欄を繰り返し聞きなおしてセリフを完成していきます。スクリプトが完成したら、ペアやグループで会話してみましょう。あなたもこの授業でヘップバーンになって歴史あるローマを旅してみましょう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 映画を深く鑑賞できるようになるために、舞台となっている土地や建物、その映画が撮影された時代、演者への知識といったことを総合的にまなぶことが必要でしょう。この映画が永遠の名作といわれる所以をあなたなりに調査し、分析してみましょう。さあ、あなたの「ローマの休日」論の始まりです。</p> <p>[授業計画] 以下のような計画で進めます。 第1回: イントロダクション:ローマの休日鑑賞の基礎 第2回: 探検のシーンから主人公の感情への洞察をする。 第3回: 出会いのシーンからローマへの背景知識をもてるようになる。 第4回: 一夜あけてのシーンから社会階層について考えてみる。 第5回: 自由な空気のシーンから王侯貴族への基礎知識を広げる。 第6回: スクープをものにしろのシーンから人間心理を考える。 第7回: カメラマンの技のシーンからローマの観光地を知る。 第8回: ダンスパーティのシーンからこの映画撮影時の流行について考える。 第9回: 人生の選択のシーンから女性の自立について考える。 第10回: 仕事それとも愛?のシーンから思いやりとはどういうことかを具体化する。 第11回: 二人だけの秘密のシーンから英語方言の奥深さを知る。 第12回: 別れのシーンからローマの休日続編を創作する。 第13回: そうまとめとレポート作成</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------------------------|----|------|
| 科目名 | Speaking & Listening II | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 映画の英語を聞き取れるようになろう！ | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |

[成績評価方法]

毎回の授業でのリスニング達成力(30%)、映画の背景知識への調査(30%)、レポート内容(40%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

提出されたレポートへは、評価ポイントを明確に周知するとともに、コメントを付すなどして後日返還します。授業では、調査してきた内容についての発表を求めますので、各自の視点で背景をさぐっていき、映画をより深く鑑賞できるようにしましょう。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:授業内でのリスニング力により評価します。

学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。

成績評価方法:映画の背景知識ならびにリスニング力により評価します。

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。

成績評価方法:レポート内容により評価します。

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:映画の背景知識、レポート内容により評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:映画の背景知識、レポート内容により評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:リスニング達成力により評価する。

[教科書(ISBN)]

なし

[参考書(ISBN)]

ローマや映画等に関する書籍等を紹介します。

| | | | |
|---|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 生活科概説 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼保・小をつなぐ生活科 | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 生活科の系譜と基本理念を理解し、教科の目標及び内容について習得するとともに、評価方法の概要を知り、実践力の基礎・基本を養う。また、幼保・小連携に関わる理論と実践も習得する。</p> <p>[授業概要] 生活科の教育実践は、小学校教育の入門時期における核となる教育活動である。幼保・小の連携においてその重要度は増してきており、生活科の基礎・基本を学ぶことは、遊びの学習化や探究(問題解決学習)の理念を習得することにつながる。創生期の教育理念や実践、学校や地域の特色を生かした活動、小学校のスタートカリキュラムも概観する。授業では、生活科授業実践の経験に基づく講義を行い、生活科の理論と方法に関する関心を高める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 生活科の理論と方法について、授業内容に即して学習指導要領の確認をしておくこと。授業の復習を行い、課題テストに備えること。(各回、予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活科とは 2. 遊びの理論から 3. 探究としての学習 4. 生活科の系譜① 5. 生活科の系譜② 6. 創生期の実践から 7. 幼児教育との接続 8. 生活科学習論 9. 学習指導要領の要点① 10. 学習指導要領の要点② 11. 生活科の学習指導 12. 生活科の評価 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|-------------|----|------|
| 科目名 | 生活科概説 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼保・小をつなぐ生活科 | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題等(50%)試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出課題については授業内又はmanabaで返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>[教科書(ISBN)] 生活科の原点を探究する 著者名:金岩俊明 出版社:黎明書房(9784654023639) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社(9784491034645)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 生活科概説 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼保・小をつなぐ生活科 | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 生活科の系譜と基本理念を理解し、教科の目標及び内容について習得するとともに、評価方法の概要を知り、実践力の基礎・基本を養う。また、幼保・小連携に関わる理論と実践も習得する。</p> <p>[授業概要] 生活科の教育実践は、小学校教育の入門時期における核となる教育活動である。幼保・小の連携においてその重要度は増してきており、生活科の基礎・基本を学ぶことは、遊びの学習化や探究(問題解決学習)の理念を習得することにつながる。創生期の教育理念や実践、学校や地域の特色を生かした活動、小学校のスタートカリキュラムも概観する。授業では、生活科授業実践の経験に基づく講義を行い、生活科の理論と方法に関する関心を高める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 生活科の理論と方法について、授業内容に即して学習指導要領の確認をしておくこと。授業の復習を行い、課題テストに備えること。(各回、予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活科とは 2. 遊びの理論から 3. 探究としての学習 4. 生活科の系譜① 5. 生活科の系譜② 6. 創生期の実践から 7. 幼児教育との接続 8. 生活科学習論 9. 学習指導要領の要点① 10. 学習指導要領の要点② 11. 生活科の学習指導 12. 生活科の評価 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|-------------|----|------|
| 科目名 | 生活科概説 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼保・小をつなぐ生活科 | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題等(50%)試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出課題については授業内又はmanabaで返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>[教科書(ISBN)] 生活科の原点を探究する 著者名:金岩俊明 出版社:黎明書房(9784654023639) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社(9784491034645)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 生活科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 生活科の授業づくり | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 学習指導要領における生活科の学習内容を理解するとともに、具体的な活動や体験を創造し、指導案を作成する。また、模擬授業を通して教材づくりや指導技術の習得、学習評価についての実践的指導力を高める。</p> <p>[授業概要] 生活科の学習指導に際しての知識や技能について、「遊び」と「問題解決学習」をふまえて学習過程の構成を行う。さらに、具体的な内容を位置づけた各学年の指導計画に基づき、創造的な学習展開例を作成する。また、授業をデザインし、教師の支援の在り方や学びへの評価についても知見を広げていく。授業実践の経験に基づく講義と模擬授業指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 生活科の理論と実践について、学習指導要領や文献で学習しておく。また、各回の模擬授業の内容について評価し、習得した事項が生かせるようにする。(予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 模擬授業について(情報通信機器及び機材の活用) 3. 生活科の内容①「学校と生活」 4. 生活科の内容②「家庭と生活」 5. 生活科の内容③「地域と生活」 6. 生活科の内容④「公共物や公共施設の利用」 7. 生活科の内容⑤「季節の変化と生活」 8. 生活科の内容⑥「自然や物を使った遊び」 9. 生活科の内容⑦「動物の飼育」 10. 生活科の内容⑧「植物の栽培」 11. 生活科の内容⑨「生活や出来事の伝え合い」 12. 生活科の内容⑩「自分の成長」 13. まとめ ※3～12は、模擬授業を含む。</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------|----|------|
| 科目名 | 生活科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 生活科の授業づくり | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート及び課題 (30%) 指導案作成・模擬授業 (30%) 試験 (40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題のフィードバックは授業内等で行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:模擬授業・レポート・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:模擬授業・レポート・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:模擬授業・レポート・発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:模擬授業・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:模擬授業・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:模擬授業・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:模擬授業・レポート・発表</p> <p>[教科書 (ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (9784491034645) 生活科の原点を探究する 著者名:金岩俊明 出版社:黎明書房 (9784654023639)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 資料を配布</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 生活科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 生活科の授業づくり | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 学習指導要領における生活科の学習内容を理解するとともに、具体的な活動や体験を創造し、指導案を作成する。また、模擬授業を通して教材づくりや指導技術の習得、学習評価についての実践的指導力を高める。</p> <p>[授業概要] 生活科の学習指導に際しての知識や技能について、「遊び」と「問題解決学習」をふまえて学習過程の構成を行う。さらに、具体的な内容を位置づけた各学年の指導計画に基づき、創造的な学習展開例を作成する。また、授業をデザインし、教師の支援の在り方や学びへの評価についても知見を広げていく。授業実践の経験に基づく講義と模擬授業指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 生活科の理論と実践について、学習指導要領や文献で学習しておく。また、各回の模擬授業の内容について評価し、習得した事項が生かせるようにする。(予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 模擬授業について(情報通信機器及び機材の活用) 3. 生活科の内容①「学校と生活」 4. 生活科の内容②「家庭と生活」 5. 生活科の内容③「地域と生活」 6. 生活科の内容④「公共物や公共施設の利用」 7. 生活科の内容⑤「季節の変化と生活」 8. 生活科の内容⑥「自然や物を使った遊び」 9. 生活科の内容⑦「動物の飼育」 10. 生活科の内容⑧「植物の栽培」 11. 生活科の内容⑨「生活や出来事の伝え合い」 12. 生活科の内容⑩「自分の成長」 13. まとめ ※3～12は、模擬授業を含む。</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------|----|------|
| 科目名 | 生活科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 生活科の授業づくり | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート及び課題 (30%) 指導案作成・模擬授業 (30%) 試験 (40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題のフィードバックは授業内等で行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:模擬授業・レポート・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:模擬授業・レポート・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:模擬授業・レポート・発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:模擬授業・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:模擬授業・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:模擬授業・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:模擬授業・レポート・発表</p> <p>[教科書 (ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (9784491034645) 生活科の原点を探究する 著者名:金岩俊明 出版社:黎明書房 (9784654023639)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 資料を配布</p> | | | |

| | | | |
|---|----------------|----------------|------|
| 科目名 | 生活科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 楽しい授業づくりへの教材開発 | 演習 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 生活科における魅力ある教材作りについて、目標や内容と関係付け、児童が興味・関心を高める教材を開発し、それを活用した授業を計画することができる。また、教材を交流して多面的な視点をもつことができ、生活科の授業実践に向けて見直しをもつ。</p> <p>[授業概要] 教材についての概念を理解し、生活科の教材論についての基本的な知識を習得する。生活科マップ等を作成し、探検活動、栽培活動、飼育活動、製作活動、遊び活動、スタートカリキュラム等の趣旨をふまえ、具体的な教材を作成する。さらに、各教材を使用した授業構想を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 生活科の授業実践や研究にかかる資料を収集して、教材に関わる情報を整理しておく。また、通学途上で地域に関わるフィールドワークをしておく。(各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画] 1.生活科の教材論 2.生活科マップの作成① 3.生活科マップの作成② 4.町たんけん① 5.町たんけん② 6.町たんけん③ 7.自然物を使った教材づくり① 8.自然物を使った教材づくり② 9.身近な材料を使った教材づくり① 10.身近な材料を使った教材づくり② 11.栽培活動の教材づくり 12.飼育活動の教材づくり 13.スタートカリキュラムの作成、まとめ (随時、学外のフィールドワークを実施する。)</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------|----|------|
| 科目名 | 生活科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 楽しい授業づくりへの教材開発 | 演習 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| <p>[成績評価方法] 教材作成(70%)発表(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題のフィードバックは、授業内で行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 生活科の原点を探究する 著者名:金岩俊明 出版社:黎明書房(9784654023639)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|--|----------|----------------|----|------|
| 科目名 | 生徒・進路指導論 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | 1分間スピーチ | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の意義や原理を理解し、すべての児童生徒を対象とした学級、学年、学校における指導の在り方や考え方を理解する。 ・進路指導、キャリア教育の意義や原理を理解し、すべての児童生徒を対象とした学級、学年、学校における指導の在り方や考え方、外部の専門家、関係機関等の連携を理解する。 ・児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題と、学校の全教職員、外部の専門家、関係機関との連携の在り方を理解する。 ・暴力行為、いじめ、不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点を理解する。 <p>[授業概要]</p> <p>この授業では、学校現場における教員経験があるものが、その経験を活かして、今日的な課題(いじめ問題、不登校等)への対応を指導します。生徒指導や進路指導・キャリア教育は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われ、学習指導と並ぶ重要な教育活動です。授業は、生徒指導や進路指導、キャリア教育や進路指導、キャリア教育の理論及び方法や発達段階に応じた学習指導、教育相談等について、グループでワークに取り組むアクティブラーニングの技法で行います。発達障害等のある子どもの特性を踏まえつつも、障害のあるなしにかかわらず多様な背景を持つ子どもの問題行動事例や進路指導、キャリア教育についての理解を深め、どう指導や支援をしていくか具体的な方法を身に付けることをめあてとしています。</p> <p>テキストは、1回生で使用した「生徒指導提要」(平成22年3月版の冊子)を用います。手元がない場合は、文部科学省のHPからダウンロードしてください。適宜、令和4年12月の改訂版もダウンロードして用います。テキストを購入する必要はありません。ノートについては、手書きのノートのはかに、パソコンをノート代わりにしてもかまいません。授業の板書は写真撮影 OKです。ICTを活用して授業を受けてみると、その効果や課題が実感でき、今後の児童生徒への指導に役立てられると考えます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で出された宿題や探究課題について主体的に取り組む(復習)。<2時間> ・授業で予告された次回の内容について探究する(予習)。<2時間> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.生徒指導の意義と原理及び指導体制と教育課程、各教科等との関連 2.進路指導、キャリア教育の意義と原理及び指導体制と教育課程、各教科等との関連 3.進路指導、キャリア教育を推進する校内組織及び関係機関との連携 4.規範意識を醸成し安心できる学級づくり 5.生徒指導上の課題(不登校)と関係諸機関の連携 6.生徒指導上の課題(いじめ・非行)と関係諸機関の連携 7.発達障害や教育的ニーズのある児童生徒の理解と生徒指導 8.生徒指導の方法(集団指導の方法原理) 9.生徒指導の方法(個別指導の方法原理)<学外特別講師> 10.生徒指導上の課題(インターネット・児童虐待・校則・懲戒・体罰等の法令) 11.生徒指導や進路指導、キャリア教育のカウンセリングの基礎と実践<学外> 12.進路指導・キャリア教育のカリキュラムマネジメントやガイダンスとポートフォリオの活用 13.まとめ | | | | |

| | | | |
|---|----------|----|------|
| 科目名 | 生徒・進路指導論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | |
| <p>[成績評価方法] まとめ(論述あり)(50%)、授業小テスト(記述式)(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] コメント等のフィードバックを返します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>[教科書(ISBN)] 1回生で使用した『生徒指導提要(平成22年3月版)』の冊子、ない人は、文部科学省HPよりダウンロード 著者名:文部科学省 生徒指導提要第1章～第4章 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2018/04/27/1404008_02.pdf 出版社:文部科学省生徒指導提要第1章～第4章 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2018/04/27/1404008_02.pdf (文部科学省生徒指導提要第1章～第4章) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2018/04/27/1404008_02.pdf</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業進度に応じて紹介</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------|----------------|------|
| 科目名 | 総合的な学習の時間の指導法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 学習指導要領における総合的な学習の時間の概要を理解し、その意義や特色に気付くとともに、カリキュラムの作成や運用、学習指導案の作成を通して探究的な学習過程に基づく指導法を習得することができる。さらに、実施上必要な環境づくりや学校体制等について理解する。</p> <p>[授業概要] 総合的な学習の時間設置の経緯や趣旨・目標・内容を理解し、学校全体の指導計画・各学年の指導計画を立案し単元をデザインする。また、学習指導案の作成により、探究課題に基づく各時間の学習指導を探究的に行うことができるようにするとともに、教材づくりや学習評価についての実践的指導力を高める。また、環境づくりや学校体制、地域との連携等について具体的な理解を深める。授業実践の経験に基づく講義と演習を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 総合的な学習の時間の理論と方法について、授業内容に即して学習指導要領の確認をしておくこと。授業の復習を行い、課題テストに備えること。(各回、予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画] 1.総合的な学習の時間設置の経緯 2.総合的な学習の時間の趣旨と目標 3.各学校において定める目標及び内容 4.指導計画の作成と内容の取扱い 5.学校における全体計画・年間指導計画 6.単元計画の作成 7.全体計画の作成の実際 8.年間指導計画の作成の実際① 9.年間指導計画の作成の実際② 10.単元計画としての学習指導案作成の実際 11.学習指導と評価① 12.学習指導と評価② 13.体制づくり、まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|---------------|----|------|
| 科目名 | 総合的な学習の時間の指導法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題等(50%)試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート等提出課題については、授業内又はmanabaで返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>[教科書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (9784491034683)</p> <p>[参考書(ISBN)] プリントを配布</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------|----------------|------|
| 科目名 | 総合的な学習の時間の指導法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 学習指導要領における総合的な学習の時間の概要を理解し、その意義や特色に気付くとともに、カリキュラムの作成や運用、学習指導案の作成を通して探究的な学習過程に基づく指導法を習得することができる。さらに、実施上必要な環境づくりや学校体制等について理解する。</p> <p>[授業概要] 総合的な学習の時間設置の経緯や趣旨・目標・内容を理解し、学校全体の指導計画・各学年の指導計画を立案し単元をデザインする。また、学習指導案の作成により、探究課題に基づく各時間の学習指導を探究的に行うことができるようにするとともに、教材づくりや学習評価についての実践的指導力を高める。また、環境づくりや学校体制、地域との連携等について具体的な理解を深める。授業実践の経験に基づく講義と演習を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 総合的な学習の時間の理論と方法について、授業内容に即して学習指導要領の確認をしておくこと。授業の復習を行い、課題テストに備えること。(各回、予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画] 1.総合的な学習の時間設置の経緯 2.総合的な学習の時間の趣旨と目標 3.各学校において定める目標及び内容 4.指導計画の作成と内容の取扱い 5.学校における全体計画・年間指導計画 6.単元計画の作成 7.全体計画の作成の実際 8.年間指導計画の作成の実際① 9.年間指導計画の作成の実際② 10.単元計画としての学習指導案作成の実際 11.学習指導と評価① 12.学習指導と評価② 13.体制づくり、まとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------|----|------|
| 科目名 | 総合的な学習の時間の指導法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題等(50%)試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート等提出課題については、授業内又はmanabaで返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>[教科書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (9784491034683)</p> <p>[参考書(ISBN)] プリントを配布</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 各自が関心のある算数教育に関するテーマを設定し主体的に論文完成をめざす。</p> <p>[授業概要] 算数教育についての論文を作成する。各自が進捗を報告し討議する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] レジュメを用意して、進捗報告の準備をして臨む。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. プレゼンテーションのスキルを学ぶ(1) 3. プレゼンテーションのスキルを学ぶ(2) 4. 論文作成の概要 5. 各自のテーマの決定(1) 6. 各自のテーマの決定(2) 7. 各自のテーマの決定(3) 8. 参考文献や先行研究の調査とその報告(1) 9. 参考文献や先行研究の調査とその報告(2) 10. 参考文献や先行研究の調査とその報告(3) 11. 章立ての検討(1) 12. 章立ての検討(2) 13. 中間のまとめ | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| <p>[成績評価方法] 発表(80%)、提出物(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:ディスカッション、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:ディスカッション、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:ディスカッション、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:ディスカッション、発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッション、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッション、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッション、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:ディスカッション、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:ディスカッション、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:ディスカッション、発表</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編 平成29年7月 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版 (978-4536590105)</p> | | | |

S69000 [LKH4-001]

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 主に保育や子どもの発達に関して設定した研究テーマにそってテーマを設定し、論文を作成する</p> <p>[授業概要] 全体で行うゼミと各自の研究テーマにそった個別指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 新聞記事や保育関連の文献に目を通し、世の中の事象や保育の問題に対して自分の意見をもっておく 中間発表等で指摘されたことは次回発表までに改善しておく 各回2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.はじめに(卒業論文作成の概要について) 2.卒業論文テーマの研究(過去のテーマ例研究) 3.卒業論文テーマの研究(各自の興味の確認①) 4.卒業論文テーマの研究(各自の興味の確認②) 5.卒業論文の書き方について① 6.卒業論文の書き方について② 7.研究方法の検討① 8.研究方法の検討② 9.研究方法の検討③ 10.研究方法の検討④ 11.論文構成の検討① 12.論文構成の検討② 13.論文構成の検討③ | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 報告内容(50%)、提出物(50%) 報告内容は、多角的に調べることができるかどうか内容で評価する 提出物は、期限、形式も含めて評価する</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 個別に指導を行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:取り組みの姿勢 報告内容 提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:取り組みの姿勢 提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:取り組みの姿勢</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:取り組みの姿勢 報告内容 提出物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:取り組みの姿勢 報告内容 提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:取り組みの姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:取り組みの姿勢 報告内容 提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:取り組みの姿勢 報告内容 提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:取り組みの姿勢 報告内容 提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:取り組みの姿勢 報告内容 提出物</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 個別に指示する</p> | | | |

S69001 [LKH4-001]

| | | | | |
|---|--------|----------------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 稲垣 善茂 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標] 教育学科の卒業論文に相応しい研究論文を完成させる。</p> <p>[授業概要] 全体で行うゼミでの研究発表と各自の研究テーマにそった個別指導を行う。プレゼンテーション時は携帯電話、タブレット、PCの使用を認めている。演習時間外におけるプレゼンテーション準備、卒業論文作成は自前のPCが必要であり購入を強く推奨する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前の調べ学習を行い、前回ゼミなどの検討会で指摘された問題点を整理し、解答を準備しておくこと。予習復習の時間数は各回、合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒論テーマの検討会① 2. 卒論テーマの検討会② 3. 卒論テーマの検討会③ 4. 卒論テーマの検討会④ 5. 研究方法の検討会① 6. 研究方法の検討会② 7. 研究方法の検討会③ 8. 研究方法の検討会④ 9. 論文構成の検討会① 10. 論文構成の検討会② 11. 論文構成の検討会③ 12. 論文構成の検討会④ 13. 卒業論文研究中間発表 | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 稲垣 善茂 | | |
| <p>[成績評価方法] 卒論中間発表会(50%)、卒論中間発表会要旨、まとめスライド(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 論文課題、レポート、グループワーク課題、卒論研究本文などの提出物については、赤字で添削したのち、直接返却しています。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

S69002 [LKH4-001]

| | | | | |
|--|--------|----------------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標] 自らが設定したテーマ、課題についてアウトラインを完成する。</p> <p>[授業概要] 本授業は、3回生での教育学講読、教育学演習での学習をベースとして、卒業論文の作成に取り組む。大学に入学してからの学びを通して、自らの興味、関心を基にして、仮テーマを設定し、その領域、分野での専門用語、定義、概念について学習をする。 その上で、卒業論文の作成に向けての10のプロセスに従って、このセメスターでは、⑥の段階まで研究を進めていく。 ①テーマの選択 ②事前調査 ③仮のアウトライン ④関連文献の調査 ⑤文献の入手 ⑥情報カード(メモ)の作成</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自らの興味関心をよく見つめ、仮テーマを設定する。 それに従って、文献の収集を積極的に行う。</p> <p>[授業計画] 今期の卒業論文ゼミの時間は、学生主体の活動をしながら、論文の基本的な形式について学んでいく。 1. イントロダクション 2. テーマの掘り起こし 3. 仮アウトラインの作成 4. 調査方法について 5. 文献の見つけ方 6. 文献資料の収集方法 7. 情報カードの作成 8. 個別卒論指導① 9. 個別卒論指導② 10. 個別卒論指導③ 11. 個別卒論指導④ 12. プレゼンテーション① 13. プレゼンテーション②</p> | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業での課題提出 (80%) プレゼンテーション (中間発表会) (20%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] レポート等を返却し指導します</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 教育2-1 / 子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 教育3-1 / 教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 教育3-2 / 社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 教育3-3 / 教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 主体性 / 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 責任感 / 社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 表現力 / 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 計画・実行力 / 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] よくわかる卒論の書き方 [第2版] 著者名: 白井 利明・高橋 一郎 著 出版社: ミネルヴァ書房 (9784620000000)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 適宜紹介する</p> | | | |

| | | | | |
|---|--|--|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 心身の発達と学びの過程-乳幼児、児童(障がいのある乳幼児、児童を含む) を軸に | | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育学講読並びにフィールドワークでの学習を基に、文研研究を通して先行研究や最新のデータを収集し、ゼミ発表・ディスカッションを行い経験と知識に裏付けされた実践力を育む</p> <p>[授業概要] 各自の関心に基づき設定した卒業論文のテーマに関する文献講読、資料収集、調査や実験などを行う。これらに基づき、ゼミでのプレゼンテーションとディスカッションを繰り返しながら卒業論文を作成する</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 文献を熟読し、ディスカッションができるよう準備すること。 各回、予習、復習併せて最低2時間程度自主学習が必要です</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.研究課題と研究方法について1 研究課題の立て方 3.研究課題と研究方法について2 研究方法 4.先行研究についての発表とディスカッション1 5.先行研究についての発表とディスカッション2 6.先行研究についての発表とディスカッション3 7.先行研究についての発表とディスカッション4 8.先行研究についての発表とディスカッション5 9.卒業論文のテーマと研究方法の決定 10.研究課題への取り組み1 11.研究課題への取り組み2 12.研究課題への取り組み3 13.まとめ—経過発表— | | | | |

| | | | |
|--------|--|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 心身の発達と学びの過程-乳幼児、児童(障がいのある乳幼児、児童を含む) を題材に- | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |

[成績評価方法]

卒業研究の内容70%、研究態度20%、プレゼンテーションの内容およびディスカッションへの参加態度10%等を基に評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

提出物返却時、プレゼンテーション後に口頭で行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

なし 必要に応じ適宜指示する

[参考書(ISBN)]

なし 必要に応じ適宜指示する

| | | | |
|---|--------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校教育における自己の課題意識を明確にして、研究デザインを構築し課題解決に迫る論理的かつ実践的な論文を作成する。</p> <p>[授業概要] 課題に関する文献や論文を研究し、独自の着想を大切に論文の構成を進める。その過程において、テーマ発表を行い、情報交換を行うとともに、プレゼンテーション技能の習得を目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テーマに関する文献研究や実践研修を積極的に行い、各段階における発表に備えること。また、受講者全員のテーマに関心を持ち、自己の見解が述べられるようにしておくこと。(各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文作成オリエンテーション 2. 論文作成の技法① 3. 論文作成の技法② 4. 研究デザイン発表・討論① 5. 研究デザイン発表・討論② 6. テーマ及び文献発表① 7. テーマび文献発表② 8. テーマび文献発表③ 9. テーマび文献発表④ 10. 論文プロット発表① 11. 論文プロット発表② 12. 論文プロット発表③ 13. 論文プロット発表④ | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| <p>[成績評価方法] 作成論文(80%)ディスカッション(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ※提出課題については授業で返却</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:発表・レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] レジメ、資料を作成し配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|----------------|--------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

研究活動を通して、合理的な考え方や表現方法によって自らが見出した課題を解決し、その中で探究的に学び続けるための基礎となる力を身につけることができる。

[授業概要]

研究の進め方や論文の書き方を理解した上で、自らの研究テーマを設定し、主体的に研究活動を進め、卒業論文を作成します。卒業論文 I では、主に一つ目の研究課題を解決するための方法を立案し、調査や教材作成を実行し、その結果と考察をまとめていきます。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、準備とふりかえりについて4時間程度の学習を求めます。具体的には、各回で指定された課題に取り組み、その成果をプレゼンテーションできるようにしておいてください。

[授業計画]

- 1.研究課題に対する計画立案①
- 2.研究課題に対する計画立案②
- 3.研究課題に対する調査や教材作成①
- 4.研究課題に対する調査や教材作成②
- 5.研究課題に対する調査や教材作成③
- 6.研究課題に対する調査や教材作成の結果と考察①
- 7.研究課題に対する調査や教材作成の結果と考察②
- 8.研究課題に対する調査や教材作成の結果と考察③
- 9.研究の結果の執筆①
- 10.研究の結果の執筆②
- 11.学会発表等の見学やフィールドワーク①
- 12.学会発表等の見学やフィールドワーク②
- 13.学会発表等の見学やフィールドワーク③

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | |
| <p>[成績評価方法] ゼミ活動に対する取り組み(40%)、各回の課題(60%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 各回の課題に対しては、ゼミ活動の中でコメントや添削等のフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

S69007 [LKH4-001]

| | | | |
|---|----------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 音楽教育学の研究 | 演習 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 各自が見出した課題について考察し、主体的に事例研究・文献研究を進めながら卒業論文を作成する。</p> <p>[授業概要] 教育学講読や演習で進めてきた学習や実践での学びを基に、各自の研究テーマを明確にし、さらに事例研究や文献、先行研究から研究論文の基礎を作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教育学講読や演習で学んできたことを基礎として、卒業論文作成に進んで取り組む。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究についてのガイダンス 2. 研究課題と研究方法の具体化① 3. 研究課題と研究方法の具体化② 4. 研究課題への取り組み① 5. 研究課題への取り組み② 6. 「教育・保育現場の課題」(外部講師招聘予定) 7. 研究課題への取り組み③ 8. 研究経過発表① 9. 研究課題への取り組み④ 10. 研究課題への取り組み⑤ 11. 研究課題への取り組み⑥ 12. 研究課題への取り組み⑦ 13. 研究経過発表② | | | |

| | | | |
|--|----------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 音楽教育学の研究 | 演習 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への取り組みや研究成果(レポート等)を総合的に評価する</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] その都度、ゼミの中で指導する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:授業への取り組み・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:授業への取り組み・レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート・研究経過発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業への取り組み・レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて各自に指示</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて各自に指示</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 久木山 健一 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 各自の関心のあるテーマについて、文献研究を進めながら、研究の目的と仮説を明確にし、実験や調査、事例研究等の心理学研究手法を選び、研究デザインを決定していくことを目的とする。</p> <p>[授業概要] 業論文では、各自が関心をもったテーマについて、まず、文献検索を通して、先行研究や最新のデータを集め、ゼミで発表・ディスカッションを行いながら、知識と理解を深めていく。同時に各自が研究するテーマ設定とその研究手法を明確にし、実験・調査・文献・事例等の研究方法を通して、各自の研究デザインを組み立てていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自身の研究テーマについて関係する学術論文を読み解いておくこと。自身の見解や仮説を実証するための研究手法について復習をしながら、卒業論文の「問題と目的」を作成していく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 文献検索の方法について 3. 先行研究や最新データについて 4. 先行研究や最新データについての発表とディスカッション1 5. 先行研究や最新データについての発表とディスカッション2 6. 先行研究や最新データについての発表とディスカッション3 7. 先行研究や最新データについての発表とディスカッション4 8. 卒業論文の研究手法の決定 9. 実験、調査、事例、文献研究等の実施と経過発表及びディスカッション1 10. 実験、調査、事例、文献研究等の実施と経過発表及びディスカッション2 11. 実験、調査、事例、文献研究等の実施と経過発表及びディスカッション3 12. 実験、調査、事例、文献研究等の実施と経過発表及びディスカッション4 13. 卒業論文 中間発表のための抄録作成 | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 久木山 健一 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題(20%)、発表(10%)、卒業論文(70%)等を総合的に判断して評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業やmanabaを通して、随時フィードバックを行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。授業時に随時配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。授業内で随時紹介する。</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | まなびの深化をはかり、真理を探究する初歩を固める | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 英語教育学領域の各自の関心に基づいたテーマについて、先行研究に基づいた仮説の立案、実験・調査・事例研究等を用いた仮説の検証を行い、卒業論文執筆のための構想を固める。</p> <p>[授業概要] 各自の関心に基づいたテーマについて、文献を調べ、議論を通して自分なりの仮説を立案します。その仮説を検証するのに適切な研究手法(実験、調査、事例、文献研究等)を選定し、必要なデータの収集を行います。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 関心のあるテーマについて文献を調べ、積極的に読み進めてまとめおくこと。これまでに学んだ心理学研究法・統計解析の方法について復習し、卒業論文の執筆のために必要となる知識を確認しておくこと。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 研究計画書の作成 3. 資料収集・先行研究のレビューとディスカッション① 4. 資料収集・先行研究のレビューとディスカッション② 5. 資料収集・先行研究のレビューとディスカッション③ 6. 調査・実験計画の立案・実施準備① 7. 調査・実験計画の立案・実施準備② 8. 調査・実験計画の立案・実施準備③ 9. 調査・実験の実施と経過報告① 10. 調査・実験の実施と経過報告② 11. 調査・実験の実施と経過報告③ 12. データの整理① 13. データの整理②</p> | | | |

| | | | |
|--------|--------------------------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | まなびの深化をはかり、真理を探究する初歩を固める | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |

[成績評価方法]
授業中の課題(40%)、研究仮説の妥当性(30%)、研究方法の適切さ(30%)に基づいて総合的に評価します。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
課題については、コメントを付すなどして事後に評価して返却します。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。
成績評価方法:研究仮説の妥当性で評価します。

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。
成績評価方法:研究方法の適切さで評価する。

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。
成績評価方法:授業中の課題により評価する。

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。
成績評価方法:研究仮説の妥当性、研究方法の適切性、課題で評価する。

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:研究方法の妥当性、適切性で評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:授業中の課題で評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:研究方法の妥当性、適切性で評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:研究方法の妥当性、適切性で評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:授業中の課題で評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:授業中の課題、研究仮説の妥当性、研究方法の適切さで評価する。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
授業内で適宜紹介します

| | | | |
|---|--------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 社会科教育を中心に小学校教育における各自の問題意識に基づいて設定したテーマについて、主体的に文献研究、調査研究、事例研究を進める。</p> <p>[授業概要] 教育学講読、教育学演習での学びをもとに各自が研究テーマを設定し、文献研究、調査研究を進め、卒業論文の構想発表を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] その時の課題を明確にし、確実にやり遂げていく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 卒業論文作成の方法① 3. 卒業論文作成の方法② 4. 先行研究の発表とディスカッション① 5. 先行研究の発表とディスカッション② 6. 先行研究の発表とディスカッション③ 7. 先行研究の発表とディスカッション④ 8. 先行研究の発表とディスカッション⑤ 9. 研究課題への取り組み① 10. 研究課題への取り組み② 11. 研究課題への取り組み③ 12. 研究課題への取り組み④ 13. 研究構想の発表 | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業に取り組む姿勢40%、レポート・討議50%、卒論の構想10%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

S69012 [LKH4-001]

| | | | |
|----------------|--------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

幼児教育、小学校教育、体育、スポーツ、健康における各自の問題意識に基づいて設定したテーマについて、主体的に文献研究、調査研究、事例研究を進め、卒業論文を執筆していく。

[授業概要]

教育学講読、教育学演習での学びをもとに各自が研究テーマを設定し、文献研究、調査研究を進め、卒業論文を作成していく。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

その時の課題を明確にし、確実にやり遂げていく。
各回、予習復習合わせて2時間程度。

[授業計画]

1. オリエンテーション
2. 卒業論文作成の方法①
3. 卒業論文作成の方法②
4. 先行研究の発表とディスカッション①
5. 先行研究の発表とディスカッション②
6. 先行研究の発表とディスカッション③
7. 先行研究の発表とディスカッション④
8. 先行研究の発表とディスカッション⑤
9. 先行研究の発表とディスカッション⑥
10. 研究構想の発表①
11. 研究構想の発表②
12. 研究課題への取り組み①
13. 研究課題への取り組み②

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| <p>[成績評価方法] 卒業論文作成への取り組み(40%)、卒業論文内容(60%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中や授業前後に行う。 メールで論文添削も行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜紹介する。</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 竹田 和恵 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 授業を通して、次のことを目標とする。 ①研究の位置づけや課題を明確にする。 ②発表や討議を通じて、独自の見解や提案を発展させる。 ③文献調査により、専門的な知識を習得し、先行研究に対する理解を深める。</p> <p>[授業概要] 論文の作成方法、先行研究の発表と討議、文献調査、システム開発、実験、アンケート調査の実施に至るまで、研究の各段階に焦点を当てて行う。文献調査を通じて、先行研究に対する自身の見解を明確にし、論理的な思考力を培う。また、システム開発や実験を通じた実践的なスキルや、アンケート調査を通じたデータ収集や分析方法を習得する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の講義の復習</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.卒業論文作成の方法(1) 3.先行研究の発表と討議(1) 4.先行研究の発表と討議(2) 5.文献調査およびシステム開発・実験準備・アンケート調査準備(1) 6.文献調査およびシステム開発・実験準備・アンケート調査準備(2) 7.文献調査およびシステム開発・実験準備・アンケート調査準備(3) 8.文献調査およびシステム開発・実験準備・アンケート調査準備(4) 9.文献調査および調査実施(1) 10.文献調査および調査実施(2) 11.文献調査および調査実施(3) 12.文献調査および調査実施(4) 13.まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 竹田 和恵 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題(80%)、最終レポート(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育学講読・演習で習得した知識に基づき、各自で卒業論文のテーマを決定し、資料・文献等を検索し、読み込むことができる。そして、卒論の骨子を作成することができる。</p> <p>[授業概要] 三回生で習得した知識をもとに、各自のテーマに沿った研究を進める。ゼミで質疑応答を繰り返し、論文で扱うテーマについて理論を構築し、問題点を明確にする。論文の結論で、独自の意見を提示できるような構成を考える。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各自で卒論作成計画を立てて、それに沿って確実に前進する。他の人の研究発表から学ぶ。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 文献収集の仕方 3. 論文の書き方 4. テーマ選択 5. テーマ選択 6. テーマ研究・討論 7. テーマ研究・討論 8. テーマ研究・討論 9. テーマ研究・討論 10. テーマ研究・討論 11. テーマ研究・討論 12. 中間発表 13. 中間発表 | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |
| <p>[成績評価方法] 各自の卒論作成計画の達成度とその成果(50%)、レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 研究室で個人指導。レポート等はmanabaを使い提出させ、添削する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:研究発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:研究発表、研究姿勢</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:研究姿勢</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:研究姿勢</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:研究姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:研究姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッション、研究発表、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:研究姿勢、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:研究姿勢、レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|----------------|-----------|----------------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | 模擬授業、場面指導 | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |

[到達目標]

教育に関して各自が研究してきたことを基に、テーマを設定し、研究成果をまとめる。

[授業概要]

この授業では、学校現場における教員経験があるものが、その経験を活かして、今日的な課題(特別支援教育等)への対応を指導する。これまでの研究をもとに探究したいテーマを設定し、個別指導を受けながら、論文を作成していく。必要な文献や研究論文の検索、資料の収集、小学校の児童、教員への研究協力依頼等を計画的に進める。模擬授業や場面指導も取り入れ、論文内容の臨床研究については、その実践を検証していく。進捗状況を相互発表し、討議しながら研究を深めていく。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

研究テーマに関する専門書、学術論文、新聞等に目を通すこと。
 学校ボランティアや授業観察で教師として教壇に立てる実践力をつける。
 学会や研究会に参加する。
 ※各回、予習復習合わせて4時間程度おこなうこと

[授業計画]

- 1.論文テーマの設定と関連する先行研究調査、相互発表と討議①
- 2.論文テーマの設定と関連する先行研究調査、相互発表と討議②
- 3.論文テーマの設定と関連する先行研究調査、相互発表と討議③
- 4.論文テーマの設定と関連する先行研究調査、相互発表と討議④
- 5.研究計画と研究方法、相互発表と討議①
- 6.研究計画と研究方法、相互発表と討議②
- 7.研究計画と研究方法、相互発表と討議③
- 8.研究計画と研究方法、相互発表と討議④
- 9.調査の実施、相互発表と討議①
- 10.調査の実施、相互発表と討議②
- 11.調査の実施、相互発表と討議③
- 12.実地調査研究・フィールドワーク<学外授業>
- 13.臨床教育研究としての検証

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | |
| <p>[成績評価方法] 卒業論文への取り組み課程 (50%)、卒業論文内容 (50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 卒業論文と関連研究課題に対して助言と修正および添削等の指導を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>[教科書 (ISBN)] なし。研究に応じて紹介する。</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし。必要な時に授業内で紹介する。</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 堀江 祐爾 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | 作品分析 | グループワーク | |
| プレゼンテーション | 作品分析 | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 主に国語教育に関して設定した研究テーマにそって論文完成を目指す。</p> <p>[授業概要] 主に国語教育に関して、各自卒業論文の研究テーマを設定し、論文作成のための個別指導を受けながら、論文作成に必要な文献、研究論文、各資料の収集、作業等を計画的に進める。卒業論文提出期限までに論文を完成させ提出できるよう授業を行う。論文作成の方法と資料等の探し方の要領など、卒業論文作成に必要な基礎的な知識を最初に学び、その後、各自で主に国語教育に関する研究テーマを、教員から指導を受けながら設定する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 国語教育について幅広い知識を身につけるために、国語教科書をはじめ、先行研究、先行実践、教育雑誌などを読み続ける。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに(卒業論文作成の概要について) 2. 過去の卒業論文例の研究 3. 卒業論文テーマの研究(過去のテーマ例研究) 4. 卒業論文テーマの研究(各自の興味の確認①) 5. 卒業論文テーマの研究(各自の興味の確認②) 6. 卒業論文の書き方について(プリントと卒論例を比較し説明)① 7. 卒業論文の書き方について② 8. 卒業論文の書き方について③ 9. 資料収集方法等の説明と実践① 10. 資料収集方法等の説明と実践② 11. 分析作業等の説明と実践① 12. 分析作業等の説明と実践② 13. 卒業論文のテーマ設定 | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 堀江 祐爾 | | |
| <p>[成績評価方法] テーマの決定と掘り下げの各自の取り組みの姿勢と方法(30%)、及び完成した設定メモの内容(70%)による。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaやLINEによって、課題の成果をフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------|----------------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標] 英語学・英語教育学に関して自ら設定した研究テーマの論文の完成を目指す。</p> <p>[授業概要] 英語学・英語教育学に関する研究課題を明確にし、それに関連する論文や文献を精読することを通して先行研究をまとめていく。研究に必要な資料を収集し分析結果を提示して、科学的見地に基づき自らの考えを示す。意見交換を通して研究の振り返りを行い、粘り強く考えていく力、議論を組み立てていく力を身に付けながら、卒業論文完成に必要なステップを一つひとつ積み重ねていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 自らの卒業論文のテーマに関連する論文、文献を読み、各自の課題に取り組んでおくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに(卒業論文作成にあたって) 2. 先行研究・発表・意見交換① 3. 先行研究・発表・意見交換② 4. 先行研究・発表・意見交換③ 5. 研究調査・資料収集・分析① 6. 研究調査・資料収集・分析② 7. 研究調査・資料収集・分析③ 8. 研究調査・提案・意見交換① 9. 研究調査・提案・意見交換② 10. 研究調査・提案・意見交換③ 11. 中間発表会の準備① 12. 中間発表会の準備② 13. 中間発表会 <p>※進捗状況により、計画の一部を変更する場合がある。</p> | | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] ゼミでの課題(50%)、レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:ゼミでの課題、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:ゼミでの課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:ゼミでの課題、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:ゼミでの課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:ゼミでの課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:ゼミでの課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:ゼミでの課題、レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051685) 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692) 高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051784)</p> | | | |

| | | | | |
|---|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 論文を構成する3つの部分 — 「序論」→「本論」→「結論」の各部分について「書き方」を学ぶ。</p> <p>[授業概要] 「論文の書き方」について学びながら、3年生のときに各自が立てた卒業論文で探求したい「問い」を改めて吟味し問い直していく。そして、参考文献を補充しながら、作成した「アウトライン」を推敲し膨らませていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予習・復習合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 問題の立て方① 第2回 問題の立て方② 第3回 問題の立て方③ 第4回 序論の書き方① 第5回 序論の書き方② 第6回 序論の書き方③ 第7回 本論の書き方① 第8回 本論の書き方② 第9回 本論の書き方③ 第10回 本論の書き方④ 第11回 結論の書き方① 第12回 結論の書き方② 第13回 結論の書き方③ | | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法] 研究計画の立て方(40%)、相互討議の深まり方(40%)、文献の読み込み方(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 随時質疑応答を行い、フィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 卒業論文のアウトラインを構築し執筆していくことを効果的に効率的よく行うために、以下のアプリケーションをオンラインで購入する。 Idea Tree http://www.dicre.com/soft/itree.htm</p> <p>[参考書(ISBN)] 随時紹介する</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 幼稚園教育や保育、子どもの育ちに関する自らの課題について、科学的・研究的な視点から分析的に捉え、実践力の形成につなげていくことのできる教育実践学的研究力の構築を目指す。</p> <p>[授業概要] 幼児教育学講読や演習において進めてきた学習や実践を土台に、自らの研究課題を明確にしていく。さらに、それらをもとに、関連する文献や先行研究のリサーチ等をさらに充実させながら研究を進め、研究論文としてまとめる。その間、定期的に研究の経過や結果等を発表することで、プレゼンテーション力の向上と研究成果の共有化を図っていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の講義内容を整理し理解して、次回の講義の予習・準備をしておくこと。日常的に講義に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究についてのガイダンス 2. 研究計画について1(構想発表会) 3. 研究計画について2(構想発表会) 4. 研究課題への取り組み1 5. 研究課題への取り組み2 6. 研究課題への取り組み3 7. 研究課題への取り組み4 8. 研究の経過報告(中間発表会) 9. 研究課題への取り組み5 10. 研究課題への取り組み6 11. 研究課題への取り組み7 12. 研究課題への取り組み8 13. 研究の経過発表(研究発表会) | | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] 研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] その都度指導を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて各自に指示</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて各自に指示</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 村田 恵子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校の理科教育や理科教材に関わるテーマを設定し、調査・研究を行い、論文を作成する。</p> <p>[授業概要] 各自が関心を持った小学校理科教育や理科教材に関するテーマについて、調査・研究を行い、論文を作成する。個別にテーマ設定後、年間計画を立て、研究の枠組み、調査・研究方法を随時相談・指導する。研究計画に従って研究を行い、論文を作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 個別指導が主となるため、毎回、各自が卒業研究の進捗状況を報告できるように、1週間分の成果をまとめておく。</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.各自の研究テーマ設定① 3.各自の研究テーマ設定② 4.各自の研究テーマ設定③ 5.研究の枠組み、調査・研究方法、研究計画について相談① 6.研究の枠組み、調査・研究方法、研究計画について相談② 7.研究の枠組み、調査・研究方法、研究計画について相談③ 8.研究計画に従って調査・研究① 9.研究計画に従って調査・研究② 10.研究計画に従って調査・研究③ 11.研究計画に従って調査・研究④ 12.研究計画に従って調査・研究⑤ 13.中間発表</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 村田 恵子 | | |
| <p>[成績評価方法] 研究過程(70%)、発表内容(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 論文作成(研究)過程において随時個別指導する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:研究過程・発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:研究過程・発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:研究過程・発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:研究過程・発表内容</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:研究過程・発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:研究過程・発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:研究過程・発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:研究過程・発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:研究過程・発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:研究過程・発表内容</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

S69025 [LKH4-001]

| | | | |
|--------|---------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文の作成 | 演習 | |
| 担当者 | 守本 智美 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|---|----------------|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

主に美術に関して設定した研究テーマにそって論文完成を目指す。

[授業概要]

主に美術に関して、各自卒業論文の研究テーマを設定し、論文作成のための個別指導を受けながら、論文作成に必要な文献、研究論文、各資料の収集等を計画的に進める。卒業論文提出期限までに論文を完成させ提出出来るよう授業を行う。論文作成の方法と資料等の探し方の要領など、卒業論文作成に必要な基礎的な知識を最初に学び、その後、各自で主に美術に関して論文作成のための研究テーマを、教員から指導を受けながら設定する。テーマを設定したあとは各自で研究に必要な資料、研究論文、文献等を収集する。また、場合によっては美術作品の現物を見に現地に出かけたり、アンケートなどを行う、実際に研究に必要な作品を制作してみるなどの方法を取りながら、卒業論文を作成し、期限までに完成させ提出する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて4時間程度。美術館で本物の作品を鑑賞したり、画集でも授業で関連する内容の作品はよく見て、自分の作品制作や研究に生かすこと。manaba(マナバ)にて授業に必要な連絡をするので、必ずmanabaに登録しておくこと。

[授業計画]

- 1.はじめに(manaba上にて指示します)
- 2.卒業論文テーマの研究(卒業論文作成の概要について、過去のテーマ例研究)
- 3.卒業論文テーマの研究①(各自の興味の確認)
- 4.卒業論文テーマの研究②(各自の興味の確認と確定)
- 5.卒業論文の書き方について①(はじめに、研究方法)
- 6.卒業論文の書き方について②(研究結果)
- 7.卒業論文の書き方について③(まとめ、注及び参考文献)
- 8.資料収集方法等の説明と実践①
- 9.資料収集方法等の説明と実践②
- 10.資料収集方法等の説明と実践③
- 11.資料収集方法等の説明と実践④
- 12.卒業論文のテーマ設定①(選定)
- 13.卒業論文のテーマ設定②(確定)

| | | | |
|--------|---------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文の作成 | 演習 | |
| 担当者 | 守本 智美 | | |

[成績評価方法]

論文完成までの各自の研究への取り組みの姿勢と方法(20%)、及び研究内容(80%)による。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

論文等に対するコメントを行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、研究内容(80%)

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、研究内容(80%)

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、研究内容(80%)

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、研究内容(80%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、研究内容(80%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、研究内容(80%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、研究内容(80%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、研究内容(80%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、研究内容(80%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、研究内容(80%)

[教科書(ISBN)]

なし

[参考書(ISBN)]

授業中に指示する。

| | | | |
|---|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 自らのテーマを追究する | 演習 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 卒業論文の作成を通じて思考力、文章力、表現力等を学ぶ。 2 卒業論文の作成を通じて専門分野への理解を深め、専門性を生かした社会貢献のあり方を考える。 <p>[授業概要]</p> <p>本演習は、それまでの学習を基盤とし、学生自らがテーマを設定し、主体的な研究を進めることにより、その成果を卒業論文へとまとめていくものであり、同時に自らの学びを社会へと生かす視座を養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>三回生のゼミでの学習内容を振り返り、研究課題に対する知識を広げておくこと。また、毎時の課題をもとに、研究活動を遂行していくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究計画(1): 本演習の実施計画表作成 2 本研究(1): 調査・フィールドワーク・ケーススタディの実施・先行研究の収集と学習 3 本研究(2): 調査・フィールドワーク・ケーススタディの実施・先行研究の収集と学習 4 本研究(3): 調査・フィールドワーク・ケーススタディの実施・先行研究の収集と学習 5 本研究(4): 調査・フィールドワーク・ケーススタディの実施・先行研究の収集と学習 6 本研究(5): 調査・フィールドワーク・ケーススタディの実施・先行研究の収集と学習 7 研究結果の吟味(1): 調査・フィールドワーク・ケーススタディの実施・結果についての文献との比較検討 8 研究結果の吟味(2): 調査・フィールドワーク・ケーススタディの実施・結果についての文献との比較検討 9 中間発表会準備(1): 目的・方法・予想される結果についての執筆 10 中間発表会準備(2): 目的・方法・予想される結果についての執筆・プレゼン資料の作成 11 中間発表会 12 補足研究(1): 結果についての文献との比較検討・調査・フィールドワーク・ケーススタディ制作の補充 13 補足研究(2): 結果についての文献との比較検討・調査・フィールドワーク・ケーススタディ制作の補充 | | | |

| | | | |
|---|-------------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 自らのテーマを追究する | 演習 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |
| <p>[成績評価方法] 論文(80%)、発表(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内で討議の上、フィードバックを行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:発表内容、質疑応答</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

S69027 [LKH4-001]

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山成 昭世 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 幼児教育基礎演習や各自の関心に基づいて設定した論文テーマに関して、フィールドワーク、資料収集、造形作品の制作などを行い経験と知識や造形体験に裏付けされた実践力を育む。</p> <p>[授業概要] 造形作品の制作や教育方法の実践等、各自の研究テーマに沿った個別指導を行う。中間発表のプレゼンテーションで指摘された問題点を改善し、より良い論文や造形作品を作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 作品制作や予習復習合わせて2時間程度の自主学習が必要です。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 卒業論文のテーマ研究① 3. 卒業論文のテーマ研究② 4. 卒業論文のテーマ研究③ 5. 造形表現の研究① 6. 造形表現の研究② 7. 論文スタイルの検討① 8. 論文スタイルの検討② 9. 論文スタイルの検討③ 10. 受講者による中間発表と質疑① 11. 受講者による中間発表と質疑② 12. 中間発表の振り返りと課題① 13. 中間発表の振り返りと課題② | | | |

| | | | |
|--------|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山成 昭世 | | |

[成績評価方法]
卒業研究、造形作品の内容 (70%) 研究態度 (20%) プレゼンテーション (10%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
中間発表時、卒業論文発表時のプレゼンテーションで行う。
日々の取り組みの中でも問題点や課題を個別に指導する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書 (ISBN)]
レジメ・資料を配布する

[参考書 (ISBN)]
参考図書は適宜紹介する

| | | | |
|---|---------------------|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 各自テーマを決めて、卒論を完成させよう | 演習 | |
| 担当者 | 坂下 直子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 自らが見出したテーマについて考察し、主体的に事例研究・文献研究を進めながら卒業論文のアウトラインを作成することができる。</p> <p>[授業概要] 教育学講読や教育学演習で進めてきた学習や実践での学びを基に、各自の研究テーマを明確にし、そのテーマに関する事例研究や文献調査を行い、先行研究を整理して、独自性・新規性および有用性のある「問い」を立て、卒業論文のアウトラインを構築する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教育学講読や教育学演習で取り組んできたことに基づき設定したテーマについて、文献収集や実地調査を積極的に行い、意義あるディスカッションができるよう準備。各回、予習・復習で計2時間程度の自主学習が必要。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 研究計画書作成 3. テーマの選択 4. アウトライン作成 5. 関連文献の調査および実地調査 6. 文献の入手 7. 文献の読解 8. 情報カード作成 9. 情報カード整理 10. 中間発表の準備① 11. 中間発表の準備② 12. 中間発表会 13. 学会参加 | | | |

| | | | |
|--------|---------------------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文 I | 前期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 各自テーマを決めて、卒論を完成させよう | 演習 | |
| 担当者 | 坂下 直子 | | |

[成績評価方法]

研究計画の構築度合(20%)、テーマ設定の妥当性(20%)、情報収集能力(20%)、プレゼンテーション能力(20%)、ディスカッション能力(20%)、に基づいて総合的に評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

必要に応じて各自に指示

[参考書(ISBN)]

必要に応じて各自に指示

| | | | |
|--|-------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 各自が関心のある算数教育に関するテーマを設定し主体的に論文完成をめざす。</p> <p>[授業概要] 算数教育についての論文を作成する。各自が進捗を報告し討議する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] レジュメを用意して、進捗報告の準備をして臨む。</p> <p>[授業計画] 1. 論文構想の発表(1) 2. 論文構想の発表(2) 3. 構想に沿った内容の検討(1) 4. 構想に沿った内容の検討(2) 5. 構想に沿った内容の検討(3) 6. 構想に沿った内容の検討(4) 7. 構想に沿った内容の検討(5) 8. 論文完成作業(1) 9. 論文完成作業(2) 10. 論文完成作業(3) 11. 論文完成作業(4) 12. 卒業論文発表の準備 13. 卒業論文発表と総括</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 穴田 恭輔 | | |
| <p>[成績評価方法] 完成論文(80%)と口頭試問に対するの応答(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。課題は添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:ディスカッション、発表、論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:ディスカッション、発表、論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:ディスカッション、発表、論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:ディスカッション、発表、論文</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッション、発表、論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッション、発表、論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッション、発表、論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:ディスカッション、発表、論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:ディスカッション、発表、論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:ディスカッション、発表、論文</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編 平成29年7月 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版 (978-4536590105)</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 主に保育や子どもの発達に関して設定した研究テーマにそって論文を作成する</p> <p>[授業概要] 全体で行うゼミと各自の研究テーマにそった個別指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 新聞記事や保育関連の文献に目を通し、世の中の事象や保育の問題に対して自分の意見をもっておく 中間発表等で指摘されたことは次回発表までに改善しておく 各回2時間程度</p> <p>[授業計画] 1.論文構成の検討 2.研究の中間発表と検討1① 3.研究の中間発表と検討1② 4.研究の中間発表と検討1③ 5.卒業論文作成指導① 6.卒業論文作成指導② 7.卒業論文作成指導③ 8.卒業論文作成指導④ 9.卒業論文作成指導⑤ 10.卒業論文作成指導⑥ 11.卒業論文作成指導⑦ 12.卒業論文発表会① 13.卒業論文発表会②</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 取り組みの姿勢(30%)、発表(20%)、卒業論文(50%) 発表は卒論発表会の内容で評価する</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 毎回個別に指導を行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:発表 論文内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:取り組みの姿勢 発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:取り組みの姿勢 発表 論文内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:取り組みの姿勢 発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:取り組みの姿勢 発表 論文内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:取り組みの姿勢 発表 論文内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:取り組みの姿勢 発表 論文内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表 論文内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:取り組みの姿勢 発表 論文内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:取り組みの姿勢 発表 論文内容</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 個別に指示する</p> | | | |

| | | | | |
|--|-------|----------------|----|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 稲垣 善茂 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標] 教育学科の卒業論文に相応しい研究論文を完成させる。</p> <p>[授業概要] 全体で行うゼミでの研究発表と各自の研究テーマにそった個別指導を行う。プレゼンテーション時は携帯電話、タブレット、PCの使用を認めている。演習時間外におけるプレゼンテーション準備、卒業論文作成は自前のPCが必要であり購入を強く推奨する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前の調べ学習を行い、前回ゼミなどの検討会で指摘された問題点を整理し、解答を準備しておくこと。予習復習の時間数は各回、合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 卒論テーマの検討会⑤ 2. 卒論テーマの検討会⑥ 3. 卒論テーマの検討会⑦ 4. 卒論テーマの検討会⑧ 5. 研究方法の検討会⑤ 6. 研究方法の検討会⑥ 7. 研究方法の検討会⑦ 8. 研究方法の検討会⑧ 9. 論文構成の検討会⑤ 10. 論文構成の検討会⑥ 11. 論文構成の検討会⑦ 12. 論文構成の検討会⑧ 13. 卒業論文研究発表</p> | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 稲垣 善茂 | | |
| <p>[成績評価方法] 卒論発表会、まとめスライド(50%)、卒業論文(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 論文課題、レポート、グループワーク課題、卒論研究本文などの提出物については、赤字で添削したのち、直接返却しています。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:プレゼンテーション・レポート・試験(小テストを含む)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 自らが設定したテーマ、課題についてアウトラインを完成する。</p> <p>[授業概要] 本授業は、4回生前期での卒業論文を踏まえて、卒業論文の作成に取り組む。大学に入学してからの学びを通して、自らの興味、関心を基にして、仮テーマを設定し、その領域、分野での専門用語、定義、概念について学習をする。 その上で、卒業論文の作成に向けての10のプロセスに従って研究を進めていく。 ①テーマの選択 ②事前調査 ③仮のアウトライン ④関連文献の調査 ⑤文献の入手 ⑥情報カード(メモ)の作成 ⑦最終アウトラインの作成 ⑧執筆と校正 ⑨出典の表示 ⑩仕上げ</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自らの興味関心をよく見つめ、仮テーマを設定する。 それに従って、文献の収集を積極的に行う。</p> <p>[授業計画] 今期の卒業論文ゼミの時間は、学生主体の活動をしながら、論文の基本的な形式について学んでいく。 ①イントロダクション ②個別卒論指導1 ③個別卒論指導2 ④個別卒論指導3 ⑤個別卒論指導4 ⑥中間発表会 ⑦個別卒論指導5 ⑧個別卒論指導6 ⑨個別卒論指導7 ⑩個別卒論指導8 ⑪個別卒論指導9 ⑫まとめの作業1 ⑬まとめの作業2</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業での課題提出 (80%) プレゼンテーション (中間発表会) (20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート等を返却し、評価します</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] よくわかる卒論の書き方[第2版] 著者名:白井 利明・高橋 一郎 著 出版社:ミネルヴァ書房 (9784620000000)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 適宜紹介する</p> | | | |

| | | | |
|--|---|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | 心身の発達と学びの過程-乳幼児、児童(障がいのある乳幼児、児童を含む) を由ひに | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育学講読並びにフィールドワークでの学習を基に、文研研究を通して先行研究や最新のデータを収集し、ゼミ発表・ディスカッションを行い経験と知識に裏付けされた実践力を育む</p> <p>[授業概要] 各自の関心に基づき設定した卒業論文のテーマに関する文献講読、資料収集、調査や実験などを行う。これらに基づき、ゼミでのプレゼンテーションとディスカッションを繰り返しながら卒業論文を作成する</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 文献を熟読し、ディスカッションができるよう準備すること。 各回、予習、復習併せて最低2時間程度自主学習が必要です</p> <p>[授業計画] 1.研究課題への取り組み1 2.研究課題への取り組み2 3.研究課題への取り組み3 4.研究課題への取り組み4 5.研究課題への取り組み5 6.3回生に対する中間発表 7.研究課題への取り組み6 8.研究課題への取り組み7 9.研究課題への取り組み8 10.研究課題への取り組み9 11.研究課題への取り組み10 12.研究課題への取り組み11 13.卒業研究発表会</p> | | | |

| | | | |
|--------|---|----|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | 心身の発達と学びの過程-乳幼児、児童(障がいのある乳幼児、児童を含む) を軸に- | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |

[成績評価方法]

卒業研究の内容70%、研究態度20%、プレゼンテーションの内容およびディスカッションへの参加態度10%等を基に評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

提出物返却時、プレゼンテーション後に口頭で行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

なし 必要に応じ適宜指示する

[参考書(ISBN)]

なし 必要に応じ適宜指示する

| | | | |
|---|-------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校教育における自己の課題意識を明確にして、研究デザインを構築し課題解決に迫る論理的かつ実践的な論文を作成する。</p> <p>[授業概要] 課題に関する文献や論文を研究し、独自の着想を大切にして論文の構成を進める。その過程において、作成論文の発表を行い、情報交換を行うとともに、プレゼンテーション技能の習得を目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テーマに関する文献研究や実践研修を積極的に行い、各段階における発表に備えること。また、受講者全員のテーマに関心を持ち、自己の見解が述べられるようにしておくこと。(各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. 論文の編集について 2. 1次原稿発表・討議① 3. 1次原稿発表・討議② 4. 1次原稿発表・討議③ 5. 中間発表会 6. 2次原稿発表・討議① 7. 2次原稿発表・討議② 8. 2次原稿発表・討議③ 9. 最終原稿発表・討議① 10. 最終原稿発表・討議② 11. 最終原稿発表・討議③ 12. 相互点検・抄録作成 13. 卒論発表会 研究のまとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| <p>[成績評価方法] 作成論文(80%)ディスカッション(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ※提出論文(課題)については授業及びメールで返却</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:作成論文・発表・討議</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:作成論文・発表・討議</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:作成論文・発表・討議</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:作成論文・発表・討議</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:作成論文・発表・討議</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:作成論文・発表・討議</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:作成論文・発表・討議</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:作成論文・発表・討議</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:作成論文・発表・討議</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:作成論文・発表・討議</p> <p>[教科書(ISBN)] レジメ、資料を作成し配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|----------------|-------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

研究活動を通して、合理的な考え方や表現方法によって自らが見出した課題を解決し、その中で探的に学び続けるための基礎となる力を身につけることができる。

[授業概要]

研究の進め方や論文の書き方を理解した上で、自らの研究テーマを設定し、主体的に研究活動を進め、卒業論文を作成します。最後に卒業論文発表会(やる気がある人は学会での発表等も視野に入れます)において、研究成果を発表します。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、準備とふりかえりについて4時間程度の学習を求めます。具体的には、各回で指定された課題に取り組み、その成果をプレゼンテーションできるようにしておいてください。

[授業計画]

- 1.研究の考察の執筆①
- 2.研究の考察の執筆②
- 3.卒業論文全体の結論の執筆①
- 4.卒業論文全体の結論の執筆②
- 5.図表の整理
- 6.参考文献の整理
- 7.卒業論文全体の見直し①
- 8.卒業論文全体の見直し②
- 9.卒業論文発表会の資料作成①
- 10.卒業論文発表会の資料作成②
- 11.卒業論文発表会の発表練習
- 12.卒業論文発表会の予行
- 13.卒業論文発表会

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | |
| <p>[成績評価方法] 卒業論文に対する取り組み(20%)、卒業論文(60%)、卒業論文発表会での発表(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 各回の課題に対しては、ゼミ活動の中でコメントや添削等のフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|----------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | 音楽教育学の研究 | 演習 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 各自が見出した課題について考察し、主体的に事例研究・文献研究を進めながら卒業論文を作成する。</p> <p>[授業概要] 教育学講読や演習で進めてきた学習や実践での学びを基に、各自の研究テーマを明確にし、さらに事例研究や文献、先行研究から研究論文(卒業論文)としてまとめる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教育学講読や演習で取り組んできたことを基礎として、進んで卒業論文作成に取り組む。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究についてのガイダンス 2. 研究課題と研究方法の再確認① 3. 研究課題と研究方法の再確認② 4. 研究課題への取り組み① 5. 研究課題への取り組み② 6. 研究課題への取り組み③ 7. 研究課題への取り組み④ 8. 経過発表 9. 研究課題への取り組み⑤ 10. 研究課題への取り組み⑥ 11. 研究課題への取り組み⑦ 12. 研究課題への取り組み・まとめ 13. 卒業論文完成・卒業論文発表 | | | |

| | | | |
|--------|----------|----|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | 音楽教育学の研究 | 演習 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |

[成績評価方法]

卒業論文、授業(研究)への取り組みや態度などを総合的に評価

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

その都度、ゼミの中で指導する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。

成績評価方法:卒業論文や授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:卒業論文や授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。

成績評価方法:授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。

成績評価方法:卒業論文や授業への取り組み

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:卒業論文・論文発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:卒業論文

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:卒業論文

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:卒業論文・授業への取り組み

[教科書(ISBN)]

必要に応じて各自に指示

[参考書(ISBN)]

必要に応じて各自に指示

| | | | | |
|---|--------|--|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 久木山 健一 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 各自の関心のあるテーマについて、心理学的研究方法を用いて、実験や調査、事例研究を行い、得られたデータについての分析と考察をすることで、心理学論文作成を行うことを到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 各自の研究デザインにより、研究を実施し、結果を導きだし、データの整理や分析を行う。さらに心理学的考察の方法を学びながら、独自の考察を行っていく。そして最終的には、目的・方法・結果・考察の内容をまとめ、心理学論文として完成させる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自身の研究を実施し、得られた結果のデータ整理や分析を行うこと。独自の考察においては、仮説の科学的検証のため、関連する先行研究を読み解く。</p> <p>[授業計画] 1. 卒業論文 中間発表とディスカッション 2. 各研究結果のデータの整理と分析1 3. 各研究結果のデータの整理と分析2 4. 各研究結果のデータの整理と分析3 5. 各研究結果のデータの整理と分析4 6. 心理学論文について 7. 各研究の結果に対する考察と心理学論文作成1 8. 各研究の結果に対する考察と心理学論文作成2 9. 各研究の結果に対する考察と心理学論文作成3 10. 各研究の結果に対する考察と心理学論文作成4 11. 各研究の結果に対する考察と心理学論文作成5 12. 卒論発表会のプレゼンテーション資料作成 13. 心理学論文発表の抄録作成と発表</p> | | | | |

| | | | |
|--------|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 久木山 健一 | | |

[成績評価方法]

授業中の課題(20%)、発表(10%)、卒業論文(70%)等を総合的に判断して評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業やmanabaで随時フィードバックを行いながら、卒業論文中間発表会を実施し、質疑応答の中で、複数の教員からコメントをする。卒業論文を仕上げ、最後の卒業論文発表会においても、複数の教員からコメントやフィードバックをし、製本用の卒業論文を仕上げる。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

なし。授業内で随時配布する。著者名:× 出版社:×(×)

[参考書(ISBN)]

なし。授業内で随時紹介する。著者名:× 出版社:×(×)

| | | | |
|--|---|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | 自分で設定した課題に取り組み、筋道を立てて考察し、論文としてまとめる。こ しげへの感性を磨く | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 自分で課題となる研究テーマを設定する。その課題の解決について、先行研究を調査する。先行研究からの示唆をまとめ、言語化できるようになる。適切な引用をすることができるようになる。英語教育学論文としての構成、論理の展開が整った卒業論文を完成させる。</p> <p>[授業概要] 各自が設定した研究テーマについて、収集したデータを整理、分析を行います。その結果に基づき、考察を深めます。序論から考察に至るまで一貫した論理性を備えた卒業論文の執筆に取り組みます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 必要となる文献を集め、読み深めておくこと。発表者となった回では、調査結果、先行研究について発表することができるようにしておく。調査し読んだ論文、文献については、きちんとエクセルなどを使い記録しておく。常に次回発表することを考えてゼミに臨む。</p> <p>[授業計画] 1. データの分析① 2. データの分析② 3. 英語教育学論文・卒業論文の構成について 4. 実験・調査の進捗状況についての発表 5. 実験・調査の進捗状況についての発表 6. 卒業論文の作成① 7. 卒業論文の作成② 8. 卒業論文の作成③ 9. 卒業論文の作成④ 10. 卒業論文の作成⑤ 11. 抄録の作成 12. 卒業論文発表の準備 13. 卒業論文の発表</p> | | | |

| | | | |
|--|---|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 自分で設定した課題に取り組み、筋道を立てて考察し、論文としてまとめる。こ れだけの感性を磨く | 演習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業中の課題、発表(30%)、論文への評価(70%)【考察の妥当性(20%)、論理的一貫性(20%)、構成の適切さ(30%)】に基づいて総合的に評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 毎回の授業およびメール、manabaで行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:授業中の発表で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:論文の内容で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:論文の内容で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:授業中の課題、発表で評価します。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、発表で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、発表で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、発表で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:論文の内容で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:論文の内容で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題、発表と論文の内容で評価します。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業中に適宜案内します</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 社会科学教育を中心に小学校教育における各自の問題意識に基づいて設定したテーマについて、主体的に文献研究、調査研究、事例研究を進め、卒業論文を完成させる。</p> <p>[授業概要] 教育学講読、教育学演習での学びをもとに各自が研究テーマを設定し、文献研究、調査研究を進め、卒業論文を完成させ、発表を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] その時の課題を明確にし、確実にやり遂げていく。</p> <p>[授業計画] 1. 卒業論文のまとめ方① 2. 研究課題への取り組み⑤ 3. 研究課題への取り組み⑥ 4. 研究課題への取り組み⑦ 5. 卒論中間発表準備 6. 卒論中間発表 7. 卒業論文のまとめ方② 8. 研究課題への取り組み⑧ 9. 研究課題への取り組み⑨ 10. 研究課題への取り組み⑩ 11. 卒業論文の仕上げ 12. 卒論発表会準備 13. 卒業研究のまとめ(卒論発表会)</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業に取り組む姿勢20%、卒業論文70%、卒論発表会10%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 幼児教育、小学校教育、体育、スポーツ、健康における各自の問題意識に基づいて設定したテーマについて、主体的に文献研究、調査研究、事例研究を進め、卒業論文を執筆し完成する</p> <p>[授業概要] 教育学講読、教育学演習での学びをもとに各自が研究テーマを設定し、文献研究、調査研究を進め、卒業論文を完成していく。その後、発表資料を作成し発表する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] その時の課題を明確にし、確実にやり遂げていく。 各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 卒業論文のまとめ方① 2. 研究課題への取り組み 3. 卒論中間発表準備 4. 卒論中間発表 5. 卒業論文のまとめ方② 6. 研究課題への取り組み① 7. 研究課題への取り組み② 8. 研究課題への取り組み③ 10. 卒業論文第1次提出 11. 卒業論文の仕上げ 12. 卒業論文第2次提出 13. 卒論発表会準備と発表</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| <p>[成績評価方法] 卒業論文作成への取り組み(30%)、卒業論文内容(50%)、発表(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中や授業前後に行う。 メールで論文添削も行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜紹介する。</p> | | | |

| | | | | |
|--|-------|--|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 竹田 和恵 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 授業を通して、次のことを目標とする。 ①卒業論文の構造と要素を理解し、自身の研究内容を論理的かつ明確にまとめられる。 ②システム開発、実験、およびアンケート調査に基づき、データの収集および解析が行える。 ③卒業論文に基づいた発表資料を準備し、論文内容を適切に伝えることができる。</p> <p>[授業概要] 卒業論文Ⅰで実施したアンケート調査と実験のデータを解析し、その結果をもとに卒業論文の作成を行う。得られたデータを適切に整理し、統計的な分析やグラフ化を行う。そして、研究課題をまとめ、卒業論文を仕上げる。卒業論文抄録の作成や卒業論文発表の準備を通じて、研究結果を明確に伝える能力を向上させ、論文を執筆するスキルを養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の講義の復習</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.卒業論文のまとめ方 3.文献調査および調査データの集計(1) 4.文献調査および調査データの集計(2) 5.研究課題のまとめ(1) 6.研究課題のまとめ(2) 7.研究課題のまとめ(3) 8.研究課題のまとめ(4) 9.研究課題のまとめ(5) 10.研究課題のまとめ(6) 11.卒業論文仕上げ 12.卒業論文抄録の作成 13.卒論発表の準備と発表</p> | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 竹田 和恵 | | |
| <p>[成績評価方法] 卒業論文への取り組み(30%)、卒業論文の内容(60%)、卒業論文発表(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|----------------|--------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

教育学講読・演習で習得した知識に基づき、各自で卒業論文のテーマを決定し、論文を完成させる。

[授業概要]

三回生で習得した知識をもとに、各自のテーマに沿った研究を進める。ゼミで質疑応答を繰り返し、論文で扱うテーマについて理論を構築し、問題点を明確にする。論文の結論で、独自の意見を提示できるようにし、卒業論文作成計画を成就する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各自で卒論作成計画を立てて、それに沿って確実に前進する。他の人の研究発表から学ぶ。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[授業計画]

1. 論文作成
2. 研究発表
3. 論文作成
4. 論文作成
5. 論文作成
6. 論文作成
7. 論文作成
8. 研究発表
9. 研究発表
10. 論文作成
11. 論文作成
12. 論文作成
13. 論文作成

| | | | |
|--|--------|----|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |
| <p>[成績評価方法] 各自の卒論作成計画の達成度とその成果(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 研究室で個人指導。レポート等はmanabaを使い提出させ、添削する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:卒論</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:研究姿勢</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:研究姿勢、卒論</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:研究姿勢</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:研究姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:研究姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッション、研究発表、卒論</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒論</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒論</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:研究発表、卒論</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 個別に指示する。</p> | | | |

| | | | | |
|----------------|-----------|----------------|----|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | 模擬授業、場面指導 | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |

[到達目標]

教育に関して各自が研究してきたことを基に、テーマを設定し、研究成果を論文にまとめて完成させる。

[授業概要]

この授業では、学校現場における教員経験があるものが、その経験を活かして、今日的な課題(特別支援教育等)への対応を指導する。これまでの研究をもとに設定したテーマを、個別指導を受けながら、ほりさげて、論文を完成させる。必要な文献や研究論文の検索、資料の収集、小学校の児童、教員への研究協力依頼等を計画的に進める。模擬授業や場面指導も取り入れ、論文内容を実践し検証していく。研究論文を相互発表し、質意義応答でさらに内容を深めていく。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

研究テーマに関する専門書、学術論文、新聞等に目を通すこと。
 学校ボランティアや授業観察で教師として教壇に立てる実践力をつける。〈4時間以上〉
 学会や研究会に参加する。
 ※各回、予習復習合わせて2時間程度おこなうこと

[授業計画]

- 1.研究データのまとめ、相互発表と討議①
- 2.研究データのまとめ、相互発表と討議②
- 3.研究データのまとめ、相互発表と討議③
- 4.研究データのまとめ、相互発表と討議④
- 5.卒業論文のまとめ、相互発表と討議①
- 6.卒業論文のまとめ、相互発表と討議②
- 7.卒業論文のまとめ、相互発表と討議③
- 8.卒業論文のまとめ、相互発表と討議④
- 9.卒業論文の発表と質疑応答①
- 10.卒業論文の発表と質疑応答②
- 11.卒業論文の発表と質疑応答③
- 12.実地研究調査・フィールドワーク〈学外授業〉
- 13.卒業論文抄録の完成

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | |
| <p>[成績評価方法] 卒業論文への取り組み課程(50%)、卒業論文内容(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 卒業論文と関連研究課題に対して助言と修正および添削等の指導を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。研究に応じて紹介する。</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。必要な時に授業内で紹介する。</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 堀江 祐爾 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ゼミ発表 | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ゼミ発表 | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 主に国語教育に関して設定した研究テーマにそって論文完成を目指す。</p> <p>[授業概要] 卒論のテーマを設定した後各自で研究に必要な資料、研究論文、文献等を収集する。それらをもとに、論文作成のための分析作業を積み重ねる。資料や作業成果をもとに、目次を作成し、執筆作業に取りかかる。何度も推敲や教員との相談を重ねてよりよいものに高める。期限までに完成させ提出する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 国語教育について幅広い知識を身につけるために、国語教科書をはじめ、先行研究、先行実践、教育雑誌などを読み続ける。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 卒業論文のテーマ設定② 2. 論文作成の要領についての概略(項目、図、表等について) 3. 資料、文献、参考論文の収集① 4. 資料、文献、参考論文の収集② 5. 論文作成(題目、目次) 6. 論文作成(研究目的と方法) 7. 論文作成(研究結果)① 8. 論文作成(研究結果)② 9. 論文作成(研究結果)③ 10. 論文作成(まとめ、参考文献等) 11. 論文作成最終チェック 12. 卒業論文抄録作成 13. 各自の論文のまとめと発表</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 堀江 祐爾 | | |
| <p>[成績評価方法] 論文完成までの各自の取り組みの姿勢と方法(30%)、及び完成した論文の内容(70%)による。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaやLINEによって、課題の成果をフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|---|-------|----------------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標] 英語学・英語教育学に関して自ら設定した研究テーマの論文の完成を目指す。</p> <p>[授業概要] 卒業論文の執筆要領、各章の構成等を説明する。英語学・英語教育学に関する自らの研究課題について、さらに研究に必要な資料を収集し、分析を重ねながら、論文の執筆、校正を行い、卒業論文を完成させる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 自らの卒業論文のテーマに関連する論文、文献を読み、各自の課題に取り組んでおくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文執筆(題目、研究目的、研究方法) 2. 論文執筆(先行研究)① 3. 論文執筆(先行研究)② 4. 論文執筆(調査・分析結果)① 5. 論文執筆(調査・分析結果)② 6. 論文執筆(提案)① 7. 論文執筆(提案)② 8. 論文執筆(提案)③ 9. 論文執筆(纏め、参考文献等) 10. 論文最終確認 11. 論文抄録作成 12. 論文抄録推敲 13. 卒論発表会 | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 論文(80%)、口頭試問(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:論文、口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:論文、口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:論文、口頭試問</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:論文、口頭試問</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:論文、口頭試問</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:論文、口頭試問</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:論文、口頭試問</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:論文、口頭試問</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:論文、口頭試問</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:論文</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051685) 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692) 高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051784)</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 「卒業論文Ⅰ」で学んだ「論文の書き方」に習って、卒業論文を完成させる。</p> <p>[授業概要] 「卒業論文Ⅰ」で、Idea Tree というアプリケーションを使って構築した「アウトライン」と「引用カード」のデータ・ベースを活かして、卒業論文を執筆していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予習・復習合わせて4時間</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題の立て方① 2. 問題の立て方② 3. 問題の立て方③ 4. 序論の書き方① 5. 序論の書き方② 6. 序論の書き方③ 7. 本論の書き方① 8. 本論の書き方② 9. 本論の書き方③ 10. 本論の書き方③ 11. 結論の書き方① 12. 結論の書き方② 13. 卒論発表会 | | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法] 研究手法や結果の整理の仕方(40%)、考察内容の妥当性(40%)、考察の深まりの程度(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 時間内に随時フィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 随時紹介する。</p> | | | |

| | | | | |
|---|-------|--|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 幼稚園教育や保育、子どもの育ちに関する自らの課題について、科学的・研究的な視点から分析的に捉え、実践力の形成につなげていくことのできる教育実践学的研究力の構築を目指す。</p> <p>[授業概要] 幼児教育学講読や演習において進めてきた学習や実践を土台に、自らの研究課題を明確にしていく。さらに、それらをもとに、関連する文献や先行研究のリサーチ等をさらに充実させながら研究を進め、研究論文としてまとめる。その間、定期的に研究の経過や結果等を発表することで、プレゼンテーション力の向上と研究成果の共有化を図っていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の講義内容を整理し理解して、次回の講義の予習・準備をしておくこと。日常的に講義に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 研究の経過発表1(研究発表会) 2. 研究の経過発表2(研究発表会) 3. 研究課題への取り組み1 4. 研究課題への取り組み2 5. 研究課題への取り組み3 6. 研究課題への取り組み4 7. 研究の経過報告1(中間発表会) 8. 研究の経過報告2(中間発表会) 9. 研究課題への取り組み5 10. 研究課題への取り組み6 11. 研究課題への取り組み7 12. 研究課題への取り組み8 13. 研究の成果発表(研究発表会)【口頭試問】</p> | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] 研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] その都度指導を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:研究成果(80%)課題及び発表(20%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて各自に指示</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて各自に指示</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 村田 恵子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校の理科教育や理科教材に関わるテーマを設定し、調査・研究を行い、論文を作成し、発表する。</p> <p>[授業概要] 各自が関心を持った小学校理科教育や理科教材に関するテーマについて、調査・研究を行い、論文を作成する。調査・研究方法を随時相談しながら、研究計画に従って研究を行い、論文作成、発表する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 個別指導が主となるため、毎回、各自が卒業研究の進捗状況を報告できるように、1週間分の成果をまとめておく。</p> <p>[授業計画] 1.論文作成① 2.論文作成② 3.論文作成③ 4.論文作成④ 5.論文作成⑤ 6.論文作成⑥ 7.中間発表 8.論文作成⑦ 9.論文作成⑧ 10.論文作成⑨ 11.論文作成⑩ 12.論文作成⑪ 13.卒業研究発表</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 村田 恵子 | | |
| <p>[成績評価方法] 研究過程(30%)、論文内容(60%)、研究発表内容(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 論文作成(研究)過程において随時指導する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:研究過程、論文内容、研究発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:研究過程、論文内容、研究発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:研究過程、論文内容、研究発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:研究過程、論文内容、研究発表内容</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:研究過程、論文内容、研究発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:研究過程、論文内容、研究発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:研究過程、論文内容、研究発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:研究過程、論文内容、研究発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:研究過程、論文内容、研究発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:研究過程、論文内容、研究発表内容</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|---------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | 卒業論文の作成 | 演習 | |
| 担当者 | 守本 智美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 主に美術に関して設定した研究テーマにそって論文完成を目指す。</p> <p>[授業概要] 主に美術に関して、各自卒業論文の研究テーマを設定し、論文作成のための個別指導を受けながら、論文作成に必要な文献、研究論文、各資料の収集等を計画的に進める。卒業論文提出期限までに論文を完成させ提出出来るよう授業を行う。論文作成の方法と資料等の探し方の要領など、卒業論文作成に必要な基礎的な知識を最初に学び、その後、各自で主に美術に関して論文作成のための研究テーマを、教員から指導を受けながら設定する。テーマを設定したあとは各自で研究に必要な資料、研究論文、文献等を収集する。また、場合によっては美術作品の現物を見に現地に出かけたり、アンケートなどを行う、実際に研究に必要な作品を制作してみるなどの方法を取りながら、卒業論文を作成し、期限までに完成させ提出する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。美術館で本物の作品を鑑賞したり、画集でも授業で関連する内容の作品はよく見て、自分の作品制作や研究に生かすこと。manaba(マナバ)にて授業に必要な連絡をするので、必ずmanabaに登録しておくこと。</p> <p>[授業計画] 1.はじめに(manaba上にて指示します) 2.論文作成の要領についての概略(項目、図、表等について) 3.資料、文献、参考論文の収集①(作品制作含む) 4.資料、文献、参考論文の収集②(作品制作含む) 5.論文作成(題目、はじめに) 6.論文作成(研究方法)① 7.論文作成(研究方法)② 8.論文作成(研究結果)① 9.論文作成(研究結果)② 10.論文作成(研究結果)③ 11.論文作成(まとめ、参考文献等) 12.卒業論文抄録作成 13.論文のまとめと発表</p> | | | |

| | | | |
|--------|---------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 卒業論文の作成 | 演習 | |
| 担当者 | 守本 智美 | | |

[成績評価方法]

論文完成までの各自の研究への取り組みの姿勢と方法(20%)、及び完成した論文の内容(80%)による。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内でアドバイスをし、完成した論文にはコメントをします。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、完成した論文の内容(80%)

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、完成した論文の内容(80%)

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、完成した論文の内容(80%)

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、完成した論文の内容(80%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、完成した論文の内容(80%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、完成した論文の内容(80%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、完成した論文の内容(80%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、完成した論文の内容(80%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、完成した論文の内容(80%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:取り組みの姿勢と方法(20%)、完成した論文の内容(80%)

[教科書(ISBN)]

なし

[参考書(ISBN)]

授業中に指示する。

| | | | |
|---|-------------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | 自らのテーマを追究する | 演習 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 卒業論文の作成を通じて思考力、文章力、表現力等を学ぶ。 2 卒業論文の作成を通じて専門分野への理解を深め、専門性を生かした社会貢献のあり方を考える。 <p>[授業概要]</p> <p>本演習は、それまでの学習を基盤とし、学生自らがテーマを設定し、主体的な研究を進めることにより、その成果を卒業論文へとまとめていくものであり、同時に自らの学びを社会へと生かす視座を養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>三回生のゼミでの学習内容を振り返り、研究課題に対する知識を広げておくこと。また、毎時の課題をもとに、研究活動を遂行していくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究計画(2): 卒業論文題目の最終決定 2 研究結果の整理(1): データの量的・質的处理・データ整理・図表の作成 3 研究結果の整理(2): データの量的・質的处理・データ整理・図表の作成15回 4 本文執筆(1): 「方法」の文章作成 5 本文執筆(2): 「結果」「考察」の文章作成 6 本文執筆(3): 「結果」「考察」の文章作成 7 本文清書(1): 「目次」の作成 8 本文清書(2): 「方法」の文章推敲(追加調査の実施) 9 本文清書(3): 「結果」「考察」の文章推敲 10 本文清書(4): 卒業レポート全体の文章推敲 11 卒論発表会準備(1): パワーポイントの作成 12 卒論発表会準備(2): パワーポイントの作成 13 卒論発表会: 発表・質疑応答 | | | |

| | | | |
|---|-------------|----|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | 自らのテーマを追究する | 演習 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |
| <p>[成績評価方法] 論文(80%)、発表(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内で討議の上、フィードバックを行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:発表内容、卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:発表内容、卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:発表内容、卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:発表内容、卒業論文</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表内容、卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:発表内容、卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表内容、卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表内容、卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表内容、卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:発表内容、卒業論文</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山成 昭世 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 卒業論文Ⅰの学習をもとに、各自が研究や制作をさらに深め発展させる。ゼミ発表やディスカッションを活発に行いより良い卒業論文、造形作品制作を目指す。</p> <p>[授業概要] 各自の研究テーマにそった個別指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 論文や制作には予習復習合わせて2時間程度の自主学習・制作が必要です。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中間発表を踏まえた具体的な検討① 2. 中間発表を踏まえた具体的な検討② 3. 中間発表を踏まえた具体的な検討③ 4. 中間発表を踏まえた具体的な検討④ 5. 中間発表を踏まえた具体的な検討⑤ 6. 後期中間発表 7. 卒業論文、制作の指導② 8. 卒業論文、制作の指導③ 9. 卒業論文、制作の指導④ 10. 卒業論文、制作の指導⑤ 11. 卒業論文、制作の指導⑥ 12. 卒業論文発表会の準備、資料作成 13. 卒業論文発表会・作品発表も含む | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山成 昭世 | | |
| <p>[成績評価方法] 卒業論文、造形作品の内容(60%)研究態度(20%)プレゼンテーション(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 中間発表時、卒業論文発表時のプレゼンテーションで行う。 日々の取り組みの中でも問題点や課題を個別に指導する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] レジメ・資料を配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] 参考図書については適宜伝える</p> | | | |

| | | | |
|--|---------------------|----------------|-----|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4単位 |
| サブタイトル | 各自テーマを決めて、卒論を完成させよう | 演習 | |
| 担当者 | 坂下 直子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 自らが見出したテーマについて考察し、主体的に事例研究・文献研究を進めながら卒業論文を完成することができる。</p> <p>[授業概要] 教育学講読や教育学演習で進めてきた学習や実践での学びを基に、「卒業論文Ⅰ」で進めてきた研究をさらに深めて、学会参加で得た知見も加えた上で、独自性・新規性および有用性のある卒業論文の完成を目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 仮稿について、論文たるに値する条件を備えているか、ディスカッションで指摘された点について説得力ある修正を行っているかどうか、何度も推敲しブラッシュアップさせていく。自ずから各回、予習・復習で最低計2時間程度の自主学習が必要となる。</p> <p>[授業計画] 1. イントロダクション 2. 中間発表の整理 3. 研究課題への取り組み① 4. 研究課題への取り組み② 5. 研究課題への取り組み③ 6. 研究課題への取り組み④ 7. 研究課題への取り組み⑤ 8. 研究課題への取り組み⑥ 9. 研究課題への取り組み⑦ 10. 研究課題への取り組み⑧ 11. 研究課題への取り組み⑨ 12. 発表会の準備 13. 研究のまとめ(発表会)</p> | | | |

| | | | |
|--|---------------------|----|------|
| 科目名 | 卒業論文Ⅱ | 後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 各自テーマを決めて、卒論を完成させよう | 演習 | |
| 担当者 | 坂下 直子 | | |
| <p>[成績評価方法] 卒業論文の完成度(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて各自に指示</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて各自に指示</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 体育科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>体育・スポーツのもつ教育的可能性、体育科の基礎知識(体育科の基本的性格や内容論)等を理解する。体育科教育・スポーツ教育を取り巻く基礎的・制度的条件について理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>小学校体育科の基本的概念の構築を模索する。本講は小学校体育の授業を実践するに際し、必要とされる基礎的知識・実践能力の習得を主な目的とし概説する。児童が体育実技を実践することの意義や安全指導など総合的な指導方法を学習する。授業方法としては以下である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションを中心に展開する。 ・レポート課題については、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。 ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連性を持って、講義を進行していくので、前回の授業内容について復習する。 ・次回の授業内容について、学習指導要領や参考文献で確認しておく。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.スポーツ、体育の歴史 3.学校体育が抱える諸問題 4.体育科教育・スポーツ教育における日本の動きと国際的な動向 5.文化としてのスポーツ・体育の意義や多様性 6.体育科を通じた教師の成長と必要な資質 7.小学校体育科の基本的性格と目的 8.教科内容論(系統性を踏まえた運動領域編成) 9.体育科の教材づくり論 10.各運動領域の構造(体づくり運動、表現運動) 11.各運動領域の構造(器械運動、陸上運動) 12.各運動領域の構造(ゲーム・ボール運動) 13.まとめ(フィードバックと解説) | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 体育科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| <p>[成績評価方法] 毎回の小テスト(40%)、レポート(30%)、授業態度(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中やmanabaを通して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 『小学校学習指導要領解説 体育偏』(平成29年告示) 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (978-4491034676)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業で適宜紹介</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 体育科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>体育・スポーツのもつ教育的可能性、体育科の基礎知識(体育科の基本的性格や内容論)等を理解する。体育科教育・スポーツ教育を取り巻く基礎的・制度的条件について理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>小学校体育科の基本的概念の構築を模索する。本講は小学校体育の授業を実践するに際し、必要とされる基礎的知識・実践能力の習得を主な目的とし概説する。児童が体育実技を実践することの意義や安全指導など総合的な指導方法を学習する。授業方法としては以下である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションを中心に展開する。 ・レポート課題については、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。 ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連性を持って、講義を進行していくので、前回の授業内容について復習する。 ・次回の授業内容について、学習指導要領や参考文献で確認しておく。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.スポーツ、体育の歴史 3.学校体育が抱える諸問題 4.体育科教育・スポーツ教育における日本の動きと国際的な動向 5.文化としてのスポーツ・体育の意義や多様性 6.体育科を通じた教師の成長と必要な資質 7.小学校体育科の基本的性格と目的 8.教科内容論(系統性を踏まえた運動領域編成) 9.体育科の教材づくり論 10.各運動領域の構造(体づくり運動、表現運動) 11.各運動領域の構造(器械運動、陸上運動) 12.各運動領域の構造(ゲーム・ボール運動) 13.まとめ(フィードバックと解説) | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 体育科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| <p>[成績評価方法] 毎回の小テスト(40%)、レポート(30%)、授業態度(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中やmanabaを通して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 『小学校学習指導要領解説 体育偏』(平成29年告示) 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (978-4491034676)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業で適宜紹介</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 体育科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校体育 | 講義 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 体育授業の実践的指導力を身につける。教材作成力や指導力の向上を図る。</p> <p>[授業概要] 小学校体育授業を対象に、運動の楽しさや喜びを感じられる授業の学習内容・実践方法を探る。 小学校学習指導要領解説に合致した授業を作成し、模擬授業に取り組む。学習指導要領解説に示されている運動領域をまんべんなく取り扱う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 学習指導要領解説に示されている体育の目標、内容と系統性のあるカリキュラムについて理解を深めておく。 各回、予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、学習指導要領解説について 2. 教員による模擬授業 3. 外部講師による「ゴール型・タグラグビー」授業体験・講義 4. 模擬授業「体づくり運動」低学年 5. 模擬授業「体づくり運動」中学年 6. 模擬授業「表現運動」中学年 7. 模擬授業「ボール運動」高学年 8. 模擬授業「陸上運動」低学年 9. 模擬授業「陸上運動」高学年 10. 模擬授業「器械運動」低学年 11. 模擬授業「器械運動」中学年 12. 模擬授業「ボール運動」低学年 13. まとめと情報通信機器の教材活用について | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 体育科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校体育 | 講義 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| <p>[成績評価方法]</p> <p>①学習指導案と模擬授業(30%) ②受講態度(20%) ③修正学習指導案と模擬授業の省察(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中や授業前後に行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 『小学校学習指導要領解説 体育偏』 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社</p> | | | |

| | | | |
|---|--------|----------------|------|
| 科目名 | 体育科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校体育 | 講義 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 体育授業の実践的指導力を身につける。教材作成力や指導力の向上を図る。</p> <p>[授業概要] 小学校体育授業を対象に、運動の楽しさや喜びを感じられる授業の学習内容・実践方法を探る。 小学校学習指導要領解説に合致した授業を作成し、模擬授業に取り組む。学習指導要領解説に示されている運動領域をまんべんなく取り扱う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 学習指導要領解説に示されている体育の目標、内容と系統性のあるカリキュラムについて理解を深めておく。 各回、予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、学習指導要領解説について 2. 教員による模擬授業 3. 外部講師による「ゴール型・タグラグビー」授業体験・講義 4. 模擬授業「体づくり運動」低学年 5. 模擬授業「体づくり運動」中学年 6. 模擬授業「表現運動」中学年 7. 模擬授業「ボール運動」高学年 8. 模擬授業「陸上運動」低学年 9. 模擬授業「陸上運動」高学年 10. 模擬授業「器械運動」低学年 11. 模擬授業「器械運動」中学年 12. 模擬授業「ボール運動」 13. まとめと情報通信機器の教材活用について | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 体育科教育法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校体育 | 講義 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| <p>[成績評価方法]</p> <p>①学習指導案と模擬授業(30%) ②受講態度(20%) ③修正学習指導案と模擬授業の省察(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中や授業前後に行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 『小学校学習指導要領解説 体育偏』 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 体育科教材研究 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校体育科指導法 | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 小学校体育科の教材研究及び指導法について実践を通して理解する。</p> <p>[授業概要] 小学校体育の教材内容を把握し、各領域の指導法について実践を通して理解する。 授業内容は、各学生のニーズに応じた演習課題を明確にし、実技を通して技能を身につけ指導者としての資質を高める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自己の実技課題について調べておく。その実技課題練習について具体的な流れを組み立てる。 各回、予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目概要の説明 2. 器械運動における系統的な指導方法 3. 器械運動における具体的な技に応じた補助法や指導方法 4. ボール運動における指導方法 5. 陸上運動における指導方法 6. 各学生のニーズに応じた課題の確認と練習方法 7. 個別実技練習1(グループ内でのFBや指導方法の検討) 8. 個別実技練習2(グループ内でのFBや指導方法の検討) 9. 個別実技練習3(グループ内でのFBや指導方法の検討) 10. 個別実技練習4(グループ内でのFBや指導方法の検討) 11. 個別実技練習5(グループ内でのFBや指導方法の検討) 12. 模擬実技1 13. 模擬実技2 <p>* 水泳実技練習の希望者の有無を第1回目授業で確認し、希望者がいる場合は、水泳実技を実施する場合がある。なお、実施する場合は、水泳実技への参加は希望者のみ(参加自由)とする。</p> | | | |

| | | | |
|--------|-----------|----|------|
| 科目名 | 体育科教材研究 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 小学校体育科指導法 | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |

[成績評価方法]

受講態度(授業参加度、周囲とのコミュニケーションや意見交換、補助など)50%、課題内容50%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

小学校学習指導要領解説「体育編」 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (978-4-491-0346-6)

[参考書(ISBN)]

課題に応じて紹介する

| | | | | |
|----------------|---------|----------------|----|------|
| 科目名 | 中学校基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | 学校訪問 | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |

[到達目標]

小・中学校教員として求められる実践的指導力に結びつく基本力となるコミュニケーション力やソーシャルスキル、プレゼンテーション力、教育的観察眼等を養う。

[授業概要]

この授業は、学校現場における教員経験があるものが、その経験を活かし、学校現場(小学校、中学校)での実践的な対応について指導助言を行いながら進めます。現代の教育課題等を各回のテーマとして、ワークショップやグループディスカッション等により教育的関心を高め、教員に求められる基礎的な力である発表や表現等のスキルを高めることができるようになることを目指します。学校現場での体験をもとに、具体的にどのような授業づくりや学級づくりが求められているかを探究していきます。同時に、国英数社理の「基礎テスト」を3回行い、教員としての知識理解について自分自身をふりかえります。教員を目指す上で、自分自身にどのような力が必要であるのか具体的に見通せる授業なので、教免必修ではありませんが、教師を志望する全員が履修することを強く推奨します。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

日頃から、学校教育に対して関心を持ち、新聞や文献等で考察を深めておく。

教員採用試験の過去問などを解きながら基礎的な学力をつけていく。

※各回、予習復習合わせて4時間程度おこなうこと

[授業計画]

1. オリエンテーション、「基礎テスト1」
 2. めざす教師像、学級づくりについて
 3. 「基礎テスト1」ふりかえり、学校現場の課題(1)
 4. 学校現場の課題(2)
 5. 新聞(インターネット)記事を読んでプレゼンテーション(1)
 6. 新聞(インターネット)記事を読んでプレゼンテーション(2)
 7. 「基礎テスト2」、小学校訪問事前準備
 8. 小学校訪問
 9. 小学校訪問報告会
 10. 「基礎テスト2」ふりかえり、ワークショップ型の学び
 11. 学校インターンシップ(学校観察)(1)
 12. 学校インターンシップ(学校観察)(2)、「基礎テスト3」
 13. 「基礎テスト3」ふりかえり、全体のまとめ
- ※小学校訪問ができない場合があります
※曜日や時間に変更になることがあります

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 中学校基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度(50%)授業中の発表(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出課題に対してフィードバックをおこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし(プリント配布)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|----------------|---------|----------------|----|------|
| 科目名 | 中学校基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | 学校訪問 | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |

[到達目標]

小・中学校教員として求められる実践的指導力に結びつく基本力となるコミュニケーション力やソーシャルスキル、プレゼンテーション力、教育的観察眼等を養う。

[授業概要]

この授業は、学校現場における教員経験があるものが、その経験を活かし、学校現場(小学校、中学校)での実践的な対応について指導助言を行いながら進めます。現代の教育課題等を各回のテーマとして、ワークショップやグループディスカッション等により教育的関心を高め、教員に求められる基礎的な力である発表や表現等のスキルを高めることができるようになることを目指します。学校現場での体験をもとに、具体的にどのような授業づくりや学級づくりが求められているかを探究していきます。同時に、国英数社理の「基礎テスト」を3回行い、教員としての知識理解について自分自身をふりかえります。教員を目指す上で、自分自身にどのような力が必要であるのか具体的に見通せる授業なので、教免必修ではありませんが、教師を志望する全員が履修することを強く推奨します。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

日頃から、学校教育に対して関心を持ち、新聞や文献等で考察を深めておく。

教員採用試験の過去問などを解きながら基礎的な学力をつけていく。

※各回、予習復習合わせて4時間程度おこなうこと

[授業計画]

1. オリエンテーション、「基礎テスト1」
 2. めざす教師像、学級づくりについて
 3. 「基礎テスト1」ふりかえり、学校現場の課題(1)
 4. 学校現場の課題(2)
 5. 新聞(インターネット)記事を読んでプレゼンテーション(1)
 6. 新聞(インターネット)記事を読んでプレゼンテーション(2)
 7. 「基礎テスト2」、小学校訪問事前準備
 8. 小学校訪問
 9. 小学校訪問報告会
 10. 「基礎テスト2」ふりかえり、ワークショップ型の学び
 11. 学校インターンシップ(学校観察)(1)
 12. 学校インターンシップ(学校観察)(2)、「基礎テスト3」
 13. 「基礎テスト3」ふりかえり、全体のまとめ
- ※小学校訪問ができない場合があります
 ※曜日や時間に変更になることがあります

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 中学校基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度(50%)授業中の発表(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出課題に対してフィードバックをおこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:毎回の授業の「発表」や課題の取り組み、レポート等で評価していく。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし(プリント配布)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|--|----------------|------|
| 科目名 | 中等英語科教育法 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 中学校における外国語(英語)の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身につける | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 中学校における外国語(英語)の学習・指導に関する文法力を伸長する。英語や教育への知識と授業指導及び学習評価の基礎を身につける。中学校英語授業の授業案作成の基礎を身につけ、自分の考えを文字化して、人に理解してもらえるようになる。</p> <p>[授業概要] 担当者は、教育現場での豊富な教授歴があるので、それらから学んだことを重視して進めます。学習指導要領及び小学校英語活動や英語授業教科書、中学校英語教科書について理解する。授業は毎回中学校でとりあつかう英語文法の小テストを通して基礎的な英語力を固める。と同時に、教科書のリーディングを通してモデルリーディングが出来るようになることを目標とする。授業ではあなたからの質問を主軸に進めるので自主的にまなび、質問を作って参加するようにしてください。できれば、年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画及び授業の組み立て方についての理解をするとともに、学習指導案を作成し、評価についても理解を促すことも視野に入れていきます。受講生は、授業以外にも英語力の向上を常に思い、努力することが求められる。各種英語検定試験の受験等についても評価するので、担当者に報告するようにしてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回の小テストでは9割以上の合格を目指してください。並びに中学校英語検定教科書のリーディング(暗記)を目指します。授業ではあなたの質問に対する討議等を主軸で進めるので、学習したことで質問を作成してください。そのため、おおよそ2時間程度は授業の予復習が必要です。</p> <p>[授業計画] 第1回:オリエンテーション、授業の進め方、来週以降に準備、復習することなど 第2回:教科書のリーディング学習1、小テスト1(1~6) 第3回:教科書のリーディング学習2、小テスト2(7~13)、前回の復習等 第4回:教科書のリーディング学習3、小テスト3(14~20)、前回の復習等 第5回:教科書のリーディング学習4、小テスト4(21~27)、前回の復習等 第6回:教科書のリーディング学習5、小テスト5(28~33)、前回の復習等 第7回:教科書のリーディング学習6、小テスト6(34~40)、前回の復習等 第8回:教科書のリーディング学習7、小テスト7(41~47)、前回の復習等 第9回:教科書のリーディング学習8、小テスト8(48~54)、前回の復習等 第10回:教科書のリーディング学習9、小テスト9(55~61)、前回の復習等 第11回:教科書のリーディング学習10、全体の復習等 第12回:学習指導案作成、総まとめテスト 第13回:指導案について自己評価と相互評価</p> | | | |

| | | | |
|--|--|----|------|
| 科目名 | 中等英語科教育法 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 中学校における外国語(英語)の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習 評価の基礎を身につける | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| <p>[成績評価方法] 毎時間の振り返りレポート(30%)、小テスト(30%)、総まとめテスト(20%)、最終レポートあるいは指導案作成(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中及び、manabaの掲示板を利用して行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:毎時間の振り返り、小テストで評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:最終レポートあるいは指導案で評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:毎時間の振り返り、小テストで評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:毎時間の振り返り、小テストで評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して 行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:毎時間の振り返り、小テストで評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実 行する能力 成績評価方法:最終レポートあるいは指導案で評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)] 特に定めません</p> <p>[参考書(ISBN)] 中学校学習指導要領 著者名:文部科学省 出版社:東山書房 (978-4-8278-15580) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9780000000000) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9780000000000) 中学校検定英語教科書</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------|----------------|------|
| 科目名 | 中等英語科教育法Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 文法事項導入法再検討(1) | 講義 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| [到達目標] | | | |
| <p>稲岡章代教諭が中学校で実践した文法事項導入の授業ビデオを観察し考察する。そして、中学校における文法事項導入の授業方法について理解を深める。</p> | | | |
| [授業概要] | | | |
| <p>稲岡章代教諭が中学校で実践した文法事項導入の授業ビデオを見ながら、授業で起きている様々な出来事を「教師を見る」「生徒を見る」の両方の観点から記述する。そして、出来事の意味を解釈する。授業の記述や解釈を、受講生全員が Padlet に書き込むことで互いに気づいたことや考えたことを共有しながら、協同学習を実践する。</p> | | | |
| [準備学修(予習・復習)の内容・時間] | | | |
| <p>予習：ICC プロジェクトに参加し、国際交流を通して異文化間コミュニケーションを実践する。 復習：授業で学んだ「授業を見る観察眼」を働かして、JLC にあるビデオをたくさん見る。そして、オススメの授業を、授業のサイトに紹介する。</p> | | | |
| [授業計画] | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. プレイスメントテスト (Reading & Listening) 2. オリエンテーション 3. 中学1年 Can の導入① 4. 中学1年 Can の導入② 5. 中学1年 Can の導入③ 6. 中学2年 be going to の導入① 7. 中学2年 be going to の導入② 8. 中学2年 be going to の導入③ 9. 中学3年 want + 人 + to 不定詞 ① 10. 中学3年 want + 人 + to 不定詞 ② 11. 中学3年 want + 人 + to 不定詞 ③ 12. Loudspeaker 13. 最終レポートの課題と提出 | | | |

| | | | |
|--|---------------|----|------|
| 科目名 | 中等英語科教育法Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 文法事項導入法再検討(1) | 講義 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法]</p> <p>① ICC Project への参加 (50%) ② Padlet に投稿した稲岡先生の授業ビデオの観察・記述・解釈 (50%)</p> <p>①と②を総合的に評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|----------------|----------------|------|
| 科目名 | 中等英語科教育法Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 文法事項導入法再検討 (2) | 講義 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 稲岡章代教諭が中学校で実践した文法事項導入の授業ビデオを観察し考察する。そして、中学校における文法事項導入の授業方法について理解を深める。</p> <p>[授業概要] 稲岡章代教諭が中学校で実践した文法事項導入の授業ビデオを見ながら、授業で起きている様々な出来事を「教師を見る」「生徒を見る」の両方の観点から記述する。そして、出来事の意味を解釈する。授業の記述や解釈を、受講生全員が Padlet に書き込むことで互いに気づいたことや考えたことを共有しながら、協同学習を実践する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予習 : ICC プロジェクトに参加し、国際交流を通して異文化間コミュニケーションを実践する。 復習 : 授業で学んだ「授業を見る観察眼」を働かして、JLC にあるビデオをたくさん見る。そして、オススメの授業を授業のサイトで紹介する</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 若林俊輔先生 NHK 基礎英語 ① 3. 若林俊輔先生 NHK 基礎英語 ② 4. 現在完了形導入の授業 ① 5. 現在完了形導入の授業 ② 6. 現在完了形導入の授業 ③ 7. 法助動詞 will の導入の授業 ① 8. 法助動詞 will の導入の授業 ② 9. 法助動詞 will の導入の授業 ③ 10. too ... to 11. My Book report 12. My Memories 13. 最終レポートの課題と提出</p> | | | |

| | | | |
|--------|----------------|----|------|
| 科目名 | 中等英語科教育法Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 文法事項導入法再検討 (2) | 講義 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |

[成績評価方法]

- ① ICC Project への参加と貢献度 (50%)
- ② 稲岡先生の授業ビデオの観察・記述・考察 (50%)

①と②の2つの観点から総合的に評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]
なし。

[参考書(ISBN)]
なし

| | | | |
|--|----------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 中等英語科教育法Ⅳ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 中学校検定教科書を使って英語授業を行えるようになる。 | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教科書の内容をあますところなく教えることができるようになる。そのために、教科書をモデルとして読めるレベルになる。英語科学習指導案を立案作成できるようになる。それに基づいて、英語模擬授業を行う。相互評価をとおして授業実践力を高める。</p> <p>[授業概要] 英語科学習指導案(中学校レベル)を作成する。それに基づいて各自が模擬授業を行う。模擬授業では相互評価を行いながら、自身の行った授業について分析を行い、改善していく。同時に、英語科の検定教科書をモデルとして読めるレベルになれるように練習していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 学習指導案は常に改善することが求められます。中学校での英語授業を想定して模擬授業を行うので、教科書をモデルリーディングできるレベルまで読み込むことや教材作成も行います。予習復習で4時間程度かかります。</p> <p>[授業計画] 実習等で受講生は変則的に参加することを見通してのあくまでも計画です。 1. 英語授業の成立について、模擬授業担当決定、評価内容の決定 2. 教科書分析、リーディング学習等 3. 模擬授業1 読みを中心に考察する 4. 模擬授業2 発声を中心に練習を行う 5. 模擬授業3 文法事項に注目して英語授業を考える 6. 模擬授業4 板書計画を考える 7. 模擬授業5 英語の4技能について考察する 8. 模擬授業6 協働学習に注目する 9. 模擬授業7 アウトプット活動を主軸とした授業の展開についてまなぶ 10. 模擬授業8 学習者中心という概念について考察する 11. 模擬授業9 学習指導案への考察、小学校や高等学校との連携を考える 12. 模擬授業10 ICT技術の効果的な使用方への考察 13. まとめ(学習指導案最終版)提出</p> | | | |

| | | | |
|--------|----------------------------|----|------|
| 科目名 | 中等英語科教育法Ⅳ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 中学校検定教科書を使って英語授業を行えるようになる。 | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |

[成績評価方法]

授業への主体的な参加 (30%)、模擬授業への取り組み (40%)、改訂版英語学習指導案 (30%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

レポートは後日の授業においてコメントを付して返します。学習指導案も解説などを行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:模擬授業への取り組みで評価します。

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。

成績評価方法:改訂版英語科学習指導案により評価します。

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。

成績評価方法:授業への主体的な参加度で評価します。

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:授業への主体的な参加で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:改訂版英語科学習指導案で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:模擬授業への取り組みで評価します。

[教科書 (ISBN)]

New Horizon English Course1 著者名:笠島準一他 出版社:東京書籍 ((中学校検定教科書 英語701))

New Horizon English Course2 著者名:笠島準一他 出版社:東京書籍 ((中学校検定教科書 英語801))

New Horizon English Course3 著者名:笠島準一他 出版社:東京書籍 ((中学校検定教科書 英語901))

[参考書 (ISBN)]

授業の中で紹介します

| | | | | |
|--|-------------|--|----------------|------|
| 科目名 | 中等英語科教材研究 I | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 文部科学省の学習指導要領に沿って、小中の学びの接続を図りながら中等教育段階の生徒に相応しい教材を自らも開発し、それを授業実践で活用することができる。</p> <p>[授業概要] 中等英語科教育と初等英語科教育の接続を図るために、初等教育段階でどのような英語教材が検定教科書として使用されているかを理解する。小学校と中学校の学習指導要領を踏まえ中等教育段階の発達過程も考慮に入れながら、生徒に相応しい教材開発を行う。開発した教材を用いて、模擬授業、振り返りを行い、さらにより良い教材開発を行っていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 学習指導要領(外国語編)をよく読んでおくこと。また、検定教科書の内容理解に努めておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校学習指導要領における外国語科について 外国語教育における小中連携 2. 外国語科の目標、教材分析の視点 3. 外国語科(英語)(中学1年生)の教材分析 4. 外国語科(英語)(中学2年生)の教材分析 5. 外国語科(英語)(中学3年生)の教材分析 6. 外国語科(英語)(中学1年生)における教材の開発 7. 外国語科(英語)(中学1年生)における教材の実践・検証 8. 外国語科(英語)(中学2年生)における教材開発 9. 外国語科(英語)(中学2年生)における教材の実践・検証 10. 外国語科(英語)(中学3年生)における教材開発 11. 外国語科(英語)(中学3年生)における教材の実践・検証 12. 中学校外国語科における教材研究の振り返り 13. まとめ | | | | |

| | | | |
|---|-------------|----|------|
| 科目名 | 中等英語科教材研究 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 定期試験(30%)、課題への取り組み姿勢(40%)、教材開発の内容(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:定期試験、教材開発の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:定期試験、教材開発の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:課題への取り組み姿勢、教材開発の内容</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題への取り組み姿勢、教材開発の内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:教材開発の内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:定期試験</p> <p>[教科書 (ISBN)] 『NEW CROWN: English Series』1 著者名:根岸 雅史、他38名 出版社:SANSEIDO (9784390000000) 『NEW CROWN: English Series』2 著者名:根岸 雅史、他38名 出版社:SANSEIDO (978385706283) 『NEW CROWN: English Series』3 著者名:根岸 雅史、他38名 出版社:SANSEIDO (9784385706290) 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051685)</p> | | | |

| | | | | |
|---|------------|--|----------------|------|
| 科目名 | 中等英語科教材研究Ⅱ | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 学習指導要領に記された目標や内容を理解した上で、教科横断的な視点で教材研究に取り組み、単元目標に基づいた教材開発ができるとともに、授業実践を通して、客観的にその教材について検証し改善に取り組んでいくことができる。</p> <p>[授業概要] 中等教育段階の各教科の教育内容を理解した上で、教科横断的な視点で各学年に相応しい教育内容、指導法について考え、教材研究、教材開発に取り組んでいく。開発した教材を用いて外国語の授業実践を行い、検証し、改善を図り、新たな教材の開発を進める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 中学校学習指導要領及び文部科学省検定教科書をしっかりと読み授業の準備を整えておくこと。 授業内容を振り返り、質問があればメモしておき、次の授業時間に確認する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校学習指導要領 各教科の目標・内容等について [第1学年] 2. 中学校学習指導要領 各教科の目標・内容等について [第2学年] 3. 中学校学習指導要領 各教科の目標・内容等について [第3学年] 4. 外国語科(英語)(第1学年)における教材の開発 5. 外国語科(英語)(第1学年)における教材の実践・検証 6. 外国語科(英語)(第1学年)における教材の改善・提案 7. 外国語科(英語)(第2学年)における教材の開発 8. 外国語科(英語)(第2学年)における教材の実践・検証 9. 外国語科(英語)(第2学年)における教材の改善・提案 10. 外国語科(英語)(第3学年)における教材の開発 11. 外国語科(英語)(第3学年)における教材の実践・検証 12. 外国語科(英語)(第3学年)における教材の改善・提案 13. まとめ | | | | |

| | | | |
|--|------------|----|------|
| 科目名 | 中等英語科教材研究Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 定期試験(30%)、課題への取り組み姿勢(40%)、教材開発の内容(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:定期試験、教材開発の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:定期試験、教材開発の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:課題への取り組み姿勢</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:定期試験、課題への取り組み姿勢、教材開発の内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題への取り組み姿勢、教材開発の内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:定期試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて資料を作成し配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051685) 『NEW HORIZON』1 著者名:笠島 準一・阿野 幸一・小串 雅則・関 典明、他128名 出版社:東京書籍 (9784487123919) 『NEW HORIZON』2 著者名:笠島 準一・阿野 幸一・小串 雅則・関 典明、他128名 出版社:東京書籍 (9784487123926) 『NEW HORIZON』3 著者名:笠島 準一・阿野 幸一・小串 雅則・関 典明、他128名 出版社:東京書籍 (9784487123933)</p> | | | |

| | | | |
|--|---------------------|----------------|------|
| 科目名 | 中等英語科教材研究Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教材研究の「奥深さ」と「面白さ」を学ぶ | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 優れた授業実践の背景には深い「教材研究」がある。しっかりとした教材研究をするために必要な教材研究のあり方と具体的な方法を学ぶ。</p> <p>[授業概要] 授業計画に、教科書として使用する『若い英語教師のための教材研究入門』の目次が書かれてある。この目次によって、新学習指導要領に向けた授業づくりの要となる英語の教材研究のあり方について探求していく。各章に設けられてある「Warm-up」や様々な「問い」について、ディスカッションをしていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予習: 次回の授業で学ぶ章の「Warm-up」を読み、そこに書かれてある「問い」について考えながら、その章を読んでおく。 復習: 授業で学んだことを振り返り、振り返りのレポートをA4 に1枚以内で書き、次回の授業のときに提出する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教材研究とは何か (1) 2. 教材研究とは何か (2) 3. 「発問」とは何か (1) 4. 「発問」とは何か (2) 5. 「指導目標」の設定と「指導計画」の作成 6. 教材の吟味—テキストタイプ (1) 7. 教材の吟味—テキストタイプ (2) 8. 説明文の指導 6. 説明文を用いた指導の実際 9. 物語文の指導 10. 物語文を用いた指導の実際 11. 検定教科書を使った教材研究 (1) 12. 検定教科書を使った教材研究 (2) 13. 検定教科書を使った教材研究の発表 | | | |

| | | | |
|--|---------------------|----|------|
| 科目名 | 中等英語科教材研究Ⅲ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教材研究の「奥深さ」と「面白さ」を学ぶ | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法] 毎回、提出する前回の授業の振り返りレポート (50%) 検定教科書を使った教材研究の指導案と発表 (50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] 『若い英語教師のための教材研究入門』 著者名:小橋 雅彦 出版社:大学教育出版 (4866921293)</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし。</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 中等教育実習 I | 前期～後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育実践力をつける | 実習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀、本多 明子、宮本 晃郎、宮垣 覚、水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 各学校での教育実習を通じて、教育の実際を学び、確実な学級経営や授業などの教育実践ができる力を身につける。</p> <p>[授業概要] 各学校での管理職をはじめ校務担当教員の講話、学級担任・教科担任の指導を受けて、観察実習、授業実践、研究授業などを行う。また、教科指導のほかに、生徒指導をはじめとする校務にも携わり、実践的な指導力の向上を図る。事前・事後の指導では、教育実習の意義、実習記録の取り方、教育課題への対応の仕方、実習後の課題の整理などを行う。その際、学校現場における校長、教頭、教諭(学級担任、教務主任等)の経験を生かして具体的な対応について指導助言する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各教科指導法の概要・学習指導案の作成、人権・学級経営・生徒指導等の学校での学習指導に必要な事項について、その概要を復習しておくこと。</p> <p>[授業計画] 学校実習(2週間) <ul style="list-style-type: none"> ・管理職の講話 ・校務担当教職員の講話と指導 ・校務処理の仕方について ・実習校の学級担任の指導、学級経営の実査 ・教科担任の指導と観察実習 ・学習指導案の作成と指導 ・授業実践と指導 ・大学教員の指導等 ・研究授業と反省 ・実習のまとめ 事後指導 <ul style="list-style-type: none"> ・実習後の課題の整理等 </p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------|-------|------|
| 科目名 | 中等教育実習 I | 前期～後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育実践力をつける | 実習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀、本多 明子、宮本 晃郎、宮垣 覚、水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法] 実習状況(40%)、実習校からの評価資料(40%)、実習記録等(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題やレポートについては、事後指導を中心に意見交換ならびに解説をおこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 適宜資料配布</p> <p>[参考書(ISBN)] 各自調達のこと</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 中等教育実習Ⅱ | 前期～後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育実践力をつける | 実習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀、宮本 晃郎、本多 明子、宮垣 覚、水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 各学校での教育実習を通じて、教育の実際を学び、確実な学級経営や授業などの教育実践ができる力を身につける。</p> <p>[授業概要] 各学校での管理職をはじめ校務担当教員の講話、学級担任・教科担任の指導を受けて、観察実習、授業実践、研究授業などを行う。また、教科指導のほかに、生徒指導をはじめとする校務にも携わり、実践的な指導力の向上を図る。事前・事後の指導では、教育実習の意義、実習記録の取り方、教育課題への対応の仕方、実習後の課題の整理などを行う。その際、学校現場における校長、教頭、教諭(学級担任、教務主任等)の経験を生かして具体的な対応について指導助言する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各教科指導法の概要・学習指導案の作成、人権・学級経営・生徒指導等の学校での学習指導に必要な事項について、その概要を復習しておくこと。</p> <p>[授業計画] 学校実習(2週間) <ul style="list-style-type: none"> ・管理職の講話 ・校務担当教職員の講話と指導 ・校務処理の仕方について ・実習校の学級担任の指導、学級経営の実査 ・教科担任の指導と観察実習 ・学習指導案の作成と指導 ・授業実践と指導 ・大学教員の指導等 ・研究授業と反省 ・実習のまとめ 事後指導 <ul style="list-style-type: none"> ・実習後の課題の整理等 </p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------|-------|------|
| 科目名 | 中等教育実習Ⅱ | 前期～後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 教育実践力をつける | 実習 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀、宮本 晃郎、本多 明子、宮垣 覚、水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法] 実習状況(40%)、実習校からの評価資料(40%)、実習記録等(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題やレポートについては、事後指導を中心に意見交換ならびに解説をおこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 適宜資料配布</p> <p>[参考書(ISBN)] 各自調達のこと</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 中等教育実習指導 | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹、本多 明子、家入 聖子、宮垣 覚、齋藤 由紀、水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 中学校教育実習(英語)を行うのに必要な知識・技能を身に付け、教育実習に向けた意識を高めることができる。</p> <p>[授業概要] 中学校英語科教育実習の実施に向けて、英語の授業授業づくりや学級経営、生徒指導等について、それぞれの分野をを専門とする教員による講義・演習を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 小学校実習のまとめをしっかりとしておく。 中学校英語授業に関わる授業のまとめをしっかりとしておく。 中学校教育に関心を持ち、毎回の授業の復習をする。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校教育実習の準備手続きとオリエンテーション (佐藤) 2. 小学校実習の振り返りと中学校実習の心構え (宮垣) 3. 中学校英語科授業の基礎・基本 (家入) 4. 中学校英語科授業の実際と授業づくり① (本多) 5. 中学校英語科授業の実際と授業づくり② (齋藤) 6. 中学校教育実習に向けての指導① (本多) 7. 中学校教育実習の報告聴講 (佐藤) 8. 中学校教育実習の課題についての検討 (佐藤) 9. 中学校の特別活動と生徒の様子 (佐藤) 10. 中学校教育実習に向けての指導② (齋藤) 11. 中学校教育実習に向けての指導③ (水野) 12. 高倉中学校への訪問①(英語授業の参観) (佐藤、本多、水野、齋藤、家入) 13. 高倉中学校への訪問②(学校長の講話) (佐藤、本多、水野、齋藤、家入) | | | |

| | | | |
|--|-------------------------------------|----|------|
| 科目名 | 中等教育実習指導 | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹、本多 明子、家入 聖子、宮垣 覚、齋藤 由紀、水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業に取り組む姿勢(50%)、レポート・提出物等(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 道徳教育の理論と指導法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育活動全体を通じて行われる道徳教育の意義を考え、道徳教育の内容を把握し、教育の現場における様々な状況を想定しながら、実践的な指導力が身につく。</p> <p>[授業概要] 本講義では『学習指導要領』に明記される道徳教育の意義と目標、道徳教育の内容、道徳教育の実践を主要な柱として扱う。児童・生徒の発達段階に応じて、道徳心を培うために選択した資料を用いて学習指導案を考案・作成する。それに基づいて模擬授業を行い、実践的能力を養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 指定されたテキスト・資料をあらかじめ読んでおくこと。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション、道徳教育の意義 2. 道徳教育の目標 3. 道徳教育の内容① A.自分自身に関すること、B.人とのかかわり 4. 道徳教育の内容② C.集団や社会とのかかわり(公平、公正、社会正義)、D.生命、自然、崇高なものとのかかわり 5. 道徳の指導法、学習教材・資料の分析 6. 学習指導案の考案・作成について 7. 学習指導案の例 8. 研究授業(低学年)(DVD)鑑賞、グループワークで指導案作成・模擬授業準備① 9. 研究授業(高学年)(DVD)鑑賞、グループワークで指導案作成・模擬授業準備② 10. 模擬授業実施① 低学年 11. 模擬授業実施② 中学年 12. 模擬授業実施③ 高学年 13. 総括および授業に関する反省と評価</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------------|----|------|
| 科目名 | 道徳教育の理論と指導法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |

[成績評価方法]

学習指導案と模擬授業(20%)、模擬授業観察シート(約10%)、筆記試験(約70%)。授業態度等も考慮する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

模擬授業のコメントは学内ウェブで公開する。筆記試験の解答例も学内ウェブで公開する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。
成績評価方法:模擬授業、筆記試験

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。
成績評価方法:模擬授業

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。
成績評価方法:模擬授業、筆記試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:模擬授業

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:模擬授業

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:模擬授業、筆記試験

[教科書(ISBN)]

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」 著者名:文部科学省 出版社:廣済堂あかつき (978-4-908255-35-9)

[参考書(ISBN)]

「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(購入する必要はない)
著者名:文部科学省 出版社:教育出版 (978-4-316-30084-9)

| | | | |
|---|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 道徳教育の理論と指導法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育活動全体を通じて行われる道徳教育の意義を考え、道徳教育の内容を把握し、教育の現場における様々な状況を想定しながら、実践的な指導力が身につく。</p> <p>[授業概要] 本講義では『学習指導要領』に明記される道徳教育の意義と目標、道徳教育の内容、道徳教育の実践を主要な柱として扱う。児童・生徒の発達段階に応じて、道徳心を培うために選択した資料を用いて学習指導案を考案・作成する。それに基づいて模擬授業を行い、実践的能力を養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 指定されたテキスト・資料をあらかじめ読んでおくこと。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション、道徳教育の意義 2. 道徳教育の目標 3. 道徳教育の内容① A.自分自身に関すること、B.人とのかかわり 4. 道徳教育の内容② C.集団や社会とのかかわり(公平、公正、社会正義)、D.生命、自然、崇高なものとのかかわり 5. 道徳の指導法、学習教材・資料の分析 6. 学習指導案の考案・作成について 7. 学習指導案の例 8. 研究授業(DVD)鑑賞、グループワークで指導案作成・模擬授業準備① 9. 研究授業(DVD)鑑賞、グループワークで指導案作成・模擬授業準備② 10. 模擬授業実施① 低学年 11. 模擬授業実施② 中学年 12. 模擬授業実施③ 高学年 13. 総括および授業に関する反省と評価</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------------|----|------|
| 科目名 | 道徳教育の理論と指導法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 田中 美紀子 | | |

[成績評価方法]

学習指導案と模擬授業(20%)、模擬授業観察シート(約10%)、筆記試験(約70%)。授業態度等も考慮する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

模擬授業のコメントは学内ウェブで公開する。筆記試験の解答例も学内ウェブで公開する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。
成績評価方法:模擬授業

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。
成績評価方法:模擬授業、筆記試験

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。
成績評価方法:模擬授業、授業態度

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:模擬授業

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:模擬授業、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:模擬授業、筆記試験

[教科書(ISBN)]

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」 著者名:文部科学省 出版社:廣済堂あかつき (978-4-908255-35-9)

[参考書(ISBN)]

「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(購入する必要はない)
著者名:文部科学省 出版社:教育出版 (978-4-316-30084-9)

| | | | |
|--|----------|----------------|------|
| 科目名 | 特別活動の指導法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 学校教育全体における特別活動の意義、目標および内容を理解する。 特別活動の指導のあり方について理解する。</p> <p>[授業概要] 前半は、特別活動の意義、目標、内容、歴史、位置付け、心理学的基礎を踏まえた指導原理について事例を取り上げて解説する。後半は、特別活動における各活動の内容と指導、評価、家庭・地域・関係機関との連携について演習を取り入れて授業を行う。学級活動においては、話し合い活動や意思決定の重要性を取り上げ、学習指導案の作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業のまとめプリントを行い、授業内容を定着させる。</p> <p>[授業計画] 第1回: 特別活動とは何か①(意義、目的、内容) 第2回: 特別活動とは何か②(歴史の変遷、教育課程における位置付け) 第3回: 特別活動の心理学的基礎①(集団活動論) 第4回: 特別活動の心理学的基礎②(リーダーシップ論) 第5回: クラブ活動の内容と指導 第6回: 児童会活動の内容と指導 第7回: 学級活動の内容と指導①(内容(1)) 第8回: 学級活動の内容と指導②(内容(2))、学級活動における話し合い活動 第9回: 学級活動とキャリア教育(内容(3))、学級活動の学習指導案の作成 第10回: 学校行事の内容とあり方 第11回: 学校行事の指導と諸課題 第12回: 学級活動の学習指導案の交流、特別活動の評価、他の教育活動との関連 第13回: まとめ、テスト</p> | | | |

| | | | |
|---|----------|----|------|
| 科目名 | 特別活動の指導法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業態度25%、レポート5%、テスト70%。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版 (9784490000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 特別活動指導法 著者名:渡部 邦雄,緑川 哲夫,桑原 憲一 出版社:日本文教出版 (4536601007)</p> | | | |

| | | | |
|--|----------|----------------|------|
| 科目名 | 特別活動の指導法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 学校教育全体における特別活動の意義、目標および内容を理解する。 特別活動の指導のあり方について理解する。</p> <p>[授業概要] 前半は、特別活動の意義、目標、内容、歴史、位置付け、心理学的基礎を踏まえた指導原理について事例を取り上げて解説する。後半は、特別活動における各活動の内容と指導、評価、家庭・地域・関係機関との連携について演習を取り入れて授業を行う。学級活動においては、話し合い活動や意思決定の重要性を取り上げ、学習指導案の作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業のまとめプリントを行い、授業内容を定着させる。</p> <p>[授業計画] 第1回: 特別活動とは何か①(意義、目的、内容) 第2回: 特別活動とは何か②(歴史の変遷、教育課程における位置付け) 第3回: 特別活動の心理学的基礎①(集団活動論) 第4回: 特別活動の心理学的基礎②(リーダーシップ論) 第5回: クラブ活動の内容と指導 第6回: 児童会活動の内容と指導 第7回: 学級活動の内容と指導①(内容(1)) 第8回: 学級活動の内容と指導②(内容(2))、学級活動における話し合い活動 第9回: 学級活動とキャリア教育(内容(3))、学級活動の学習指導案の作成 第10回: 学校行事の内容とあり方 第11回: 学校行事の指導と諸課題 第12回: 学級活動の学習指導案の交流、特別活動の評価、他の教育活動との関連 第13回: まとめ、テスト</p> | | | |

| | | | |
|---|----------|----|------|
| 科目名 | 特別活動の指導法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 佐藤 浩樹 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業態度25%、レポート5%、テスト70%。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版 (9784490000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 特別活動指導法 著者名:渡部 邦雄,緑川 哲夫,桑原 憲一 出版社:日本文教出版 (4536601007)</p> | | | |

| | | | |
|----------------|---------|----------------|------|
| 科目名 | 特別支援教育 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 1分間スピーチ | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

・通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害など様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児児童生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けるよう関連機関や他の教員と連携し組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
・障害の有無にかかわらず、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の発達や支援、対応などを理解する。
・全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、基礎・基本となる力の「知識・技能」、考える力としての「思考力・判断力・表現力等の能力」、そして、それらを活用するときの態度に現れる「主体性・多様性・協働性」を身につける。

[授業概要]

この授業では、学校現場における教員経験があるものが、その経験を活かして、今日的な課題(特別支援教育等)への対応を指導をします。特別の支援を必要とする幼児や児童、生徒の障害特性および心身の発達を学びます。また、特別の支援を必要とする幼児や児童、生徒の教育課程及び支援の方法を学びます。障害はないけれど特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒の把握や支援についても学びます。全授業を通して、インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みがわかることに重点を置いています。人と協働で課題を解決していく態度を身に付けるために、毎時間、アクティブラーニング(グループワークやロールプレイ)で授業を進めていきます。学んだこと実践し思考する宿題を課します。テキストは、介護体験の授業でも用いるテキストですので、授業後も保管しておくようにしてください。パソコンをノート代わりにしてもかまいません。授業の板書は自由に写真を撮ってかまいません。ICTを活用して授業を受けてみると効果(良い点)や課題(改善すべき点)が実感できるのではないかと考えるからです。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

・毎回講義内で特別支援教育の重要なポイントのまとめを行うので、事前にテキストの指定箇所を読み、予習しておいてください。<2時間>
・毎回の宿題・テキスト講読は、次回までの授業時間外にやっておいてください。<2時間>
※以上の準備学修を各回、4時間程度おこなうこと

[授業計画]

- 1.特別支援教育の制度・理念(グループワーク)
- 2.視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱等さまざまな障害理解(グループワーク)
- 3.通常の学級に在籍する発達障害のある幼児児童生徒の特性(グループワーク)
- 4.自閉症スペクトラムの特性の理解と支援(グループワーク)
- 5.ADHDの特性の理解と支援(グループワーク)
- 6.学習障害の特性の理解と支援(グループワーク)
- 7.ユニバーサルデザインの授業とインクルーシブ教育(グループワーク)
- 8.障害のある子供の保護者理解(グループワーク)
- 9.障害のある児童生徒の学びの場(通級指導教室、特別支援学級)(グループワーク)
- 10.特別支援教育コーディネーターの仕事と関係機関連携(グループワーク)
- 11.母国語や貧困等から教育的ニーズのある幼児児童生徒の理解<学外フィールドワーク>
- 12.個別の指導計画と個別の教育支援計画・「ケース会議」ロールプレイ(グループワーク)
- 13.まとめ

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 特別支援教育 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 谷山 優子 | | |
| <p>[成績評価方法] 理解確認まとめ(80%)、授業態度(授業の学びに関するピンクの紙への記述)(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業の学びに関するピンクの紙にコメント等のフィードバックをおこないます。 メールや授業前後に質問や相談をいつでも受け付け、メールや口頭でフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「ふりかえり」「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>[教科書(ISBN)] 『介護体験ガイドブック新フィリア』 著者名:全国特別支援学校校長会編著 出版社:ジアース教育新社 (978-4-86371-522-6)</p> <p>[参考書(ISBN)] 授業進度に応じて紹介</p> | | | |

| | | | |
|--|--------|----------------|------|
| 科目名 | 乳児保育 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 乳児期の発達を理解し、乳児保育に必要な基礎的な知識や技能を身につける</p> <p>[授業概要] 乳児保育の歴史や、乳児期や低年齢児の保育の理論や発達について講義・演習で学ぶ</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業内で指示した課題に取り組むこと。また授業中に学修内容の確認を行うため復習をしておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.乳児保育の歴史の変遷および社会的な背景 2.3歳児神話と保育所の役割について 3.さまざまな保育形態における乳児保育 4.保育者との愛着関係について 5.乳児期前半の発達と保育 6.乳児期後半の発達と保育 7.1歳児の発達と保育 8.2歳児の発達と保育 9.子どもの発達と遊び 環境と玩具 10.子どもの発達と遊び 絵本 11.子どもの発達と遊び ふれあい遊び 12.課題発表及び評価 13.乳児保育をめぐる諸問題 まとめ | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 乳児保育 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験50% 受講態度20% 提出物30% 試験は答案回収後問題の解説を行う（小テストはマナバで自動採点） 受講態度は積極性やresponで評価する 提出物は期限や形式、内容について総合的に判断する</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 実施後の翌回に行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:提出物 respon</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:提出物 受講態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:提出物 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 演習で学ぶ乳児保育 著者名:善本眞弓編著 出版社:わかば社 (978-4-907270-29-2) 保育所保育指針(解説) 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81448-2)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 著者名:× 出版社:×</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 乳児保育Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 乳児期の発達を理解し、乳児保育に必要な基礎的な知識や技能を身につける 保育の計画が立案できるようになる</p> <p>[授業概要] 乳児保育に必要な理論や発達について講義・演習で学ぶ 保育計画の立案や、乳児保育に必要な連携について学ぶ</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業内で指示した課題に取り組むこと。また授業中に学修内容の確認を行うため復習をしておくこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.乳児保育Iの復習 2.健康と安全への配慮について 3. 基本的生活習慣の自立と援助について-食事- 4. 基本的生活習慣の自立と援助について-睡眠- 5. 基本的生活習慣の自立と援助について-排泄・衣服の着脱・清潔- 6. 保育計画の立案について 7.個別指導計画及び個人の記録について 8. クラス運営とチームワークについて 9.連絡帳の書き方について 10.乳児保育の環境 11. 保護者や地域との連携について 12.小規模保育 家庭的保育等の実際 13.乳児保育をめぐる諸問題 まとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----|-----|
| 科目名 | 乳児保育Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験50% 提出物20% 受講態度30% 受講態度は 積極的参加度 レスポンの内容で評価する</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験は回収後、問題の解説をします 小テストは相互採点とし、結果は確認できません 受講態度は積極性、授業内レポート等で評価します</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:提出物 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:提出物 参加態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:提出物 参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 保護者と保育者をつなぐ連絡帳の書き方 著者名:山内淳子 出版社:一藝社(978-4-86359-245-2C3037) 保育所保育指針(解説) 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館(978-4-577-81448-2)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし 著者名:× 出版社:×</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 乳児保育Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 乳児期の発達を理解し、乳児保育に必要な基礎的な知識や技能を身につける 保育の計画が立案できるようになる</p> <p>[授業概要] 乳児保育に必要な理論や発達について講義・演習で学ぶ 保育計画の立案や、乳児保育に必要な連携について学ぶ</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業内で指示した課題に取り組むこと。また授業中に学修内容の確認を行うため復習をしておくこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.乳児保育Iの復習 2.健康と安全への配慮について 3. 基本的な生活習慣の自立と援助について-食事- 4. 基本的な生活習慣の自立と援助について-睡眠- 5. 基本的な生活習慣の自立と援助について-排泄・衣服の着脱・清潔- 6. 保育計画の立案について 7.個別指導計画及び個人の記録について 8. クラス運営とチームワークについて 9.連絡帳の書き方について 10.乳児保育の環境 11. 保護者や地域との連携について 12.小規模保育 家庭的保育等の実際 13.乳児保育をめぐる諸問題 まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------|----|-----|
| 科目名 | 乳児保育Ⅱ | 前期 | 2単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |

[成績評価方法]

試験50% 提出物20% 受講態度30%
 受講態度は 積極的参加度 レスポンの内容で評価する

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

試験は回収後、問題の解説をします
 小テストは相互採点とし、結果は確認できません
 受講態度は積極性、授業内レポート等で評価します

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。
 成績評価方法:試験

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。
 成績評価方法:提出物 試験

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。
 成績評価方法:提出物 参加態度

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
 成績評価方法:参加態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
 成績評価方法:提出物 参加態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
 成績評価方法:試験

[教科書(ISBN)]

保護者と保育者をつなぐ連絡帳の書き方 著者名:山内淳子 出版社:一藝社(978-4-86359-245-2C3037)
 保育所保育指針(解説) 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館(978-4-577-81448-2)

[参考書(ISBN)]

なし 著者名:× 出版社:×

| | | | |
|---|------------|----------------|------|
| 科目名 | 発音トレーニング I | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 前田 葵 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 発音トレーニングを通じて、より良いコミュニケーションを目指す。</p> <p>[授業概要] 実際のコミュニケーションに役立つ力をマスターする。そのために、テキストで正しい発音の方法を系統的に学習し、正確で自然に発音できる方法を確認しつつ、授業中それを実践していきながら進めていく。授業では、映画、ミュージカル、ポップソングなどをモデルにしてトレーニングする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] manabaでその週に出された課題を提出すること。</p> <p>[授業計画] 1.Introduction 2.“A little boy once played so loud” 3.“Georgie Porgie, pudding and pie” 4.“Hickory, dickory, dock” 5.“Humpty Dumpty sat on a wall” 6.“I see the moon” 7.“I saw three ships come sailing by” 8.“If all the seas were one sea” 9.“Little kitty, purring kitty” 10.“Love the Beautiful” 11.“Old Mother Hubbard” 12.Review(1) 13.Review(2)</p> | | | |

| | | | |
|--|------------|----|------|
| 科目名 | 発音トレーニング I | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 前田 葵 | | |
| <p>[成績評価方法] Participation 30%, Short Assessment 50%, Presentation 20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manaba を通じて講評をフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] English Pronunciation for Communication 著者名: Setsuko Koizumi, Mikihiko Sugimori 出版社: 南雲堂 (4-523-42239-7)</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 発音トレーニングⅡ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 英語に特有の音を認識し、その音をより正確に発音できる力を身につけると共に、連結、脱落、同化など音声変化を身につける。</p> <p>[授業概要] 英語の母音、子音の発音記号と発音方法を確認しながら、それぞれの音の発声練習を重ねていく。各単音から単語、文へと発音の幅を広げていき、音の連結、脱落、同化などの音声変化の発音トレーニングを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習を合わせて2時間程度。 発音記号を理解し、何度も音声を口から出して練習を重ねておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、言語音について 2. 有声音と無声音 3. 母音と子音 4. 両唇音・唇歯音 5. 歯音・歯茎音 6. 硬口蓋歯茎音・硬口蓋音 7. 軟口蓋音・声門音 8. 閉鎖音・摩擦音・破擦音 9. 鼻音・側音・半母音 10. 連結 11. 脱落 12. 同化 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|-----------|----|------|
| 科目名 | 発音トレーニングⅡ | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 本多 明子 | | |
| <p>[成績評価方法] 定期試験(50%)、授業中の課題(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対するフィードバックは授業で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:定期試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:定期試験、授業中の課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:定期試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 必要に応じて資料を配布する。</p> <p>[参考書(ISBN)] 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051685) 中学校学習指導要領解説 外国語編 著者名:文部科学省 出版社:開隆堂 (9784304051692)</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 比較文化論 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 中学校英語科検定教科書から文化を考えてみよう。 | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 文化について考える視点をもつことで、自分を取り巻く社会、他者、日々の暮らしへのあらたな視座をもてるようになる。</p> <p>[授業概要] 中学校で使われる英語の検定教科書にも文化的な内容は多岐にわたり採用されている。よって、それらの内容を読みつつ、文化相対主義、異文化理解といったことについて受講生とともに考えていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業の前後では、毎回のテーマに関連する文献等を読むことが求められているためおおよそ2時間の予復習が必要です。</p> <p>[授業計画] 第1回:オリエンテーション、教科書についての討議、役割分担 第2回:教科書からみえてくる文化 第3回:教科書にある異文化 第4回:プレゼンテーション1 第5回:プレゼンテーション2 第6回:プレゼンテーション3 第7回:ここまでの振り返りと今後のテーマ選択 第8回:プレゼンテーション4 第9回:プレゼンテーション5 第10回:プレゼンテーション6 第11回:文献渉猟の結果発表 第12回:ここまでの振り返りと最終レポートのテーマについての討議 第13回:身近にある文化への視点とまとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------------|----|------|
| 科目名 | 比較文化論 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 中学校英語科検定教科書から文化を考えてみよう。 | 講義 | |
| 担当者 | 齋藤 由紀 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への主体的な参加(30%)プレゼンテーション(30%)最終レポートおよび発表(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出された課題等については、後に授業中あるいはmanaba等を通してフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:最終レポートと発表で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:授業への主体的な参加、プレゼンテーションで評価します。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への主体的な参加、プレゼンテーションで評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:最終レポートおよび発表で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:最終レポートおよび発表で評価します。</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 中学校英語検定教科書、他必要に応じて紹介します。</p> | | | |

| | | | | |
|--|-----------|----------------|----|------|
| 科目名 | プログラミング教育 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標] プログラミング教育を実施する上で必要な基礎的な知識・技能を身に付け、主体的、対話的、創造的に授業を構想することができる。</p> <p>[授業概要] プログラミング教育の概要を理解し、プログラミング教育を実施する上で必要な基礎的な知識・技能を身に付けていきます。また、プログラミング教育の実践事例に基づいた演習等を通して、主体的、対話的、創造的に授業を構想しながら実践的な授業開発を体験します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前学修として、配布資料がある場合は読んでおいてください。 指定する動画の視聴やレディネスを確認する小テストに取り組んでもらう場合もあります。 事後学修として、授業のレポートや小テストに取り組んでもらいます。 各回、事前・事後学修に合わせて4時間程度取り組むことを期待します。</p> <p>[授業計画] 1.ガイダンス／プログラミング教育が小学校に導入された社会的背景 2.小学校プログラミング教育の目的や位置付け 3.プログラミング的思考とコンピューショナルシンキング 4.コンピュータの動作原理とプログラミングの基本的な概念 5.Scratchを用いたプログラミングの基本処理を理解する演習 6.Scratchを用いた簡単なアプリケーション作成演習(基礎) 7.Scratchを用いた簡単なアプリケーション作成演習(応用) 8.プログラミングを用いた計測・制御を伴うロボットのプログラミング演習 9.探究的な小学校プログラミング教育の授業実践演習(調査・計画) 10.探究的な小学校プログラミング教育の授業実践演習(実装・評価) 11.探究的な小学校プログラミング教育の授業実践演習(中間発表) 12.探究的な小学校プログラミング教育の授業実践演習(改善) 13.探究的な小学校プログラミング教育の授業実践演習(最終発表)・まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|---|-----------|----|------|
| 科目名 | プログラミング教育 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 黒田 昌克 | | |
| <p>[成績評価方法] 各回のレポート・成果物(50%)、最終課題(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小レポート等のフィードバックは適宜授業やmanabaにおいて行うことがあります。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|----------------|-----------------|----------------|------|
| 科目名 | Basic Writing I | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 安藤 優 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

実用的な英作文能力を身に着ける

[授業概要]

日本語、英語での作文の練習を行い、英作文能力の向上を目指します

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

課題に積極的に取り組んでください

[授業計画]

第1回: イントロダクション(授業内容と成績のつけ方の説明、グループ分け)

第2回: トピックに関するグループディスカッションとエッセイのアウトライン作成の練習。段落に関する説明と、アウトラインに沿って短い段落を書いてみる練習。

第3回: 第2回のアウトラインを踏まえ、序論および結論の書き方やトピック・センテンスなどについて学ぶ。グループディスカッションと前回作成した段落の増補と修正。

第4回: 第3回で作成したエッセイをグループで英訳する。必要があれば文法・語法に関する解説と、辞書の引き方や英語表現の調べ方の紹介。

第5回: 前回に続き、エッセイの英訳。接続詞などの使い方の解説。

第6回: 新しい英文エッセイを作成。グループディスカッションとアウトライン作成。

第7回: 前回のアウトラインにしたがって、グループディスカッションと各段落の作成。

第8回: 新しい英文エッセイを作成。グループディスカッションとアウトライン作成。

第9回: 前回のアウトラインにしたがって、グループディスカッションと各段落の作成。

第10回: 新しい英文エッセイを作成。グループディスカッションとアウトライン作成。

第11回: 前回のアウトラインにしたがって、グループディスカッションと各段落の作成。

第12回: 新しい英文エッセイを作成。グループディスカッションとアウトライン作成。

第13回: 前回のアウトラインにしたがって、グループディスカッションと各段落の作成。

第4回以降は適宜、英文法・語法、語彙に関する解説も行う。

| | | | |
|---|-----------------|----|------|
| 科目名 | Basic Writing I | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 安藤 優 | | |
| <p>[成績評価方法] 中間レポート 50% 期末レポート 50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 中間レポートおよび期末レポートは採点后、添削のうえ返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:中間レポートおよび期末レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:中間レポートおよび期末レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:中間レポートおよび期末レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:中間レポートおよび期末レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:中間レポートおよび期末レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:中間レポートおよび期末レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 保育原理 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 保育という営みの全般について理解することを目的に、保育にかかる全ての基盤を網羅し、それぞれの専門分野へ発展する基盤を築くことを目指す。</p> <p>[授業概要] 現代は、子どもをめぐる環境の大きな変革期であると捉えることができる。少子化対策や待機児童の増加、地域の子育て支援という言葉に代表されるようなさまざまな課題や、基本的な生活習慣が身につけにくい、運動能力・コミュニケーション能力の低下、気になる子どもの存在など、といった子どもの育ちの変化に関する問題がある。このような状況のなかで、人格形成に大きく寄与する保育という営みについて、「保育とは何か」を現状に照らし合わせながら、広い視点から深く捉えていく必要がある。その際、手がかりとなるのが「保育原理」である。 本授業では、保育全般について理解し、今後その他の専門科目において学んでいく、それぞれの専門分野へ発展する基盤を築く。具体的には、保育の意味や制度、保育の基本、保育の目標と方法、保育の思想と歴史、子ども理解、子育て支援、保育の現状と課題などについて学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、保育の意味と意義 2. 保育の制度と場1(保育所・幼稚園) 3. 保育の制度と場2(認定こども園・家庭的保育・多様な保育) 4. 保育所保育指針の理念 5. 保育の目標と方法 6. 保育の環境 7. 保育のねらいと内容 8. 三つの柱と三つの視点 9. 発達と保育 10. 保育の思想と歴史1 11. 保育の思想と歴史2 12. 諸外国や日本における保育の現状と課題・展望 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 保育原理 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] まとめ(80%) レポート課題(10%) 発表(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] まとめ後、解答の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:まとめ(80%) レポート課題(10%) 発表(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:まとめ(80%) レポート課題(10%) 発表(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:まとめ(80%) レポート課題(10%) 発表(10%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(80%) レポート課題(10%) 発表(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(80%) レポート課題(10%) 発表(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:まとめ(80%) レポート課題(10%) 発表(10%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 「新・保育原理[第4版]」2018 著者名:三宅茂夫編 出版社:みらい (9784860000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 「保育所保育指針解説(平成30年3月)」2018 著者名:厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (9784580000000) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 著 出版社:フレーベル館 (9784580000000)</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------------------------|-------|------|
| 科目名 | 保育実習 I | 前期～後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 施設の機能および子どもの発達・保育の実際を学ぶ | 実習 | |
| 担当者 | 石田 裕子、小林 洋司 | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|----------------|---|----------------|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[到達目標]

1. 保育所を含む児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解できるようになる
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める
3. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解しようとする
4. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ

[授業概要]

保育所(園)10日間、保育所(園)を除く児童福祉施設10日間の現場実習は、第一に健康・安全面に注意して、理論を実践に結び、深い学びとする、第二は以下の点について具体的な学びを主体的に行う。

1. 保育所(園)、および保育所(園)を除く児童福祉施設の目的、役割、機能、入所児の一般的な特徴を学ぶ。
2. 実習の目的、実習の課題を確実に遂行する。
3. 日々の実習課題に対して、目標を達成するために実習中にどのようなことに心がけたらいいのかを考えて行動する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

保育指導計画案作成(0・1・2・3・4・5歳児、異年齢児)

保育教材の準備

児童福祉施設に関する機能や役割の予習・復習

[授業計画]

保育所(園)10日間、保育所(園)を除く施設10日間の現場実習

実習中に求められることとして、以下の視点で実習にのぞむこと

1. 乳幼児や就学児童の発達と保育の実際について年齢ごとに理解する。
2. 乳幼児や就学児童の個性や発達の個人差を理解して配慮して柔軟的な保育が出来る。
3. 観察の着目点を理解して、乳幼児や就学児童の実際から正確に記録記述する。
4. 保育指導計画案を立てた上で参加・責任実習を行う。
5. 個々の実習先施設の沿革や地域性、実習先の職員構成、機能と役割を理解する。
6. 守秘義務遂行の重要性について再確認し、実習中の心構えとマナーを守る。
7. 感謝の気持ちを忘れずに積極的且つ謙虚な態度で過ごす。

| | | | |
|--------|-------------------------|-------|------|
| 科目名 | 保育実習 I | 前期～後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 施設の機能および子どもの発達・保育の実際を学ぶ | 実習 | |
| 担当者 | 石田 裕子、小林 洋司 | | |

[成績評価方法]

実習評価80%
巡回訪問時評価20%
・実習施設や、実習生との面談により総合的に評価する

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。
成績評価方法:実習評価

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。
成績評価方法:実習評価

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。
成績評価方法:実習評価
巡回時評価

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。
成績評価方法:実習評価
巡回時評価

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。
成績評価方法:実習評価
巡回時評価

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:実習評価
巡回時評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:実習評価
巡回時評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:実習評価
巡回時評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:実習評価
巡回時評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:実習評価
巡回時評価

| | | | |
|---|-------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育実習 I | 前期～後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 施設の機能および子どもの発達・保育の実際を学ぶ | 実習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫、大西 雅裕 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所を含む児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解できるようになる 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める 3. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解しようとする 4. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ <p>[授業概要]</p> <p>保育所(園)10日間、保育所(園)を除く児童福祉施設10日間の現場実習は、第一に健康・安全面に注意して、理論を実践に結び、深い学びとする、第二は以下の点について具体的な学びを主体的に行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所(園)、および保育所(園)を除く児童福祉施設の目的、役割、機能、入所児の一般的な特徴を学ぶ。 2. 実習の目的、実習の課題を確実に遂行する。 3. 日々の実習課題に対して、目標を達成するために実習中にどのようなことに心がけたらいいのかを考えて行動する。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>保育指導計画案作成(0・1・2・3・4・5歳児、異年齢児) 保育教材の準備 児童福祉施設に関しての機能や役割の予習・復習</p> <p>[授業計画]</p> <p>保育所(園)10日間、保育所(園)を除く施設10日間の現場実習 実習中に求められることとして、以下の視点で実習にのぞむこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児や就学児童の発達と保育の実際について年齢ごとに理解する。 2. 乳幼児や就学児童の個性や発達の個人差を理解して配慮して柔軟的な保育が出来る。 3. 観察の着目点を理解して、乳幼児や就学児童の実際から正確に記録記述する。 4. 保育指導計画案を立てた上で参加・責任実習を行う。 5. 個々の実習先施設の沿革や地域性、実習先の職員構成、機能と役割を理解する。 6. 守秘義務遂行の重要性について再確認し、実習中の心構えとマナーを守る。 7. 感謝の気持ちを忘れずに積極的且つ謙虚な態度で過ごす。 | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|-------|------|
| 科目名 | 保育実習 I | 前期～後期 | 4 単位 |
| サブタイトル | 施設の機能および子どもの発達・保育の実際を学ぶ | 実習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫、大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] 実習評価80% 巡回訪問時評価20% ・実習施設や、実習生との面談により総合的に評価する</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 各自必要なものを用意すること</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----------------|-----|
| 科目名 | 保育実習Ⅱ | 後期 | 2単位 |
| サブタイトル | 専門的実践力の向上 | 実習 | |
| 担当者 | 石田 裕子、三宅 茂夫 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 保育実習Ⅰで学んだ保育所や社会福祉施設での事前・事中・事後の学習をもとに自己課題を明確化し、保育所保育に関する知識や理解の一層の深化を図るとともに、保育者として必要な専門的実践力および保育者にふさわしい態度の修得を目標とする。</p> <p>[授業概要] 保育実習Ⅱ(保育所10日間)は選択必修である。 学内でのオリエンテーションと事前事後学習を含む保育実習指導Ⅱと保育現場における保育実習Ⅱ(保育所)10日間の実習を行なうことにより2単位を修得できる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 保育実習Ⅰを基盤として、自己課題を明らかにすること。</p> <p>[授業計画] 保育所(園)10日間の現場実地実習 実習中に求められることとして、以下の視点で実習にのぞむこと 1. 乳幼児の発達と保育の実際について年齢ごとに理解する。 2. 乳幼児の個性や発達の個人差を理解して配慮して柔軟的な保育ができる。 3. 観察の着目点を理解して、乳幼の実際から正確に記録記述する。 4. 保育指導計画案を立てた上で参加・責任実習を行う。 5. 個々の実習先施設の沿革や地域性、実習先の職員構成、機能と役割を理解する。 6. 守秘義務遂行の重要性について再確認し、実習中の心構えとマナーを守る。 7. 感謝の気持ちを忘れずに積極的且つ謙虚な態度で過ごす。</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------------|----|------|
| 科目名 | 保育実習Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 専門的実践力の向上 | 実習 | |
| 担当者 | 石田 裕子、三宅 茂夫 | | |

[成績評価方法]

実習評価80% 巡回訪問時評価20%
・実習施設や、実習生との面談により総合的に評価する

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

特に指定しない

[参考書(ISBN)]

必要に応じて、文献の紹介や資料の配付を行う

| | | | |
|---|-------------|----------------|-----|
| 科目名 | 保育実習Ⅱ | 後期 | 2単位 |
| サブタイトル | 専門的実践力の向上 | 実習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫、石田 裕子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 保育実習Ⅰで学んだ保育所や社会福祉施設での事前・事中・事後の学習をもとに自己課題を明確化し、保育所保育に関する知識や理解の一層の深化を図るとともに、保育者として必要な専門的実践力および保育者にふさわしい態度の修得を目標とする。</p> <p>[授業概要] 保育実習Ⅱ(保育所10日間)は選択必修である。 学内でのオリエンテーションと事前事後学習を含む保育実習指導Ⅱと保育現場における保育実習Ⅱ(保育所)10日間の実習を行なうことにより2単位を修得できる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 保育実習Ⅰを基盤として、自己課題を明らかにすること。</p> <p>[授業計画] 保育所(園)10日間の現場実地実習 実習中に求められることとして、以下の視点で実習にのぞむこと 1.乳幼児の発達と保育の実際について年齢ごとに理解する。 2.乳幼児の個性や発達の個人差を理解して配慮して柔軟的な保育ができる。 3.観察の着目点を理解して、乳幼の実際から正確に記録記述する。 4.保育指導計画案を立てた上で参加・責任実習を行う。 5.個々の実習先施設の沿革や地域性、実習先の職員構成、機能と役割を理解する。 6.守秘義務遂行の重要性について再確認し、実習中の心構えとマナーを守る。 7.感謝の気持ちを忘れずに積極的且つ謙虚な態度で過ごす。</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------------|----|-----|
| 科目名 | 保育実習Ⅱ | 後期 | 2単位 |
| サブタイトル | 専門的実践力の向上 | 実習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫、石田 裕子 | | |

[成績評価方法]

実習評価80% 巡回訪問時評価20%
・実習施設や、実習生との面談により総合的に評価する

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。
成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。
成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%

学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。
成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%

学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。
成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。
成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:実習評価80%、巡回訪問時評価20%

[教科書(ISBN)]

特に指定しない

[参考書(ISBN)]

必要に応じて、文献の紹介や資料の配付を行う

| | | | |
|---|-------|----------------|------|
| 科目名 | 保育実習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 保育所以外の児童福祉施設の養護を、実際に実践することによって、保育士としての必要な資質、能力の習得及び子育て支援能力を習得できる。</p> <p>[授業概要] 保育実習において、学習し、実習した保育所、その他の児童福祉施設の学びを基盤として、その上にその他の児童福祉施設で保育実習Ⅲを実施することで、子育て、子育て支援を中心に保育士として必要な児童福祉実践の技術、能力を涵養する。 履修者は、年度当初に保育実習Ⅱと保育実習Ⅲとの選択によって決定する。 <10名を上限にする></p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 保育実習Ⅰを踏まえ、その上に保育実習Ⅲを積み上げることである。それ故に保育実習での学修を十分に振り返っておくこと。</p> <p>[授業計画] 保育実習Ⅲでは、保育所以外の児童福祉施設及び社会福祉施設にて、10日間の日程で保育実習が行われる。もちろん保育実習Ⅰでの実習経験の上に、保育士としての専門性をより深いレベルでの実践が求められる。またその上に実習施設の対象者においても、保育実習Ⅰで行ったような児童を中心として障がいのある大人の方も対象となっていたが、保育実習Ⅲでは、より幅の広い対象者を対象としてすることができる。 本実習を選択した学生には、まず保育実習Ⅰでの実習体験の上に、各自の実習における目的、方法、価値観、倫理観等々、専門職としての保育士に今後求められる課題を、より具体的目標として実習に挑み、また、今日的な施設の置かれている状況、施設利用者とその家族との関係把握、地域社会との連携等々について意欲的に実習に取り組みを実施していただく。 この実習を踏まえて保育実習指導Ⅲにおいて振り返りを行い、専門職としての技術、知識、価値観等を涵養することとなる。</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 保育実習Ⅲ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 実習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] 実習記録(50%)と実習評価等(50%)での総合評価を行う。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜紹介する</p> | | | |

| | | | | |
|--|---------------|----------------|----|------|
| 科目名 | 保育実習指導 I (施設) | | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 小林 洋司 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 <p>[授業概要]</p> <p>本授業は、3回生前期の保育実習指導 I 保育所の継続としてある授業である。そして保育実習(施設)その他の児童福祉施設への実習科目の事前指導、事後指導の役割を担っている。到達目標に掲げている5項目の達成に向けて、施設に従事する保育士として必須となる理念、視座、方法、技術様々について、種々な方法を用いて指導する。そのために積極的な学習態度で何事も対応することを求める。一回、一回設定されている授業は、どれも実習を実施するためには非常に重要である。そのために、欠席、遅刻、早退は認めない。</p> <p>必ず授業に出席し、主体的態度で受講することを求める。</p> <p>もし欠席等があった場合、そのことを振り返り、今後の方針、目標等を記述したレポートを課す。かならず次の週に授業で提出するように。</p> <p>授業の性格から、各学生への十分な個別的指導が必要となるために、TA、SAによる授業補助を行う。先輩としての立場から学生への対応をし、より効果的な学習が展開できるようにする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に主体的に学習態度で臨んでください。 ・前期の保育実習指導 I 保育所及び保育所実習を踏まえて、その延長線上にある後期の児童福祉施設実習にむけて、十分にリフレクションしておいてください。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設実習オリエンテーション 2. 夏実習のリフレクション① 3. 実習対象施設の理解(児童養護施設、乳児院等) 4. 実習対象施設の理解(母子生活支援施設等 外部特別講師) 5. 実習対象施設の理解(障がい児施設等) 6. 児童養護施設での実際①記録の方法 7. 児童福祉施設での実習②記録の方法 8. 身上書、実習課題の具体化① 9. 身上書、実習課題の具体化② 10. 身上書、実習課題の具体化③ 11. 実習直前オリエンテーション 12. 実習に際しての留意事項 13. まとめ、事後実習指導(自己評価等) | | | | |

| | | | |
|--|---------------|----|------|
| 科目名 | 保育実習指導 I (施設) | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 小林 洋司 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業内での課題提出物「レポート」(80%)、科目最終レポート(20%)によって評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内での提出物は基本、返却しフィードバックします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜紹介する</p> | | | |

| | | | | |
|---|---------------|----------------|----|------|
| 科目名 | 保育実習指導 I (施設) | | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 <p>[授業概要]</p> <p>本授業は、3回生前期の保育実習指導 I 保育所の継続としてある授業である。そして保育実習(施設)その他の児童福祉施設への実習科目の事前指導、事後指導の役割を担っている。到達目標に掲げている5項目の達成に向けて、施設に従事する保育士として必須となる理念、視座、方法、技術様々について、種々な方法を用いて指導する。そのために積極的な学習態度で何事も対応することを求める。一回、一回設定されている授業は、どれも実習を実施するためには非常に重要である。そのために、欠席、遅刻、早退は認めない。</p> <p>必ず授業に出席し、主体的態度で受講することを求める。</p> <p>もし欠席等があった場合、そのことを振り返り、今後の方針、目標等を記述したレポートを課す。かならず次の週に授業で提出するように。</p> <p>授業の性格から、各学生への十分な個別的指導が必要となるために、TA、SAによる授業補助を行う。先輩としての立場から学生への対応をし、より効果的な学習が展開できるようにする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に主体的に学習態度で臨んでください。 ・前期の保育実習指導 I 保育所及び保育所実習を踏まえて、その延長線上にある後期の児童福祉施設実習にむけて、十分にリフレクションしておいてください。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.施設実習オリエンテーション 2. 夏実習のリフレクション① 3. 実習対象施設の理解(児童養護施設、乳児院等) 4. 実習対象施設の理解(母子生活支援施設等 外部特別講師) 5. 実習対象施設の理解(障がい児施設等) 6. 児童養護施設での実際①記録の方法 7. 児童福祉施設での実習②記録の方法 8. 身上書、実習課題の具体化① 9. 身上書、実習課題の具体化② 10. 身上書、実習課題の具体化③ 11. 実習直前オリエンテーション 12. 実習に際しての留意事項 13. まとめ、事後実習指導(自己評価等) | | | | |

| | | | |
|--|---------------|----|------|
| 科目名 | 保育実習指導 I (施設) | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業内での課題提出物「レポート」(80%)、科目最終レポート(20%)によって評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内での提出物は基本、返却しフィードバックします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜紹介する</p> | | | |

| | | | |
|---|----------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育実習指導 I (保育所) | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 実習の目的と意義の理解 | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 3回生までに学んだ保育の理論や演習・実習などによって修得した技能などをもって、実際の保育現場を観察・体験することで、保育に携わる専門職の目的や価値、倫理などについて理解と自覚を深める。また、多様な経験のなかで、保育者としての使命感や実践力の基礎を一層高めることを目標とする。</p> <p>[授業概要] 本授業は保育士としての専門性を修得するために実施される保育実習の事前・事中・事後において必要となる事項を指導・支援することを目的とする。 事前指導として、保育実習(保育所10日間、施設10日間)に備え、実習生が実習を円滑に、かつ高い効果をあげることが可能となるよう詳細な指導を行う。 実習を通して、これまでに修得した理論学習をより確実なものとし、子どもとの直接的なかかわりを通して実践力を高めていけるよう、実習前、実習中の活動について学習し、自己理解力や自己洞察力を深める。 実習終了後に、事後指導として保育実習前から保育実習終了までの総括・評価を行い、各自の実習体験を多面的に振り返り今後の学習課題を明確にする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ボランティアなどで、できるだけ保育の現場で実践する機会を得ること。 毎回、予習、復習、実践合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の目的と意義、実習生の立場 2. 保育所制度や保育所の機能、入所児童などの理解 3. 実習記録・観察記録の記入法 4. 乳児期及び低年齢児期の指導計画 5. 幼児期の指導計画 6. 実習課題と実習への見通し 7. 教材研究と教材開発 8. 保育所見学(乳児及び低年齢児)(学外) 9. 保育所見学(幼児)(学外) 10. 保育実践者からの学び1(講演) 11. 保育実践者からの学び2(演習) 12. 実習直前の注意とマナー、トラブルへの対応など 13. 保育所実習の振り返りと自己課題の明確化 | | | |

| | | | |
|--|----------------|----|------|
| 科目名 | 保育実習指導 I (保育所) | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 実習の目的と意義の理解 | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 講義への参加態度 (50%) 提出物及び知識確認評価 (50%) ・講義への参加態度は、レスポンス、積極的発言、プレゼンテーションで、また提出物及び知識確認評価、提出物の期限、内容、小テストで総合評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内か翌日に解説・指導を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:提出物 発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:参加態度 提出物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:参加態度 知識確認評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:参加態度 知識確認評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:知識確認評価 提出物</p> <p>[教科書 (ISBN)] 「知のゆりかご 教育・保育カリキュラム論」2019 著者名:田中亨胤・三宅茂夫編 出版社:(株)みらい (978-4-86015-478-3) 「保育所保育指針解説書」2018 著者名:厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81242-6)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 著 出版社:フレーベル館 (9784580000000)</p> | | | |

S64580 [LKH3-021]

| | | | | |
|---|----------------|--|----------------|------|
| 科目名 | 保育実習指導 I (保育所) | | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 実習の目的と意義の理解 | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>3回生までに学んだ保育の理論や演習・実習などによって修得した技能などをもって、実際の保育現場を観察・体験することで、保育に携わる専門職の目的や価値、倫理などについて理解と自覚を深める。また、多様な経験のなかで、保育者としての使命感や実践力の基礎を一層高めることを目標とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>本授業は保育士としての専門性を修得するために実施される保育実習の事前・事中・事後において必要となる事項を指導・支援することを目的とする。</p> <p>事前指導として、保育実習(保育所10日間、施設10日間)に備え、実習生が実習を円滑に、かつ高い効果をあげることが可能となるよう詳細な指導を行う。</p> <p>実習を通して、これまでに修得した理論学習をより確実なものとし、子どもとの直接的なかかわりを通して実践力を高めていけるよう、実習前、実習中の活動について学習し、自己理解力や自己洞察力を深める。</p> <p>実習終了後に、事後指導として保育実習前から保育実習終了までの総括・評価を行い、各自の実習体験を多面的に振り返り今後の学習課題を明確にする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>ボランティアなどで、できるだけ保育の現場で実践する機会を得ること。 毎回、予習、復習、実践合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の目的と意義、実習生の立場 2. 保育所制度や保育所の機能、入所児童などの理解 3. 実習記録・観察記録の記入法 4. 乳児期及び低年齢児期の指導計画 5. 幼児期の指導計画 6. 実習課題と実習への見通し 7. 教材研究と教材開発 8. 保育所見学(乳児及び低年齢児)(学外) 9. 保育所見学(幼児)(学外) 10. 保育実践者からの学び(講演) 11. 保育実践者からの学び(演習) 12. 実習直前の注意とマナー、トラブルへの対応など 13. 保育所実習の振り返りと自己課題の明確化 | | | | |

| | | | |
|--------|----------------|----|------|
| 科目名 | 保育実習指導 I (保育所) | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 実習の目的と意義の理解 | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |

[成績評価方法]

講義への参加態度 (50%)

提出物及び知識確認評価 (50%)

・講義への参加態度は、ミニツツペーパー、積極的発言、プレゼンテーションで、また提出物及び知識確認評価、提出物の期限、内容、小テストで総合評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業内か翌日に解説・指導を行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。

成績評価方法:講義への参加態度(50%)

提出物及び知識確認評価(50%)

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。

成績評価方法:講義への参加態度(50%)

提出物及び知識確認評価(50%)

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。

成績評価方法:講義への参加態度(50%)

提出物及び知識確認評価(50%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:講義への参加態度(50%)

提出物及び知識確認評価(50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:講義への参加態度(50%)

提出物及び知識確認評価(50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:講義への参加態度(50%)

提出物及び知識確認評価(50%)

[教科書(ISBN)]

「知のゆりかご 教育・保育カリキュラム論」2019 著者名:田中亨胤・三宅茂夫編 出版社:(株)みらい (978-4-86015-478-3)

「保育所保育指針解説書」2018 著者名:厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81242-6)

[参考書(ISBN)]

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 著 出版社:フレーベル館 (9784580000000)

| | | | |
|--|--------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅱ | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 保育観の構築と実践力向上 | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子、三宅 茂夫 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 保育実習Ⅰでの経験をふまえて、実践力をさらに磨き、子どもの発達や特性を理解して、保育を創造し保育観を構築する。</p> <p>[授業概要] 4年間の総合的な学びから、保育指導計画を立案してPDCAサイクルによって、保育の質と保育者の質の向上を目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 手作りの保育教材の制作や、保育園の各年齢群における保育指導案を作成する。各自の課題を明確にし、その改善に向けて行動すること。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.保育実習Ⅰでの経験を基盤として、自己課題を明らかにする 2.保育実習Ⅰでの経験を基盤として、自己課題改善に向けたワークシートの作成 3.保育実習Ⅰ報告会(グループ) 4.実習報告会全体会 5.保育実習Ⅲに向けて 6.保育実習Ⅱ必要書類作成 7.保育実習Ⅱ目標指導 8.直前指導、実習に関する諸注意 9.実習の振り返り(自己評価) 10.実習の振り返り(これからの課題) 11.保育者に必要な資質について1(グループミーティング) 12.保育者に必要な資質について2(発表) 13.実習報告会</p> | | | |

| | | | |
|--------|--------------|----|------|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅱ | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 保育観の構築と実践力向上 | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子、三宅 茂夫 | | |

[成績評価方法]

提出物(50%) 授業参加態度(50%)
提出物は形式、期限 内容をふまえて評価する
授業参加態度は発言、responnの内容もふまえて評価する

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
授業内か翌回に解説・指導を行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。
成績評価方法:提出物 授業参加態度

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。
成績評価方法:提出物

学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。
成績評価方法:提出物 授業参加態度

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:授業参加態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:提出物 授業参加態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:提出物 授業参加態度

[教科書(ISBN)]

「知のゆりかご 教育・保育カリキュラム論」2019 著者名:田中亨胤・三宅茂夫 編 出版社:(株)みらい (978-4-86015-478-3)
「保育所保育指針解説書」2018 著者名:厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81242-6)

[参考書(ISBN)]

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 著 出版社:フレーベル館 (9784580000000)

| | | | |
|--|--------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅱ | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 保育観の構築と実践力向上 | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫、石田 裕子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 保育実習Ⅰでの経験をふまえて、実践力をさらに磨き、子どもの発達や特性を理解して、保育を創造し保育観を構築する。</p> <p>[授業概要] 4年間の総合的な学びから、保育指導計画を立案してPDCAサイクルによって、保育の質と保育者の質の向上を目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 手作りの保育教材の制作や、保育園の各年齢群における保育指導案を作成する。各自の課題を明確にし、その改善に向けて行動すること。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.保育実習Ⅰでの経験を基盤として、自己課題を明らかにする 2.保育実習Ⅰでの経験を基盤として、自己課題改善に向けたワークシートの作成 3.保育実習Ⅰ報告会(グループ) 4.実習報告会全体会 5.保育実習Ⅲに向けて 6.保育実習Ⅱ必要書類作成 7.保育実習Ⅱ目標指導 8.直前指導、実習に関する諸注意 9.実習の振り返り(自己評価) 10.実習の振り返り(これからの課題) 11.保育者に必要な資質について1(グループミーティング) 12.保育者に必要な資質について2(発表) 13.実習報告会</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------|----|------|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅱ | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 保育観の構築と実践力向上 | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫、石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 提出物50% 授業参加態度50% ・提出物に関しては期限、内容について総合的に評価する。 ・授業参加態度に関しては、積極的発言、態度について評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内か翌日に解説・指導を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:提出物50% 授業参加態度50%</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:提出物50% 授業参加態度50%</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:提出物50% 授業参加態度50%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:提出物50% 授業参加態度50%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:提出物50% 授業参加態度50%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:提出物50% 授業参加態度50%</p> <p>[教科書(ISBN)] 「知のゆりかご 教育・保育カリキュラム論」2019 著者名:田中亨胤・三宅茂夫 編 出版社:(株)みらい (978-4-86015-478-3) 「保育所保育指針解説書」2018 著者名:厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81242-6)</p> <p>[参考書(ISBN)] 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 著 出版社:フレーベル館 (9784580000000)</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅲ | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 保育所以外の児童福祉施設およびその他の社会福祉施設での実習指導 | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>児童福祉施設での養護全体について参加して、施設の現状を理解し、養護技術を習得する。 子ども(利用者)の個人沙、子ども(利用者)のニーズについて理解し、その対応方法を習得する。 地域社会との連携について具体的状況を理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰを踏まえて、保育実習指導Ⅲでは、児童福祉施設の現状の理解を深め、社会福祉援助のあり方を理解することを目標として、学生の主体的学びを支援し、実践的方法を用いて、実習に向けて、また実習後の振り返りを中心として、児童福祉施設での支援実践活動について種々の方法を用いて学習する。 履修者は、年度当初に保育実習Ⅱと保育実習Ⅲとの選択によって決定する。 <10名程度を上限にする> ※当該年度の春休み期間において、保育実習Ⅰと保育実習Ⅲとの間に一日帰校日を設けて、授業を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>実習施設数等の関係もあり、面接後に選抜を行う。 常に「児童の最善の利益」とは何かについて、種々のメディア情報から情報収集を行い、普段から自らの理念を深めるように心がけるようにしてください。</p> <p>[授業計画]</p> <p>状況の応じて、集中で授業を実施する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 児童福祉施設体系について理解する 3. 児童養護施設。乳児院について現状を理解する 4. 障害児施設等について現状を理解する 5. 保育実習Ⅰでの施設実習について振り返る帰校日① 6. 保育実習Ⅰでの施設実習について振り返る帰校日② 7. 保育実習Ⅰでの施設実習について振り返る帰校日③ 8. 保育実習Ⅰでの施設実習について振り返る帰校日④ 9. 保育実習Ⅰでの施設実習について振り返る帰校日⑤ 10. 保育実習Ⅲでの振り返り① 11. 保育実習Ⅲでの振り返り②・発表 12. 保育実習Ⅲでの振り返り③と発表、 13. まとめ | | | |

| | | | |
|---|---------------------------------|----|------|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅲ | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | 保育所以外の児童福祉施設およびその他の社会福祉施設での実習指導 | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] 実習修了後の振り返りについての発表(80%)と施設の実習評価等で評価(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業を通して、課題レポートを課す。また事後実習としての振り返り時間を通して学習効果を面談等の個別指導を実施する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] レジュメ資料を配付する</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜紹介する</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 保育実践演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>1. 4年間保育士課程で学んだこと全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識および技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。</p> <p>2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。</p> <p>3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>主にグループワークを通して、それぞれの学びを共有し、深めていく。プレゼンテーション自然体で共有化を図っていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>毎回のテーマについての振り返り、予習を行う。また授業時間外でのグループでの取り組みに参加すること。毎回前後4時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.オリエンテーション 保育士になるための学びの体系 24年間の 学びの振り返り① 34年間学びの振り返り② 4.グループでのまとめ、発表① 5.グループでのまとめ 発表② 6.社会人の基礎力 グループディスカッション 7.保育士としての基礎力について考える。倫理、価値、知識 技術に関するワーク1 8.保育士としての基礎力について考える。倫理、価値、知識 技術に関するワーク2 9.基礎力についてプレゼンテーション 10.保育士としての資質と能力の整理 11.保育士としての資質と能力の整理 12.グループ発表・相互評価 13.グループ発表 まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 保育実践演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] 1 授業への積極的姿勢(グループ内での相互評価)60% 2 発表内容 学生及び教員評価40%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レスポンスを使用して評価を共有する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜紹介する。</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------|--|----------------|------|
| 科目名 | 保育実践演習 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>1. 4年間保育士課程で学んだこと全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識および技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。</p> <p>2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。</p> <p>3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>主にグループワークを通して、それぞれの学びを共有し、深めていく。プレゼンテーション自然体で共有化を図っていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>毎回のテーマについての振り返り、予習を行う。また授業時間外でのグループでの取り組みに参加すること。毎回前後4時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.オリエンテーション 保育士になるための学びの体系 24年間の 学びの振り返り① 34年間学びの振り返り② 4.グループでのまとめ、発表① 5.グループでのまとめ 発表② 6.社会人の基礎力 グループディスカッション 7.保育士としての基礎力について考える。倫理、価値、知識 技術に関するワーク1 8.保育士としての基礎力について考える。倫理、価値、知識 技術に関するワーク2 9.基礎力についてプレゼンテーション 10.保育士としての資質と能力の整理 11.保育士としての資質と能力の整理 12.グループ発表・相互評価 13.グループ発表 まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 保育実践演習 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] 1 授業への積極的姿勢(グループ内での相互評価)60% 2 発表内容 学生及び教員評価40%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レスポンスを使用して評価を共有する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 適宜紹介する。</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 保育者論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 児童福祉法に示される保育士の定義や、保育に求められる今日的課題などを踏まえ、子どもの保育と保護者支援を担う保育士の専門性について理解を深めることを目標とする。</p> <p>[授業概要] 子どもを取り巻く環境の急激な変化は、子どもの生活や保護者の子育て、保育のあり方を変化させ、その対応をより困難なものにしている。それらの状況に対して、社会は保育所の役割や機能を明確にし、地域における保育の専門機関として社会的責任を果たすことを求めている。むろん、そこで従事する保育士に対しても、保育現場で求められる多様な課題に対応できる高い専門性が求められることから、養成段階において保育士の役割と責務、制度的位置づけ、及び多様な専門性をもった保育者(看護師・栄養士等)との協働などについて学ぶことが重要となる。 本授業では、保育者の役割や倫理、制度的な位置づけ、専門性をはじめ、保育者の協働や専門職的成長などについて学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度 演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、保育者とは 2. 保育者の社会的位置づけ 3. 保育者の哲学 4. 保育者の資質・能力 5. 保育者の専門性 6. 保育者の養成 7. 保育者の業務 8. 保育者間の協働 9. 保護者に対する理解と支援 10. 専門機関との連携 11. 保育者の成長 12. 現代の望ましい保育者像とこれからの保育者に求められるもの 13. まとめ | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 保育者論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] まとめ(80%) 課題及び発表(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] まとめ後、解答の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:まとめ(80%) 課題及び発表(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:まとめ(80%) 課題及び発表(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:まとめ(80%) 課題及び発表(20%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(80%) 課題及び発表(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(80%) 課題及び発表(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(80%) 課題及び発表(20%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 「新・保育原理[第4版]」 著者名:三宅茂夫編 出版社:みらい (9784860000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 「保育所保育指針解説(平成30年3月)」2018 著者名:厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (9784580000000) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 著 出版社:フレーベル館 (9784580000000)</p> | | | |

| | | | |
|---|---------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容 健康 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 幼児期における運動遊びのねらいと内容について理解する。心と体の健康維持・増進を重点におき、発達段階や安全に配慮した運動遊びに必要な基礎的技能を習得する。子どもたちの自主性・主体性を核とした運動支援方法の知識を深める。</p> <p>[授業概要] ・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションおよび実技を中心に展開する。 ・実習を中心とするので、積極的に自らが運動遊びを楽しむ。 ・実践者、幼児役それぞれの観点からの議論を行う。 ・グループ学習によって、相互理解を深める活動を行う。 ・資料は適宜配布する。 ・レポート課題については、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。 ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・関連性を持って、講義を進行していくので、前回の授業内容について復習する。 ・ニュースを注視し、幼児の運動についての問題点や疑問点を常に持つように心がけること。 ・文部科学省『幼児期運動指針』を読んでおくこと。 各回、予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション(幼稚園教育要領、こども園教育・保育要領、保育指針について) 第2回 実技①体育あそびの実際 からだを使ったあそび 第3回 実技②体育あそびの実際 用具を使ったあそび ボール運動 第4回 実技③体育あそびの実際 フープ、なわを使ったあそび 第5回 実技④体育あそびの実際 マット、とび箱 第6回 実技⑤体育あそびの実際 運動会種目(競技種目、表現・リズム種目、レクリエーション種目) 第7回 理論・実技⑥保育指導案作成、模擬保育について 第8回 実技⑦模擬保育① 3歳児対象 第9回 実技⑧模擬保育② 4歳児対象 第10回 実技⑨模擬保育③ 5歳児対象 第11回 実技⑩模擬保育④ 異年齢対象 第12回 理論②幼児体育の意義と役割、幼児体育指導上の留意事項 第13回 まとめ、フィードバック(情報通信機器の活用についても含む)</p> | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 保育内容 健康 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業参加度、授業態度(50%)、ワークブック(30%)、模擬保育(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中やmanabaを通して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 幼児が楽しみ運動遊びの作り方 著者名:住本 純 出版社:一藝社 (9784863592759)</p> <p>[参考書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説(平成30年3月) 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 保育所保育指針解説書 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館 幼保連携型こども園教育・保育要領 著者名:内閣府 出版社:フレーベル館 幼児期運動指針ガイドブック 著者名:文部科学省 出版社:サンライフ企画</p> | | | |

| | | | |
|---|---------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容 健康 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 幼児期における運動遊びのねらいと内容について理解する。心と体の健康維持・増進を重点におき、発達段階や安全に配慮した運動遊びに必要な基礎的技能を習得する。子どもたちの自主性・主体性を核とした運動支援方法の知識を深める。</p> <p>[授業概要] ・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションおよび実技を中心に展開する。 ・実習を中心とするので、積極的に自らが運動遊びを楽しむ。 ・実践者、幼児役それぞれの観点からの議論を行う。 ・グループ学習によって、相互理解を深める活動を行う。 ・資料は適宜配布する。 ・レポート課題については、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。 ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・関連性を持って、講義を進行していくので、前回の授業内容について復習する。 ・ニュースを注視し、幼児の運動についての問題点や疑問点を常に持つように心がけること。 ・文部科学省『幼児期運動指針』を読んでおくこと。 各回、予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション(幼稚園教育要領、こども園教育・保育要領、保育指針について) 第2回 実技①体育あそびの実際 からだを使ったあそび 第3回 実技②体育あそびの実際 用具を使ったあそび ボール運動 第4回 実技③体育あそびの実際 フープ、なわを使ったあそび 第5回 実技④体育あそびの実際 マット、とび箱 第6回 実技⑤体育あそびの実際 運動会種目(競技種目、表現・リズム種目、レクリエーション種目) 第7回 理論・実技⑥保育指導案作成、模擬保育について 第8回 実技⑦模擬保育① 3歳児対象 第9回 実技⑧模擬保育② 4歳児対象 第10回 実技⑨模擬保育③ 5歳児対象 第11回 実技⑩模擬保育④ 異年齢対象 第12回 理論②幼児体育の意義と役割、幼児体育指導上の留意事項 第13回 まとめ、フィードバック(情報通信機器の活用についても含む)</p> | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 保育内容 健康 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業参加度、授業態度(50%)、ワークブック(30%)、模擬保育(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中やmanabaを通して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 幼児が楽しむ運動遊びの作り方 著者名:住本 純 出版社:一藝社 (9784863592759)</p> <p>[参考書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説(平成30年3月) 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 保育所保育指針解説書 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館 幼保連携型こども園教育・保育要領 著者名:内閣府 出版社:フレーベル館 幼児期運動指針ガイドブック 著者名:文部科学省 出版社:サンライフ企画</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容 言葉 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 乳幼児と育む豊かなコミュニケーション | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 乳幼児の言葉を育む環境づくりと保育者の援助を学ぶ。 言葉を育む児童文化財に関する知識と保育実践に向けての基礎的技術をみにつける</p> <p>[授業概要] 言葉を育む保育教材に関する知識と実践に向けての基礎的技術を身につける</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度必要です</p> <p>[授業計画] 1.児童文化財について 2.わらべ歌の魅力と実践 3.ことば遊びの魅力と実践 4.絵本と紙芝居の魅力と実践 —ICT教材を用いて— 5.お話しづくり1 6.お話しづくり2 7.グループ活動1 ペープサートを使った創作劇 8.グループ活動2 ペープサートを使った創作劇 9.グループ活動3 ペープサートを使った創作劇 10.グループ活動4 ペープサートを使った創作劇 11.グループ活動5 ペープサートを使った創作劇 12.作品発表会のリハーサル 13.高倉台幼稚園での作品発表会</p> | | | |

| | | | |
|--------|--------------------|----|------|
| 科目名 | 保育内容 言葉 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 乳幼児と育む豊かなコミュニケーション | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |

[成績評価方法]

個人課題、グループ課題、授業態度を総合的に評価する(個人課題40% グループ課題40% 授業態度 20%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中の課題は、授業内に適宜フィードバックする
グループ発表および個人発表課題は、発表後口頭でフィードバックを行う

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

なし

[参考書(ISBN)]

平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育容量 原本 著者名:
内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:チャイルド社 (ISBN13:978-4805402580)

| | | | |
|---|--------------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容 言葉 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 乳幼児と育む豊かなコミュニケーション | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 乳幼児の言葉を育む環境づくりと保育者の援助を学ぶ。 言葉を育む児童文化財に関する知識と保育実践に向けての基礎的技術をみにつける</p> <p>[授業概要] 言葉を育む保育教材に関する知識と実践に向けての基礎的技術を身につける</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度必要です</p> <p>[授業計画] 1.児童文化財について 2.わらべ歌の魅力と実践 3.ことば遊びの魅力と実践 4.絵本と紙芝居の魅力と実践 —ICT教材を用いて— 5.お話しづくり1 6.お話しづくり2 7.グループ活動1 ペープサートを使った創作劇 8.グループ活動2 ペープサートを使った創作劇 9.グループ活動3 ペープサートを使った創作劇 10.グループ活動4 ペープサートを使った創作劇 11.グループ活動5 ペープサートを使った創作劇 12.作品発表会のリハーサル 13.高倉台幼稚園での作品発表会</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------------|----|------|
| 科目名 | 保育内容 言葉 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 乳幼児と育む豊かなコミュニケーション | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| <p>[成績評価方法] 個人課題、グループ課題、授業態度を総合的に評価する(個人課題40% グループ課題40% 授業態度 20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中の課題は、授業内に適宜フィードバックする グループ発表および個人発表課題は、発表後口頭でフィードバックを行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育容量 原本 著者名: 内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:チャイルド社 (ISBN13:978-4805402580)</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容 言葉 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児と育む豊かなコミュニケーション | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 乳幼児の言葉を育む環境づくりと保育者の援助を学ぶ。 言葉を育む児童文化財に関する知識と保育実践に向けての基礎的技術をみにつける</p> <p>[授業概要] 言葉を育む保育教材に関する知識と実践に向けての基礎的技術を身につける</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度必要です</p> <p>[授業計画] 1.児童文化財について 2.わらべ歌の魅力と実践 3.ことば遊びの魅力と実践 4.絵本と紙芝居の魅力と実践 —ICT教材を用いて— 5.子どもと楽しむ劇遊び1 6.子どもと楽しむ劇遊び2 7.お話づくり1 8.お話づくり2 9.創作絵本づくり 絵の分析① 10.創作絵本づくり 絵の分析② 11.創作絵本づくり 1枚の絵からの創作絵本制作 12.創作絵本づくり グループ内発表と評価 13.創作絵本の読み聞かせとふりかえり</p> | | | |

| | | | |
|--------|-------------------|----|------|
| 科目名 | 保育内容 言葉 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児と育む豊かなコミュニケーション | 演習 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |

[成績評価方法]

課題、授業態度を総合的に評価する(課題80% 授業態度 20%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中の課題は、授業内に適宜フィードバックする
グループ発表および個人発表課題は、発表後口頭でフィードバックを行う

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

なし

[参考書(ISBN)]

平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育容量 原本 著者名:
内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:チャイルド社 (ISBN13:978-4805402580)

| | | | |
|----------------|--------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容 環境 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>模擬保育(ロールプレーを含む)</small> | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

領域「環境」の目標を理解し、それらを生活の中で培い、育んでいくための保育実践に必要となる基礎的な知識や基本的な技能の修得を目指す。

[授業概要]

領域「環境」は、子どもが身近な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活や遊びに取り入れていこうとする力を養うことを目標としている。目標の達成に向けて、子どもは様々な事象に興味や関心をもち、主体的に環境にかかわるなかで、発見や試行錯誤を楽しみ、それを生活に取り入れようとする。さらに、そのなかで大きな学びにつながる多様な感覚や概念などが形成される。

本授業では、幼児教育の基本である「環境を通して行う教育」という視点から、領域「環境」のねらいを捉え、今を生きる子どもたちにとって必要な環境のあり方について学ぶ。さらに、実践力の構築をめざして、ふさわしい保育構成や展開に必要な知識や技能について学ぶ。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

次回の授業の予習や模擬保育等の準備を入念にしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。

[授業計画]

1. オリエンテーション 幼稚園教育の基本と領域、乳幼児期における環境の意味
2. 学校教育における幼児教育において育む資質・能力の三つの柱と領域「環境」
3. 模擬保育の実際と学び方のポイント
4. ICT活用及び指導案作成の基礎理論、模擬保育の準備
5. 模擬保育の指導案検討と実践(第1グループ)
6. 模擬保育の反省(第1グループ)、次回指導案の検討(第2グループ)
7. 最終修正指導案の確認(第1グループ)、模擬保育の実践(第2グループ)
8. 模擬保育の反省(第2グループ)、次回指導案の検討(第3グループ)
9. 最終修正指導案の確認(第2グループ)、模擬保育の実践(第3グループ)
10. 模擬保育の反省(第3グループ)、次回指導案の検討(第4グループ)
11. 最終修正指導案の確認(第3グループ)、模擬保育の実践(第4グループ)
12. 模擬保育の反省(第4グループ)、次回指導案の検討(第5グループ)
13. 最終修正指導案の確認(第4グループ)、まとめ

| 科目名 | 保育内容 環境 | 前期 | 2 単位 |
|---|---------|----|------|
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] 模擬保育の計画・実施(50%) 模擬保育の反省、レポート(30%) まとめ(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] まとめ後、解答の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:模擬保育の計画・実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:模擬保育の計画・実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:模擬保育の計画・実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:模擬保育の計画・実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:模擬保育の計画・実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:模擬保育の計画・実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:模擬保育の計画・実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 「子どもの姿からはじめる 領域・環境」 著者名:東義也編 出版社:みらい (9784860000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 「幼稚園教育要領解説(平成30年3月)」 著者名:文部科学省編 出版社:フレーベル館 (9784580000000) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (9784580000000) 「保育所保育指針解説(平成30年3月)」2018 著者名:厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (9784580000000)</p> | | | |

| | | | |
|----------------|--------------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容 環境 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | <small>模擬保育(ロールプレーを含む)</small> | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

領域「環境」の目標を理解し、それらを生活の中で培い、育んでいくための保育実践に必要となる基礎的な知識や基本的な技能の修得を目指す。

[授業概要]

領域「環境」は、子どもが身近な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活や遊びに取り入れていくとする力を養うことを目標としている。目標の達成に向けて、子どもは様々な事象に興味や関心をもち、主体的に環境にかかわるなかで、発見や試行錯誤を楽しみ、それを生活に取り入れようとする。さらに、そのなかで大きな学びにつながる多様な感覚や概念などが形成される。

本授業では、幼児教育の基本である「環境を通して行う教育」という視点から、領域「環境」のねらいを捉え、今を生きる子どもたちにとって必要な環境のあり方について学ぶ。さらに、実践力の構築をめざして、ふさわしい保育構成や展開に必要な知識や技能について学ぶ。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

次回の授業の予習や模擬保育等の準備を入念にしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。

[授業計画]

1. オリエンテーション 幼稚園教育の基本と領域、乳幼児期における環境の意味
2. 学校教育における幼児教育において育む資質・能力の三つの柱と領域「環境」
3. 模擬保育の実際と学び方のポイント
4. ICT活用及び指導案作成の基礎理論、模擬保育の準備
5. 模擬保育の指導案検討と実践(第1グループ)
6. 模擬保育の反省(第1グループ)、次回指導案の検討(第2グループ)
7. 最終修正指導案の確認(第1グループ)、模擬保育の実践(第2グループ)
8. 模擬保育の反省(第2グループ)、次回指導案の検討(第3グループ)
9. 最終修正指導案の確認(第2グループ)、模擬保育の実践(第3グループ)
10. 模擬保育の反省(第3グループ)、次回指導案の検討(第4グループ)
11. 最終修正指導案の確認(第3グループ)、模擬保育の実践(第4グループ)
12. 模擬保育の反省(第4グループ)、次回指導案の検討(第5グループ)
13. 最終修正指導案の確認(第4グループ)、まとめ

| 科目名 | 保育内容 環境 | 後期 | 2 単位 |
|---|---------|----|------|
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] 模擬保育の計画・実施(50%) 模擬保育の反省、レポート(30%) まとめ(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] まとめ後、解答の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:模擬保育の計画・実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:模擬保育の計画・実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:模擬保育の計画・実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:模擬保育の計画・実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:模擬保育の計画・実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:模擬保育の計画・実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:模擬保育の計画・実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 「子どもの姿からはじめる 領域・環境」 著者名:東義也編 出版社:みらい (9784860000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 「幼稚園教育要領解説(平成30年3月)」 著者名:文部科学省編 出版社:フレーベル館 (9784580000000) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (9784580000000) 「保育所保育指針解説(平成30年3月)」2018 著者名:厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (9784580000000)</p> | | | |

| | | | | |
|---|--------|----------------|----|------|
| 科目名 | 保育内容総論 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 服巻 真須美 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 3法令における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実践に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。 保育の多様な展開について具体的に理解する。 <p>[授業概要]</p> <p>保育形態や保育者の指導についてロールプレイやディスカッション等のアクティブラーニングを実施し、主体的に学ぶ。保育を構想し計画を立て、見通しをもって保育内容を工夫することや、子ども達が日々環境に関わり生活し学び成長していくこととの関連について、テキストや映像等を利用して、具体的な事例を通して理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>テキストの関連する部分を事前に読んでおく。授業の復習をして、問題意識を持つ。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育・保育の基本と保育内容の理解 子どもの発達と理解 幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育内容 環境を通して行う保育 生活や遊びを通して行う保育 保育の計画と評価 年齢別における保育内容 保育内容の実践的理解(模擬保育と評価) 保育内容の実践的理解(模擬保育と評価) 保育内容の実践的理解(模擬保育と評価) 小学校との連携と保育内容 子育て支援と保育内容 多様な保育内容の展開 保育内容の歴史の変遷 まとめ | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 保育内容総論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 服巻 真須美 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題への取り組みと提出 65%、レポート 35% 受講態度や積極性は発言、質問などで評価をします。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題は、後日返却し、授業の理解度を確認する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 保育実践につなぐ 保育内容総論 著者名:小川圭子・日坂歩都恵・小林みどり編 出版社:みらい (978-4-86015-560-5)</p> <p>[参考書(ISBN)] 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 著者名:文部科学省 厚生労働省内閣府 出版社:チャイルド本社 (978-4-8054-0258-0)</p> | | | |

| | | | | |
|---|--------|----------------|----|------|
| 科目名 | 保育内容総論 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 服巻 真須美 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3法令における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実践に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。 <p>[授業概要]</p> <p>保育形態や保育者の指導についてロールプレイやディスカッション等のアクティブラーニングを実施し、主体的に学ぶ。保育を構想し計画を立て、見通しをもって保育内容を工夫することや、子ども達が日々環境に関わり生活し学び成長していくこととの関連について、テキストや映像等を利用して、具体的な事例を通して理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>テキストの関連する部分を事前に読んでおく。授業の復習をして、問題意識を持つ。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.教育・保育の基本と保育内容の理解 2.子どもの発達と理解 3.幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育内容 4.環境を通して行う保育 生活や遊びを通して行う保育 5.保育の計画と評価 年齢別における保育内容 6.保育内容の実践的理解(模擬保育と評価) 7.保育内容の実践的理解(模擬保育と評価) 8.保育内容の実践的理解(模擬保育と評価) 9.小学校との連携と保育内容 10.子育て支援と保育内容 11.多様な保育内容の展開 12.保育内容の歴史の変遷 13.まとめ | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 保育内容総論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 服巻 真須美 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題への取り組みと提出 65%、レポート 35% 受講態度や積極性は発言、質問などで評価をします。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題は、後日返却し、授業の理解度を確認する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 保育実践につなぐ 保育内容総論 著者名:小川圭子・日坂歩都恵・小林みどり編 出版社:みらい (978-4-86015-560-5)</p> <p>[参考書(ISBN)] 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 著者名:文部科学省 厚生労働省内閣府 出版社:チャイルド本社 (978-4-8054-0258-0)</p> | | | |

| | | | |
|----------------|-----------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容 人間関係 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 模擬保育(ロールプレーを含む) | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

幼児の人間関係の構築に関する諸能力発達の実態や過程を知り、それらを育むための保育構成の基礎的な考え方や方法、実践技術の修得を目標とする。

[授業概要]

乳幼児期にとって人間関係の発達は、社会的な存在たらしめるための基盤となるものである。多様な人間関係のなかで、「より善く生きたい」という人間本来の道徳的な源泉をより高次なものにしなが、「みんなで共に生きたい」や「社会の中で貢献したい」などの社会における成員意識を確かなものとしていく必要がある。さらに、乳幼児期には社会的関係を通して、自他の認識から自己の確立、社会生活を営むために必要となる社会性・言語・コミュニケーションを発達させ、さらに他者との多くの体験の共有や追体験を行いながら、思考や行動の糧を得ていくことが求められる。乳幼児期の保育や教育が環境を通して行うものであることから、保育者には乳幼児期の人間関係の発達にふさわしい環境の構成が求められる。

本授業では、乳幼児期の人間関係の意義や発達に関する諸理論を理解し、育成すべき資質・能力の三つの柱を視野に入れた保育や教育の構成・実施に関する実践力を養う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。

[授業計画]

1. オリエンテーション 幼稚園教育の基本と領域、乳幼児期における人間関係の意味
2. 学校教育における幼児教育において育む資質・能力の三つの柱と領域「人間関係」
3. 模擬保育の実際と学び方のポイント
4. ICT活用及び指導案作成の基礎理論、模擬保育の準備
5. 模擬保育の指導案検討と実践(第1グループ)
6. 模擬保育の反省(第1グループ)、次回指導案の検討(第2グループ)
7. 最終修正指導案の確認(第1グループ)、模擬保育の実践(第2グループ)
8. 模擬保育の反省(第2グループ)、次回指導案の検討(第3グループ)
9. 最終修正指導案の確認(第2グループ)、模擬保育の実践(第3グループ)
10. 模擬保育の反省(第3グループ)、次回指導案の検討(第4グループ)
11. 最終修正指導案の確認(第3グループ)、模擬保育の実践(第4グループ)
12. 模擬保育の反省(第4グループ)、次回指導案の検討(第5グループ)
13. 最終修正指導案の確認(第4グループ)、まとめ

| | | | |
|--|-----------|----|------|
| 科目名 | 保育内容 人間関係 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] 模擬保育の計画、実施(50%) 模擬保育の反省、レポート(30%) まとめ(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] まとめ後、解答の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:模擬保育の計画、実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:模擬保育の計画、実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:模擬保育の計画、実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:模擬保育の計画、実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:模擬保育の計画、実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:模擬保育の計画、実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:模擬保育の計画、実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 子どもの姿からはじめる領域・人間関係 著者名:三宅茂夫編著 出版社:みらい (978-4-86015-571-1 C3337)</p> <p>[参考書(ISBN)] 「幼稚園教育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:文部科学省著 出版社:フレーベル館 (9784580000000) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省著 出版社:フレーベル館 (9784580000000) 「保育所保育指針解説(平成30年3月)」2018 著者名:厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (9784580000000)</p> | | | |

| | | | |
|----------------|-----------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容 人間関係 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 模擬保育(ロールプレーを含む) | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[到達目標]

幼児の人間関係の構築に関する諸能力発達の実態や過程を知り、それらを育むための保育構成の基礎的な考え方や方法、実践技術の修得を目標とする。

[授業概要]

乳幼児期にとって人間関係の発達は、社会的な存在たらしめるための基盤となるものである。多様な人間関係のなかで、「より善く生きたい」という人間本来の道徳的な源泉をより高次なものにしなが、「みんなで共に生きたい」や「社会の中で貢献したい」などの社会における成員意識を確かなものとしていく必要がある。さらに、乳幼児期には社会的関係を通して、自他の認識から自己の確立、社会生活を営むために必要となる社会性・言語・コミュニケーションを発達させ、さらに他者との多くの体験の共有や追体験を行いながら、思考や行動の糧を得ていくことが求められる。乳幼児期の保育や教育が環境を通して行うものであることから、保育者には乳幼児期の人間関係の発達にふさわしい環境の構成が求められる。

本授業では、乳幼児期の人間関係の意義や発達に関する諸理論を理解し、育成すべき資質・能力の三つの柱を視野に入れた保育や教育の構成・実施に関する実践力を養う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。

[授業計画]

1. オリエンテーション 幼稚園教育の基本と領域、乳幼児期における人間関係の意味
2. 学校教育における幼児教育において育む資質・能力の三つの柱と領域「人間関係」
3. 模擬保育の実際と学び方のポイント
4. ICT活用及び指導案作成の基礎理論、模擬保育の準備
5. 模擬保育の指導案検討と実践(第1グループ)
6. 模擬保育の反省(第1グループ)、次回指導案の検討(第2グループ)
7. 最終修正指導案の確認(第1グループ)、模擬保育の実践(第2グループ)
8. 模擬保育の反省(第2グループ)、次回指導案の検討(第3グループ)
9. 最終修正指導案の確認(第2グループ)、模擬保育の実践(第3グループ)
10. 模擬保育の反省(第3グループ)、次回指導案の検討(第4グループ)
11. 最終修正指導案の確認(第3グループ)、模擬保育の実践(第4グループ)
12. 模擬保育の反省(第4グループ)、次回指導案の検討(第5グループ)
13. 最終修正指導案の確認(第4グループ)、まとめ

| 科目名 | 保育内容 人間関係 | 後期 | 2 単位 |
|--|-----------|----|------|
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] 模擬保育の計画、実施(50%) 模擬保育の反省、レポート(30%) まとめ(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] まとめ後、解答の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:模擬保育の計画、実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:模擬保育の計画、実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:模擬保育の計画、実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:模擬保育の計画、実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:模擬保育の計画、実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:模擬保育の計画、実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:模擬保育の計画、実施(50%)、模擬保育の反省、レポート(30%)、まとめ(20%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 子どもの姿からはじめる領域・人間関係 著者名:三宅茂夫編著 出版社:みらい (978-4-86015-571-1 C3337)</p> <p>[参考書(ISBN)] 「幼稚園教育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:文部科学省著 出版社:フレーベル館 (9784580000000) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省著 出版社:フレーベル館 (9784580000000) 「保育所保育指針解説(平成30年3月)」2018 著者名:厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (9784580000000)</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容の理解と方法 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 宮本 和行 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 講義および実技等を通して、保育の援助方法や子どもとの関わり、子どもの発達などについて具体的に学習し知識・技能を習得する。 また、保育の問題点等について考え、保育観を深めることを目的とする。</p> <p>[授業概要] 講義や実技、ディスカッションをなど通して、保育現場の実際を知ることによって専門的な知識や保育技術の基礎を身につける。また、保育現場での写真や動画などを見ることで、現場に即した子どもの発達や理解、保育者のねらいや援助などを知り、保育の理解を深めるきっかけとする。 さらに保育者のあり方や子どもとの関わり方、保育の現場や問題点について考えることで、保育の視野を広げる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 保育内容(5領域)の基礎を事前学習しておくこと</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.保育者と子どもの愛着形成 3.乳幼児の発達 4.子ども同士の関わり 5.保育者の言葉 6.子どもの育ちと環境 7.領域・ねらいと内容 8.子どもをひきつける方法 9.特別な支援(インクルーシブな保育) 10.視覚支援の重要性 11.視覚教材教材の作成 12.教育課程と保育指導案 13.まとめと課題</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------|----|------|
| 科目名 | 保育内容の理解と方法 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 宮本 和行 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への参加度・貢献度 50% 課題 レポート その他の提出物 50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容の理解と方法 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 宮本 和行 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 講義および実技等を通して、保育の援助方法や子どもとの関わり、子どもの発達などについて具体的に学習し知識・技能を習得する。 また、保育の問題点等について考え、保育観を深めることを目的とする。</p> <p>[授業概要] 講義や実技、ディスカッションをなど通して、保育現場の実際を知ることによって専門的な知識や保育技術の基礎を身につける。また、保育現場での写真や動画などを見ることで、現場に即した子どもの発達や理解、保育者のねらいや援助などを知り、保育の理解を深めるきっかけとする。 さらに保育者のあり方や子どもとの関わり方、保育の現場や問題点について考えることで、保育の視野を広げる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 保育内容(5領域)の基礎を事前学習しておくこと</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.保育者と子どもの愛着形成 3.乳幼児の発達 4.子ども同士の関わり 5.保育者の言葉 6.子どもの育ちと環境 7.領域・ねらいと内容 8.子どもをひきつける方法 9.特別な支援(インクルーシブな保育) 10.視覚支援の重要性 11.視覚教材教材の作成 12.教育課程と保育指導案 13.まとめと課題</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------|----|------|
| 科目名 | 保育内容の理解と方法 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 宮本 和行 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業への参加度・貢献度 50% 課題 レポート その他の提出物 50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容の理解と方法Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 宮本 和行 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>(1) 保育者として必要となる保育・教育に関する専門領域についての知識や技術を身に付ける。 (2) 子どもの表現のあり方や保育展開の方法について関心を持ち、考えたり調べたりしながら、自分の考えを広げ深めていく。 (3) 自発的に学修することに愉しさや喜びを見出し、新たな学びに結び付けていこうとする。 (4) 自らの思考・感情・行動について客観的に振り返り、次につなげることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>「保育とはなにか」「保育内容とはなにか」について、これまでの学びを振り返るところから始める。子どもの表現する力や多様な人とのコミュニケーション力を育てる保育のあり方、子どもの主体性を育てる保育展開の方法などを実践を通して学ぶ。授業の方法としては、様々な遊びの実践やグループワークを中心とする。保育者の役割や求められる専門性について考え、自身の学びの課題と新たな興味を見出すことを目的とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬保育や発表には、十分に準備をして臨んでください。 ・日頃から、新聞やテレビ、インターネットなどで、子どもや子どもの育ちに関する情報に意識して触れてください。 ・実践を通して自身に身に付いた力や課題が明確になるよう、授業後には、客観的に振り返って考える時間を十分にもってください。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.領域「人間関係」と「言葉」 2.育児支援 3.子どもを見る目 4.人的環境と人間関係 5.造形表現とその援助 6.保育者と子どもの言語コミュニケーション 7.保育室の環境構成 8.設定保育と自由保育 9.保育実践 ねらいと内容 10.保育実践 立案 11.保育実践 設定保育 12.教材作り(マジックシアター) 13.しあわせ論 | | | |

| | | | |
|---|-------------|----|------|
| 科目名 | 保育内容の理解と方法Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 宮本 和行 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業内課題・提出物、授業への貢献度(60%) 保育指導案・模擬保育(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・授業内課題については、添削・評価をして返却します。 ・発表については、履修生間での相互評価を含めた振り返りをします。 ・質問等については、授業毎に解説をします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 適宜、資料を配付する</p> <p>[参考書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説 平成30年3月 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 保育所保育指針解説 平成30年3月 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成30年3月 著者名:内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:フレーベル館</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容の理解と方法Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 宮本 和行 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>(1) 保育者として必要となる保育・教育に関する専門領域についての知識や技術を身に付ける。</p> <p>(2) 子どもの表現のあり方や保育展開の方法について関心を持ち、考えたり調べたりしながら、自分の考えを広げ深めていく。</p> <p>(3) 自発的に学修することに愉しさや喜びを見出し、新たな学びに結び付けていこうとする。</p> <p>(4) 自らの思考・感情・行動について客観的に振り返り、次につなげることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>「保育とはなにか」「保育内容とはなにか」について、これまでの学びを振り返るところから始める。子どもの表現する力や多様な人とのコミュニケーション力を育てる保育のあり方、子どもの主体性を育てる保育展開の方法などを実践を通して学ぶ。授業の方法としては、様々な遊びの実践やグループワークを中心とする。保育者の役割や求められる専門性について考え、自身の学びの課題と新たな興味を見出すことを目的とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬保育や発表には、十分に準備をして臨んでください。 ・日頃から、新聞やテレビ、インターネットなどで、子どもや子どもの育ちに関する情報に意識して触れてください。 ・実践を通して自身に身に付いた力や課題が明確になるよう、授業後には、客観的に振り返って考える時間を十分にもってください。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.領域「人間関係」と「言葉」 2.育児支援 3.子どもを見る目 4.人的環境と人間関係 5.造形表現とその援助 6.保育者と子どもの言語コミュニケーション 7.保育室の環境構成 8.設定保育と自由保育 9.保育実践 ねらいと内容 10.保育実践 立案 11.保育実践 設定保育 12.教材作り(マジックシアター) 13.しあわせ論 | | | |

| | | | |
|---|-------------|----|------|
| 科目名 | 保育内容の理解と方法Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 宮本 和行 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業内課題・提出物、授業への貢献度(60%) 指導案・保育実践(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・授業内課題については、添削・評価をして返却します。 ・発表については、履修生間での相互評価を含めた振り返りをします。 ・質問等については、授業毎に解説をします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 適宜、資料を配付する</p> <p>[参考書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説 平成30年3月 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 保育所保育指針解説 平成30年3月 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成30年3月 著者名:内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:フレーベル館</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容 表現 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の音楽表現と感性・創造性を育む活動 | 演習 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領のねらいや内容についての理解を深めるとともに、幼稚園実習に向けて、幼児の音楽的発達に即した具体的な指導ができる力を身に付ける。</p> <p>[授業概要] 音楽を通して子どもの豊かな感性を育むには、保育者として子どもにどう関わっていくかが重要となる。この授業では、子どもと音楽との関わりについて、さまざまなテーマを取り上げるとともに、歌や声、様々な楽器のアンサンブルなどの実技も行うことで、理論と実技の双方から幼児の音楽表現教育について体得する。また幼稚園教育要領の内容の理解を図る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 常に身の周りの音の出るものなどに興味を持つようにし、「表現」は音楽だけではないので、「保育内容表現Ⅱ」の授業との関連性を考えておくこと。 ※全員、みんなの前で弾き歌いを行うので、練習しておくこと。</p> <p>[授業計画] 第1回:オリエンテーション 第2回:乳幼児の音楽的発達と小学校音楽教育との連続性 第3回:身体を使った表現①(手・体で奏でる) 第4回:身体を使った表現②(声・歌で奏でる) 第5回:楽器と身の回りのもの(音具)を使った表現(環境を奏でる) 第6回:ICTを使った表現(サンプリングから映像まで) 第7回:協働で行う表現(アンサンブル) 第8回:日本の音楽・世界の音楽を使った表現 第9回:幼稚園教育要領と指導案の書き方 第10回:保育現場の状況と指導案の作成、評価の方法(外部講師招聘予定) 第11回:模擬保育と振り返り①楽器と声、身振りなどを入れた表現 第12回:模擬保育と振り返り②様々な要素を取り入れた表現 第13回:グループ発表・試験とまとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------------|----|------|
| 科目名 | 保育内容 表現 I | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の音楽表現と感性・創造性を育む活動 | 演習 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| <p>[成績評価方法] グループ発表や提出物 (60%)、授業への取り組み (40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験後に解答解説を行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:グループ発表や提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:授業への取り組み・提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:グループ発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:グループ発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業への取り組み・提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:グループ発表</p> <p>[教科書 (ISBN)] コンパス 音楽表現 著者名:駒久美子・味府美香 編著 出版社:建帛社 (978-4-7679-5120-1) 幼稚園教育要領解説(平成30年3月) 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>[参考書 (ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容 表現 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の音楽表現と感性・創造性を育む活動 | 演習 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領のねらいや内容についての理解を深めるとともに、幼稚園実習に向けて、幼児の音楽的発達に即した具体的な指導ができる実践力を付ける。</p> <p>[授業概要] 音楽を通して子どもの豊かな感性を育むには、保育者として子どもにどう関わっていくかが重要となる。この授業では、子どもと音楽との関わりについて、さまざまなテーマを取り上げるとともに、歌や声、様々な楽器のアンサンブルなどの実技も行うことで、理論と実技の双方から幼児の音楽表現教育について体得する。また幼稚園教育要領の内容理解も図る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 常に身の周りの音の出るものなどに興味を持つようにし、「表現」は音楽だけではないので、「保育内容表現Ⅱ」の授業との関連性を考えておくこと。 ※全員、みんなの前で弾き歌いを行うので、練習しておくこと。</p> <p>[授業計画] 第1回:オリエンテーション 第2回:乳幼児の音楽的発達と小学校音楽教育との連続性 第3回:身体を使った表現①(手・体で奏でる) 第4回:身体を使った表現②(声・歌で奏でる) 第5回:楽器と身の回りのもの(音具)を使った表現(環境を奏でる) 第6回:ICTを使った表現(サンプリングから映像まで) 第7回:協働で行う表現(アンサンブル) 第8回:日本の音楽・世界の音楽を使った表現 第9回:幼稚園教育要領と指導案の作成、評価の方法 第10回:幼児教育現場の状況とその課題(外部講師招聘予定) 第11回:模擬保育と振り返り①楽器と声、身振りなどを入れた表現 第12回:模擬保育と振り返り②様々な要素を取り入れた表現 第13回:グループ発表・試験とまとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------------|----|------|
| 科目名 | 保育内容 表現 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の音楽表現と感性・創造性を育む活動 | 演習 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| <p>[成績評価方法] グループ発表や提出物(60%)、授業への取り組み(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験後に解答解説を行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:グループ発表や提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:授業への取り組み・提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:グループ発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:グループ発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業への取り組み・提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:グループ発表</p> <p>[教科書(ISBN)] コンパス 音楽表現 著者名:駒久美子・味府美香 編著 出版社:建帛社 (978-4-7679-5120-1) 幼稚園教育要領解説(平成30年3月) 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容 表現Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の造形表現と活動 | 演習 | |
| 担当者 | 山成 昭世 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>1.保育内容『表現』の目標や内容を理解できる。 2.幼児の造形表現の発達や特質について理解できる。 3.保育実践(プレゼンテーション)を振り返り、保育を改善する視点を身につけることができる。 4.課題を通して指導案を作成することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>幼児の造形活動を指導・支援するために、保育者として必要な知識・技能・感性を造形活動を通して明らかにする。 プレゼンテーションでは造形や言葉を総合的にまとめ、ICT機器を活用し演出する。最終的な発表は保育現場で実施し、自分たちの取り組みについて振り返り考察する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>課題の下調べやアイデアスケッチ、試作品に取り組むこと。グループ活動ではメンバー全員が積極的に話し合いイメージを共有し活発な造形活動をすること。 作品はICT機器を使いデータ編集しスケッチブックにまとめポートフォリオにまとめる。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域『表現』の目標と内容 幼児の造形活動について 2. 保育現場で活用する教材制作(ペープサート) 3. 版による表現・原画制作 4. 版による表現・印刷 5. 幼児が楽しく取り組める立体造形 構成 6. 幼児が楽しく取り組める立体造形 仕上げ 7. 保育現場で展開する楽しいプレゼンテーションについて 8. 保育現場の発達段階を視野に入れ造形、動き、音、言葉を効果的に取り入れたペープサートの検討(グループ活動) 9. ICT機器をデータ編集や演出に活用する 10. ペープサート制作、演出検討(グループ活動) 11. ペープサート制作、演出決定(グループ活動) 12. 発表に向けて(グループ活動) 13. まとめ 作品発表 | | | |

| | | | |
|--------|------------|----|------|
| 科目名 | 保育内容 表現Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の造形表現と活動 | 演習 | |
| 担当者 | 山成 昭世 | | |

[成績評価方法]
授業中の課題(70%)グループワークによる実践発表、プレゼンテーション(30%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
毎回の授業や課題提出後にアドバイスをし、コメントします。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]
レジメ・資料を作成し配布する

[参考書(ISBN)]
『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社:フレーベル館
『保育所保育指針解説』 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館

| | | | |
|--|------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容 表現Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の造形表現と活動 | 演習 | |
| 担当者 | 山成 昭世 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>1.保育内容『表現』の目標や内容を理解できる。 2.幼児の造形表現の発達や特質について理解できる。 3.保育実践(プレゼンテーション)を振り返り、保育を改善する視点を身につけることができる。 4.課題を通して指導案を作成することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>幼児の造形活動を指導・支援するために、保育者として必要な知識・技能・感性を造形活動を通して明らかにする。 プレゼンテーションでは造形や言葉を総合的にまとめ、ICT機器を活用し演出する。最終的な発表は保育現場で実施し、自分たちの取り組みについて振り返り考察する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>課題の下調べやアイデアスケッチ、試作品に取り組むこと。グループ活動ではメンバー全員が積極的に話し合いイメージを共有し活発な造形活動をすること。 作品はICT機器を使いデータ編集しスケッチブックにまとめポートフォリオにまとめる。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域『表現』の目標と内容 幼児の造形活動について 2. 保育現場で活用する教材制作(ペープサート) 3. 版による表現・原画制作 4. 版による表現・印刷 5. 幼児が楽しく取り組める立体造形 構成 6. 幼児が楽しく取り組める立体造形 仕上げ 7. 保育現場で展開する楽しいプレゼンテーションについて 8. 保育現場の発達段階を視野に入れ造形、動き、音、言葉を効果的に取り入れたペープサートの検討(グループ活動) 9. ICT機器をデータ編集や演出に活用する 10. ペープサート制作、演出検討(グループ活動) 11. ペープサート制作、演出決定(グループ活動) 12. 発表に向けて(グループ活動) 13. まとめ 作品発表 | | | |

| | | | |
|--------|------------|----|------|
| 科目名 | 保育内容 表現Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の造形表現と活動 | 演習 | |
| 担当者 | 山成 昭世 | | |

[成績評価方法]
授業中の課題(70%)グループワークによる実践発表、プレゼンテーション(30%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
毎回の授業や課題提出後にアドバイスをし、コメントします。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]
レジメ・資料を作成し配布する

[参考書(ISBN)]
『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社:フレーベル館
『保育所保育指針解説』 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館

| | | | |
|--|------------|----------------|------|
| 科目名 | 保育内容 表現Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の造形表現と活動 | 演習 | |
| 担当者 | 山成 昭世 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>1.保育内容『表現』の目標や内容を理解できる。 2.幼児の造形表現の発達や特質について理解できる。 3.保育実践(プレゼンテーション)を振り返り、保育を改善する視点を身につけることができる。 4.課題を通して指導案を作成することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>幼児の造形活動を指導・支援するために、保育者として必要な知識・技能・感性を造形活動を通して明らかにする。 プレゼンテーションでは造形や言葉を総合的にまとめ、ICT機器を活用し演出する。最終的な発表は保育現場で実施し、自分たちの取り組みについて振り返り考察する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>課題の下調べやアイデアスケッチ、試作品に取り組むこと。グループ活動ではメンバー全員が積極的に話し合いイメージを共有し活発な造形活動をすること。 作品はICT機器を使いデータ編集しスケッチブックにまとめポートフォリオにまとめる。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域『表現』の目標と内容 幼児の造形活動について 2. 保育現場で活用する教材制作(ペープサート) 3. 版による表現・原画制作 4. 版による表現・印刷 5. 幼児が楽しく取り組める立体造形 構成 6. 幼児が楽しく取り組める立体造形 仕上げ 7. 保育現場で展開する楽しいプレゼンテーションについて 8. 保育現場で展開する楽しいプレゼンテーションについて 9. 幼児の発達段階を視野に入れ造形、動き、音、言葉を効果的に取り入れたペープサートの検討(グループ活動) ICT機器をデータ編集や演出に活用する 10. ペープサート制作、演出検討(グループ活動) 11. ペープサート制作、演出決定(グループ活動) 12. 発表に向けて(グループ活動) 13. まとめ 作品発表 | | | |

| | | | |
|--------|------------|----|------|
| 科目名 | 保育内容 表現Ⅱ | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の造形表現と活動 | 演習 | |
| 担当者 | 山成 昭世 | | |

[成績評価方法]
授業中の課題(70%)グループワークによる実践発表、プレゼンテーション(30%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
毎回の授業や課題提出後にアドバイスをし、コメントします。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]
レジメ・資料を作成し配布する

[参考書(ISBN)]
『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社:フレーベル館
『保育所保育指針解説』 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館

| | | | | |
|---|----------|--|----------------|------|
| 科目名 | 保育の計画と評価 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.保育の全体的な計画、指導計画の意義と目的を理解し、その編成についての知識を得る。 2.子ども一人一人が発達に応じた乳幼児期にふさわしい生活をおくることができる具体的な構造的導計画を作成することができる。 3.保育のねらいと内容の関係が分かり、自ら設定保育指導案の立案ができるようになる。 4.保育記録・評価反省と計画の関係を理解し、計画の改善の意義と方法について説明できる。 <p>[授業概要]</p> <p>乳幼児期の保育の計画と評価についての基礎的基本的な理念について学び、その上に展開される具体的な保育の全体的計画の編成、指導計画の作成から実践に至るまでを理解する。 まず、保育という営みは、どのような計画に基づいて行っているのかについて、その意義や必要性を学ぶ。 また、子どもの発達の過程や特徴を踏まえ、保育目標に基づいて子どもの発達にあった保育内容を構造的に思考し、指導計画作成の方法やポイントについて理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>テキストの関連する部分を事前に読んでおく。授業の復習をして、問題意識を持ちノートをまとめる。 各回予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.保育における計画と評価の意義 2.全体的な計画と指導計画 3.保育におけるPDCAサイクル 4.保育所の基本と全体的な計画と指導計画の実際 5.子どもの発達に応じた計画とは-012歳児を中心に- 6.子どもの発達に応じた計画とは-345歳児を中心に- 7.指導計画作成の基本 長期的な計画の理解 012歳児 8.指導計画作成の基本 短期的な計画の理解 012歳児 9.指導計画作成の基本 長期的な計画の理解 345歳児 10.指導計画作成の基本 短期的な計画の理解 345歳児 11.指導案の立案(345歳児) 12.指導案振り返り 13.まとめ グループディスカッション | | | | |

| | | | |
|--|----------|----|------|
| 科目名 | 保育の計画と評価 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験(50%)課題(30%)授業参加態度(20%) 課題は締め切りや形式も含め、内容を評価します 授業参加態度とは、授業内の発言、レスポンの提出内容などで評価をします</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題は翌日に、添削して返却する またはmanabaを使ってコメントする</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験 課題 授業参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:試験 課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:課題 授業参加態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題 授業参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験 課題 授業参加態度</p> <p>[教科書(ISBN)] これで安心! 保育指導案の書き方 著者名:開 仁志 出版社:北大路書房 (9784762826214)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|---|--------|----------------|----|------|
| 科目名 | 保育の心理学 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標]</p> <p>①保育実践にかかわる心理学的知識を学び、発達をとらえる視点を理解する ②乳幼児期の子どもの学びの在り方や特性について基礎知識を習得し、保育において人と相互的にかかわること、体験すること、発達に応じた環境を整えることの意義を理解する</p> <p>[授業概要]</p> <p>ヒトは誕生から様々な発達課題を乗り越え、様々な心的機能を確立する。ことに、乳幼児期は、日常生活や遊び、保育所での先生、友だちとの集団との関係を通して、動作、操作、社会スキル、ことばを獲得し経験・知識を豊かしていく。こうした過程について具体例を挙げて概説し、乳幼児の特性を踏まえた保育の在り方について考える。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>指示された資料は事前に必ず目を通すこと。また知識の定着をはかるため、授業内容の復習をしっかりとってください。なお、各回、予習・復習を合わせて4時間程度の自主学習が必要です。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.保育と心理学 ①子どもの発達のみ方・考え方 2.保育と心理学 ②子どもの発達と環境 3.こころの起源－ヒトからひとへ 新生児期の発達－ 4.乳児期の発達1 社会情動的発達 5.乳児期の発達2 姿勢・運動機能の発達と赤ちゃんの好奇心 6.乳児期の発達3 社会スキルの芽生えとことばの獲得 7.幼児期の発達特徴 9.幼児期の発達1 運動能力と遊びの広がり 10.幼児期の発達2 幼児のもののみ方・感じ方と言葉の育ち 11.乳幼児期の発達3 生活の中で獲得する社会スキル 12.遊びを中心とする日常生活で培われる「わたし」の基盤 13.まとめ | | | | |

| | | | |
|---|--------|----|------|
| 科目名 | 保育の心理学 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート試験(70%)、講義中にしばしば実施する小テスト・レポート(30%)を総合的に評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは授業中に口頭で行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] コンパス保育の心理学 著者名:寺見陽子 出版社:建帛社</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|--|----------|----------------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標] 幼児教育教員および保育士などの専門職に求められる実践力に結びつく基礎力を身につける。</p> <p>[授業概要] 本演習では、今日の保育実践現場での諸課題を取り上げ、グループディスカッションおよびワークショップにより学生自身の保育に関する関心を高め、自らの意見の発表等に関するスキルの向上を目指す。また、保育現場でのボランティア活動、学外活動に積極的に取り組むことによって、実践現場における課題等について考察し、学びを共有する。 上記のように授業外活動も前提となる。またボランティア活動、学外活動等にも必須で、積極的に取り組むことを推奨する。 授業外活動も積極的に主体的に取り組むことが望ましい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日頃から子どもの「育ち」や「育て」、保育実践現場に対して関心を持ち、資料などの収集を通して各自が課題意識を持ち、社会的課題や専門用語について理解を深めておくこと。 各回予習、復習 実践あわせて2時間程度</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション⇒全員に対して授業日が複数あり、希望選択する。 2. めざす保育者像について① 3. めざす保育者像について② 4. 現場でのボランティア活動の現状 5. 新聞記事からの諸課題抽出およびプレゼンテーション① 6. 新聞記事からの諸課題抽出およびプレゼンテーション② 7. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)① 8. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)② 9. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)③ 10. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)④ 11. ボランティア体験からのプレゼンテーション① 12. ボランティア体験からのプレゼンテーション② 13. まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|--|----------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度 50% 授業での発表25% 課題提出 25% 受講態度は積極性や発言内容などで評価する 授業での発表は プレゼンテーションの内容で評価する 課題提出は期限や形式についても評価の対象とする</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaのコメント 直接指導</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:授業での発表 課題提出</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:授業での発表 課題提出</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:受講態度 発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度 授業での発表 課題提出</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業での発表 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業での発表 課題提出</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)</p> | | | |

| | | | | |
|--|----------|----------------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標] 幼児教育教員および保育士などの専門職に求められる実践力に結びつく基礎力を身につける。</p> <p>[授業概要] 本演習では、今日の保育実践現場での諸課題を取り上げ、グループディスカッションおよびワークショップにより学生自身の保育に関する関心を高め、自らの意見の発表等に関するスキルの向上を目指す。また、保育現場でのボランティア活動、学外活動に積極的に取り組むことによって、実践現場における課題等について考察し、学びを共有する。 上記のように授業外活動も前提となる。またボランティア活動、学外活動等にも必須で、積極的に取り組むことを推奨する。 授業外活動も積極的に主体的に取り組むことが望ましい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日頃から子どもの「育ち」や「育て」、保育実践現場に対して関心を持ち、資料などの収集を通して各自が課題意識を持ち、社会的課題や専門用語について理解を深めておくこと。 各回予習、復習 実践あわせて2時間程度</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション⇒全員に対して授業日が複数あり、希望選択する。 2. めざす保育者像について① 3. めざす保育者像について② 4. 現場でのボランティア活動の現状 5. 新聞記事からの諸課題抽出およびプレゼンテーション① 6. 新聞記事からの諸課題抽出およびプレゼンテーション② 7. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)① 8. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)② 9. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)③ 10. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)④ 11. ボランティア体験からのプレゼンテーション① 12. ボランティア体験からのプレゼンテーション② 13. まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|--|----------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 大西 雅裕 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度 50% 授業での発表25% 課題提出 25% 受講態度は積極性や発言内容などで評価する 授業での発表は プレゼンテーションの内容で評価する 課題提出は期限や形式についても評価の対象とする</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaのコメント 直接指導</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:授業での発表 課題提出</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:授業での発表 課題提出</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:受講態度 発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度 授業での発表 課題提出</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業での発表 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業での発表 課題提出</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)</p> | | | |

| | | | | |
|--|----------|----------------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標] 幼児教育教員および保育士などの専門職に求められる実践力に結びつく基礎力を身につける。</p> <p>[授業概要] 本演習では、今日の保育実践現場での諸課題を取り上げ、グループディスカッションおよびワークショップにより学生自身の保育に関する関心を高め、自らの意見の発表等に関するスキルの向上を目指す。また、保育現場でのボランティア活動、学外活動に積極的に取り組むことによって、実践現場における課題等について考察し、学びを共有する。 上記のように授業外活動も前提となる。またボランティア活動、学外活動等にも必須で、積極的に取り組むことを推奨する。 授業外活動も積極的に主体的に取り組むことが望ましい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日頃から子どもの「育ち」や「育て」、保育実践現場に対して関心を持ち、資料などの収集を通して各自が課題意識を持ち、社会的課題や専門用語について理解を深めておくこと。 各回予習、復習 実践あわせて2時間程度</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション⇒全員に対して授業日が複数あり、希望選択する。 2. めざす保育者像について① 3. めざす保育者像について② 4. 現場でのボランティア活動の現状 5. 新聞記事からの諸課題抽出およびプレゼンテーション① 6. 新聞記事からの諸課題抽出およびプレゼンテーション② 7. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)① 8. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)② 9. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)③ 10. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)④ 11. ボランティア体験からのプレゼンテーション① 12. ボランティア体験からのプレゼンテーション② 13. まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|--|----------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山内 紀幸 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度 50% 授業での発表25% 課題提出 25% 受講態度は積極性や発言内容などで評価する 授業での発表は プレゼンテーションの内容で評価する 課題提出は期限や形式についても評価の対象とする</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaのコメント 直接指導</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:授業での発表 課題提出</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:授業での発表 課題提出</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:受講態度 発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度 授業での発表 課題提出</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業での発表 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業での発表 課題提出</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。著者名:なし。出版社:なし。(なし。)</p> | | | |

| | | | | |
|--|----------|----------------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育基礎演習 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 演習 | |
| 担当者 | 山成 昭世 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | | |
| <p>[到達目標] 幼児教育教員および保育士などの専門職に求められる実践力に結びつく基礎力を身につける。</p> <p>[授業概要] 本演習では、今日の保育実践現場での諸課題を取り上げ、グループディスカッションおよびワークショップにより学生自身の保育に関する関心を高め、自らの意見の発表等に関するスキルの向上を目指す。また、保育現場でのボランティア活動、学外活動に積極的に取り組むことによって、実践現場における課題等について考察し、学びを共有する。 上記のように授業外活動も前提となる。またボランティア活動、学外活動等にも必須で、積極的に取り組むことを推奨する。 授業外活動も積極的に主体的に取り組むことが望ましい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日頃から子どもの「育ち」や「育て」、保育実践現場に対して関心を持ち、資料などの収集を通して各自が課題意識を持ち、社会的課題や専門用語について理解を深めておくこと。 各回予習、復習 実践あわせて2時間程度</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション⇒全員に対して授業日が複数あり、希望選択する。 2. めざす保育者像について① 3. めざす保育者像について② 4. 現場でのボランティア活動の現状 5. 新聞記事からの諸課題抽出およびプレゼンテーション① 6. 新聞記事からの諸課題抽出およびプレゼンテーション② 7. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)① 8. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)② 9. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)③ 10. ワークショップ型の学び(保育現場の実際について)④ 11. ボランティア体験からのプレゼンテーション① 12. ボランティア体験からのプレゼンテーション② 13. まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|--|----------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育基礎演習 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 山成 昭世 | | |
| <p>[成績評価方法] 受講態度 50% 授業での発表25% 課題提出 25% 受講態度は積極性や発言内容などで評価する 授業での発表は プレゼンテーションの内容で評価する 課題提出は期限や形式についても評価の対象とする</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaのコメント 直接指導</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:授業での発表 課題提出</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:授業での発表 課題提出</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:受講態度 発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度 授業での発表 課題提出</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業での発表 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業での発表 課題提出</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。(なし。)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------|---|----------------|------|
| 科目名 | 幼児教育原理 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] フレール、ペスタロッチ、デューイ、倉橋惣三、モンテッソーリなどの現代幼児教育の礎となった児童中心主義の教育思想や実践を理解し、子どもの保育や教育を適切に行っていくための保育観や教育観の形成を目標とする。また、幼児教育の意味や特性について理解する。</p> <p>[授業概要] 教育の究極の目的は、それを進めていく過程において、人間の成長や発達、学習(体験や経験なども含めて)がその社会といかに関係をもっているのかを追求し、関係づけていくことにある。幼児教育においても、保育者がどのような子ども観や保育・教育観をもって保育や教育にあたるかが、その成否を左右することにかわりはない。本講義は、今後学習を進めていく幼児教育に関する科目を理解するうえで基盤となる概念を学ぶ科目と位置づけられる。代表的な児童中心主義の教育思想を紐解きながら、子ども観や保育・教育観を学びとり、とりわけ幼児教育の意味や意義について考えを深める。さらに、それらの理解をふまえ、適切な子どもの指導・支援を行うことのできる有為有能な幼児教育者となるための専門職性についても学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション、幼児教育の意味と意義 2. 幼児教育思想の潮流と子ども観1 (フレール1) 3. 幼児教育思想の潮流と子ども観2 (フレール2) 4. 幼児教育思想の潮流と子ども観3 (フレール3) 5. 幼児教育思想の潮流と子ども観4 (倉橋惣三1) 6. 幼児教育思想の潮流と子ども観5 (倉橋惣三2) 7. 幼児教育思想の潮流と子ども観6 (その他の教育思想家・実践家) 8. 幼児教育の考え方1 (保育の意味と基本) 9. 幼児教育の考え方2 (遊びの意味と援助) 10. 幼児教育者の役割と専門職性 11. 保育観・教育観の模索 12. 保育観・教育観の構築(発表会) 13. まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|--|--------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育原理 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] まとめ(70%) レポート課題(20%) 発表(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] まとめ後、解答の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:まとめ(70%) レポート課題(20%) 発表(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:まとめ(70%) レポート課題(20%) 発表(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員としての使命感と責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:まとめ(70%) レポート課題(20%) 発表(10%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(70%) レポート課題(20%) 発表(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(70%) レポート課題(20%) 発表(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:まとめ(70%) レポート課題(20%) 発表(10%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 教育原理 著者名:三宅茂夫編 出版社:ミネルヴァ書房(9784620000000) 「幼稚園教育要領解説」2018 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館(978-4-577-81447-5)</p> <p>[参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配布を行う。</p> | | | |

| | | | | |
|---|---------|----------------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育指導法 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 福澤 惇也 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標] 幼児の姿に触れ、幼児理解を図るとともに、適切な指導案や指導記録を作成する力を養う。幼稚園見学を通して、実際の保育の場で、援助の方法、環境の構成、情報機器及び教材の活用等に関する基礎的な知識・技術を身に付け、教育内容を理解する。</p> <p>[授業概要] 幼稚園教育要領の基本を講義から学ぶ。講義から学んだことを実践につなげられるように事前指導では、映像によって幼児の姿を理解する。見学実習においては、実際に幼児と関わり、様々な問題に対処できる視点を具体的・実践的に学習する。事後学修では実践の場での幼児の姿からの考察を行うことで幼児理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 関係法規、教育課程概論等 で学んだ内容を復習すること</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 要領・指針における5領域のねらい及び内容のつながりについて 3. 養護と教育が一体的に展開される保育と遊びを通じた指導のあり方について 4. 保育における記録の方法について 5. 教育・保育における環境を通じた実践及び指導について 6. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて 7. 教育・保育における教育課程・指導計画について 8. 教育・保育における長期指導計画・短期指導計画について 9. 模擬保育を目指した指導計画の作成について 10. 保育観・子ども観の意義と醸成について 11. 支援を必要とする子ども理解とクラス運営について 12. 保護者対応と地域連携について 13. 時代や社会背景に即した保育に関する保育者の専門的職能について | | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育指導法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 福澤 惇也 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート課題(60%)・授業態度(20%)・提出物(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>[参考書(ISBN)] 新・保育内容総論ー保育って、おもしろいー 著者名:前田和代 出版社:教育情報出版 (978-4-909378-50-7) ノンコンタクトタイムの導入に先駆けて 著者名:福澤惇也 出版社:ななみ書房 (978-4-910973-06-7)</p> | | | |

| | | | | |
|---|---------|----------------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育指導法 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 福澤 惇也 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標] 幼児の姿に触れ、幼児理解を図るとともに、適切な指導案や指導記録を作成する力を養う。幼稚園見学を通して、実際の保育の場で、援助の方法、環境の構成、情報機器及び教材の活用等に関する基礎的な知識・技術を身に付け、教育内容を理解する。</p> <p>[授業概要] 幼稚園教育要領の基本を講義から学ぶ。講義から学んだことを実践につなげられるように事前指導では、映像によって幼児の姿を理解する。見学実習においては、実際に幼児と関わり、様々な問題に対処できる視点を具体的に実践的に学習する。事後学修では実践の場での幼児の姿からの考察を行うことで幼児理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 関係法規、教育課程概論等 で学んだ内容を復習すること</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 要領・指針における5領域のねらい及び内容のつながりについて 3. 養護と教育が一体的に展開される保育と遊びを通じた指導のあり方について 4. 保育における記録の方法について 5. 教育・保育における環境を通じた実践及び指導について 6. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて 7. 教育・保育における教育課程・指導計画について 8. 教育・保育における長期指導計画・短期指導計画について 9. 模擬保育を目指した指導計画の作成について 10. 保育観・子ども観の意義と醸成について 11. 支援を必要とする子ども理解とクラス運営について 12. 保護者対応と地域連携について 13. 時代や社会背景に即した保育に関する保育者の専門的職能について | | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育指導法 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 福澤 惇也 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート課題(60%)・授業態度(20%)・提出物(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>[参考書(ISBN)] 新・保育内容総論ー保育って、おもしろいー 著者名:前田和代 出版社:教育情報出版 (978-4-909378-50-7) ノンコンタクトタイムの導入に先駆けて 著者名:福澤惇也 出版社:ななみ書房 (978-4-910973-06-7)</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------------|----------------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育の方法及び技術 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 久米 裕紀子、竹田 和恵 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標] 幼児期にふさわしい教育・保育方法に浮いての知識と理論について理解を深め、実践的な指導技術を身に付ける。さらに、保育現場における情報教育あり方等に関する知識・技術を修得する。</p> <p>[授業概要] 幼児教育・保育における実践的な知識を修得し、活用するための方法を理解するとともに、実践における適切な指導を行うための指導計画について理解を深め、立案から実践に関わる演習過程を通して、必要となる具能を学ぶ。プレゼンテーション、ディスカッション、発表体験等を行いながら、探究する。保育現場における情報通信機器及び教材の活用に関する最新の知識・技術を演習等を通して修得する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 幼稚園教育課程に関する講義、幼児教育指導法の講義等で、学修したことを基本として行う。</p> <p>[授業計画] 1 幼児教育の方法と意義(久米) 2 教師の役割(久米) 3 幼児教育における資質・能力(久米) 4 幼児教育における10の姿(久米) 5 幼児教育の危機管理・演習(久米) 6 幼児教育の危機管理・まとめ(久米) 7 環境の構成の意味(久米) 8 環境の構成・演習(久米) 9 環境の構成・まとめ(久米) 10 幼児教育における情報教育①(竹田) 11 幼児教育における情報教育②(竹田) 12 幼児教育における情報教育③(竹田) 13 幼児教育の方法及び技術・まとめ(久米)</p> | | | | |

| | | | |
|--|--------------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育の方法及び技術 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 久米 裕紀子、竹田 和恵 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業態度 40% 課題提出 30% 試験 30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------------|----------------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育の方法及び技術 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 久米 裕紀子、竹田 和恵 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標] 幼児期にふさわしい教育・保育方法に浮いての知識と理論について理解を深め、実践的な指導技術を身に付ける。さらに、保育現場における情報教育あり方等に関する知識・技術を修得する。</p> <p>[授業概要] 幼児教育・保育における実践的な知識を修得し、活用するための方法を理解するとともに、実践における適切な指導を行うための指導計画について理解を深め、立案から実践に関わる演習過程を通して、必要となる具能を学ぶ。プレゼンテーション、ディスカッション、発表体験等を行いながら、探究する。 保育現場における情報通信機器及び教材の活用に関する最新の知識・技術を演習等を通して修得する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 幼稚園教育課程に関する講義、幼児教育指導法の講義等で、学修したことを基本として行う。</p> <p>[授業計画] 1 幼児教育の方法と意義(久米) 2 教師の役割(久米) 3 幼児教育における資質・能力(久米) 4 幼児教育における10の姿(久米) 5 幼児教育の危機管理・演習(久米) 6 幼児教育の危機管理・まとめ(久米) 7 環境の構成の意味(久米) 8 環境の構成・演習(久米) 9 環境の構成・まとめ(久米) 10 幼児教育における情報教育①(竹田) 11 幼児教育における情報教育②(竹田) 12 幼児教育における情報教育③(竹田) 13 幼児教育の方法及び技術・まとめ(久米)</p> | | | | |

| | | | |
|--|--------------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育の方法及び技術 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 久米 裕紀子、竹田 和恵 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業態度 40% 課題提出 30% 試験 30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> | | | |

| | | | | |
|--|--------------|----------------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育の方法及び技術 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 久米 裕紀子、竹田 和恵 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ | |
| <p>[到達目標] 幼児期にふさわしい教育・保育方法に浮いての知識と理論について理解を深め、実践的な指導技術を身に付ける。さらに、保育現場における情報教育あり方等に関する知識・技術を修得する。</p> <p>[授業概要] 幼児教育・保育における実践的な知識を修得し、活用するための方法を理解するとともに、実践における適切な指導を行うための指導計画について理解を深め、立案から実践に関わる演習過程を通して、必要となる具能を学ぶ。プレゼンテーション、ディスカッション、発表体験等を行いながら、探究する。保育現場における情報通信機器及び教材の活用に関する最新の知識・技術を演習等を通して修得する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 幼稚園教育課程に関する講義、幼児教育指導法の講義等で、学修したことを基本として行う。</p> <p>[授業計画] 1 幼児教育の方法と意義(久米) 2 教師の役割(久米) 3 幼児教育における資質・能力(久米) 4 幼児教育における10の姿(久米) 5 幼児教育の危機管理・演習(久米) 6 幼児教育の危機管理・まとめ(久米) 7 環境の構成の意味(久米) 8 環境の構成・演習(久米) 9 環境の構成・まとめ(久米) 10 幼児教育における情報教育①(竹田) 11 幼児教育における情報教育②(竹田) 12 幼児教育における情報教育③(竹田) 13 幼児教育の方法及び技術・まとめ(久米)</p> | | | | |

| | | | |
|--|--------------|----|------|
| 科目名 | 幼児教育の方法及び技術 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 久米 裕紀子、竹田 和恵 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業態度 40% 課題提出 30% 試験 30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 幼児と環境 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 領域「環境」の指導において必要となる感性を養い、保育内容に関する知識及び技能を習得する。特に、領域「環境」の指導に関連する現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わりの発達等について理論的かつ実践的に学ぶ。</p> <p>[授業概要] 本授業は、領域「環境」の指導の基盤となるものである。まず、幼児を取り巻く環境の諸側面から現代的課題を明らかにし、乳幼児からの発達と環境との相互関係の中で保育において育てる資質・能力を理解する。次に、具体的な関わりとして自然・社会・数量や図形・文字や標識についての内容を扱う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 幼児が育つ環境について、身近な自然環境や社会環境についての関心をもち、自ら体験したりフィールドワークしたりすることにより情報を収集する。また、授業の課題に係る栽培活動や調査活動を自主的に継続しておく。(予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション 第2回 幼児を取り巻く環境の諸側面 第3回 幼児を取り巻く環境と現代的課題 第4回 好奇心・探究心とESD 第5回 幼児の発達と環境との関係 第6回 幼児期において育む資質・能力 第7回 幼児と自然との関わり 第8回 ポスター作りとワークショップ 第9回 幼児と社会(人)との関わり 第10回 幼児と文字や標識との関わり 第11回 幼児と数量や図形との関わり 第12回 知的好奇心を育てる保育実践 第13回 まとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|-------|----|------|
| 科目名 | 幼児と環境 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート及び授業中の課題(40%) 発表(20%) 試験(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題のフィードバックは、授業内で行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>[教科書(ISBN)] 子どもの姿からはじめる領域・環境 シリーズ知のゆりかご 著者名:秋田喜代美・三宅茂夫 出版社:みらい (9784860155155) 幼稚園教育要領解説(平成30年3月) 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (9784577814475)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----------------|------|
| 科目名 | 幼児と環境 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 領域「環境」の指導において必要となる感性を養い、保育内容に関する知識及び技能を習得する。特に、領域「環境」の指導に関連する現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わりの発達等について理論的かつ実践的に学ぶ。</p> <p>[授業概要] 本授業は、領域「環境」の指導の基盤となるものである。まず、幼児を取り巻く環境の諸側面から現代的課題を明らかにし、乳幼児からの発達と環境との相互関係の中で保育において育てる資質・能力を理解する。次に、具体的な関わりとして自然・社会・数量や図形・文字や標識についての内容を扱う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 幼児が育つ環境について、身近な自然環境や社会環境についての関心をもち、自ら体験したりフィールドワークしたりすることにより情報を収集する。また、授業の課題に係る栽培活動や調査活動を自主的に継続しておく。(予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション 第2回 幼児を取り巻く環境の諸側面 第3回 幼児を取り巻く環境と現代的課題 第4回 好奇心・探究心とESD 第5回 幼児の発達と環境との関係 第6回 幼児期において育む資質・能力 第7回 幼児と自然との関わり 第8回 ポスター作りとワークショップ 第9回 幼児と社会(人)との関わり 第10回 幼児と文字や標識との関わり 第11回 幼児と数量や図形との関わり 第12回 知的好奇心を育てる保育実践 第13回 まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 幼児と環境 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 金岩 俊明 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート及び授業中の課題(40%)発表(20%)試験(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題のフィードバックは、授業内で行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験・レポート・発表</p> <p>[教科書(ISBN)] 子どもの姿からはじめる領域・環境 シリーズ知のゆりかご 著者名:秋田喜代美・三宅茂夫 出版社:みらい (9784860155155) 幼稚園教育要領解説(平成30年3月) 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (9784577814475)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 幼児と健康 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 子どもの健康と育ち | 講義 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤的知識・基礎的技能を身に付ける。 (1) 幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基盤をつくる時期と捉えた上で、領域「健康」のねらい・内容等について理解する。 (2) 幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの特徴や意義などの専門的事項について理解する。</p> <p>[授業概要] 領域「健康」の指導に関して、基盤となる知識や考え方を学習する。 まず幼児期の健康課題と取り巻く環境、健康の発達の意味を把握していく。その後、心身の発達と基本的な生活習慣の形成、怪我や病気の予防等の安全管理や安全教育、運動発達の理解について、映像資料や具体的事例などを活用しながら授業を進行していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・幼児期の子どもたちの健康に関するニュースに関心をもち、情報を得ること。 ・毎回、授業で取り上げた内容について、次時まで復習を行うこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画] 第1回: 領域「健康」のねらいと内容 第2回: 乳幼児を取り巻く生活環境と健康課題 第3回: 健康の定義と乳幼児期の健康の意義 第4回: 乳幼児の身体的発達 第5回: 乳幼児の心の発達と健康 第6回: 乳幼児の運動機能の発達(学外講師) 第7回: 乳幼児の遊びの発達と健康 第8回: 乳幼児期の身体活動(運動遊び)の在り方 第9回: 幼児の体格・運動能力に関する測定評価 第10回: 乳幼児の基本的な生活習慣の現状と問題点 第11回: 乳幼児の安全管理と安全教育 第12回: 実際の事故事例と応急処置法 第13回: まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------|----|------|
| 科目名 | 幼児と健康 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 子どもの健康と育ち | 講義 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業態度・発表(30%)、ワークブック(20%)、講義内容に関するテスト(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中やmanabaを通して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説(平成30年3月) 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館(978-4577814475) 幼児が楽しむ運動遊びの作り方 著者名:住本 純 出版社:一藝社(9784863592759)</p> <p>[参考書(ISBN)] 保育所保育指針解説書 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館(978-4577814239) 幼保連携型こども園教育・保育要領 著者名:内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:フレーベル館(978-4577814246)) 幼児期運動指針ガイドブック 著者名:文部科学省 出版社:サンライフ企画(978-4904011478)</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | 幼児と健康 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 子どもの健康と育ち | 講義 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤的知識・基礎的技能を身に付ける。 (1) 幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基盤をつくる時期と捉えた上で、領域「健康」のねらい・内容等について理解する。 (2) 幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの特徴や意義などの専門的事項について理解する。</p> <p>[授業概要] 領域「健康」の指導に関して、基盤となる知識や考え方を学習する。 まず幼児期の健康課題と取り巻く環境、健康の発達の意味を把握していく。その後、心身の発達と基本的な生活習慣の形成、怪我や病気の予防等の安全管理や安全教育、運動発達の理解について、映像資料や具体的事例などを活用しながら授業を進行していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・幼児期の子どもたちの健康に関するニュースに関心を持ち、情報を得ること。 ・毎回、授業で取り上げた内容について、次時まで復習を行うこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画] 第1回: 領域「健康」のねらいと内容 第2回: 乳幼児を取り巻く生活環境と健康課題 第3回: 健康の定義と乳幼児期の健康の意義 第4回: 乳幼児の身体的発達 第5回: 乳幼児の心の発達と健康 第6回: 乳幼児の運動機能の発達 第7回: 乳幼児の遊びの発達と健康 第8回: 乳幼児期の身体活動(運動遊び)の在り方 第9回: 幼児の体格・運動能力に関する測定評価 第10回: 乳幼児の基本的な生活習慣の現状と問題点 第11回: 乳幼児の安全管理と安全教育 第12回: 実際の事故事例と応急処置法 第13回: まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------|----|------|
| 科目名 | 幼児と健康 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 子どもの健康と育ち | 講義 | |
| 担当者 | 住本 純 | | |
| <p>[成績評価方法] 授業態度・発表(30%)、ワークブック(20%)、講義内容に関するテスト(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中やmanabaを通して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 幼稚園教育要領解説(平成30年3月) 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館(978-4577814475) 幼児が楽しむ運動遊びの作り方 著者名:住本 純 出版社:一藝社(9784863592759)</p> <p>[参考書(ISBN)] 保育所保育指針解説書 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館(978-4577814239) 幼保連携型こども園教育・保育要領 著者名:内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:フレーベル館(978-4577814246)) 幼児期運動指針ガイドブック 著者名:文部科学省 出版社:サンライフ企画(978-4904011478)</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 幼児と言葉 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 豊かなコミュニケーションを基に育む言葉と思考 | 講義 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>① 言葉の特性や働きについて理解する ② 言葉の獲得・発達過程を理解する ③ ①②を踏まえ、豊かな言葉をはぐくむ保育者の在り方を実践的に理解する</p> <p>[授業概要]</p> <p>人は、「ひと」「もの」「こと(状況)」とのかかわりの中で言葉を獲得し、言葉を用いたコミュニケーションが可能となる。乳幼児期は言葉を獲得し、話し言葉の基盤が整い、思考が芽生える時期で会うことから、この時期を共に過ごす保育者の果たす役割は大きい。そこで、本講義では、出生以降、コミュニケーションとしての言葉を獲得し、発達していく過程を平易に解説する。その上で乳幼児の言葉の発達を保証する保育者の関わり方や情報機器及び教材活用を学ぶ</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習し理解しておくこと。各回予習/ 復習合わせて4時間程度を要する。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.コミュニケーションと言葉 2.保育内容「言葉」で何を学ぶかー領域「言葉」のねらいと内容 3.乳児期のコミュニケーションと保育者の援助1 前言語期の特徴 4.乳児期のコミュニケーションと保育者の援助2 ことばの芽生え 5.幼児期のコミュニケーションと保育者の援助1 幼児期の言葉の特徴 6.幼児期のコミュニケーションと保育者の援助2 言葉の発達と心身の自立・自律 7.幼児期のコミュニケーションと保育者の援助3 言葉の発達と遊び・仲間関係の広がり 8.幼児期のコミュニケーションと保育者の援助4 外国にルーツのある子どもと母語 9.就学に向けて一話し言葉から読み・書き言葉への興味関心の広がり保育者の援助 10.言葉を育む文化的環境ー 保育の情報機器および教材の活用 ー 11.グループ発表1 幼児期のコミュニケーションを育む保育教材 12.グループ発表2 幼児期のコミュニケーションを育む保育教材 13.まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------------|----|------|
| 科目名 | 幼児と言葉 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 豊かなコミュニケーションを基に育む言葉と思考 | 講義 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート試験、レポート課題、グループ発表を総合的に評価する(試験70% レポート課題20% グループ課題10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは授業中に口頭で行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 保育内容 指導法「言葉」乳幼児と育む豊かな言葉の世界 著者名:大橋喜美子 川北典子 編著 出版社:建帛社(9784770000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育容量 原本 著者名:内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:チャイルド社 (ISBN13:978-4805402580)</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 幼児と言葉 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 豊かなコミュニケーションを基に育む言葉と思考 | 講義 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標]</p> <p>① 言葉の特性や働きについて理解する ② 言葉の獲得・発達過程を理解する ③ ①②を踏まえ、豊かな言葉をはぐくむ保育者の在り方を実践的に理解する</p> <p>[授業概要]</p> <p>人は、「ひと」「もの」「こと(状況)」とのかかわりの中で言葉を獲得し、言葉を用いたコミュニケーションが可能となる。乳幼児期は言葉を獲得し、話し言葉の基盤が整い、思考が芽生える時期で会うことから、この時期を共に過ごす保育者の果たす役割は大きい。そこで、本講義では、出生以降、コミュニケーションとしての言葉を獲得し、発達していく過程を平易に解説する。その上で乳幼児の言葉の発達を保証する保育者の関わり方や情報機器及び教材活用を学ぶ</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習し理解しておくこと。各回予習/ 復習合わせて4時間程度を要する。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.コミュニケーションと言葉 2.保育内容「言葉」で何を学ぶかー領域「言葉」のねらいと内容 3.乳児期のコミュニケーションと保育者の援助1 前言語期の特徴 4.乳児期のコミュニケーションと保育者の援助2 ことばの芽生え 5.幼児期のコミュニケーションと保育者の援助1 幼児期の言葉の特徴 6.幼児期のコミュニケーションと保育者の援助2 言葉の発達と心身の自立・自律 7.幼児期のコミュニケーションと保育者の援助3 言葉の発達と遊び・仲間関係の広がり 8.幼児期のコミュニケーションと保育者の援助4 外国にルーツのある子どもと母語 9.就学に向けて一話し言葉から読み・書き言葉への興味関心の広がり保育者の援助 10.言葉を育む文化的環境ー 保育の情報機器および教材の活用 ー 11.グループ発表1 幼児期のコミュニケーションを育む保育教材 12.グループ発表2 幼児期のコミュニケーションを育む保育教材 13.まとめ</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------------|----|------|
| 科目名 | 幼児と言葉 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 豊かなコミュニケーションを基に育む言葉と思考 | 講義 | |
| 担当者 | 隠岐 厚美 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート試験、レポート課題、グループ発表を総合的に評価する(試験70% レポート課題20% グループ課題10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは授業中に口頭で行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 保育内容 指導法「言葉」乳幼児と育む豊かな言葉の世界 著者名:大橋喜美子 川北典子 編著 出版社:建帛社(9784770000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育容量 原本 著者名:内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:チャイルド社 (ISBN13:978-4805402580)</p> | | | |

| | | | |
|--|---------|----------------|------|
| 科目名 | 幼児と人間関係 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>1.領域「人間関係」の内容を知る 2.幼児の人間関係の発達に関する基礎理論が説明できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>幼児教育における領域「人間関係」に関する基礎理論について学ぶ。映像資料や事例を通して理論を具体的にイメージしながら学ぶ。特に生活や遊びを通して人間関係を広げ、深めるための保育者の援助の在り方について考え、学生生活を通して自身にどのような経験や力が必要かを考える。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>公共の場、ボランティア先等で子どもやその周囲の人との関わりに関心を向けること 新聞に目を通し、社会問題にも関心を向けること 予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.現代の社会的状況と幼児をとりまく人間関係 関係発達論的視点とは 2.乳幼児期の愛着 基本的信頼感 3.3歳未満児の遊びや生活の中で見られる人間関係 4.自己主張と自己抑制の発達 5.人間関係における葛藤 6.共感性、向社会的行動の発達 7.子どもの遊びをどのように捉えるか 8.個と集団との関係 9.幼児期の道徳性、規範意識の芽生えと育ち 10.幼児期の協同性を育むためには 11.困っている子どもを支援する 12.社会生活との関わりを通して育む人間関係 13.保護者とのコミュニケーション 及びまとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 幼児と人間関係 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験(小テスト含む)50% 提出物25% 授業への積極的態度(授業内のrespon等で評価)25% 提出物は形式、締め切りも含め評価する</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 翌週返却及びマナバのコメント</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験 提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験 提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:試験 提出物 授業への積極的態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:提出物 授業への積極的態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験 提出物 授業への積極的態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験 提出物</p> <p>[教科書(ISBN)] 保育実践を学ぶ 保育内容「人間関係」 著者名:咲間まり子編 出版社:みらい (978-4-86015-437-0) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 著者名:文部科学省 厚生労働省 内閣府 出版社:フレーベル館 (978-4-8054-0258-0)</p> <p>[参考書(ISBN)] 特になし</p> | | | |

| | | | |
|---|---------|----------------|------|
| 科目名 | 幼児と人間関係 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>1.領域「人間関係」の内容を知る 2.幼児の人間関係の発達に関する基礎理論が説明できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>幼児教育における領域「人間関係」に関する基礎理論について学ぶ。映像資料や事例を通して理論を具体的にイメージしながら学ぶ。特に生活や遊びを通して人間関係を広げ、深めるための保育者の援助の在り方について考え、学生生活を通して自身にどのような経験や力が必要かを学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>公共の場、ボランティア先等で子どもやその周囲の人との関わりに関心を向けること 新聞に目を通し、社会問題にも関心を向けること 予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.現代の社会的状況と幼児をとりまく人間関係 関係発達論的視点とは 2.乳幼児期の愛着 基本的信頼感 3.3歳未満児の遊びや生活の中で見られる人間関係 4.自己主張と自己抑制の発達 5.人間関係における葛藤 6.共感性、向社会的行動の発達 7.子どもの遊びをどのように捉えるか 8.個と集団との関係 9.幼児期の道徳性、規範意識の芽生えと育ち 10.幼児期の協同性を育むためには 11.困っている子どもを支援する 12.社会生活との関わりを通して育む人間関係 13.保護者とのコミュニケーション 及びまとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|---------|----|------|
| 科目名 | 幼児と人間関係 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 石田 裕子 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験(小テスト含む)50% 提出物25% 授業への積極的態度(授業内のrespon等で評価)25% 提出物は形式、締め切りも含め評価する</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 翌週返却及びマナバのコメント</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験 提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:試験 提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:試験 提出物 授業への積極的態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:提出物 授業への積極的態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験 提出物 授業への積極的態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験 提出物</p> <p>[教科書(ISBN)] 保育実践を学ぶ 保育内容「人間関係」 著者名:咲間まり子編 出版社:みらい (978-4-86015-437-0) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 著者名:文部科学省 厚生労働省 内閣府 出版社:フレーベル館 (978-4-8054-0258-0)</p> <p>[参考書(ISBN)] 特になし</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 幼児と表現 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の音楽的表現の理解と、感性・創造性の育成 | 講義 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 領域「表現」における、音楽表現の指導を取り上げ、「気づきを大切に、学びにつながる音楽表現活動」をテーマに、幼児の感性を豊かにしつつ、表現遊びから学びにつながるための活動を支援するための知識、技能、表現力を身につける。</p> <p>[授業概要] 音を出す様々な素材(声、身体、楽器等含む)を媒体とした、幼児が「聴く、感じる、楽しむ」ことを大切に活動方法について海外の様々な音楽教育方法をヒントにして学ぶ。これまでの「音楽」という概念にとらわれず、幼児の表現について柔軟な視点を持って、幼児の表現行動を理解する。 また、幼児の音楽表現を支えるための条件、環境について体験するとともに、グループ学習で、幼児が協同して表現するための方法、表現活動の展開等について学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業でやった内容を実際に自分で試してみる等の復習も必要。グループ活動では時間を作って協力して取り組むこと。 ※全員、みんなの前で弾き歌いを行うので、その時は練習しておくこと。</p> <p>[授業計画] 第1回: 領域「表現」のねらいと音楽表現について 第2回: 乳幼児の音楽的発達 第3回: 音遊びから音楽表現活動へー音を感じる・音で遊ぶ(サウンド・エデュケーション)ー 第4回: 様々な表現活動1ーレグジョ・エミリア、オルフ、コダーイ、創造的音楽づくりー 第5回: 様々な表現活動2ーリトミックと身体表現ー 第6回: 音楽表現1ー音楽表現の基本(総合的な活動を含めて)ー(外部講師招聘予定) 第7回: 音楽表現2ー声・わらべうた・日本の伝統音楽を用いた活動ー 第8回: 音楽表現3ー身の回りの物(音具)を使用した活動ー 第9回: 音楽表現4ー奏でる活動の実践(楽器等使って)ー 第10回: 音楽表現とICTの活用 第11回: 豊かな音楽表現を支えるための支援(外部講師招聘予定) 第12回: 音楽表現についてのグループ活動 第13回: 音楽表現についてのグループ発表と授業内まとめテスト</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------------|----|------|
| 科目名 | 幼児と表現 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の音楽的表現の理解と、感性・創造性の育成 | 講義 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| <p>[成績評価方法] グループ発表40% 筆記試験40% 授業への取り組み20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] グループ発表後、講評を言って、今後の課題を示す。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:筆記試験・授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:グループ発表・授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:筆記試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み・グループ発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業への取り組み・筆記試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 表現者を育てるための保育内容「音楽表現」ー音遊びから音楽表現へー 著者名:石井玲子 他 出版社:教育情報出版社 (978-4-909378-16-3)</p> <p>[参考書(ISBN)] 実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現 著者名:石井玲子 他 出版社:教育情報出版社 (978-4-938795-78-8) 幼稚園教育要領解説(平成30年3月) 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------------|----------------|------|
| 科目名 | 幼児と表現 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の音楽的表現の理解と、感性・創造性の育成 | 講義 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>領域「表現」における、音楽表現の指導を取り上げ、「気づきを大切に、学びにつながる音楽表現活動」をテーマに、幼児の感性を豊かにしつつ、表現遊びから学びにつながるための活動を支援するための知識、技能、表現力を身につける。</p> <p>[授業概要]</p> <p>音を出す様々な素材(声、身体、楽器等含む)を媒体とした、幼児が「聴く、感じる、楽しむ」ことを大切に活動方法について海外の様々な音楽教育方法をヒントにして学ぶ。これまでの「音楽」という概念にとらわれず、幼児の表現について柔軟な視点を持って、幼児の表現行動を理解する。</p> <p>また、幼児の音楽表現を支えるための条件、環境について体験するとともに、グループ学習で、幼児が協同して表現するための方法、表現活動の展開等について学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業でやった内容を実際に自分で試してみる等の復習も必要。グループ活動では時間を作って協力して取り組むこと。</p> <p>※全員、みんなの前で弾き歌いを行うので、その時は練習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回: 領域「表現」のねらいと音楽表現について</p> <p>第2回: 乳幼児の音楽的発達</p> <p>第3回: 音遊びから音楽表現活動へー音を感じる・音で遊ぶ(サウンド・エデュケーション)ー</p> <p>第4回: 様々な表現活動1ーレグジョ・エミリア、オルフ、コダーイ、創造的音楽づくりー</p> <p>第5回: 様々な表現活動2ーリトミックと身体表現ー</p> <p>第6回: 音楽表現1ー音楽表現の基本(総合的な活動を含めて)ー(外部講師招聘予定)</p> <p>第7回: 音楽表現2ー声・わらべうた・日本の伝統音楽を用いた活動ー</p> <p>第8回: 音楽表現3ー身の回りの物(音具)を使用した活動ー</p> <p>第9回: 音楽表現4ー奏でる活動の実践(楽器等使って)ー</p> <p>第10回: 音楽表現とICTの活用</p> <p>第11回: 豊かな音楽表現を支えるための支援(外部講師招聘予定)</p> <p>第12回: 音楽表現についてのグループ活動</p> <p>第13回: 音楽表現についてのグループ発表と授業内まとめテスト</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------------|----|------|
| 科目名 | 幼児と表現 I | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の音楽的表現の理解と、感性・創造性の育成 | 講義 | |
| 担当者 | 小林 田鶴子 | | |
| <p>[成績評価方法] グループ発表40% 筆記試験40% 授業への取り組み20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] グループ発表後、講評を言って、今後の課題を示す。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:筆記試験・授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:グループ発表・授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:筆記試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み・グループ発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業への取り組み・筆記試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 表現者を育てるための保育内容「音楽表現」ー音遊びから音楽表現へー 著者名:石井玲子 他 出版社:教育情報出版社 (978-4-909378-16-3)</p> <p>[参考書(ISBN)] 実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現 著者名:石井玲子 他 出版社:教育情報出版社 (978-4-938795-78-8) 幼稚園教育要領解説(平成30年3月) 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------|----------------|-----|
| 科目名 | 幼児と表現Ⅱ | 後期 | 2単位 |
| サブタイトル | 幼児の造形表現の理解と表現技法、感性の育成 | 講義 | |
| 担当者 | 守本 智美、山成 昭世 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>幼児の造形表現の活動において、感性、創造性を豊かにする適切な支援が出来るようになることを目標とする。幼児の造形表現の姿やその生成過程、多様な素材や技法などに関する基礎的な知識や技能、表現手法について学ぶ。</p> <p>(1) 幼児の造形表現の姿やその発達を理解する。 (2) 幼児の造形表現の基礎的な知識・技能を学び、幼児の表現を支える感性を豊かにする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>平成30年度実施幼稚園教育要領の領域「表現」の内容の取扱いにもある通り、「豊かな感性」を重視し、授業では幼児の造形表現とその発達について理解する。幼児の感性や創造性を豊かにする造形表現の基礎的な知識・技能・表現力等を身につける。</p> <p>授業では実際に造形素材、表現技法を学び指導の実践に役立てられるようにする。また、自作品や他者の作品、造形作品の画像、映像等で鑑賞し学生が「表現とは何か」という根源的な問いに向き合い美に対する感性を高め、創造性を養えるようにする。</p> <p>学生自身がパソコンやカメラ等のICT機器を活用しポートフォリオ作成やプレゼンテーション等を行い、ICT機器の操作にも慣れるようにする。</p> <p>「manaba(マナバ)」にて授業に必要な情報を指示するので、各自manabaに登録して注意しておくこと。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習あわせて4時間程度。各自、造形表現に関する参考書籍を読み、様々な知識を身に付け、技法を習得するとともに、造形作品の鑑賞をし感性を高められるようにすること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> はじめに(マナバ上にて指示します) 授業の進め方、心構え、準備物(守本・山成) 表現技法① 絵具やパスを使って(山成) 表現技法② 絵具やパスを使って(山成) 感性、素材、造形表現について(守本) イメージの表現について 作品制作(守本) 表現技法のまとめ ポートフォリオをまとめる(山成) 作って遊ぼう(山成) 新聞紙を使った造形遊び 楽しいプレゼンテーション(鑑賞) ICT機器を使い造形活動を可視化してプロセスを記録する(山成) 植物の表現について 作品制作(守本) 動物の表現について 作品制作(守本) 表現方法のバリエーションと鑑賞(守本) ポートフォリオを活用した授業の振り返りとまとめ(山成) 授業の感想とまとめ(守本) | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|----|------|
| 科目名 | 幼児と表現Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の造形表現の理解と表現技法、感性の育成 | 講義 | |
| 担当者 | 守本 智美、山成 昭世 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題作品(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題作品等へはコメントをします。 manaba等にて質問、課題作品等に対するアドバイス、コメント要望を受け付けます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:課題作品(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:課題作品(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:課題作品(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題作品(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題作品(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題作品(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。授業中に指示する。</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------|----------------|-----|
| 科目名 | 幼児と表現Ⅱ | 後期 | 2単位 |
| サブタイトル | 幼児の造形表現の理解と表現技法、感性の育成 | 講義 | |
| 担当者 | 守本 智美、山成 昭世 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <p>幼児の造形表現の活動において、感性、創造性を豊かにする適切な支援が出来るようになることを目標とする。幼児の造形表現の姿やその生成過程、多様な素材や技法などに関する基礎的な知識や技能、表現手法について学ぶ。</p> <p>(1) 幼児の造形表現の姿やその発達を理解する。 (2) 幼児の造形表現の基礎的な知識・技能を学び、幼児の表現を支える感性を豊かにする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>平成30年度実施幼稚園教育要領の領域「表現」の内容の取扱いにもある通り、「豊かな感性」を重視し、授業では幼児の造形表現とその発達について理解する。幼児の感性や創造性を豊かにする造形表現の基礎的な知識・技能・表現力等を身につける。</p> <p>授業では実際に造形素材、表現技法を学び指導の実践に役立てられるようにする。また、自作品や他者の作品、造形作品の画像、映像等で鑑賞し学生が「表現とは何か」という根源的な問いに向き合い美に対する感性を高め、創造性を養えるようにする。</p> <p>学生自身がパソコンやカメラ等のICT機器を活用しポートフォリオ作成やプレゼンテーション等を行い、ICT機器の操作にも慣れるようにする。</p> <p>「manaba(マナバ)」にて授業に必要な情報を指示するので、各自manabaに登録して注意しておくこと。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習あわせて4時間程度。各自、造形表現に関する参考書籍を読み、様々な知識を身に付け、技法を習得するとともに、造形作品の鑑賞をし感性を高められるようにすること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> はじめに(マナバ上にて指示します) 授業の進め方、心構え、準備物(守本・山成) 表現技法① 絵具やパスを使って(山成) 表現技法② 絵具やパスを使って(山成) 感性、素材、造形表現について(守本) イメージの表現について 作品制作(守本) 表現技法のまとめ ポートフォリオをまとめる(山成) 作って遊ぼう(山成) 新聞紙を使った造形遊び 楽しいプレゼンテーション(鑑賞) ICT機器を使い造形活動を可視化してプロセスを記録する(山成) 植物の表現について 作品制作(守本) 動物の表現について 作品制作(守本) 表現方法のバリエーションと鑑賞(守本) ポートフォリオを活用した授業の振り返りとまとめ(山成) 授業の感想とまとめ(守本) | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|----|------|
| 科目名 | 幼児と表現Ⅱ | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | 幼児の造形表現の理解と表現技法、感性の育成 | 講義 | |
| 担当者 | 守本 智美、山成 昭世 | | |
| <p>[成績評価方法] 課題作品(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題作品等へはコメントをします。 manaba等にて質問、課題作品等に対するアドバイス、コメント要望を受け付けます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:課題作品(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:課題作品(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:課題作品(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題作品(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題作品(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題作品(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)</p> <p>[教科書(ISBN)] なし。授業中に指示する。</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|--|-------|--|----------------|------|
| 科目名 | 幼児理解論 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 乳幼児期の子どもの内面等の発達について理解し、幼児理解の基本的な考え方や方法、それらを保育に活かす方法などの修得を目指す。</p> <p>[授業概要] 保育者が子どもの発達を促すためには、乳幼児期の発達の特性や園生活の全体を見通して彼らの成長の実情を把握し、そのうえで子ども一人ひとりの発達の実態と課題を明らかにする必要がある。そうすることで、保育者は個々の子どもの発達の課題にとって有意義な活動や環境、さらには指導・援助を導き出すことができる。その基盤となるのが「子ども理解」である。子どもは保護者や保育者の前で、個や集団の中で、様々な生活場面で、多様な姿をみせることから、保育者は子どもの行動などから多面的な理解を深めていく必要がある。また、保育者は子どもを常に成長・発達する存在ととらえ、日々の園生活の中で子どもの観察を随時行い、子どもへの認識を繰り返し修正することが重要となる。 本授業では、乳幼児期の内面等の発達について理解を深めながら、子どもの生活する姿などから理解するための基本的な考え方や方法、それを保育に位置づけていくことなどについて学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、乳幼児理解の基本的な考え方 2. 乳幼児期の発達理解(発達の意味) 3. 幼稚園教育・保育の充実のための基本的な視点 4. 発達や学びの連続性を確保するための視点 5. 幼稚園教育・保育におけるを評価と小学校の評価の考え方 6. よりよい保育を構築するために1(幼児を肯定的に捉える、活動の意味を理解する) 7. よりよい保育を構築するために2(発達する姿を捉える、集団と個の関係を捉える) 8. よりよい保育を構築するために3(保育を振り返り見直す) 9. 幼児理解と評価の基本的な考え方 10. 行動からの理解1(保育につながる記録、観察演習にむけて) 11. 行動からの理解2(行動観察の実際【観察演習】) 12. 行動からの理解3(演習の成果発表) 13. まとめ | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 幼児理解論 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] まとめ(70%) 課題レポート(10%) 演習課題(10%) 発表(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] まとめ後、解答の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:まとめ(70%) 課題レポート(10%) 演習課題(10%) 発表(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:まとめ(70%) 課題レポート(10%) 演習課題(10%) 発表(10%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(70%) 課題レポート(10%) 演習課題(10%) 発表(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(70%) 課題レポート(10%) 演習課題(10%) 発表(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(70%) 課題レポート(10%) 演習課題(10%) 発表(10%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 「幼児理解に基づいた評価(平成31年3月)」2019 著者名:文部科学省著 出版社:チャイルド本社 (9784810000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|--|-------|--|----------------|------|
| 科目名 | 幼児理解論 | | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 乳幼児期の子どもの内面等の発達について理解し、幼児理解の基本的な考え方や方法、それらを保育に活かす方法などの修得を目指す。</p> <p>[授業概要] 保育者が子どもの発達を促すためには、乳幼児期の発達の特性や園生活の全体を見通して彼らの成長の実情を把握し、そのうえで子ども一人ひとりの発達の実態と課題を明らかにする必要がある。そうすることで、保育者は個々の子どもの発達の課題にとって有意義な活動や環境、さらには指導・援助を導き出すことができる。その基盤となるのが「子ども理解」である。子どもは保護者や保育者の前で、個や集団の中で、様々な生活場面で、多様な姿をみせることから、保育者は子どもの行動などから多面的な理解を深めていく必要がある。また、保育者は子どもを常に成長・発達する存在ととらえ、日々の園生活の中で子どもの観察を随時行い、子どもへの認識を繰り返し修正することが重要となる。 本授業では、乳幼児期の内面等の発達について理解を深めながら、子どもの生活する姿などから理解するための基本的な考え方や方法、それを保育に位置づけていくことなどについて学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、乳幼児理解の基本的な考え方 2. 乳幼児期の発達理解(発達の意味) 3. 幼稚園教育・保育の充実のための基本的な視点 4. 発達や学びの連続性を確保するための視点 5. 幼稚園教育・保育におけるを評価と小学校の評価の考え方 6. よりよい保育を構築するために1(幼児を肯定的に捉える、活動の意味を理解する) 7. よりよい保育を構築するために2(発達する姿を捉える、集団と個の関係を捉える) 8. よりよい保育を構築するために3(保育を振り返り見直す) 9. 幼児理解と評価の基本的な考え方 10. 行動からの理解1(保育につながる記録、観察演習にむけて) 11. 行動からの理解2(行動観察の実際【観察演習】) 12. 行動からの理解3(演習の成果発表) 13. まとめ | | | | |

| | | | |
|--|-------|----|------|
| 科目名 | 幼児理解論 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] まとめ(70%) 課題レポート(10%) 演習課題(10%) 発表(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] まとめ後、解答の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:まとめ(70%) 課題レポート(10%) 演習課題(10%) 発表(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:まとめ(70%) 課題レポート(10%) 演習課題(10%) 発表(10%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(70%) 課題レポート(10%) 演習課題(10%) 発表(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(70%) 課題レポート(10%) 演習課題(10%) 発表(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(70%) 課題レポート(10%) 演習課題(10%) 発表(10%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 「幼児理解に基づいた評価(平成31年3月)」2019 著者名:文部科学省著 出版社:チャイルド本社 (9784810000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | | |
|---|----------|--|----------------|------|
| 科目名 | 幼稚園教育課程論 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育課程の意味や構造を理解し、その基盤となる「幼稚園教育要領」等から教育課程の編成に関する基礎的事項について理解し、指導計画作成において必要となる知識や技能の修得を目指す。</p> <p>[授業概要] 幼稚園とは、学校教育法に示されるように「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長すること」を目的とした、法が定めるところの教育機関(学校)である。したがって、幼稚園では、目的に沿った教育が計画的に実施されなければならない。このような教育が展開される際に、柱となるのが教育課程である。教育課程の編成は、学校教育法施行規則に定められているように、「幼稚園教育要領」に準拠しなければならない。 本授業では、学校教育における幼稚園教育の文脈を明確にしなが、ら、「幼稚園教育要領」を丁寧に読み解き、教育課程に関する基礎的事項や、教育課程を基盤とした指導計画作成において必要となる知識や技能について学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション、教育や保育の意味 2. 学校教育のパラダイム変革 3. 「資質・能力」の育成と幼稚園教育 4. 幼稚園教育の意義と目的、目標 5. 幼児教育の基本について1(環境を通して行う教育、幼児期にふさわしい生活の展開) 6. 幼児教育の基本について3(遊びを通しての総合的な指導、一人ひとりの発達の特性に応じた指導) 7. 幼児教育における領域概念1 8. 幼児教育における領域概念2 9. 教育課程の意味と構造、編成と指導計画 10. カリキュラム・マネジメントと保育評価 11. 「資質・能力」を育む教育課程と教育実践 12. 幼・保・小・地域連携をめざした教育課程と実践 13. まとめ</p> | | | | |

| | | | |
|--|----------|----|------|
| 科目名 | 幼稚園教育課程論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] まとめ(60%) レポート課題(20%) 演習課題(10%) 発表(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] まとめ後、解答の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:まとめ(60%),レポート課題(20%), 演習課題(10%),発表(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:まとめ(60%),レポート課題(20%), 演習課題(10%),発表(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:まとめ(60%),レポート課題(20%), 演習課題(10%),発表(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:まとめ(60%),レポート課題(20%), 演習課題(10%),発表(10%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(60%),レポート課題(20%), 演習課題(10%),発表(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(60%),レポート課題(20%), 演習課題(10%),発表(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:まとめ(60%),レポート課題(20%), 演習課題(10%),発表(10%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 「知のゆりかご 教育・保育カリキュラム論」2019 著者名:田中亨胤・三宅茂夫編 出版社:(株)みらい (9784860000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 「幼稚園教育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:文部科学省著 出版社:フレーベル館 (9784580000000) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 著 出版社:フレーベル館 (9784580000000)</p> | | | |

| | | | | |
|--|----------|--|----------------|------|
| 科目名 | 幼稚園教育課程論 | | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | | 講義 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | | |
| PBL(課題解決型) | | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |
| <p>[到達目標] 教育課程の意味や構造を理解し、その基盤となる「幼稚園教育要領」等から教育課程の編成に関する基礎的事項について理解し、指導計画作成において必要となる知識や技能の修得を目指す。</p> <p>[授業概要] 幼稚園とは、学校教育法に示されるように「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長すること」を目的とした、法が定めるところの教育機関(学校)である。したがって、幼稚園では、目的に沿った教育が計画的に実施されなければならない。このような教育が展開される際に、柱となるのが教育課程である。教育課程の編成は、学校教育法施行規則に定められているように、「幼稚園教育要領」に準拠しなければならない。 本授業では、学校教育における幼稚園教育の文脈を明確にしなが、「幼稚園教育要領」を丁寧に読み解き、教育課程に関する基礎的事項や、教育課程を基盤とした指導計画作成において必要となる知識や技能について学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、教育や保育の意味 2. 学校教育のパラダイム変革 3. 「資質・能力」の育成と幼稚園教育 4. 幼稚園教育の意義と目的、目標 5. 幼児教育の基本について1(環境を通して行う教育、幼児期にふさわしい生活の展開) 6. 幼児教育の基本について3(遊びを通しての総合的な指導、一人ひとりの発達の特性に応じた指導) 7. 幼児教育における領域概念1 8. 幼児教育における領域概念2 9. 教育課程の意味と構造、編成と指導計画 10. カリキュラム・マネジメントと保育評価 11. 「資質・能力」を育む教育課程と教育実践 12. 幼・保・小・地域連携をめざした教育課程と実践 13. まとめ | | | | |

| | | | |
|---|----------|----|------|
| 科目名 | 幼稚園教育課程論 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 三宅 茂夫 | | |
| <p>[成績評価方法] まとめ(60%) レポート課題(20%) 演習課題(10%) 発表(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] まとめ後、解答の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:まとめ(60%),レポート課題(20%), 演習課題(10%),発表(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:まとめ(60%),レポート課題(20%), 演習課題(10%),発表(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:まとめ(60%),レポート課題(20%), 演習課題(10%),発表(10%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:まとめ(60%),レポート課題(20%), 演習課題(10%),発表(10%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(60%),レポート課題(20%), 演習課題(10%),発表(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:まとめ(60%),レポート課題(20%), 演習課題(10%),発表(10%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:まとめ(60%),レポート課題(20%), 演習課題(10%),発表(10%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 「知のゆりかご 教育・保育カリキュラム論」2019 著者名:田中亨胤・三宅茂夫編 出版社:(株)みらい (9784860000000)</p> <p>[参考書(ISBN)] 「幼稚園教育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:文部科学省著 出版社:フレーベル館 (9784580000000) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)」2018 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省著 出版社:フレーベル館 (9784580000000)</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------|----------------|------|
| 科目名 | Reading I | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 家入 聖子 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 中学校の英語教員に求められる基礎的な英語読解能力を習得する</p> <p>[授業概要] ・Sense Group Reading / Shadowing / Scanning 等、英語読解のための効果的な手法を用いて内容を把握する ・現行の中学校教科書に掲載されている多様なトピックや種々のタスクに準じた教材を通じて実践力を身につける</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション / Unit1 Peace, Education & Hope: Malala 2. Unit2 Food Savings: OzHarvest Market 3. Unit3 Safety: An Eye on Crime 4. Unit4 Work: Work Balance 5. Unit5 Exercise: Sport BMX and Urban Fun? 6. Unit6 Happiness: Happiness 7. Unit7 Entertainment: Sports and Games 8. Unit8 Medical Science Health: Medical Science 9. Unit9 Psychology: Resilience 10. Unit10 Facts: Efforts to Flag Fake-news 11. Unit11 Intelligence: Brain Development 12. Unit12 Friendship: Yosegaki Hinomaru 13. Unit13 Humanity: A Hero / 最終レポート</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------|----|------|
| 科目名 | Reading I | 後期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 家入 聖子 | | |
| <p>[成績評価方法] 筆記テスト2回(60%)、授業中の課題(20%)、最終レポート(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 筆記テスト及び授業中の課題解答と正答例は授業時に紹介解説し、その内容を全員で共有する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] Dear Learners -Drop Everything and Read- 著者名:町田純子 他 出版社:南雲堂 (978-4-523-17900-9 C0082)</p> <p>[参考書(ISBN)] 教科用図書中学校英語 出版社:三省堂他全6社</p> | | | |

| | | | |
|--|------------|----------------|------|
| 科目名 | Reading II | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一人ひとりが自分の希望やニーズに役立つよい本の選択ができ、好きな時に好きな場所で自分のペースで洋書の読書をすすめていけるようになる。 2. 簡単にやさしい英語をたくさん読んで、Reading for Pleasure を経験する。 3. 読んだ本の「感想」を、3分で教室の仲間に伝えられる(使用言語は、英語と日本語) 4. 自分の読みを多くの仲間との相互作用のなかで深化させながら解釈力を高める。 <p>[授業概要]</p> <p>オンライン・ライブラリーから読みたい洋書を選び、授業の時間外に読む。「1冊以上(5000語以上)/週」のペースで読む。本のジャンルは以下から好きに選べる: 絵本、児童文学、日本文学、自伝・伝記、動物、スポーツ、音楽、食・健康・精神・身体、教育・子育て、自然・環境問題、映画、科学・社会・政治、外国事情。</p> <p>毎週、読了後、自分のお気に入りの本について魅力を語ったReaction Report (RR) を書く(使用言語は主に日本語)。RRは、ブックログ(https://booklog.jp/)に投稿する。</p> <p>教室では4人グループやペアを組み、今週読んできた本を、英語や日本語で紹介し語り合う。教室で一人ひとりが自分の読書体験を表現し仲間と共有することを通して「仲間と読み合う」面白さを経験していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>毎週、予習復習合わせて4時間程度。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外に「1冊以上(5000語以上)/週」のペースで洋書を読む。 ・読了後、自分のお気に入りの本について魅力を語ったReaction Report (RR) を書く(使用言語は主に日本語)。RRは「ブックログ(https://booklog.jp/)」に投稿する。 <p>[授業計画]</p> <p>第1回目のオリエンテーションで、オンライン・ライブラリーの使い方について説明する。 第2回～第13回は、毎回、105分の構成は、次の①～③の3部構成からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①速読(30分) ②4人グループやペアをつくり、今週、各自が読んできた本を、日本語や英語で紹介し語り合う(45分)。 ③洋書の読み方や速読の方法をプリントを通じて学ぶ(30分)。 <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 速読①、本の紹介①、洋書の読み方① 3. 速読②、本の紹介②、洋書の読み方② 4. 速読③、本の紹介③、洋書の読み方③ 5. 速読④、本の紹介④、洋書の読み方④ 6. 速読⑤、本の紹介⑤、洋書の読み方⑤ 7. 速読⑥、本の紹介⑥、洋書の読み方⑥ 8. 速読⑦、本の紹介⑦、洋書の読み方⑦ 9. 速読⑧、本の紹介⑧、洋書の読み方⑧ 10. 速読⑨、本の紹介⑨、洋書の読み方⑨ 11. 速読⑩、本の紹介⑩、洋書の読み方⑩ 12. 速読⑪、本の紹介⑪、洋書の読み方⑪ 13. まとめと振り返り | | | |

| | | | |
|---|------------|----|------|
| 科目名 | Reading II | 前期 | 1 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 水野 邦太郎 | | |
| <p>[成績評価方法]</p> <p>① 速読の本を読んだ後のクイズの総正解数 50%</p> <p>② 毎週提出する読んだ本のリアクション・レポート 50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>オンライン・ライブラリーを利用するための利用料金(1500円前後)を支払う。正確な料金と支払い方法については、第1回の授業で説明する。</p> <p>[参考書(ISBN)]</p> <p>なし。</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 理科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 村田 恵子、稲垣 善茂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校教諭として必要な理科基礎実験の知識や技術が習得できるようになることを目指す。</p> <p>[授業概要] 小学校理科全般の教科内容について講義を行う。特に、小学校学習指導要領の目標や内容および指導計画について解説するとともに、物理・化学・生物・地学分野ごとに下記のテーマについて実験・実習を行い、結果をまとめてレポートを提出する。 講義内では、情報機器を活用した教材提示の手法も適時指導する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 初回の授業前に、本科目受講するにあたっての注意などの説明をmanabaにアップします。必ずそれを見て理解した上で受講すること。 各回の授業においては、事前に配布するプリントをよく読み、実験・演習内容を理解しておくこと。また、前回の実験・演習のレポートを提出すること。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.(1)てこ、輪軸、滑車(物理担当:村田) 2.(2)浮力と比重(物理担当:村田) 3.(3)光と反射(物理担当:村田) 4.(1)細胞(生物担当:稲垣) 5.(2)染色体及び組織・器官(生物担当:稲垣・学外特別講師 山本) 6.(3)消化と酵素(生物担当:稲垣) 7.(1)溶液の濃度・調製法(化学担当:稲垣) 8.(2)酸と塩基・中和滴定(化学担当:稲垣) 9.(3)糖類の性質(還元性)(化学担当:稲垣) 10.(1)月(地学担当:村田) 11.(2)太陽(地学担当:村田) 12.(3)星(地学担当:村田) 13.まとめ(稲垣・村田) | | | |

| 科目名 | 理科概説 | 後期 | 2 単位 |
|---|-------------|----|------|
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 村田 恵子、稲垣 善茂 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(60点)と試験(40点)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] Manabaでレポート課題を回答するため自宅学習でのPCは必須。 講義では電子テキストを閲覧するため、携帯電話、タブレット、PCのいずれかのデバイスが必要となる。 提出されたレポート課題の採点後は、模範解答等を配布、もしくはmanabaにアップする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 『小学校学習指導要領解説 理科編』 以下のURLからダウンロード可能 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_005_1.pdf 著者名:文部科学省 出版社:大日本図書(978-4-477-01949-9)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 理科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 村田 恵子、稲垣 善茂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校教諭として必要な理科基礎実験の知識や技術が習得できるようになることを目指す。</p> <p>[授業概要] 小学校理科全般の教科内容について講義を行う。特に、小学校学習指導要領の目標や内容および指導計画について解説するとともに、物理・化学・生物・地学分野ごとに下記のテーマについて実験・実習を行い、結果をまとめてレポートを提出する。 講義内では、情報機器を活用した教材提示の手法も適時指導する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 初回の授業前に、本科目受講するにあたっての注意などの説明をmanabaにアップします。必ずそれを見て理解した上で受講すること。 各回の授業においては、事前に配布するプリントをよく読み、実験・演習内容を理解しておくこと。また、前回の実験・演習のレポートを提出すること。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.(1)てこ、輪軸、滑車(物理担当:村田) 2.(2)浮力と比重(物理担当:村田) 3.(3)光と反射(物理担当:村田) 4.(1)細胞(生物担当:稲垣) 5.(2)染色体及び組織・器官(生物担当:稲垣・学外特別講師 山本) 6.(3)消化と酵素(生物担当:稲垣) 7.(1)溶液の濃度・調製法(化学担当:稲垣) 8.(2)酸と塩基・中和滴定(化学担当:稲垣) 9.(3)糖類の性質(還元性)(化学担当:稲垣) 10.(1)月(地学担当:村田) 11.(2)太陽(地学担当:村田) 12.(3)星(地学担当:村田) 13.まとめ(稲垣・村田) | | | |

| | | | |
|---|-------------|----|------|
| 科目名 | 理科概説 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 村田 恵子、稲垣 善茂 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(60点)と試験(40点)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] Manabaでレポート課題を回答するため自宅学習でのPCは必須。 講義では電子テキストを閲覧するため、携帯電話、タブレット、PCのいずれかのデバイスが必要となる。 提出されたレポート課題の採点後は、模範解答等を配布、もしくはmanabaにアップする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 『小学校学習指導要領解説 理科編』 著者名:文部科学省 出版社:大日本図書 (978-4-477-01949-9)</p> <p>[参考書(ISBN)] 『小学校理科の指導』 著者名:森本信也・森藤義孝 編著 出版社:建帛社 (978-4-7679-2103-7)</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 理科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 村田 恵子、稲垣 善茂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校教諭として必要な理科基礎実験の知識や技術が習得できるようになることをめざす。</p> <p>[授業概要] 小学校理科全般の教科内容及びその指導法について講義を行う。特に、小学校学習指導要領の目標や内容および指導計画について解説するとともに、学習指導案の作成や指導上の留意点、学習評価の考え方を理解し、模擬授業の実施とそのふりかえりを通して授業改善の視点を身につけさせる。また、情報通信機器及び教材の効果的な活用と当該教材の目標及び主な内容、全体構造理解のために物理・化学・生物・地学分野ごとに下記のテーマについて実験・実習を行い、結果をまとめてレポートを提出する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前に配布するプリントをよく読んで、実験・演習内容を理解しておくこと。また、前回の実験・演習のレポートを提出すること。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1:(1)電気の回路(物理担当:村田) 2:(2)豆電球(物理担当:村田) 3:(3)磁石及び指導案作成(物理担当:村田) 4:(1)光合成(生物担当:稲垣) 5:(2)呼吸と発酵(生物担当:稲垣) 6:(3)花から実への指導案作成および模擬授業の実施(生物担当:稲垣) 7:(1)固体の精製(再結晶)(化学担当:稲垣) 8:(2)液体の精製(蒸留)(化学担当:稲垣) 9:(3)水溶液の性質の指導案作成および模擬授業の実施(化学担当:稲垣) 10:(1)気象(地学担当:村田) 11:(2)水と地形(地学担当:村田) 12:(3)地層と化石・岩石(地学担当:村田) 13:まとめ(稲垣・村田)</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------|----|------|
| 科目名 | 理科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 村田 恵子、稲垣 善茂 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(60点)と試験(40点)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] Manabaでレポート課題を回答するため自宅学習でのPCは必須。 講義では電子テキストを閲覧するため、携帯電話、タブレット、PCのいずれかのデバイスが必要となる。 提出されたレポート課題の採点後は、模範解答等を配布、もしくはmanabaにアップする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 『小学校学習要領解説理科編』 以下のURLからダウンロードできます。 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_jcsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_005_1.pdf 著者名:文部科学省 出版社:大日本図書(978-4-477-01949-9)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 理科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 村田 恵子、稲垣 善茂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 小学校教諭として必要な理科基礎実験の知識や技術が習得できるようになることをめざす。</p> <p>[授業概要] 小学校理科全般の教科内容及びその指導法について講義を行う。特に、小学校学習指導要領の目標や内容および指導計画について解説するとともに、学習指導案の作成や指導上の留意点、学習評価の考え方を理解し、模擬授業の実施とそのふりかえりを通して授業改善の視点を身につけさせる。また、情報通信機器及び教材の効果的な活用と当該教材の目標及び主な内容、全体構造理解のために物理・化学・生物・地学分野ごとに下記のテーマについて実験・実習を行い、結果をまとめてレポートを提出する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前に配布するプリントをよく読んで、実験・演習内容を理解しておくこと。また、前回の実験・演習のレポートを提出すること。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1:(1)電気の回路(物理担当:村田) 2:(2)豆電球(物理担当:村田) 3:(3)磁石及び指導案作成(物理担当:村田) 4:(1)光合成(生物担当:稲垣) 5:(2)呼吸と発酵(生物担当:稲垣) 6:(3)花から実への指導案作成および模擬授業の実施(生物担当:稲垣) 7:(1)固体の精製(再結晶)(化学担当:稲垣) 8:(2)液体の精製(蒸留)(化学担当:稲垣) 9:(3)水溶液の性質の指導案作成および模擬授業の実施(化学担当:稲垣) 10:(1)気象(地学担当:村田) 11:(2)水と地形(地学担当:村田) 12:(3)地層と化石・岩石(地学担当:村田) 13:まとめ(稲垣・村田)</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------|----|------|
| 科目名 | 理科教育法 | 前期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 講義 | |
| 担当者 | 村田 恵子、稲垣 善茂 | | |
| <p>[成績評価方法] レポート(60点)と試験(40点)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] Manabaでレポート課題を回答するため自宅学習でのPCは必須。 講義では電子テキストを閲覧するため、携帯電話、タブレット、PCのいずれかのデバイスが必要となる。 提出されたレポート課題の採点後は、模範解答等を配布、もしくはmanabaにアップする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-2/教育学・保育学における専門的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-2/子どもの成長や発達を踏まえ、教育・保育の計画や評価を考えることができる。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-3/子どもたちに対して創造的に教育・保育の実践を行うことができる。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 『小学校学習要領解説理科編』 以下のURLからダウンロードできます。 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_jcsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_005_1.pdf 著者名:文部科学省 出版社:大日本図書(978-4-477-01949-9)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------|----------------|------|
| 科目名 | 理科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 村田 恵子、稲垣 善茂 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |
| <p>[到達目標] 将来、小学校教員として理科の授業ができる資質を身につける。</p> <p>[授業概要] 小学校の理科は、「エネルギー・粒子」、「生命・地球」、の二つの分野からなるが、演習では「物理」、「化学」、「生物」、「地学」の4分野に分けて行う。理科は観察や実験など体験を通して学ぶことが大切なため、「理科概説」や「理科教育法」では主に実験・演習などの実技に重点をおいている。しかし、各分野は範囲が広いため、理科概説各分野3回、理科教育法各分野3回の合計6回の授業ではそれぞれの分野が網羅できない。そこで、理科概説や理科教育法で扱わなかった分野を取り上げるとともに、理科の理論面での強化を図る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 「理科概説」や「理科教育法」の内容を理解し、疑問点や質問内容を明確にしておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.地球から見た月・太陽・星の動き(地学:村田) 2.地震と地殻変動(地学:村田) 3.岩石(地学:村田) 4.等速度・加速度運動(物理:村田) 5.物体のいろいろな運動(物理:村田) 6.仕事とエネルギー(物理:村田) 7.化学の基礎、物質の構造(化学:稲垣) 8.物質の状態(化学:稲垣) 9.物質の変化、物質の性質(化学:稲垣) 10.器具の取り扱い、細胞と生殖、植物のつくり(生物:稲垣) 11.種子の発芽、光合成、植物の分類、動物の分類(生物:稲垣) 12.ヒトのからだとしくみ、生物のつながり(生物:稲垣) 13.まとめ</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------|----|------|
| 科目名 | 理科教材研究 | 後期 | 2 単位 |
| サブタイトル | | 演習 | |
| 担当者 | 村田 恵子、稲垣 善茂 | | |
| <p>[成績評価方法] 試験 (50%)・課題 (50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] Manabaでレポート課題を回答するため自宅学習でのPCは必須。 講義では電子テキストを閲覧するため、携帯電話、タブレット、PCのいずれかのデバイスが必要となる。 提出されたレポート課題の採点後は、模範解答等を配布、もしくはmanabaにアップする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-3/教員としてふさわしい一般教養を身に付けている。 成績評価方法:試験・課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:試験・課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-1/教育学・保育学の幅広い知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。 成績評価方法:試験・課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験・課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験・課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験・課題</p> <p>[教科書(ISBN)] プリント</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p> | | | |